

## 下里見天神前遺跡

## 下里見天神前遺跡

西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う  
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

二〇二三

2023

群馬県高崎土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県高崎土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 下里見天神前遺跡

西毛広域幹線道路(高崎西工区)社会資本総合整備事業に伴う  
埋 藏 文 化 財 発 挖 調 査 報 告 書

2023

群 馬 県 高 崎 土 木 事 務 所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



3号古墳周溝出土遺物(馬形埴輪と人物埴輪。2点の須恵器の位置を入れ替えたほかは、出土状態に近い配置とした)



3号古墳周溝出土人物埴輪



3号古墳周溝出土馬形埴輪



## 序

西毛広域幹線道路は、群馬県が進めている「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」のひとつ、「西毛軸」の主軸です。本道路は前橋市千代田町を起点に高崎市、安中市、富岡市を結ぶ全長約28kmの道路で、防災拠点や物流拠点が集積する前橋エリア、高崎・安中エリア、甘楽・富岡エリア間を結ぶネットワーク構築や混雑緩和、高速インターチェンジへのアクセス向上を目的としています。

発掘調査を実施いたしました高崎市榛名地域は高崎西工区にあたり、交差点の混雑緩和によるスムーズな走行実現が期待されています。また、本地域は古墳や古墳時代遺跡が多く存在することでも知られています。

本書で報告します下里見天神前遺跡は、令和元年度と同2年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。遺跡の発掘調査では、古墳時代の集落や古墳、平安時代の水田等が発見され、古墳時代の人々の暮らしや平安時代における生産の様子の一端が明らかになりました。中でも特筆される成果としまして、約1500年前の古墳に樹立するために用意したであろう埴輪が未使用の状態で発見されました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が榛名地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和5年1月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正





## 例　　言

- 1 本書は、令和元年度および令和2年度の西毛広域幹線道路整備に伴い発掘調査された下里見天神前遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県高崎市下里見町、268-5、709、(B) 710、729、730、731、732、733-1、(B) 734-1、735、(B) 735、737番地および無番地(道・水路)
- 3 事業主体 群馬県高崎土木事務所
- 4 調査主体 公益財團法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間及び体制
  - (1)令和元年度
    - 履行期間 令和元年11月1日から令和2年4月1日
    - 調査期間 令和2年1月1日から令和2年3月31日
    - 調査面積 3160.1m<sup>2</sup>
    - 調査担当者 上席調査研究員 新井 仁、調査研究員 山本直哉
    - 遺跡掘削工事 有限会社 毛野考古学研究所
    - 地上測量委託 アコン測量設計株式会社
  - (2)令和2年度
    - 履行期間 令和2年4月1日から令和2年12月31日
    - 調査期間 令和2年7月1日から令和2年9月30日
    - 調査面積 4980.1m<sup>2</sup>
    - 調査担当者 上席調査研究員 新井 仁、主任調査研究員 本田寛之
    - 遺跡掘削工事 有限会社 毛野考古学研究所
    - 地上測量委託 アコン測量設計株式会社
- 6 整理事業の期間及び体制
  - (1)令和3年度
    - 履行期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日
    - 整理期間 令和3年7月1日から令和4年3月31日
    - 整理担当者 専門調査役 大西雅広(令和3年7月1日から令和4年3月31日) (下記以外の原稿)  
専門員 石川真理子(令和4年2月1日から令和4年3月31日) (縄文遺構原稿)
    - デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)
    - 遺物実測・写真撮影、観察表
    - 石器・石製品：岩崎泰一(専門調査役)、縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)
    - 土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、金属製品：板垣泰之(専門員)
    - 繩文土器、土師器、須恵器写真撮影及び埴輪、陶磁器：大西雅広(専門調査役)
    - 保存処理 板垣泰之(専門員)、間 邦一(専門調査役)
  - (2)令和4年度
    - 履行期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日
    - 整理期間 令和4年4月1日から令和4年6月30日
    - 整理担当者 専門調査役 大西雅広(令和4年4月1日から令和4年6月30日) (縄文遺構以外の原稿)
    - デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)



#### 遺物実測・写真撮影、観察表

- 石器・石製品：岩垣泰一(専門調査役)、縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)  
 土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、金属製品：板垣泰之(専門員)  
 縄文土器・土師器・須恵器写真撮影及び埴輪、陶磁器：大西雅広(専門調査役)  
 保存処理 板垣泰之(専門員)、関 邦一(専門調査役)
- 7 記録類及び出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 8 自然科学分析については、専門機関に委託した。
- 骸骨の形態学的調査 准教授津田純明、助教佐伯史子(新潟医療福祉大学)
- 9 整理作業から報告書の刊行に至るまで、次の方々・機関から御協力、御助言をいただいた(敬称略)。  
 高崎市教育委員会、前橋市教育委員会、飯田 浩光、小島純一、清水 豊、徳江秀夫、南雲芳昭、藤野一之

## 凡 例

1. 本書で使用した座標は、平面直角座標第IX系(JGD2000)である。遺構個別図では座標値下三桁(m単位)で表記した。  
 従って、X座標では表記した座標値に40000を、Y座標では-81000を加えた数値が座標値となる。
2. 遺構図中の北は座標北で示した。
3. 遺構平・断面図と遺物実測図の縮尺は各図に示した。
4. 遺構図に示した高さは標高をm単位で示した。
5. 遺構名称および番号は原則として発掘調査時に付されたものを用いたが、以下は欠番や名称変更を行った。
- 欠番：21号竪穴建物、22号竪穴建物。1号埋設土器。  
 名称変更：1号配石→1号土坑。
6. 土層と遺物の色調表記には、『新版 標準土色帖』1997農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人 日本色彩研究所 色票監修を用い、土層のみマンセル表記を併記した。
7. 遺構図に用いたトーン及び記号は以下の通りである。
- |        |     |    |   |     |     |      |     |    |   |        |     |    |    |
|--------|-----|----|---|-----|-----|------|-----|----|---|--------|-----|----|----|
| 遺構図：焼土 | ■   | 擾乱 | ■ | 炭化物 | ■■■ | 灰    | ■■■ | 土器 | ● | 石器・石製品 | ▲   | 鉄器 | ■■ |
| 遺物図：黒色 | ■   | スス | ■ | 煙   | ■■■ | 赤色塗彩 | ■■■ | 粘土 | ○ | 降灰     | ■■■ |    |    |
| 埴輪顔料：  | ■■■ |    |   |     |     |      |     |    |   |        |     |    |    |
8. 遺構説明に記したグリッド、面積、主軸方位、残存深度等は下記による。
- グリッド：遺構が平面直角座標第IX系の座標1m単位方眼に入る箇所で表記した。
- 竪穴建物面積：カマド部分(袖部分まで)を除く下端で計測。
- 竪穴建物主軸方位：カマドを有する場合はカマドの主軸、カマドを設置しない時期の建物の場合は北壁直交方向を主軸とした。
- 竪穴建物残存壁高：床面から遺構確認面までの高さ。
- 残存深度：土坑・溝平面確認面から深部までの深さ。
- 水田面積：畦畔下端で計測。
9. テフラについての以下略称を用いた。
- As-B：浅間Bテフラ 天仁元年(1108年)浅間山噴火に伴うテフラ  
 As-C：浅間C軽石 3世紀後半から4世紀初頭頃の浅間山噴火に伴うテフラ



# 目 次

口絵	第5節 溝 ······	170
序	第6節 埋設土器、遺物集中 ······	189
例言	1 球根土器 ······	190
凡例	2 遺物集中 ······	190
目次	第7節 土坑、ピットほか ······	192
挿図目次	1 土坑 ······	192
表目次	2 ピット ······	204
写真目次	3 遺構出土遺物 ······	204
第1章 発掘調査の経過と方法 ······	211	
第1節 発掘調査にいたる経過 ······	1	
第2節 発掘調査の方法と経過 ······	1	
第2章 遺跡周辺の環境 ······	2	
第1節 地理的環境 ······	2	
第2節 歴史的環境 ······	2	
第3章 確認された遺構と遺物 ······	10	
第1節 確認された遺構の時代と概要 ······	10	
第2節 建物、竪穴状遺構 ······	11	
1 竪穴建物 ······	11	
2 振立柱建物 ······	131	
3 竪穴状遺構 ······	132	
第3節 古墳 ······	133	
第4節 水田、畑 ······	166	
1 1号畑 ······	166	
2 As-B下水田 ······	166	
As-B下水田面積計測表・土坑一覧・ピット一覧・掲載 遺物観察表・繩文土器非掲載点数一覧		
写真図版		
報告書抄録		
付図 下里見天神前遺跡全体図1 (1:300) (As-B下水田とAs-B下水田以降)		
下里見天神前遺跡全体図2 (1:250) (As-B下水田)		
下里見天神前遺跡全体図3 (1:250) (縄文時代から平安時代)		



## 挿図目次

第1図 下里見天神前遺跡の位置	1	第64図 24号窓穴建物出土遺物	88
第2図 遺跡附近の地形1	3	第65図 25号窓穴建物、カマド	89
第3図 遺跡附近の地形2	3	第66図 25号窓穴建物出土遺物	90
第4図 周辺の路線	5	第67図 26号窓穴建物	91
第5図 周辺の古墳群	6	第68図 26号窓穴建物カマド	92
第6図 調査位置図	7	第69図 26号窓穴建物出土遺物	93
第7図 調査位置図	9	第70図 27号窓穴建物、カマド	94
第8図 1号窓穴建物、出土遺物	34	第71図 27号窓穴建物カマド、出土遺物	95
第9図 2号窓穴建物	35	第72図 28号窓穴建物、カマド、出土遺物	96
第10図 2号窓穴建物出土遺物	36	第73図 29号窓穴建物、カマド、出土遺物	97
第11図 3号窓穴建物、カマド、出土遺物	37	第74図 30号窓穴建物、出土遺物	98
第12図 4号窓穴建物	38	第75図 30号窓穴建物カマド	99
第13図 4号窓穴建物カマド	39	第76図 31号窓穴建物	100
第14図 4号窓穴建物出土遺物(1)	40	第77図 31号窓穴建物掘方、出土遺物(1)	101
第15図 4号窓穴建物出土遺物(2)	41	第78図 31号窓穴建物出土遺物(2)	102
第16図 5号窓穴建物、カマド、出土遺物	42	第79図 31号窓穴建物カマド	103
第17図 6号窓穴建物	43	第80図 32号窓穴建物	104
第18図 6号窓穴建物カマド	44	第81図 32号窓穴建物カマド、出土遺物(1)	105
第19図 6号窓穴建物出土遺物	45	第82図 32号窓穴建物出土遺物(2)	106
第20図 7号窓穴建物、カマド	46	第83図 33号窓穴建物、出土遺物	107
第21図 8号窓穴建物、カマド	47	第84図 33号窓穴建物カマド	108
第22図 9号窓穴建物、カマド	48	第85図 34号窓穴建物、出土遺物	109
第23図 7・8・9号窓穴建物出土遺物	49	第86図 35号窓穴建物	110
第24図 10号窓穴建物構造、遺物出土状態	50	第87図 35号窓穴建物出土遺物	111
第25図 10号窓穴建物	51	第88図 36号窓穴建物、カマド	112
第26図 10号窓穴建物掘方	52	第89図 36号窓穴建物出土遺物	113
第27図 10号窓穴建物1号カマド確認状態	53	第90図 37号窓穴建物、出土遺物	114
第28図 10号窓穴建物1号カマド	54	第91図 38号窓穴建物、カマド	115
第29図 10号窓穴建物2号カマド	55	第92図 38号窓穴建物出土遺物	116
第30図 10号窓穴建物出土遺物(1)	56	第93図 39号窓穴建物、カマド	117
第31図 10号窓穴建物出土遺物(2)	57	第94図 39号窓穴建物出土遺物(1)	118
第32図 10号窓穴建物出土遺物(3)	58	第95図 39号窓穴建物出土遺物(2)	119
第33図 11号窓穴建物、カマド	59	第96図 40号窓穴建物	120
第34図 11号窓穴建物出土遺物(1)	60	第97図 40号窓穴建物カマド	121
第35図 11号窓穴建物出土遺物(2)	61	第98図 40号窓穴建物出土遺物	122
第36図 12号窓穴建物	62	第99図 41号窓穴建物、出土遺物	123
第37図 13号窓穴建物、カマド	63	第100図 41号窓穴建物カマド	124
第38図 13号窓穴建物出土遺物	64	第101図 42号窓穴建物	124
第39図 14号窓穴建物	64	第102図 43号窓穴建物	125
第40図 14号窓穴建物掘方	65	第103図 43号窓穴建物カマド	126
第41図 14号窓穴建物1号・2号カマド	66	第104図 43号窓穴建物出土遺物(1)	127
第42図 14号窓穴建物出土遺物(1)	67	第105図 43号窓穴建物出土遺物(2)	128
第43図 14号窓穴建物出土遺物(2)	68	第106図 44号窓穴建物、出土遺物	129
第44図 14号窓穴建物出土遺物(3)	69	第107図 45号窓穴建物、出土遺物	130
第45図 15号窓穴建物	70	第108図 1号掘立柱建物	131
第46図 15号窓穴建物掘方、出土遺物	71	第109図 1号窓穴状遺物、出土遺物	132
第47図 16号窓穴建物	72	第110図 1号古墳	141
第48図 16号窓穴建物カマド	73	第111図 1号古墳周溝断面図、出土遺物	142
第49図 16号窓穴建物出土遺物(1)	74	第112図 2号古墳埋蔵状態	143
第50図 16号窓穴建物出土遺物(2)	75	第113図 2号古墳断面図	144
第51図 16号窓穴建物出土遺物(3)	76	第114図 2号古墳石室、出土遺物	145
第52図 17号窓穴建物	77	第115図 2号古墳石室掘方と溝溝	146
第53図 17号窓穴建物カマド	78	第116図 3号古墳全体構造	147
第54図 17号窓穴建物出土遺物(1)	79	第117図 3号古墳断面図	148
第55図 17号窓穴建物出土遺物(2)	80	第118図 3号古墳周溝内埴輪出土状態	149
第56図 18号窓穴建物	81	第119図 3号古墳周溝内埴輪出土状態	150
第57図 18号窓穴建物出土遺物	82	第120図 3号古墳周溝内埴輪出土状態見通し(1)	151
第58図 19号窓穴建物、出土遺物(1)	83	第121図 3号古墳周溝内埴輪出土状態見通し(2)、埴丘出土遺物(1)152	
第59図 19号窓穴建物出土遺物(2)	84	第122図 3号古墳周溝上土円筒埴輪(2)	153
第60図 19号窓穴建物出土遺物(3)	85	第123図 3号古墳周溝出土土円筒埴輪(1)	154
第61図 20号窓穴建物、出土遺物	85	第124図 3号古墳周溝出土土円筒埴輪(2)	155
第62図 23号窓穴建物、出土遺物	86	第125図 3号古墳周溝出土土円筒埴輪(3)	156
第63図 24号窓穴建物	87	第126図 3号古墳周溝出土土円筒埴輪(4)	157

第127図	3号古墳圓溝出土朝鮮形埴輪・	158	第151図	溝出土遺物(3)・	188
第128図	3号古墳出土円筒埴輪へラ記号	159	第152図	2・3号埋設土器・	189
第129図	3号古墳圓溝出土馬形埴輪(1)	160	第153図	1号遺物集中・	190
第130図	3号古墳圓溝出土馬形埴輪(2)	161	第154図	1号遺物集中出土遺物(1)・	191
第131図	3号古墳圓溝出土馬形埴輪(3)	162	第155図	1号遺物集中出土遺物(2)・	192
第132図	3号古墳圓溝出土人物埴輪(1)・	163	第156図	1~12号土坑・	193
第133図	3号古墳圓溝出土人物埴輪(2)・	164	第157図	13~22号土坑・	194
第134図	3号古墳圓溝出土須恵器・	165	第158図	23~34号土坑・	195
第135図	烟・	166	第159図	35~41号土坑・	196
第136図	As-B下水田	167	第160図	42~52・54号土坑・	197
第137図	As-B下水田断面・	168	第161図	53・55~62・67号土坑・	198
第138図	As-B下水田断面、出土遺物	169	第162図	63~66・68~75号土坑・	199
第139図	1号溝、2号溝・	176	第163図	76~84号土坑・	200
第140図	3~5・20~26号溝・	177	第164図	85~93号土坑・	201
第141図	3・4号溝断面図・	178	第165図	94~104号土坑・	202
第142図	3・4・5号溝・	179	第166図	上坑出土遺物・	203
第143図	20~26号溝・	180	第167図	29号ピット・出土遺物・	204
第144図	6・7号溝・	181	第168図	道構外出土遺物(1)・	205
第145図	8号溝、27号溝・	182	第169図	道構外出土遺物(2)・	206
第146図	9~16号溝・	183	第170図	道構外出土遺物(3)・	207
第147図	17号溝・	184	第171図	道構外出土遺物(4)・	208
第148図	18号溝、19号溝・	185	第172図	道構外出土遺物(5)・	209
第149図	溝出土遺物(1)・	186	第173図	道構外出土遺物(6)・	210
第150図	溝出土遺物(2)・	187			

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧・	8	第5表	上坑一覧・	217
第2表	下里見天神前道路出土ウマ下顎白歯の歯冠計測値・	213	第6表	ピット一覧・	219
第3表	日本在来馬(駒崎馬、トカラ馬)および群馬県前橋市0107道路中世ウマの下顎白歯歯冠計測値・	213	第7表	掲載遺物観察表・	223
第4表	As-B下水田面積計測表・	217	第8表	縦文土器非鉢点数一覧・	255



## 写真目次

P.L. 1	1 道路周辺土中写真 左下に路線(道路予定地)が見える(左が北)(同じ地図撮影空中写真CKT2020-C10-13)	7 10号堅穴建物1号カマド天井石除去後全景(南東から)
P.L. 2	1 道路周辺空撮写真 左下に調査区が見える(上が北)(同じ地図撮影空中写真CKT2020-C10-13の部分)	8 10号堅穴建物2号カマド全景(西北から)
	2 1区全景(南西から鳥川と権現山麓を望む)	2 10号堅穴建物1号カマド掘方全景(南東から)
P.L. 3	1 区全景(北から中位、高砂段丘を望む)	3 10号堅穴建物2号カマド掘方全景(南西から)
	2 3区全景(上が東)	4 11号堅穴建物1号景(南東から)
P.L. 4	1 4区全景(西から鳥川下流方向を望む)	5 11号堅穴建物貯藏穴遺物出土状態(南西から)
	2 5区全景(上が東)	6 11号堅穴建物貯藏穴遺物出土状態 上部の土器取上げ後(南東から)
P.L. 5	1 1号堅穴建物全景(西北から)	7 11号堅穴建物貯藏穴遺物出土状態 上部の土器取上げ後(南東から)
	2 1号堅穴建物遺物出土状態近接(西北から)	8 11号堅穴建物標・遺物出土状態(南東から)
	3 1号堅穴建物掘方(北から)	P.L. 12 1 11号堅穴建物カマド全景(南東から)
	4 2号堅穴建物標・遺物出土状態(南から)	2 11号堅穴建物カマド焚口取上げ後全景(南東から)
	5 2号堅穴建物標・遺物出土状態近接(南から)	3 11号堅穴建物カマド支脚近接(南東から)
	6 2号堅穴建物付頭断面出土状態近接(南から)	4 11号堅穴建物カマド(南東から)
	7 2号堅穴建物須頭標、耳環出土状態近接(南から)	5 12号堅穴建物全景(南東から)
	8 2号堅穴建物全景(南から)	6 12号堅穴建物全景(南東から)
P.L. 6	1 2号堅穴建物掘方全景(南から)	7 13号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
	2 3号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)	8 13号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
	3 3号堅穴建物全景(南東から)	P.L. 13 1 13号堅穴建物全景(南西から)
	4 3号堅穴建物カマド(南東から)	2 13号堅穴建物カマド全景(南西から)
	5 4号堅穴建物標・遺物出土状態(南から)	3 13号堅穴建物掘方全景(南西から)
	6 4号堅穴建物カマド標・遺物出土状態(南から)	4 13号堅穴建物カマド掘方全景(南西から)
	7 4号堅穴建物北東隅付近標・遺物出土状態(南から)	5 14号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
	8 4号堅穴建物北東隅付近標・遺物出土状態(南から)	6 14号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
P.L. 7	1 4号堅穴建物全景(南から)	7 14号堅穴建物東隅耳環出土状態近接(南西から)
	2 4号堅穴建物カマド全景(南から)	8 14号堅穴建物北東隅遺物出土近接(南東から)
	3 4号堅穴建物掘方全景(南から)	P.L. 14 1 14号堅穴建物全景(南西から)
	4 4号堅穴建物カマド掘方全景(南から)	2 13号堅穴建物カマド全景(南西から)
	5 5号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)	3 13号堅穴建物掘方全景(南西から)
	6 5号堅穴建物全景(南西から)	4 13号堅穴建物カマド掘方全景(南西から)
	7 5号堅穴建物カマド全景(南西から)	5 14号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
	8 5号堅穴建物掘方全景(南西から)	6 14号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
P.L. 8	1 5号堅穴建物カマド掘方全景(南西から)	7 14号堅穴建物東隅耳環出土壤土状態近接(南西から)
	2 6号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)	8 15号堅穴建物全景(北東から)
	3 6号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)	P.L. 15 1 15号堅穴建物全景(南西から)
	4 6号堅穴建物掘み物石製跳込出土状態(西北から)	2 15号堅穴建物全景(南東から)
	5 6号堅穴建物全景(南西から)	3 16号堅穴建物1区部分標・遺物出土状態(南東から)
	6 6号堅穴建物1号カマド掘方セクション(南西から)	4 16号堅穴建物2号カマド全景(南西から)
	7 6号堅穴建物2号カマド全景(南東から)	5 14号堅穴建物1・2号カマド掘方全景(南西から)
	8 6号堅穴建物掘方全景(南西から)	6 15号堅穴建物標・遺物出土状態(南東から)
P.L. 9	1 6号堅穴建物2号カマド掘方全景(南東から)	7 15号堅穴建物西脇標・遺物出土状態(南東から)
	2 7号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)	8 15号堅穴建物全景(北東から)
	3 7号堅穴建物全景(南東から)	P.L. 16 1 15号堅穴建物全景(南東から)
	4 7号堅穴建物カマド全景(南東から)	2 15号堅穴建物掘方全景(南東から)
	5 7号堅穴建物掘方全景(南東から)	3 16号堅穴建物1区部分標・遺物出土状態(南東から)
	6 8号堅穴建物全景(西北から)	4 16号堅穴建物2号カマド掘方全景(北東から)
	7 8号堅穴建物カマド出土状態(西から)	P.L. 17 1 16号堅穴建物3区部分標・遺物出土状態(南東から)
	8 8号堅穴建物カマド全景(南から)	2 16号堅穴建物3区部分標全景(南東から)
P.L. 10	1 8号堅穴建物掘方全景(西北から)	3 16号堅穴建物カマド天井石除去後全景(南東から)
	2 8号堅穴建物カマド掘方全景(西から)	4 16号堅穴建物3区部分標全景(南東から)
	3 9号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)	5 16号堅穴建物カマド掘方全景(南東から)
	4 9号堅穴建物南隅標・遺物出土状態(南西から)	6 17号堅穴建物標・遺物出土状態(南西から)
	5 9号堅穴建物全景(西北から)	7 17号堅穴建物東隅標・遺物出土状態(南西から)
	6 9号堅穴建物カマド全景(西北から)	8 17号堅穴建物南東隅標・遺物出土状態(南西から)
	7 9号堅穴建物掘方全景(西北から)	P.L. 18 1 17号堅穴建物カマド左側遺物出土状態(西から)
	8 9号堅穴建物カマド掘方全景(西北から)	2 17号堅穴建物全景(南西から)
P.L. 11	1 10号堅穴建物標・遺物出土状態(南東から)	3 17号堅穴建物カマド全景(南西から)
	2 10号堅穴建物カマド標・遺物出土状態(南東から)	4 17号堅穴建物掘方全景(南西から)
	3 10号堅穴建物標・遺物出土状態近接(南西から)	5 17号堅穴建物カマド掘方全景(南西から)
	4 10号堅穴建物全景(南東から)	6 18号堅穴建物全景(南東から)
	5 10号堅穴建物1号カマド全景(南東から)	7 18号堅穴建物南東隅標み物用石製跳込出土状態(南東から)
	6 10号堅穴建物1号カマド全景(北東から)	8 18号堅穴建物北部縫み物用石製跳込出土状態(南東から)
P.L. 19	1 18号堅穴建物ピット3セクション(南西から)	P.L. 19 1 18号堅穴建物ピット3セクション(南西から)

- +
- 2 18号堅穴建物搬出全量(南東から)  
 3 19号堅穴建物1区部分全量(南から)  
 4 19号堅穴建物1区部分遺物出土状態近接(南から)  
 5 19号堅穴建物3区部分全量(南西から)  
 6 19号堅穴建物3区部分遺物出土状態近接(南西から)  
 7 20号堅穴建物全量(北から)  
 8 23号堅穴建物搬出上状態(南から)  
 P L. 20 1 25号堅穴建物全量(北西から)  
 2 25号堅穴建物搬出全量(北東から)  
 3 25号堅穴建物搬出上状態(北東から)  
 4 25号堅穴建物搬出上状態(南東から)  
 5 25号堅穴建物搬出上状態(南東から)  
 6 25号堅穴建物搬出上状態(南東から)  
 7 25号堅穴建物北端部用石製跡出土状態(南東から)  
 8 25号堅穴建物全量(南東から)
- P L. 21 1 25号堅穴建物カマド前量(南東から)  
 2 25号堅穴建物搬出全量(南東から)  
 3 25号堅穴建物カマド搬出(南東から)  
 4 26号堅穴建物搬出上状態(南から)  
 5 26号堅穴建物カマド前量(南から)  
 6 26号堅穴建物カマド前量石除去前(南から)  
 7 26号堅穴建物カマド搬出全量(南から)  
 8 27号堅穴建物搬出上状態(西から)
- P L. 22 1 27号堅穴建物全量(西から)  
 2 27号堅穴建物カマド搬出上状態(西から)  
 3 27号堅穴建物カマド前量(西から)  
 4 28号堅穴建物全量(南西から)  
 5 28号堅穴建物全量カマド前量(南西から)  
 6 28号堅穴建物全量(南西から)  
 7 29号堅穴建物搬出上状態(南西から)  
 8 29号堅穴建物全量(南西から)
- P L. 23 1 29号堅穴建物カマド前量(南東から)  
 2 29号堅穴建物搬出全量(南から)  
 3 29号堅穴建物カマド搬出全量(南東から)  
 4 30号堅穴建物搬出上状態(南から)  
 5 30号堅穴建物カマド前付近隣・遺物出土状態(南から)  
 6 30号堅穴建物中央付近遺物出土状態(南東から)  
 7 30号堅穴建物全量(南東から)  
 8 30号堅穴建物カマド前量(南東から)
- P L. 24 1 30号堅穴建物禁口天井石除去後(南から)  
 2 30号堅穴建物搬出全量(南から)  
 3 30号堅穴建物カマド搬出全量(南東から)  
 4 31号堅穴建物搬出上状態(南から)  
 5 31号堅穴建物カマド搬出上状態(南から)  
 6 31号堅穴建物カマド搬出上状態(南から)  
 7 31号堅穴建物カマド搬出上状態(南から)  
 8 31号堅穴建物南隔壁部用石製跡出土状態(南から)
- P L. 25 1 31号堅穴建物全量(南から)  
 2 31号堅穴建物カマド全量(南から)  
 3 31号堅穴建物搬出全量(南から)  
 4 31号堅穴建物カマド搬出全量(南から)  
 5 32号堅穴建物搬出上状態(南から)  
 6 32号堅穴建物南隅付近隣・遺物出土状態(南東から)  
 7 32号堅穴建物南隅付近隣み物用石製跡出土状態(西から)  
 8 32号堅穴建物南東壁付近隣み物用石製跡出土状態(南から)
- P L. 26 1 32号堅穴建物全量(南東から)  
 2 32号堅穴建物カマド全量(南東から)  
 3 32号堅穴建物搬出全量(南から)  
 4 32号堅穴建物カマド搬出全量(南東から)  
 5 33号堅穴建物搬出上状態(南東から)  
 6 33号堅穴建物全量(南東から)  
 7 33号堅穴建物搬出全量(南東から)  
 8 33号堅穴建物カマド全量(南東から)
- P L. 27 1 34号堅穴建物搬出上状態(南東から)  
 2 34号堅穴建物南東壁付近隣搬出上状態(北西から)
- 3 34号堅穴建物西側付近遺物出土状態(南から)  
 4 34号堅穴建物全量(南西から)  
 5 34号堅穴建物搬出全量(南西から)  
 6 35号堅穴建物搬出上状態(北西から)  
 7 35号堅穴建物南壁付近遺物出土状態(北西から)  
 8 35号堅穴建物全量(南東から)
- P L. 28 1 35号堅穴建物防窓穴全量(南東から)  
 2 36号堅穴建物搬出上状態(南から)  
 3 36号堅穴建物修理中央付近隣・遺物出土状態(東から)  
 4 36号堅穴建物カマド搬出上状態(北西から)  
 5 36号堅穴建物全量(北西から)  
 6 36号堅穴建物カマド全量(北西から)  
 7 36号堅穴建物カマド天井石・遺物出土上げ後(北西から)  
 8 36号堅穴建物搬出全量(北西から)
- P L. 29 1 36号堅穴建物カマド搬出全量(北西から)  
 2 37号堅穴建物搬出上状態(北西から)  
 3 37号堅穴建物全量(南西から)  
 4 38号堅穴建物搬出上状態(西から)  
 5 38号堅穴建物カマド搬出上状態(西から)  
 6 38号堅穴建物カマド搬出(西から)  
 7 39号堅穴建物搬出上状態(南西から)  
 8 39号堅穴建物南隔壁部用石製跡出土状態(北西から)
- P L. 30 1 39号堅穴建物カマド左側縫・遺物出土状態(南から)  
 2 39号堅穴建物カマド前付近隣・遺物出土状態(南西から)  
 3 39号堅穴建物カマド搬出上状態(南から)  
 4 39号堅穴建物全量(南西から)  
 5 39号堅穴建物カマド全量(南西から)  
 6 39号堅穴建物カマド搬出全量(南西から)  
 7 40号堅穴建物搬出上状態(南西から)  
 8 40号堅穴建物北端付近隣・遺物出土状態(南から)
- P L. 31 1 40号堅穴建物全量(南西から)  
 2 40号堅穴建物カマド全量(南西から)  
 3 41号堅穴建物搬出上状態(北西から)  
 4 41号堅穴建物全量(北西から)  
 5 41号堅穴建物カマド全量(北西から)  
 6 41号堅穴建物カマド搬出全量(北西から)  
 7 43号堅穴建物搬出上状態(南西から)  
 8 43号堅穴建物全量(南西から)
- P L. 32 1 43号堅穴建物カマド全量(南西から)  
 2 43号堅穴建物カマド搬出全量(南西から)  
 3 44号堅穴建物全量(南から)  
 4 44号堅穴建物内土器搬出上状態(東から)  
 5 45号堅穴建物全量(西から)  
 6 45号堅穴建物搬出全量(西から)  
 7 1号古墳周縁全量(南西から)  
 8 1号掘立柱建物全量(北西から)
- P L. 33 1 1区堅穴建物と1号古墳(上が南東、右側にAs非下水田が広がる)  
 2 1号古墳全量(上方南東)  
 3 1号古墳周縁搬出上状態(南東から)  
 4 2号古墳搬出上状態全量(西から)  
 5 2号古墳全量(南から)
- P L. 34 1 3号古墳建物と2号古墳(上北東)  
 2 2号古墳全量(上が北西)
- P L. 35 1 2号古墳主体部と周溝内埋出上状態(南東から)  
 2 2号古墳主体部と周溝内埋出上状態(南東から)  
 3 2号古墳全量(南から)  
 4 2号古墳横穴式石室全量(南東から)  
 5 2号古墳横穴式石室奥部(南東から)  
 6 2号古墳横穴式石室築石除去後全量(南東から)  
 7 2号古墳横穴式石室築石除去後全量(南東から)  
 8 2号古墳横穴式石室搬出全量(北東から)
- P L. 36 1 3号古墳全量(東から)  
 2 3号古墳横穴・須恵器出土状態(北から)
- P L. 37 1 3号古墳横穴・須恵器出土状態(西から)  
 2 3号古墳横穴・須恵器出土状態(南から)

P.L. 38	1 3号古墳主体部残存状態(西から) 2 3号古墳主体部残存状態(北から) 3 3号古墳埴輪出土状態(西から) 4 3号古墳埴輪出土状態(西から) 5 3号古墳埴輪丘筒埴輪基部出土状態(北西から) 6 3号古墳周溝上層埴輪(5)、須恵器(16)出土状態(北西から) 7 3号古墳周溝上層埴輪(5)出土状態(北西から) 8 3号古墳周溝上層埴輪(6)出土状態(北から)	4 26号土坑全景(南東から) 5 27号土坑全景(東から) 6 28号土坑全景(南東から) 7 29号土坑全景(東から) 8 32号土坑全景(東から) 9 34号土坑全景(南から) 10 35号土坑全景(北から) 11 36号土坑全景(西から) 12 38号土坑全景(南から) 13 39号土坑全景(南西から) 14 40号土坑全景(南から) 15 41号土坑全景(南から)				
P.L. 39	1 3号古墳埴輪内埴輪、須恵器出土状態(北から) 2 3号古墳埴輪内埴輪、須恵器出土状態(北から)	P.L. 40 1 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(南東から) 2 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(南から) P.L. 41 1 3号古墳周溝内馬形埴輪出土状態(東から) 2 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(南から) 3 3号古墳周溝内人物埴輪出土状態(南から) 4 3号古墳周溝内倒落した人物埴輪の右腕(東から) 5 3号古墳周溝内内間埴輪上に倒れた左腕と美豆良(東から) 6 3号古墳周溝内倒落した人物埴輪の左腕(南東から) 7 3号古墳周溝内埴輪と須恵器出土状態(北から) 8 3号古墳周溝内埴輪と須恵器出土状態(北から)	P.L. 41 1 42号土坑全景(南から) 2 43号土坑全景(南から) 3 44号土坑全景(南から) 4 45号土坑全景(南から) 5 46号土坑全景(北から) 6 48号土坑全景(西から) 7 49号土坑全景(南から) 8 50号土坑全景(南から) 9 52号土坑全景(南から) 10 53号土坑遺物出土状態(南から) 11 53号土坑全景(南から) 12 54号土坑全景(南西から) 13 55号土坑全景(南から) 14 56号土坑全景(南から) 15 58号土坑全景(南から)			
P.L. 42	1 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から) 2 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から) 3 3号古墳周溝内須恵器出土状態(東から) 4 3号古墳周溝内須恵器出土状態(西から) 5 3号古墳周溝内馬形埴輪出土状態(南から) 6 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後1(南から) 7 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後2(南から) 8 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後3(南から)	P.L. 42 1 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から) 2 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から) 3 3号古墳周溝内須恵器出土状態(東から) 4 3号古墳周溝内須恵器出土状態(西から) 5 3号古墳周溝内馬形埴輪出土状態(南から) 6 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後1(南から) 7 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後2(南から) 8 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後3(南から)	P.L. 43 1 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後4(南から) 2 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後5(南から) 3 3号古墳周溝内須恵器口壺出土状態(南から) 4 3号古墳遺物取上げ全景(北から) 5 1区As-B下水田全景(上が南西) P.L. 44 1 3区As-B下水田全景(上が南西) 2 4区As-B下水田全景(上が東) P.L. 45 1 1区As-B下水田と水路(南から) 2 1区西側のAs-B下水田と足跡(南から) 3 2区As-B下水田全景(北西から) 4 2区As-B下水田東側(北から) 5 1号溝掘出土状態全景(北東から) 6 1号溝、ウマ齒出土状態(北東から) 7 1区3号溝、4号溝全景(南から) 8 3区3号溝全景(東から) P.L. 46 1 1区3号溝セクションA部分(南東から) 2 2号溝全景(南から) 3 10号溝全景(奥側)(東から) 4 10号溝ウマ歯出土状態近接(北から) 5 30号溝16号溝全景(西から) 6 17号溝全景(北東から) 7 25号溝全景(西から) 8 27号溝全景(北東から)	P.L. 43 1 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から) 2 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から) 3 3号古墳周溝内須恵器出土状態(東から) 4 3号古墳周溝内須恵器出土状態(西から) 5 3号古墳周溝内馬形埴輪出土状態(南から) 6 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後1(南から) 7 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後2(南から) 8 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後3(南から)	P.L. 44 1 59号土坑全景(南から) 2 63号土坑全景(南から) 3 73号土坑全景(東から) 4 81号土坑全景(北から) 5 82号土坑全景(南から) 6 85号土坑全景(北から) 7 86号土坑全景(南から) 8 87号土坑全景(南から) 9 88号土坑全景(北から) 10 91号土坑全景(南から) 11 92号土坑全景(南から) 12 97号土坑全景(南から) 13 101号土坑全景(南西から) 14 102号土坑全景(東から) 15 104号土坑全景(北から)	P.L. 45 1 ~4号竪穴建物出土遺物 P.L. 51 4号竪穴建物出土遺物 P.L. 52 4~6号竪穴建物出土遺物 P.L. 53 6~14号竪穴建物出土遺物 P.L. 54 7~10号竪穴建物出土遺物 P.L. 55 10~11号竪穴建物出土遺物 P.L. 56 11~13~14号竪穴建物出土遺物 P.L. 57 14~15号竪穴建物出土遺物 P.L. 58 16号竪穴建物出土遺物 P.L. 59 16~17号竪穴建物出土遺物 P.L. 60 17号竪穴建物出土遺物 P.L. 61 17号竪穴建物出土遺物 P.L. 62 18号竪穴建物出土遺物 P.L. 63 19号竪穴建物出土遺物 P.L. 64 19~20~23~24号竪穴建物出土遺物 P.L. 65 25~27号竪穴建物出土遺物 P.L. 66 26~29~31号竪穴建物出土遺物 P.L. 67 31号竪穴建物出土遺物 P.L. 68 32号竪穴建物出土遺物 P.L. 69 32号竪穴建物出土遺物 P.L. 70 32~34~35号竪穴建物出土遺物 P.L. 71 36~38号竪穴建物出土遺物 P.L. 72 39号竪穴建物出土遺物 P.L. 73 39~40号竪穴建物出土遺物 P.L. 74 41~43号竪穴建物出土遺物
P.L. 47	1 2号埋設土塁全景(南から) 2 2号埋設土器断面(南から) 3 3号埋設土器全景(東から) 4 1号遺物全景(南から) 5 1号土坑出土状態(東から) 6 1号土坑全景(南から) 7 13号土坑全景(南から) 8 12号土坑全景(南から) 9 17号土坑全景(南から) 10 18号土坑全景(南から)	P.L. 46 1 2号埋設土塁全景(南から) 2 2号埋設土器断面(南から) 3 3号埋設土器全景(東から) 4 1号遺物全景(南から) 5 1号土坑出土状態(東から) 6 1号土坑全景(南から) 7 13号土坑全景(南から) 8 12号土坑全景(南から) 9 17号土坑全景(南から) 10 18号土坑全景(南から)	P.L. 47 1 2号埋設土塁全景(南から) 2 2号埋設土器断面(南から) 3 3号埋設土器全景(東から) 4 1号遺物全景(南から) 5 1号土坑出土状態(東から) 6 1号土坑全景(南から) 7 13号土坑全景(南から) 8 12号土坑全景(南から) 9 17号土坑全景(南から) 10 18号土坑全景(南から)			
P.L. 48	1 20号土坑全景(北から) 2 21号土坑全景(北から) 3 22号土坑全景(東から)	P.L. 48 1 20号土坑全景(北から) 2 21号土坑全景(北から) 3 22号土坑全景(東から)	P.L. 48 1 20号土坑全景(北から) 2 21号土坑全景(北から) 3 22号土坑全景(東から)			



- P.L. 75 43 ~ 45号竖穴建筑出土遗物  
P.L. 76 1号竖穴状遗構、1号古墳周溝、3号古墳填丘出土遺物  
P.L. 77 3号古墳填丘、3号古墳周溝出土遺物  
P.L. 78 3号古墳周溝出土遺物  
P.L. 79 3号古墳周溝出土遺物  
P.L. 80 3号古墳周溝出土遺物  
P.L. 81 3号古墳周溝出土遺物  
P.L. 82 1・3号古墳出土円筒埴輪線刻  
P.L. 83 3号古墳周溝出土馬形埴輪  
P.L. 84 3号古墳周溝出土馬形埴輪  
P.L. 85 3号古墳周溝出土馬形埴輪  
P.L. 86 3号古墳周溝出土馬形埴輪  
P.L. 87 3号古墳周溝出土馬形埴輪  
P.L. 88 3号古墳周溝出土人物埴輪  
P.L. 89 3号古墳周溝出土人物埴輪  
P.L. 90 3号古墳周溝、As-B下水頭、1・3号溝出土遺物  
P.L. 91 3・10号溝、2・3号埋設、1号遺物集中出土遺物  
P.L. 92 1号遺物集中、29号ピット、土坑出土遺物  
P.L. 93 土坑、道構外出土遺物  
P.L. 94 道構外出土遺物  
P.L. 95 道構外出土遺物





## 第1章 発掘調査の経過と方法

### 第1節 発掘調査にいたる経過

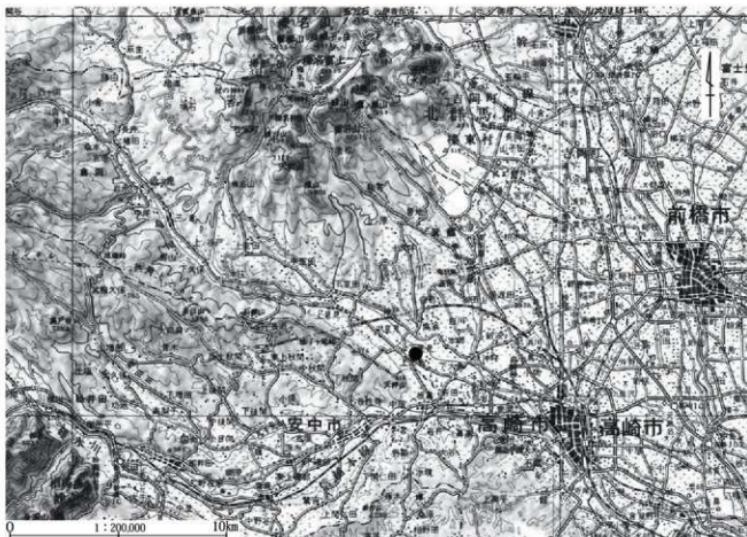
西毛広域幹線道路は、前橋市と富岡市をつなぐ延長27.8kmの道路である。本道路は大規模災害時の支援物資輸送等、県民の安全な暮らしや企業等の安定した経済活動支援及び周辺地域の渋滞緩和、物流の効率化、観光振興による西毛地域のさらなる発展への寄与を目的として計画された。とりわけ、高崎市箕郷町下芝から高崎市下里見町間の高崎西工区4.7kmは交差点混雑の大幅緩和が期待されている。

本書で報告する下里見天神前遺跡が位置する低位段丘には、周知の埋蔵文化財包蔵地である里見Ⅲ古墳群天神地区群、H129 A遺跡、H129 B遺跡が存在し、これらが事業地内に含まれることから、高崎土木事務所は、県文

化財保護課に対し試掘・確認調査を依頼した。県文化財保護課は、平成30年10月15日から18日に試掘調査を実施し、竪穴建物や溝、土坑の存在を確認した。これにより、集落や溝、未知の古墳の存在が想定され、本調査が必要と判断された。県文化財保護課はこの結果を高崎土木事務所に通知し、令和2年1月1日から令和2年3月31日と令和2年7月1日から令和2年9月30日を調査期間として公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を受託し、本調査を実施した。

### 第2節 発掘調査の方法と経過

発掘調査は令和元年度と2年度の2回に分けて実施した。元年度の調査では、竪穴建物と共に、低地部においてAs-B下水田が確認された。中でも、As-B下水田は、そ



第1図 下里見天神前遺跡の位置(20万分の1地勢図「長野」「宇都宮」使用)



## 第2章 遺跡周辺の環境

の範囲が当初想定より南側に延びることが確認され、調整により調査範囲を拡張して調査を行うことになった。そのため、当初の調査範囲を1区、新たに拡張した範囲を2区と呼称して調査を進めた(第7図)。

令和2年度は、令和元年度に調査を実施した1区の西側を3区、3区の南側を2区、3区と道路を隔てた狭い調査区を5区として調査を行った(第7図)。発掘調査にあたっては、平爪を装着したバックホーにより表土掘削を行った後、発掘作業員が鏟籠を用いて遺構確認を行った。なお、遺構確認時の出土遺物量が少量であったため、グリッドでの取り上げは行わず、調査区ごとの取り上げとした。遺構確認後は、発掘作業員による遺構掘削、調査担当による遺構断面、観察と記録を行った。遺構内の出土遺物については細片を除き、出土位置を記録するこ

とを原則とした。

遺構測量は業者に委託して行い、DWGとEPS形式データ及び普通紙プリントを成果品とした。遺構写真撮影はデジタル一眼レフカメラ(RAW+Jpg)とプロニー判モノクロフィルム使用の6×7判一眼レフカメラ用い、調査担当者が撮影を行った。遺構平面図作成の基準は、平面直角座標系第IX系(平成十四年国土交通省告示第九号)を使用した。本報告に際し、全体図ではX Y座標をm単位の数値で表記し、遺構個別図では、座標m単位の下3桁で略記した。なお、測地系は世界測地系に基づく日本測地系2011(JGD2011)である。また、空中写真は調査区全景や水田跡の全体写真撮影を目的として業者に委託してラジコンヘリで実施し、RAW+jpg形式のデータ納品とした。

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 第1節 地理的環境

下里見天神前遺跡は、高崎市街の西北西に位置する高崎市下里見町に所在する。遺跡が所在する下里見町は「棟名地域」に属する。棟名地域は平成18年10月1日合併以前の群馬郡棟名町域を指す名称である。また、棟名地域内の区分は棟名町成立以前の旧群馬郡室田町、旧群馬郡久留馬村、旧碓氷郡下里見村域を「地区」として使用する。更に小区域として、本郷地区等の現行町名も地区として用いている。

棟名地域は棟名山山頂から南麓、および烏川右岸の秋間丘陵(安中市)までを範囲とする。下里見天神前遺跡が所在する棟名山南東麓から里見地区の地形形成は、棟名山の噴火と烏川をはじめとする河川が密接にかかわり、火碎流台地、河岸段丘、低地等に区分されている。

約5万年前に棟名山の噴火によって発生した室田火碎流は、十文字台地、本郷台地、更には烏川対岸の里見台地を形成した。烏川右岸の里見地区では、烏川により上位、中位、下位の河岸段丘が形成されている。なお、中位段丘は室田火碎流(里見火碎流)に覆われており、里見台地と称されている。低位段丘と烏川の間や中位段丘と低位段丘間に流れる里見川との間に低地が形成されて

おり、ここに報告する下里見天神前遺跡の調査地点は、この低位段丘と低地に位置する(第1図～第3図、第5図)。

### 第2節 歴史的環境

#### 旧石器時代

当遺跡周辺において旧石器時代遺跡の調査例は少なく、本郷鶴楽遺跡(23)においてAs-YP直下から剥片2点が出土している程度である。

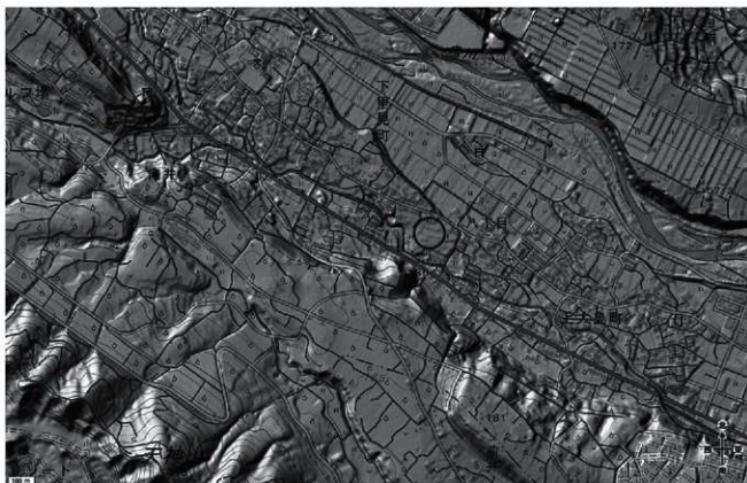
#### 縄文時代

棟名地域の縄文時代遺跡は、棟名山麓の台地と烏川右岸の上位河岸段丘上に存在する。台地上に立地する遺跡としては中尾根遺跡(17)や日輪遺跡(19)があり、中尾根遺跡からは縄文時代早期の撫糸文や押型文土器、日輪遺跡からは前期の土器が出土している。しかし、両遺跡共に明瞭な遺構は確認されていない。高崎市箕郷町に所在する茅原遺跡(33)では前期から後期の土器が出土しているが、量的に少なく遺構も確認されていない。

烏川右岸の里見地区では中里見中川遺跡(12)、中通遺跡(6)、下里見上ノ原・中原遺跡(4)が存在するが、遺構は下里見上ノ原・中原遺跡において前期の堅穴建物が調査されている他は土器が出土した程度である。なお、



第2図 遺跡周辺の地形 1(国土地理院陰影起伏図に位置を追加)



第3図 遺跡周辺の地形 2(国土地理院陰影起伏図に位置を追加)

中通遺跡と中里見中川遺跡からは晩期の土器が出土している。

里見地区に隣接する八幡丘陵および剣崎では若田原遺跡(47)、剣崎長瀬西遺跡(50)、大島原遺跡(51)が調査され、剣崎長瀬西遺跡では竪穴建物3棟などが確認されて

いる。

#### 弥生時代

桙名山南東麓の台地上に存在する鷺上1遺跡(32)では後期の竪穴建物15棟が調査されている。桙名地域南東端にあたる室田火碎流台地(本郷台地)先端および一段下



## 第2章 遺跡周辺の環境

がった段丘にかけての一帯は稻荷森遺跡(41)や寺内遺跡(40)、道場II遺跡(36)、蔵屋敷遺跡(38)、蔵屋敷II遺跡(38)など、弥生時代後期の遺跡が密に分布する。中でも稻荷森遺跡は弥生時代後期の堅穴建物7棟が調査されるとともに、古墳時代前期の堅穴建物4棟も存在し、古墳時代前期まで継続的に集落が営まれていた。また、稻荷森遺跡の西側300mほどに所在する寺内遺跡では、後期の堅穴建物1棟が確認されている。更に、近接する供養塚遺跡からは、稻荷森遺跡出土土器より古い後期の土器が出土している。なお、後期堅穴建物3棟が確認された蔵屋敷遺跡、おなじく後期の堅穴建物3棟が確認されている道場II遺跡や後期の堅穴建物1棟が調査されている蔵屋敷II遺跡の距離は極めて近く、深い関連性を有した遺跡もしくは一つの大規模遺跡であろう。

烏川を挟んだ対岸に位置する劍崎長瀬西遺跡(50)でも後期の集落が確認されており、弥生時代後期集落遺跡が集中する地域となっている。また、劍崎長瀬西遺跡に接する若田坂上遺跡(49)では弥生時代後期の礎床墓が発見され、鉄鋼や人形土器も出土している。礎床墓は里見地区の下里見宮谷戸遺跡(8)でも確認されている。

### 古墳時代

古墳時代になると当該地域の遺跡数は急増し、集落と古墳を合わせると、奈良・平安時代の遺跡数をうわまわる。古墳時代初期の遺跡は少ないが、弥生時代後期集落が多く存在する本郷台付近に位置する麻干原遺跡(44)や稻荷森遺跡(41)において集落が展開している。また、本郷台地には4世紀前半に築造されたと推定される全長73mの前方後円墳、本郷大塚古墳(35)も存在する。

5世紀中葉から6世紀になると、榛名地域の南東に隣接する八幡丘陵、劍崎丘陵に、劍崎長瀬西遺跡や劍崎長瀬西古墳や積み石塚古墳群が築かれ、集落からは韓式系土器が出土するなど、渡来系氏族の存在を窺わせる。烏川を挟んだ対岸の榛名地域本郷地区でも、稻荷森遺跡(41)の小石櫛古墳群が築かれるとともに、韓式系土器が出土した蔵屋敷遺跡(38)や寺内遺跡(40)が存在する。

6世紀から7世紀には下里見天神前遺跡(本報告書)が位置する里見地区や烏川左岸の久留馬地区に相次いで古墳が築造された。烏川右岸地域において古墳分布最上流部に位置する里見地区では、上位河岸段丘、里見台地(中位河岸段丘)、下位河岸段丘に群集墳が形成され、以下

のV群に分けられている(3)。

**里見I古墳群：**下里見中原、下ノ原、南原地内の里見台地。

**里見II古墳群：**下里見堂尾根、若林、猪ノ毛山地内の上位段丘面。

**里見III古墳群：**下里見天神通り、北村、宮谷戸地内の下位段丘面。

**里見IV古墳群：**下里見諫訪山、中里見原南、原北、下ノ原地内の里見台地

**里見V古墳群：**中里見塚崎、新井地内の下位段丘面

里見III古墳群は、調査例がないうえに平夷されて原形をとどめないものが多く、埴輪を伴わない古墳が主体を占めると推定されていた中、下里見天神前遺跡において3基の古墳が調査され、うち2基に埴輪が伴っていた意義は大きいであろう。里見地区の集落では、下里見宮谷戸遺跡(8)において5世紀代の堅穴建物が調査されており、5世紀代から古墳が築造されていた可能性も想定されている。

なお、周辺の遺跡位置図には示していないが、里見地区南西に広がる安中市域の秋間丘陵には、7世紀から9世紀にかけて須恵器や瓦を焼成していた秋間古窯跡群が存在し、7世紀の古窯造営が頗著な地域である。秋間丘陵の古窯造営は、瓦や須恵器生産を担う集団との関係でとらえられている(27)。

### 奈良・平安時代

奈良・平安時代では多くの遺跡で集落が確認され、平安時代を中心として広範に集落が展開していた様子が看取される。

信仰に係わる遺跡では、瓦の散布から、「群馬県で最も早い時期に建立された寺院のひとつ」とされていた本郷奥原遺跡(21)と本郷奥原遺跡の瓦散布域を発掘調査した本郷満行原遺跡(25)は7世紀後半から9世紀の寺院と考えられている。また、この地には7世紀前半から末にかけて築造された本郷奥原古墳群が存在し、両者の密接なかかわりも指摘されている。

生産跡では烏川によって形成された低地と台地を流れれる河川が形成した谷底平野に水田が営まれたようで、当該地域では中里見川遺跡(12)、中里見B区遺跡(13)、神戸岩下遺跡(14)、根岸II・III遺跡(9)、下里見宮谷戸遺跡(8)においてAs-B下水田、中通遺跡(6)ではAs-B下



## 第2節 歴史的環境

畠が調査されている。

### 中世

当該地域における中世道路の発掘調査例は極めて少なく、中世遺物の出土例も少ない。しかし、地域の中世史を物語る城郭は存在する。

高浜の砦(坂上城) (18)は箕輪城の支城として長野葉政により弘治年間(1555年頃)に築かれたとされ、永禄9年(1566)、武田信玄の箕輪攻撃はこの砦の奇襲から始まったとされる。

七曲りの砦(34)については詳細不詳であるが、永禄年間には島方輝忠が居城としていたとされる。

御門城(42)は南北朝時代、長尾景為の子、景忠が築いたとされる。

新田義重の子義俊が新田氏の所領である里見郷に築城した里見城(5)は、高崎市の史跡に指定されている。築

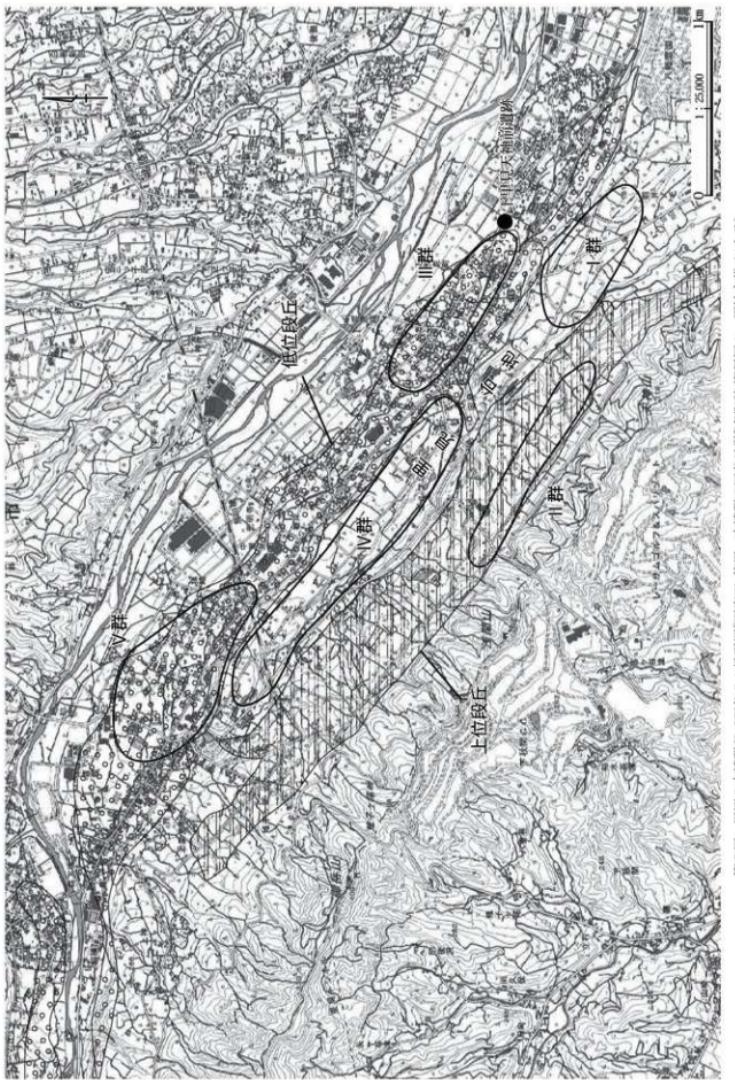
城年代は定かではない。里見は新田義貞の子義俊が分知されて里見氏を称し、後に房總へ転出した里見氏癡祥の地とされる。この里見城は里見義俊の館ともされる。しかし、里見城は永禄年間(1558年～1570年)に里見河内の居城であり、この里見河内は安房里見氏の一族で、この里見城を築いて長野葉正に従っていた。永禄年間(1558年～1570年)武田氏によって攻められ落城し廃城となった。

### 江戸時代

江戸時代の遺跡調査例は少なく、天明3年の浅間山噴火に関連する復旧坑が上大島御伊勢遺跡(2)と本郷溝行原遺跡(25)、本郷鶴来遺跡(23)で見つかっているのと、若田坂上遺跡(49)においてAs-Aで埋もれた畠とAs-A処理坑が調査されている程度である。

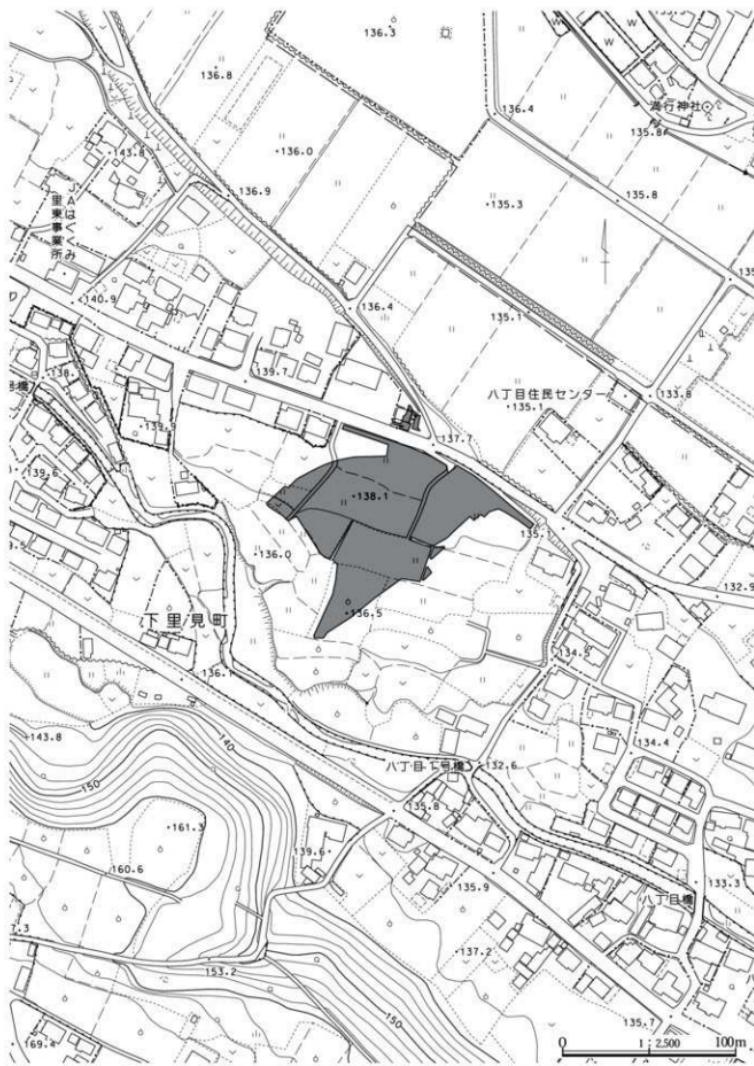


第4図 周辺の遺跡(2.5万分の1地形図「下室田」使用)



第5図 周辺1/25,000の1地形図 下室田・使用・古墳群の区分は、榛名町誌 資料編1 原始古代による

第2節 歴史的環境



第6図 調査区位置図(高崎市都市計画基本図1:2500を使用)

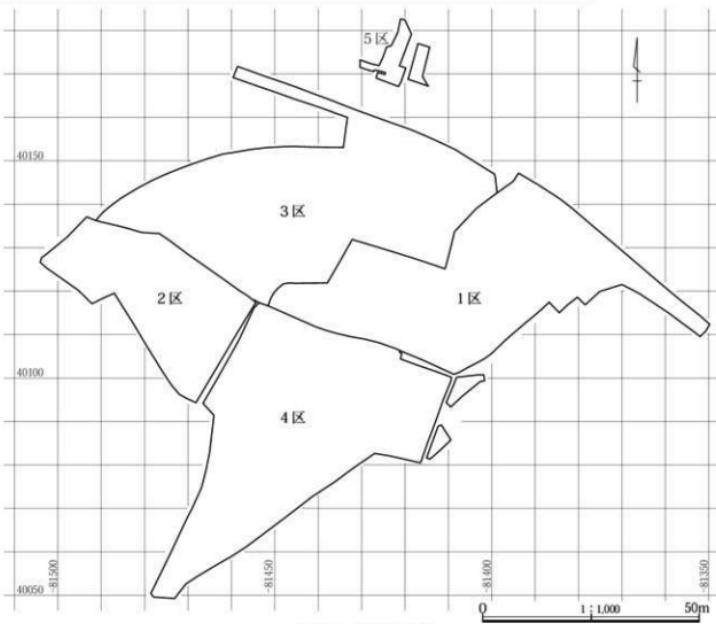
## 第2章 遺跡周辺の環境

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代					主な内容	主な文献
		旧石器	新石器	古墳	余平	中世		
1	下里見天守前遺跡	○	○	○	○	○	本報告書掲載	
2	上大鳥御所跡	○					江戸時代初期築、江戸時代中期復興築	1
3	堂尾船2号墳	○					7世紀中期、金銅製耳飾り	3
4	下里見上ノ原・中原遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代前期・弥生時代中・後期・古墳時代後期・奈良時代・平安時代窓穴建物	3
5	里見城			△			里見氏	4, 26
6	中通遺跡	○					縄文時代中期包含層、As-B下層	3
7	下里見漱波山古墳	○					6世紀前半帆立貝古墳	3
8	下里見宮谷遺跡	○	○	○	○	○	弥生時代・後期集落、礎石基、古墳時代前・中期・平安時代集落、韓式系土器、鍛冶遺構、鍛冶金具、As-B下層	5, 6, 7, 8
9	根岸Ⅱ・Ⅲ遺跡						As-B下水田	3
10	赤城山古墳	○					6世紀門墳	3
11	里見館			△			里見氏	4, 26
12	中里見川遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代晚期包含層。弥生時代前期土器・石器、As-C下水田、平安時代集落・鍛冶遺構、鍛冶金具、As-C下水田	9
13	中里見B遺跡	○		○			As-C下水田、As-B下水田	
14	神戸岩下遺跡	○					As-C下水田 As-B下水田	10
15	神戸宮山遺跡						平安時代集落、灰陶器陶器	10
16	伊勢殿山古墳						7世紀中期、金銅製耳飾り	3
17	中尾船遺跡	○					縄文時代早期から中期・古墳時代後期・平安時代・中世土器	3
18	高前の野(坂上城)			△			長野氏、坂上長信、承和元年	4, 26
19	日輪遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代後期・中期の窓穴建物・土坑・古墳時代後期から平安時代集落	3, 11
20	高浜人狗原遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代前期・中期集落、古墳時代から古代集落	2
21	本郷原山古墳群	○					森井四軒草支軒丸塚、三重張矢平底、瓦器、須恵器	3, 12
22	本郷原山古墳群	○					7世紀前半から末年に造営された古墳群	3, 12
23	本郷鶴奈遺跡	○	○	○	○	○	As-SP下層石器、縄文時代後期集落、7世紀中期・古墳時代から平安時代集落、As-B復旧坑	13, 14
24	本郷上ノ台遺跡						奈良時代・平安時代集落	13
25	本郷横行道遺跡	○		○	○	○	縄文時代後期・古墳時代集落、古代寺院・集落、中世土器窓、As-A復旧坑	13, 14
26	本郷広・神道跡						As-B下水田	13
27	本郷西谷道遺跡						As-B下水田	13
28	本郷大力山遺跡	○					古墳時代・古墳時代・平安時代集落	13, 15
29	本郷鉛錠塚跡						平安時代集落	13
30	本郷原山遺跡						古墳時代・奈良時代・平安時代集落、水室	15
31	本郷鳴上遺跡						古墳時代窓穴建物、平安時代後期	13, 15
32	鳴上I遺跡	○		○	○	○	弥生時代から平安時代集落、中世近畿秆杆窓穴建物	16
33	茅塙遺跡	○					7世紀前半円墳、平安時代集落、中世近世	16
34	七曲りの野(日輪城)						16世紀	4, 26
35	本郷の馬場(堀留郡)						後期から末期古墳群	3, 17
36	本郷福島古墳(のぼるE古墳)	○					6世紀前半帆立貝古墳	3, 17
37	本郷大塚古墳	○					4世紀前半前方後円墳、内行花文鏡	3
38	道場遺跡						平安時代集落、網引上器	3, 18
39	道場II遺跡	○					弥生時代後期集落・大型窓穴建物、古墳時代初期館、平安時代集落	3
40	道場III遺跡	○					古墳時代・平安時代集落	3
41	しおめ塚古墳						7世紀前半円墳、金銅製透彫金具、鍛冶金銅透彫花弁彫き	3
42	破屋敷遺跡						弥生時代後期から古墳時代集落、古墳時代初期館、韓式系土器、平安時代区画溝・鋤印	3
43	破屋敷II遺跡						弥生時代後期から古墳時代集落、5世紀後半から6世紀初頭古墳、平安時代集落	3
44	小石塚古墳						7世紀後半方墳	3
45	供養塚遺跡						古墳時代中期・平安時代集落	3
46	寺内遺跡						弥生時代後期窓穴建物、古墳時代集落、石櫻窓、韓式系土器、平安時代集落	3
47	稀荷森遺跡						弥生時代後期・古墳時代集落、中期末から後期初頭石櫻窓、6世紀前半方墳、平安時代集落	3
48	御門城						長尾城址	4, 26
49	椎現鏡古墳	○					5世紀後半円墳	3
50	麻干原遺跡	○					古墳時代集落、韓式系土器、平安時代集落	3
51	上大鳥船						里見氏	4, 26
52	小五郎の野						里見小五郎	4, 26
53	若田原遺跡	○					縄文時代後期から後期集落	19
54	家林古墳	○					7世紀後半円墳	19
55	朝ノ木塚古墳	○					6世紀前半円墳	19
56	若田大塚古墳	○					6世紀前半円墳、鍛冶矛、鍛冶板新留甲	19
57	若田上原遺跡	○					6世紀前半円墳、7世紀後半円墳、As-B下層、As-A陪葬坑	20, 21
58	若田金坂塚遺跡	○					7世紀後半円墳、近世道路遺構	22
59	劍崎長瀬西古墳	○	○	○	○	○	縄文時代初期土器、石器、弥生時代後期から奈良時代集落、中期・終末期古墳群、金銅製透彫花弁形、韓式系土器	19, 23, 24, 25
60	劍崎長瀬北古墳	○	○	○	○	○	5世紀後半円墳、角板革織物甲、天文鏡	19, 23
61	大鳥原遺跡	○					縄文時代早期帆船形尖頭器、縄文時代中期・古墳時代中期集落、終末期古墳群	19

## 参考文献

- 1 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021「上大島御伊勢道跡 萬行・葉蒼道跡」
- 2 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021「高浜天狗原道跡」
- 3 桜名町立図書館編著2010「桜名町誌 資料編1原始・古代」
- 4 群馬県教育委員会1988「群馬県の中世城跡」
- 5 高崎市教育委員会2013「下里見谷谷戸道跡第一次」
- 6 高崎市教育委員会2014「下里見谷谷戸道跡2」
- 7 高崎市教育委員会2014「下里見谷谷戸道跡3」
- 8 高崎市教育委員会2019「下里見谷谷戸道跡4」
- 9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000「中里見道跡群」
- 10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000「高浜向原道跡・神戸宮山道跡・神戸岩下道跡」
- 11 高崎市教育委員会2008「和山古墳群」
- 12 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983「奥原古墳群」
- 13 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「年報37」
- 14 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「年報38」
- 15 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「年報36」
- 16 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「玉塚道跡・鳴上1道跡」
- 17 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990「本郷の場古墳群」
- 18 桜名町教育委員会1986「道場遺跡」
- 19 高崎市市史編さん委員会1993「高崎市史 資料編1」
- 20 高崎市教育委員会2021「若田地上道跡」
- 21 高崎市教育委員会2018「若田地上道跡2」
- 22 高崎市教育委員会2017「若田上小坂塚道跡」
- 23 高崎市教育委員会2001「朝日上勝西道跡」
- 24 高崎市教育委員会2001「朝日上勝西道跡2」
- 25 専修大学大学部考古学研究室2003「朝日上勝西5・27・35号墳」
- 26 小崎一1978「群馬県古墳遺跡の研究 下巻」群馬県文化事業振興会
- 27 右島大2001「第四章 安中市における古墳時代概観」『安中市史第四卷 原始古代中世編』安中市史第4卷 安中市





## 第3章 確認された遺構と遺物

### 第1節 確認された遺構の時代と概要

本報告では確認面が明瞭に異なる遺構がないこと、土坑やピットの時代決定が困難であること、溝は継続的な利用・使用も認められ、時代ごとの提示が難しいことなどから、遺構種毎の遺構番号順（調査順）報告を原則とした。但し、遺構外出土遺物に関しては、時代毎の報告とした。以下、時代毎の遺構概要と遺構番号を示し、時代順の説明に代えたい。

#### 縄文時代

縄文時代の竪穴建物は19号、20号、44号、45号の4棟。土坑は55号、98号、102号がの3基が縄文時代に属する。他には、2号、3号の埋設土器、1号遺物集中が縄文時代である。土坑を除く竪穴建物、埋設土器、1号遺物集中は、いずれも低地との境付近に占地している。確認された遺構の遺存状態は不良で、縄文土器の出土量も少ない。なお、調査時に1号埋設土器として調査された箇所は、土器部片が偶然弧状に出土したものと判断した。そのため、遺構番号は欠番とし、出土遺物は遺構外出土として扱った。

#### 古墳時代

調査した竪穴建物43棟のうち34棟が古墳時代の所産で、その内訳は以下の通りである。

##### 古墳時代前期3棟：15号、24号、35号

##### 古墳時代中期0棟：なし

古墳時代後期31棟：1号、2号、3号、4号、5号、6号、7号、9号、10号、11号、12号、13号、14号、16号、17号、18号、23号、25号、26号、27号、28号、29号、30号、31号、32号、33号、34号、37号、39号、40号、43号

竪穴建物以外では3基の古墳が当該時期に属する。土坑では53号土坑が古墳時代前期と推定される他は不明である。ピットでは唯一29号が古墳時代の可能性がある他は不明である。

#### 奈良・平安時代

調査した竪穴建物43棟のうち、4棟が奈良・平安時代の所産で、その内訳は以下の通りである。なお、出土遺

物から年代を推定することができない竪穴建物に40号竪穴建物があるが、カマドを建物コーナー付近に構築しており、平安時代の可能性がある。

##### 奈良時代0棟：なし

##### 平安時代4棟：8号、36号、38号、41号

生産に係わる遺構としてはAs-B下において水田、As-B下の可能性がある遺構では畑が確認されている。土坑では97号土坑底面から残存率の高い須恵器が出土しており、平安時代に掘削された可能性がある。

#### 中世

明確な中世遺構は確認できないが、59号土坑から龍泉窯系青磁碗の体部下位片（第166図12）が1点出土している。土坑以外では1号溝から中国製白磁碗の口縁部片（第149図1溝3）が1点出土しており、12世紀中頃から13世紀前半に多く出土する碗であろう。また、台地と低地を区切るように走向する溝群内の9号溝、10号溝、15号溝に中世遺物が認められ、中世を含む時期の水路であったと考えられる。

#### 近世

遺構内出土の江戸時代遺物は10号溝で認められるにすぎず、他に江戸時代の遺構は確認されなかった。このため、江戸時代の調査地は耕作地であった可能性が高い。10号溝は中世から近現代まで水路として継続使用されたと考えられる。

時代が若干新しくなるが、明治6年の「第十一大区小九区碓水郡下里見村」絵図、いわゆる壬申地券地引絵図によると、調査範囲には「田」の記載があり、屋敷地は現在の集落域と重なる範囲となっている。また、10号溝は壬申地券地引絵図に水路として描かれている場所とほぼ一致することから、10号溝は絵図に描かれた水路の可能性が高い。しかし、この水路は調査着手時には存在しておらず、調査区付近に限れば、現代にはその機能を終えていたようである。

## 第2節 建物、堅穴状遺構

### 1. 堅穴建物

1号堅穴建物(第8図、P.L.5・51、第7表)

**位置：**1区北東隅で、調査区が東側に狭く突き出した箇所に位置し、大半が調査区外に存在する。座標はX=40116から40118、Y=-81361から-81363である。

**重複関係：**調査範囲での重複はないが、2号堅穴建物との間隔は1mと近接する。

**規模・形状：**北東壁と北隅のみの確認で規模や形状は不明である。

**面積：**一部の調査であり計測不可能である。

**主軸方位：**不明。

**残存深度：**調査区境の断面観察では、確認面より上層からの掘り込みが確認できるが、プラン確認面からの深さは28cmから39cm。

**柱穴：**床面がほとんど調査できず不明である。

**カマド：**調査区外に存在すると考えられる。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**平面図に図示した土師器杯2点(第8図1・2)はいずれも北側付近の床面から出土している。なお、第8図1の土師器杯は正位、同2の土師器杯は逆位での出土である。第8図3の須恵器杯蓋は埋土出土である。

非掲載遺物の数量は、土師器56点・310gで須恵器はすべて図示している。

**床・掘方：**床面に明瞭な硬化部分は認められなかった。掘方は浅く、黄褐色土ブロックを多く含む土で埋め、床下土坑は2カ所で確認された。

**時期：**床面出土の土師器杯と埋土出土の須恵器杯蓋の特徴から、6世紀中頃と推定される。

2号堅穴建物(第9・10図、P.L.5・6・51、第7表)

**位置：**1区北東隅で、調査区が東側に狭く突き出した箇所に位置し、1/2以上が調査区外に存在する。座標はX=40119から40123、Y=-81359から-81363である。

**重複関係：**調査範囲での重複はないが、1号堅穴建物との間隔は1mと近接する。

**規模・形状：**規模・形状は不明であるが、他の堅穴建物

形状から隅丸方形か隅丸長方形と推定される。

**面積：**1/2以下の調査であり、計測不可能。

**主軸方位：**不明。

**残存深度：**35cmから54cm。

**柱穴：**調査した範囲内では確認できない。

**カマド：**時期的にカマドが構築されていると考えられ、調査区外に位置するものと推定される。

**貯蔵穴：**調査区内では確認できない。

**遺物：**建物内の南西隅付近から集中して出土し、確認面付近では須恵器甕(第10図13・14)の破片が散らばった状態で出土している。床面との比高は、4cmからプラン確認面と幅広い。床面付近では、約1m離れて出土した須恵器脚付長頸甕(第10図10)の下半と上半が接合している。この脚付長頸甕の床面との比高は、床面と床上2cmであり、ほぼ床面上といえる。同様に建物内南側出土の須恵器有蓋高杯(第10図7)は約1.5m離れて出土した3片が接合している。この3片は床面出土が2片と床面上15cm出土が1片である。第10図1の土師器杯は、建物内北西のやや離れた位置から近接して出土した2片が接合したものである。床面からの比高は13cmと20cmである。金属製品では耳環(第10図15)が、建物内南側の床上24cmから出土している。

非掲載遺物の数量は、土師器152点・1740gで、須恵器はすべて図示している。

**床・掘方：**床面に明瞭な硬化部分は認められなかった。

また、床面調査において短軸54cm、長軸62cm、深さ16cmの土坑が確認されているが、埋土に黄褐色土を40%含むことから掘方の可能性がある。床に硬化部分は確認されていない。

掘方は円形の床下土坑を埋めた後、黄褐色土ブロックを多く含む土で平坦に埋めている。

**時期：**出土土器に若干時期差が認められるが、須恵器身(第10図6)や脚付長頸甕(第10図10)等の特徴から、6世紀後半と推定される。

3号堅穴建物(第11図、P.L.6・51、第7表)

**位置：**1区北東隅で、調査区が東側に狭く突き出した箇所に位置し、1/3程が調査区外に存在する。座標はX=40124から40127、Y=-81366から-81368である。

**重複関係：**遺構との重複はないが、倒木痕上に構築して



### 第3章 確認された遺構と遺物

いる。倒木と重複していたため、プランが不明確となり、トレーナーを設定して壁の確認を行っている。

**規模・形状：**規模は長軸2.3m以上、短軸2.16mで、形状は隅丸長方形と推定される。

**面積：**北東壁が調査区外のため計測できない。

**主軸方位：**不明。

**残存深度：**23cmから31cm。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**西壁北寄りに構築していると推定される。カマドは北東半分ほどが調査区外に位置し、全体は不明である。調査できた南西側には、粘土を主体とした土で構築した壁体下部が袖状に残存し、建物側端部には焚口部壁を構成するために据え付けた石が残っている。この石の掘方が断面図に認められず、掘方が不明瞭であったと考えられる。焼成化した火床面や灰の分布は認められない。

**貯蔵穴：**調査区内では確認できない。

**遺物：**礫は平面分布、垂直分布ともに全体から出土しているが、出土位置が記録された土器(第11図1・2・4)は中央付近で出土している。土器と床面との比高は約18cmからプラン確認面までと高く、埋土中の遺物といえる。なお、第11図4は中央付近から出土した破片と南西壁付近から出土した破片が接合している。他の出土遺物(第11図3・5・6)は埋土中出土である。

非実測遺物の数量は土師器48点・370g、須恵器74点・5250gである。なお、須恵器片はすべて壺類であるため、総重量が重い結果となっている。

**床・掘方：**床面に明瞭な硬化部分は認められなかった。掘方はカマド部分に若干認められるが、建物床部分には認められない。

**時期：**床面や床面付近出土遺物はないが、土師器杯や須恵器杯蓋の特徴から、6世紀後半の可能性が考えられよう。

#### 4号竪穴建物(第12~15図、P.L.6・7・51~53、第7表)

**位置：**1区北東部に位置する。座標はX=40128から40132、Y=-81374 ~ -81378である。

**重複関係：**5号竪穴建物と重複し、本建物が新しい。15

号竪穴建物との距離は60cm程と近接するが、出土遺物から本建物が新しいことが確認できる。また、2号溝とも90cmと近接するが、竪穴建物との埋土に大きな違いが認められず、新旧関係は不明である。

規模・形状：規模は東西の長軸3.73m、南北の短軸3.46mで、形状は隅丸方形を呈する。

**面積：**10.47m<sup>2</sup>

**主軸方位：**N-6°-W。

**残存深度：**35cmから44cm。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**北壁中央に構築している。左右の袖は、かけ口部分を囲むように弧状を呈した状態で残存していた。袖は粘土を主体とした土で築かれ、火床面から煙道部にかけて焼土が認められた。天井部や焚口部の鳥居状石組は認められなかった。焚口部の石組については、掘方調査において痕跡が確認できなかった。カマド左横とカマド手前右側からは礫が多く出土しているが、残存状態やカマド内からの出土礫が少ないとから、石組カマドの可能性は低いと考えられよう。

**貯蔵穴：**カマド右側の北東隅に位置する、床面から掘り込んだ直径60cm、深さ46cmの円形土坑を貯蔵穴と判断した。カマド付近に位置するためか、埋土に焼土粒と炭化物粒を少量含んでいる。貯蔵穴内から遺物の出土は認められなかった。

**遺物：**遺物や礫はカマドが存在する北壁から建物中央付近に集中する傾向がうかがえる。建物内出土遺物はやや多く、異なる取り上げ番号間での接合例も多い。特に、第15図13は北西隅付近にまとまっているが、南西隅出土片と接合している。また、第14図10はカマド前中央付近の出土片と南東隅出土片が接合している。他は、カマド左袖上から出土した土師器杯(第14図3)に北東角出土の小片が接合している。

本建物からは、本遺跡で出土数が少ない鉄製品の鎌(第15図14)が中央東寄りで出土している。なお、鎌は床面から22cm浮いた状態であった。出土遺物全体の傾向として、中央付近出土遺物は床面から5cmないし6cm、カマド前出土遺物は15cmから30cm前後高い位置での出土である。なお、この状態は土層断面Bでも確認できる。

非実測遺物の数量は土師器176点・2880gで須恵器は出土していない。

**床・掘方：**掘方は不定形と大小円形の床下土坑が確認されている。断面観察では、床下土坑を埋めた後に床を構築した状況が確認された。床面に硬化した箇所は認めら

れない。

**時期：**土師器甕に長胴化の傾向が認められ、6世紀後半と推定される。

**5号竪穴建物(第16図、P.L.7・8・53、第7表)**

**位置：**1区北東部に位置し、カマド煙道部が調査区外に延びる。座標はX=40128から40131、Y=-81372から81374である。

**重複関係：**4号竪穴建物、5号ビットと重複し、いずれも本建物が古い。

**規模・形状：**4号竪穴建物に西隅を壊されているが、短軸2.32m前後、長軸2.78mの隅丸長方形を呈すると考えられる。

**面積：**西側コーナーが4号竪穴建物との重複で計測不可能であるが、推定で4.90m<sup>2</sup>であろう。

**主軸方位：**N-55°-E。

**残存深度：**18cmから36cm。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**北壁東寄りに構築する。火床は竪穴内に位置し煙道は1m竪穴外に延びる。焚口は鳥居状の石組で構築していたが、天井部の石は落していった。建物壁から建物内に延びる袖にも石が立ててあり、煙道部入口にも天井部らしき削れた受熱礫が認められる。焚口から煙道入り口までの間は、石組を芯材としていたと推定される。また、煙道先端部にも石積みが認められ、煙道立ち上がり部分と考えられる。火床面上には礫が認められ、下部は浅く掘方内に入り込んでおり、支脚の可能性がある。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**出土位置を記録した遺物はないが、カマド内出土の土師器甕(第16図1)を図示した。甕は北隅を除く全体から出土しているが、明瞭な加工痕等がある甕は認められなかった。

非実測遺物の数量は土師器12点・50gと少なく、須恵器は出土していない。

**床・掘方：**掘方は、不正形な溝状に掘削した箇所と床下土坑とが認められる。断面観察では掘方の深い部分を含め、一度に埋めて床面としているようである。

**時期：**図示した遺物はカマド内出土土師器1点のみであるが、重複関係にある4号竪穴建物出土土師器甕との間に大きな差異が認められず、6世紀後半と推定され

る。重複関係からすると、本建物が中頃に近く、4号竪穴建物が末頃の可能性があろう。

**6号竪穴建物(第17~19図、P.L.8・9・53、第7表)**

**位置：**1区端に位置し、北東壁が調査区外に存在する。座標はX=40136から40141、Y=-81381から81386である。

**重複関係：**調査区内において他遺構との重複はない。

**規模・形状：**北側隅が不明であるが、1辺3.93mの隅丸方形と推定される。

**面積：**北東壁が調査区外であるが、推定で13.65m<sup>2</sup>ほどであろう。

**主軸方位：**N-46°-W(2号カマドで計測)。

**残存深度：**24cmから39cm。

**柱穴：**掘方調査時に確認できたビットであるが、位置や規模から柱穴と判断した。深さはいずれも30cmほどである。柱痕は確認できない。

**カマド：**北東壁寄り(1号)と北西壁中央(2号)の2カ所で確認されている。カマド焚口と火床面の灰分布や焚口部石組の残存状態から、2号カマドが古いものと考えられる。

1号カマドの大部分は調査区外に存在し、焚口部分のみの調査となった。焚口部には鳥居状石組の左右側壁石が立てられた状態で残っていた。天井部の石は認められない。焚口から火床にかけて灰の広がりが認められる。

2号カマドは袖が残存せず、壁外に構築した部分のみが確認できた。形状から、火床は壁の延長線上に設置したと考えられる。火床両側には石が設置されているが、右側の石は上部が欠失している。壁面の焼土は少ないが、火床の右奥壁面には焼土が認められた。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**北側隅には編み物用石製鍤11点(第19図8~10、P.L.53-6号竪1~18)がまとめて出土している。床面との比高差は0cmから4cmで、床面出土と判断される。遺物と認定しなかった甕は大型が多く、南東寄りに多い傾向が見受けられる。土器は集中部が認められず、散在している。図示した土器は、南東部からの出土が多く、大型甕の出土傾向と土器大型片の出土傾向が一致するようである。土師器甕(第19図3)は南隅と南東壁中央付近から出土した破片が接合している。土器破片の平面的な

### 第3章 確認された遺構と遺物

距離は約1.7m、床面からの比高差は4cmと15cmである。他には、土師器杯(第19図2)と土師器壺(第19図4)も70cmから80cm離れて出土した破片が接合している。第19図2の床面からの比高差は、床面と床面上37cmである。なお、第19図6の土師器壺は掘方出土で、掘方理土中出土片と建物中央に掘られた床下土坑出土片が接合したものである。

非掲載遺物の数量は土師器248点・3570g、須恵器2点・30gである。

**床・掘方：**掘方は、床下土坑を埋めた後、更に黄褐色土ブロックを多く含む土で平坦にして床面を構築している。なお、床面に硬化した箇所は認められなかった。

**時期：**床面出土の土師器壺(第19図5)や土師器杯(第19図2)の特徴から、6世紀中頃と推定される。

#### 7号竪穴建物(第20・23図、P.L. 9・10・54、第7表)

**位置：**1区東側中央に位置する。座標はX=40123から40126、Y=-81380から-81384である。

**重複関係：**15号竪穴建物、38号ピットと重複し、いずれも本建物が新しい。1号古墳とは1.7mと近接する。

**規模・形状：**15号竪穴建物との重複部分の壁が不明瞭であったが、短軸2.58m前後、長軸3.48mの隅丸長方形を呈するであろう。

**面積：**6.34m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-26°-W

**残存深度：**48cmから57cmと本遺跡としては深い。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**東壁南寄りに構築する。確認できた全長は92cmである。袖端部には焚口の鳥居状石組右壁と推定される石が残っていたが、原位置から若干ずれていると考えられる。左側壁は残存していない。火床面には焼土が広がっていた。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**カマド前から南壁にかけて大型礫が認められる。出土土器量は少ないが、出土位置を記録した遺物分布は大型礫とずれる部分もある。礫の中心は水平に近い状態で存在したと考えられる。出土位置が記録された遺物は土師器有孔鉢(第23図4)、須恵器杯蓋(第23図3)、四石(第23図5)の3点である。床面との比高差は、第23図4が16cm、第23図3が57cmである。また、四石(第23図5)

は掘方出土である。

非掲載遺物の数量は土師器109点・1190g、須恵器1点・230gである。なお、1点の須恵器は壺蓋類の胴部片である。

**床・掘方：**掘方には楕円形の浅い床下土坑が認められ、黄褐色土ブロックを多く含む土で埋めている。

**時期：**第23図4の土師器有孔鉢は年代を決めかねるが、他の土師器杯と須恵器杯蓋の特徴から、7世紀前半と推定される。

#### 8号竪穴建物(第21・23図、P.L. 9・10・54、第7表)

**位置：**1区北側に位置する。座標はX=40134から40137、Y=-81388から-81391である。

**重複関係：**9号竪穴建物、24号土坑と重複し、いずれも本建物が新しい。また、6号竪穴建物との距離は2.2m、1号古墳とは1.2mと近接している。

**規模・形状：**長軸3.32m、短軸2.99mの隅丸長方形を呈する。

**面積：**8.55m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-108°-E。

**残存深度：**9cmから18cmと浅い。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**東壁南寄りに構築する。建物壁とカマド張り出し部との境に鳥居状石組の両壁が残存しているが、確認全長が87cmであり、焚口部の可能性がある。袖は確認できず、カマド前の礫は原位置不明である。火床奥から煙道にかけての壁には焼土が認められた。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**出土遺物、礫共にカマド周辺に多い傾向がうかがえる。土師器壺(第23図7)はカマド前の床面上2cmから8cmにかけての位置で出土した4片が接合している。須恵器壺(第23図6)は東壁中央の床面出土である。図示しなかったが、カマド内からは羽釜胴部片が出土している。

非掲載遺物の数量は土師器53点・1190gで羽釜片を除く須恵器は0点である。

**床・掘方：**床面において深さ20cmほどの土坑やピットを確認しているが、掘方が浅いことを考慮すると、いずれも床下土坑の可能性があると推定される。掘方は北壁と西壁付近が浅く、中央から東壁と南壁をやや深く掘削し、黒褐色土で埋め戻して床面としている。明瞭な硬化面は

## 第2節 建物、竪穴状構

認められなかった。

**時期：**カマドの焚口が建物内に位置しない可能性が高いこと、カマド前付近出土の土師器甕(第23図7)の特徴から、10世紀後半と推定される。

**9号竪穴建物**(第22・23図、P L.10・54、第7表)

**位置：**1区北側に位置する。座標はX=40133から40136、Y=-81386から-81389である。

**重複関係：**8号竪穴建物と重複し、本建物が古い。また、6号竪穴建物との距離は2m、1号古墳とは1.3mと近接している。

**規模・形状：**長軸2.9m、短軸2.6mで、カマドを上として見た場合、上下に長い隅丸方形となる。

**面積：**5.53m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-49°-E。

**残存深度：**37cmから50cmと本道跡としては深い部類である。

**柱穴：**確認できない。

**貯蔵穴：**北東角で確認された直径40cmから45cm、深さ30cmの土坑を貯蔵穴と認定した。この土坑は、壁面から地山の礫が二カ所で突き出していて若干疑問が残るもの貯蔵穴としておく。

**カマド：**北東壁や西寄りに構築する。確認全長は64cmで幅広の袖が竪穴内に延びる。火床には狭い範囲であるが、焼土の広がりが認められた。カマド内やカマド前で礫の出土が認められず、焚口を含めて石組を作わないカマドであった可能性が高い。火床に近い火床には狭い範囲であるが、焼土の広がりが認められた。

**遺物：**罐や土器の出土は少ないが、南東側に多い傾向があるかえ、図示した遺物のうち、出土箇所が記録されている遺物はすべて南東側付近出土である。土師器丸底甕(第23図10)は近接して出土した破片が接合している。また、床面からの比高差も12cmと13cmである。土師器杯(第23図8)の床面との比高差は8cm、土師器甕(第23図11)は36cmである。また、須恵器杯蓋(第23図9)は埋土中の出土である。

非掲載遺物の数量は土師器14点・1390g、須恵器7点60gである。出土量に比して細片の比率が極めて高い。床・掘方：掘方は不整形で、ロームブロックを多く含む土で埋めている。床に硬化面が認められなかった。

**時期：**図示し得る遺物が少ないが、6世紀後半頃と推定される。

**1区10号竪穴建物**(第24~32図、P L.11・12・54・55、

第7表)

**位置：**1区北西部に位置する。座標はX=40134から40141、Y=-81393から-81400である。

**重複関係：**1号溝より古く、18号竪穴建物より新しい。1号古墳とは30cm、14号竪穴建物とは50cmと極めて近い位置に存在する。

**規模・形状：**長軸5.87m、短軸5.54mの隅丸方形を呈する。

**面積：**25.76m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**2号カマド方向を主軸とした場合の主軸は、N-30°-Eである。

**残存深度：**41cmから60cm。

**柱穴：**主柱穴が4ヵ所確認された。柱穴掘方は大きいが、ピット1・ピット3は柱と推定される痕跡が上層断面で確認された。痕跡から推定される柱の直径は10cmから20cmである。

**貯蔵穴：**1号カマド左側の南西隅で確認された土坑を貯蔵穴とした。規模は、長径70cm、短径60cm、深さは33cmである。南側壁際の床面には1cmから8cmほどの段差が認められ、貯蔵穴付近が床面よりやや高い位置に構築されているようである。壁面には地山の礫が露出している。貯蔵穴内に据え置かれたような土器は出土していない。

**カマド：**北西壁中央やや南寄り(1号)と北東壁中央(2号)の2カ所で確認されている。カマド前床面の焼土や焚口の残存状態から、2号カマドが古く、1号カマドが新しいと判断した。

北西壁に構築された1号カマドは、建物外部分に石組が良好に残り、若干ずれていますものの天井石が架かった状態であった。また、煙道部奥には石が立てられていて、煙道の立ち上がり部と想定される。石組は鳥居状で、掘方内に扁平な川原石を立てて壁石とし、壁石と掘方との隙間に小礫と粘質土を充填して安定させている。更に天井石を置き、天井石の隙間に小礫と粘質土で充填したようである。袖の残存は不良で、焚口の石組は確認されていない。床面には焼土が広がり、火床が建物内に位置していたことは明らかである。

### 第3章 確認された遺構と遺物

2号カマドも1号カマドと同様な石組であるが、1号カマドに比して残存状態はやや不良である。天井石は壁の延長線上に1石残っていたのみである。袖の残存はなく、カマド前にもカマド材と推定される石材の分布も認められなかった。加えて、床に焼土の面的分布も認められない。このため、本カマドは1号カマドより古いと判断した。本カマドに使用された石は、若干建物内に入っているが、建物使用時には埋められていたと推定される。遺物：礫と遺物は、北隅を除く部分から多く出土している。特に大型礫は1号カマド前付近に多く、カマド構築材が散乱しているものと考えられる。須恵器高杯蓋(第31図42)は、南隅付近と南西壁付近から出土した破片と2mほど離れた中央付近東寄りから出土した破片が接合している。床面からの比高は中央付近東寄りの破片が27cm、南寄り出土片は48cmである。掲載遺物では、他にも異なった取り上げ番号で接合する例はあるが、比較的近い場所から出土した破片同士の接合例のみで、建物の南側と北側など離れた場所での接合例は認められない。

出土時から残存率の高い遺物としては、北西壁際の床上39cmから出土した第30図3の土師器杯、床上10cmから完形に近い状態で出土した第30図12の土師器杯、南東壁際の床上1cmから出土した第31図34の土師器高杯、1号カマド前の礫付近床上4cmから出土した第30図24の土師器杯などがある。また、その附近からは第31図38の須恵器杯蓋も床上14cmから出土している。

カマド内出土遺物は少なく、掲載できたのは2号カマド側壁下部に挟まるような状態で出土した須恵器高杯(第31図46)のみである。ただ、須恵器は煮沸具ではないうえに二次的な受熱が認められず、カマドを埋める際に混入した可能性がある。

非掲載遺物の数量は土師器1338点・14400g、須恵器47点・590gである。なお、須恵器590g中、壺蓋類片が350gを占める。

**床・掘方：**カマドが存在しない南東と南西壁付近は溝状に掘り窪め、カマド前や主柱穴周辺には大小の床下土坑を穿つ。掘方は全体に浅いが、深い部分を埋めた後に再度埋め土を行って床を構築している。床に硬化は認められなかった。

**時期：**出土遺物の多くが6世紀後半であり、竪穴建物の年代もこの時期と推定される。但し、第30図28・32は7

世紀後半の土師器杯考えられる。また、第31図42・46の須恵器高杯は6世紀前半頃と若干混入が認められる。

#### 1区11号竪穴建物(第33~35図、P.L.12・13・55・56、

第7表)

**位置：**1区北西隅に位置する。座標はX=40142から40145、Y=-81390から-81393である。

**重複関係：**12号竪穴建物と重複し本建物が新しい。18号竪穴建物との間隔は約20cmと極めて接近する。1号溝とも近接するが、1号溝埋土にAs-Bが混在することから、本建物が古いと判断される。

**規模・形状：**長軸3.08m、短軸2.66mの隅丸長方形を呈し、カマドを構築している辺が長い。

**面積：**6.15m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-50°-W。

**残存深度：**8cmから19cmと浅い。

**柱穴：**確認できない。

**貯蔵穴：**場所と遺物出土状態から、カマド左側にあたる西側の土坑を貯蔵穴と認定した。貯蔵穴内には底部を打ち欠いた土師器壺(第34図5)が地山の縛上に置かれ、その設置した壺の口縁部に蓋をするように土師器壺底部(第34図4)が置かれていた。すくなくとも埋没時にはこの状態であったようだ。壺内の埋土は非常に軟らかく縮まりのない状態であった。壺内の埋土を室内で慎重に確認したが、玉類や種実等は認められなかった。

**カマド：**残存高が低いため、火床部分のみの調査であり、確認面で焼土の面的広がりが認められる状態であった。袖は40cm前後確認でき、床側の端部には焚口壁とした石が左側に大きく傾いた状態で見つかっている。側壁が大きく傾いていたため天井部芯材とした入子状の土師器甕(第35図12・14)は落下していた。また、カマド使用面からは土師器甕(第34図7・9)が出土している。調査所見では第34図の土師器甕は掘方に少し埋まっている状態であること、上には被熱した礫が立った状態で出土していることから、支脚として機能していた可能性を考えている。

**遺物：**本建物の場合、貯蔵穴とカマド以外からの出土遺物も残存率が高く、建物中央出土の土師器甕(第35図13)や北東寄りから逆位で出土した土師器有鉢(第34図3)、中央東寄りから出土した土師器小型甕(第34図8)

等床面出土遺物も目立つ。また、カマド右側の壁面直下から出土した土師器甕(第35図11)は床面との比高差2cmと5cmから出土した破片が接合している。

非掲載遺物の数量は土師器102点・1350gで須恵器は出土していない。

**床・掘方：**北側と西側、南側に床下土坑が確認されている。西側は不明であるが、北側と南側の床下土坑については、床面から掘り込んでいることが確認されている。

**時期：**床面出土の土師器甕(第34図2)が6世紀後半、カマド焚口天井部の構築材に利用された第35図14の土師器甕が7世紀前後と考えられることから、6世紀後半から7世紀初頭頃と推定されよう。

#### 1区12号竪穴建物(第36図、P.L.13、第7表)

**位置：**1区北西側に位置する。座標はX=40140から40145、Y=-81388から-81392である。

**重複関係：**1号烟、11号竪穴建物と重複し、いずれも本建物が古い。

**規模・形状：**11号竪穴建物との重複と北東隔壁が調査区外のため、規模と形状は不明である。しかし、確認部分からの推定では長軸約4.2m、短軸約3.8mの隅丸長方形と推定される。

**面積：**11号竪穴建物との重複及び、北東壁が調査区外のため計測不可能。

**主軸方位：**カマドが確認できず主軸方位は不明。

**残存深度：**3cmから17cmと浅い。

**柱穴：**床面調査で確認できなかったが、掘方調査においてピットが確認され、建物内の位置から主柱穴と推定される。

**カマド：**周囲に存在する竪穴建物のカマド構築位置から、11号竪穴建物との重複部分か調査区外に存在したものと推定される。北側はピットが2基確認されているが、どちらが主柱穴か判然としない。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**出土土器は、1点を除いて土師器胴部片であった。また唯一の土師器口縁部片も細片のため図示し得なかつた。出土遺物はこの土師器2点・20gのみである。

**床・掘方：**中央に大型の床下土坑があり、埋土中に礫を含んでいた。また、床下土坑底部には地山の礫が露出している。掘方は、床下土坑を埋めた後、再度埋め土を行つ

て床を設けている。

**時期：**出土した土師器細片の特徴から、6世紀から7世紀代と推定される。加えて、11号竪穴建物より古いことから、6世紀前半から中頃の時期と推測される。

#### 1区13号竪穴建物(第37・38図、P.L.13・14・56、第7表)

**位置：**1区東側中央に位置する。座標はX=40118から40122、Y=-81385から-81388である。

**重複関係：**1号竪穴状遺構と重複し、本建物が新しい。1号古墳とは約30cmと極めて近接する。

**規模・形状：**長軸2.96m、短軸2.46mの隅丸長方形を呈する。なお、長軸はカマド主軸ラインである。

**面積：**5.28m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-41.2°-E。

**残存深度：**37cmから53cmと本遺跡としては深い。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**北東壁東寄りに構築する。袖は建物内に延びているが、端部に焚口の鳥居状石組は認められない。また、左袖が幅広いが、カマド土層の9層が11層を切り込むようにに存在すること、左袖部分の9層に礫が含まれる等、残存している袖ではない可能性がある。カマド内に広く焼上面が確認されているが、火床は建物内に存在したと考えられる。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**番号を付して取り上げた遺物は、カマド付近を除く建物内全体から出土しているが、総じて破片が小さい。掲載した遺物もカマドとは反対側の南西側から出土している。須恵器杯蓋(第38図3)は南側付近の床上10cmから出土した。また、土師器杯(第38図2)は南西壁際の床面との比高差38cmから出土した2点が接合している。建物中央付近から出土した須恵器杯蓋(第38図4)は床上44cmからの出土である。

非掲載遺物も床面出土は1点程度で、全体に床から浮いた状態での出土である。数量は土師器125点・700g、須恵器15点・170g。

**床・掘方：**建物中央付近に大型の床下土坑を設けている。床下土坑を埋めた後、掘方全体を埋めて床を構築している。床に明瞭な硬化面は認められなかった。

**時期：**第38図3・4の須恵器杯蓋の天井部は低いが、口縁部の開きが弱く6世紀中頃と推定され、本建物の時期



### 第3章 確認された遺構と遺物

ものこの頃と考えられる。第38図2の土師器杯は若干古いようで、混入の可能性がある。

#### 1区14号竪穴建物(第39~44図、P.L.14・15・56・57、第7表)

**位置：**1区西側中央に位置する。座標はX=40128から40135、Y=-81397から-81404である。

**重複関係：**1号古墳、22号土坑と重複し、1号古墳より新しく、22号土坑より古い。10号竪穴建物とは60cm、16号竪穴建物とは80cmと近接する。

**規模・形状：**長軸5.67m、短軸5.16mの隅丸方形を呈するが、南東壁に対して北西壁が長く、やや変形となっている。

**面積：**26.22m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-49°-E。

**残存深度：**29cmから56cm。

**柱穴：**壁からやや離れた位置で確認された4カ所のピットが主柱穴と考えられる。ピット1とピット2は径が小さいが、断面において床面からの掘り込みが確認されており、床面で確認したのが柱痕であろう。

**カマド：**カマドは北東壁中央とやや東寄りの2カ所確認されている。焚口や焼土の残存状態から、東寄りから中央のカマドに作り変えたものと解される。

北東壁中央に構築された1号カマドは、煙道から袖間には焼土面が広がる。袖端部には焚口の鳥居状石組は認められず、掘方においても壁石の据え付け穴は認められない。

北東壁東寄りに構築されていた2号カマドは袖が確認されず、建物内に張り出した施設を撤去したものと推定される。また、土層断面Aで観察されるように、建物外に突き出した部分を埋める際に、石を積むようにして強度を増していたと推測される。

**貯蔵穴：**北東隅で確認された直径68cm、深さ22cmの土坑を貯蔵穴と認定した。貯蔵穴が床に面する部分は床面に比して3cmから6cm高い土手状をなしている。貯蔵穴内からは土師器甕(第44図39)が出土しているが、脛部が欠損しているうえに偏在しており、据え置かれた状態ではない可能性が高いと判断される。

**遺物：**礫・遺物共に建物内南東半分からの出土が多い。大型礫の集中は、南東隅付近に2カ所認められるがすべ

て自然礫であった。礫と出土遺物は、全体に床面との比高が高いものが多い。遺物出土状況写真では南東側から北西側に向かって床面との比高差が低くなっているよう見えるが、これは南東側で比高差が少ない遺物が見えないことによるものである。ただ、全体としては、南東側から遺物や礫の廃棄が行われたようである。南東側出土遺物は、取り上げ位置を記録した破片同土の接合も認められ、須恵器高杯蓋(第42図21)は約1.5m間の接合関係が認められた。また、第42図15の土師器杯は約1m間の接合関係が認められた。最も距離が離れた接合関係はカマドから出土した第44図42の土師器甕で、その距離は約2mである。金属製品では耳環(第44図45)が建物東隅の床上59cmから出土している。

床面出土の掲載遺物は1号カマド西側から出土した土師器杯(第42図5)である。また、床面付近出土遺物としては、土師器甕(第44図41)があり、床面との比高差は1cmから4cmである。なお、ピット1西側から出土した(第44図42)と(第44図37)の土師器甕は床面との比高差が-5cmから-11cmとの記録から、掘方出土遺物の可能性がある。

非掲載遺物の数量は土師器774点・10800g、須恵器26点・420gである。なお、非掲載の須恵器はすべて壺類である。

**床・掘方：**掘方は壁際を低く掘削し、他は円形土坑を設けている。床は掘方の深い部分を埋めた後、平坦に埋め戻して構築している。

**時期：**第42図13の土師器杯や同21・22の須恵器等、6世紀前半から中頃の土器が含まれるが、床面付近出土の土器が6世紀後半を主体としていることから6世紀後半と推測される。なお、第42図24と第43図28の須恵器は7世紀的様相を呈することもあり、6世紀末頃まで存続した可能性も考えうる。

#### 1区15号竪穴建物(第45・46図、P.L.15・16・57、第7表)

**位置：**1区北東部に位置する。座標はX=40125から40133、Y=-81379から-81387である。

**重複関係：**2号溝、7号竪穴建物、1号古墳と重複する。新旧関係は、いずれも本建物が古い。

**規模・形状：**南東隅が7号竪穴建物と重複するが、長軸6.42m、短軸6.28mの隅丸方形を呈していたであろう。

## 第2節 建物、竪穴状遺構

**面積：**7号竪穴建物との重複のため計測不可能であるが、36.60m<sup>2</sup>ほどと推定される。

**主軸方位：**短軸の方位は、N-29°-E。

**残存深度：**42cmから70cmと本遺跡では深い。

**柱穴：**柱の深さには40cm程の差が存在するが、建物内の位置から4カ所のピットを主柱穴と想定した。

**炉：**北西側主柱穴間のやや建物中央寄りで、短軸30cm、長軸68cm、深さ4cmの浅い窪みとして確認された。かの北西よりには、炉との長軸を直行させるように礫が設置されており、礫の北西側に受熱によると推定される黒変が認められた。炉内の焼土化は顯著ではないが、埋土には焼土粒が認められる。土層断面の2層は掘方と推定される。

**貯蔵穴：**建物南隅の床面で確認された、長軸91cm、短軸60cm、深さ39cmの土坑を貯蔵穴と想定した。

**遺物：**建物の西隅床面から、土師器の器台(第46図3)が出土している。また、土師器高杯の脚部(第46図2)が南東壁付近の床上6cmから出土している。また、北側付近付近から出土した土師器器台脚部(第46図5)は床との比高差14cmから26cmの破片が接合している。また、土師器器台(第46図4)は掘方出土、土師器高杯の杯部(第46図1)は埋土出土である。他の竪穴建物の場合、礫と土器分布が重なる傾向があるが、本建物の場合は分布が異なっている。

他に本建物に伴わない寸打製石錐(遺構外68)、打製石斧(遺構外76)、掘方出土の打製石斧(遺構外77)は遺構外出土遺物として掲載した。また、明らかに時期が異なる6世紀後半の須恵器高杯(第46図6)は床上46cmからの出土で、2号溝内の遺物であった可能性がある。

非掲載遺物の数量は土師器306点・3250g、須恵器12点・280gである。なお、須恵器280gのうち230gを壺甌類が占める。

**床・掘方：**掘方は浅く、一度に埋め戻して床を構築している。床面に顯著な硬化部分は認められない。

**時期：**出土遺物が少ないうえに残存率も不良であるため、4世紀代としておきたい。

1区16号竪穴建物(第47~51図、P.L.16+17+58+59、

第7表)

**位置：**1区と3区にまたがって位置していたため、1区

部分と3区部分で調査年度が異なる。座標はX=40126から40132、Y=-81405から-81411である。

**重複関係：**17号竪穴建物と重複し、本建物が新しい。

**規模・形状：**長軸5.08m、短軸4.9mの楕円形を呈する。

**面積：**20.26m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-55°-W。

**残存深度：**45cmから62cmと深い。

**柱穴：**掘方調査時に確認された5カ所のピットを主柱穴と認定した。ピット3は位置がやや異なるうえにピット2より古いが、改築の可能性も考慮し柱穴とした。なお、床面の実測図には掘方のピット部分をトレースして掲載している。

各柱穴の規模は、以下の通りである。ピット1：長軸42cm、短軸38cm、深さ20cm。ピット2：長軸41cm、短軸36cm、深さ24cm。ピット3：長軸38cm、短軸36cm、深さ23cm。ピット4：長軸46cm、短軸43cm、深さ21cm。ピット5：長軸75cm、短軸49cm、深さ33cm。

**カマド：**東壁のやや南寄りに構築している。竪穴内には袖が残存していたが、焚口位置は特定できない。カマドの内側には石を並べてカマド内壁とし、その上に天井石を設置して構築していた。天井石は、若干ずれ落ちていたものの2石が残存していた。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**南東壁中央の床面上5cmから9cmから編み物用石製錐8点(第51図28~30、P.L.59-16暨23~36)がまとまって出土している。土器では、主柱穴ピット4付近の床上4cmから完形に近い須恵器杯蓋(第49図13)が出土している。また、カマド前の礫が集中した箇所から出土した土師器裏(第50図21)は取り上げ番号が異なる4点が接合している。また、北側には破片がまとまって出土した箇所があり、土師器杯(第49図1・8)、土師器裏(第50図22・23・24)が出土している。

掘方出土遺物としては、土師器杯(第49図6・7)、須恵器杯身(第49図15)があり、第49図7の土師器杯は本建物より古い。

非掲載遺物の数量は土師器650点・10140g、須恵器80点・2450gである。なお、須恵器片のすべてが壺甌類であった。

**床・掘方：**カマドが存在する北東半分の掘方は不整形に



### 第3章 確認された遺構と遺物

振り窪めているが、南西半分は不整円形の床下土坑を掘っている。掘方は深い部分を埋めた後、再び埋め戻して床面を構築している。

**時期：**土師器杯と土師器壺の特徴から7世紀前半と推定される。

**1区17号竪穴建物**(第52~55図、P.L.17・18・59~61、  
第7表)

**位置：**1区と3区にまたがって位置していたため、1区部分と3区部分で調査年度が異なる。座標はX=40123から40129、Y=-81403から-81410である。

**重複関係：**16号竪穴建物と重複し、本建物が古い。

**規模・形状：**16号竪穴建物との重複により北隅が確認できないが、長軸5.86m、短軸5.46mの隅丸方形を呈すると考えられる。

**面積：**16号竪穴建物との重複により計測不可能。

**主軸方位：**N-31°-E。

**残存深度：**42cmから55cm。

**柱穴：**確認位置からピット1からピット3を主柱と認定し、16号竪穴建物内に位置するピット4を主柱穴と推定した。各柱穴の規模は以下の通りである。ピット1：長軸22cm、短軸20cm、深さ47cm。ピット2：長軸56cm、短軸53cm、深さ50cm。ピット3：長軸71cm、短軸51cm、深さ46cm。ピット4：長軸35cm、短軸31cm、深さ17cm。

ピット4が他の柱穴に比して浅いが、本ピットが16号竪穴建物掘方での確認であるため、掘方面からの深さとなっている。これを本竪穴床面からの深さに換算すると44cmとなる。また、ピット1、ピット2、ピット3には、土層断面に直径20cm前後の柱痕と推定される土層が確認されている。確認された直径が小さいピット1も柱痕はさほど小さくないため、掘方の小ささがピット規模に反映しているものと解される。

**カマド：**北東壁の東寄りに構築されている。火床面の窪みが袖より建物内側に張り出しており、袖の残存がやや不良と考えられる。焚口部の鳥居状石組は確認できない。カマド土層断面の2層は粘土主体で一部袖を覆うように位置しており、天井部が形状を留めた状態で落下した可能性がある。

土層断面の観察位置が少なく断面図で確認できないが、掘方を大きめに掘削し、その中に粘土を貼り付ける

ようにしてカマドを構築しているようである。

**貯蔵穴：**カマド右側にあたる東隅で確認された長軸69cm、短軸57cm、深さ39cmの土坑を貯蔵穴と認定した。なお、貯蔵穴の周囲は床面に比して2・3cm高くしている。遺物：礫や遺物は、東寄りに集中して出土した。その中でも土器は北寄り、編み物用石製錘は南寄りに集中する。20点の編み物用石製錘(第55図35、P.L.61-17号36~54)は、床面からの出土が主体で、床上4cmと床上7cmの出土が各1点である。これら石製錘周囲には焼土分布が認められた。

北寄りに集中する土器の中で、カマド左袖上から出土した土師器有孔鉢(第54図22)、土師器・須恵器各1点の短縦壺(第55図28・30)は据え置かれたような状態であった。また、カマド前付近の床面からは、完形の土師器杯と椀(第54図15・18)が出土している。また、北東隅の床上13cmからは須恵器盤(第55図26)が出土している。

非掲載遺物の数量は土師器267点・3850g、須恵器40点、1230gであり、須恵器はすべて壺甌類が占める。

**床・掘方：**掘方は不整形や円形に近い床下土坑が確認された。床は床下土坑を埋めた後、再び埋め土を施して床を構築している。床面には焼土と炭化物が認められ、受熱痕が認められる土器が出土していることから、火災または廃棄時に焼却された可能性がある。

**時期：**7世紀前半とした16号建物より古いこと、土師器杯の特徴から6世紀後半と推定される。

**1区18号竪穴建物**(第56・57図、P.L.18・19・62、第7表)

**位置：**1区北西隅に位置し、北西壁は調査区外となっている。座標はX=40139から40145、Y=-81392から-81399である。

**重複関係：**1号溝、10号竪穴建物と重複し、いずれも本建物が古い。11号竪穴建物とは20cm弱と極めて近距離であり、残存状態が良好であれば重複していたであろう。

**規模・形状：**北西壁が調査区外のため、北東・南西軸(5.69m)が判明するのみであるが、1辺5.7m前後の隅丸方形と推定される。

**面積：**北西壁が調査区外のため計測不可能。

**主軸方位：**カマドは調査区外に構築されていると考えられ、計測不可能。

**残存深度：**10cmから20cmと浅い。

**柱穴**：床面調査において、主柱穴が存在する可能性が高い箇所から5基のビットが確認された。各ビットの規模は以下の通りである。

ビット1：長軸64cm、短軸50cm、深さ40cm。ビット2：長軸77cm、短軸61cm、深さ13cm。ビット3：長軸不明、短軸50cm、深さ47cm。ビット4：長軸53cm、短軸51cm、深さ44cm。ビット5：長軸53cm、短軸44cm、深さ31cm。

位置的にビット5は若干ズレるが、ビット2は規模と深さが他のビットと異なるため柱穴とは考えにくく、ビット1・3・4・5が主柱穴と考えられる。ビット3の断面観察では、柱痕と推定される土層(2層)が確認された。また、ビット4・5では底面形状で柱痕の可能性を窺わせる跡みが確認されている。

**カマド**：カマドは確認されておらず、北東壁に構築されていたと推定される。

**貯蔵穴**：確認されない。カマド脇に構築されていた場合、調査区外に存在した可能性もある。

**遺物**：北東と南東の壁際の3カ所から編み物用石製錐が出土している。点数は北東壁とビット1間の床面と床面直上で5点(第57図12・14~16、P.L.62-8壁22)、北東壁際の北寄りの床面から床上9cmの範囲から5点(第57図10・13、P.L.62-18壁20・23・24)、北東壁際中央付近の床上5cmから9cmの範囲から4点(第57図11、P.L.62-18壁18・19・21)である。

土器の大型破片と石製錐の分布は異なっており、土師器甕(第57図7)は建物内南西中央の床上3cmから、破片がまとまって出土している。また、土師器甕(第57図8)は建物中央付近の床上9cmから、2.1m離れて出土した破片が接合している。

非掲載遺物の数量は土師器195点・450g、須恵器3点・150gであり、須恵器はすべて壺蓋類が占める。

**床・掘方**：掘方は床下土坑が多く認められ、床下土坑を埋めた後、更に埋め戻して床面を構築していた。床面に明瞭な硬面化は認められない。床面とは直接関係しないが、床面上には部分的に焼土が認められた。また、焼土分布とはズレるが、北東壁中央付近では炭化物の出土も認められた。但し、これらが火事や焼却を示すか否かについては不明である。

**時期**：埋土出土の土師器甕(第57図2)と床面出土の須恵器(第57図4)の年代から、7世紀前半と推定される。

#### 1区19号堅穴建物(第58~60図、P.L.19・63・64、第7表)

**位置**：1区と3区とにまたがって位置していたため、1区部分と3区部分で調査年度が異なる。座標はX=40122から40125、Y=-81422から-81426である。

**重複関係**：3区31号堅穴建物と重複し、本建物が古い。

**規模・形状**：31号堅穴建物との重複により北東壁が壊されており、規模と形状は不明であるが、楕円形又は橢丸長方形と推定される。

**面積**：31号堅穴建物との重複のため計測不可能。

**主軸方位**：N-20°-E

**残存深度**：30cmから34cm。

**柱穴**：確認された位置からビット1が柱穴と考えられる。ビット1：直径40cm、深さ36cm

**貯蔵穴**：確認できない。

**遺物**：出土遺物は建物南東に集中している。床上12cmから28cmの埋没土からの出土が多い。加曾利E3式の波状口縁が6点、加曾利E3式の文様の特徴を有する胸部が12点出土した。深鉢以外に器台土器(第59図17)、両耳壺(第59図18)が出土した。他に打製石斧4点(第60図19~22)、石核が1点(第61図23)出土した。

**床・掘方**：床は地表面を調整して平坦に作られていた。掘方は認められなかった。

**時期**：中期後半(加曾利E3式)と比定される。

#### 1区20号堅穴建物(第61図、P.L.19・64、第7表)

**位置**：1区南側の低地との境付近に位置する。座標はX=40114から40117、Y=-81405から-81408である。

**重複関係**：3号溝と4号溝と重複し、本建物が古い。

**規模・形状**：長軸は不明であるが、短軸3mの楕円形を呈すると推定される。

**面積**：3号溝との重複のため計測不可能。

**主軸方位**：N-0°-E W

**残存深度**：0.4cmから11cmと全体的に浅い。

**炉**：建物中央付近に構築される。調査時はビット1として調査を行った。埋没土に焼土を含んでおり、建物中央付近に位置することから、炉と認定した。

**貯蔵穴**：確認できない。

**柱穴**：確認できない。

**遺物**：遺物の出土は少ない。床面直上に加曾利E3式の



### 第3章 確認された遺構と遺物

底部(第61図1)が出土した。他に石器剥片(第61図2)が出土している。

**床・掘方:**建物南側に向かって緩やかに傾斜しているものの、地表面を調整して平坦に作られていた。掘方は認められなかった。

**時期:**中期後半(加曾利E式)と比定される。

#### 3区23号竪穴建物(第62図、P.L.19・20・64、第7表)

**位置:**3区北西隅に調査区が狭く突き出た箇所に位置するため、南西壁付近のみの調査となった。座標はX=40167から40170、Y=-81450から-81454である。

**重複関係:**38号土坑と重複し、本建物が古い。

**規模・形状:**南西壁のみの確認であり、規模と形状は不明である。北西から南東壁間は4.65mである。

**面積:**北側2/3ほどが調査区外のため計測不可能。

**主軸方位:**カマドが調査区外に位置していると考えられ、主軸方位は不明である。

**残存深度:**38cmから48cm。

**柱穴:**調査した範囲内には存在しない。

**カマド:**本道跡のカマド構築位置の傾向から、調査区外に存在するものと推測される。

**貯蔵穴:**調査した範囲には存在しない。

**遺物:**建物内南東の床上5cmからは、完形の須恵器杯蓋(第62図3)が出土している。調査範囲が狭いこともあり、出土遺物は少ないが、他には床上20cm以上から出土した土師器杯、土師器壺(第62図1・5)がある。また、第62図2・4の土師器高杯と須恵器高杯は埋土中出土である。

非掲載遺物の数量は土師器65点・690g、須恵器10点・40gである。

**床・掘方:**床面には幅13cmから24cm、深さ4cmから9cmの間仕切り溝が確認されている。また、南東から西隅には壁溝も確認されている。掘方は中央付近に床下土坑が存在し、床下土坑を埋めた後、再度埋め戻して床を構築している。

**時期:**出土遺物が少ないが、床上23cm出土の土師器杯(第62図1)と床上5cmから出土したほぼ完形の須恵器杯蓋(第62図3)、埋土中出土の須恵器高杯(第62図4)の特徴から、6世紀後半と推定される。

#### 3区24号竪穴建物(第63・64図、P.L.20・64、第7表)

**位置:**3区北側中央に位置するが、狹小な部分が突き出る分岐点に位置するため、北側隅と南西隅が調査区外となっている。座標はX=40155から40162、Y=-81428から-81435である。

**重複関係:**調査範囲内に重複遺構は認められない。

**規模・形状:**長軸6.79m、短軸6.2m程の楕円方形を呈すると推定される。

**面積:**南西壁と北側コーナーが調査区外のため計測不可能。

**主軸方位:**北側と南壁が調査区外のため不明。

**残存深度:**42cmから69cmと深い。

**柱穴:**確認された位置から、ピット1からピット3を主柱穴と認定した。残る1基は、位置関係から調査区外に存在するものと考えられる。各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1：長軸65cm、短軸53cm、深さ55cm。ピット2：長軸64cm、短軸42cm、深さ56cm。ピット3：長軸67cm、短軸55cm、深さ43cm。

**炉:**調査区外では確認できない。

**貯蔵穴:**南東隅付近で確認された、長軸約122cm、短軸88cm、深さ26cmの深い楕円形土坑が貯蔵穴の可能性がある。埋土は柱穴と同様で、焼土や炭化物は含んでいない。また、底面には地山礫が露出していることもあり、凹凸が顕著である。

**遺物:**出土遺物は、礫と共に建物中央付近からピット1周辺に集中する傾向がある。出土レベルは全体に高く、非実測遺物を含めて床面上20cmから52cmが主体を占める。20cm未満は土師器器台脚部(第64図8)の床上6cm、土師器高杯(第64図7)の床上17cm程度である。また、接合関係がある遺物としては、土師器高杯の杯部(第64図4)が床上52cmと床上22cmの破片と床上15cm出土破片が接合している。

非掲載遺物の数量は土師器510点・4860g、須恵器1点・50gである。本遺構は古墳時代前期の竪穴建物であり、須恵器は明らかに混入品である。

**床・掘方:**掘方は認められなかった。北東壁中央と建物内中央付近に焼土が認められたが、埋土中に焼土は観察されておらず、火災や焼却といった事例とは考えにくい。

**時期:**4世紀代と推定される。

3区25号竪穴建物(第65・66図、P.L.20・21・65、第7表)  
位置：3区東北隅付近に位置する。座標はX=40144から40149、Y=-81407から-81411である。

**重複関係：**重複遺構はないが、32号竪穴建物との間隔は30cm未満と近接している。近接部分が本建物のカマド煙道先端であることから、残存状態が良好であれば重複していたであろう。

**規模・形状：**長軸3.43m、短軸3.36mの隅丸方形を呈するが、カマドが存在する北西壁が長く、やや台形気味となっている。

面積：9.61m<sup>2</sup>。

主軸方位：N-51°-W。

残存深度：44cmから62cm。

柱穴：確認できない。

貯蔵穴：北側で確認された長軸58cm、短軸57cm、深さ31cmの円形土坑を貯蔵穴と認定した。壁面には地山礫が露出しており、その部分の掘削を断念し、礫のない箇所を深く掘り窪めた状況がうかがえる。埋土中に焼土等は認められず、土器等の遺物も出土していない。

カマド：北西壁や北寄りに構築している。袖は幅広く高さも残っているが石は認められず、粘土で構築したカマドと推定される。残存全長は93cmであるが、壁外への張り出しが25cmほど短い。火床は建物内に位置し、底面がやや窪んでいることから位置を推定できる。

土層断面図の2層から5層は粘土主体のように見え、天井部がブレ落ちている状態と考えられよう。但し、2層中に存在する焼土層の解釈は難しいところである。

遺物：カマド前や北側を含む約1/4程が出土遺物、礫共に出土量が少なく、南東部約1/4からの出土がやや少ない。南側の約1/4は最も出土量が多く、壁際から編み物用石製錐8点(第66図7・8、P.L.65-25層10~15)がまとまって出土している。なお、床面との比高差は3cmから9cmである。編み物用石製錐付近からは、須恵器鋏片(第66図4)が出土している。また、東隅壁際からは須恵器鋏片(第66図6)が床下15cmから出土し、北東壁中央直下からは、石製紡輪(第66図9)が床下19cmから出土している。

非掲載遺物の数量は土師器25点・150g、須恵器100点・1080gである。なお、須恵器1080gのうち750gが壺類が占める。

**床・掘方：**南西壁際に大型床下土坑を設けている他は不整形な掘方である。床下土坑を先に埋めている状態は確認されず、似た土で埋めて床を構築しているようである。

**時期：**図示した土師器杯や土師器甕はいずれも埋土中出土片であり、他に良好な資料がないことから、第66図1・5の土師器杯と土師器甕から7世紀前半と推定される。

3区26号竪穴建物(第67~69図、P.L.21・66、第7表)

位置：3区中央東寄りに位置する。座標はX=40141から40148、Y=-81418から-81425である。

**重複関係：**27号竪穴建物と重複し、本建物が古い。

**規模・形状：**形状は、27号竪穴建物との重複により南北隅が不明であるが、長軸5.69m、短軸5.03mの隅丸長方形であろう。

面積：27号竪穴建物との重複のため計測不可能であるが、推定25.60m<sup>2</sup>ほどであろう。

主軸方位：N-15°-W。

残存深度：32cmから60cm。

柱穴：建物内の位置からピット1からピット4を主柱穴と想定した。各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1：長軸39cm、短軸35cm、深さ40cm。ピット2：長軸37cm、短軸35cm、深さ38cm。ピット3：長軸44cm、短軸42cm、深さ33cm。ピット4：長軸41cm、短軸34cm、深さ32cm。

これらピットのうち、ピット3は27号竪穴建物の掘方で調査しており、確認面が下がっている。

**カマド：**北壁中央やや東寄りに構築している。焚口は鳥居状石組の側壁石のみが残存している状態であり、火床部分には石が殆どない状態であった。しかし、煙道部には天井石が残り、煙道端部には立ち上がりの石も認められた。ただ、石には乱れが認められ、原位置から動いているものが多いようである。煙道部床面の手前側、火床に近い部分は焼土化している。煙道側壁は「平」の面を内側に向か、長軸をカマド軸方向に向けて設置している。この点は、焚口部分の側壁と異なっている。

貯蔵穴：カマド右横の北東角で確認された土坑を貯蔵穴と認定した。規模は長軸58cm、短軸44cm、深さ22cmである。貯蔵穴南側は高さ7・8cmの土手状施設が存在する。貯蔵穴内からは、据え置かれたような土器等の出土は認



### 第3章 確認された遺構と遺物

められなかった。

**遺物：**自然縛と土器との分布は一致し、縛内に土器が混じるような状態である。床面付近出土の土器は、南壁際の床上1cmと床上13cmから出土した破片が接合した須恵器杯蓋(第69図8)がある。また、土師器杯(第69図3)は床上2cm出土である。他の土師器甕(第69図11、第69図12)等は床上10cmから36cm上からの出土である。土器はカマド前から北東部にかけての範囲からの出土が多いようである。

非掲載遺物の数量は土師器308点・5110g、須恵器67点・1500gであり、須恵器のすべてが壺蓋類の破片であった。

**床・掘方：**掘方は認められない。

**時期：**ほぼ床面出土片と床上13cm出土片が接合してほぼ完形となった第69図8の須恵器杯蓋はやや特異な形態であり、年代を決定する資料としては不向きである。他の土器は破片であるが、概ね6世紀後半と考えられ、堅穴建物の廃棄年代もこの頃と推定される。

3区27号堅穴建物(第70・71図、P.L.21・22・65、第7表)

位置：3区東中央寄りに位置する。座標はX=40140から40144、Y=-81422から-81426である。

重複関係：3区26号堅穴建物、119号ピットと重複し、26号堅穴建物より新しく、119号ピットより古い。

規模・形状：長軸4.29m、短軸3.37mの隅丸方形を呈する。

面積：11.33m<sup>2</sup>。

主軸方位：N-117°-E。

残存深度：43cmから54cm。

柱穴：確認されない。

貯藏穴：確認されない。北西隅に長軸104cm、短軸93cm、深さ21cmの土坑が確認されたが、位置と建物面積に比して大きいことから貯藏穴としなかった。床下土坑の可能性もあるのではないかだろうか。なお、土坑内からは土師器杯(第71図1)が出土している。

カマド：南東隅付近の東壁に構築する。確認長は222cmと長い。建物内に延びる袖が82cmの長いが、建物外に上る煙道部の120cmと長く伸びている。

煙道に石が認められないが、火床部には火床を囲むように残存している。また、煙道部入口部には天井石も残つ

ていた。土器は石上から3点の土師器甕(第71図3～5)が出土しており、カマド構築材として使用された可能性がある。

**遺物：**カマドと1号土坑以外からの出土遺物は少ないと小片で、上記以外の出土遺物で実測しうるものはなかった。

非掲載遺物の数量は土師器130点・1010g、須恵器32点・610gである。

**床・掘方：**建物の掘方は掘削せず、底面を平坦に掘削して床面としていた。

**時期：**1号土坑出土の土師器杯(第71図1)やカマド出土の土師器甕(第71図4)から、6世紀代と推定される。第71図3の土師器甕は10世紀後半代のように見えるが、カマド構築材の縛上に接して出土しており、本堅穴建物に伴うものであろう。

3区28号堅穴建物(第72図、P.L.22、第7表)

位置：3区東側中央に位置する。座標はX=40138から40141、Y=-81412から-81416である。

重複関係：17号溝と重複し、本建物が新しい。

規模・形状：長軸2.96m、短軸2.76mの隅丸方形を呈する。北東壁は床上45cm程の部分で段差が認められるが、棚状造構か否かは不明である。

面積：6.45m<sup>2</sup>。

主軸方位：N-26°-E。

残存深度：41cmから58cm。

柱穴：確認できない。

カマド：北東壁中央に構築する。カマドの遺存状態は悪く、袖や焚口の石組等は認められない。

貯藏穴：確認されない。

**遺物：**自然縛は建物内の南西寄りに多く認められるが、出土位置を記録した遺物はカマド前と縛が出土した範囲内から各1点出土したのみで、これらのうち中央から出土した須恵器甕(第72図2)を掲載した。他に図示し得た遺物は、埋土中出土の土師器杯(第72図1)と土師器甕(第72図3)小片のみである。

非掲載遺物の数量は土師器45点・490g、須恵器8点・100gであり、須恵器片はすべてが壺蓋類である。

**床・掘方：**掘方は南東壁側を深く、北西側を浅く掘削したの後、水平に埋め戻して床を構築している。掘方底面

には地山礫が多く露出する状態であった。

**時期：**時期を決定する根拠とするには遺物量が少ないと残存率が低いが、6世紀後半と推定される。

### 3区29号竪穴建物(第73図、P.L.22・23・66、第7表)

**位置：**3区中央東端付近に位置する。座標はX=40129から40132、Y=-81416から-81420である。

**重複関係：**31号竪穴建物、33号竪穴建物と重複し、いずれも本建物が新しい。また、33号竪穴建物より新しい3区30号竪穴建物のカマド煙道とは50cmと近接する。

**規模・形状：**長軸3.12m、短軸2.83mの隅丸方形を呈する。

**面積：**6.05m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-52°-W。

**残存深度：**46cmから60cm。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**北西壁のやや北寄りに構築する。焚口部の石組は確認されず、掘方においても設置穴を確認できなかった。また、建物内に延びる袖端部は、調査時に掘りすぎたこともあって確認できていない。火床は建物内に位置していたものと考えられる。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**遺物、自然礫共に散在する。出土遺物は6点の出土位置を記録して取り上げており、これらのうち土師器杯1点(第73図2)と土師器甕2点(第73図3・4)の計3点を図示した。これらのうち、第73図2は床面、第73図3は床上2cmからの出土である。また、第73図4は床上53cmと床上23cmからの出土片が接合している。なお、第73図1の土師器杯は掘方から出土している。

非掲載遺物の数量は土師器85点・950g、須恵器8点・100gであり、須恵器片すべてが壺蓋類である。

**床・掘方：**掘方は、中央部北東寄りと南西隅に床下土坑を設け、深い部分を埋めた後、全体を水平に埋めて床を構築している。

**時期：**残存率の高い土師器杯が床面から出土しており、その特徴から7世紀前半と推定される。

### 3区30号竪穴建物(第74・75図、P.L.23・24・66、第7表)

**位置：**3区中央東端付近に位置する。座標はX=40127から40130、Y=-80413から-80416である。

**重複関係：**1号溝および33号竪穴建物と重複し、1号溝より古く、33号竪穴建物より新しい。なお、重複していないが、29号竪穴建物とは、本建物のカマド煙道との距離が50cmと近接している。

**規模・形状：**長軸2.96m、短軸2.9mの隅丸方形を呈する。

**面積：**7.29m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-51°-Wである。

**残存深度：**50cmから72cmと深い。

**柱穴：**確認されない。

**カマド：**北西壁の南寄りに構築する。本建物のカマドは他のカマドと異なり、壁外への掘り込み分と袖にズレが認められる。壁上端でのカマド張り出し部幅は、40cmであるのに対し、建物壁下端における左右袖の下端幅が75cmと25cmの差が生じている。これは、火床空間を広く取り、煙道入り口を狭めていることになる。

また、左右の袖は建物内側に向かって直線的に延びるのではなく、火床を包み込むように湾曲し、端部に鳥居状石組で焚口を構築している。焚口の天井石は原位置を留めていないが、支脚石上に落下していた。出土遺物は、土師器甕の胴部下半(第74図8)が火床面付近から出土している。

**貯蔵穴：**確認されない。

**遺物：**完形に近い土器が出土しているが、自然礫同様散在している。建物中央付近から西隅にかけて正位で出土した2点の土師器杯(第74図3・5)と土師器小型甕(第74図6)は床上と床上2cmの間で出土している。また、南側付近の床上3cmからは須恵器甕(第74図7)が出土している。接合関係があった土器としては、南東寄りから出土した土師器杯(第74図4)があり、約2m離れた床上と床上3cmから出土した破片が接合している。本土器がまとまって出土した部分は、土圧等で上から押しつぶされたような出土状態であった。やや高い位置から出土した遺物には第74図2の土師器杯があり、床上12cmからの出土である。

非掲載遺物の数量は土師器51点500g、須恵器4点・50gである。なお、須恵器片すべてが壺蓋類である。

**床・掘方：**北と西隅を深く掘り込み、一度に埋め戻して床を構築している。床に明らかな硬化面は認められなかった。

**時期：**第74図7の須恵器甕は6世紀後半と考えられる。



### 第3章 確認された遺構と遺物

土師器杯類はやや後出する特徴が認められるが、6世紀後半代に收まるものと推定される。

#### 3区31号竪穴建物(第76~79図、P.L.24・25・66・67、 第7表)

**位置：**3区東側に位置する。座標はX=40129から40136、Y=-81418から-81425である。

**重複関係：**17号溝、29号竪穴建物、19号竪穴建物と重複し、17号溝と19号竪穴建物より新しく、29号竪穴建物より古い。

**規模・形状：**29号竪穴建物との重複によって南東隅が不明であるが、長軸6.09m、短軸5.9mの隅丸方形であろう。

**面積：**29号竪穴建物との重複のため計測不可能であるが、推定31.30m<sup>2</sup>前後であろう。

**主軸方位：**N-3°-Wである。

**残存深度：**47cmから60cm。

**柱穴：**ピット1からピット4の4カ所を主柱穴と認定した。各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1：長軸35cm、短軸27cm、深さ38cm。ピット2：長軸42cm、短軸37cm、深さ45cm。ピット3：長軸56cm、短軸55cm、深さ42cm。ピット4：長軸55cm、短軸45cm、深さ38cm。

各ピットの土層断面、1・2層は柱痕の可能性がある。

**カマド：**北壁中央やや西寄りに構築する。火床は建物内に位置するものと考えられるが、壁外に1m以上張り出しておらず、長い煙道を有するものと考えられる。煙道部分の先端付近には石が認められ、先端部付近の壁には石を立てかけるように巡らしていた。煙道立ち上がり部には、立てかけた石上に川原石を更に積んでいた。袖は65cmほど残存していたが、焚口の鳥居状石組は認められず、煙道のみ石組としていた可能性が高い。

**貯蔵穴：**位置と規模から、カマド左側の北西隅で確認された直径71cm、深さ25cmの土坑を貯蔵穴と認定した。埋土中から土師器甕(第78図19)が出土している。

**遺物：**大型自然礫はカマド前から建物中央部にかけての範囲に集中し、その中に土器が混じる状態であった。一方、南壁では壁に沿うように編み物用石製錠16点(第78図21~23、P.L.67-31竪24~36)が床上3cmから20cmの高さから出土している。また、カマド右側から北東隅にかけて土器がやや多く出土している。

大型自然礫集中部分から出土した土器としては第78図15の須恵器杯と同図19の土師器甕がある。前者は床上2cmと3cmから出土した2片が接合し、その距離は1.7mである。後者は中央付近の床面から床上2cmの間で出土した複数片が接合している。また、自然礫集中部中央の床上1cmからは、完形の土師器杯(第77図3)が出土し、自然礫分布域周縁部からも、完形の土師器台付鉢(第77図10)が逆位で出土している。

**カマドの東から北東角で出土した土器には土師器杯(第77図1・4)や須恵器杯(第78図16)があり、床上18cmから36cmと高い位置から出土しているが、いずれも壁側からズリ落ちたように斜めの状態で出土している。従って、これらの土器は棚状施設に置かれていた可能性が考えられよう。**

非掲載遺物の数量は土師器510点・7400g、須恵器43点・940gである。なお、須恵器940gのうち900gを壺甕類が占める。

**床・掘方：**掘方は全体に掘り窪めた後に埋め戻して床を構築している。掘方底面には地山礫が多く露出しているが、埋土中に存在する礫もあることから、竪穴構築時に邪魔となった礫を埋め込んだ場合もあったものと推定される。

**時期：**土師器杯や須恵器杯身の特徴から6世紀前半と推定されるが、やや新しい様相も見受けられ、中頃を含む可能性もある。

#### 3区32号竪穴建物(第80~82図、P.L.25・26・68~70、 第7表)

**位置：**3区北東隅付近に位置する。座標はX=40146から40152、Y=-81410から-81416である。

**規模・形状：**長軸4.82m、短軸4.32mの隅丸方形を呈する。

**重複関係：**重複遺構はないが、25号竪穴建物との間隔は30cm未満と接続している。

**面積：**17.98m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N-45°-W。

**残存深度：**35cmから55cm。

**柱穴：**床面で確認された4カ所のピットを主柱穴と認定した。各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1：長軸38cm、短軸35cm、深さ49cm。ピット2：

長軸42cm、短軸36cm、深さ35cm。ピット3：長軸48cm、短軸44cm、深さ32cm。ピット4：長軸45cm、短軸42cm、深さ42cm。

各ピットの土層断面2層は柱痕の可能性がある。また、ピット1の場合、掘方で礫も埋め込んだ可能性が高い。  
**貯藏穴**：確認できなかった。

**カマド**：北西壁中央付近に構築する。火床面に焼土が確認されたが、袖が全く残存していない。また、焚口部や煙道部の石組も認められず、残存状態は不良である。

**遺物**：本竪穴建物出土遺物で特徴的なのは、編み物用石製鍤である。編み物用石製鍤と認定したのは46点(第82図13~19、P.L.69・70-32暨20~58)にのぼり、本遺跡中最多の出土量である。出土位置はカマドと対反側壁際で、長軸100cm、短軸50cmほどの楕円形状の範囲から出土している。なお、床面との比高は0cmから8cmが多く、最も高いものでP.L.70-32暨54の14cmであった。また、編み物用石製鍤分布域からは、滑石製白玉(第82図12)も床上3cmから出土している。

土器はカマド前からの出土が多く、第82図11の土師器甕は出土位置を記録した破片数で11点が接合している。出土位置で最も離れた破片の距離は約2.8mであった。他の場所では、東隅の床上4cmから出土した土師器甕(第82図10)は土圧等で押しつぶされたような状態で出土している。また、中央付近の床面から出土した土師器甕(第82図9)も破片が床面に貼りついたような状態で出土している。

非掲載遺物の数量は土師器510点・8160g、須恵器23点・540gである。なお、須恵器のうち21点・520gが壺甕類である。

**床・掘方**：床に顯著な硬化範囲は認められない。掘方は不整形に掘り窪めており、全体を埋めた後に中央部の低い部分を埋めて平坦にしている。掘方底面に地山礫が露出する部分が多いが、写真を見る限り、浮いた状態の礫も見受けられることから、掘方掘削時に邪魔になった礫を埋め込んだものも含まれるようである。

**時期**：土師器甕と土師器甕の特徴から、6世紀前半と推定される。

### 3区33号竪穴建物(第83・84図、P.L.26、第7表)

**位置**：3区東端に位置する。座標はX=40130から

40134、Y=-81412から-81417である。

**重複関係**：29号・30号竪穴建物と重複し、いずれも本建物が古い。

**規模・形状**：重複により2カ所の隅が不明であるが、長軸4.17m、短軸3.87mの隅丸長方形を呈すると推定される。

**面積**：29号・30号竪穴建物と重複のため計測不可能であるが、12.50m<sup>2</sup>ほどと推定される。

**主軸方位**：N-50°-Wである。

**残存深度**：25cmから54cm。

**柱穴**：4カ所のピットを主柱穴と認定したが、床面調査時には径が小さかったが、掘方では同一場所で径が大きいピットが確認されたため、報告にあたっては径が大きいピットを主柱穴とし、平面図と断面図を合成している。各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1：長軸35cm、短軸30cm、深さ36cm。ピット2：長軸53cm、短軸44cm、深さ45cm。ピット3：長軸18cm、短軸16cm、深さ19cm。ピット4：長軸44cm、短軸36cm、深さ48cm。

ピット3は規模が小さく浅いため、柱穴ではない可能性がある。また、土層断面によるとピット1、ピット2で当初に柱穴として調査した範囲は柱痕であった可能性が高い。

**カマド**：北西壁のほぼ中央に構築する。煙道が短いようで、確認面における壁外への掘削長は35cmである。一方、袖は壁内に75cmから80cm延びており、端部には焚口を構成した鳥居状石組の側壁が残存している。残存する袖形状から、火床は壁から20cm前後離れた建物内に位置していたと考えられる。

**貯藏穴**：カマド右側の北隅で確認した土坑を貯藏穴と認定した。規模は長軸72cm、短軸55cm、深さ41cmである。埋土や出土遺物に特筆すべき点は認められなかった。

**遺物**：図示しうる遺物の出土は少なく、3点のみであり、出土位置を記録した遺物は第83図1の土師器鉢と同図2の須恵器杯蓋の2点のみである。床面からの高さは前者が1cm、後者が5cmである。また、第83図3の土師器甕はカマド内から出土している。

非掲載遺物の数量は土師器116点・1900gで須恵器はすべて掲載している。

**床・掘方**：貯藏穴付近から北東壁を経て南東壁際の床面



### 第3章 確認された遺構と遺物

には壁溝が確認された。壁溝の規模は、幅10cmから20cm、深さは6cmである。床面では、カマドと反対側の南東壁際に焼土の分布が認められるが、目立つような炭化物や炭化材の出土は確認されていない。

掘方は南東壁付近と中央部を深く掘り込んでいるが、一気に埋め戻してはいないようである。掘方底面には地山内の礫が部分的に露出する状態であった。

**時期：**出土遺物量が少ないが、床上5cmから出土した第83図2の須恵器杯蓋から6世紀前半と推定されよう。

#### 3区34号竪穴建物(第85図、P.L.27・70、第7表)

**位置：**3区北側中央に位置するが、調査区が欠き込み状を呈した場所のため、北半は調査区外となっている。座標はX=40150から40153、Y=-81434から-81439である。

**重複関係：**35号竪穴建物と重複し、本建物が新しい。

**規模・形状：**約半分は調査区外のため規模と形状は不明である。

**面積：**1/2ほどが調査区外のため計測不可能。

**主軸方位：**カマドが調査区外に位置すると推定され、主軸方位は不明。

**残存深度：**27cmから41cm。

**柱穴：**確認されない。

**カマド：**調査区内では確認できなかった。北東壁か北西壁に構築されていたと推測される。

**貯蔵穴：**確認できない。存在したとしても調査区外に位置するものと考えられる。

**遺物：**出土地点を記録した遺物は、すべて西側付近から出土しており、図示した遺物は、床上27cmから出土した土師器杯(第85図2)、床上20cmから出土した須恵器杯(第85図3)、床上25cmから出土した土師器甕(第85図6)である。他に埋土中出土遺物も2点(第85図4・5)図示した。

なお、取り上げていないが、建物南東壁際に川原石が認められた。本遺跡における編み物用石製縄の出土位置を考慮すると、これらの中に石製縄が含まれていた可能性はありうるものと推測される。

非掲載遺物の数量は土師器74点・650g、須恵器8点300gであり、須恵器は8点すべてが壺蓋類であった。

**床・掘方：**床に顯著な硬化範囲は認められない。掘方は

壁付近を溝状に、中央付近に床下土坑を掘削している。床下土坑底面には、地山礫が露出していた。床は掘方を一気に埋め戻して構築しているようである。

**時期：**床面出土遺物は認められないが、20cmから30cmの間から出土した土師器杯(第85図1・2)の年代から6世紀後半としておきたい。第85図3の須恵器杯はやや特異な器形で時期を決めかねる。

#### 3区35号竪穴建物(第86・87図、P.L.27・28・70、第7表)

**位置：**3区中央付近に位置する。座標はX=40143から40151、Y=-81433から-81441である。

**重複関係：**34号竪穴建物と重複し、本建物が古い。

**規模・形状：**北側隅が重複により不明であるが、長軸6.92m、短軸6.32mの隅丸方形を呈すると推定される。

**面積：**34号竪穴建物との重複のため計測不可能であるが、39.70m<sup>2</sup>ほどと推定される。

**主軸方位：**N-46°-E。

**残存深度：**12cmから27cmと本遺跡の竪穴建物の中では浅い。

**柱穴：**床面調査においてピット1からピット7の7基が確認されたが、建物内における位置と断面形状から柱穴とは考えにくい。また、1土坑とされた土坑内にもピットが1基存在しているものと考えられる。各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1：長軸48cm、短軸38cm、深さ20cm。ピット2：長軸44cm、短軸36cm、深さ23cm。ピット4：長軸32cm、短軸26cm、深さ22cm。ピット5：長軸36cm、短軸33cm、深さ16cm。ピット6：長軸51cm、短軸35cm、深さ23cm。ピット7：長軸37cm、短軸35cm、深さ23cm。

**炉：**確認できない。位置と形状からピット6にその可能性が考えられたが、焼土や炭化物、受熱痕ある礫等、がと推定する要素が認められなかった。

**貯蔵穴：**建物西側で確認された隅丸長方形の土坑を貯蔵穴と認定した。規模は長軸86cm、短軸60cm、深さ40cmである。貯蔵穴内に据え置かれたような遺物は出土していないが、土師器鉢(第87図7)は貯蔵穴内からの出土である。

**遺物：**自然礫の出土が少なく、礫の量と比例するように土器の出土量も少ない。土器の出土量は少ないが、北西と北東壁際からの出土が目立つ状態であった。北西壁際

## 第2節 建物、竪穴状遺構

からは、土師器台付甕(第87図11)と土師器壺(第87図8)が床下11cmと15cmから出土している。反対側の南東壁際からは、土師器高杯(第87図1)と土師器台付甕(第87図9)が床下6cmと9cmから出土している。

非掲載遺物の数量は土師器140点・1260gである。

**床・掘方**：床面に顯著な硬化範囲は認められなかった。また、掘方は確認されない。

**時期**：古墳時代前期、4世紀代であろう。

3区36号竪穴建物(第88・89図、P.L.28・29・70・71、  
第7表)

**位置**：3区中央北寄りに位置する。座標はX=40148から40152、Y=-81446から-81450である。

**重複関係**：40号竪穴建物と重複し、本建物が新しい。37号竪穴建物との間隔は80cmと近接する。

**規模・形状**：長軸3.13m、短軸2.71mの隅丸長方形を呈する。

**面積**：6.71m<sup>2</sup>。

**主軸方位**：N-123°-E。

**残存深度**：58cmから68cmと本遺跡で確認した竪穴建物としては比較的深い。

**柱穴**：確認されない。

**カマド**：長辺にあたる南東壁の南側に構築している。建物壁の下端延長線上に鳥居状石組の側壁と考えられる立石が認められ、壁外火床と推定される幅広の箇所には川原石の支脚が残存していた。従って、焚口を壁の延長線上に設けていたと考えられる。また、壁外で幅が狭くなる部分にも鳥居状の石組が認められ、この箇所が煙道入り口と推定される。

カマド内からは、支脚に被さるようにほぼ完形の須恵器壺(第89図4)が出土し、火床部分からも土師器壺(第89図7)と須恵器羽釜(第89図10)の破片が散らばるような状態で出土している。また、カマド前の床面からは、須恵器壺(第89図6)が出土している。

**貯蔵穴**：確認できない。

**遺物**：他の建物と同様、礫がまとめて出土する範囲から多く出土する傾向が認められる。須恵器羽釜(第89図8)は、カマド火床部分から出土した破片とカマド前周辺の床面出土片が接合し、須恵器羽釜(第89図10)はカマド前と約1.7m離れた北西壁付近の床面出土片が接合し

ている。また、西隅の自然縫集中部からは、須恵器杯(第89図1)と須恵器羽釜(第89図9)が床面から出土している。一方、礫の出土範囲外では、北東壁際の床面から、須恵器壺(第89図5)が出土している。

竪穴建物に伴わない遺物としては、磨製石斧(第173図89)があり、南東壁際の床下40cmから出土している。

非掲載遺物の数量は土師器110点・1550gである。

**床・掘方**：カマド前の床面では、炭化物と灰の面的な広がりが確認された。掘方では、床下土坑4基が確認されている。床下土坑以外で掘方は認められない。

**時期**：須恵器壺等の特徴から、10世紀後半と推定される。

3区37号竪穴建物(第90図、P.L.29、第7表)

**位置**：3区中央北寄りに位置する。座標はX=40149から40153、Y=-81441から-81446である。

**重複関係**：80号土坑、81号土坑、84号土坑と重複し、いずれも本建物が古い。特に81号土坑は掘り込みが深く、掘方にまで達している。重複関係にはないが、36号竪穴建物との間隔は80cmと近接する。

**規模・形状**：北側が調査区外で不明であるが、長軸3.84m、短軸3.3mの隅丸長方形を呈すると推定される。

**面積**：北側が調査区外のため計測不可能であるが、11.20m<sup>2</sup>ほどと推定される。

**主軸方位**：N-43°-E。

**残存深度**：10cmから17cmと本遺跡の竪穴建物としては残存状態が不良である。

**柱穴**：確認できない。

**カマド**：北東壁のやや東寄りに構築する。右袖と壁外張り出し部のごく一部が調査できたのみで詳細は不明である。右袖端に焚口の鳥居状石組や立石痕は認められなかった。

**貯蔵穴**：調査範囲内には認められない。

**遺物**：自然礫の出土がほとんどなく、出土遺物も少ない。出土位置を記録した遺物は僅かに3点のみであり、いずれもカマド前からの出土である。これらのうち、床面から出土した第90図1に示した土師器壺1点のみが図示し得る遺物であった。非掲載遺物の数量は土師器43点・420g、須恵器12点・600gであり、須恵器のすべてが壺類片であった。



### 第3章 確認された遺構と遺物

**床・掘方：**床面に明瞭な硬化範囲は認められなかった。また、掘方は認められなかった。

**時期：**出土遺物が少ないうえに細片であり、時期不詳であるが、床面出土の土師器甕片(第90図1)や他の出土遺物から古墳時代後期であろう。

3区K38号竪穴建物(第91・92図、P L.29・71、第7表)

**位置：**3区中央に位置し、座標はX = 40138から40141、Y = -81438から-81442である。

**規模・形状：**北壁に比して南壁がやや短い、長軸3.92m、短軸2.98mの隅丸長方形を呈する。

**重複関係：**重複する遺構は認められない。

**面積：**9.86m<sup>2</sup>。

**残存深度：**確認された深度が12cmから23cmと本遺跡の竪穴建物としては残存状態が不良である。

**主軸方位：**N -110° - E。

**柱穴：**北東と北西隅でビットが確認されているが、建物内の位置と建物の平面形状から柱穴が確認できない時期と想定されることから、これらのビットを柱穴とは認定しなかった。なお、各ビットの規模は以下の通りである。ビット1：長軸44cm、短軸38cm、深さ27cm。ビット2：長軸50cm、短軸46cm、深さ42cm。

**カマド：**南東側の東壁に構築する。建物壁下端延長線上に川原石を立て、焚口石組の側壁としているが、天井石は存在しない。火床は建物外を半円形状に掘り込んで設けている。煙道は火床奥から細く伸びている。火床面には棒状の川原石が立てられており、石製支脚と考えられる。カマド前付近には大型自然礫が認められたが、カマド構築材か否かは不明である。

**貯蔵穴：**カマド右側にある、建物南東隅で確認された土坑を貯蔵穴と認定した。規模は、長軸58cm、短軸48cm、深さ20cmである。貯蔵穴内からの出土遺物は認められない。

**遺物：**カマド内とカマド前から出土した破片が接合した第92図1の黒色土器碗、第92図8～10の須恵器羽釜やカマド内から出土した第92図4・5・7の土師器甕を図示した。カマドから離れた位置では、北西隅のビット2内から出土した土師器甕(第92図6)と南西隅から出土した須恵器碗(第92図3)があるが、カマド付近からの出土が多い。

非掲載遺物の数量は土師器41点・1070gである。

**床・掘方：**掘方平面図がなく不明であるが、断面図を見る限り不整形に掘り込んだ後、平坦に埋め戻して床を構築しているものと推測される。

**時期：**10世紀後半と推定される。

3区K39号竪穴建物(第93～95図、P L.29・30・72・73、

第7表)

**位置：**3区中央に位置し、座標はX = 40142から40147、Y = -81442から-81447である。

**重複関係：**27号溝と重複し、本建物が新しい。

**規模・形状：**長軸4.27m、短軸3.47mの隅丸長方形を呈する。

**面積：**11.12m<sup>2</sup>。

**主軸方位：**N -29° - E。

**残存深度：**37cmから62cm。

**柱穴：**確認できない。

**カマド：**北東壁東寄りに構築する。建物壁内側に袖を設け、先端に鳥居状の石組で焚口を設置する。火床は建物内に位置し、中央部から棒状蝶が出土した。写真は斜めに立った状態で撮影されているが、断面図に記載がなく、支脚か否かは不明である。ただ、その可能性は高いものと推定される。

火床から煙道に至る部分(土層断面10層)は、天井部が残っていた可能性がある。

**貯蔵穴：**カマド焚口の右側、建物の東隅で確認された土坑を貯蔵穴と認定した。規模は長軸76cm、短軸51cm、深さ36cmである。貯蔵穴からの出土遺物は認められない。

**遺物：**自然礫、遺物共にカマドが存在する北東寄りが多く、南西側が少ない傾向が見受けられる。北東側からは、土師器杯(第94図2・3)、須恵器杯蓋(第94図8)や土師器甕(第95図14)等が出土している。異なった出土位置間での接合が認められた遺物としては、土師器大型杯(第94図7)や須恵器提瓶(第94図12)がある。特に第94図12の須恵器提瓶は、北西壁付近出土片と南東壁付近出土片、カマド前出土片が接合しており、壁付近で出土した破片は2m以上離れている。なお、本遺物は床上3cmと8cm、20cmから出土している。

一方、自然礫が少ない南側壁際では棒状蝶がまとまって14点出土し、編み物用石製錐(第95図17・18、P L.72・

73-39号19~30)と認定した。これらの床面との比高差は、1cmから5cmであった。

非掲載遺物の数量は土師器39点・260g、須恵器16点・110gである。須恵器のうち4点・60gを壺類が占める。

**床・掘方**: 掘方平面図がなく不明であるが、断面図を見る限り不整形に掘り込んだ後、平坦に埋め戻して床を構築しているものと推測される。

**時期**: 床面や床面付近出土の土師器杯や須恵器杯蓋、須恵器提瓶、土師井甕の特徴から、6世紀後半から7世紀初頭と推定される。埋土中出土の土師器杯(第94図4~6)には若干新しい様相を示す個体が見受けられ混入であろう。

3区40号竪穴建物(第96~98図、P.L.30・31・73、第7表)  
位置: 3区中央北寄りに位置し、座標はX=40148から40152、Y=-81449から-81454である。

**重複関係**: 36号竪穴建物と重複し、本建物が古い。

**規模・形状**: 調査区と重複の関係で北と東隅の形状が不明であるが、長軸5.03m、短軸4.78mの隅丸方形を呈すると推定される。

**面積**: 北隅が調査区外、東隅が36号竪穴建物と重複し計測不可能であるが、推定19.20m<sup>2</sup>前後と広い。

**主軸方位**: N-57°-E。

**残存深度**: 36cmから55cm。

**柱穴**: 確認された位置からピット1からピット4を主柱穴と認定した。ピット3を除いて細い柱穴であり、ピット3の柱痕と推定される部分の幅から推測して、他のピットは柱痕のみを確認していた可能性もあるが、土層観察結果からすると肯定できないようである。なお、各ピットの規模は以下の通りである。

ピット1: 長軸20cm、短軸14cm、深さ22cm。ピット2: 長軸18cm、短軸16cm、深さ33cm。ピット3: 直径30cm、深さ32cm。ピット4: 長軸25cm、短軸21cm、深さ24cm。

**カマド**: 北東壁のほぼ中央に構築する。袖は建物壁から内側に延び、建物内に火床を設けたと考えられる。袖端部に焚口の石組は認められず、掘方にも設置穴が認められなかった。また、煙道部からも川原石が認められず、粘土主体で構築していた可能性が考えられる。

**貯蔵穴**: カマド右側の建物東隅で確認された土坑を貯蔵

穴と認定した。北東から南西軸の規模は64cmで、円形か椭円形を呈すると推定される。深さは14cmと浅い。貯蔵穴からの出土遺物は認められない。

**遺物**: 本建物の場合、本遺跡の傾向と異なり、自然礫と遺物分布が異なっている。すなわち、自然礫が建物の中央より南西側に集中するのに対して遺物は中央より北東側からの出土が多い。図示した主な土器の出土位置は、カマド付近から北隅付近で出土している。

カマド右袖端部では2個体の土師器壺(第98図7・8)が潰れたような状態で出土しており、焚口天井部の構築材であった可能性が推測される。また、土師器杯(第98図1)や土師器壺(第98図5)、須恵器杯蓋(第98図4)は北隅付近出土であり、床面との比高差は10cmから16cmである。唯一自然礫中から出土したのは第98図9の編み物用石製錐(敲石)1点のみである。なお、編み物用石製錐と床面との比高差は4cmである。

非掲載遺物の数量は土師器102点・1100g、須恵器150点・1400gであり、須恵器のすべてが壺類片であった。

**床・掘方**: 床面に焼土や炭化物等の分布や顯著な硬化範囲は認められない。掘方平面図がなく詳細不明であるが、断面図から判断すると、浅い部分を埋めた後に深い部分を埋めて床面を構築したか、一度床面を構築した後に再度床下土坑を掘削したと推定される。

**時期**: カマド焚口構築材と目される土師器壺や床上10cmほどから出土した土師器杯等の土器から、6世紀後半と推定される。

3区41号竪穴建物(第99・100図、P.L.31・74、第7表)

位置: 3区中央西寄りに位置し、座標はX=40143から40147、Y=-81452から-81457である。

**重複関係**: 重複する遺構は認められないが、27号溝との距離は約70cmと接近する。

**規模・形状**: 長軸4.15m、短軸2.97mの隅丸長方形を呈する。

**面積**: 9.92m<sup>2</sup>。

**主軸方位**: N-117°-E。

**残存深度**: 21cmから50cm。

**柱穴**: 確認できない。

**カマド**: 南東隅の東壁に構築する。断面計測を行っていないため詳細不明であるが、平面図と写真で見る限り、



### 第3章 確認された遺構と遺物

建物壁下端の延長線上に川原石を立てており、これが焚口の鳥居状石組と考えられ、壁石の設置穴は掘方でも確認されている。火床は壁外に設けられ、傾いてはいるものの、支脚も残存していた。煙道は長く、火床から約75cm延びている。

カマド火床部分からは土師器甕2点(第99図4・5)が出土している。

**貯蔵穴：**カマド右側にあたる南東隅で確認された土坑を貯蔵穴と認定した。規模は長軸62cm、短軸48cm、深さ18cmで、形状は梢円形を呈する。埋土中に粘土粒や焼土粒が多く認められたが、据え置かれたような土器等は認められない。

**遺物：**カマド内出土で出土位置を記録したものについてはカマドの項で述べたが、2点の須恵器杯(第99図1・2)は埋土出土である。また、第99図3の土師器甕は1土坑の埋土出土である。

非掲載遺物の数量は土師器56点・1140gである。

**床・掘方：**東壁中央から西壁南側までの間に、壁溝が確認されている。なお、カマド付近の掘方断面をみると、壁溝状の窪みが認められ、カマド付近まで壁溝が存在した可能性もあり得る。

建物北西隅に存在する隅丸長方形土坑(1土坑)は長軸が144cm、短軸が98cmと規模が大きく、建物使用時に存在したとは考えにくい。そのため、床下土坑若しくは本建物に伴わない土坑と推測される。なお、土坑の深さは19cmである。

掘方については平面図がなく詳細不明であるが、土層断面から判断して大きく2段階に埋め戻して床面を構築しているようである。

**時期：**10世紀第4四半期と推定される。

### 3区42号竪穴建物(第101図)

**位置：**3区中央西側に位置し、座標はX=40151から40152、Y=-81457から-81459である。

**重複関係：**南西隅付近のみの調査であり、調査範囲での重複は認められない。

**規模・形状：**南東隅付近のみの調査で、規模と形状は不明である。

**面積：**カマド付近以外が調査区外のため計測不可能。

**主軸方位：**N-128°-E。

**残存深度：**平面調査における残存深度は10cmから14cmと浅いが、断面観察では40cmから53cmとなる。

**柱穴：**南隅のみの調査であり、確認できない。

**カマド：**南隅の東壁に構築する。袖も残存せず、焼土分布によりカマドと認定する状態であった。

**貯蔵穴：**確認できない。

**遺物：**遺物の出土は皆無であった。

**床・掘方：**床は不明瞭で中央が深い状態であり、掘方面的の可能性がある。

**時期：**カマドが建物角付近に位置することから、平安時代の可能性を考えておきたい。

### 3区43号竪穴建物(第102~105図、P.L.31・32・74・75、第7表)

**位置：**3区東側に位置し、座標はX=40143から40140、Y=-81426から-81432である。

**重複関係：**重複する遺構は認められない。

**規模・形状：**長軸5.28m、短軸5.0mの隅丸方形を呈する。

**面積：**21.94m<sup>2</sup>

**主軸方位：**N-42°-E。

**残存深度：**54cmから70cm。

**柱穴：**床面調査で5基のピットが確認され、ピット1、ピット2、ピット4、ピット5を主柱穴と認定した。主柱穴の規模は以下の通りである。

ピット1：長軸35cm、短軸25cm、深さ36cm。ピット2：長軸25cm、短軸20cm、深さ26cm。ピット4：長軸19cm、短軸16cm、深さ28cm。ピット5：長軸18cm、短軸16cm、深さ33cm。

ピット3については、本建物に伴うか否か判断しかねる。

**カマド：**北東壁やや東寄りに構築する。左右の袖は壁から100cmと120cm残存しており、内面は焼土化が著しく認められた。また、袖の延長線上には川原石が存在し、川原石の長軸と袖の方向が一致している。このため、袖の芯材として使用された可能性と、焚口の壁が倒れた状態であった可能性が考えられよう。

火床は建物内に存在し、土層断面でも明らかなように、粘土で構築された煙道部天井が残存していた。土層断面で確認された煙道立ち上がり部の直径は直径22cmであった。

## 第2節 建物、堅穴状遺構

**貯蔵穴**：建物内の位置と土坑周囲の土手状高まりの存在から、カマド右側の東隅で確認された土坑を貯蔵穴と認定した。規模は、長軸70cm、短軸54cm、深さ58cmで、断面形は「U」字形を呈している。また、カマドに面する西側を除き、床面に比して1cmから3cm高い土手状の高まりが巡っている。

**遺物**：出土遺物はカマド付近に集中する傾向が認められ、器種としては土師器甕が多い。土師器甕としては比較的破片の残存率が高い第104図7は、カマド横やカマド内、カマド前から出土した破片が接合している。また、第104図8と第105図11もカマド内やカマド横の出土破片とカマド前出土破片との接合関係が認められる。

土器以外では、南東壁中央の堅壁から編み物用石製鍤11点(第105図13~15、P L.75-43堅16~23)がまとまって出土している。本遺跡において編み物用石製鍤が堅穴建物からまとめて出土する場合、カマドが設置される壁の反対側の堅壁からの出土が多いが、本建物の場合その点が異なっている。ただ、堅壁からまとめて出土するという点においては一致している。石製鍤の出土レベルは、床面と床面から9cm上の間である。

非掲載遺物の数量は土師器145点・2600g、須恵器10点・150gであり、須恵器のすべてが壺類片であった。

**床・掘方**：カマド前付近に焼土分布が認められたが、建物の炭化部材は認められない。また、床面調査時に1・2号土坑とした土坑と貯蔵穴と重複するような不定形土坑が確認されている。規模や形状、1・2号土坑確認面において床面から続く焼土分布が認められたことなどから、これらが床面に存在したとは考えにくく、床下土坑と考えたい。

**時期**：床面出土の土師器杯(第104図1)や土師器甕(第104図8)が7世紀前半の特徴を有していることから、この時期を下限として、本建物の時期は6世紀末から7世紀前半と推定される。なお、掘方出土の土師器杯(第104図3)はやや古い特徴を有している。

### 3区44号堅穴建物(第106図、P L.32・75、第7表)

**位置**：3区西端に位置し、座標はX=40145、Y=-81460である。

**重複関係**：がのみの確認で建物範囲が不明のため、重複遺構は不明である。

**規模・形状**：建物壁が確認できず、規模と形状は不明である。

**面積**：建物壁が確認できず、計測不可能。

**主軸方位**：建物範囲が不明のため、主軸方向も不明である。

**残存深度**：がのみの確認のため0cm。

**柱穴**：確認できない。

**炉**：東辺の礫が残っていなかったが、長方形状の石團炉である。中央に深鉢を正位に埋設していた。周辺には焼土塊が見られる。

**遺物**：第106図3の深鉢が炉内から出土していることから、胸部下半が欠損した状態で出土したが、炉体土器と推定される。第106図2・4の深鉢も建物内の遺物として取り上げをした。

**床・掘方**：炉のみの確認のため、不明である。

**時期**：炉内から出土した深鉢(第106図3)から中期後半(加曾利E 3式)と比定される。

### 3区45号堅穴建物(第107図、P L.32・75、第7表)

**位置**：3区東側に位置し、座標はX=40132から40137、Y=-81440から-81444である。

**重複関係**：3号溝、72号ピット、倒木痕と重複し、3号溝、72号ピット、倒木痕より本建物が古い。

**規模・形状**：3号溝に一部壊されていたが、梢円形と推定される。

**面積**：3号溝との重複のため計測不可能。

**主軸方位**：N-0°-E W

**残存深度**：0cm~1cm。

**柱穴**：確認できない。

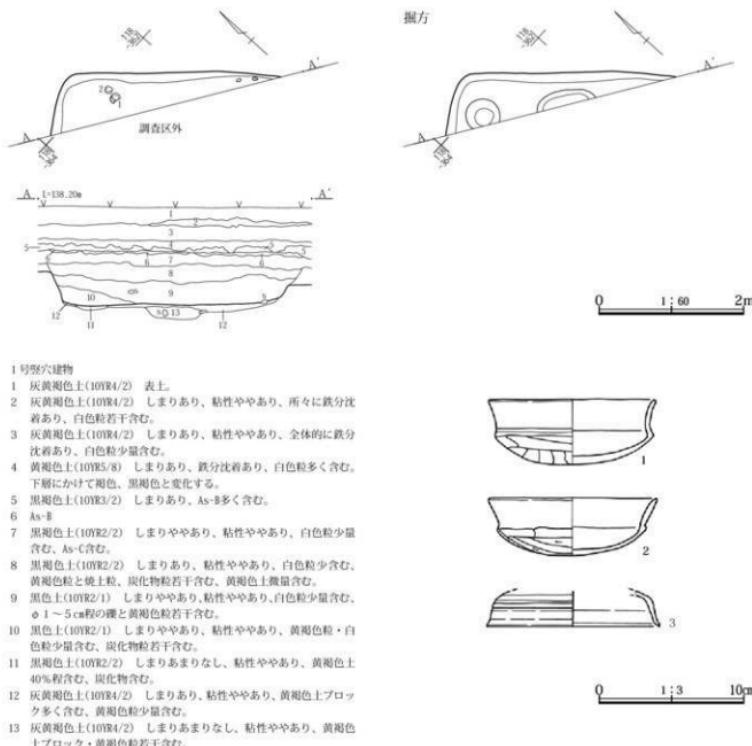
**炉**：一辺が70cm程の方形石團炉である。

長さ40cmから50cmの長細い礫を配置し、その四隅に径10cm程の礫が立石状に置かれていた。被熱痕跡は認められなかった。

**遺物**：埋没土中から加曾利E 3式3点(第107図1~3)が出土した。

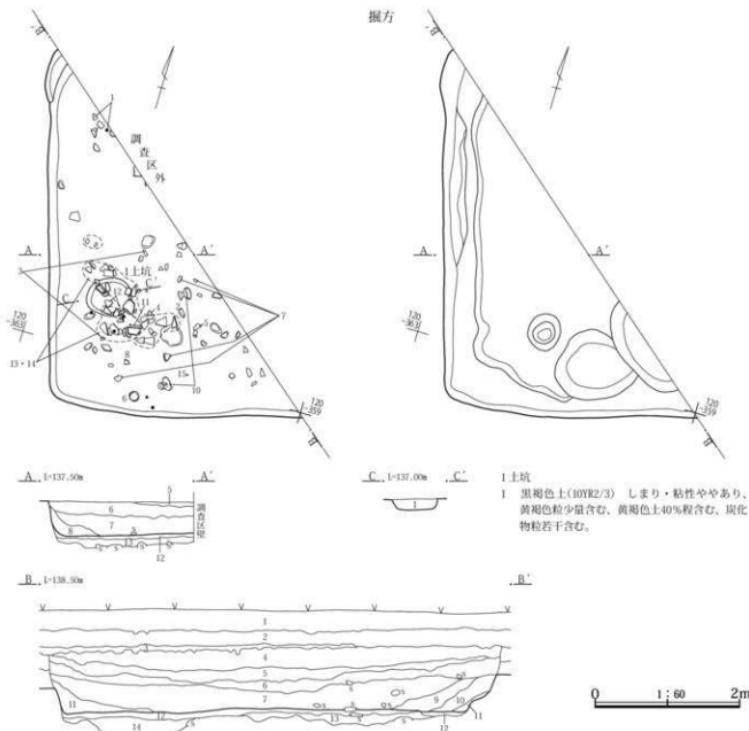
**床・掘方**：地表面を調整して、平坦に作っていた。建物の北壁付近には、幅14cmから25cm、深さ0.1cmから1cmの溝が確認されている。掘方は認められなかった。

**時期**：中期後半(加曾利E 3式)と比定される。



第8図 1号墳穴建物、出土遺物



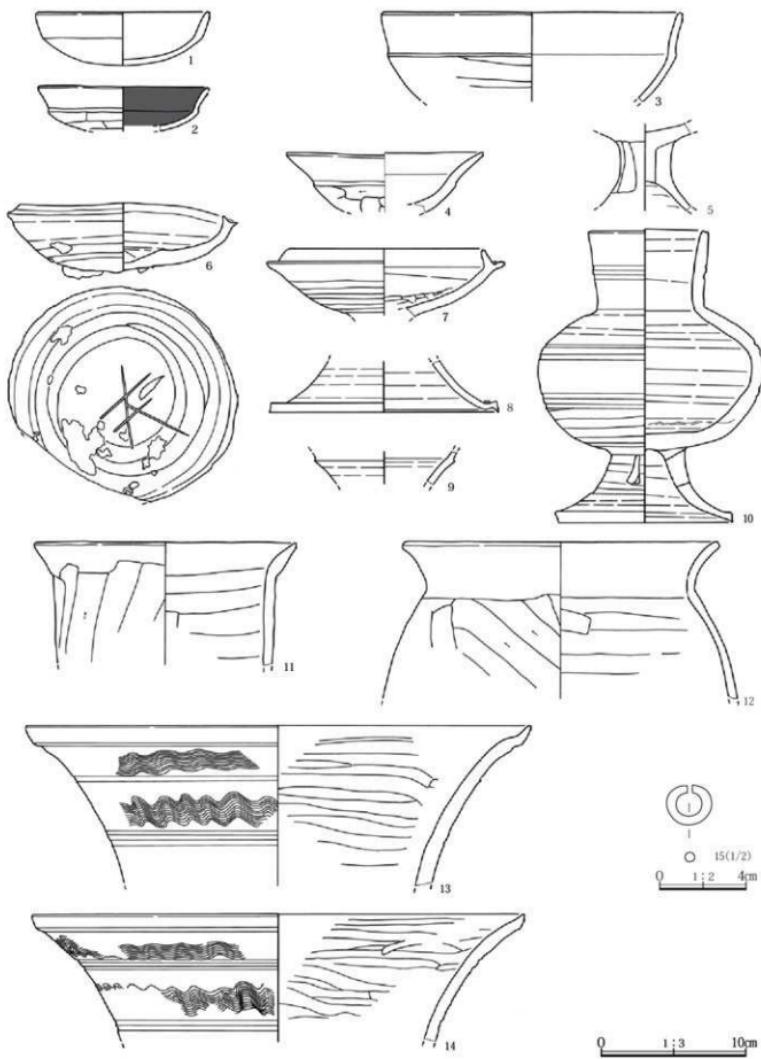


- 2号堅穴建物
- 灰黄褐色土(10YR4/2) 表上。
  - 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりあり、粘性ややあり、白色粒少含む、鉄分沈着。
  - 黄褐色土(10YR5/8) しまりあり、白色粒多く含む、鉄分沈着。下層にかけて褐色から黄褐色へと変化する。
  - 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、白色粒少量含む、As- $\text{C}$ 含む。
  - 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性ややあり、白色粒少量含む、黄褐色粒若干含む、黃褐色土20%程含む。
  - 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、白色粒少量含む、黄褐色粒若干含む。
  - 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性ややあり、白色粒・黄褐色粒、炭化物粒少含む、燒上粒・ $\phi 5 \sim 10\text{cm}$ 程の礫若干含む。
  - 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒若干含む。
  - 黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒少量含む、炭化物粒若干含む。
  - 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒少量含む、炭化物粒若干含む。
  - 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒少量含む、炭化物粒若干含む。
  - 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒多く含む、黄褐色土20%程含む。
  - 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒少含む、 $\phi 10\text{cm}$ 程の礫若干含む。

第9図 2号堅穴建物

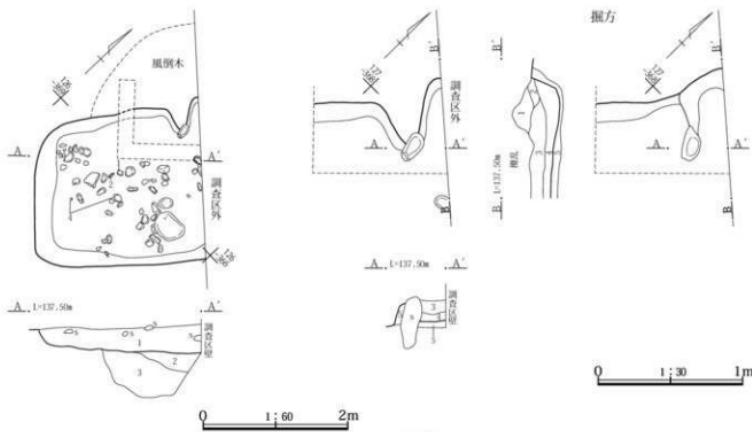


第3章 確認された遺構と遺物



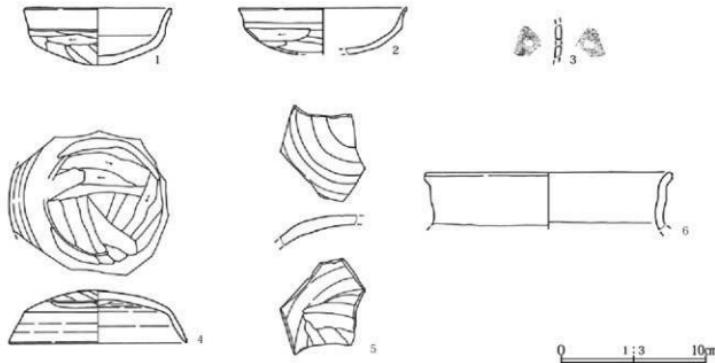
第10図 2号堅穴建物出土物

第2節 建物、竪穴状遺構

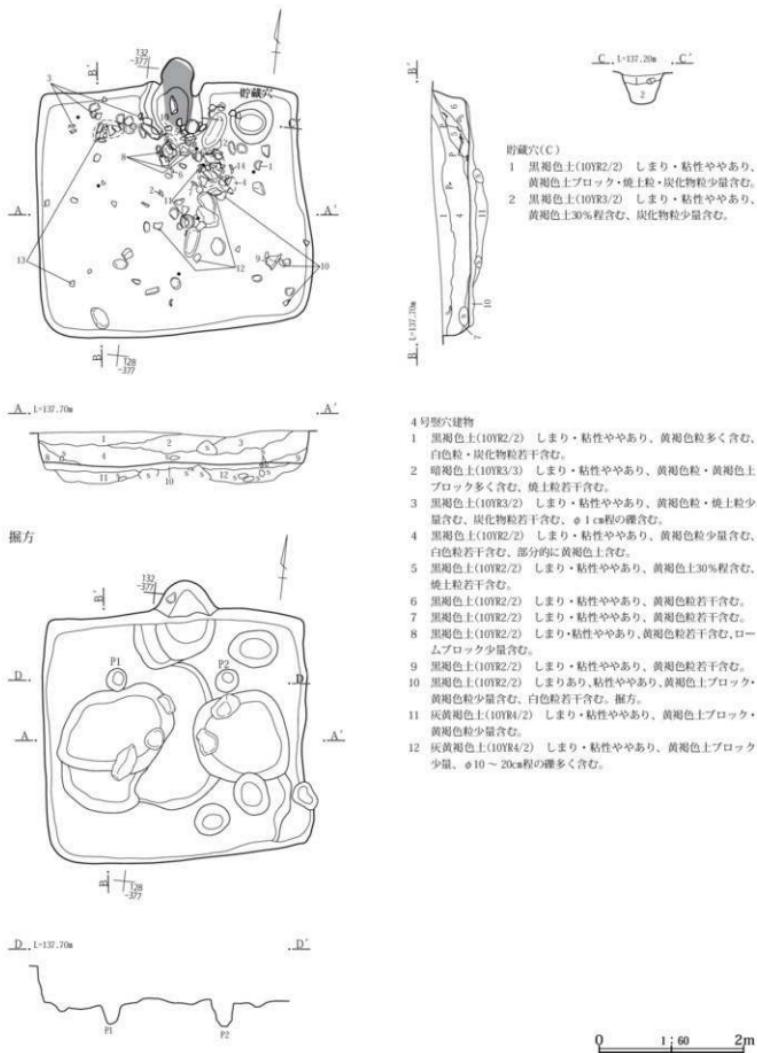


力マド

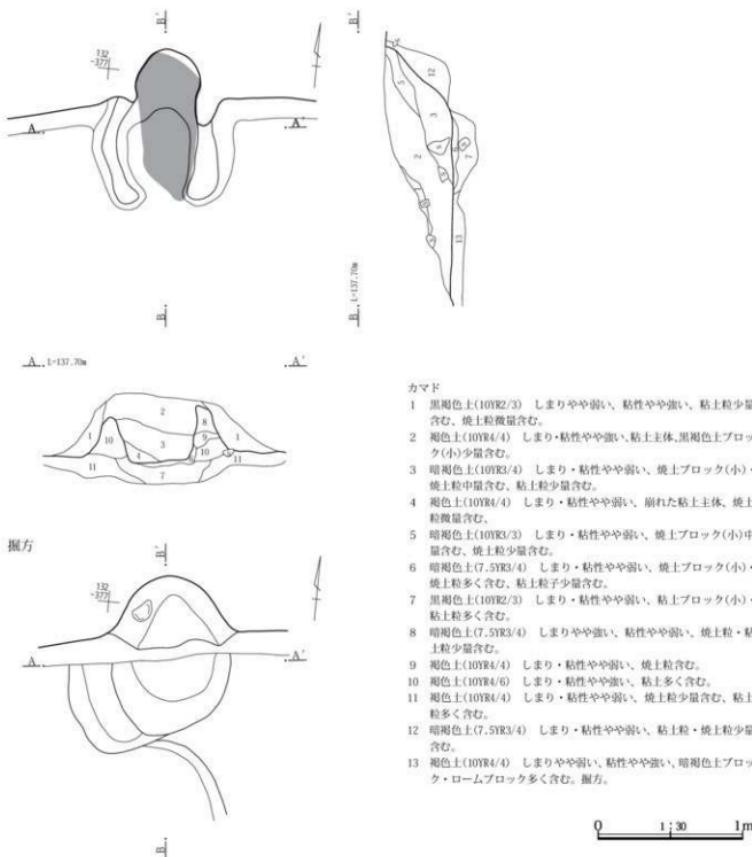
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 粘性・しまりやや弱い、ロームブロック(小)・ローム粒微量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/3) 粘性・しまりやや弱い、白色粒極微量含む。風削木。
  - 3 黒褐色土(10YR2/2) 粘性・しまりやや弱い、白色粒・黄色粒極微量含む。風削木。
- 3号竪穴建物
- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性・しまりやや弱い、粘土粒・焼土粒微量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/3) 粘性・しまりやや弱い、焼土粒・粘土粒・灰少量含む。
  - 3 褐色土(10YR4/4) 粘性・しまり強い、粘土主体 暗褐色土ブロック(小)少量含む。
  - 4 暗褐色土(10YR3/3) 粘性・しまりやや強い、粘土主体、黒褐色土ブロック(小)少量含む。
  - 5 褐色土(10YR4/4) 粘性・しまりやや強い、粘土主体、焼土ブロック(小)少量含む。



第11図 3号竪穴建物、カマド、出土遺物



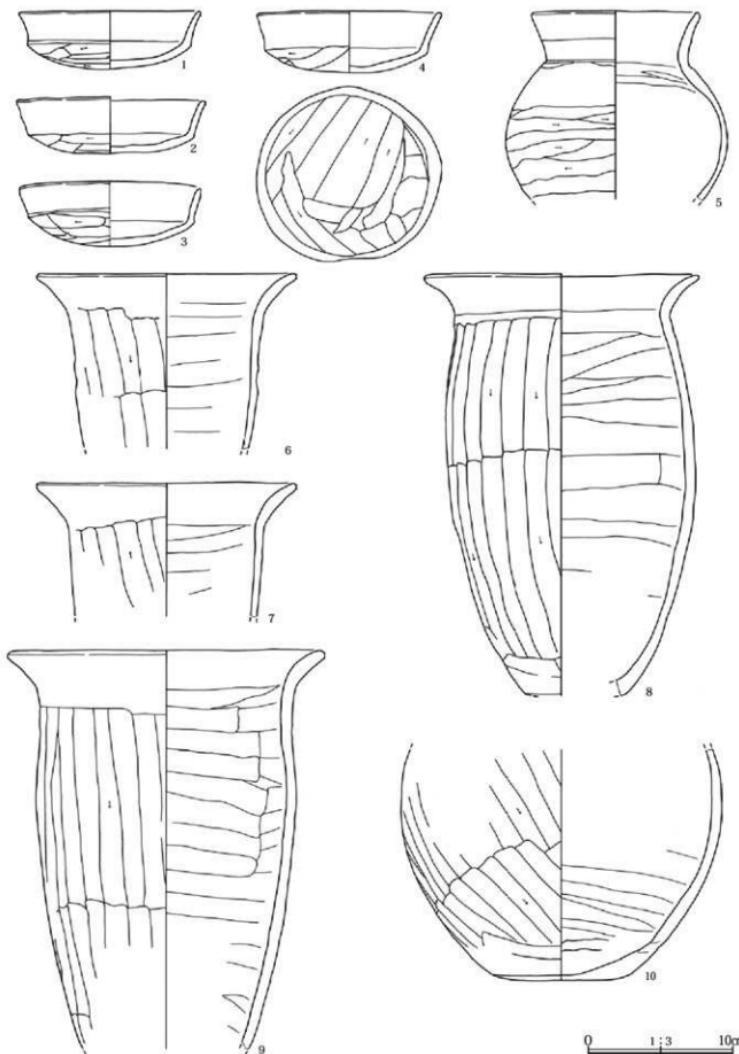
第12図 4号堅穴建物



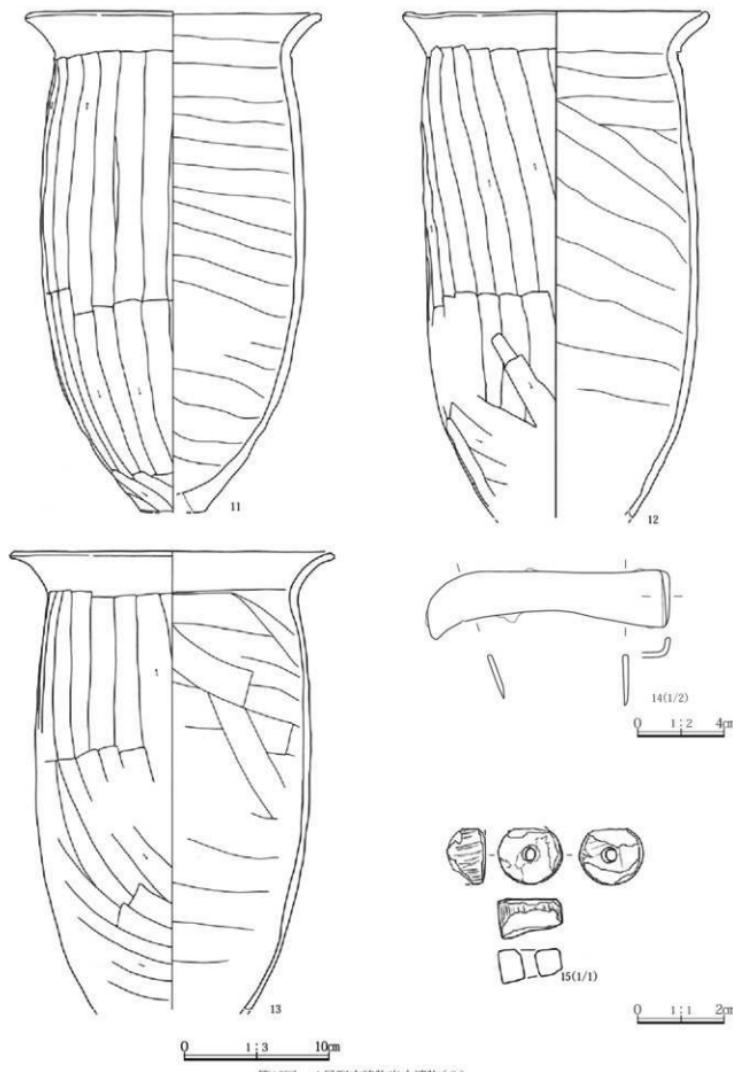
第13図 4号堅穴建物カマド



第3章 確認された遺構と遺物

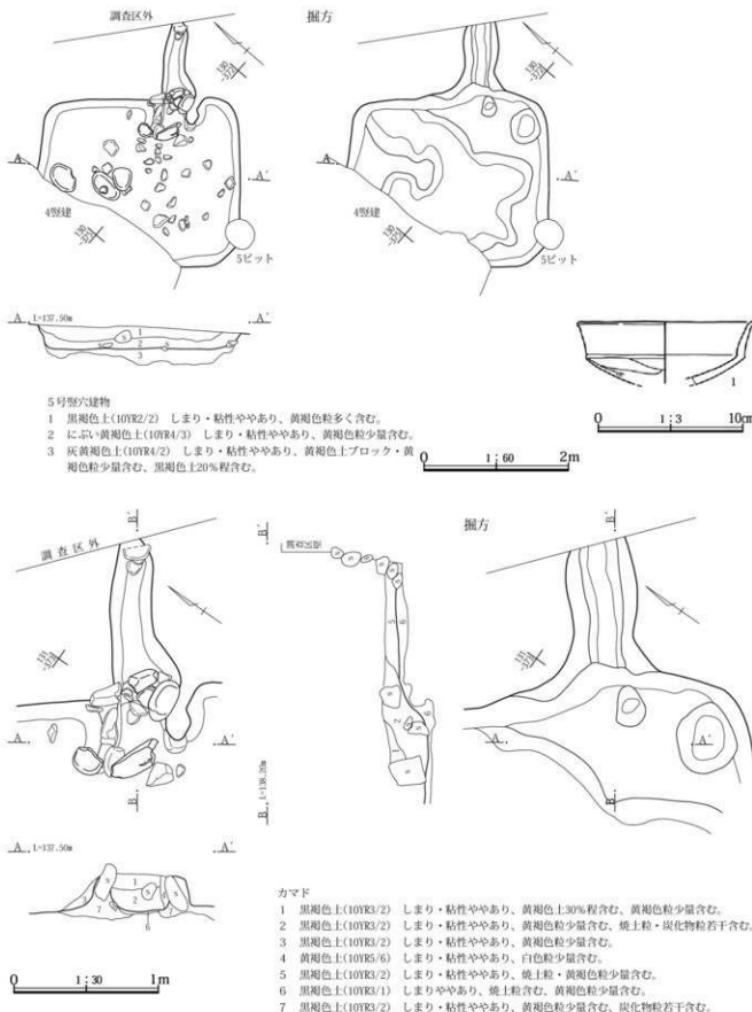


第14図 4号竖穴建物出土遺物(1)

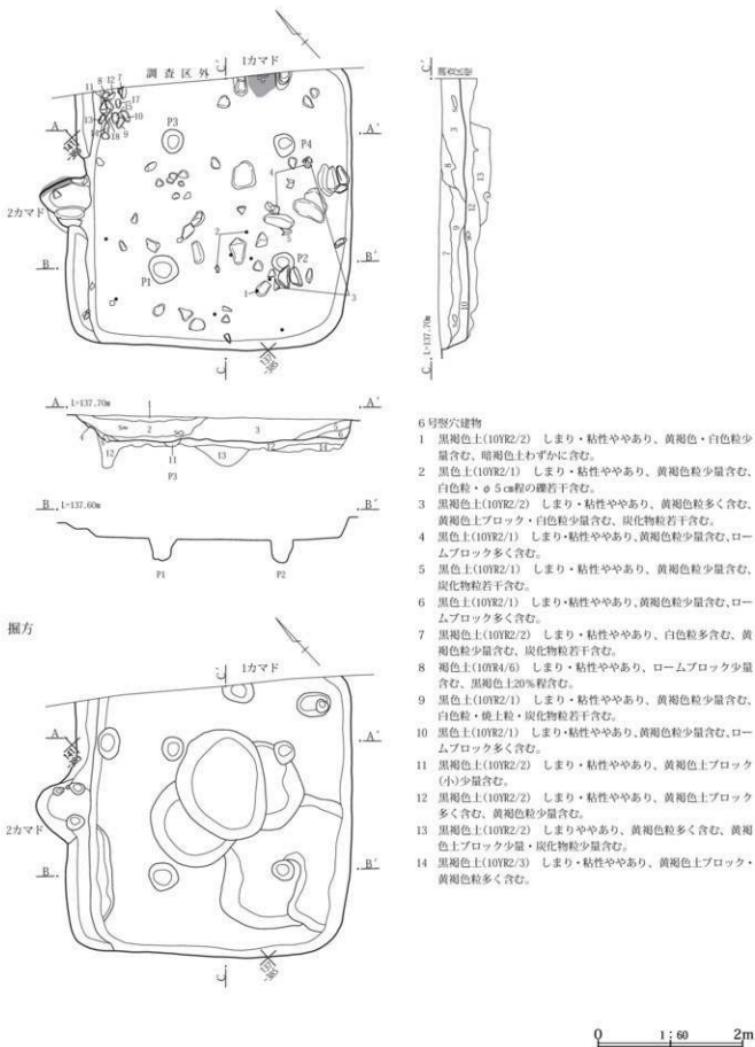


第15圖 4号堅穴建物出土遺物(2)

第3章 確認された遺構と遺物



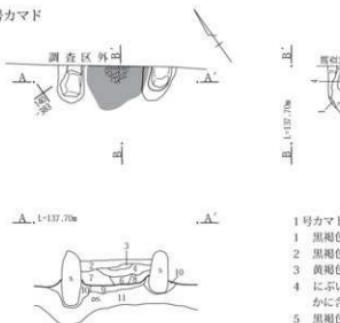
第16図 5号堅穴建物、カマド、出土遺物



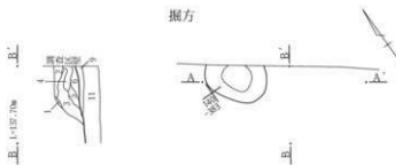
第17図 6号堅穴建物

### 第3章 確認された遺構と遺物

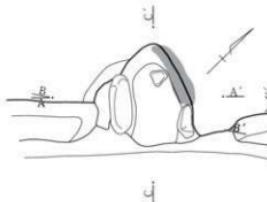
#### 1号カマド



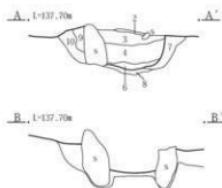
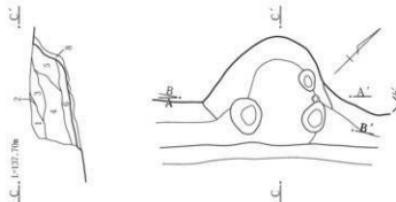
#### 掘方



#### 2号カマド



#### 掘方



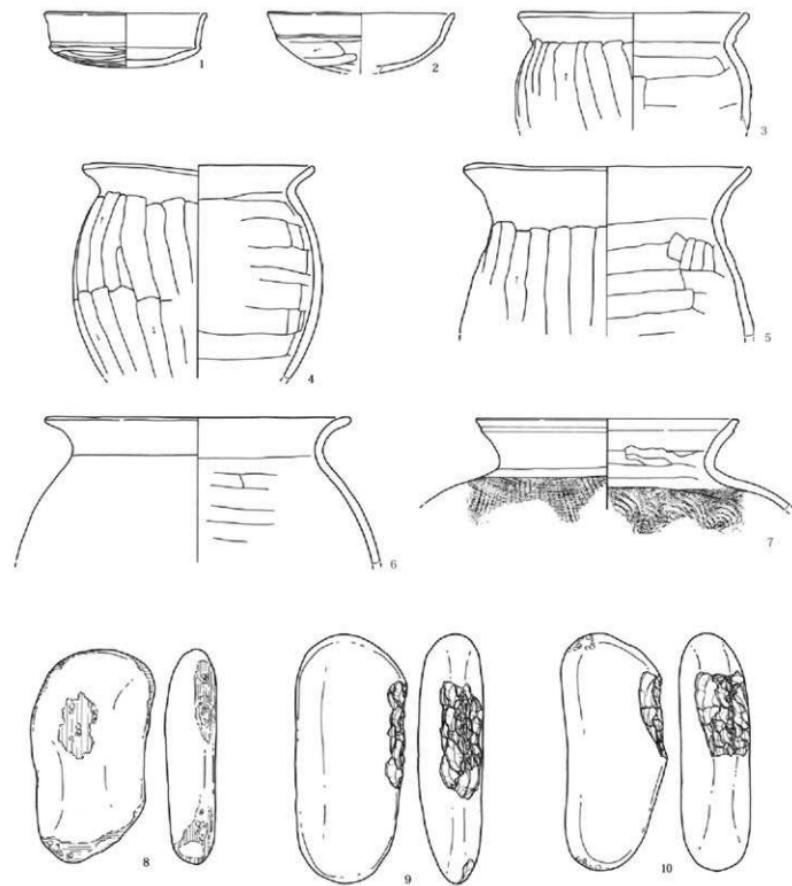
0 1:30 1m

#### 2号カマド

- 1 暗褐色土(10R3/4) しまり・粘性やや強い、粘土ブロック(中)・粘土粒含む。
- 2 に赤い黄褐色土(10R4/3) しまり・粘性強い、焼土粒・焼土ブロック(小)少量含む。
- 3 暗褐色土(7.5R3/4) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・焼土ブロック(小)含む。
- 4 暗褐色土(7.5R3/3) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・粘土粒微量含む。
- 5 暗褐色土(10R3/4) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・粘土粒微量含む。
- 6 褐色土(7.5R3/3) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・粘土粒・焼土ブロック(小)含む。
- 7 暗褐色土(10R3/4) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・焼土ブロック(小)含む。
- 8 褐色土(10R4/4) しまり・粘性やや強い、ロームブロック(小)少量含む、焼土粒微量含む。
- 9 黄褐色土(10R5/6) しまり強い、粘性やや強い、粘土主体、暗褐色土ブロック(小)・小塊含む。
- 10 暗褐色土(10R3/4) しまり・粘性やや強い、粘土ブロック(小)・粘土粒少量含む。

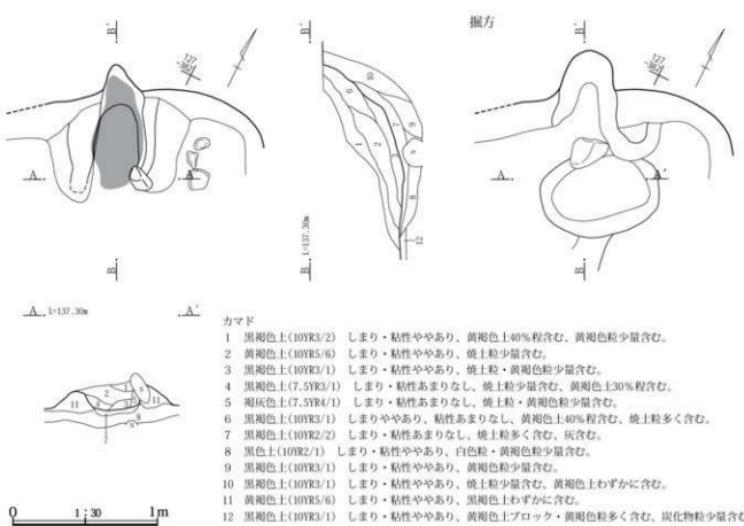
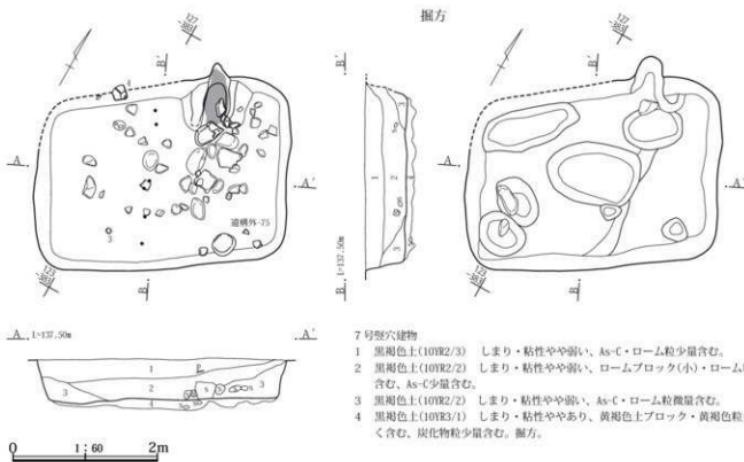
第18図 6号壁穴建物カマド

第2節 建物、竪穴状遺構

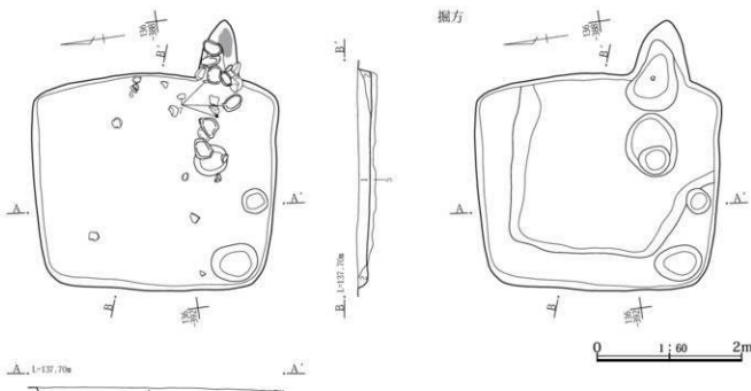


0 1:3 10cm

第19圖 6号竪穴建物出土遺物

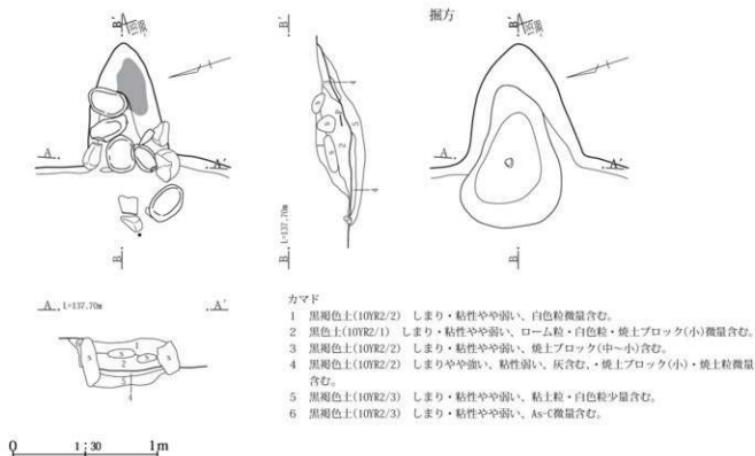


第20図 7号型穴建物、カマド

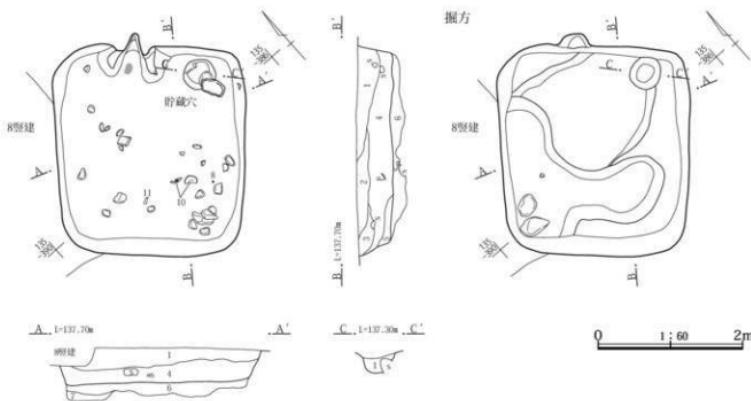


## 8号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性やや弱い。As-C少量含む、ローム粒微量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり、粘性やや弱い。As-C微量含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) しまり、粘性やや弱い。ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い、粘性やや弱い。ロームブロック(小)・ローム粒微量含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) しまり強い、粘性やや強い。ローム粒・白色粒少量含む。



第21図 8号竪穴建物、カマド



## 9号窓穴建物

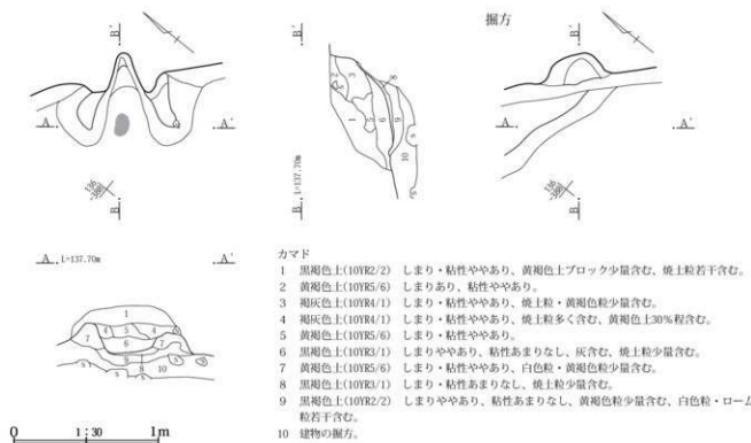
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、As-C・ローム粒少量含む、ロームブロック(小)微量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、As-C微量含む、ロームブロック(小~中)・ローム粒多く含む。
- 3 黄褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い、ローム粒含む。
- 4 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性やや強い、As-C微量、ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。
- 5 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、ローム粒含む。

6 暗褐色土(10YR3/4) しまり強、粘性やや強い、黒褐色上ブロック・ロームブロック(小~大)多く含む。

7 黑褐色土(10YR2/1) しまりやや弱い、粘性やや強い、ロームブロック(大)・黒褐色土ブロック(大)少く含む。

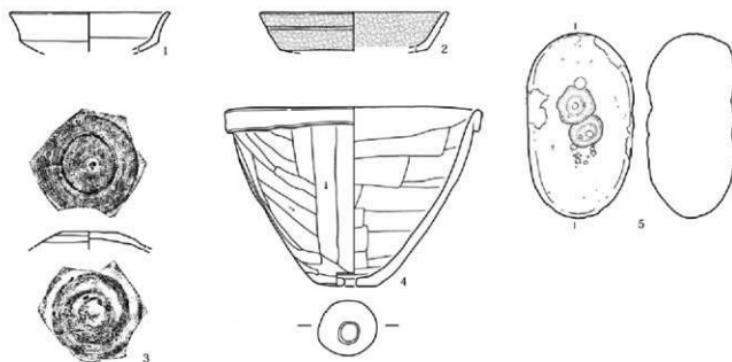
## 貯藏穴(C)

- 1 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色土ブロック多く含む。炭化物粒・黄褐色粒少量含む。

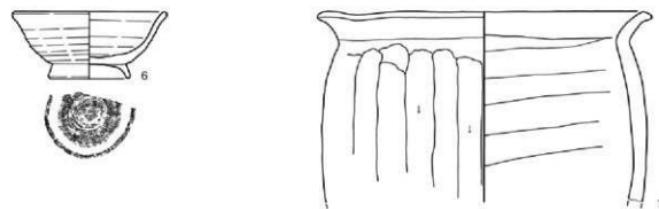


第22図 9号窓穴建物、カマド

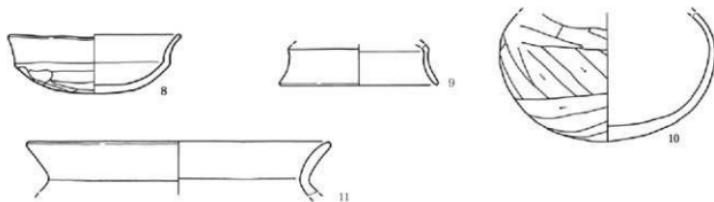
第2節 建物、竪穴状遺構



7号竪穴建物



8号竪穴建物



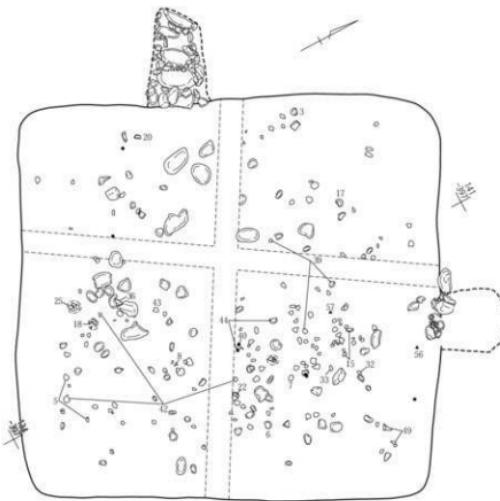
9号竪穴建物

第23圖 7・8・9号竪穴建物出土遺物

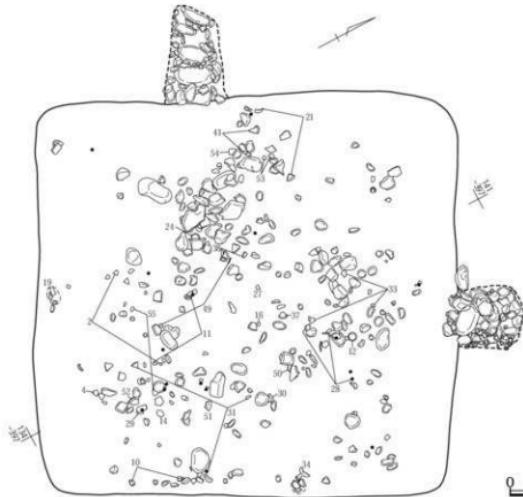
0 1:3 10cm

第3章 確認された遺構と遺物

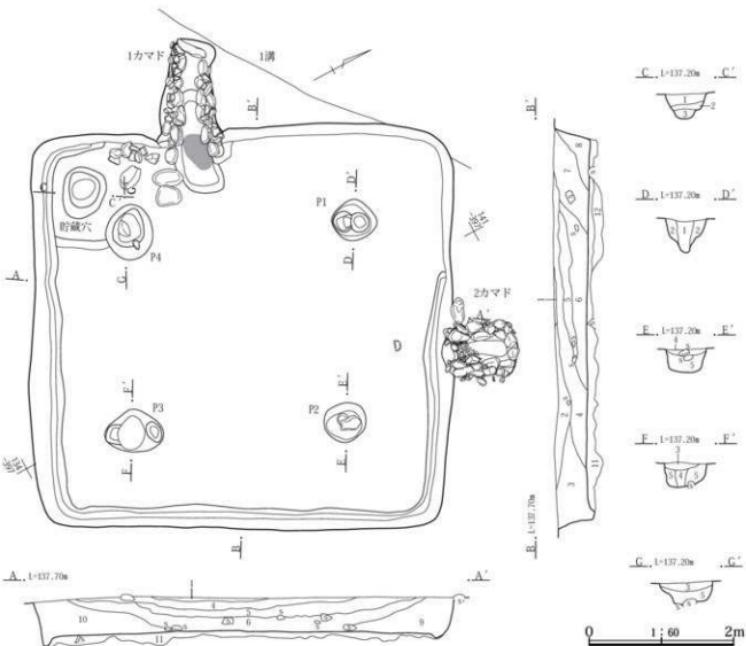
出土状態1



出土状態2



第24図 10号竪穴建物跡・遺物出土状態



## 10号竪穴建物

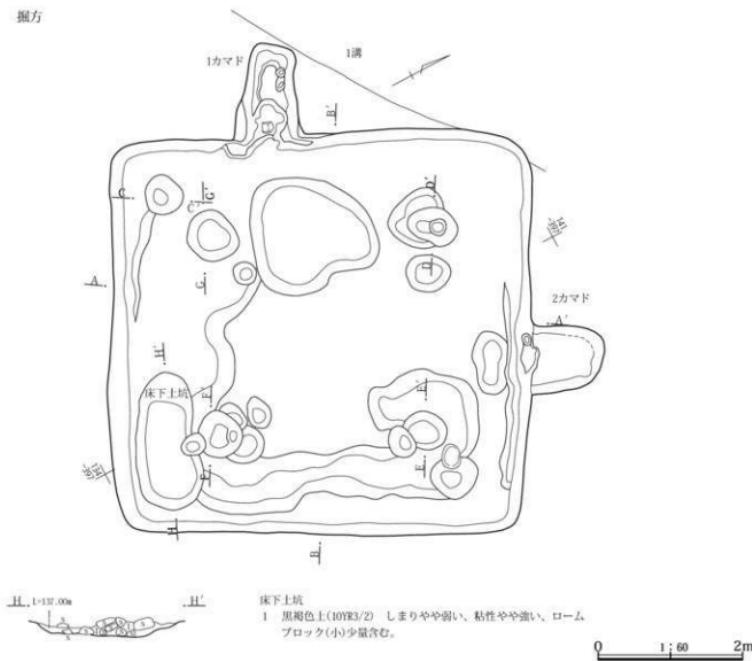
- 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性やあり。白色粒・炭化物粒少量含む。焼土粒・黄褐色粒若干含む。
- 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性ややあり。白色粒・黄褐色粒・炭化物粒少量含む。
- 黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒・炭化物粒少量含む。
- 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性ややあり、炭化物粒多く含む。焼土粒少量含む。黄褐色粒若干含む。
- 黒褐色土(10YR3/1) しまりあり。粘性ややあり。焼土粒・黄褐色粒少量含む。砂のような粒含む。
- 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性ややあり。炭化物粒多く含む。焼土粒若干含む。
- 黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。焼土粒若干含む。
- 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒少量含む。
- 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒少量含む。炭化物粒若干含む。
- 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒少量含む。炭化物粒若干含む。
- 暗褐色土(10YR3/3) しまり強い・粘性やや強い。ロームブロック(小)・ローム粒多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い。ロームブロック(小)含む。

第25図 10号竪穴建物

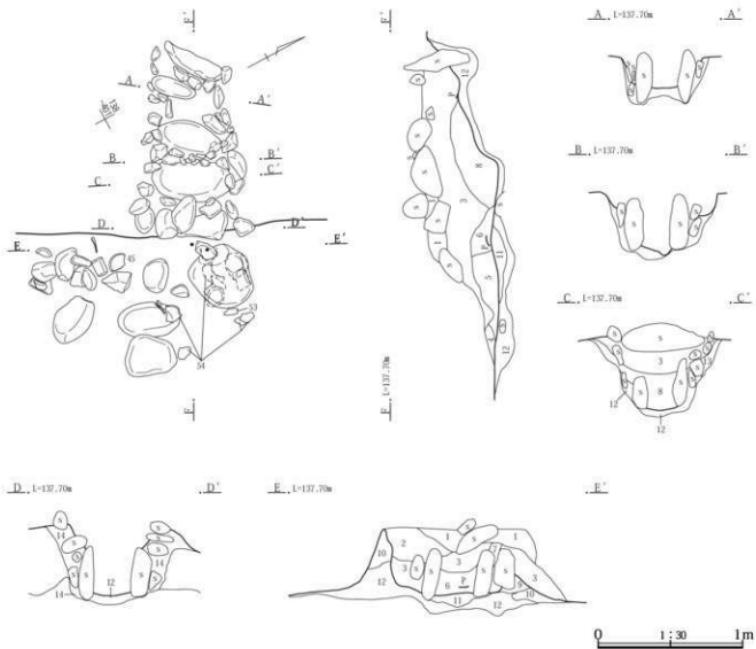


第3章 確認された遺構と遺物

掘方



第26図 10号竪穴建物掘方



## 1号力マド

- 1 喷褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い。粘土粒・焼土粒微量含む。
- 2 喷褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや強い。粘土ブロック(小)・粘土粒・焼土ブロック(大)少量含む。
- 3 黒褐色土(10KZ3/3) しまり。粘性やや弱い。粘土ブロック(小)・粘土粒少量含む。
- 4 褐色土(10YR4/4) 粘土主体でしまり・粘性やや強い。喷褐色土ブロック(小)・炭化物少量含む。
- 5 喷褐色土(7.5YK3/3) しまり・粘性やや弱い。燒土粒多く含む、ロームブロック(中~小)・粘土ブロック(小)含む。
- 6 喷褐色土(10YR2/4) 粘性やや強い・しまりやや弱い。ロームブロック(小)含む。
- 7 喷赤褐色土(5YR3/6) しまりやや強い・粘性やや弱い。焼土層・暗褐色土ブロック(小)含む。
- 8 黑褐色土(10KZ2/3) しまり・粘性やや弱い。黄色細粉微微量含む。
- 9 喷褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い。粘土ブロック(中~小)多く含む。
- 10 褐色土(10Y4/6) 粘土主体でしまり強い。粘性やや強い。暗褐色土ブロック(小)少量含む。
- 11 喷褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い。焼土粒子・粘土粒少量含む。
- 12 喷褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い・粘土ブロック(小)・粘土粒含む。
- 13 喷褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い。粘土ブロック(小)・粘土粒多く含む。
- 14 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い。粘土粒少量含む。

第27図 10号堅穴建物 1号力マド確認状態

第3章 確認された遺構と遺物

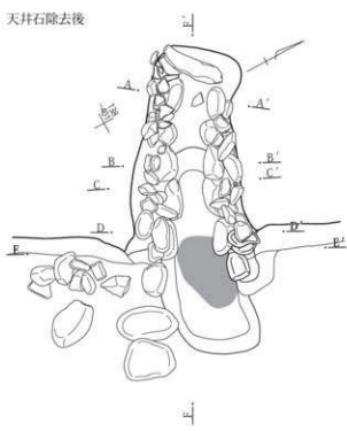
上部礫除去後



側壁除去後



天井石除去後

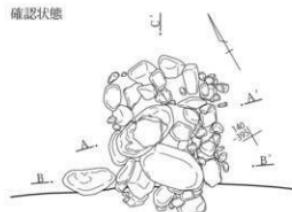


0 1:30 1m

第28図 10号竪穴建物 1号カマド

第2節 建物、竪穴状遺構

確認状態



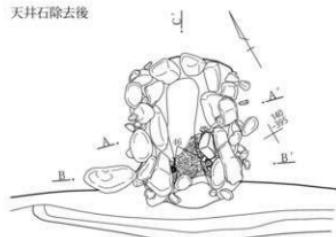
A-A' 1-137.70m



B-B' 1-137.70m

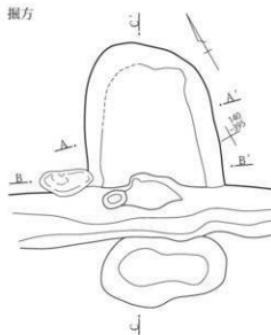


天井石除去後



0 1:30 1m

掘方



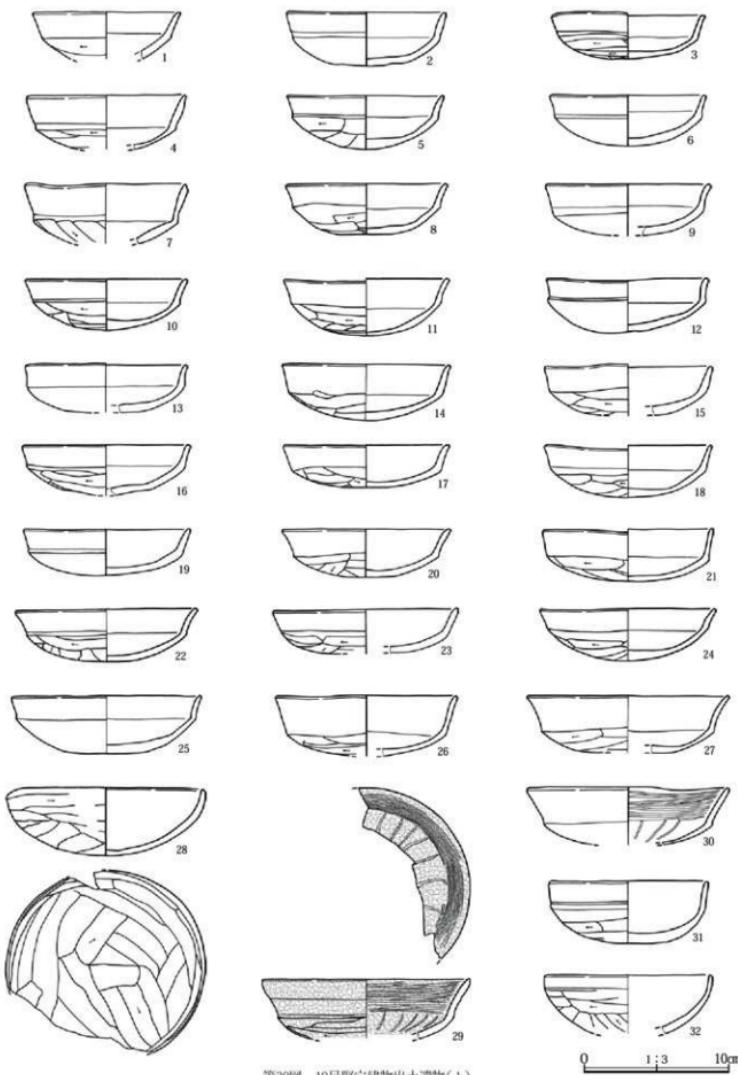
2号カマド

- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い。As-C・粘土粒・燒土粒少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い。粘性やや弱い。粘土粒・燒土粒少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い。粘性やや強い。粘土粒・焼土粒中少含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い。黄色粒微量含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い。粘性やや弱い。粘土粒少量含む。燒土粒・炭化粒微量含む。

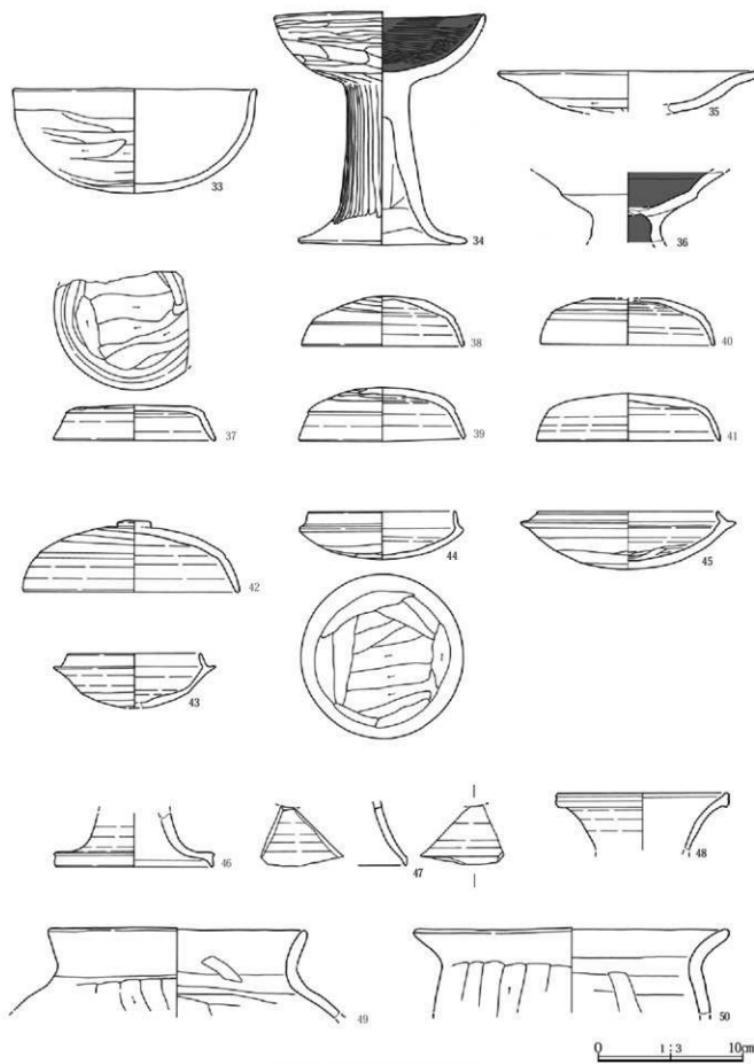
第29図 10号竪穴建物2号カマド



第3章 確認された遺構と遺物

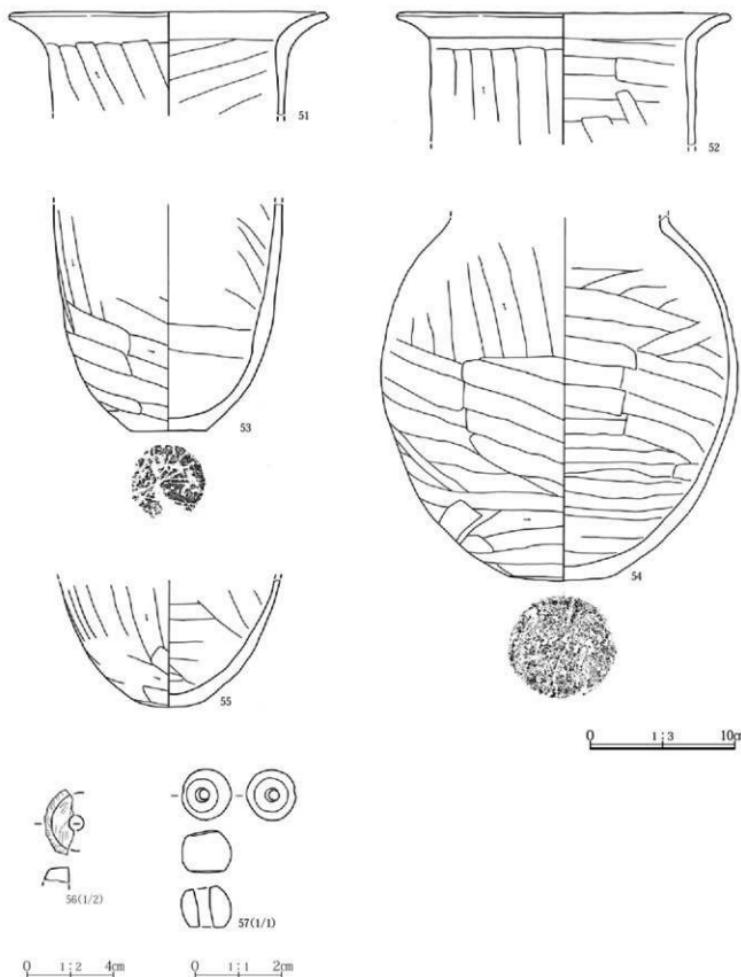


第30図 10号豎穴建物出土遺物(1)

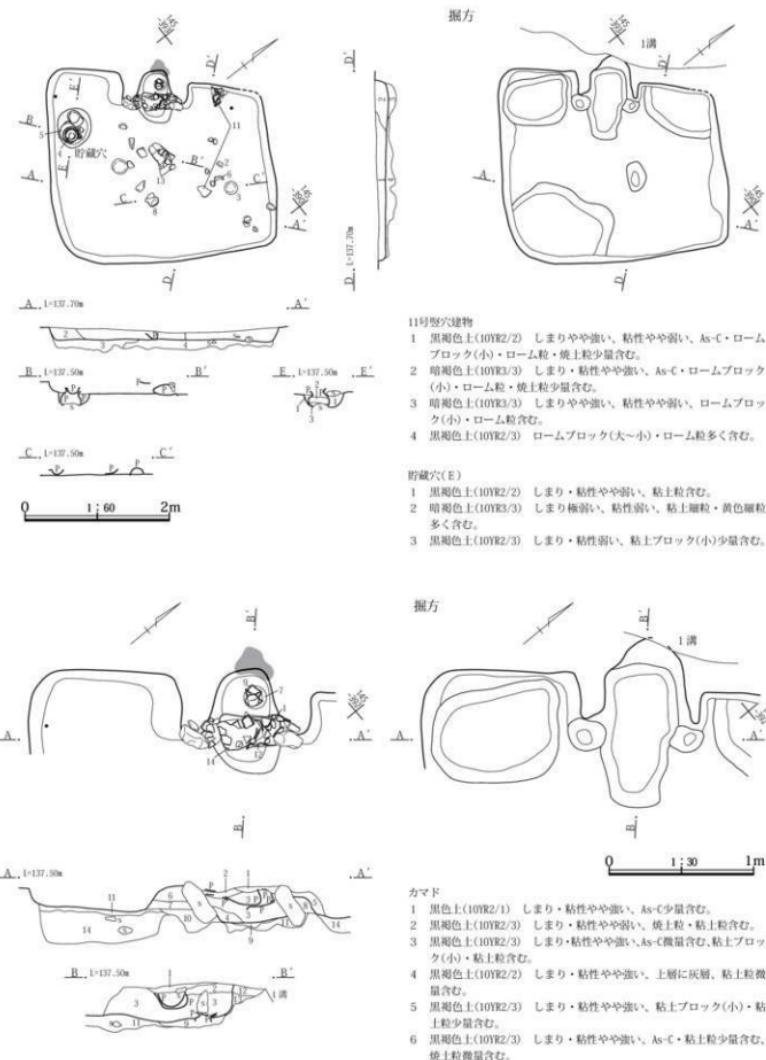


第31圖 10号竪穴建物出土遺物(2)

0 1:3 10cm



第32図 10号竖穴建物出土遺物(3)

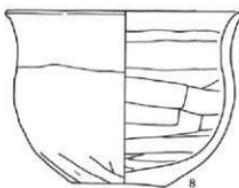
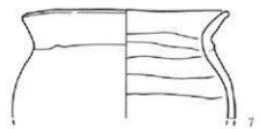
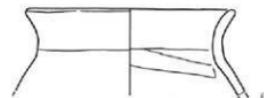
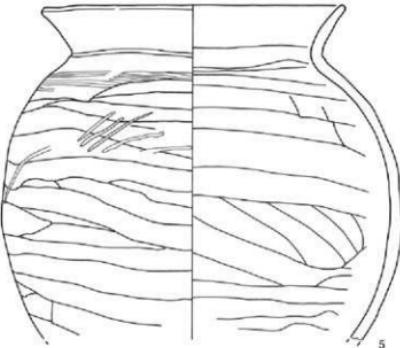
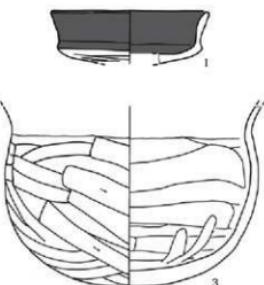
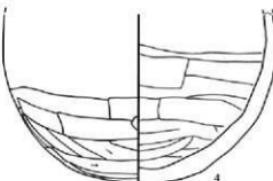
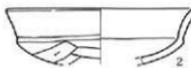


第33図 11号堅穴建物、カマド

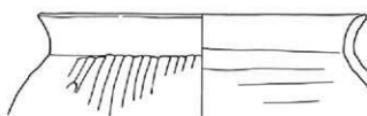


### 第3章 確認された遺構と遺物

- 7 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、粘土・燒土ブロック(小)・燒土粒含む。
- 8 褐色土(10YR4/6) 粘土主体でしまり・粘性やや強い。黒褐色土ブロック(小)少量化。
- 9 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、燒土粒・粘土粒・灰少量含む。
- 10 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。ローム粒・白色粒少量含む。
- 11 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。ロームブロック(中～小)・白色粒少量化。
- 12 喀啡色土(10YR3/4) しまり・粘性やや強い。燒土ブロック(小)多く含む。
- 13 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、燒土粒・粘土粒微量含む。
- 14 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(小)・ローム粒含む。

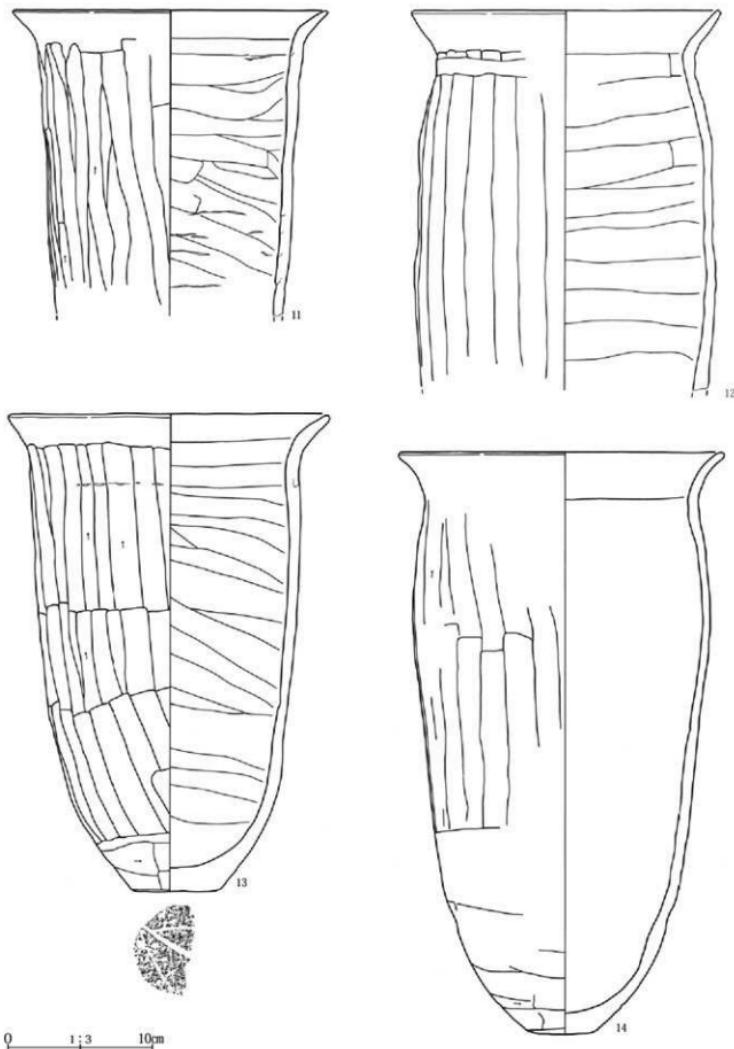


10 (1/2)  
0 1; 2 4cm

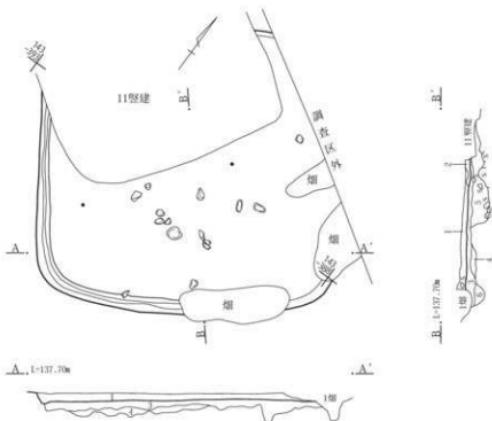


0 1; 3 10cm

第34図 11号竪穴建物出土遺物(1)



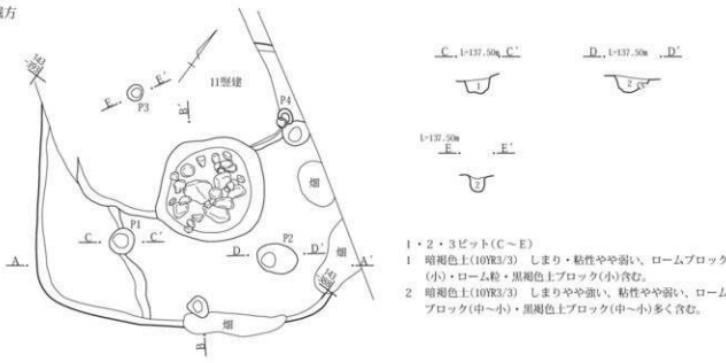
第35図 11号竪穴建物出土遺物(2)



11号堅穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い、As-C少しある、ロームブロック(小)・ローム粒・燒土粒微量含む。
- 2 暗褐色土(10Y3/3) しまり・粘性やや強い、ロームブロック(大~小)・ローム粒含む。
- 3 暗褐色土(10Y3/4) しまり強い、粘性やや強い、ロームブロック(中~小)多く含む。
- 4 褐色土(10YR4/6) ローム主体であり、粘性やや強い、暗褐色土ブロック(中~小)含む。
- 5 暗褐色土(10Y3/4) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(大~小)多く含む。
- 6 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(小)・ローム粒含む。

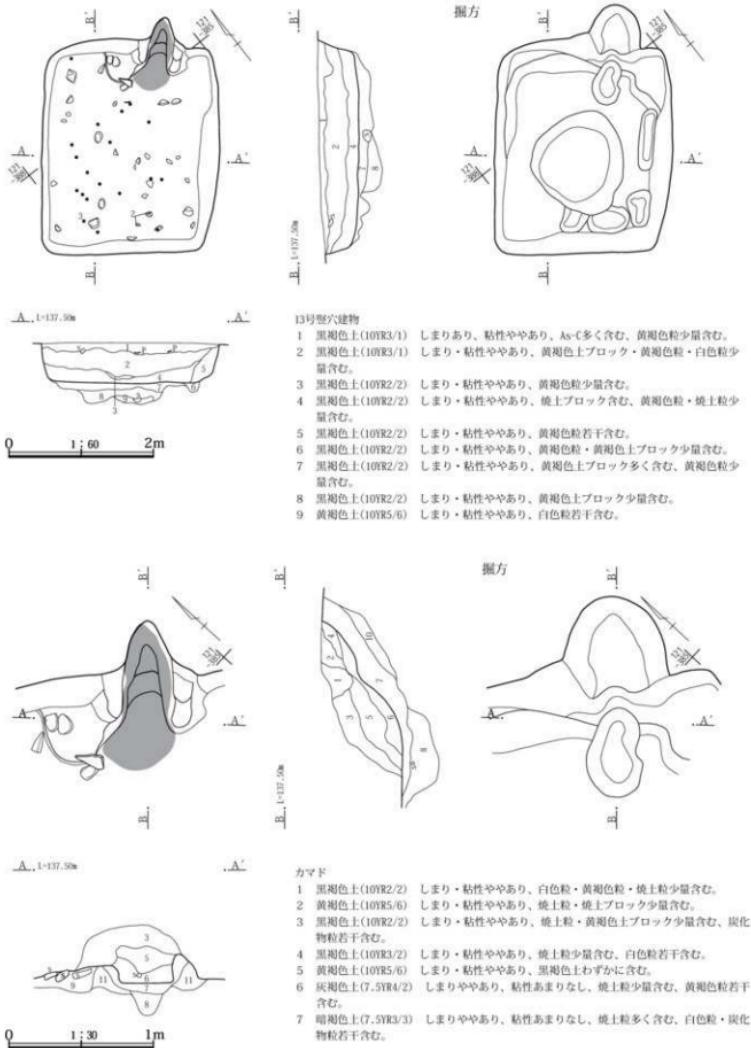
掘方



- 1・2・3ピット(C ~ E)
- 1 暗褐色土(10Y3/3) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(小)・ローム粒・黒褐色土ブロック(小)含む。
  - 2 暗褐色土(10Y3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、ロームブロック(中~小)多く含む。

0 1:60 2m

第36図 12号堅穴建物

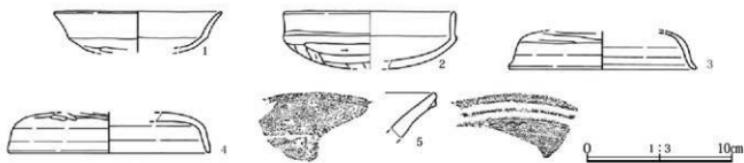


第37図 13号堅穴建物、カマド

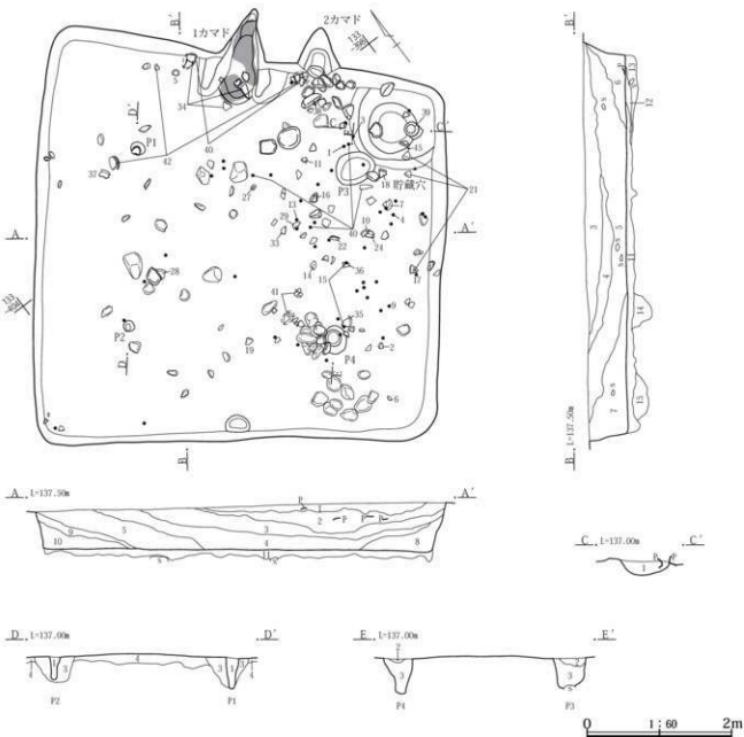


### 第3章 確認された遺構と遺物

- 8 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色土ブロック・  
黄褐色粉少量含む。  
9 黑褐色土(10YR3/2) 黄褐色粒・埴土粒少量含む、炭化物粒若干含む、  
φ 30cm程の塊含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) しまりややあり、粘性あまりなし、埴土粒・  
白色粒若干含む。  
11 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性ややあり、白色粒・黄褐色粒少  
量含む。



第38図 13号堅穴建物出土遺物



第39図 14号堅穴建物



## 第2節 建物、堅穴状遺構

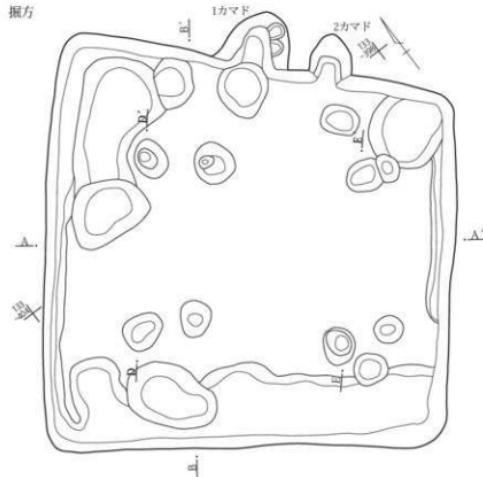
### 14号堅穴建物

- 1 黄褐色土(10YR3/3) しまり・粘性ややあり。白色粒・黄褐色粒多く含む。炭化物粒少含む。
- 2 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。白色粒・炭化物粒・燒土粒少含む。
- 3 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒・白色粒少含む。燒土ブロック2層との境に多く含む。
- 4 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。黄褐色土ブロック少含む。燒土粒若干含む。
- 5 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。黄褐色土ブロック少含む。炭化物粒・白色粒若干含む。
- 6 紅色土(10R4/4) 黄褐色土ブロック少含む。
- 7 暗褐色土(10R3/3) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。炭化物粒・黃褐色土ブロック少含む。
- 8 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒少含む。
- 9 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒少含む。白色粒若干含む。
- 10 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。黄褐色土ブロック・炭化物粒若干含む。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒・黄褐色土ブロック多く含む。白色粒・炭化物粒少含む。
- 12 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりあり・粘性ややあり。燒土粒多く含む。黄褐色粒少含む。

- 13 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性ややあり。黄褐色土40%程含む。白色粒若干含む。
- 14 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり。黑褐色土含む。黄褐色土ブロック・白色粒少含む。
- 15 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色土ブロック・黄褐色粒少含む。

### 貯藏穴(C)

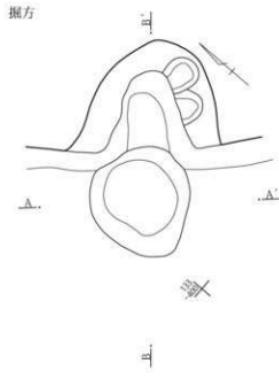
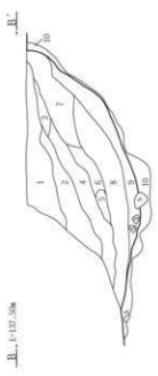
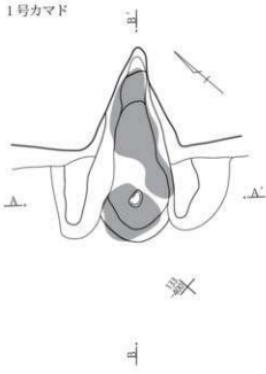
- 1 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性あまりなし。黄褐色粒少含む。燒土粒・炭化物粒若干含む。
- 1-4 ピット(D E)
- 1 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。黄褐色土小ブロック少含む。柱痕。
- 2 黑褐色土(10YZ2/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。黄褐色土小ブロック少含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒・黄褐色土ブロック・炭化物粒少含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり。黄褐色粒多く含む。黄褐色土ブロック多く含む。白色粒・炭化物粒少含む。



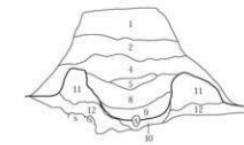
第40図 14号堅穴建物掘方



## 1号カマド



## 1号カマド

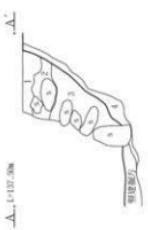


## 1号カマド

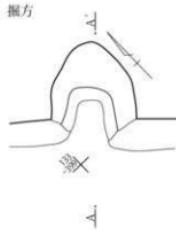
- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまりあり、粘性ややあり、白色粒・黄褐色粒・炭化物粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり、粘性ややあり、黄褐色粒少量含む。白色粒・燒土粒若干含む。
- 3 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色粒・燒土粒含む。白色粒若干含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色土ブロック多く含む。黄褐色粒・炭化物粒若干含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性ややあり。
- 6 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色土少量含む。燒土粒若干含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり、黄褐色土ブロック・燒土粒多く含む。白色粒少量含む。黄褐色土10%程度含む。壁面。

- 8 棕褐色土(10YR4/1) しまりややあり、粘性あまりなし、燒土粒多く含む。
- 9 明赤褐色土(5YR5/8) しまりあり、粘性なし。燒土解体。
- 10 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、燒土上層に含む。燒土粒少量含む。黄褐色土10%程度含む。瓶底。

## 2号カマド



## 掘方



## 2号カマド

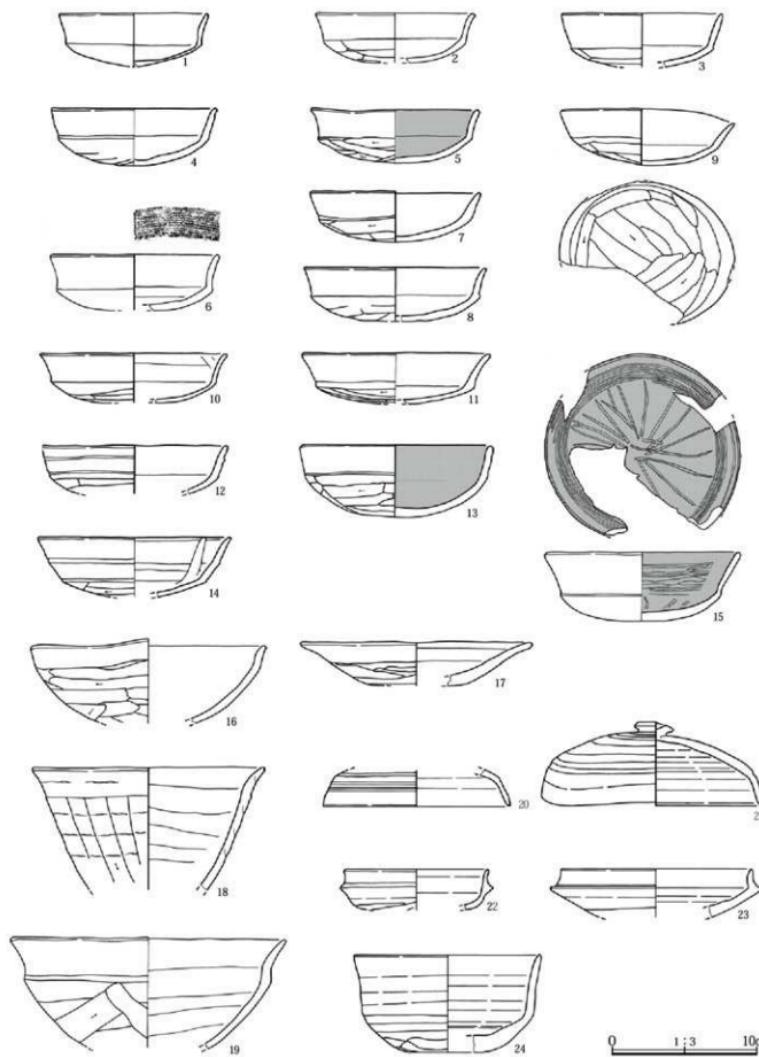
- 1 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり、白色粒多く含む。黄褐色粒少量含む。
- 2 墓褐色土(10Y3/3) しまりややあり、粘性あまりなし。黄褐色粒少量含む。φ10cm程の礫含む。燒土粒若干含む。
- 3 黑褐色土(10Y3/2) しまり・粘性あまりなし。黄褐色粒少量含む。φ10 ~ 20cm程の礫含む。炭化物粒・燒土粒若干含む。
- 4 黑褐色土(10Y3/2) しまり・粘性ややあり。白色粒・黄褐色粒少量含む。燒土粒若干含む。

0 1:30 1m

第41図 14号壁穴建物 1号・2号カマド



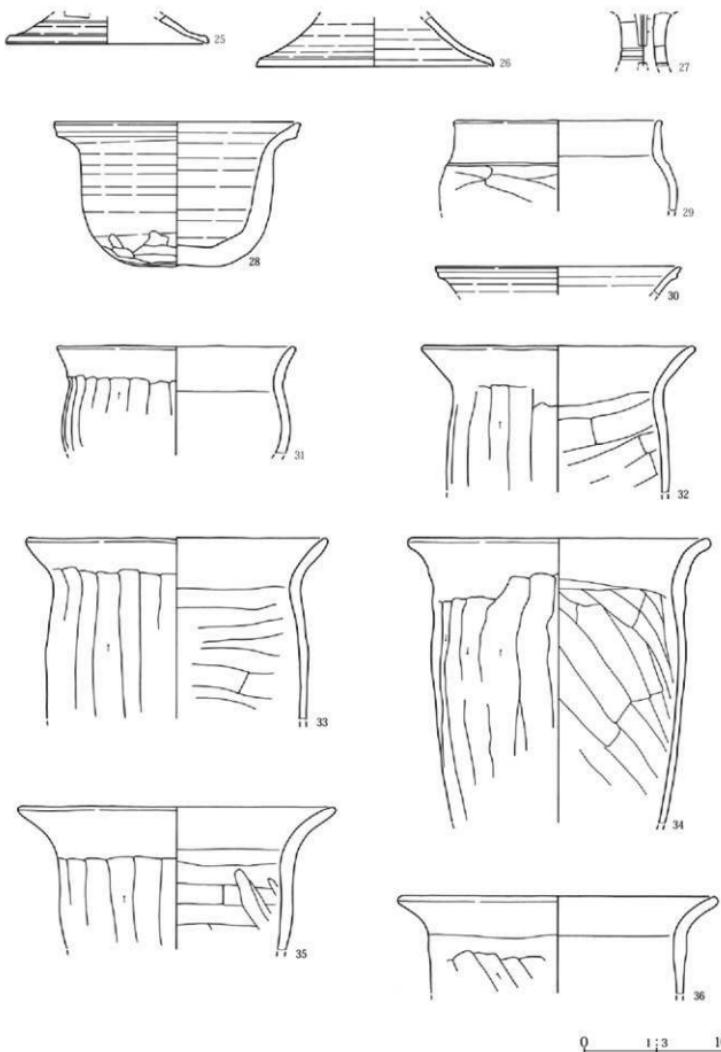
第2節 建物、竪穴状遺構



第42圖 14号竪穴建物出土遺物(1)

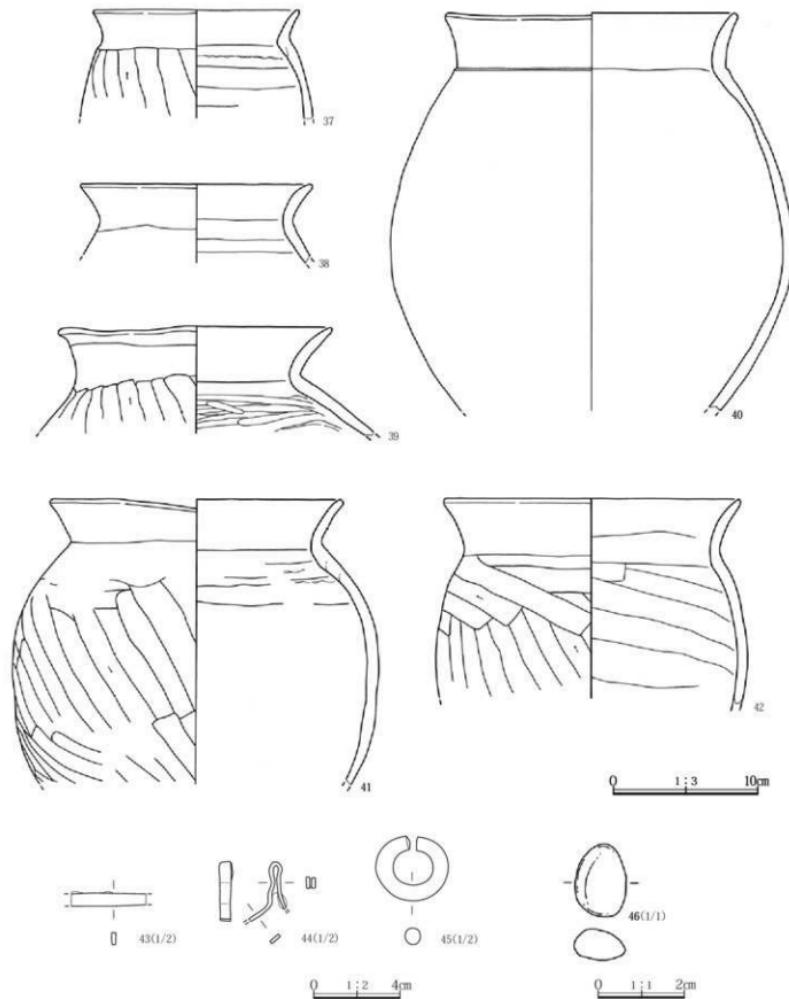


第3章 確認された遺構と遺物

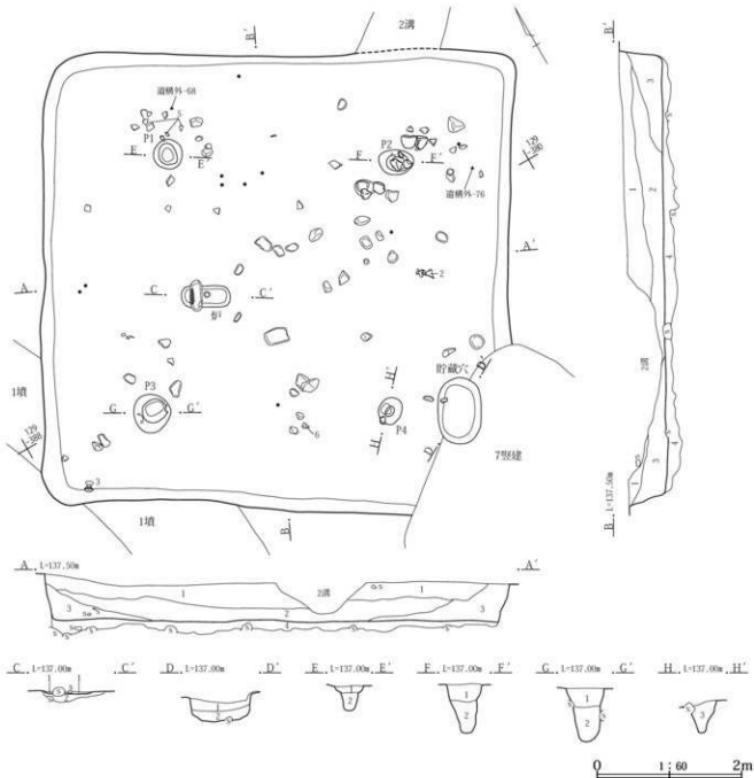


0 1:3 10cm

第43図 14号竪穴建物出土遺物(2)



第44図 14号竪穴建物出土遺物(3)



## 15号型穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや弱い、As-C含む、黄色粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/1) しまり・粘性やや弱い、As-C含む、黄色粒少量含む、褐色粒微量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、As-C・黄色粒少量含む、ロームブロック(小)微量含む。
- 4 黑褐色土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、ロームブロック(大～小)多く含む。

## 剖(C)

- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、ローム粒少量含む、黒褐色土ブロック(中)微量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、ロームブロック(中～小)多く含む。

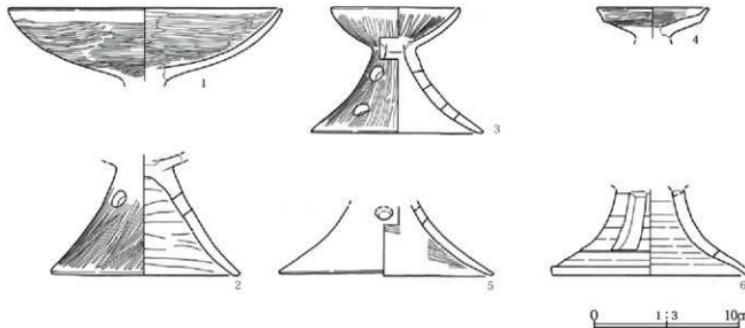
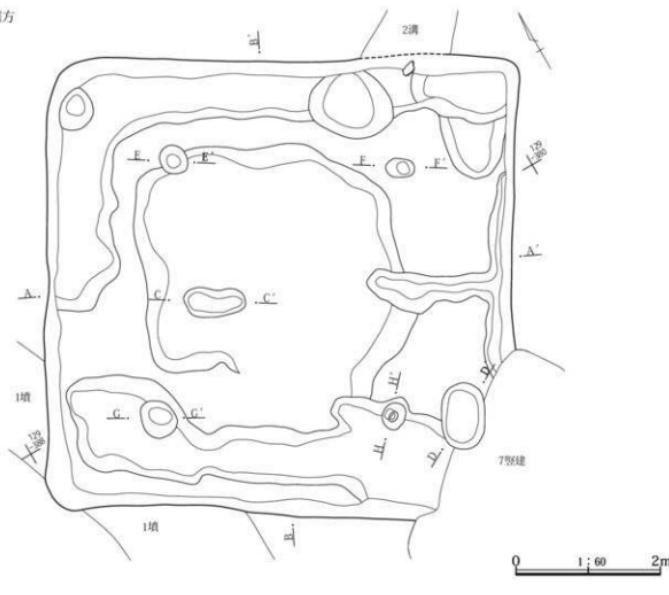
## 貯藏穴(D)

- 1 黒褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、As-C・炭化粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、As-C含む、ロームブロック・ローム粒少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、ローム粒子微量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(大～小)・ローム粒微量含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(大～小)・ローム粒微量含む。

第45図 15号型穴建物

第2節 建物、竪穴状遺構

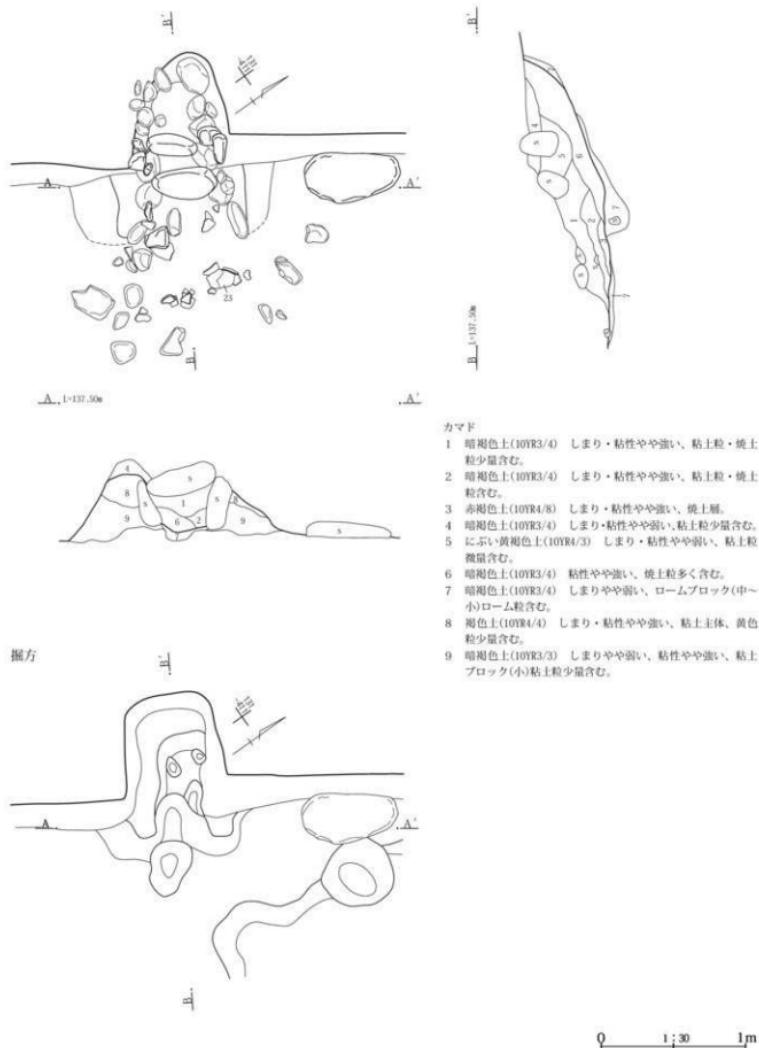
掘方



第46図 15号竪穴建物掘方、出土遺物



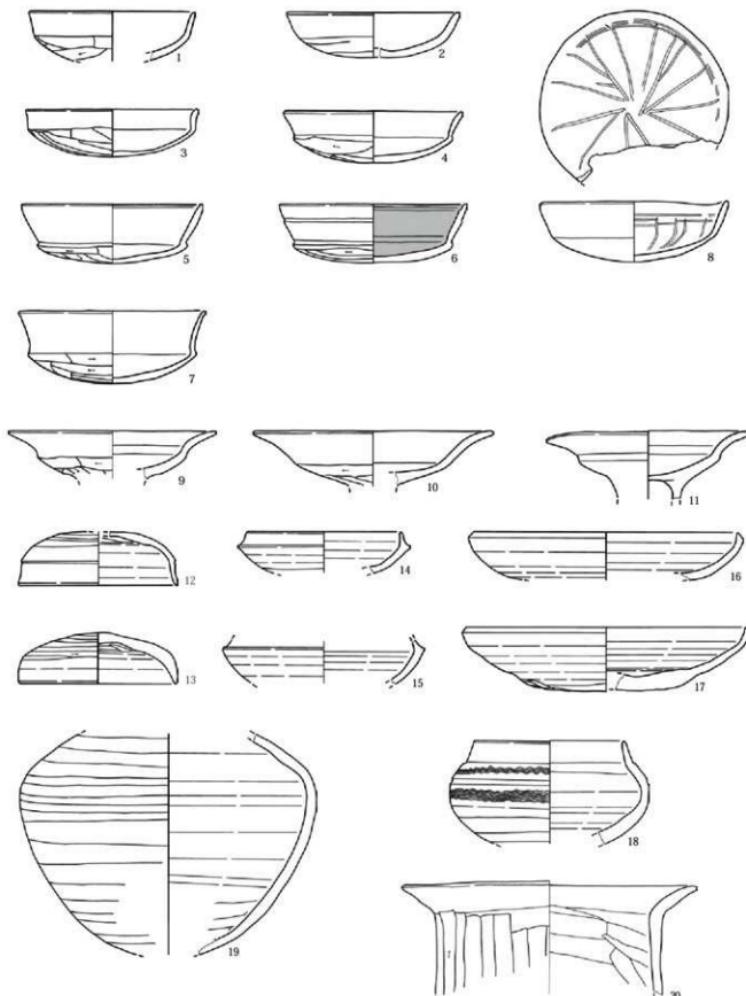
第47図 16号窓穴建物



第48図 16号竪穴建物カマド



第3章 確認された遺構と遺物

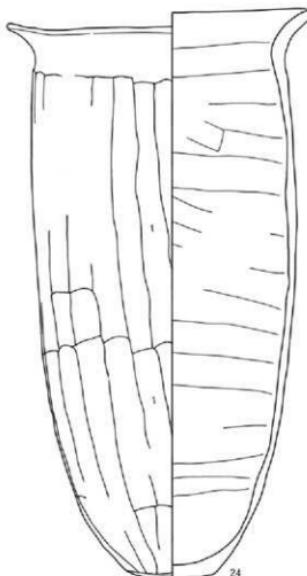
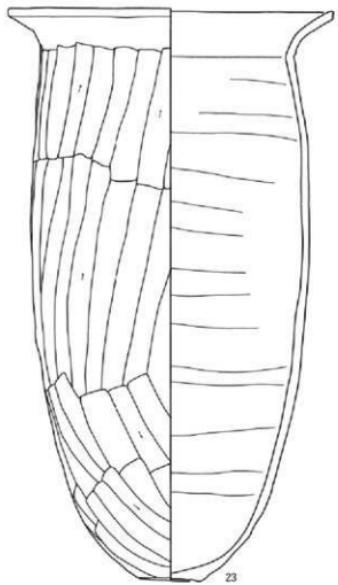
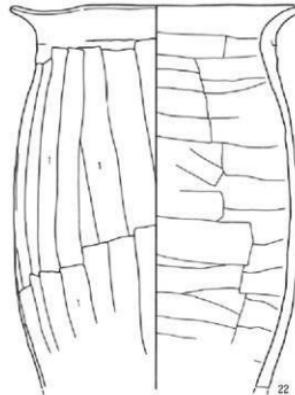
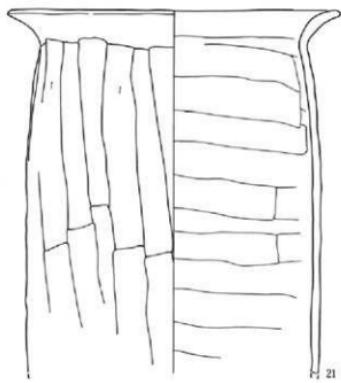


0 1:3 10cm

第49図 16号堅穴建物出土遺物(1)



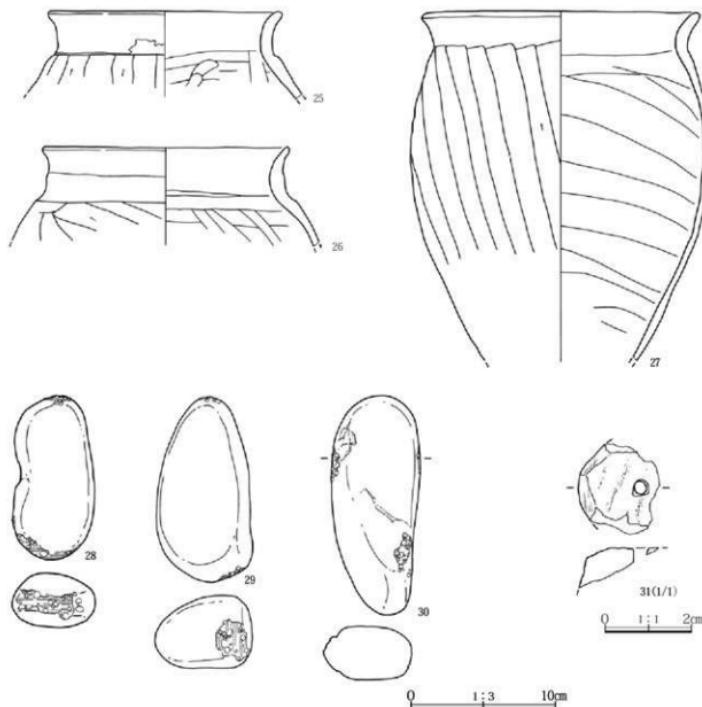
第2節 建物、竪穴状遺構



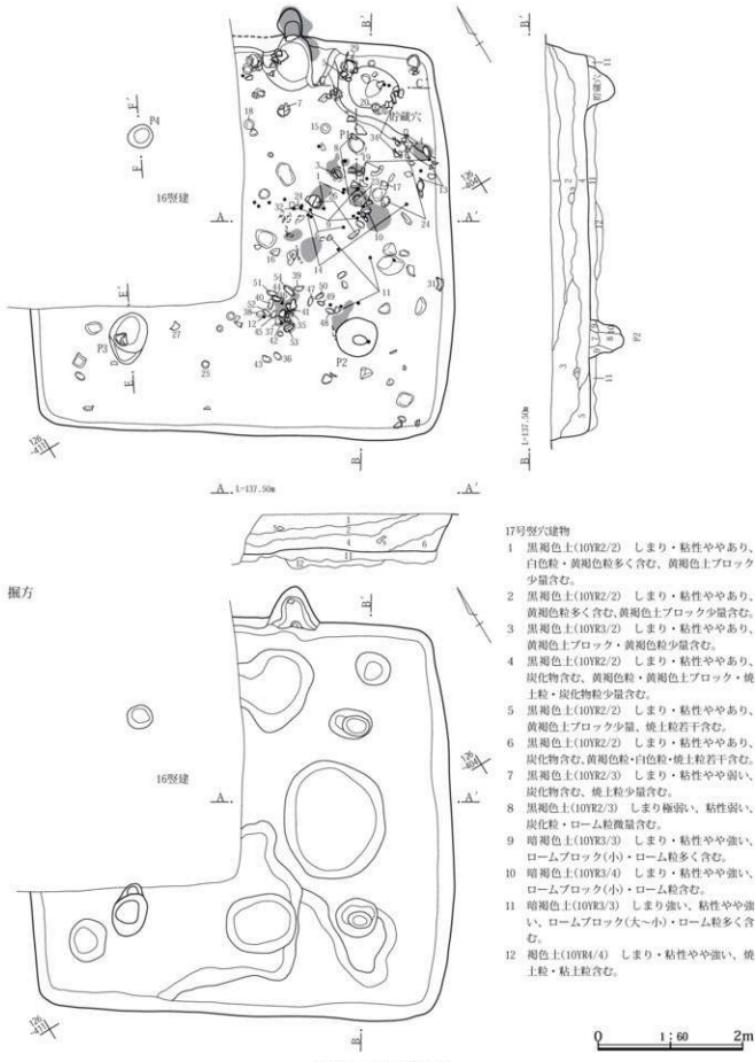
0 1:3 10cm

第50圖 16号竪穴建物出土遺物(2)

第3章 確認された遺構と遺物



第51図 16号竪穴建物出土遺物(3)



第52図 17号堅穴建物



### 第3章 確認された遺構と遺物

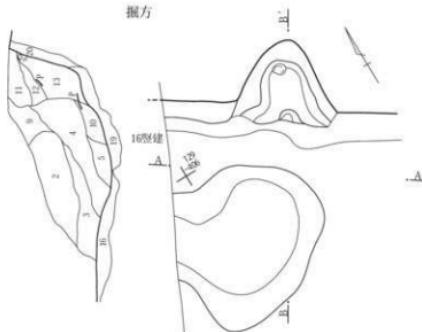
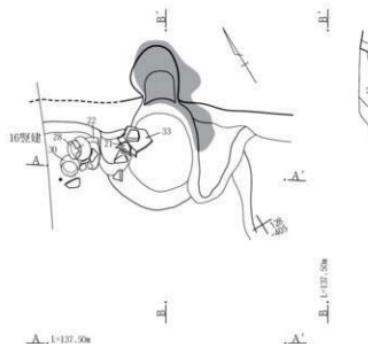


貯藏穴( C )

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、粘土ブロック(小)・粘土粒・焼土粒・炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土(10Y3/4) しまり・粘性やや弱い、ローム・粘土ブロック(小)・ローム粒含む、黒褐色土ブロック(小)少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い、粘性やや弱い、ロームブロック(中)・ローム粒含む。

1・3・4ピット(D E F)

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、炭化物含む、焼土粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) しまり極弱い、粘性弱い、炭化物・ローム粒微量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い、ロームブロック(小)・ローム粒多く含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック・ローム粒含む、炭化物少量含む。



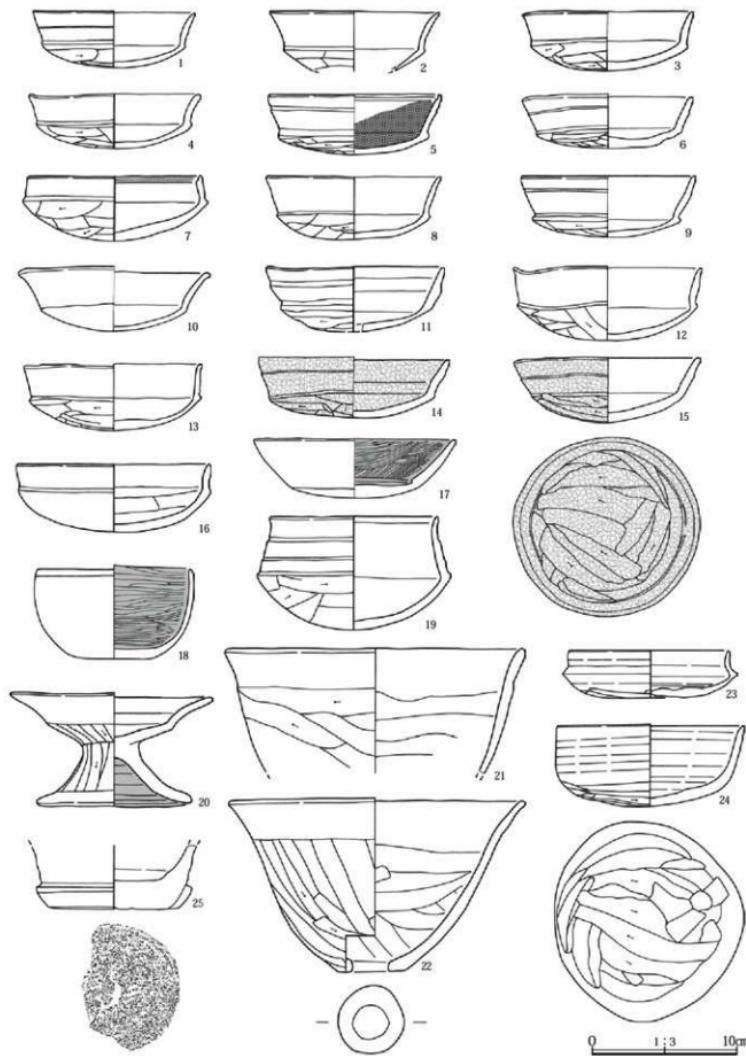
カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性やや弱い、粘土ブロック(小)・粘土粒含む。
- 2 褐色土(10Y4/4) 粘土主体、しまり・粘性やや強い、中央に焼土を層状に含む。カマド崩落上。
- 3 極暗褐色土(7.5YR2/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、焼土ブロック・粘土ブロック(小)・焼土粒・粘土粒含む。
- 4 黑褐色土(7.5YR3/2) しまりやや弱い、粘性やや強い、焼土ブロック(小)・焼土粒・炭化物含む。
- 5 褐色土(5YR4/6) しまり・粘性やや弱い、焼土層。
- 6 極暗褐色土(7.5YR2/3) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・灰少量含む。
- 7 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性やや弱い、焼土ブロック・粘土ブロック(小)含む。

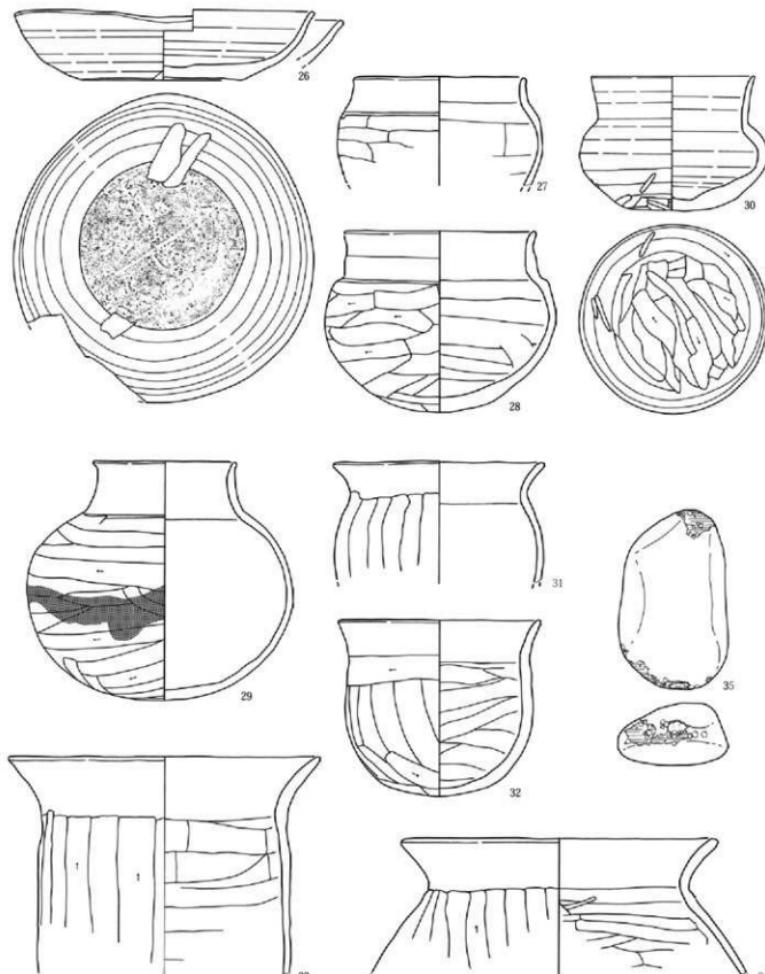
- 8 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、燒土粒少量含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、燒土粒少量含む、As-C極微量含む。
- 10 暗褐色土(7.5YR3/3) しまり・粘性やや弱い、燒土ブロック(小)・燒土粒・燒土細粒含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い、燒土ブロック(中～小)・燒土粒含む、As-C微量含む。
- 12 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、粘土ブロック(中～小)含む。
- 13 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、燒土ブロック(小)・燒土粒少含む。
- 14 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、粘土主体。
- 15 暗褐色土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、燒土ブロック(大～小)多く含む、粘土ブロック(小)少含む。
- 16 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや弱い、粘土ブロック(小)・粘土粒含む、燒土粒微量含む。
- 17 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い、粘土粒・燒土粒少量含む。
- 18 褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い、粘土粒・燒土粒少含む。
- 19 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い、燒土粒・粘土粒・黑褐色土ブロック(小)少量含む。掘方。
- 20 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、燒土ブロック(小)少含む。

第53図 17号竪穴建物カマド

第2節 建物、竪穴状遺構

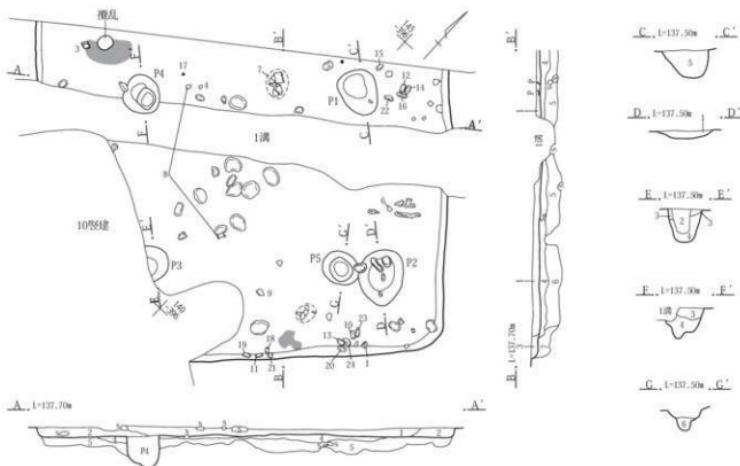


第54図 17号竪穴建物出土遺物(1)



0 1 : 3 10cm

第55図 17号竪穴建物出土遺物(2)

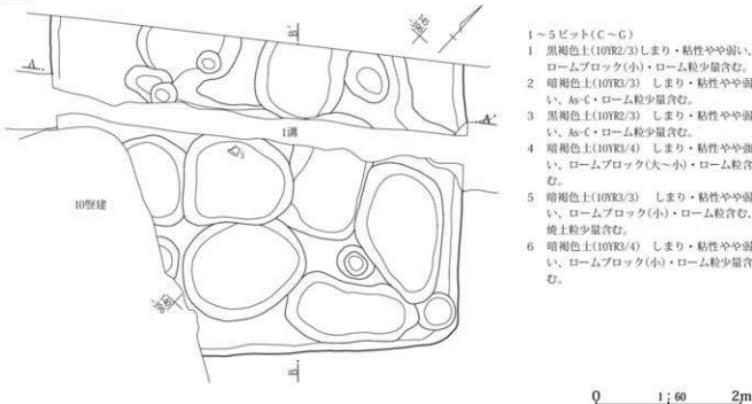


## 18号堅穴建物

- 1 品褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い。As-C・焼土粒・ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い。粘性やや弱い。As-C・ローム粒少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YB4/3) しまりやや強い。粘性やや弱い。焼土ブロック・粘土(ローム)ブロック(中～小)多く含む。

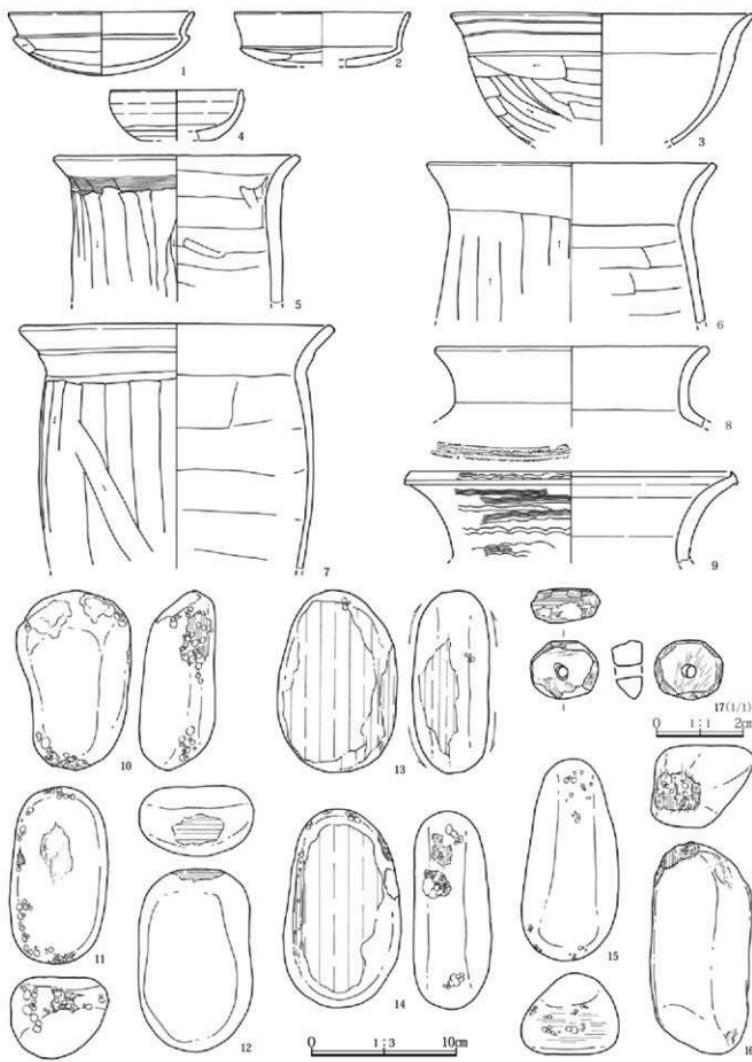
- 4 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや強い。焼土粒・ローム粒少量含む。ロームブロック(小)含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い。ロームブロック(大～小)・ローム粒含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い。焼土粒・ローム粒含む。
- 7 褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや強い。ロームブロック(中～小)含む。

## 掘方



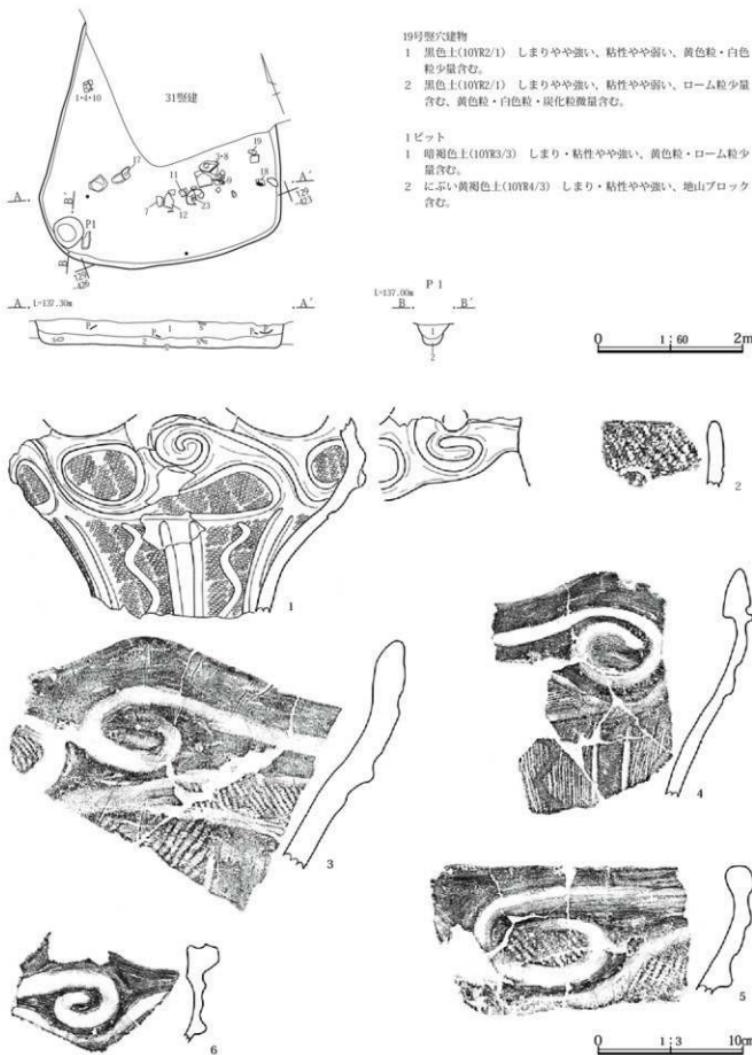
第56図 18号堅穴建物

第3章 確認された遺構と遺物

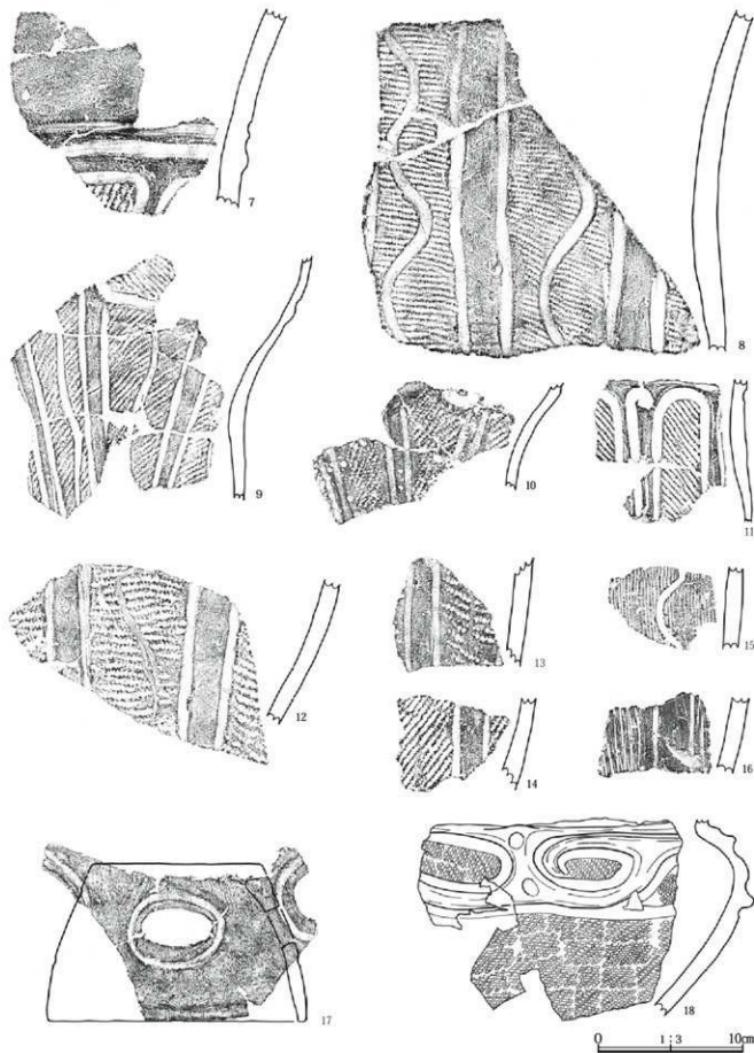


第57図 18号竖穴建物出土遺物

第2節 建物、竪穴状遺構

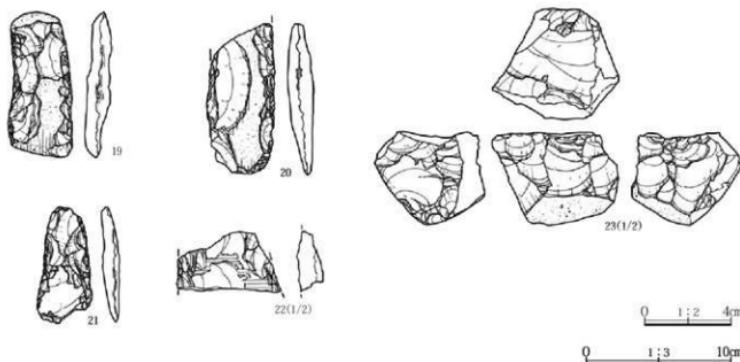


第58図 19号竪穴建物、出土遺物(1)

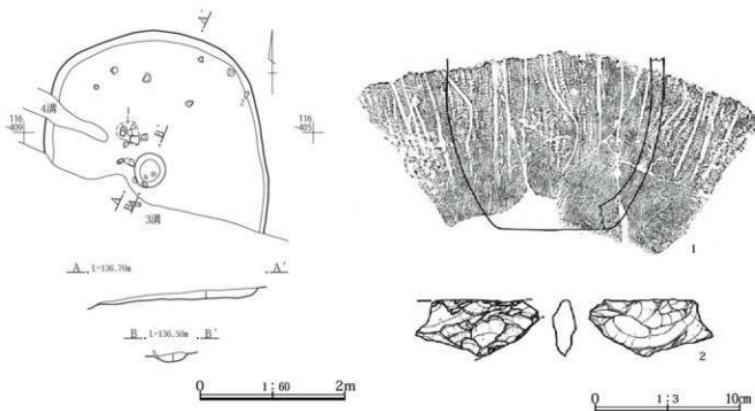


第159図 19号堅穴建物出土遺物(2)

第2節 建物、竪穴状遺構



第60図 19号竪穴建物出土遺物(3)



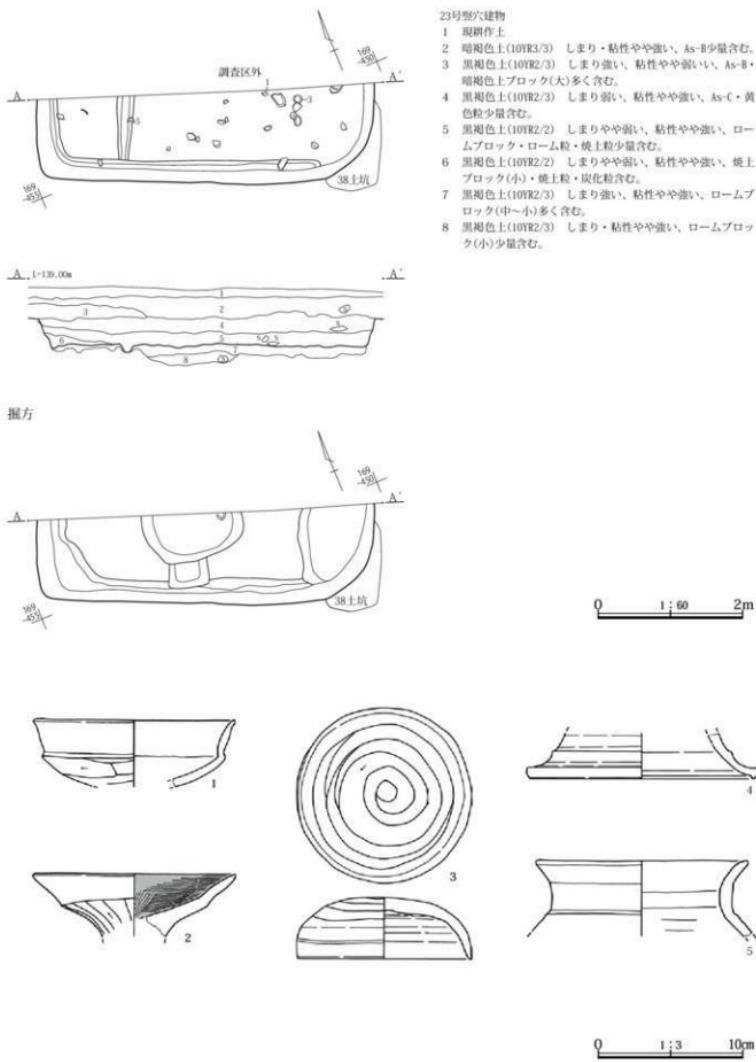
20号竪穴建物

1 黒褐色土(10R2/2) しまり・粘性やや強い・白色粒・黄色粒少量含む。

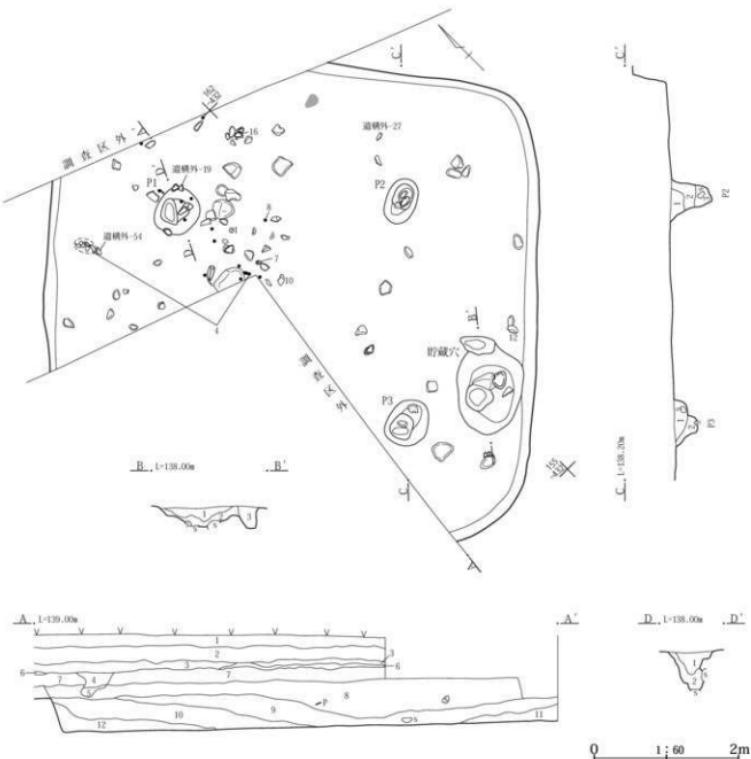
2

1 黑褐色土(10R2/3) ロームブロック(小)・ローム粒・白色粒少量含む。

第61図 20号竪穴建物、出土遺物



第62図 23号竖穴建物、出土遺物



## 24号竪穴建物

- 1 表土
- 2 暗褐色土(10YR2/3) しまり・粘性強い。As-B多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) しまり強い、粘性弱い。As-B主体。
- 4 暗褐色土(10YR2/3) As-B多く含む。ビット。
- 5 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い、As-B主体。ビット。
- 6 As-B 一次堆積。
- 7 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い。As-C少量化。黄色粉微量含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い。粘性やや強い。As-C・黄色粉少量含む。
- 9 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い。粘性やや強い。As-C・黄色粉微量含む。
- 10 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い。粘性やや強い。As-C・黄色粉微量含む。

11 黒色土(10YR2/1) しまり弱い、粘性やや強い。ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。As-C微量含む。

12 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い。粘性やや強い。ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。

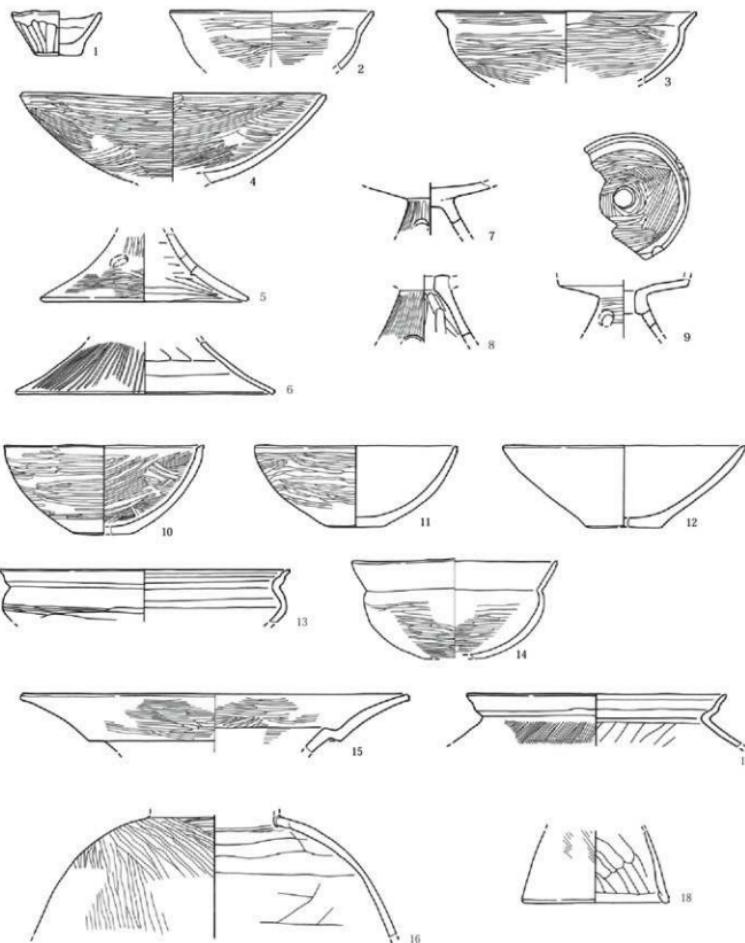
## 貯蔵穴(B)

- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり、粒細かい。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、褐色のブロックを含む。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。ローム粒微量含む。
- 1~3ビット(C・D)
- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり、粒細かい。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまり弱い、褐色粒を含む。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い。ローム粒微量含む。

第63図 24号竪穴建物

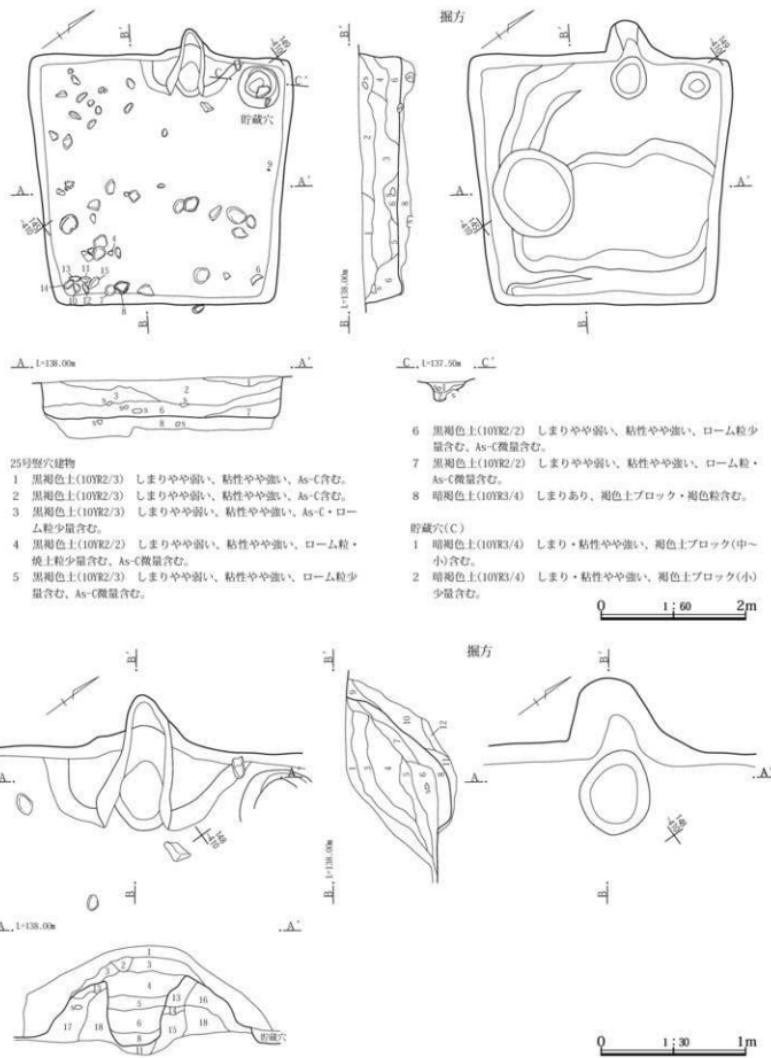


第3章 確認された遺構と遺物



0 1:3 10cm

第64図 24号竪穴建物出土遺物

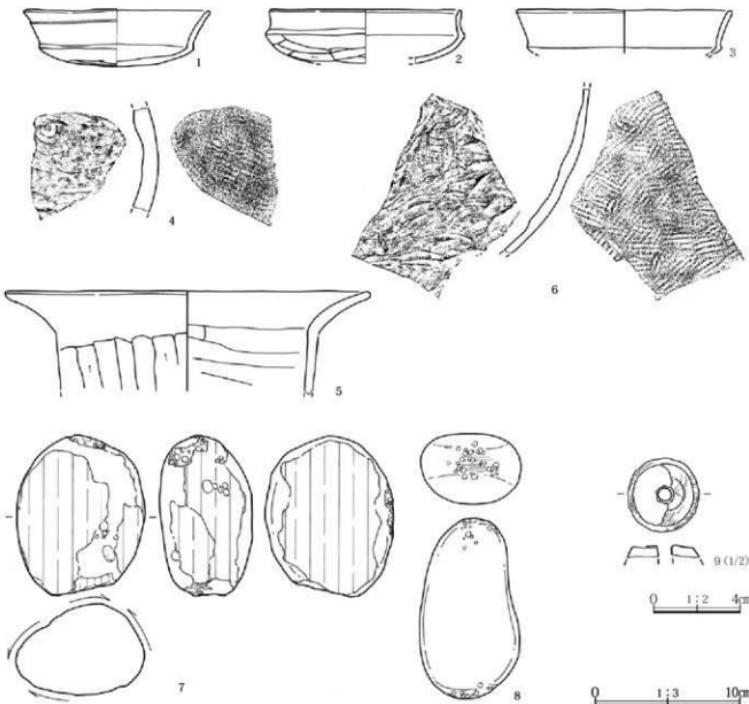


第65図 25号型穴建物、カマド

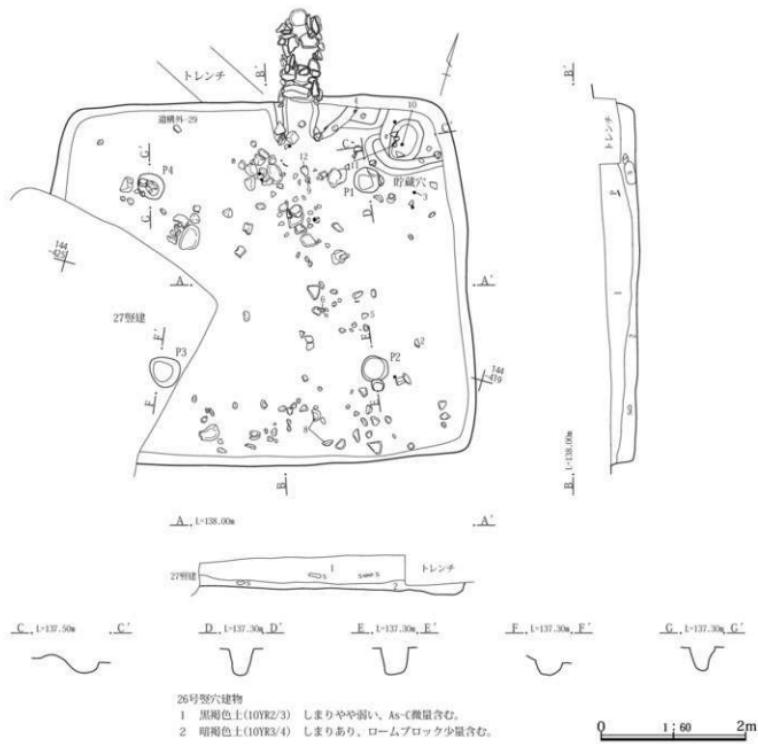
### 第3章 確認された遺構と遺物

カマド

- 1 喀褐色土(10YR3/4) しまりやや強い、粒細かい。
- 2 褐色土(10YR4/6) しまりやや弱い、粘性あり。
- 3 褐色土(10YR4/6) しまりやや弱い、粘性あり。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性あり、燒上粒多く含む。
- 5 褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い、粘性やや強い、粘土ブロック(小)少量含む。
- 6 喀褐色土(7.5YR3/4) しまり弱い、燒上ブロック・焼上粒多く含む。
- 7 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性あり、粘土・喀褐色土ブロック(小)・喀褐色土ブロック(小)少量含む。
- 8 喀褐色土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、燒上ブロック(小)・焼上粒・粘土ブロック(小)少量含む。
- 9 褐色土(10YR4/6) しまり・粘性やや強い、粘土主体、燒上ブロック(小)少量含む。
- 10 喀褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い、燒上粒微量含む。
- 11 喀褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い、燒上粒・灰少量含む。
- 12 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、ローム粒微量含む。
- 13 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや強い、粘土主体、燒上ブロック(小)・喀褐色土ブロック(小)微量含む。
- 14 褐色土(7.5YR4/6) しまりやや強い、粘性やや弱い、燒上主体、粘土ブロック(小)少量含む。
- 15 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、燒上粒含む、粘土粒少量含む。
- 16 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや強い、粘土主体、喀褐色土ブロック(小)少量含む。
- 17 喀褐色土(10YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粘土ブロック(小)少量含む。
- 18 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや強い、粘土主体、燒上粒少量含む。



第66図 25号竪穴建物出土遺物



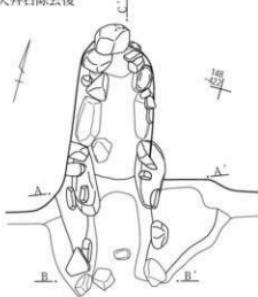
第67図 26号竪穴建物

第3章 確認された遺構と遺物

確認状態

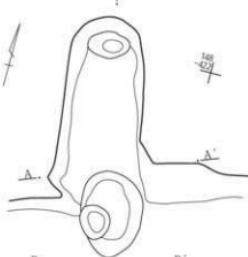
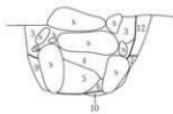


天井石除去後



高さ  
138.00m

掘方



カマド

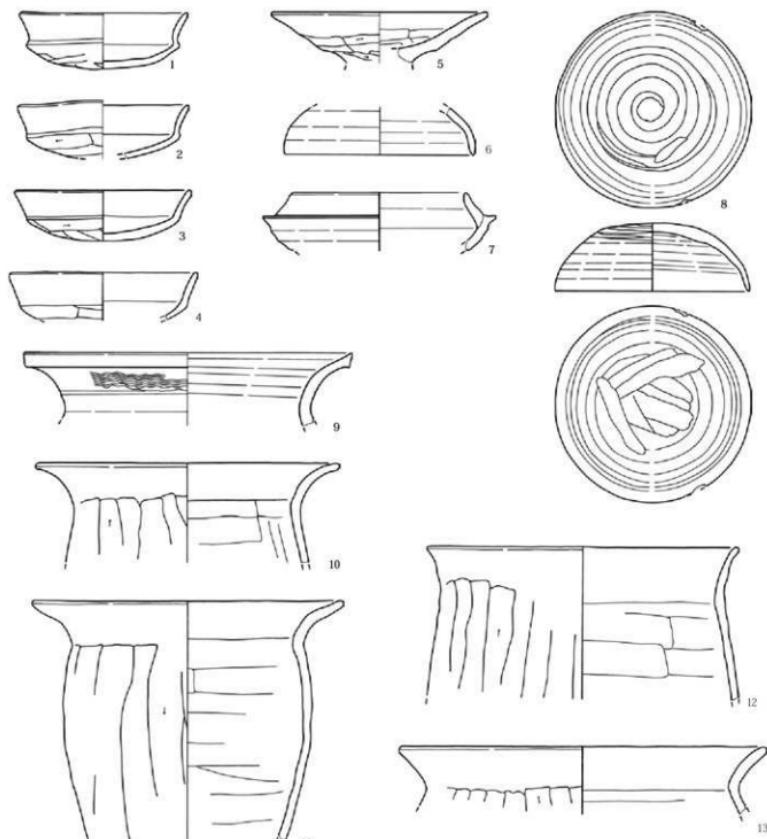
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、As-C 黄色粒少量含む。
- 2 暗褐色土(10Y3/4) しまりあり、粘土ブロック(大~小)含む。
- 3 暗褐色土(10Y3/3) しまりやや弱い、粘性強い、粘土粒、燒土粒少量含む。
- 4 暗褐色土(10Y3/4) しまり・粘性やや弱い、粘土主体、黒褐色土ブロック(小)・焼土粒微量含む。
- 5 暗褐色土(7.5Y3/4) しまり・粘性やや弱い、焼土ブロック(小)・焼土粒多く含む。
- 6 黑褐色土(10Y2/3) しまり・粘性やや弱い、粘土ブロック(中~小)・粘土粒少量含む。
- 7 暗褐色土(10Y3/3) しまり・粘性やや弱い、粘土粒少量含む。
- 8 黑褐色土(10Y2/3) しまり・粘性やや弱い、粘土ブロック(小)・粘土粒少量含む。
- 9 暗褐色土(10Y3/4) しまり・粘性やや弱い、粘土主体、燒土粒微量含む。
- 10 褐色土(10Y4/4) しまり・粘性やや弱い、燒土ブロック(小)・燒土粒含む。
- 11 暗褐色土(10Y3/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粘土粒、燒土粒微量含む。
- 12 黑褐色土(10Y2/3) しまり・粘性やや弱い、As-C微量含む。

0 1:30 1m

第68図 26号堅穴建物カマド

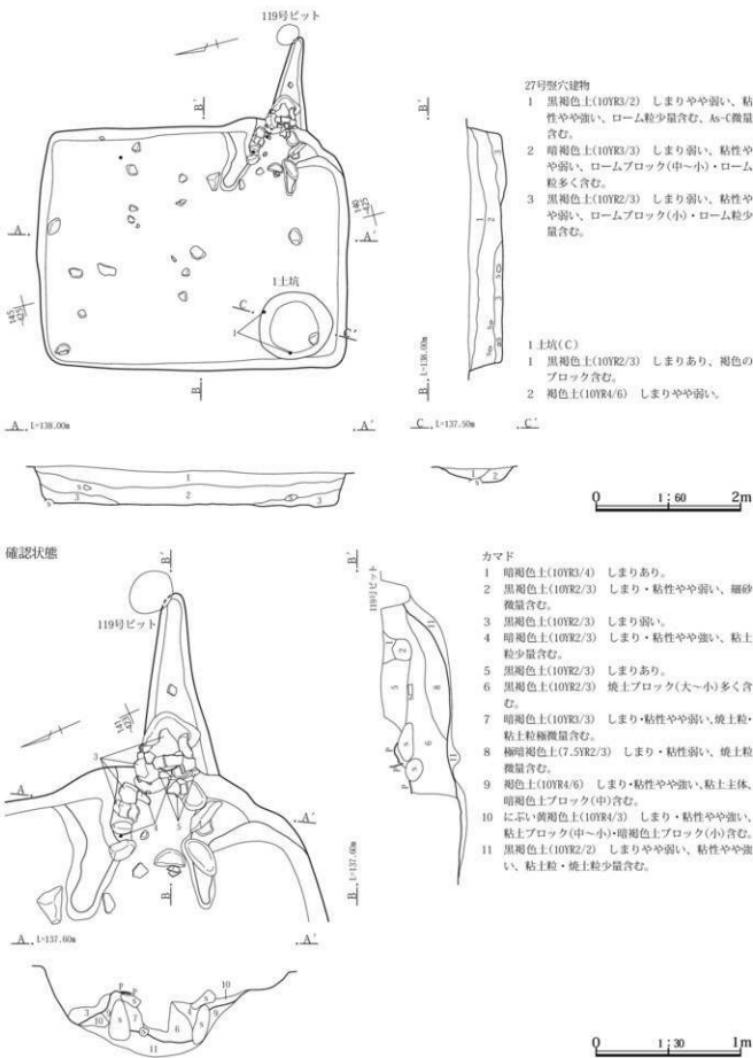


第2節 建物、竪穴状遺構

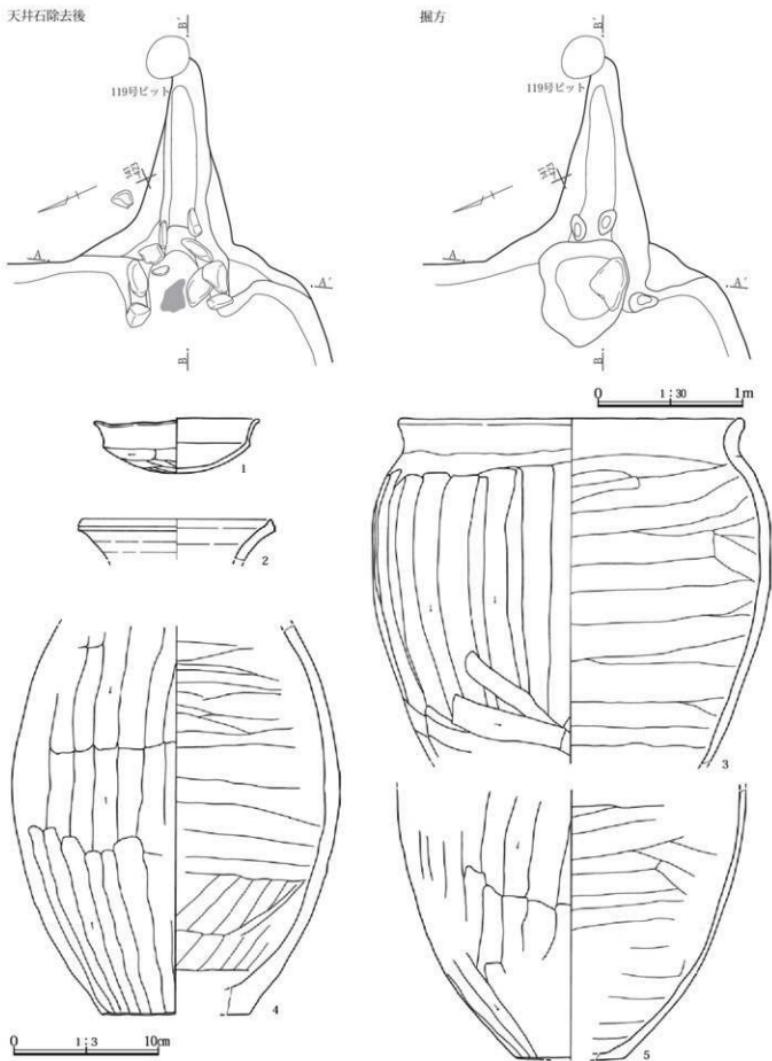


0 1:3 10cm

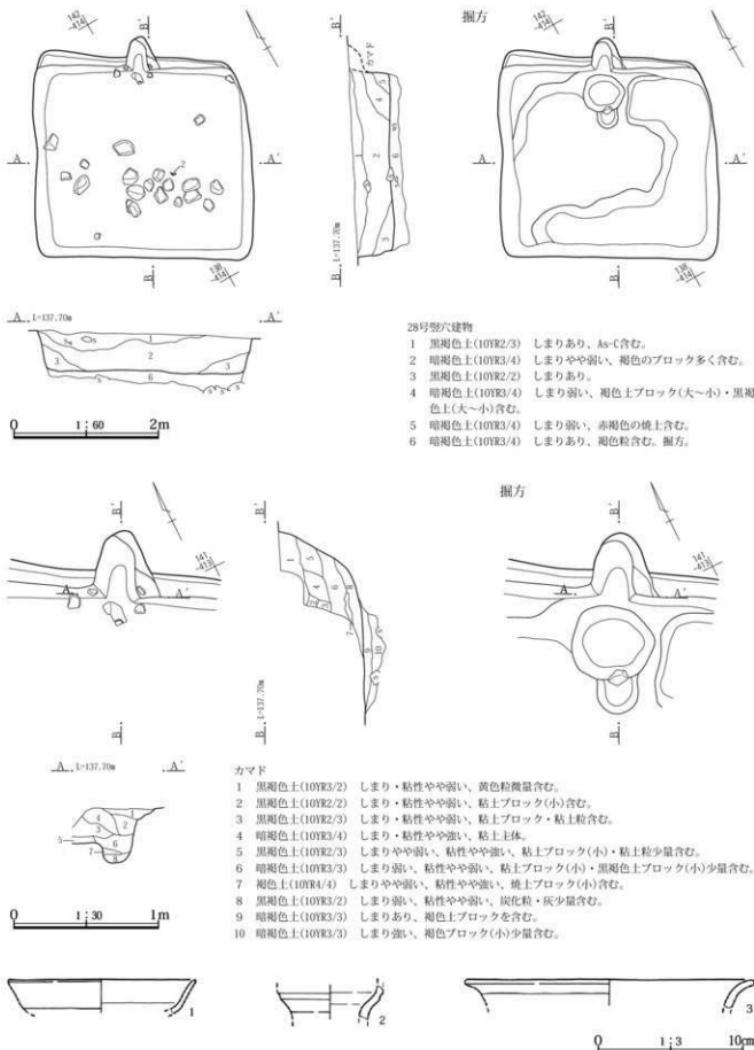
第69圖 26號竪穴建物出土遺物



第70図 27号竪穴建物、カマド

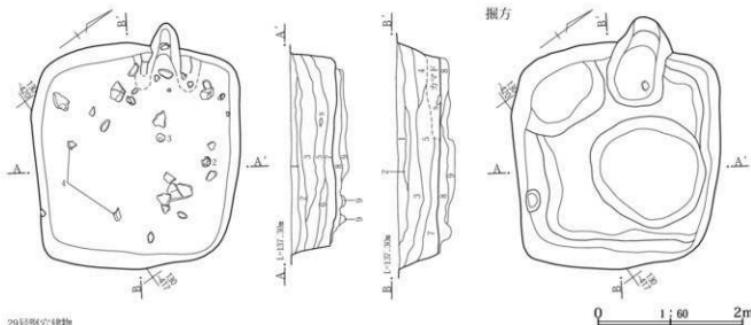


第71図 27号堅穴建物カマド、出土遺物



第72図 28号竖穴建物、カマド、出土遺物

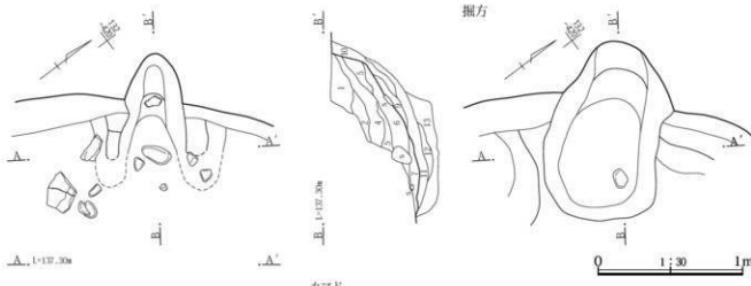
第2節 建物、堅穴状遺構



29号堅穴建物

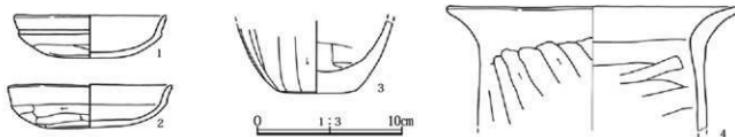
- 1 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い。As-C含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまり弱い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い。ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い。粘性強い。

- 6 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い。ローム粒微量含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い。ローム・ブロック(小)・ローム粒少量含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。掘方。
- 9 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。褐色ブロックを含む。掘方。

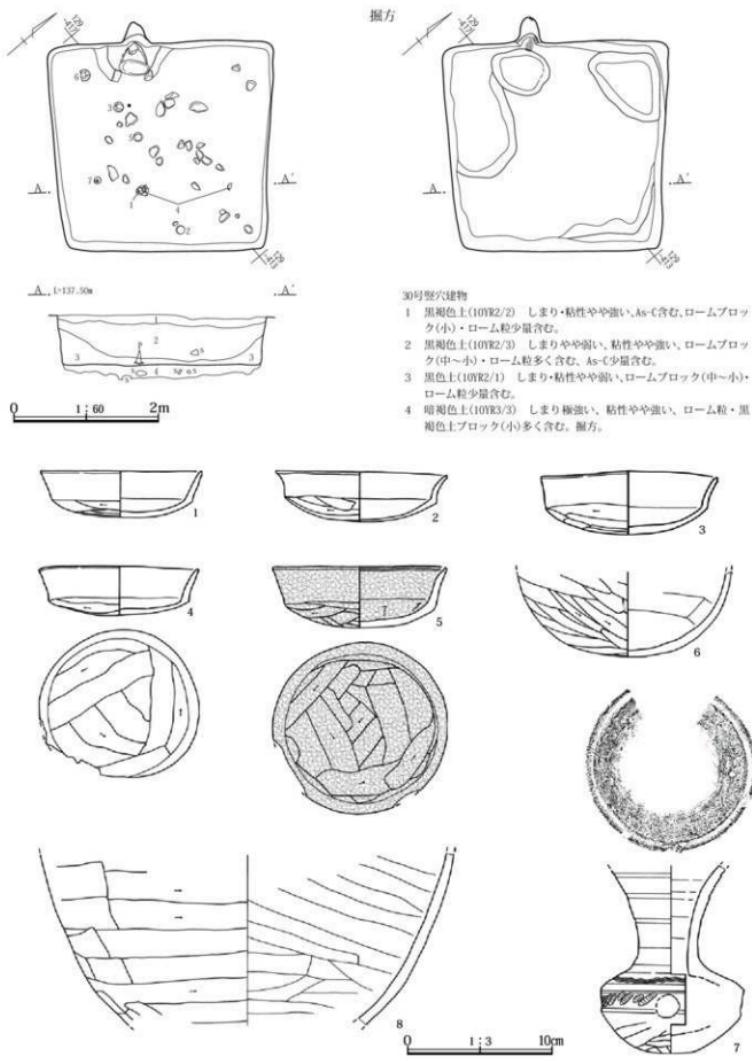


カマド

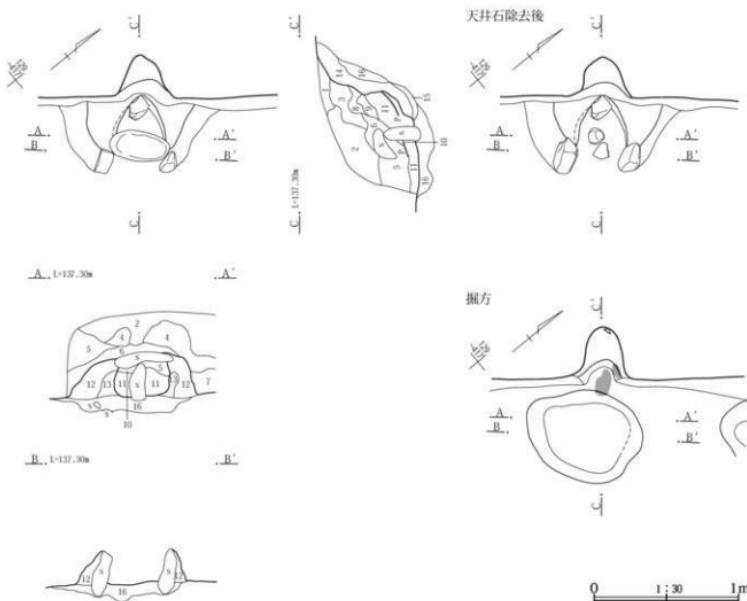
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり弱い。粘性やや弱い。As-C・焼土粒・粘土粒少す量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い。粘性やや強い。粘土ブロック(小)・粘土粒含む。
- 3 黑褐色土(10YR3/2) しまり・粘性やや弱い。粘土粒・焼土粒含む。
- 4 しまりやや弱い。粘性やや強い。粘土ブロック・粘土粒含む。
- 5 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い。暗褐色土ブロック(小)微量含む。
- 6 暗褐色土(7.5YR3/4) しまり弱い。粘性やや弱い。焼土ブロック(中～小)・焼土粒多く含む。
- 7 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い。焼土粒・灰含む。
- 8 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや強い。粘土主体。暗褐色土ブロック(小)少量含む。
- 9 赤褐色土(5YR4/6) 焼土層。しまりやや弱い。粘性弱い。暗褐色土ブロック(小)少量含む。
- 10 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土ブロック(中)含む。焼土含む。
- 11 黑褐色土(10YR2/3) 灰含む。
- 12 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。粘土粒少量含む。焼土粒微量含む。
- 13 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。粘土ブロック・粘土粒少量含む。



第73図 29号堅穴建物、カマド、出土遺物



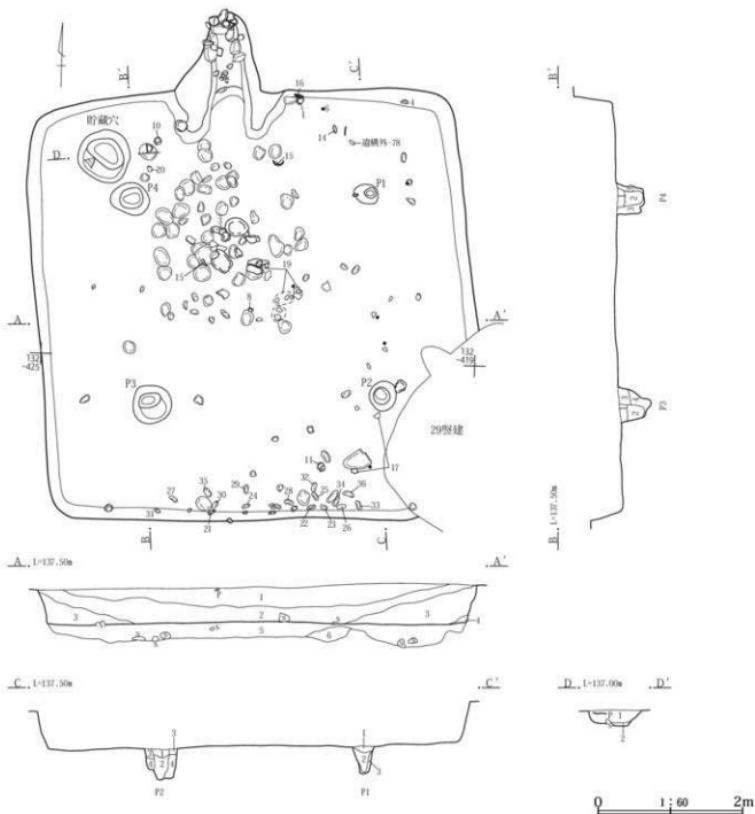
第74図 30号竪穴建物、出土遺物



## カマド

- 1 褐色土(10YR4/6) しまり・粘性やや強い、暗褐色土ブロック(中~小)含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、褐色ブロックを含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、褐色ブロック含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、粘性あり。
- 5 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) しまり弱い。
- 7 褐色土(10YR3/6) しまりやや弱い。
- 8 褐色土(10YR4/6) しまりやや弱い、粘性あり、赤褐色粒を含む。
- 9 褐色土(10YR4/6) しまり弱い、褐色ブロックを含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) 褐色ブロックと焼土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、灰と褐色ブロックを含む。
- 12 褐色土(10YR4/6) しまり・粘性やや強い、粘土主体、焼土粒少量含む。
- 13 褐色土(10YR4/6) しまり・粘性やや強い、粘土主体、暗褐色土ブロック(小)少量含む。
- 14 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い、焼土粒少量含む。
- 15 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、焼土ブロック(小)・焼土粒含む、灰少量含む。
- 16 黑褐色土(10YR2/2) しまり弱い、粘性やや強い、ロームブロック(小)含む、灰少量含む。

第75図 30号堅穴建物カマド



## 31号堅穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、As-C・ローム粒含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い、As-C・ローム粒含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、ローム粒少含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、ロームブロック(小)・ローム粒含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック(大・小)・ローム粒多く含む、燒土粒微量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い、粘性やや強い、ロームブロック・黒褐色土ブロック(小)・土上粒微量含む。

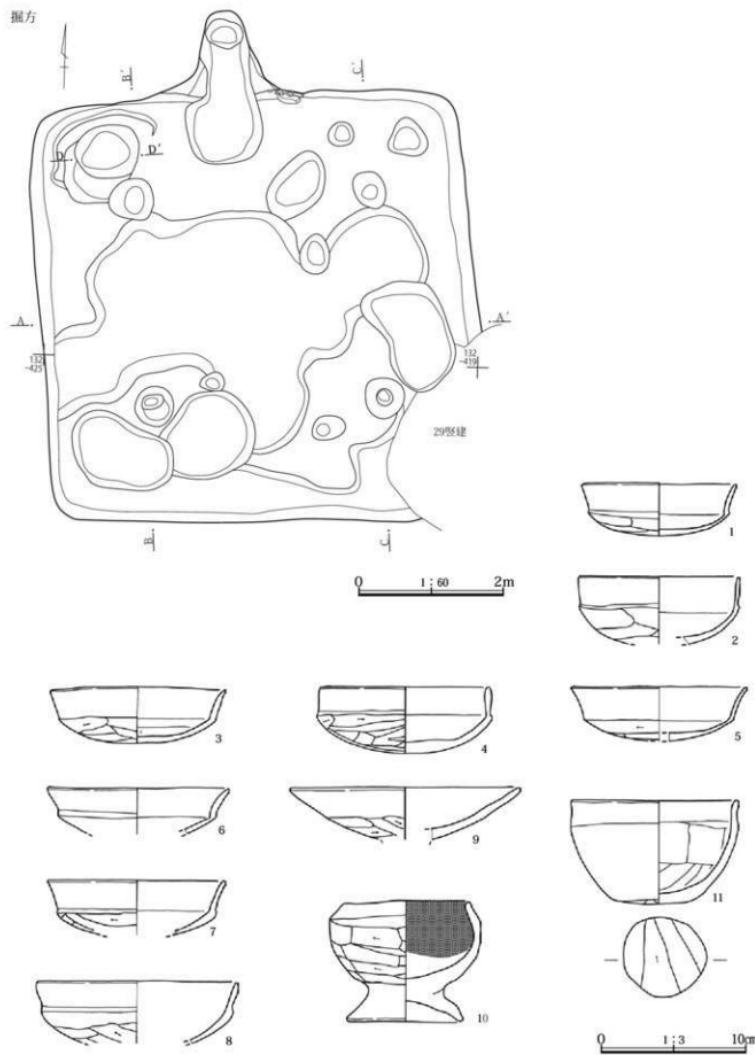
## 1~4 ピット(B-C)

- 1 暗褐色土(10YR3/4) しまりややあり、褐色ブロック・褐色粒多く含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまりややあり、粘性あり。
- 3 褐色土(10YR4/4) しまりややあり、ロームブロック(小)・ローム粒含む。
- 4 底黄褐色土(10YR4/2) しまりややあり、ロームブロック(小)含む、ローム粒少量含む。

## 防壁穴(D)

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) しまり弱い、粘性やや強い、暗褐色土ブロック(小)・少量含む。

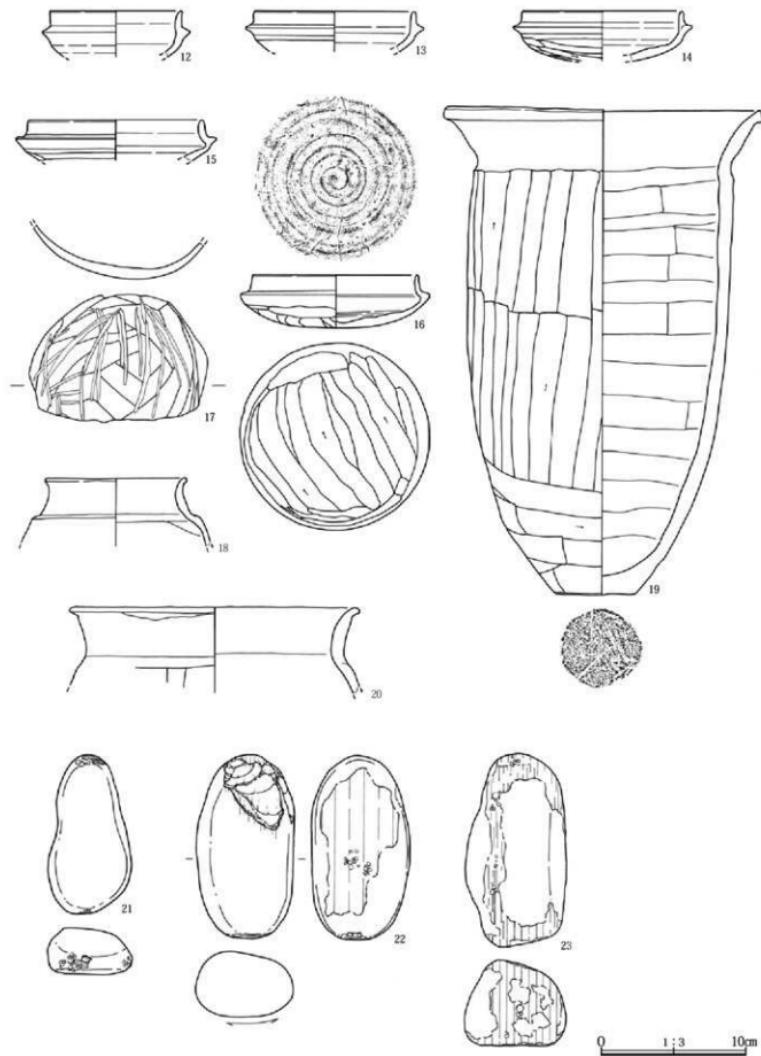
第76図 31号堅穴建物



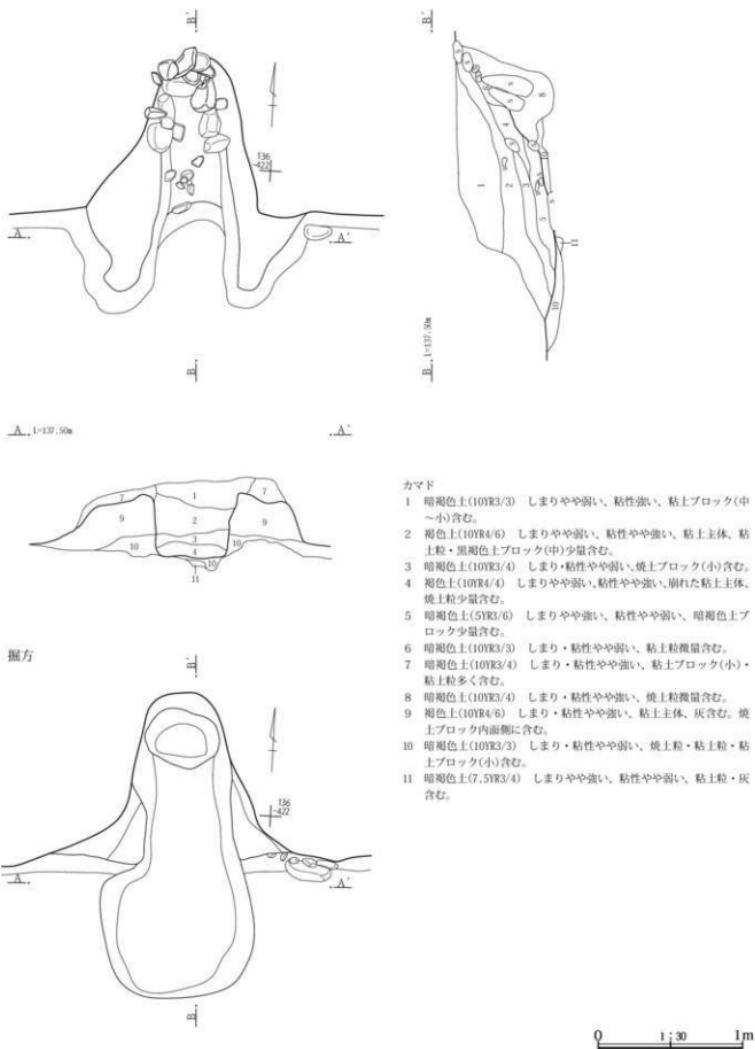
第77圖 31号竪穴建物掘方、出土遺物(1)



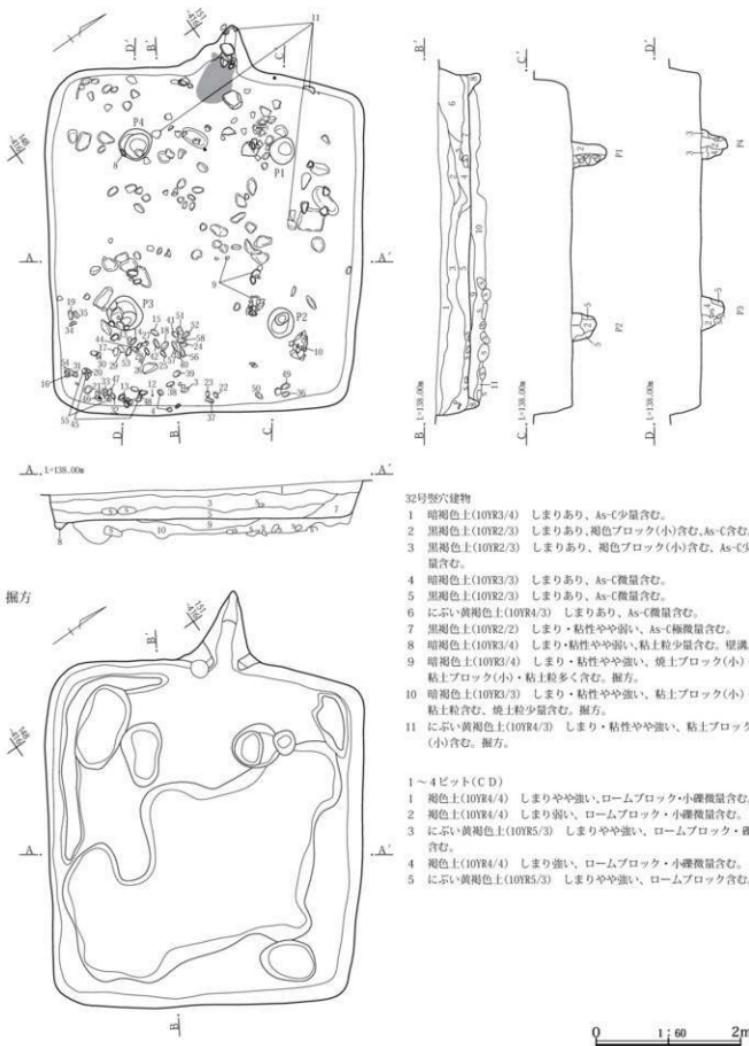
第3章 確認された遺構と遺物



第78図 31号竖穴建物出土遺物(2)

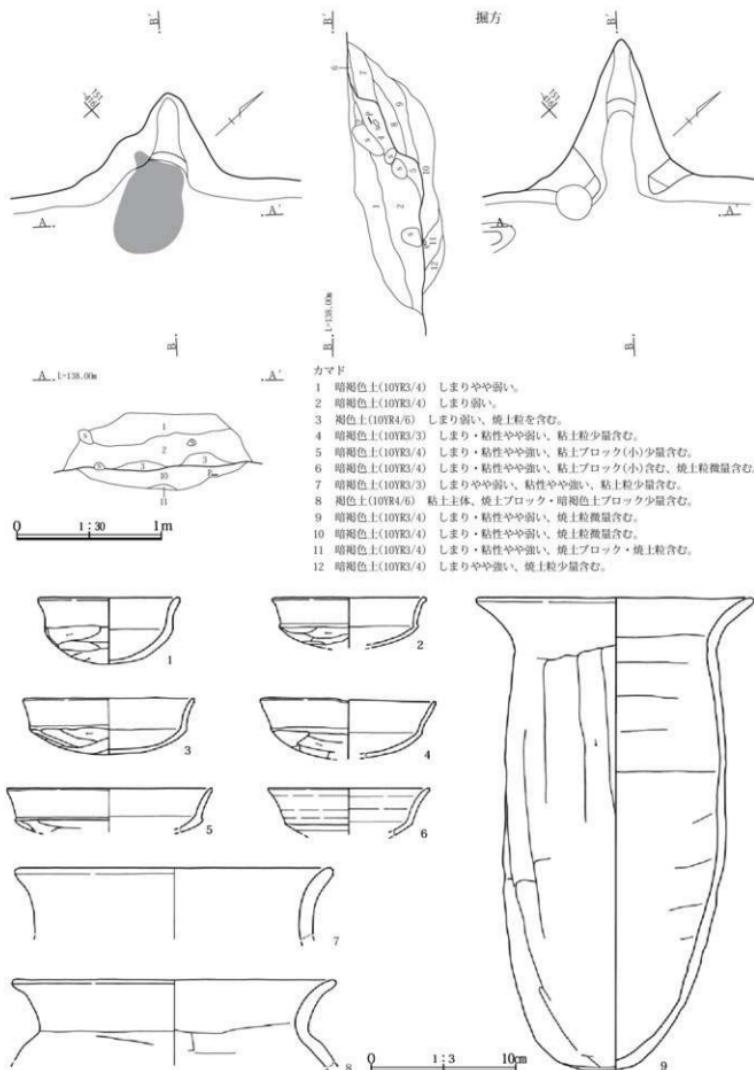


第79図 31号堅穴状遺構

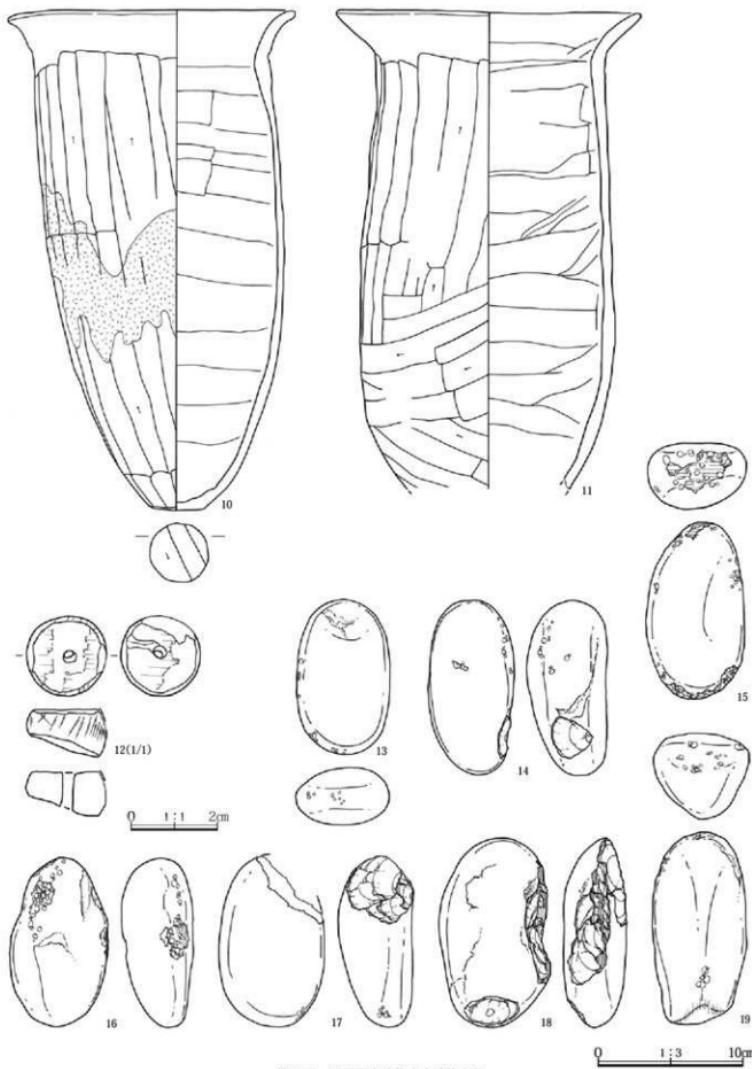


第80図 32号壁穴建物

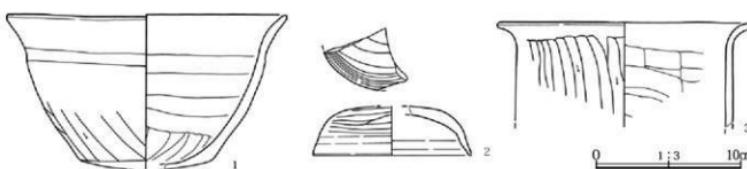
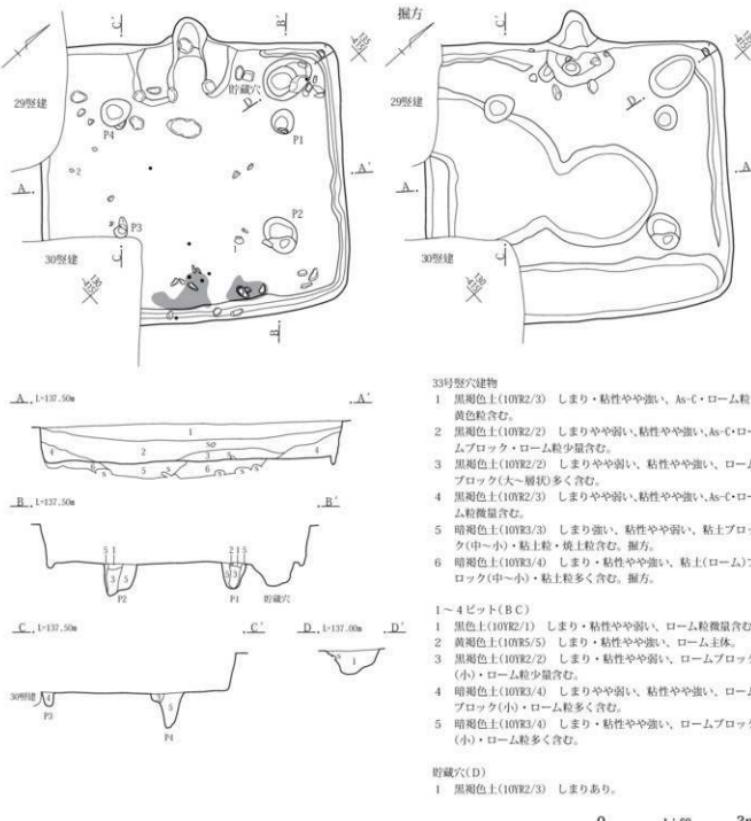
第2節 建物、堅穴状遺構



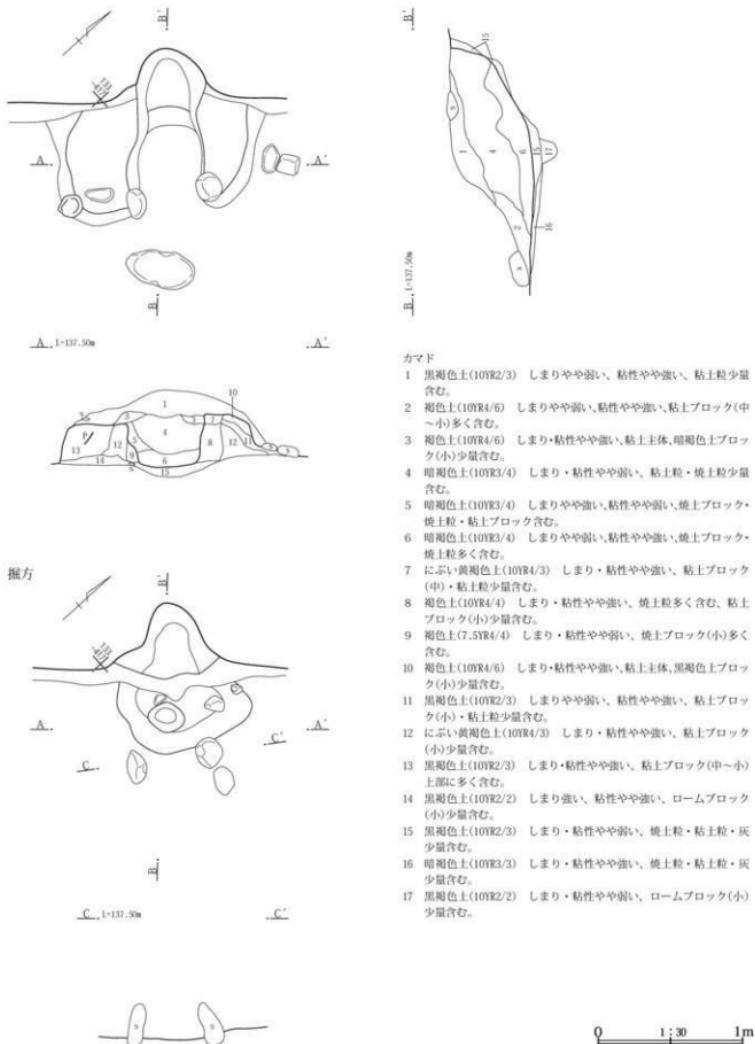
第81図 32号堅穴建物カマド、出土遺物(1)



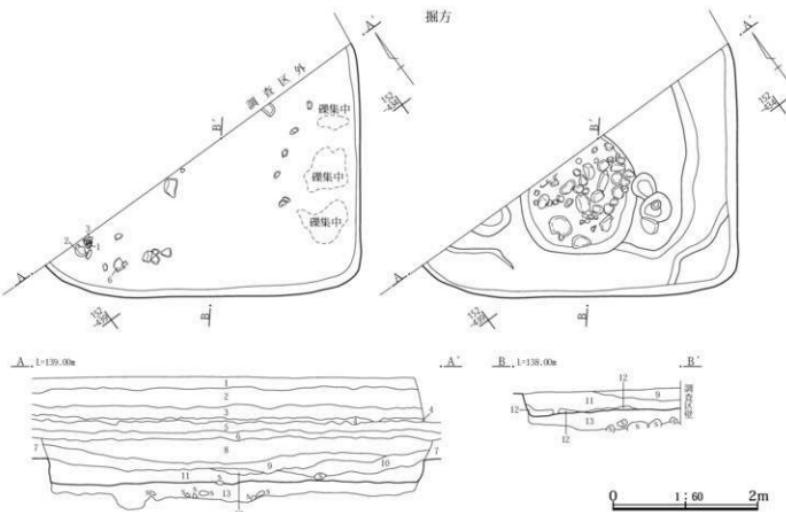
第82図 32号竪穴出土物(2)



第83図 33号竪穴建物、出土遺物

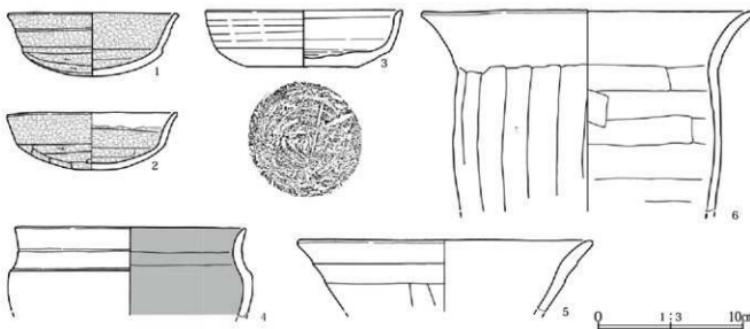


第84図 33号壁穴建物力マド

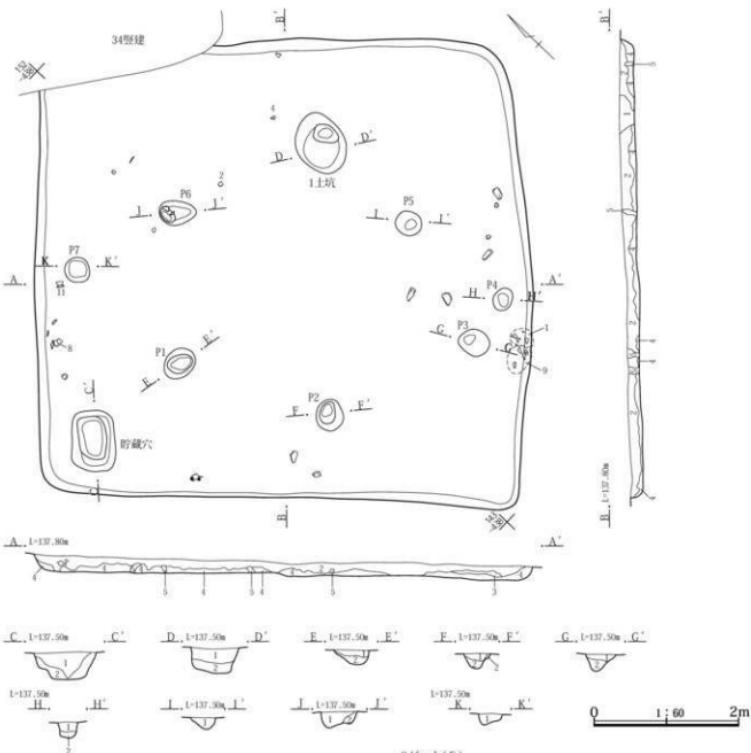


34号竪穴建物

- 1 表土
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性強い、As-B多く含む。
- 3 褐色土(10YR4/4) しまり強い、粘性弱い、As-E主体。
- 4 As-B-一次堆積
- 5 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い、As-C含む。
- 6 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや弱い、As-C含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い、As-C少量含む、黄色粉微量含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い、粘性やや強い、As-C含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い、As-C少量含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い、As-C・黄色粉少量含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い、As-C少量含む。炭化粒・ローム粉微量含む。
- 12 褐色土(10YR3/3) しまり弱い、ロームブロック(小)含む。
- 13 褐色土(10YR3/4) しまり強い、粘性やや強い、ロームブロック(中～小)多く含む。



第85図 34号竪穴建物、出土遺物



## 35号壁穴建物

- 1 8号溝
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い。As-C含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強い。As-C含む。
- 4 明黄色土(10YR6/6) ローム主体。褐色土微量含む。極少。
- 5 木根等による擾乱。

## 貯藏穴(C)

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、粒離かい。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。

## 1土坑(D)

- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、褐色ブロック含む。

## 1ピット(E)

- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。As-C少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い。

## 2ピット(F)

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや強い。ロームブロック(中～小)少

## 量含む。

## 3ピット(G)

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い。

## 4ピット(H)

- 1 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、ローム粒含む。
- 2 黑褐色土(10YR3/4) しまりあり、ロームブロック(小)少量含む。

## 5ピット(I)

- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。ローム粒微量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い。ロームブロック(中～

## 小)含む。

## 6ピット(J)

- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや弱い。ローム粒微量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性やや弱い。ロームブロック(小)

## 小)含む。

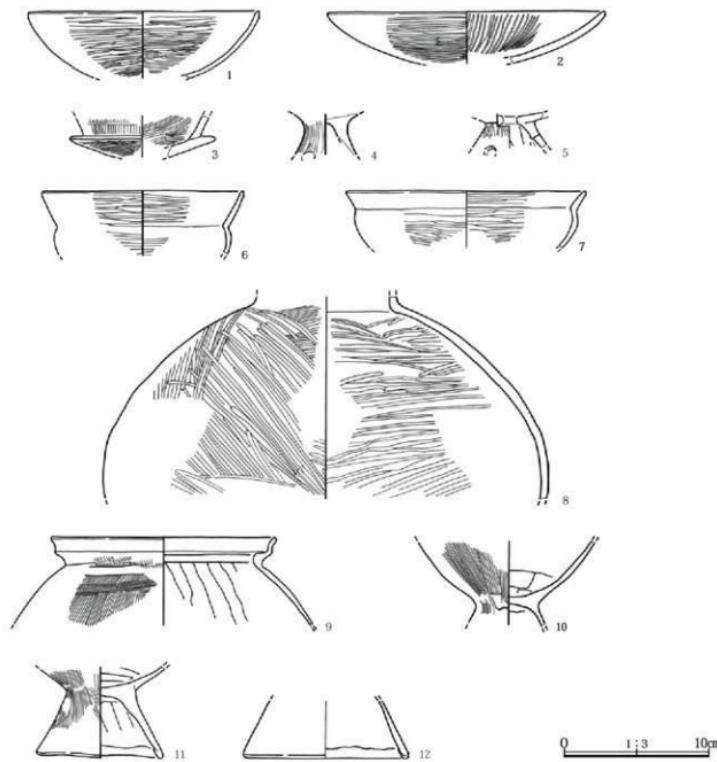
## 7ピット(K)

- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。ロームブロック(小)

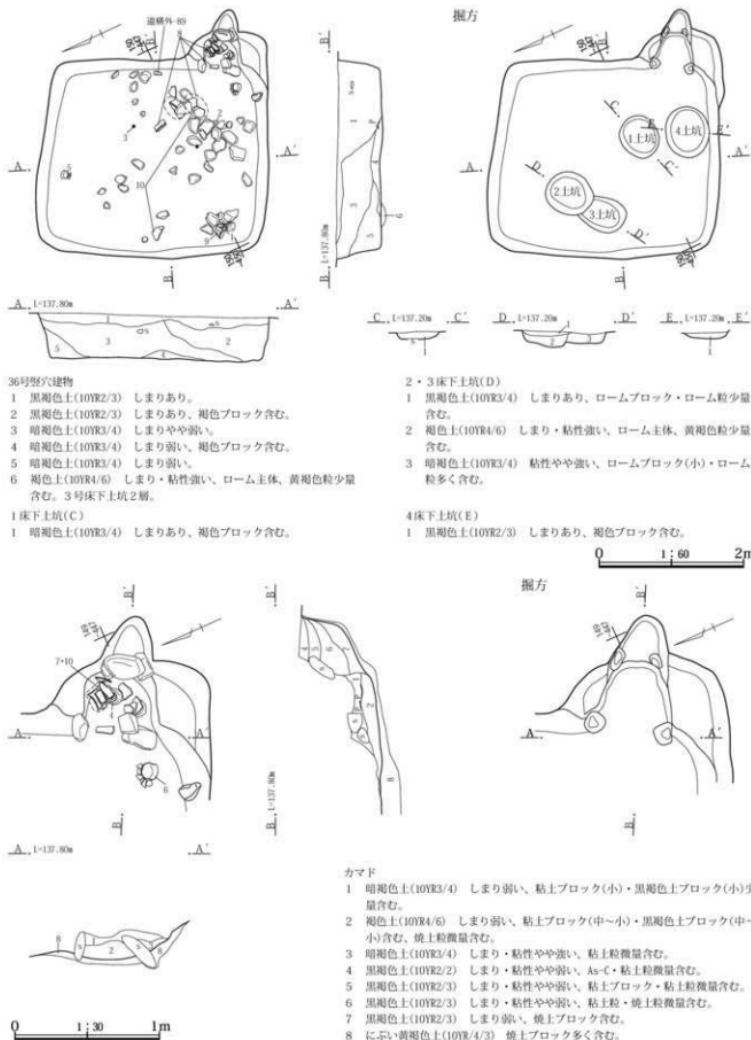
少量含む。As-C微量含む。

第86図 35号壁穴建物

第2節 建物、竪穴状遺構

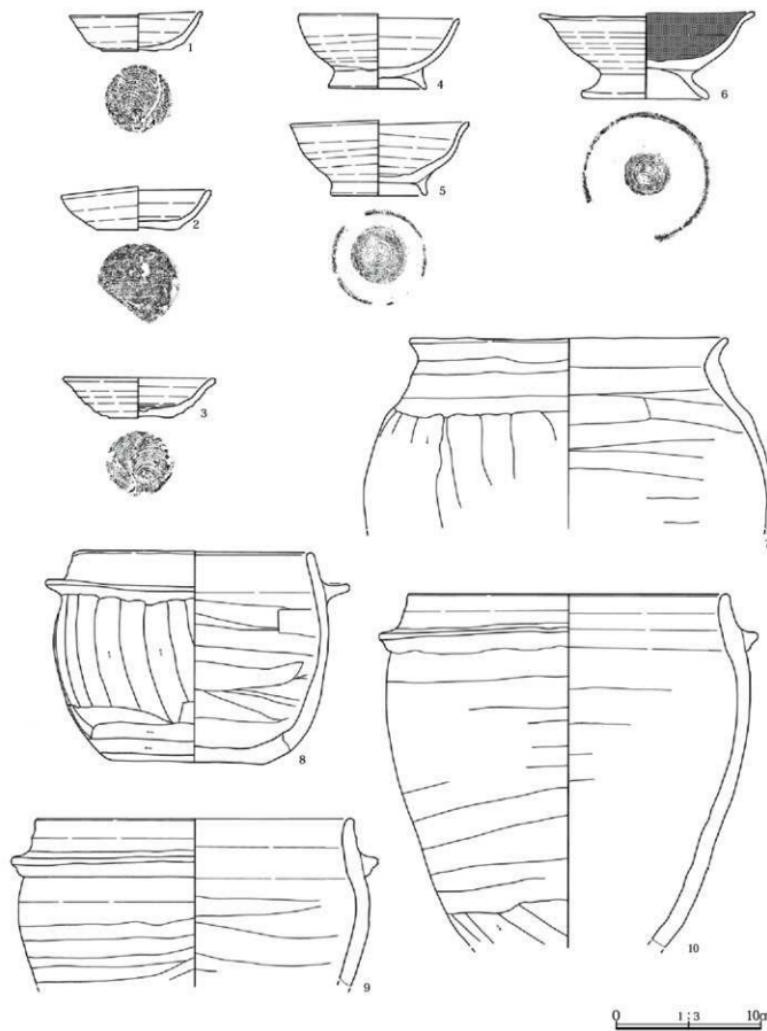


第35圖 35号竪穴建物出土遺物

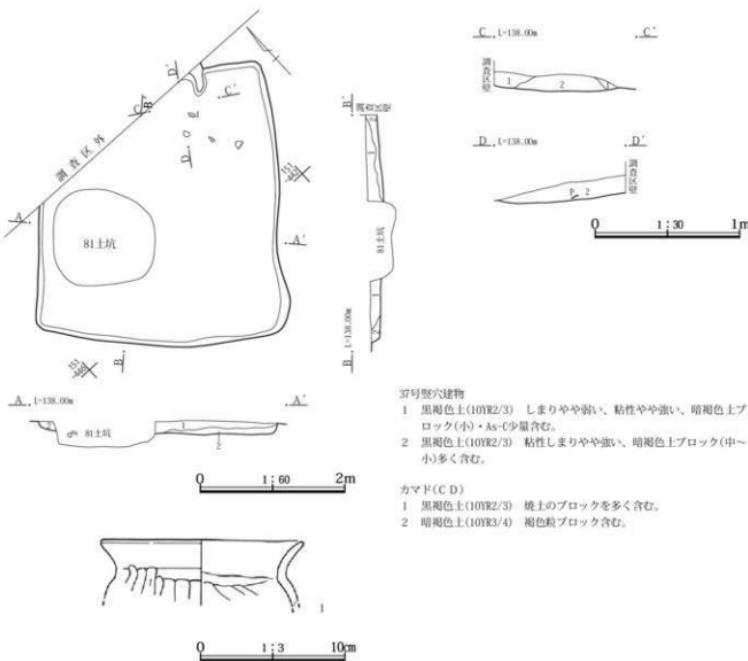


第88図 36号墳穴建物、カマド

第2節 建物、竪穴状遺構

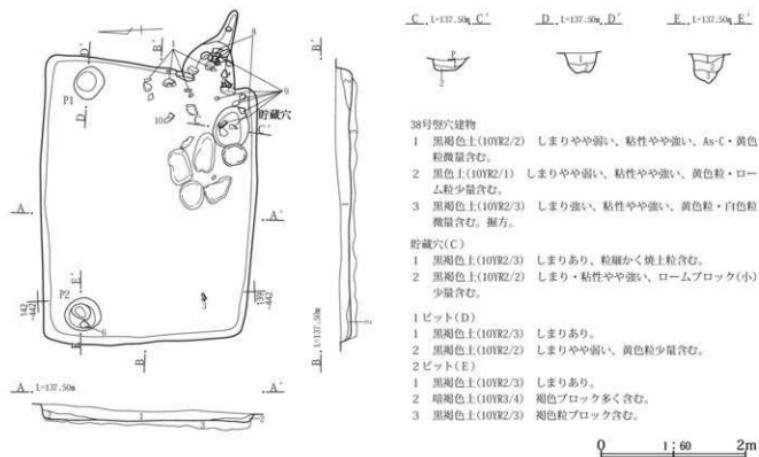


第89圖 36号竪穴建物出土遺物



第90図 37号竪穴建物、出土遺物

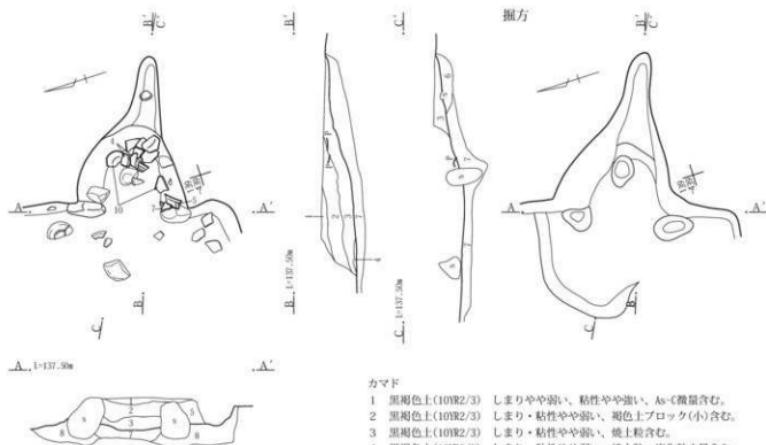
第2節 建物、堅穴状遺構



38号堅穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性やや強い。As-C・黄色粒微量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/1) しまりやや弱い、粘性やや強い。黄色粒・ローム粒少量含む。
  - 3 黒褐色土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い。黄色粒・白色粒微量含む。撋打。
- 防窓穴(C)
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、粒細かく佛土粒含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、ロームブロック(小)少量含む。
- 1 ピット(D)
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
  - 2 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、黄色粒少量含む。
- 2 ピット(E)
- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。
  - 2 喷褐色土(10YR3/4) 褐色ブロック多く含む。
  - 3 黑褐色土(10YR2/3) 褐色粒ブロック含む。

0 1:60 2m



カマド

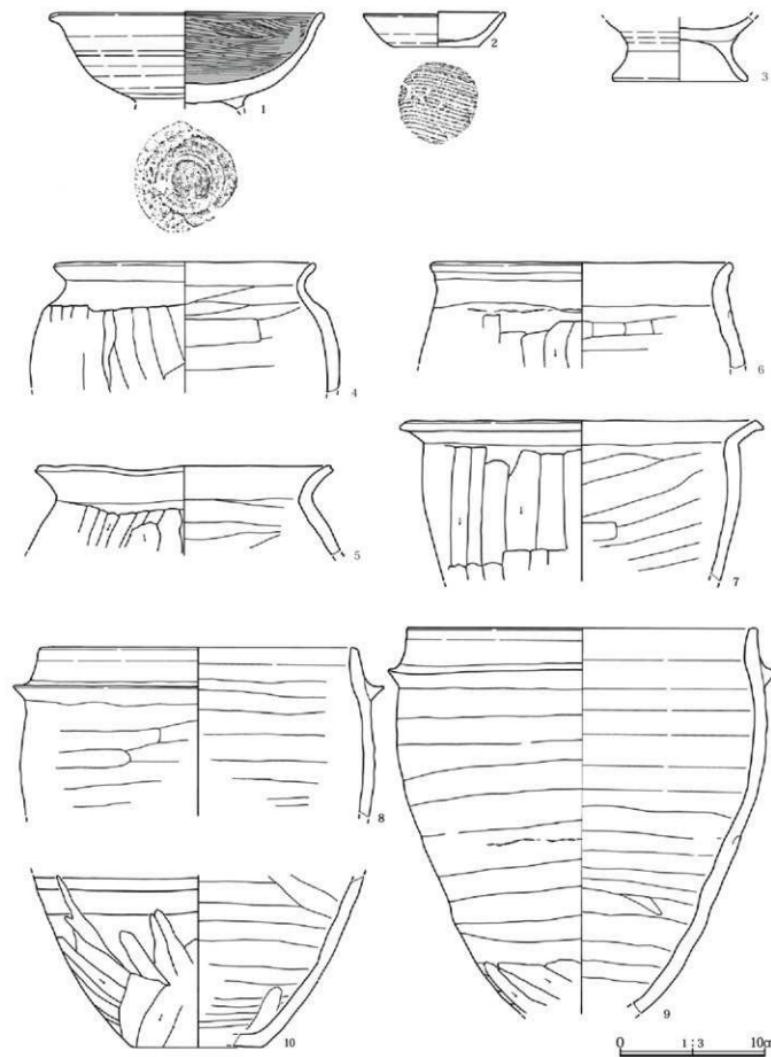
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い、粘性やや強い。As-C・粘土量含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、褐色土ブロック(小)含む。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、健上粒・炭化粒少量含む。
- 4 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、健上粒・炭化粒少量含む。
- 5 喷褐色土(10YR3/3) しまり・やや強い、粘性やや弱い。As-C・粘土粒微量含む。
- 6 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、褐色粉砂微量含む。
- 7 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、褐色粉砂微量含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、黄色粒極微量含む。

0 1:30 1m

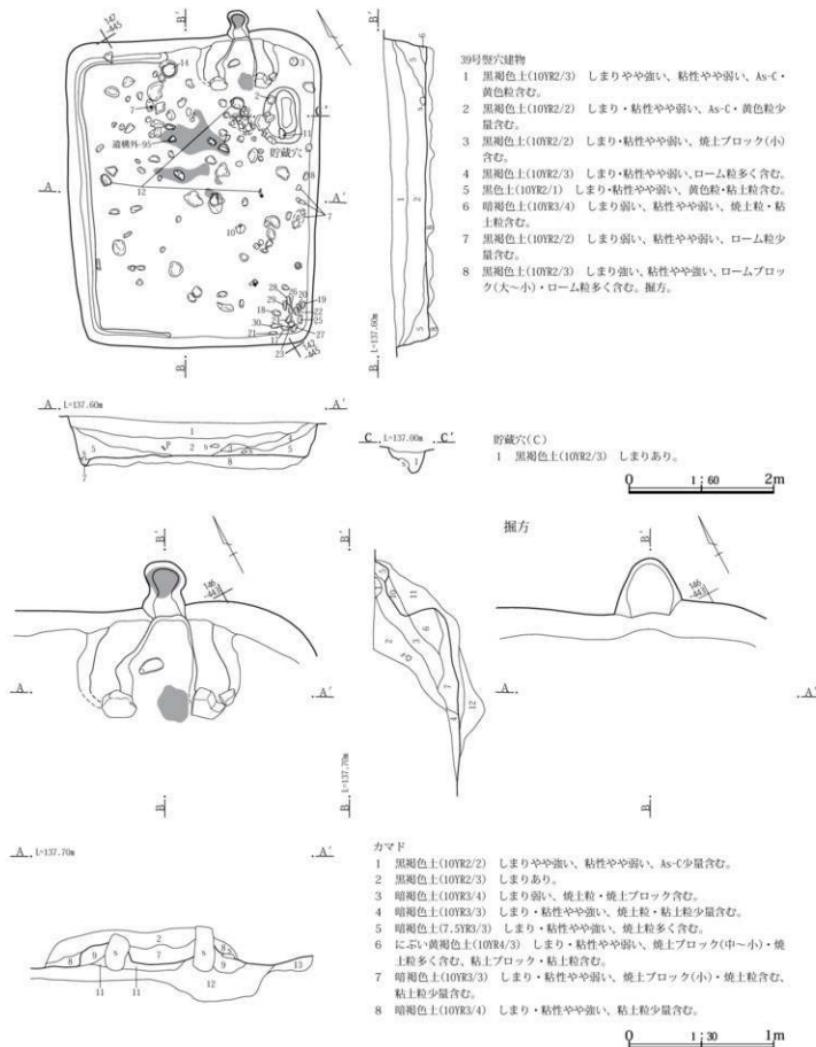
第91図 38号堅穴建物、カマド



第3章 確認された遺構と遺物



第92図 38号竪穴建物出土遺物

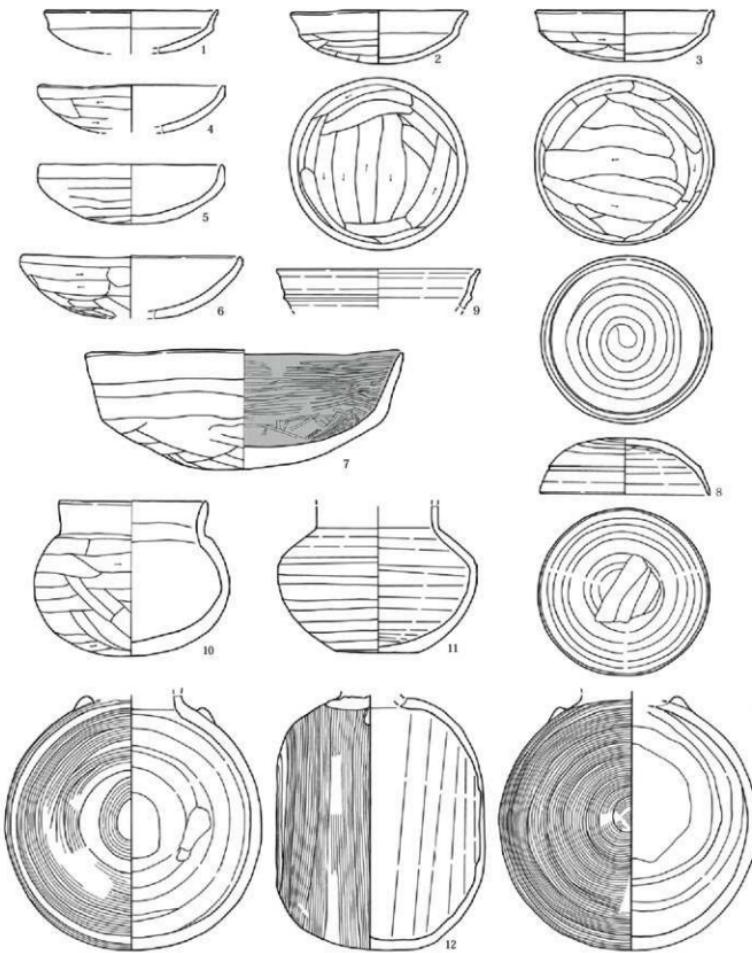


第93図 39号堅穴建物、カマド



### 第3章 確認された遺構と遺物

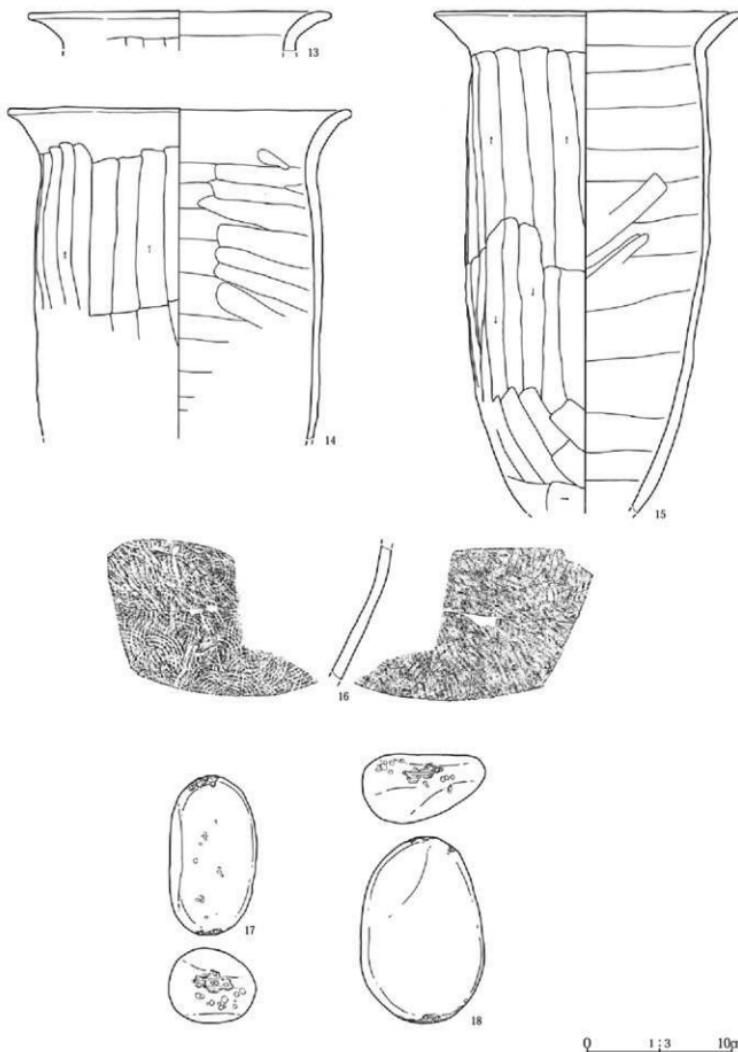
- 9 褐褐色土(10YR4/4) しまり・粘性やや強い、粘土主体、焼土ブロック(小)・焼土微量含む。  
 10 粘土主体、焼土ブロックを中心部に含む。  
 11 に赤い黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや弱い、焼土粒・粘土粒・炭化物粒・灰少量含む。



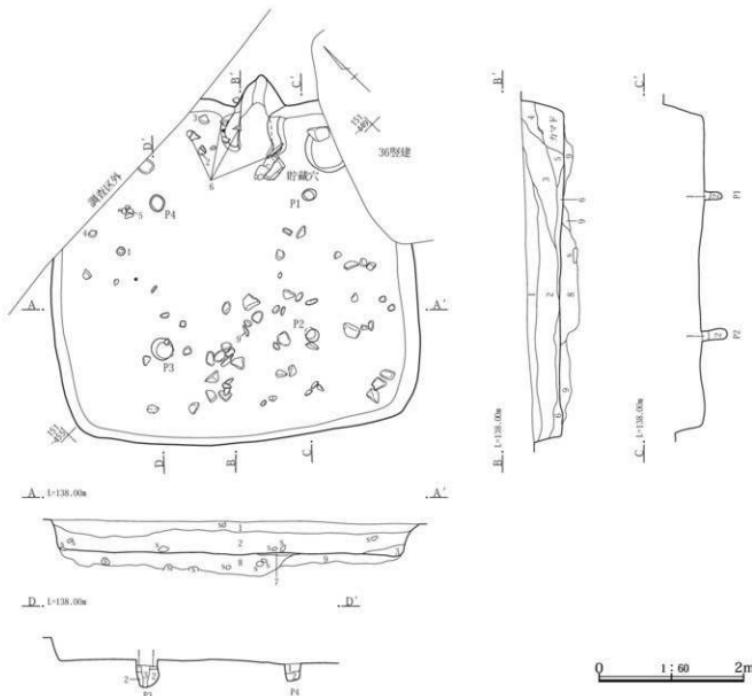
第94図 39号竪穴建物出土遺物(1)

0 1:3 10cm

第2節 建物、竪穴状遺構



第95圖 39号竪穴建物出土遺物(2)



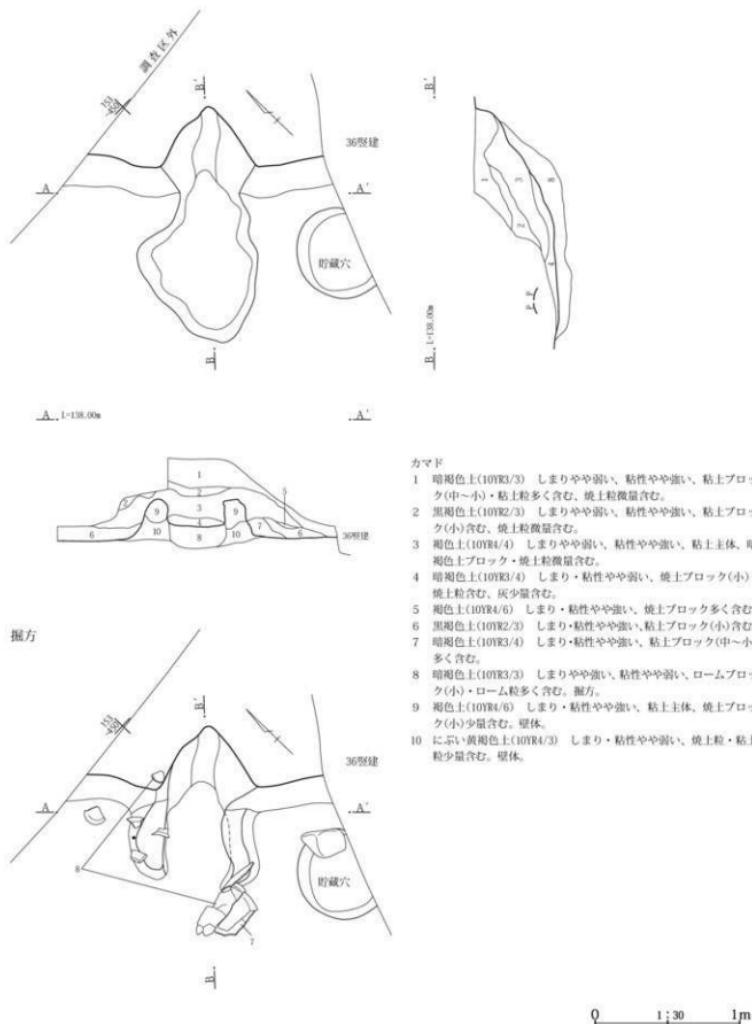
## 40号室穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い、As-C含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまり弱い、部分的に褐色ブロック含む。
- 3 黑褐色土(10YR3/4) しまり弱い。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い、粘土粒含む。
- 5 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、粘土粒極微量含む。
- 6 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。
- 7 黑褐色土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。掘方。
- 8 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック(中～小)・ローム粒多く含む、礫少量含む。掘方。
- 9 暗褐色土(10YR3/3) しまり強い、粘性やや強い、ロームブロック(大～小)多く含む。掘方。

## 1～4 ピット(C・D)

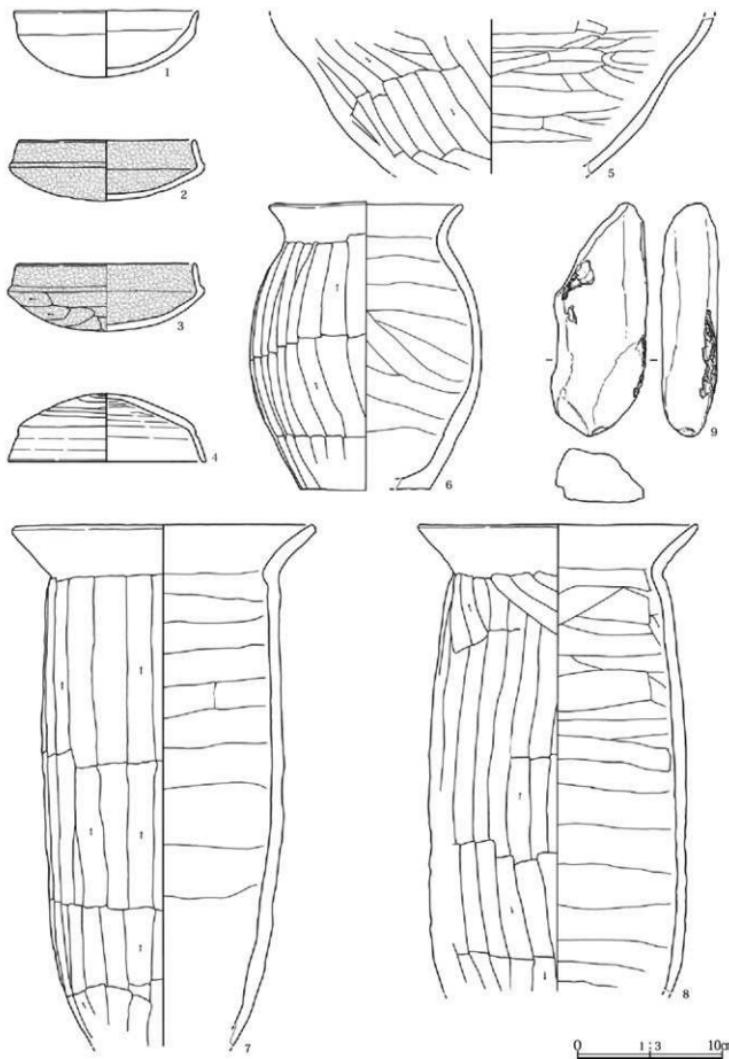
- 1 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、ロームブロック(小)・ローム粒含む。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性弱い、ローム粒微量含む。柱頭。

第96図 40号室穴建物



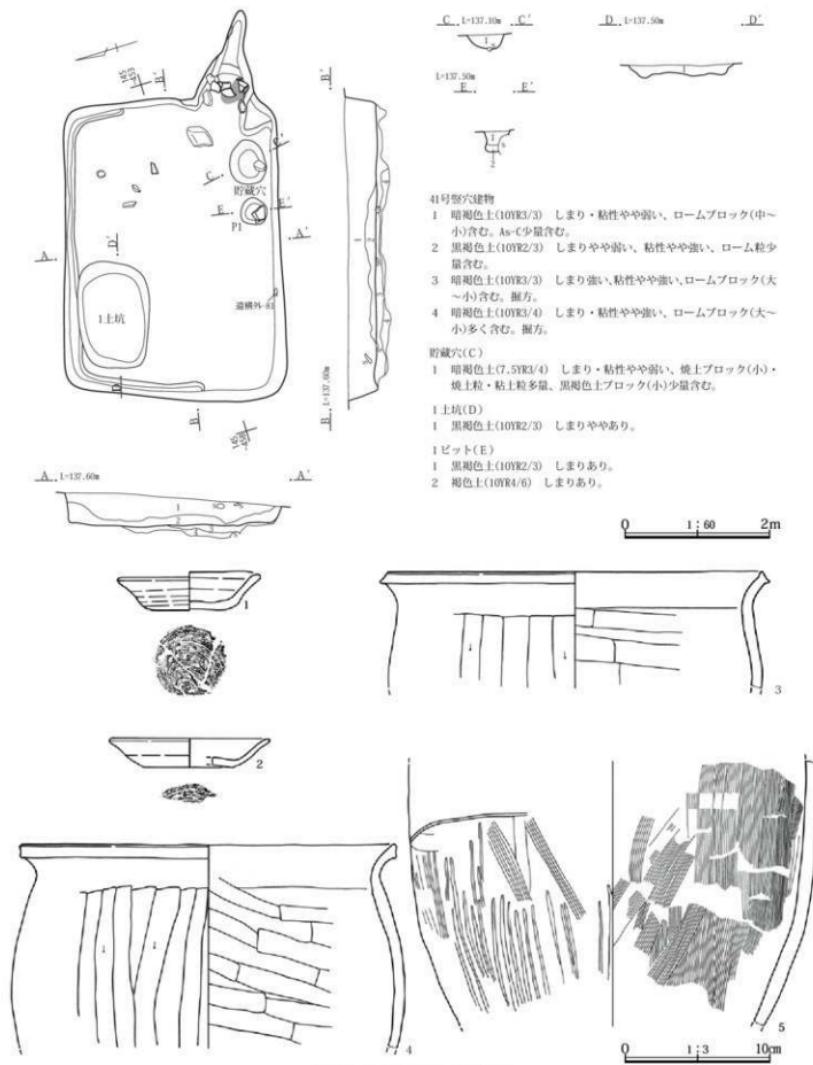
第97図 40号壁穴建物力マド

第3章 確認された遺構と遺物

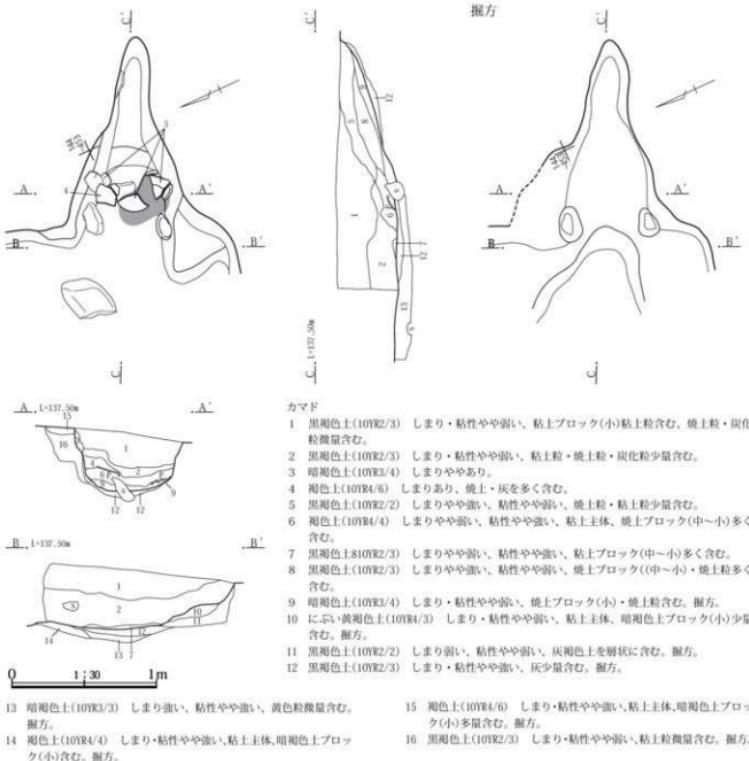


第98図 40号竪穴建物出土遺物

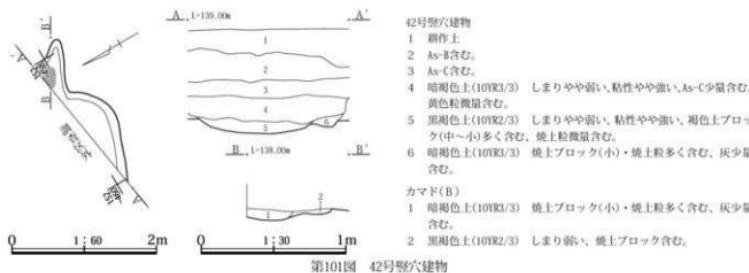
第2節 建物、竪穴状遺構



第99図 41号竪穴建物、出土遺物



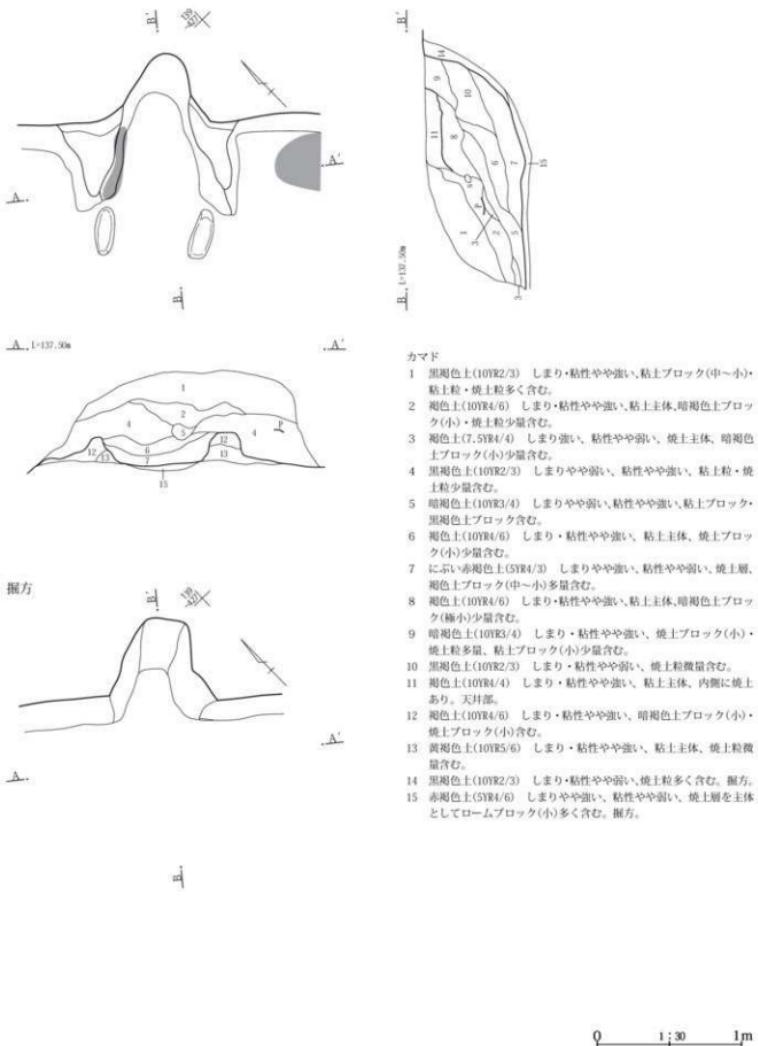
第100図 41号竖穴建物カマド



第101図 42号竖穴建物

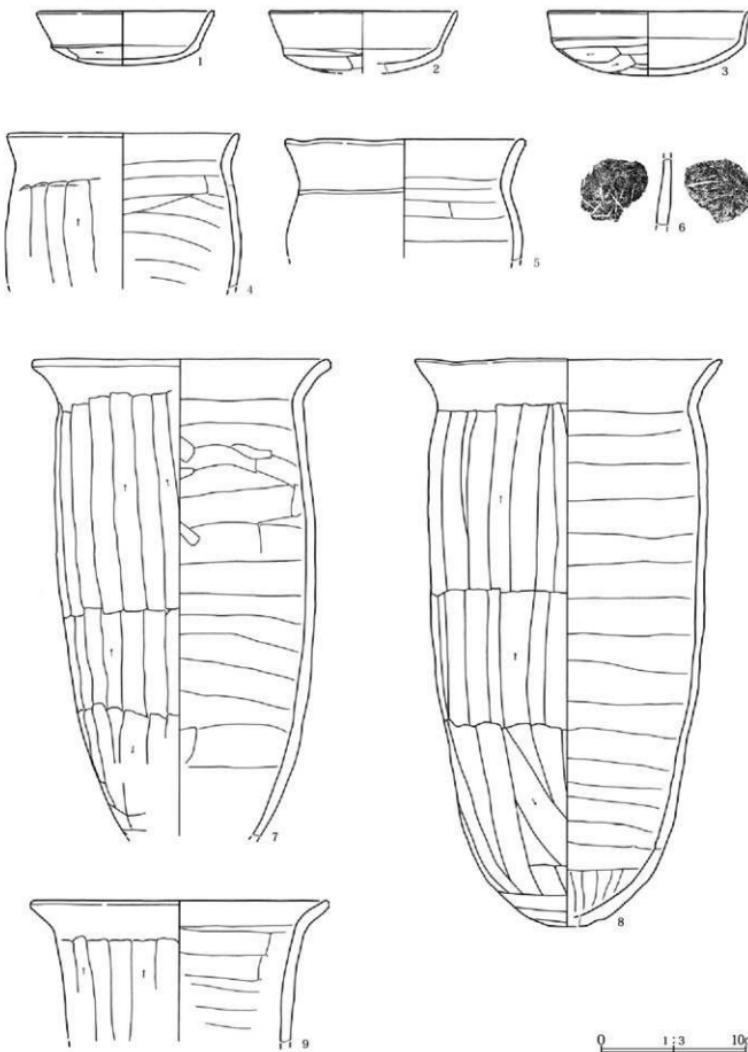


第102図 43号堅穴建物



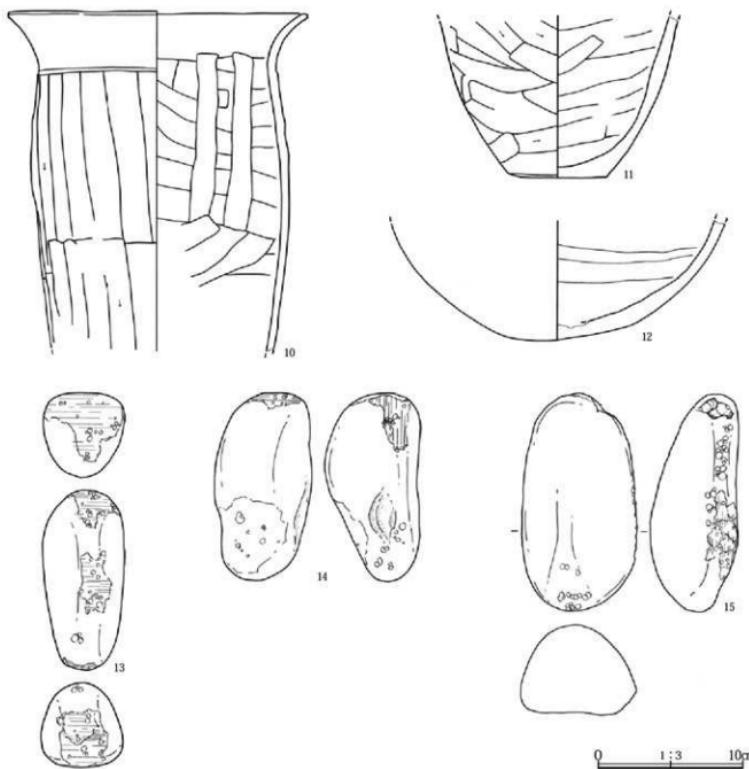
第103図 43号竪穴建物カマド

第2節 建物、竪穴状遺構

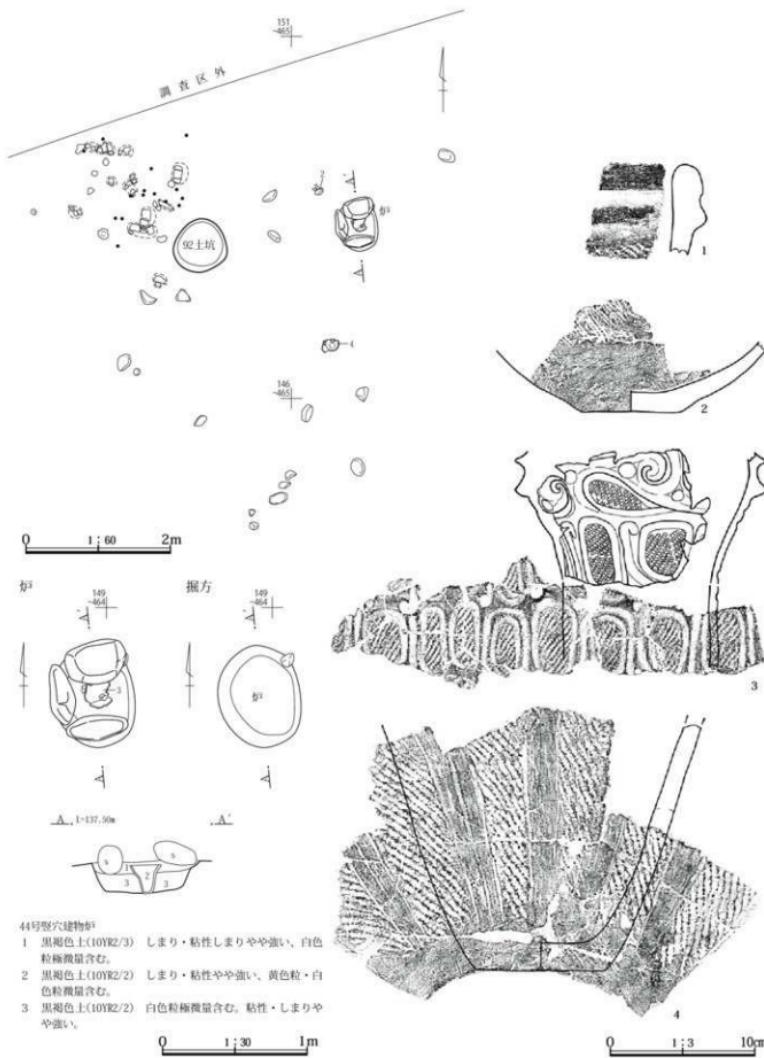


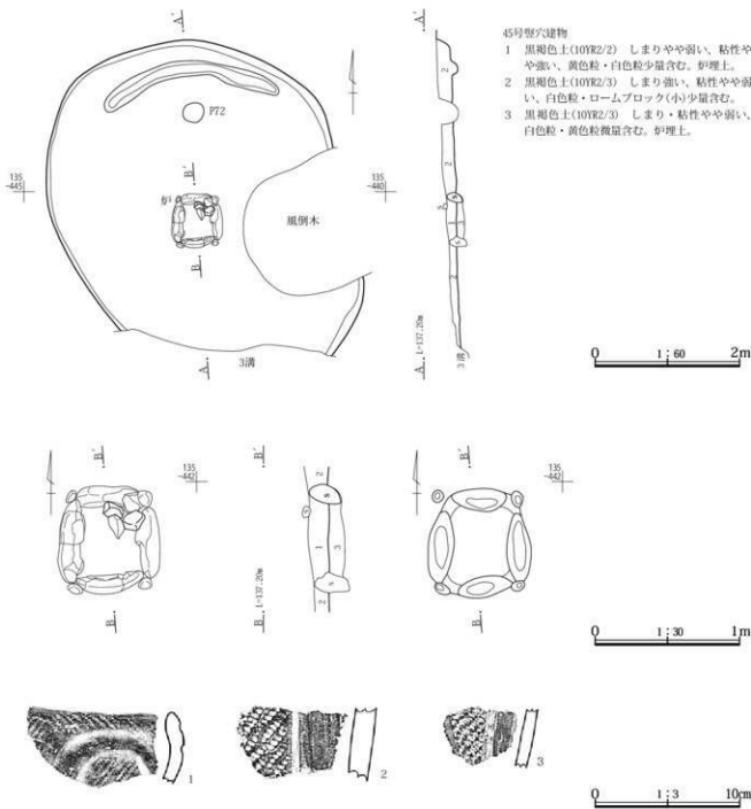
第104図 43号竪穴建物出土遺物(1)

0 1:3 10cm



第105図 43号竪穴建物出土遺物(2)





第107図 45号竪穴建物、出土遺物

## 2. 挖立柱建物

## 1号掘立柱建物(第108図、P.L.32)

位置：1号古墳の南側周溝に位置し、座標はX=40116から40122、Y=-81392から-81398である。

重複関係：1号古墳と重複するが、新旧関係は不明確である。また、19号ピットとも重複するが、19号ピットより古いことは確認されている。

規模・形状：桁行3間、4.95m、梁行1間、3.75mである。

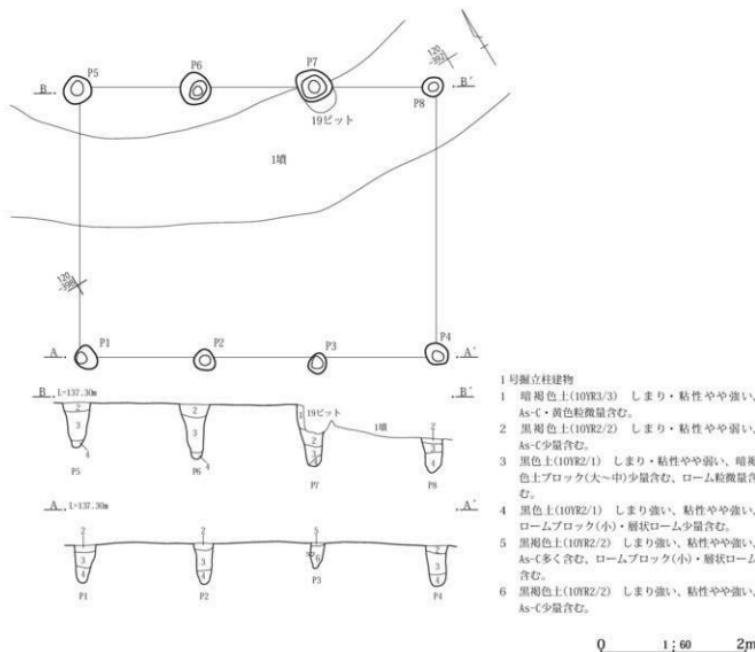
梁行の間が広いが、中間のピットは確認されなかった。

主軸方位：N-59°-W。

柱間：柱間はピット1、ピット2間から順に左回りで、1.7m、1.55m、1.65m、3.70m、1.65m、1.60m、1.65m、3.70mである。

遺物：ピットから遺物は出土していない。

時期：遺物の出土がないうえに他遺構との重複も少なく時期不詳である。



第108図 1号掘立柱建物



### 3. 穴状遺構

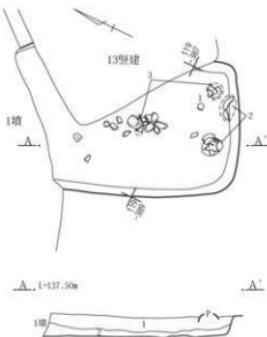
#### 1号堅穴状遺構(第109図、P.L.32・76、第7表)

位置：1号古墳周溝の南西部に位置し、座標はX=40117から40121、Y=-81386から-81389である。

重複関係：1号古墳、13号堅穴建物と重複し、いずれも本堅穴状遺構が古い。

主軸方位：重複により壁残存部分が少なく不明。

規模・形状：13号堅穴建物や1号古墳との重複により、規模と形状は不明であるが、形状は隅丸長方形を呈する可能性が高い。



#### 1号堅穴状遺構

- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、As-C含む、黄色粒微量含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、As-C・ロームブロック(小)・ローム粒少量含む。

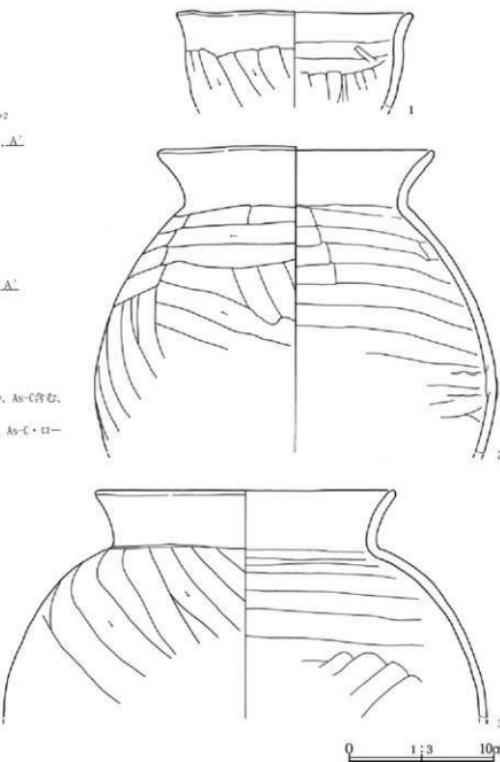
0 1:60 2m

面積：重複のため残存しない壁があり、面積は不明である。

主軸方位：重複により残存しない壁が多く不明である。

遺物：第109図1の土師器鉢、同図2の土師器壺、同図3の土師器壺の3点を図示した。土師器壺は南側壁際の底面から約10cmから20cmの2地点から出土した破片が接合している。また、土師器壺は東隅と中央部の底面上21cmから26cmから出土した破片が接合している。

時期：杯類がなく詳細不明であるが、6世紀代の所産であろう。



第109図 1号堅穴状遺構、出土遺物





### 第3節 古墳

#### 第3節 古墳

1号古墳(第110・111図、P.L.33・76、第7表)

**位置と調査前の状態：**1区中央付近に位置し、座標はX=40119から40134、Y=-81385から-81401である。調査前の1号古墳は、耕作地として利用する際に平夷されていたようで、その存在を推定できる状態ではなかった。

**重複：**14号竪穴建物、15号竪穴建物、1号掘立柱建物、1号竪穴状遺構、22号土坑、25号土坑、31・32号土坑と重複する。新旧関係は、14号竪穴建物と22号土坑より古く、15号竪穴建物、1号竪穴状建物、25号土坑、31・32号土坑より新しい。また、調査時の状態では重複していないが、13号竪穴建物、10号竪穴建物とは極めて近接している。なお、1号掘立柱建物との新旧関係については不明確であった。

**墳丘と周溝：**調査以前に耕作地であったため既に平夷され、墳丘はまったく残存せず、周溝のみが確認できた状態である。周溝規模は、東西方向の内法で12.00m、外法で15.41mである。南北方向の内法は12.10m、外法は15.03mである。残存していた周溝の深さは、21cmから69cmであった。

**埋葬施設：**後世の平夷が著しく、埋葬施設は残存していなかった。しかし、後述する2号古墳の場合、横穴式石室開口方向の周溝内に礫集中が認められた点を考慮すると、礫集中部付近に横穴式石室の開口部が存在した可能性を推測できる。

**出土遺物：**周溝内からの出土遺物は少なく、出土位置を記録した6点の遺物には円筒埴輪片を含むものの、いずれも小片であり、明らかに古墳に伴うと考えられる状態ではなかった。出土位置を記録した遺物6点のうち5点は周溝北側から、他の1点は南南西の礫集中部分から出土している。北側から出土した遺物のうち、1点は円筒埴輪片(第111図4)であった。また、礫集中部で出土位置を記録した遺物は縄文土器片であり、古墳や埋葬施設に関係するものではない。また、図示した土器類も小片であり、周囲の竪穴建物に関連する土器との判別は不可能といえる。

本古墳出土遺物で古墳に関係するのは円筒埴輪(第111図4)であるが、非掲載埴輪も12点(256g)と少なく、本

古墳に伴うとは判断しにくい状態である。そこで、以下に1区の遺構内から出土した埴輪点数を記し、遺構の位置関係からその可能性を見てみることとする。

1区：29点(606g)、3号竪穴建物：3点(65g)、6号竪穴建物1点(26g)、9号竪穴建物2点(26g)、10号竪穴建物：2点(42g)、11号竪穴建物：2点、(45g)、13号竪穴建物：8点(175g)、14号竪穴建物：2点(39g)、1号竪穴状遺構：1点(57g)、21号土坑：1点(第166図1)、22号土坑：7点(191g)と第166図2、3号溝：2点(71g)である。

出土位置を特定できない1区出土を除くと、1号古墳と重複もしくは近接するのは3号竪穴建物、9号竪穴建物、10号竪穴建物、13号竪穴建物、14号竪穴建物、1号竪穴状遺構、22号土坑であり、1号古墳出土が最も多く、ついで古墳と重複もしくは近接する遺構からの出土量が多い傾向が窺える。このことから、本古墳には埴輪が樹立されていた可能性が高いものと考えておきたい。

**時期：**墳丘が古くから平夷されていたようで、埋葬施設が残存しないうえに周溝内からの出土土器も古墳に伴うとは考えにくく、周溝内出土遺物から年代推定を行うことは困難である。ただ、竪穴建物との重複関係からは、6世紀代と推定した1号竪穴状遺構より新しく、6世紀後半と推定した14号竪穴建物より古いという結果となり、1号古墳は6世紀前半の円墳と考えられる。また、この年代は埴輪が伴うとした推定と矛盾しない。

2号古墳(第112~115図、P.L.33~35、第7表)

**位置と調査前の状態：**3区北側中央に位置する。座標はX=40150から40157、Y=-81419から-81426である。調査前の2号古墳は、耕作地として利用する際に平夷されたようで、その存在を推定できる状態ではなかった。しかし、表土掘削後には礫が多く出土し、「集石遺構」のような様相を呈していた。

**重複：**1号古墳と異なり、他遺構との重複はない。

**墳丘と周溝：**盛り土は確認されず、地山を掘り込んだ横穴式石室基底部と周溝が残存するのみであった。周溝の規模は、石室と直交方向の内法で4.90m、外法で7.42m。石室と同一方向の外法で7.30mである。

**埋葬施設：**南南東に開口する無袖形横穴式石室の基底部が確認された。奥壁が残存しないが、棺床面に敷き詰め



### 第3章 確認された遺構と遺物

たと推定される川原石が側壁基底石の延長線上に弧を描くように存在することから、この外側に奥壁が存在したと推定される。石室長は奥壁が存在しないため不正確であるが、3m前後であろう。側壁基底部のみの残存で石室構造は不明瞭であるが、奥壁が存在したと推定される部分から約1.5m付近で幅が狭まっており、この位置までが玄室、この箇所から大き目の礫石と推定される石が存在する場所までが羨道であろう。玄室長は約1.5m、最大幅は89cmである。羨道は長さ70cmほどで、幅は42cmである。石室の基底石は川原石を主体とし、主に小口を内面に向ける小口積みである。

石室掘方底面には側壁基底石の据え付け穴が確認されているが、奥壁部分には認められなかった。また、石室掘方の奥壁側は直線的ではなく、丸みを帯びている。この部分における周溝底との比高差は16cmで、残存周溝は深さ43cmである。

石室開口部が存在する南側を中心として、周溝内には石室由来と考えられる石が多く存在していた。石室に由来する石は、土層断面の2層に存在し、3層堆積後に石室が崩れたか崩したものと解される。これらの石材中から、明らかに古墳時代以降と判明する遺物が出土しておらず、石室が崩れたか崩した時期を推定する根拠は得られなかつた。

**出土遺物：**横穴式石室内はもとより、周溝内からも古墳に伴うと判断される遺物は出土しなかつた。そのため、本古墳出土として図示した土器は、周辺の集落に由来するものか古墳の時期を示すものは判然としない。また、本古墳から出土した埴輪は、円筒埴輪口縁部小片1点(22g)のみであり、3区全体でも他に出土しておらず、2号古墳には埴輪の樹立が行われていなかつたものと推測される。

**時期：**年代を推定する根拠に乏しく、周溝が周全するなど疑問もあるが、石室構造と埴輪が作わない可能性が高いことから7世紀代の可能性があろう。

#### 3号古墳(第116～134図、P.L.36～43・76～90、第7表)位置と調査前の状態：調査区北端の最高所に位置する。

座標はX=40167から40177、Y=-81420から-81430である。調査前の調査区部分は宅地として利用され、擁壁で囲まれて周囲より1段高い状態であった。また、周溝

内から埴輪が出土した箇所は、一段高い宅地に入るために階段が設置され、擁壁が切れていた場所であった。本古墳が確認された箇所以外は削平されており、部分的ではあるものの、平夷されていない古墳が調査された意義は大きい。

**重複：**調査区内において重複する遺構は確認されない。

**埴丘と周溝：**調査区の関係で一部の調査であるうえに、周溝が整った弧を描いていないため、正確な規模は不明である。円墳として確認された範囲からあえて推定すると、周溝内法直径約15m、周溝外法直径約17.5mから18m前後であろう。周溝の規模は、土層断面Aでは幅1.1mから1.65m、外縁との比高差は50cmから84cmである。

埴丘は土層断面観察において、厚い部分で盛土が77cm確認されているが、埋蔵施設と推定される石が存在した部分の盛り土は薄い。埴丘部分の地山は東に向かって傾斜しているのか、埋葬施設のものと推定される石が存在する箇所に比して、埴丘裾部分の地山がやや低くなっている。

埴丘裾部分からは、円筒埴輪基底部(外周間の距離)が約20cm間隔で樹立された状態で残存しており(第116図)、基底部埋設箇所と周溝間の埴丘裾部には円筒埴輪片が散乱した状態で出土している。しかし、周溝内からは埴丘部ほどの大きさの破片は出土していない。唯一、第121図5の口縁部片が周溝部からの出土であるが、後述する周溝内に残置された埴輪群埋没後に堆積した土層からの出土である(P.L.38-7)。また、出土位置を記録した12点が接合した須恵器壺(第122図16)も明らかに出土位置が高く、残置埴輪群埋没後に周溝部分に散らばったといえる(P.L.38-8)。

**埋葬施設：**調査区が狭いうえに擾乱や後世の削平により残存状態が不良であるが、埴丘内で確認された浅い掘り込みと石や石の据え付け穴と推定される跡みが石室掘方と推定される。南側は道路により削平されていて残存しないが、南寄りに開口する横穴式石室であろう。中央部で出土した大きな石は奥壁か天井石かもしれない。石室掘方は底面付近が地山を掘り込んでいる。なお、埋葬施設に作る遺物は出土していない。

**遺物出土状態：**埴丘に樹立された埴輪の出土状態については前項で触れたため、ここでは周溝内出土埴輪について触ることとする。

3号古墳の周溝内からは、埴丘に樹立した埴輪とは異なり、周溝内の幅1.4m、長さ2.2mの範囲から埴輪23点と須恵器2点が密集し、将棋倒しのような状態で出土した。内訳は馬形埴輪1体、馬子と推定される人物埴輪1体、朝顔形埴輪4点、普通円筒埴輪(以下円筒埴輪)17点、須恵器提瓶1点、須恵器直口壺1点である。埴輪は、全体の傾向として北西方向に倒れた状態で出土している。埴輪は器種毎にまとまりが認められ、周溝外側に沿うように朝顔形埴輪(第127図34~37)が並び、北側から南側にかけて円筒埴輪(第123~126図17~33)を置き、最も南に人物埴輪(第132・133図39)、人物埴輪の西側で周溝内壁に立てかけたような状態で馬形埴輪(第129~131図38)が置かれていた。また、最も北端の円筒埴輪口縁部内からは須恵器提瓶(第134図41)が正位で出土し、その隣に接するように須恵器直口壺(第134図40)も正位で出土している。なお、須恵器提瓶は底部外面側からの叩打によって底部穿孔を行った際に割れが生じている。出土状態写真を見ると、出土時には接合状態で出土していなかったようである(P.L.39-2)。

出土した埴輪のうち、馬形埴輪の右臂鏡板や馬蹄、人物埴輪の美豆良や腕、鎌や帶の一部等が剥落していたり、周溝内側に面した馬形埴輪右側面の赤色塗彩残存状態が不良であることから、埋納ではなく、貼り付けた箇所が剥落する程度の期間開放状態であったものと考えられる(P.L.41)。また、既に述べたように、周溝壁に立てかけたような状態も見受けられることから、埋設や周溝埋没後又は埋没中に掘削した土坑内に置いたものとは考えにくい。

周溝内に置かれた円筒埴輪と3号埴丘に樹立した円筒埴輪とは器高や器内の厚さ、胎土が明らかに異なるうえに、置かれた箇所の埴丘には埴輪が樹立されており、3号古墳造営に伴って準備されたとは考えにくい。従って、本古墳周辺での使用目的として準備したものとの、何らかの理由で使用されずに残置物と化し、埋没したものと推定される。そして、残置物と化した埴輪内に5区3号古墳に樹立された埴輪片が1点も混じっておらず、埋没後に須恵器(第122図16)や3号古墳に伴う円筒埴輪(第121図5)が周溝内堆積土上層に堆積したものと考えられる。なお、残置埴輪出土範囲外の周溝内からも、埴丘部出土埴輪と同種の埴輪片はほとんど出土せず、

細片が少量認められたのみである。従って、埴輪集積時にこの部分を清掃した可能性は低いものと考えられる。

次に立てて並べ置いたか否かであるが、須恵器が正位で出土していることや馬形埴輪と朝顔形埴輪が周溝に立てかけられたような状態であること、最も北側の埴輪がほぼ横になっていることから、出土状態が集積した状態をほぼ保っていたと推定している。

まとまって出土した埴輪上からは埴輪片が出土しているが、周溝外壁に沿って置かれた埴輪の口縁部片を中心して中央部付近から出土している。これに対して、西側(周溝内壁側)に置かれた埴輪と接合する埴輪片は出土しておらず、周溝外側から中央部付近が削平され、その際に破碎された上部破片が中央部に残っていたものと推測される。

人物埴輪は帯より下位が正面を東南東方向に向けた状態で原位置を留めていたが、他は破片の状態で出土している。人物埴輪の破片分布を細かく見ると、帯部分から剥落した小物入れと右腕が基底部付近から出土している。これに対して左腕は帯より下位の正面を前として左脇と左側20cmほどの場所から出土している。また、美豆良は左腕から更に北側に左側、右側の順に出土していた。この位置関係は、帯以下の基底部が北側(人物からみて左側)に傾いており、この状態から剥落したと考えるのが妥当であろう。これを裏付けるように、胴体の破片は腕から美豆良にかけての範囲から出土している。但し、頭部は見つかっておらず、上部削平時に欠失したものと考えられる。美豆良は接合が不十分であったためか、残置後の早い時期に剥落していたようである。

#### 埴丘出土埴輪(第121・122図、P.L.76・77、第7表)

**概要:** 墳丘部には埋設された円筒埴輪基底部が8点確認され、埴丘出土埴輪片との接合も確認されている。加えて、その胎土、色調、器厚等はいずれも同様な特徴を有しており、同一地域の窯から供給されたと考えられる。そのため、埴丘出土として掲載した埴輪に他の古墳に樹立された埴輪が混入している可能性は極めて低いものと考えている。非実測資料を含め、形象埴輪は認められない。ただ、第121図7は突帯間が長く、朝顔形などの可能性があるが、明らかに朝顔形と判断できる埴輪は認められない。



### 第3章 確認された遺構と遺物

**胎土：**本古墳の墳丘出土として掲載した埴輪の胎土は1種類であり、同一地域から供給されたと考えられる。胎土中には長径5mm以下の赤色粘土粒と白色粘土粒、及び黒色鉱物粒を多く含む。なお、海綿骨針と片岩は確認できない。本報告では「胎土A」と呼称する。

**法量：**墳丘断面に埋設した埴輪基底部は8点確認されているが、全体形状が把握可能な個体は第122図15の1点のみである。しかし、この個体もかなり歪んだ形状を呈し、口縁部の最も低い部分と最も高い部分が欠失している。このため、正確な高さを把握することが不可能な状態である。残存部分における第122図15の法量は、直接計測値で器高28.0cmから29.0cm、口径は23.6cm、底径は12.4cmから13.6cmである。口縁部径を直接計測できる埴輪は1点のみであるが、底径が直接計測可能な個体は他に6点あり、第122図14が13.0cmから13.5cm、第122図10が13.5cm、第122図9が12.5cm、第122図11が11.5cmから12.5cmと近い法量である。器厚は基底部で15mm前後、口縁部で10mm前後となっている。

**突帯：**唯一全体形状が判明する第122図15の突帯は2条で、2条3段の円筒埴輪である。他の個体も底径や器厚が近似し、2条3段の円筒埴輪と考えられる。突帯形状は台形から「M」字状を呈し、2段の突帯が残る2点の数値は以下の通りである。

第122図14 1段：貼付幅23mmから28mm、突出部幅11mmから12mm、突出部高3.3mmから3.8mm。

2段：貼付幅22mm、突出部幅10mm、突出部高3.8mm。

第122図15 1段：貼付幅25mmから29mm、突出部幅10mmから12mm、突出部高3.3mmから3.7mm。

2段：貼付幅21mmから24mm、突出部幅10mmから14mm、突出部高3.3mmから4.0mm。

1段目の突帯が残る第121図7は、貼付幅21mmから24mm、突出部幅12mmから13mm、突出部高5.0mmから6.5mm、第122図8は貼付幅33mm、突出部幅12.7～15.4mm、突出部高6.1mmである。

2段目突帯が残る第121図4は貼付幅20mm、突出部幅8mm、突出部高2.7mm、第121図5は、貼付幅22mm、突出部幅11mm、突出部高4.7mmである。以上、数値から見てみても、突帯は全体に幅が広いものの総じて高さは低いことが窺える。

**線刻：**線刻は第121図2、第121図4、第122図15の3点に認められ、いずれも3段目の口縁部外面に弧状線を刻んでいる。線幅は上端で3mmから4mmと幅広い。

**基底端部調整：**非掲載を含め、本古墳に伴うと判断した円筒埴輪に基底端部調整は認められなかった。

#### 周溝内出土埴輪(第123～133図、P L. 77～89、第7表)

**概要：**周溝内に置かれた状態で出土した23点の埴輪はすべて掲載した。非掲載とした埴輪細片のほとんどは掲載埴輪と同様な特徴を有しており、掲載埴輪と接合し得なかった同一個体と考えている。また、番号を付して取り上げた埴輪中に3号墳墳丘に樹立した埴輪片の混入は認められない。

**胎土：**周溝内に置かれた状態で出土した形象埴輪を含む23点の埴輪は、すべて同様の胎土であり、同一地域の窯から供給されたと考えられる。その胎土は、長径15mm以下でKrumbeinの円磨度印象図による円磨度0.5程のチャート碟を含む点が最大の特徴である。また、長径6mm以下の砂岩と思われる白色碟も含む。他にも夾杂物を含むものの、粒径が小さいうえに含有量も少なく目立たない。なお、海綿骨針と片岩は認められない。本報告書では「胎土B」と呼称した。胎土Bは更に色調で浅黄橙色(マンセル表記の7.5YR8/6～10YR8/4中心)と橙色(マンセル表記の2.5YR6/8中心)の2種に細分が可能で、前者を「胎土B 1」、後者を「胎土B 2」とした。B 1類は円筒埴輪12点と朝顔形埴輪4点、馬形埴輪、人物埴輪各1点が該当する。これに対してB 2類は円筒埴輪5点のみと少ない。

円筒埴輪には明瞭に色調が異なる2種が存在するが、胎土の特徴や大きさ、各段の比率、ハケメ、線刻などの特徴が同じであり、同一の窯で生産されたと考えられる。これを裏付けるように、第126図33(P L. 80)は本体が胎土B 2類で突帯と口縁部が胎土B 1類となっており、同一窯で焼き上がりの色調が異なる二種の粘土を使用した焼成が行われていたことの左証となろう。

#### 円筒埴輪

円筒埴輪は17点出土し、全てを図化・掲載した。円筒埴輪は17点すべての全体形状が把握でき、その構成は2条3段である。個体説明においては基底端部から1段目



### 第3節 古墳

の突帯までを基底部、突帯間を胴部、2段目の突帯以上を口縁部と称した。また、各部位の計測値は実測図に表現された範囲において等倍実測図上で計測を行い、その詳細は以下の通りである。

**高さ**：基底端部接地面から口縁端部までの最低値と最高値の平均。

**口径**：口縁端部上端間の距離。

**底径**：基底端部外側間の距離。

**基底部**：実測図器形側と断面側の基底端部から1段目突帯中央間距離の平均値(小数点以下は四捨五入)。

**胴部**：実測図器形側と断面側の突帯中央間距離の平均値(小数点以下は四捨五入)。

**口縁部**：実測図器形側と断面側の2断面突帯中央と口縁端部上端間距離の平均値(小数点以下は四捨五入)。

**法量**：第7表 掘出遺物観察表を参照。

**突帯**：台形、M字、三角形状が認められ、形状が一定しない個体も存在する。また、基底部からの高さが一定せず、蛇行するように貼り付けられた突帯も認められる。

**外面調整**：縦ハケで2cm間に18~22本の条線とやや細かいが、その間に幅広の条線が入る点が特徴で、周溝内出土埴輪すべてに認められる。

**内面調整**：基底部内面から胴中部位付近までナデで、それ以上は斜位ハケである。少量ではあるが、口縁端部附近に横位ハケが認められる。粘土に水分を多く含んだ状態で1段目突帯の貼り付けを行った個体が認められ、器壁が内面に盛り上がったり、盛り上がった部分を押えている個体が認められる。

**透かし孔**：2段目面突帯下に一対の円孔を設けているが、楕円形や半円の崩れたような円孔も認められる。なかには、第123図19のように、上部が突帯に接して直線状を呈する例も存在する。

**線刻**：線刻する部位はすべて3段目の口縁部であり、場所は外面と内面の2種が存在するが、内外両面に施す例は認められない。線刻は外面が「○」内面が「-」である。外面線刻は第128図25・27の2点であり、内面線刻は第128図18・19・21・22・23・24・25・28・30・31・32・33の12点と多い。また、第128図25は長短2条の線刻を施していた。線刻が施されない円筒埴輪は3点と少ない。但し、第123図20は、線刻部位である円孔上の口縁部分

が欠損しており、線刻が存在した可能性はあり得る。

**基底端部調整**：基底端部調整は内面のヘラケズリ(第124図23、第126図30)と端部内外面の指押え状ナデ(第123図19、第124図22、第125図29、第126図30)の2種が認められる。なお、第126図30には両者が併存するため、両者合わせて5点と客体的である。

#### 朝顔形埴輪

朝顔形埴輪は4点すべての全体形状が把握でき、胎土はB1類である。構成は4条5段で1段と2段突帯間上部の対向する位置に1対の円孔を穿っている。3段目突帯の位置がくびれ部であるが、くびれは極めて弱い。

**法量**：第7表 掘出遺物観察表を参照。

**突帯**：台形、M字状、「△」形状が存在する。その形状は1個体の中でも混在し、段ごとの傾向も見受けられない。また、同一段においても一定しない部分も存在する。

**外面調整**：外面調整は縦ハケで、第2突帯と第3突帯間で継いでいる。突帯は縦ハケの後に貼付し、ナデ調整を行っている。外面調整ではないが、第127図37の2段目突帯の一部に布状痕が認められる。

**内面調整**：内面はハケ後ナデ調整であり、口縁部内面上位に斜めから横ハケが認められる。口縁部下位以下は斜めナデ調整である。口縁端部はいずれもハケ後ヨコナデで仕上げている。

**透孔**：4点すべて2段目の突帯下に接して一対の円孔を設けている。但し、第172図34のみは上部円弧が緩く、へら使いが半円透かしを思わせる。形状としては不整橢円形であるが、半円の名残のように見える(P.L.81)。

**焼成**：第127図37を除く3点(第127図34・35・36)は、基底部一方の器表が黒色を呈する箇所が認められ、第127図35と同36についてはその箇所が溶けたように欠損していた。この部分は火裏側の下部であったと考えられ、火のまわりが弱く、焼成不足であったものと推測される。

**基底端部調整**：4点共に基底端部調整は認められない。

**素地補修**：第127図36の口縁接合部に沿った両側の内外面に粘土を薄く貼り付けたような痕跡が認められ、その上にはハケメが認められる。以上のことから、製作時に素地補修が行われたものと判断される。

**線刻**：4点の朝顔形埴輪は完存ではないが、欠損部が少ないため線刻は施されていないと判断される。



### 人物埴輪

**特徴：**人物埴輪は調査区全体においても他に破片がなく、1体のみの出土である。人物埴輪は2段の円筒上に腰以上を表現した立ち姿の男性上半身像である。頭部と顔は欠失するが、剥落した下げ美豆良が左右の鎖骨にあたる箇所に垂下して接合する。下げ美豆良の前側のみ赤色塗彩で髪を巻いた表現がなされる。首部分では襟や首飾りの表現やこれらの剥離痕は認められない。胸部から腹部においても粘土帶等貼り付けによる表現は行われていないが、前面は赤色塗彩で左衽と思われる表現と左側に斑状の赤色塗彩が施されている。一方、右半は欠損部が多く詳細不明であるが、右肩部附近に赤色塗彩が見受けられ、右側にも斑状の赤色塗彩が存在した可能性がある。左右の腕は中実の粘土組を肩に差し込み、帯下で胴体左右に接合している。胴体への接合部には指の跡痕が認められるが、簡略化された表現である。袖も表現されず、両脇には赤色線が短く引かれている。背面はあまり意識されていないようで、背中側には赤色塗彩を行っていない。

腰には幅広の帯を粘土帶貼り付けて表現し、上部には赤色塗彩を巡らす。帯上部の赤色塗彩は背中側中央部では途切れようである。帯の下は若干広がり、裾を表現している。裾部分の正面には台形の粘土板を張り付け、赤色塗彩を施している。また、台形粘土板の下底部分は厚くなっている、小物入れのようなもの可能性がある。この部分には貼付したであろう部品の剥がれ痕が認められるが、可能性のある破片は確認できなかった。小物入れの横には刀子が貼り付けられ、柄には赤色塗彩、鞘は刺突文で飾られている。背面の腰部分には、渦曲した幅広の粘土帶で表現した「鎌」を貼付している。背面であるためか、鎌には赤色塗彩を施していない。鎌の段差以下、足部分は円筒部となり、左右一対の円孔が穿たれ、その下には突帯を巡らしている。円筒部内面は継位ナデ、外表面は円筒埴輪と同様な継位ハケメ調整である。胴部内面はハケメ調整で、胴部外表面はハケメ調整後にナデを行っている。基底部の内面調整は認められない。

両腕は所作をしていないが、馬形埴輪とともに1体のみ出土した人物埴輪であることと鎌を有していることが馬子と推定している。

### 馬形埴輪

**特徴：**馬形埴輪は、飾り馬1体のみの出土であり、調査区内において他の個体は破片も皆無である。出土した馬形埴輪は、耳の一部や胸繫の鈴など一部が欠損していたが、残存状態は良好である。また、古墳周溝壁に接していた左側は赤色塗彩も鮮やかで良好な残存状態であった。

頭繫は粘土帶を貼り付け、鼻革、頬革、頸革、項革、鼻梁部の革、手綱を表現している。各革が交差する箇所には円形粘土板を貼付して辻金具を表現している。なお、頸革と鼻革下側は省略している。手綱は鼻革のみでなく、頸革にも辻金具を留めているように表現している。なお、手綱は鞍の前輪上部で欠損している。

項革は耳の後ろ側まで粘土帶で表現しているが、欠損部によって端部は不明となっている。鏡板は方形で、四隅と各辺中央の計8カ所に円形粘土板を貼付している。

胸繫は幅広の粘土帶で表現し、左側には鈴を垂下している。また、中央と右側にも剥落痕が存在することから左右と中央の3カ所に鈴を下げていたと判断して復元した。なお、中央の剥落痕(接合痕)は両端に比してやや大きく、中央の鈴がやや大型であった可能性が高い。タテガミは厚みのある粘土板を貼り付けて表現している。タテガミは鞍に比して厚みがあり、やや重厚な作りとなっている。鞚は、タテガミ前面に接するように貼付し、かなり前傾している。

鞍は前輪、後輪共に粘土板を馬本体に貼り付けており、後輪に比して前輪が若干大きい。居木の表現はないが、居木と前後輪との接合部と思われる箇所に土隕頭形の粘土を4カ所貼り付け、赤色塗彩している。前輪側のこの部分から左右に鎖革が障泥まで伸び、先端に輪道を表現する。障泥は台形状の薄い粘土板を胴体に貼付け、周囲を赤色塗彩している。胴体から垂下した部分は厚みを増して表現する。

尻繫はやや丸みを有した粘土帶を貼り付けて表現しており、端部は後輪に取り付けている。山形を呈した雲珠の周囲には7カ所の鉤留めが粘土粒貼付けによって表現されている。雲珠には3個の鈴が取り付けられる。なお、飾りではないが、脚に関節や蹄の表現は認めらず円筒形を呈している。

赤色塗彩は馬具を中心に行われ、古墳周溝壁に接して

いた左側の状態が良好である。これに対して右側の赤色塗彩は全体に薄く、残存状態が不良である。このことは、馬形埴輪を周溝に運び入れた際に周溝壁に立てかけるように置いたためと考えられる。そのため、埋没するまでの間に右側の赤色塗彩が劣化したのであろう。顔部分の塗彩は面繫の革を表現した突帶両側を中心に行われ、鼻梁部分先端付近は突帶の延長線上に幅広の線を引いている。手綱については粘土帯の上面側のみの塗彩している。馬具以外ではタテガミ上面と鰐の先端部分に行う。胴部分では胸繫を表現した粘土帯上側と重下した馬鈴の付け根上面を塗彩している。鞍は前輪と後輪上面と鎖革を表現した粘土帯を塗彩する。また、陣泥は粘土板の四周を台形状に塗彩する。また、背の4カ所に貼り付けた土腰頭状粘土は上面全てを塗彩している。後部の赤色塗彩の残存は不良であるが、尻繫の粘土帯両側と雲珠、馬鈴接続部に塗彩が残る。尾については先端部付近に紐で巻いて結んだような表現がなされている。

円孔は胸と肛門部の前後2カ所に設けている。馬形埴輪の法量は最大高87cmで、脚は垂直高で38cmから39cmと長い。鼻先から尾先端までの長さは83.5cmである。

**脚部の製作** 脚部は切開再接合と称される技法で作成される。接地部を基部として作成し、その上に粘土紐を重ねてハケ調整を行い、その後、切断して接合している。脚が細いため、接合後の内面調整は皆無である。また、接合時の粘土板重ねせ合わせではなく、切断面のみを突合した状態である。接合部の調整は外側のみであるため、接合部が外側の直線的なビヒとなって表出している。なお、脚4本の接合部の向きは一定していない。

**胸部の製作** 馬形埴輪胸部左半は割れもなく良好な状態であったため、この箇所で内部観察を行った。製作手順は一般的で、腹部を作成後胸部を組立てて順次高さを増している。その痕跡として胸部には5cm前後の間隔で接合痕が残っている。腹部内面のナデ調整は丁寧で、図示した胸部内面下端にも認められる。腹部も組立てて板状としている可能性があるが、丁寧なナデ調整により接合痕が確認できない状態であった。ナデ調整は腹部や尾、頭部接合に伴って実施されるようで、胸部中位中央はハケ調整のみとなっている。

胸部最終段階は背の接合であるが、接合痕として見えている痕跡から判断する限り、粘土板を左右脇腹部に

アーチ状に渡すのではなく、粘土板を左右から合わせ、合わせ目を粘土紐で補強しているようである。

**尾の製作** 尾の部分は、尾を接合する周囲をナデで圧ませるように整形し、中央に穴が開いた状態にしている。その後、粘土塊をナデで窪ませた部分に詰めるようにし、粘土塊と尾を接合して作成している。すなわち、粘土塊と尾で尻部分の壁を挟むようにして固定している。尾は1本の粘土紐で中実である。

**頭部の製作** 頭部については、頭部から頸部方向に向かうナデ調整を施している。そのナデは目と耳の間から下頸と首の境を結ぶラインで終焉している。次に頭部は別に作成されて先の頸部ナデ終焉ラインで接合しているものと考えられる。頭部と頸部の接合痕は不明瞭であるが、頭部と頸部の調整痕が途切れ箇所が存在すること、外側のハケ調整の方向が異なることの2点で推定した。この部分で唯一接合痕が観察できるのは下頸部分で、頸部側の外側に下頸側粘土板が被さっている様子が観察できること。

頸や咽から脣までは削っていないために細部の観察が不可能であるが、紐作りではなく、粘土板で成形していることは明らかである。その手順となると詳細な内部観察が行えず不明瞭であるが、概ね以下の手順と推定している。

1. 下頸を粘土板で作成し、頸を接合する。
2. 下頸粘土板内面のナデ方向は僅かであるが、砂粒の動きから咽から脣方向と思われる。また、下頸と頸の接合部にも軽微なナデ調整が認められる。
3. 鼻梁部分を粘土板で作成し、左頸粘土板を上に重ねて接合する。内面は比較的丁寧なナデ調整が施される。
4. 鼻梁部分を粘土板で作成し、左頸粘土板を上に重ねて接合する。内面は比較的丁寧なナデ調整が施される。
5. 鼻梁部分を粘土板で作成し、左頸粘土板を上に重ねて接合する。内面は比較的丁寧なナデ調整が施される。
6. 左頸粘土板上に鼻梁粘土板を被せて接合する。接合部内面には軽微なナデが認められるが、内面に明瞭な接合痕が残る。また、その接合痕は脣に向かうに従つて下がっている。
7. 脣は上下頸粘土板を曲げているが、それぞれの粘土板接合時に曲げていると推測される。

**時期：**3号古墳の年代であるが、横穴石室と推定される主体部は攪乱が著しく年代決定の根拠とはなりえず、墳丘に樹立された円筒埴輪で唯一全体形状を知り得る第

122図15は重であるうえに器高が低く、1段目の伸長が認められるなどやや特異な形状なため、年代決定には用いにくい資料である。そのため、周溝内出土の埴輪と共にする須恵器から年代を推定せざるを得ない。

埴輪とともに周溝内から出土した須恵器直口瓶(第134図40)は海綿骨針と結晶片岩を含む藤岡産の須恵器で、ハソウから口縁部を取り去ったような特殊な器形であるが、ハソウとして見れば6世紀前半である。もう1点の須恵器提瓶(第134図41)は6世紀代であり、共作した須恵器のみをもって年代決定し得ない状態である<sup>(1)</sup>。

円筒埴輪については、中里正憲氏により群馬県西部の円筒埴輪編年が行われ、基底部の伸長等の特徴が指摘されている。ここで示された各部位の比率を3号古墳周溝出土埴輪でも算出したが、「基底部(第1段)/器高」は27~38%で全体平均では33%、また、「口縁部/器高」は29~36%で平均は33%となり、中里正憲氏による藤岡産(片岩混入)埴輪の成果とうまく一致しない。これは、中里氏が論文の中で触れている、埴輪工人集団による違いが表れた結果なのであろう。

以上、円筒埴輪からも年代を特定することは困難であるが、透孔に半円が削れた状態を窺える資料があること、基底端部調整が認められること、円筒埴輪全体の形状が寸胴ではなく、台形状を呈しているが、細い台形状には至っていないことから6世紀前葉から中葉の可能性が推定されよう。また、榛名地域の円筒埴輪に占める藤岡産円筒埴輪の割合や時期的变化は不明であるが、群馬県西部では6世紀中葉以降は広範囲の古墳から片岩混入埴輪が確認されるようになるときれており<sup>(2)</sup>、それ以前の可能性もある<sup>(3)</sup>。

馬形埴輪についても年代を決めかねるが、鶴の粘土柱がタテガミと一体化していないことから、6世紀後半までは下らない可能性が高い<sup>(4)</sup>。また馬飾については、井上裕一によれば、尻繋に鈴を下げる尻繋I型類は、須恵器TK10~MT85の時期に比定されるとし<sup>(5)</sup>、横澤真一氏は6世紀後半以降、尻繋が「脇腹側の繩も表現されるようになる」ことを指摘している<sup>(6)</sup>。

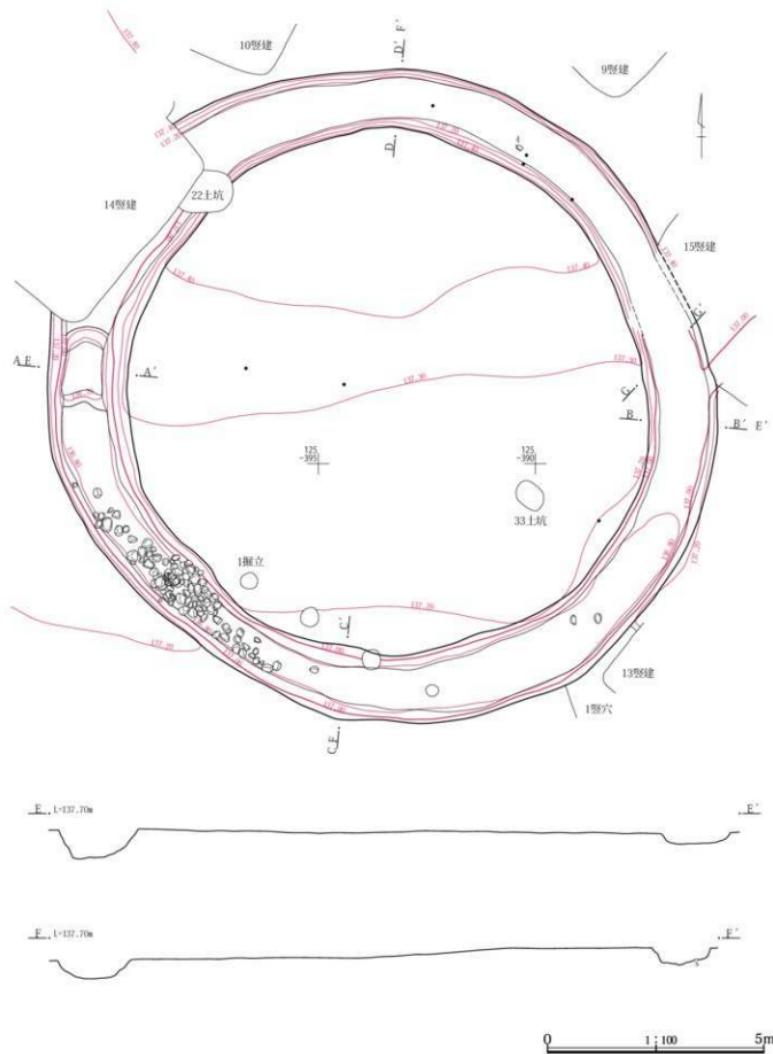
以上、周溝出土須恵器と埴輪も年代決定の根拠としては弱いものの、全体としては6世紀前葉から中葉と推定されよう。また、墳丘に樹立されていた円筒埴輪は、B種横ハケが認められないことや主体部が横穴式石室であ

る可能性が高いことから6世紀代で周溝出土埴輪以前としておきたい<sup>(7)</sup>。

## 注

1. 須恵器については網澤大学 藤野一之氏のご教示による。
2. 中里正憲 2002 「群馬県西部の円筒埴輪編年- 2条3段円筒埴輪を中心とした考察」『埴輪研究会誌 第6号』埴輪研究会  
群馬県における「片岩混入」2条3段円筒埴輪については、中里正憲氏が「円筒埴輪の変化は、口径・底径の縮小化、第1段の伸長化、第3段の塑形化のなかで起こっていることを示すとともに、「底部調整」の有無を加味して1期から4期の編年を行っている。しかし、中里氏が本論文で触れているように、結晶片岩と海綿骨針を含まない「他系統埴輪」(馬具)と「須恵器」との比較はできないもの。
3. 年代は不明であるが、道端周辺の表表斜面中に結晶片岩を含む埴輪基底部が7点中2点認められ、藤岡産埴輪の供給域に含まれている。
4. 南雲芳昭氏のご教示による。
5. 井上裕一 2017 「馬形埴輪の馬具・馬装表現」『第22回 東北・関東前後円筒埴輪研究会 大会 馬具馬装古墳の諸問題』(東北・関東前後円筒埴輪研究会)
6. 横澤真一 2017 「群馬出土馬形埴輪の馬具」『第22回 東北・関東前後円筒埴輪研究会 大会 馬具副葬古墳の諸問題』(東北・関東前後円筒埴輪研究会)
7. 3号古墳5の円筒埴輪は、器高が低いうえに口縁部と胴部が短いため、数値としては基底部が伸長しているように見える。しかし、突起部が広く器底もやや厚いことや器高の割に底径も大きいため、全般的に寸胴形を呈している。年代と大きさは異なるが、埼玉県美里町生野山9号墳出土埴輪と形状が似ており、墳丘に樹立された円筒埴輪を周溝出土埴輪より古く位置付けることは問題はないものと考える。

佐藤好司 1985 「児玉地域における埴輪の様相」『第6回 三県シンポジウム 塩輪の変遷-普遍性と地域性-』群馬県考古学講話会、千曲川水系古代文化研究所、北武藏古代文化研究会

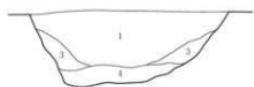


第110圖 1号古墳

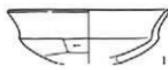


第3章 確認された遺構と遺物

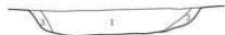
A, L=137.70m



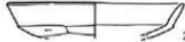
A'



B, L=137.70m



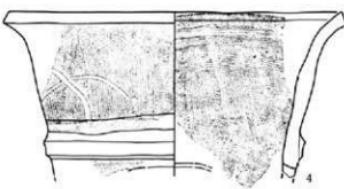
B'



C, L=137.70m



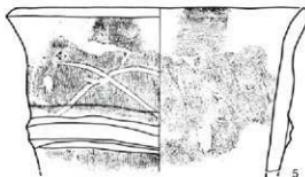
C'



D, L=137.70m



D'



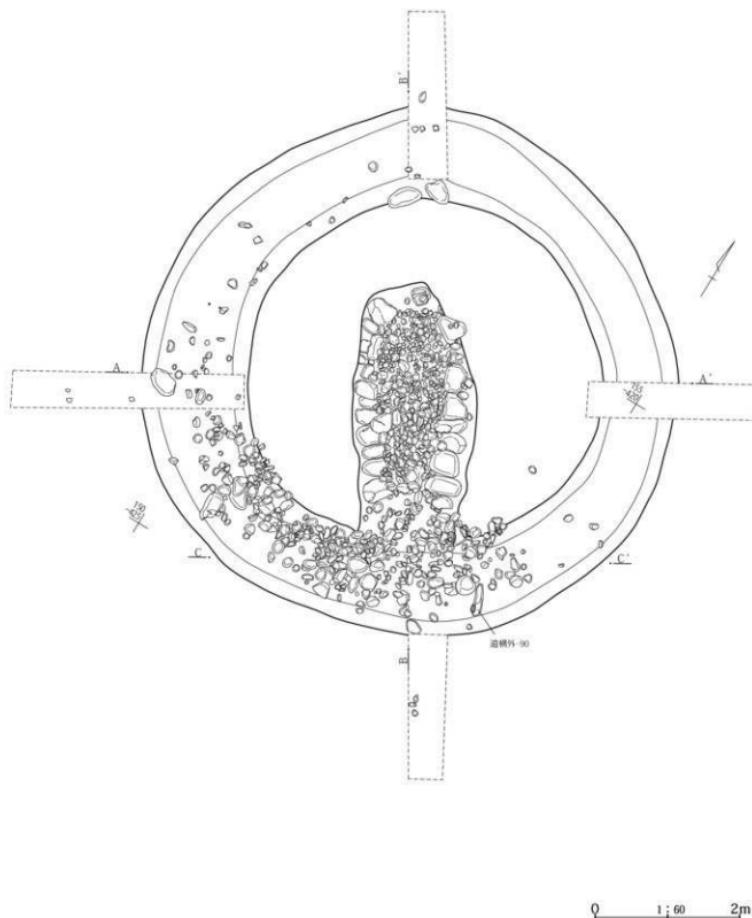
1号古墳

- 1 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性やや弱い、As-C含む、黄色粒微量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強め、As-C・黄色粒微量含む。
  - 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、暗褐色土ブロック含む、As-C微量含む。
  - 4 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、ロームブロック(大・小)多く含む。
  - 5 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い、As-C・ローム粒少量含む。
- 15号空穴建物。

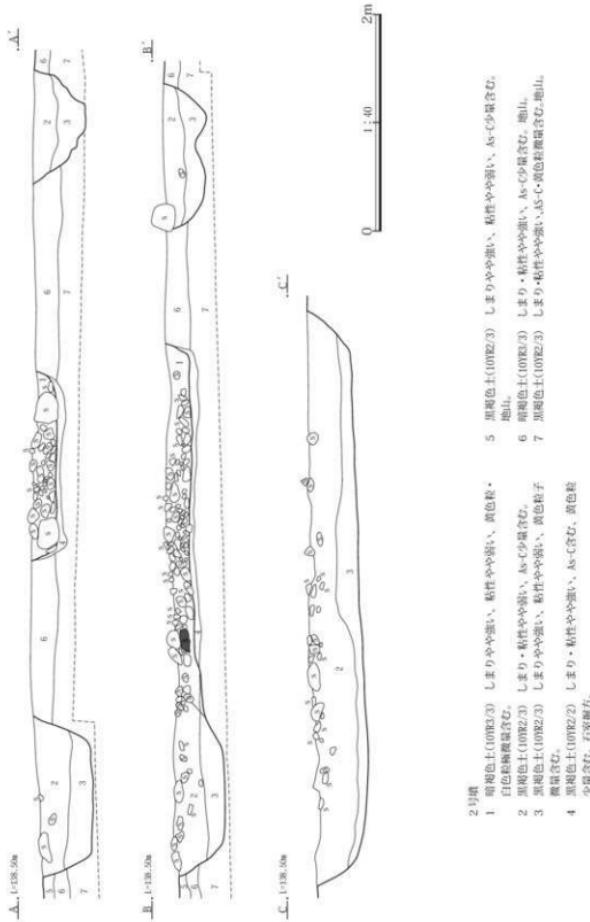
0 1:40 2m

第111図 1号古墳周溝断面図、出土遺物

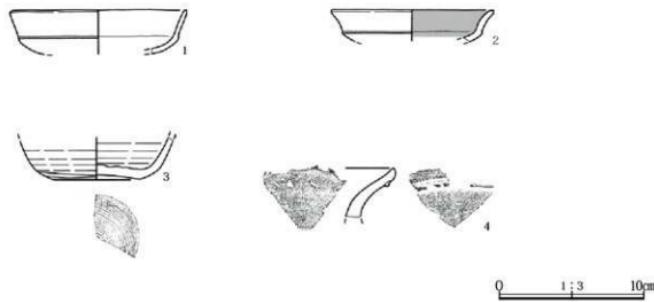
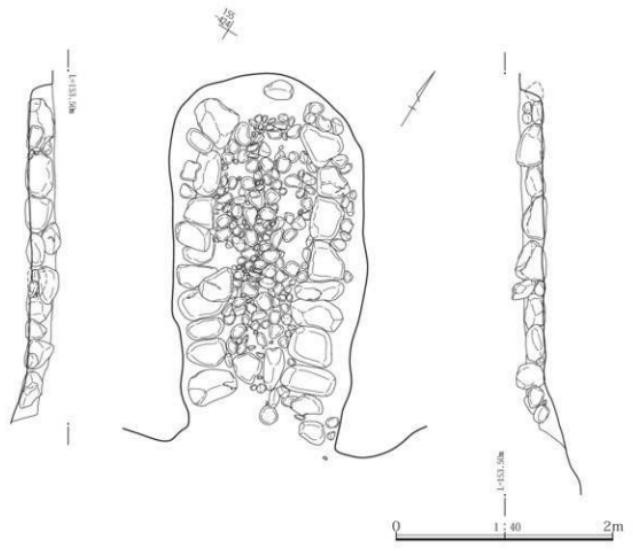




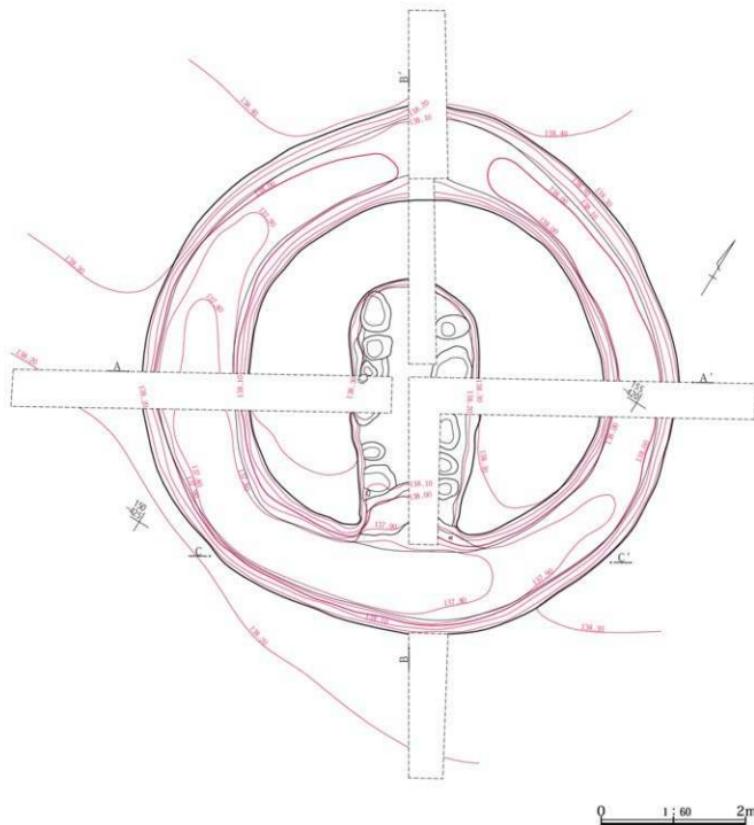
第112図 2号古墳確認状態



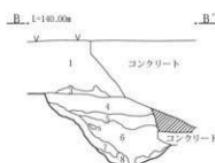
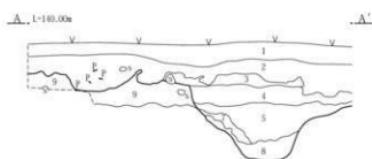
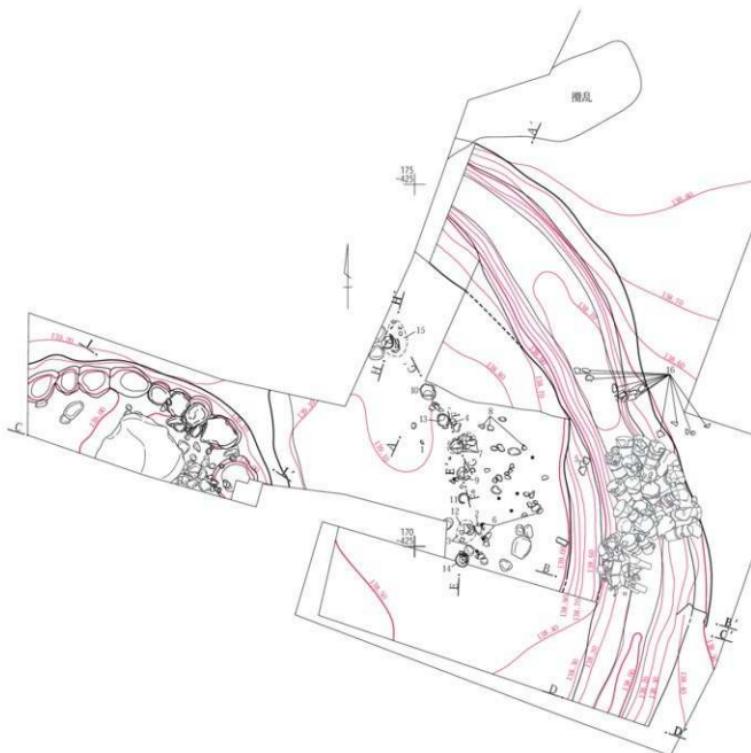
2011384 2号古墳断面図



第114圖 2號古墳石室、出土遺物

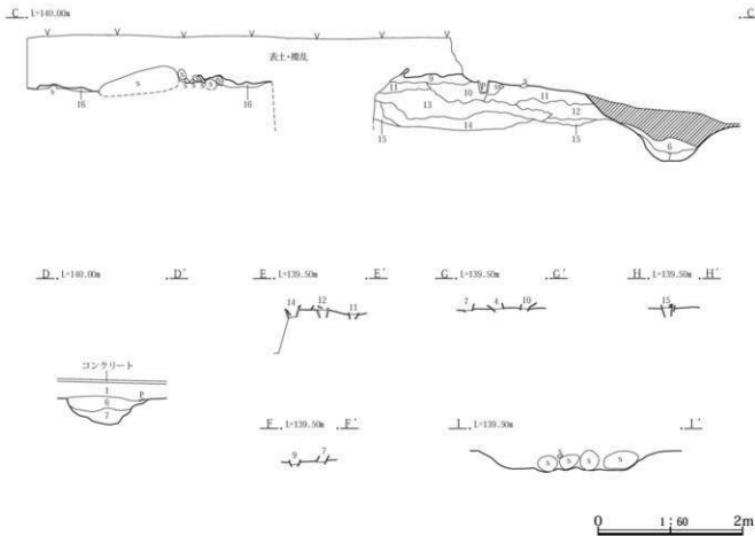


第115図 2号古墳石室掘方と周溝



0 1:60 2m

第116図 3号古墳全体図



## 3号墳

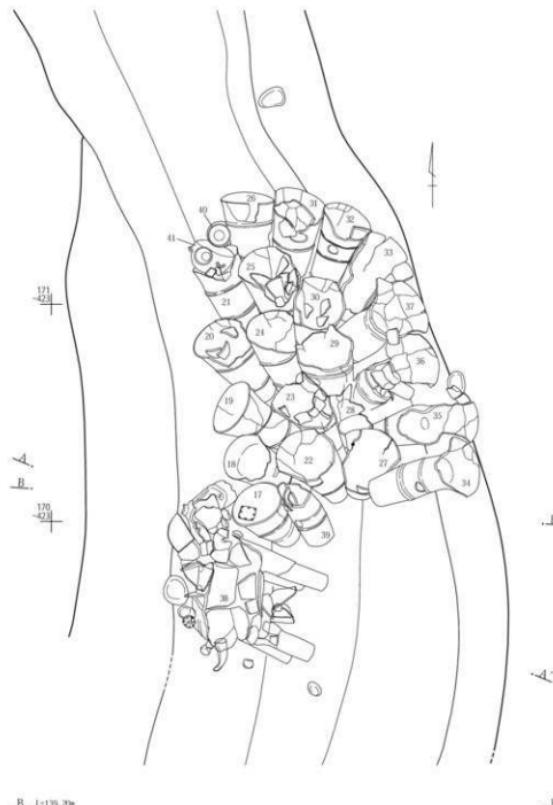
- 1 稲作上。
- 2 As-Eを含む。
- 3 As-E一次堆積層。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い、しまりやや強い、As-C含む。ローム粒微量含む。周溝埋土。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い。As-C少量含む。黄色粒微量含む。周溝埋土。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性やや弱い、As-C少量含む。黄色粒微量含む。周溝埋土。
- 7 黒褐色土(10YR2/3) しまり弱い、粘性やや弱い、褐色土ブロック(小)・As-C・ローム粒微量含む。周溝埋土。
- 8 にぶい黄褐色土(10W4/3) しまりやや弱い、粘性やや強い。ロームブロック(小)・ローム粒多く含む。周溝埋土。
- 9 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや弱い、As-C・黄色粒少量含む。古墳盛土。
- 10 黑褐色土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや弱い、As-C・黄色粒少量含む。古墳盛土。
- 11 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、ロームブロック(小)・ローム粒・白色粒多く含む。古墳盛土。

- 12 黒色土(10YR2/1) しまりやや強い、粘性やや弱い、白色軽石(As-C?) 少量含む。古墳盛土。
- 13 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや強、粘性やや弱い、黄色粒・白色粒(As-C?) 少量含む。古墳盛土。
- 14 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性やや弱い、白色軽石(As-C?) 含む。古墳盛土。
- 15 黑褐色土(10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、黄色粒・白色粒(As-C?)・ロームブロック(小)少量化。古墳盛土。
- 16 暗褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、黒褐色土ブロック(小) 含む。古墳盛土。

第117図 3号古墳断面図

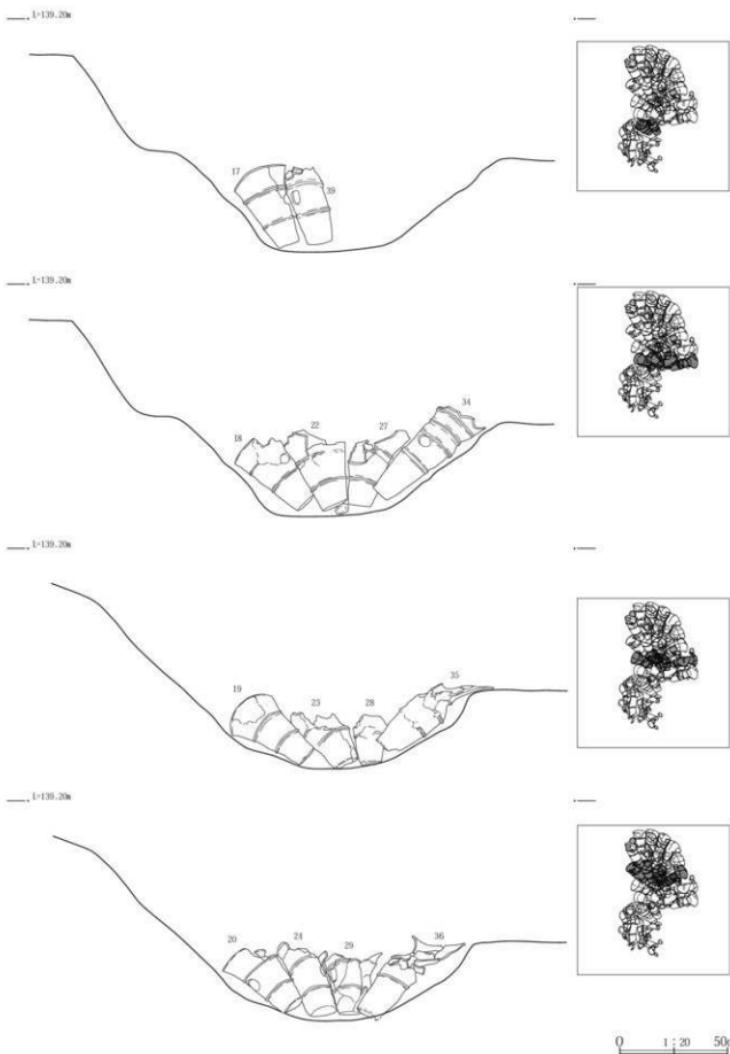


第118図 3号古墳周溝内埴輪出土状態



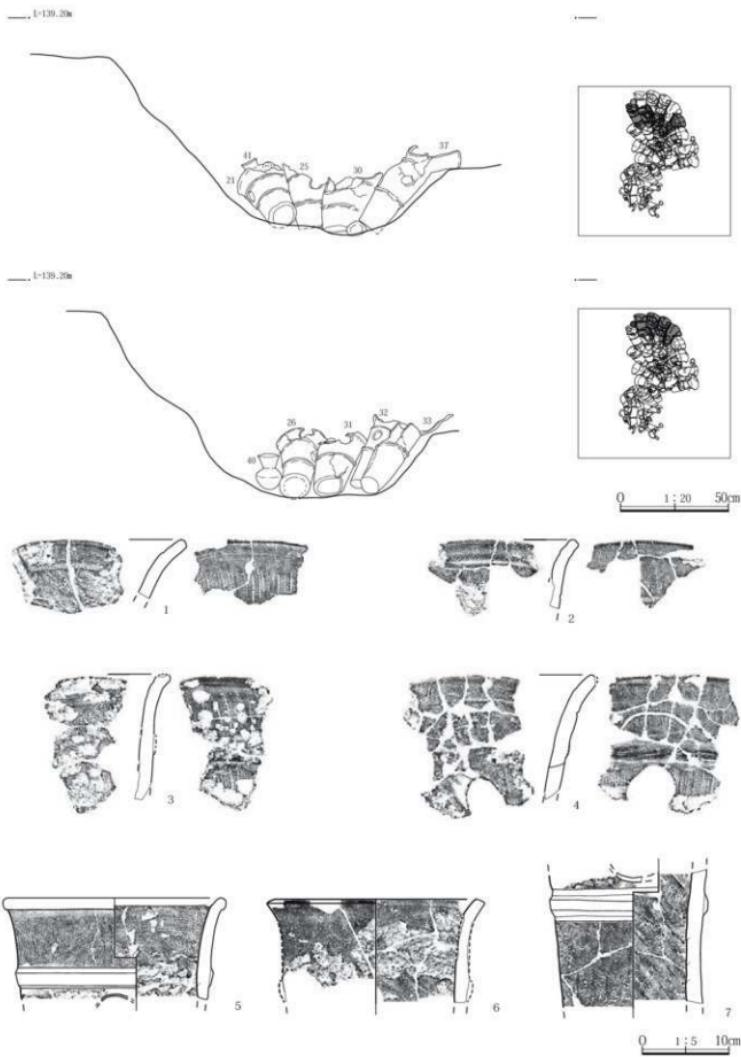
第119図 3号古墳周溝内埴輪出土状態 上部の破片除去後

0 1 : 20 50cm

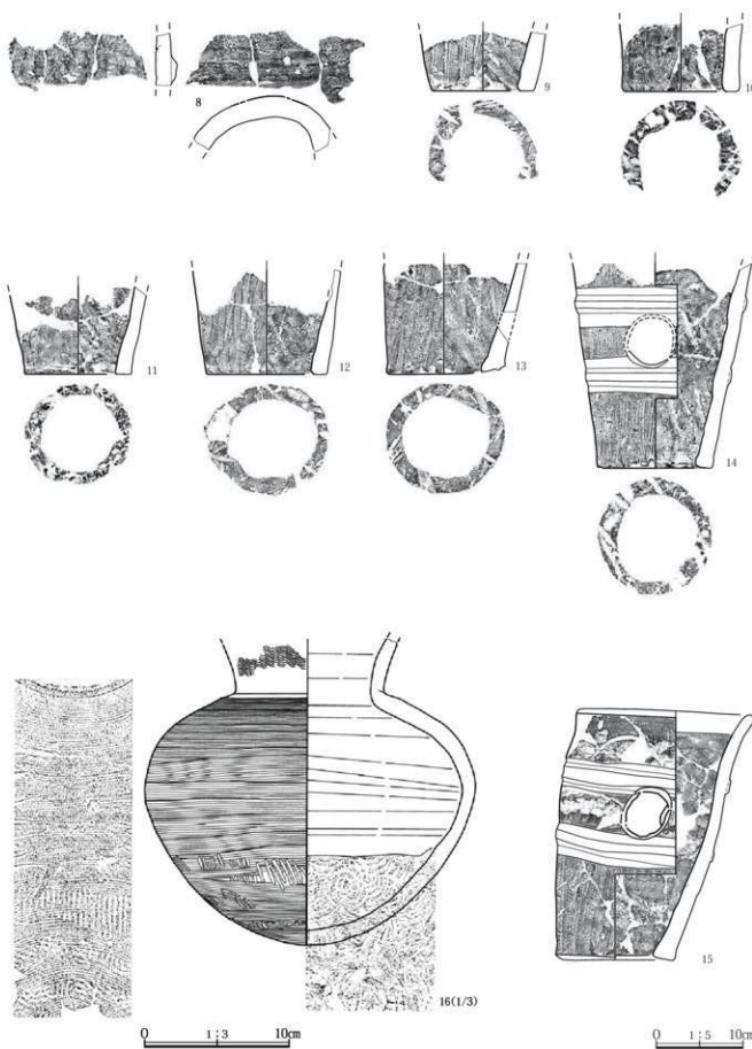


第120図 3号古墳周溝内埴輪出土状態見通し(1)

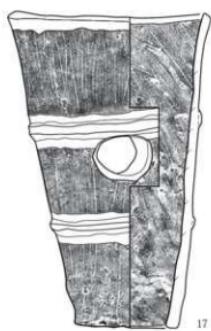
第3章 確認された遺構と遺物



第121図 3号古墳周溝内埴輪出土状態見通し(2)、埴丘出土遺物(1)



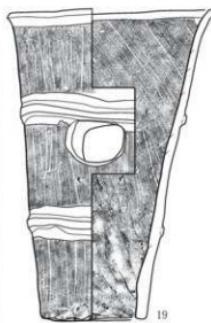
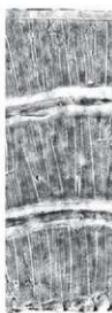
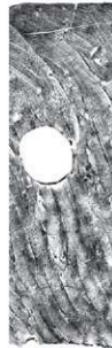
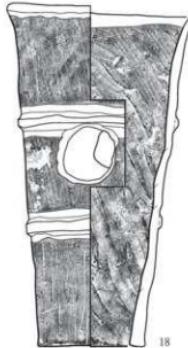
第122図 3号古墳埴丘出土遺物(2)



17



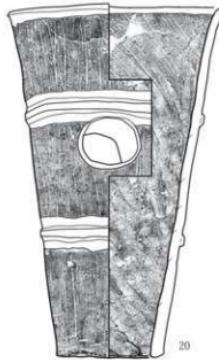
18



19



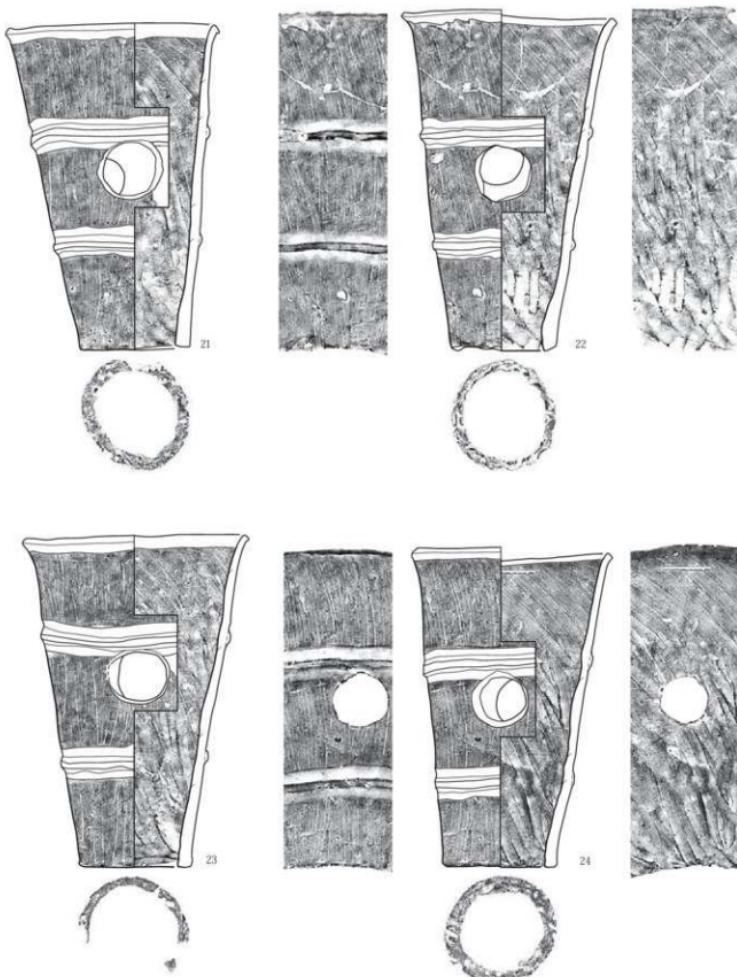
20



0 1:5 10cm

第123図 3号古墳周溝出土円筒埴輪(1)



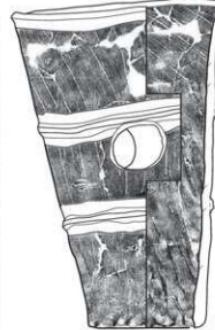
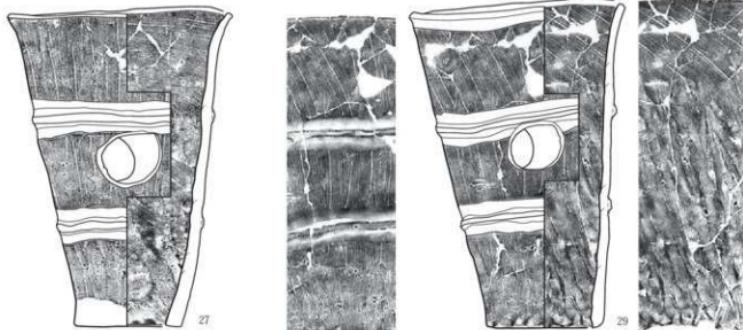
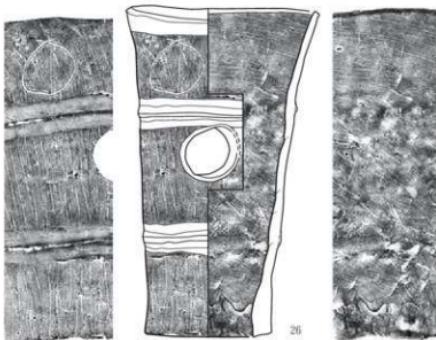
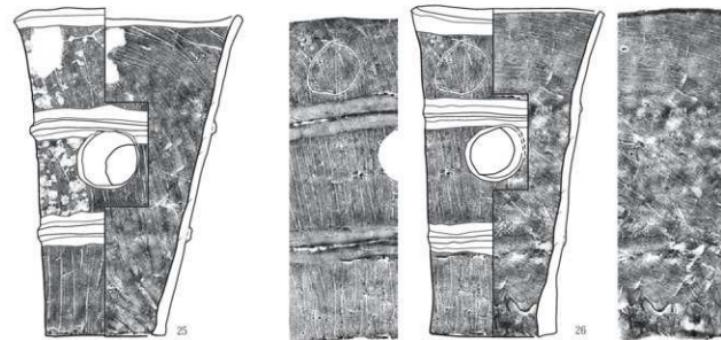


0 1 : 5 10cm

第124図 3号古墳周溝出土円筒埴輪(2)

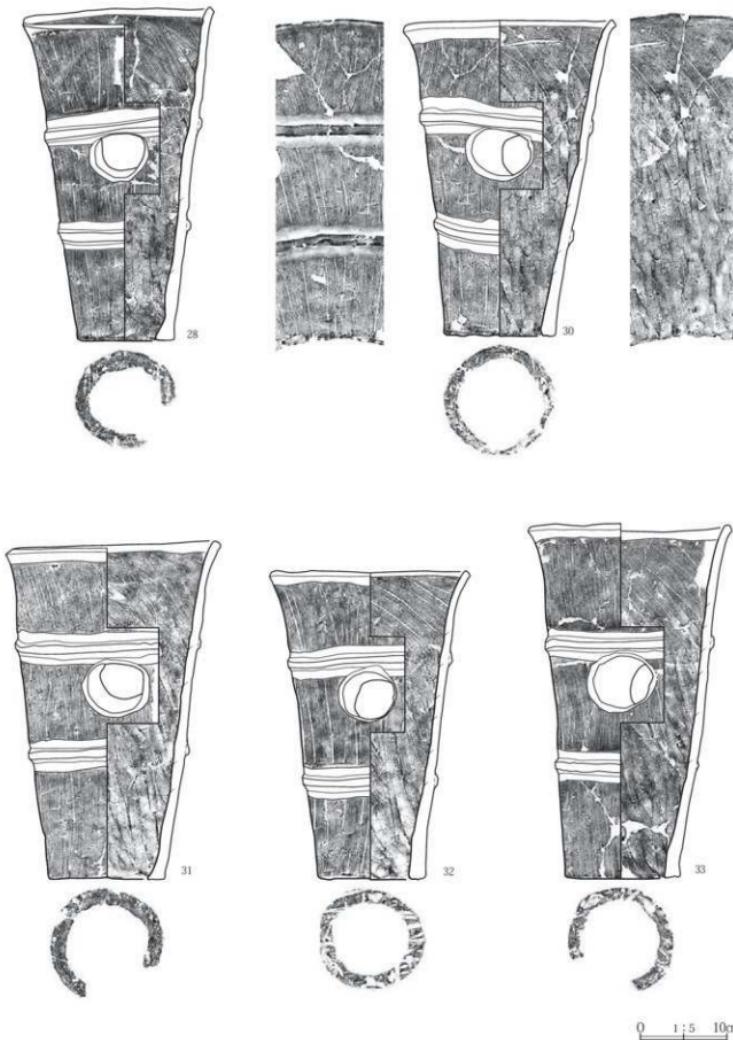


第3章 確認された遺構と遺物

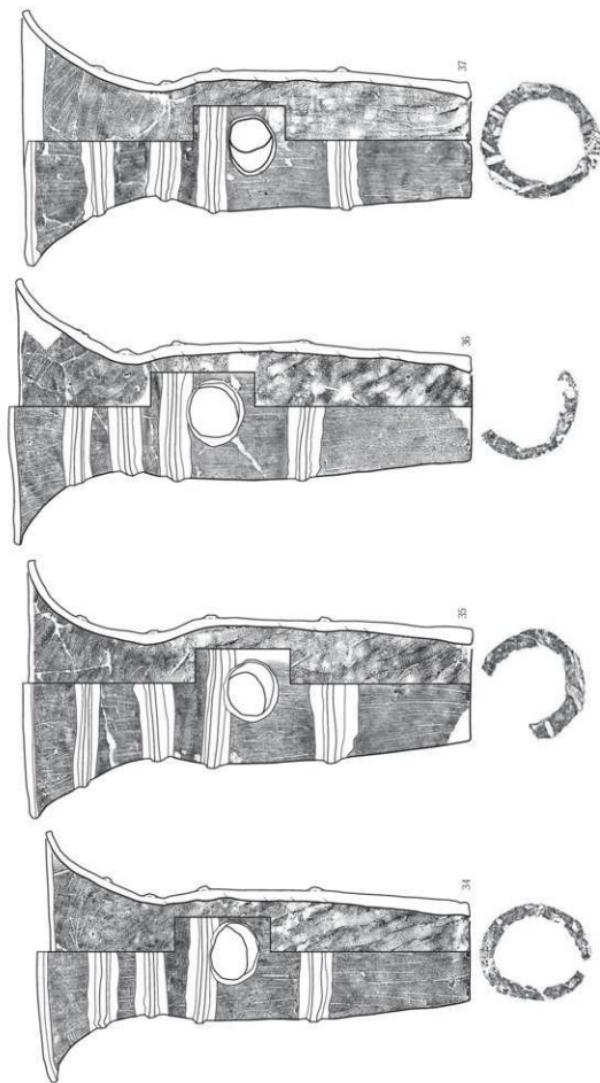


0 1 5 10cm

第125図 3号古墳周溝出土円筒埴輪(3)



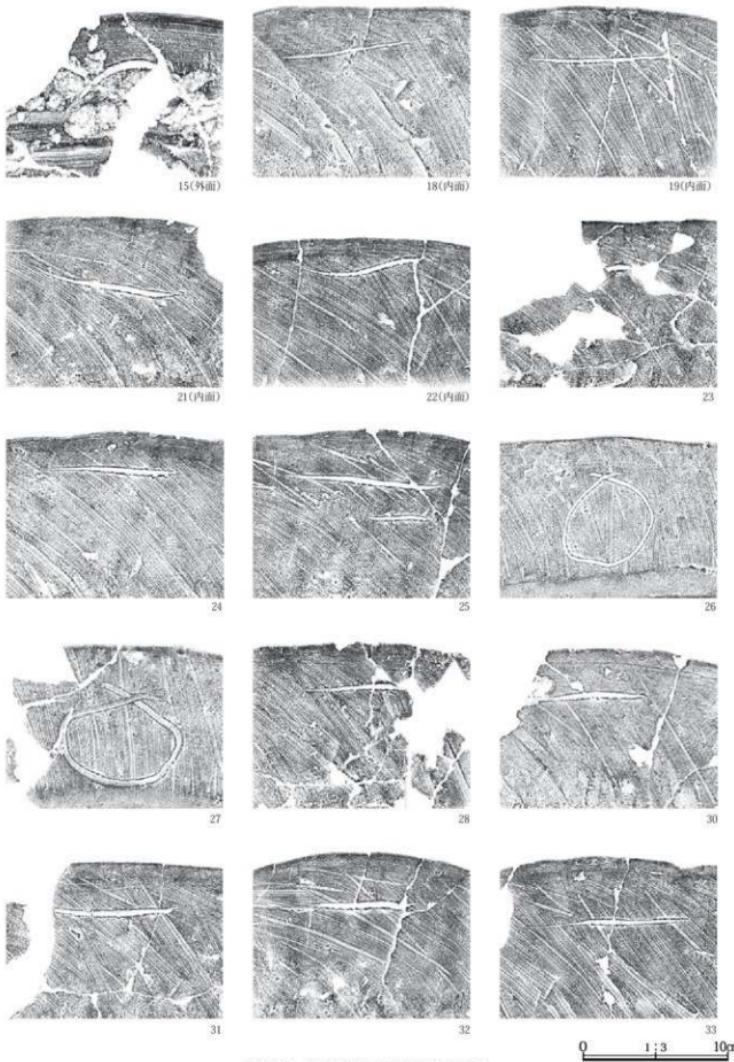
第126図 3号古墳周溝出土円筒埴輪(4)



第127図 3号古墳周縁出土銅鏡形埴輪



第3節 古墳

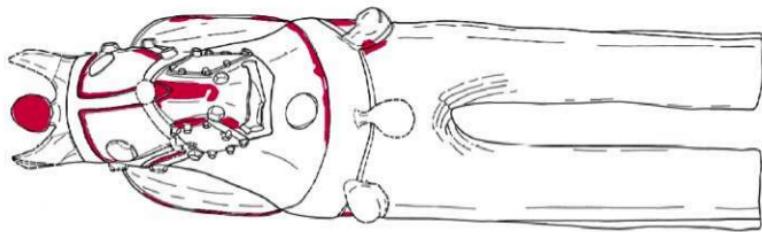
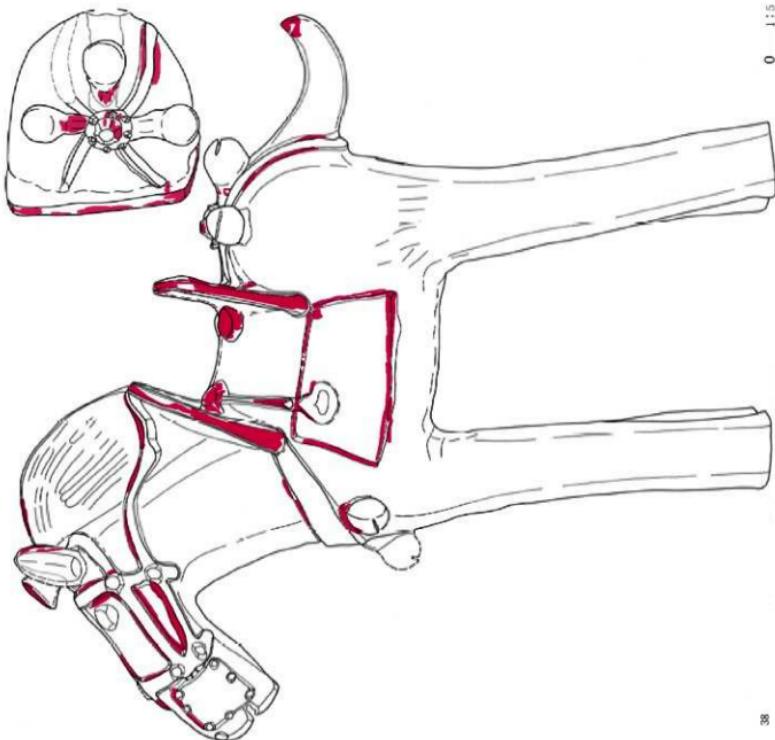


第128図 3号古墳出土円筒埴輪ヘラ記号

0 10m

第129図 3号古墳跡出土馬形埴輪(1)

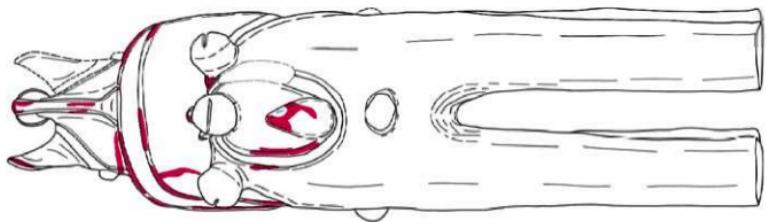
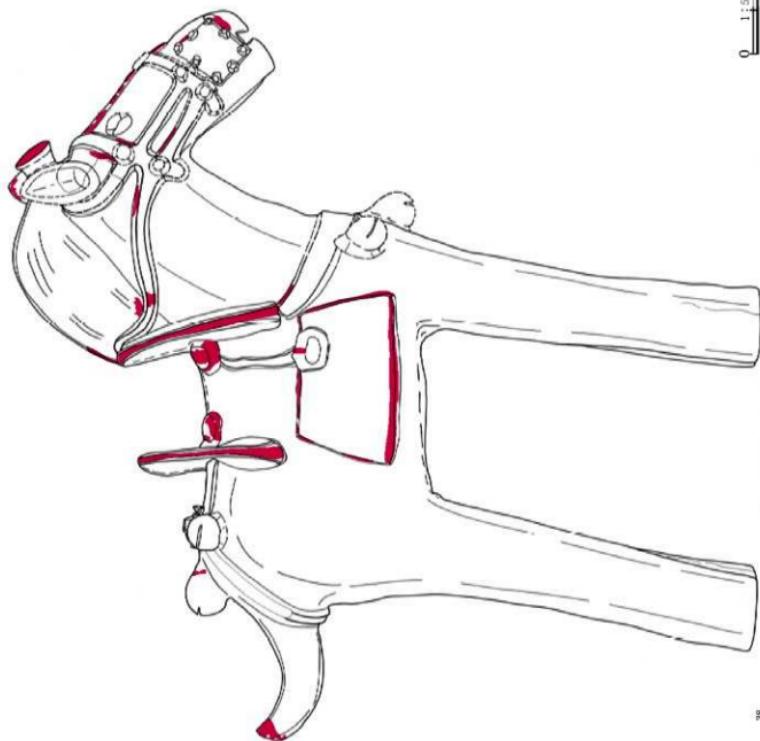
38



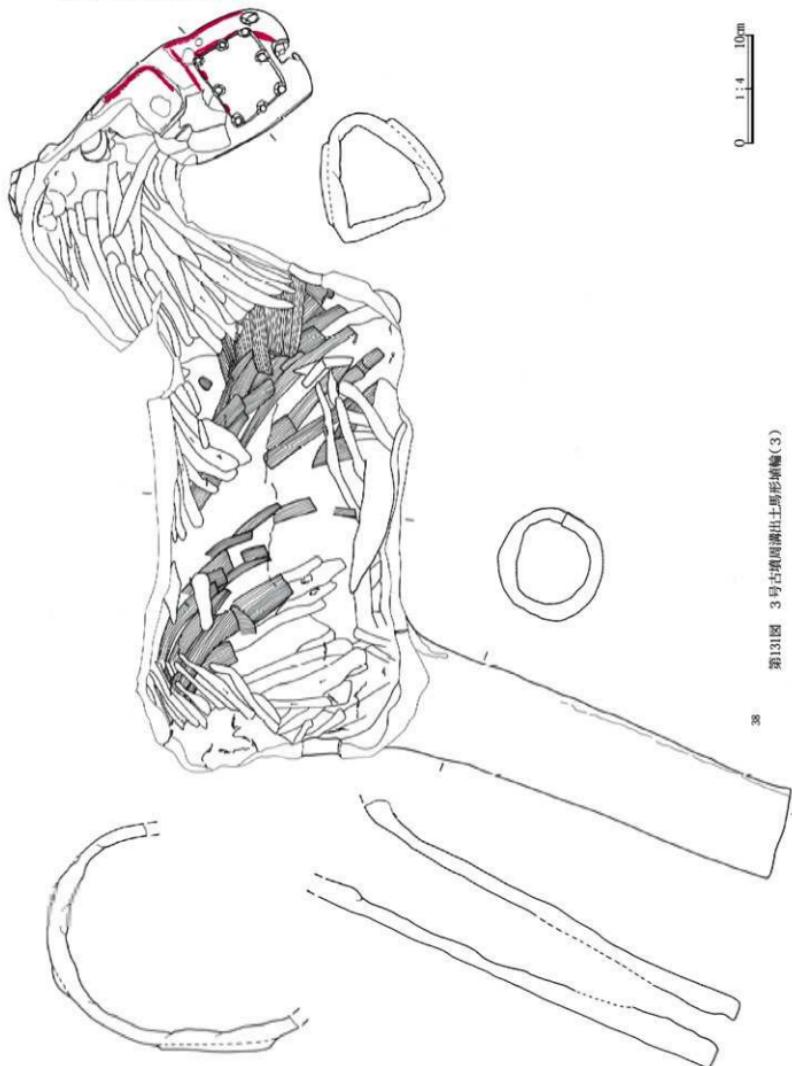
0 1:5 10m

第120圖 3号古墳周溝出土馬形埴輪(2)

38

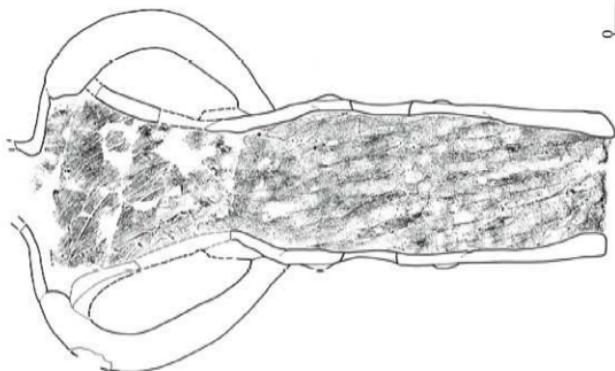


161



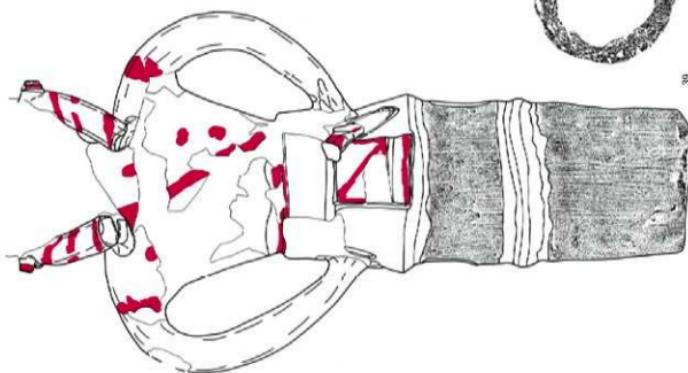
第131図 3号古墳周辺出土馬形埴輪(3)

0 1:4 10m



第122圖 3号古墳周溝出土人物埴輪(1)

39



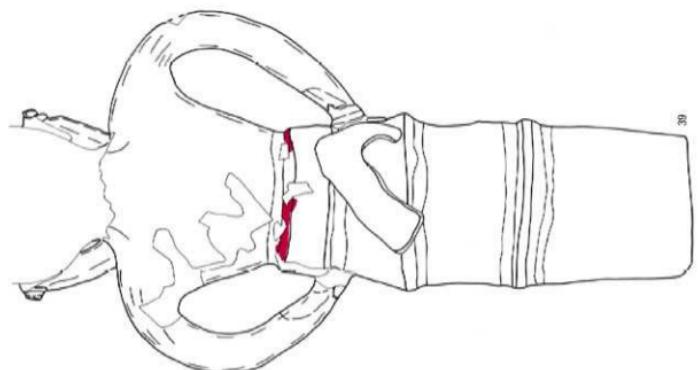
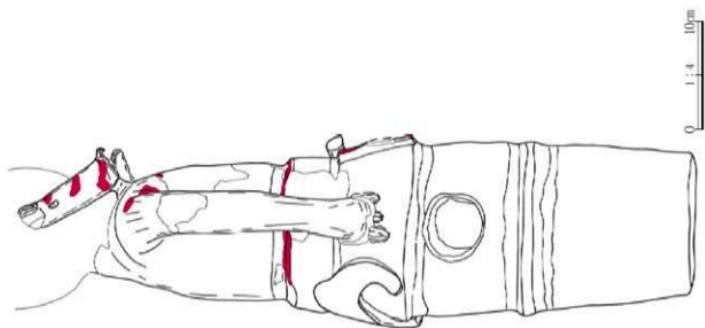
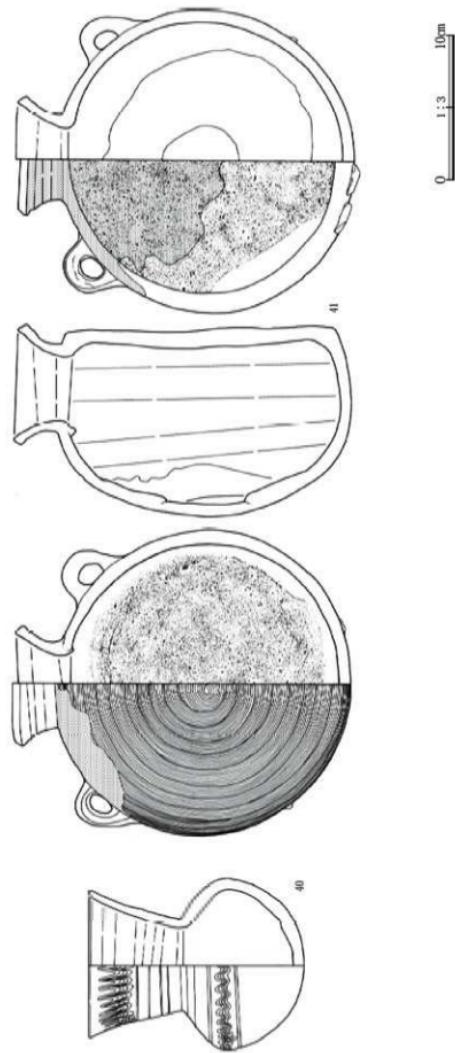


図333図 3号古墳周溝出土人物埴輪(2)





第134図 3号古墳から出土須地器

## 第4節 水田、畠

### 1. 1号畠(第135図)

位置：1区北側附近のX=40139から40144、Y=-81387から-81391に位置し、標高は1区内で最高所に近い場所で確認された。

規模・形状：形状は、幅が一定しない溝状の掘り込みが3条と方向を違えた2条の一帯が確認されている。規模は最も長い1条で長さ5.55m、幅60cm、深さ25cmである。所見：形状が一定しておらず、埋土もAs-Bか否かも不明であるが、ほとんどが黒褐色土で埋没していることから、復旧坑ではないと考えられる。このため、耕作痕か畠の可能性が考えられる。

時期：遺物が出土していないうえに、埋土下層堆積土が「砂」か「As-B」か不明であるため時期推定は不可能である。

### 2. As-B下水田(第136～138図、P.L.43～45、90、第7表)

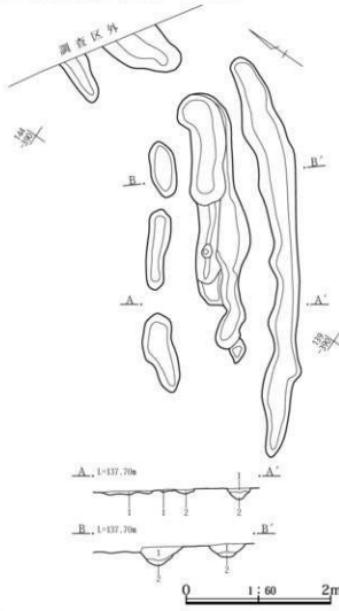
天仁元年(1108)の浅間山噴火によって噴出したテフラによって埋没したAs-B下水田は、烏川によって形成された中位段丘(里見台地)と下里見天神前遺跡が所在する低位段丘間に流下する里見川左岸の低地で確認された。里見川は、南西の中位段丘(里見台地)と北東側の低位段丘間に北西から南東方向に流下し、段丘間に狭い低地を形成している。里見川が形成した低地は、狭いながらも水田(谷地田)が営まれており、今回の調査地点も調査以前は水田として利用されていた。水田を確認した地点は、里見川が南方に蛇行し、里見川流域としては低地部分が広くなっている場所である。ただ、段丘間に形成された狭い低地であるため、水田としては傾斜地であるうえに低位段丘側に面しており、段丘側からの用水供給が見込めない地形となっている。このため段丘との境に里見川から取水した用水路を設けて水田耕作を行い、その後用水路は北西から南東に流下し、里見川に排水していたものと考えられる。

水田は111区画確認され、最高所(北西)に位置する区画No.1は最高所に位置し、その標高は137.3mである。最低所は南東の区画No.111で標高は135.9m。距離にして約80mで高低差1.4mである。確認した水路の途中間点

の区画No.19と水路とほぼ直交方向にある区画No.110では、距離70mで1.1mの比高差となる。この傾斜は農林水産省農林センサスの定義では「緩傾斜」となる。西側と北側の水路に近い区画は方形から長方形であるが、等高線が弧を描く中央部から南東部にかけての区画は不定形を呈しており、自然地形による制約を強く受けていると推定される。なお、水田区画は確認されたが排水路は確認されなかった。

区画No.26・36・47にはヒトと推定される足跡が確認され、大きさから考えて大人のものであろう。区画No.26・47間は連続しているように見えるが、36・59には続かない。不連続な部分も存在することから、農作業に伴う足跡ではない可能性が高い。

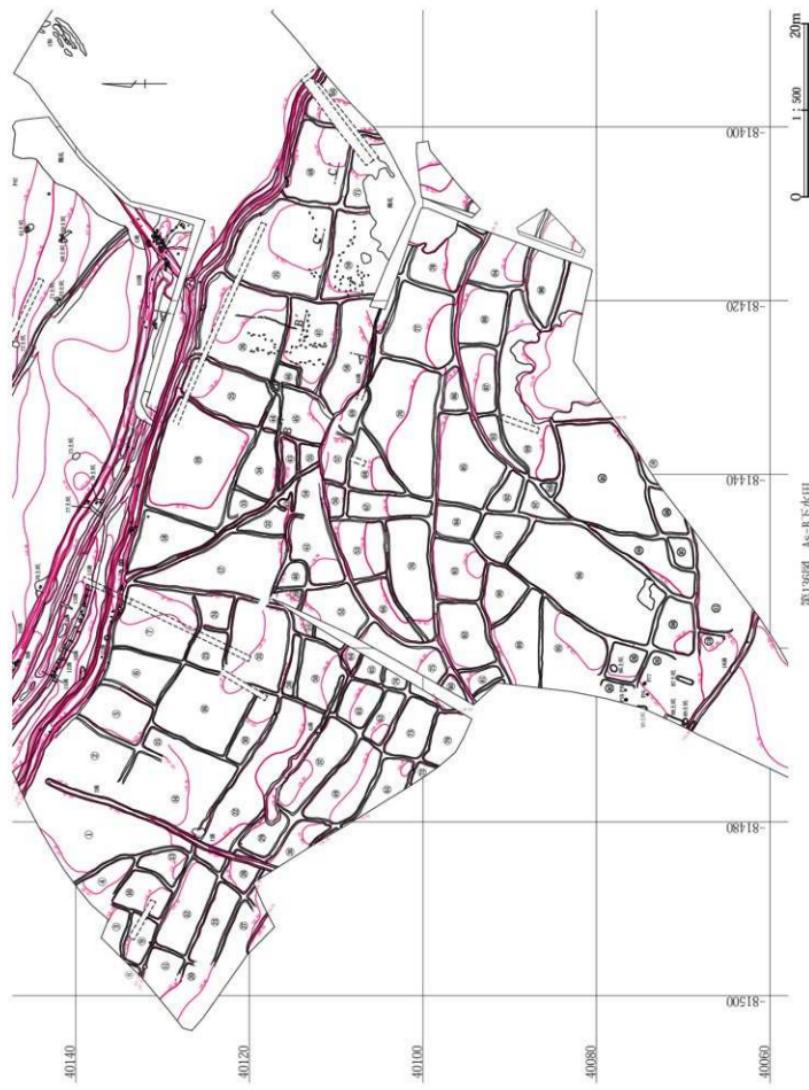
As-B下時期に近い年代の遺物は出土しておらず、掲載した遺物は集落に伴うものであろう。



畠  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、砂(As-B?) 少量含む。  
2 砂層(As-B?)

第135図 畠

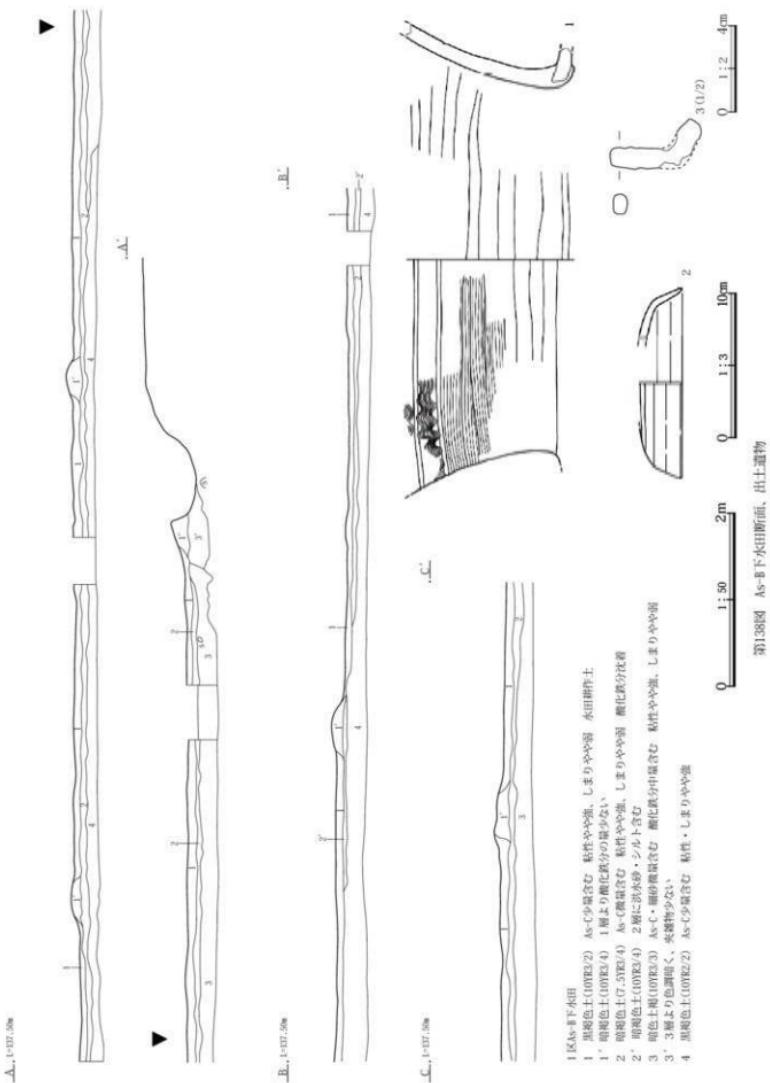
第4節 水田、畑



第3章 確認された遺構と遺物



第4節 水田、畑



## 第5節 溝

**1号溝**(第139・149図、P.L.45・90、第7表)

**位置**：1区西端から3区南東に位置しており、北側と南側で調査年度が異なっている。座標はX=40122から40146、Y=-81391から-81416である。

**重複**：10号竪穴建物、18号竪穴建物、10号溝と重複し、竪穴建物より新しく、10号溝より古い。8号溝とも重複していた可能性があるが、攪乱のため不明であった。

**走向**：等高線に直交する方向で、直線的に走向する。時代は異なるが後述する2号溝とほぼ同方向の溝である。

**規模**：確認長は28.4m、幅60cmから130cm、深さ15cmから29cmである。残存深度は標高が高い北側が深く、標高が低い南側に向かうに従って浅くなる傾向が窺える。また、底面は標高が低い南側に向かって傾斜している。なお、南北での底面比高差は9cmである。

**遺物**：出土遺物中で最新の遺物は大宰府山本分類の白磁碗V-4類もしくはIII-1・3類の口縁部小片(第149図1溝3)である。両者共に、12世紀中頃から13世紀前半に出土量が増加するとされ、他に中世遺物や江戸時代の遺物が認められず、溝の時期を示す唯一の資料である。図示した以外の出土遺物は、竪穴建物と同時期で、最新遺物は平安時代の須恵器碗底部片である。非掲載遺物の數量は土師器210点・1310g、須恵器11点・110gである。

**所見・時期**：埋土中にAs-Bが認められ、最新の遺物が12世紀代まで遡る可能性があるため、12世紀頃に埋没した溝の可能性がある。また、表上で認められた江戸時代の陶器類が出土しておらず、江戸時代には完全に埋没していたのであろう。

2カ所の土層断面のうち、1カ所の埋土中に砂の堆積が認められ、埋没途中に流水があったことを示している。しかし、底面に流水を示す痕跡は認められない。

**2号溝**(第139図)

**位置**：1区北側中央に位置し、座標はX=40127から40135、Y=-81376から-81386である。

**重複**：15号竪穴建物、1号古墳と重複し、いずれも本溝が新しい。

**走向**：等高線に直交する方向で、直線的に走向する。時

代は異なるが後述する17号溝とほぼ同方向の溝である。

**規模**：北側は調査区外に延び、南側終端部は不明瞭であるが、12.0mにわたって確認できた。幅は70cmから110cm、残存深度は50cmから59cmである。底面は標高が低い南側に向かって傾斜している。なお、南北での底面比高差は10cmである。

**遺物**：古墳時代後期を主体とする須恵器細片が42点・350g出土したのみで、実測可能な遺物は認められなかつた。

**所見・時期**：埋没土にAs-Bの混入が認められず、As-Cを含むことや中世以降の遺物が出土していないことから、古代の溝と推定される。また、重複する15号竪穴建物が古墳時代前期であることから、それ以降の開削であることは確実である。土層断面や底面に流水を示す痕跡は認められなかつた。

**3号溝**(第140～142、149～151図、P.L.45・46・90・91、第7表)

**位置**：1区と3区の台地と低地境に位置する。座標はX=40106から40146、Y=-81395から-81481である。

**重複**：20号竪穴建物、45号竪穴建物、35号土坑と重複し、20号・45号の両建物より新しく、35号土坑より古い。

**走向**：台地と低地境の標高137mから136m付近で、等高線に沿うように走向するが、台地側上端の標高は西側137.0m、東側136.3mであり、東に向かうにしたがって低くなっている。西端の浅い部分を除く底面比高差は90cmで、東側が下流側である。

部分的に台地側(北東)と低地側(南西)に、多少ズレているものの、対をなすような張り出しが存在する。この張り出し部の機能は不明である。

**規模**：上流部の西側と下流部の東側が調査区外に延びるが、36mほどを調査した。分流部分を除いた幅は3.5mから5.1m、西端の浅い部分を除いた残存深度は50cmから90cmである。

**遺物**：土師器は1110点・16300g、須恵器は467点・10150gと出土量が多い。

**所見・時期**：As-B下水田耕作土化で確認されており、平安時代末以前の溝である。溝底に砂礫が認められることや走向から、水路として利用されたものと推定される。

## 4号溝(第140～142、151図、第7表)

**位置：**先に記述した3号溝の北側に位置し、座標はX=40115から40129、Y=-81407から-81403である。

**重複：**20号竪穴建物と重複し、本溝が新しい。3号溝の分流か重複かについては不明であるが、3号溝張り出し部を避けるように走向していることから、3号溝より古いとは考えにくい。

**走向：**3号溝に沿い、張り出し部を避けるように走向する。

**規模：**直線での調査長24m、幅34cmから48cm、深さ10cmから30cmである。なお、この数値は本溝が3区側で不明瞭となっているため、1区部分における数値を示した。

**遺物：**縄文時代から平安時代の土器が出土しており、非掲載遺物の数量は土師器26点・230g、須恵器8点・200gである。

**所見・時期：**3号溝に沿うように走向することから、3号溝より古いとは考えにくく、3号溝と同時存在の可能性が高い。

## 5号溝(第142図)

**位置：**1区の台地と低地の境付近の東端に位置し、座標はX=40113から40116、Y=-81392から-81396である。

**重複：**1号土坑と重複し、本溝が古い。

**走向：**確認面の標高136.8mから136.7m間を東西に走向する。底面の比高差は東側が8cm低い。

**規模：**調査長4.2m、幅69cmから94cm、深さ6cmから8cmである。

**遺物：**非掲載遺物の数量は土師器20点・60gである。

**所見・時期：**溝ではない可能性もあるが、調査長が短く詳細不明である。年代を決定する根拠に欠け、時期不詳である。

## 6号溝(第144図)

**位置：**As-B下水田の中央部西側に位置し、座標はX=40111から40118、Y=-81469から-81480である。

**重複：**As-B下水田と重複し、本溝が新しい。

**走向：**西側の幅広部分が湾曲するが、それ以外はAs-B下水田の畦とほぼ同方向である。底面の標高は、西側幅広部分が最も低く、東端との比高差は6cmである。なお、東側約1/3は底面の凹凸が残るような状態であった。

**規模：**調査長19.26m、幅41cmから170cm、残存深度2cmから13cmである。

**遺物：**遺物は出土しなかった。

**所見・時期：**As-B下水田時期より新しいという以外は不明である。

## 7号溝(第144図、P.L.46)

**位置：**2区と3区西側のAs-B下水田の範囲内に位置し、座標はX=40116から40143、Y=-81475から-81485である。

**重複：**As-B下水田と重複し、本溝が新しい。

**走向：**本溝の東側に存在する南北方向のAs-B下水田の畦とほぼ同じ走向であり、等高線とほぼ直交方向である。南北の底面標高は、南側が54cm低い。

**規模：**調査長30.6mで標高がより低い南側は調査区外に延びる。幅は60cmから88cm、残存深度は15cmから26cmである。

**遺物：**遺物は出土していない。

**所見・時期：**As-B下水田時期より新しいという以外は不明である。

## 8号溝(第145図)

**位置：**3区中央を北西から南東に貫くように存在する。北西側は調査区外に延び、南東側は攪乱で途切れ、1区では確認されておらず、1号溝付近で途切れるようである。座標はX=40133から40153、Y=-81411から-81441である。

**重複：**63号土坑、70号土坑と重複し、いずれも本溝が古い。

**走向：**北西から南東方向に等高線と斜交するように走向し、中央付近で分岐して南東に向かう。

**規模：**調査長は36.5mで、枝分かれ以前の幅は100cm程度である。深さは枝分かれ後で北側が3cm前後、南側が4cmから8cmである。

**遺物：**遺物は出土していない。

**所見・時期：**「As-B純層」で埋没しているため、As-B下水田時に近い時期もしくはそれ以前の時期であろう。なお、「As-B純層」が降下時の堆積か二次堆積かについては、所見がなく不明である。北側溝の底面には「硬化」が認められるとの調査所見があり、硬化幅は20cmから30cmと狭い。



### 第3章 確認された遺構と遺物

1区の北西端にはAs-Bか砂で埋没した畑が確認されており、耕作地内の道であった可能性もある。

#### 9号溝(第146・151図、P L.46、第7表)

**位置：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように存在する溝群のひとつである。座標はX=40132から40147、Y=-81433から-81466である。

**重複：**15号溝、77号土坑、78号土坑と重複し、土坑より新しいが、15号溝の重複部分が不明瞭なため、新旧関係は不明である。

**走向：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように走向する。

**規模：**確認長35.9m、幅32cmから84cm、深さ10cmから13cmである。標高が高い北西端と低い南東端における底面の標高差は11cmである。

**遺物：**中世では在地系片口鉢の体部下位片1点(第151図9溝1)が出土している。破片の割れ口に摩滅が認められず、使用地からさほど離れた位置での出土ではないものと推測される。

非掲載遺物の数量は土師器86点・530g、須恵器9点・100gである。

**所見・時期：**出土遺物から中世溝と推定される。位置は異なるものの、As-B下水田に伴う溝とも走向を一にしており、平安時代末から近現代に至るまで水田域と台地を区切る溝(水路)として利用されてきた溝群のひとつと考えられる。断面観察によると、平面図に図化したのは深い部分のみで、9号溝は平面図よりも幅広く確認されている。埋没土は、「細砂・粗砂(As-Bか)」が主体とされており、判然としない部分があるが、流水を作う溝であった可能性が考えられる。このため、水田域と台地の溝は、流路を変えながらも継続しており、一つ一つの溝として捉えることは困難であろう。本溝は、こうした溝群の中の中世段階を示す箇所と推定される。

#### 10号溝(第146・151図、P L.46・91、第7表)

**位置：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように存在する溝群のひとつで、最も標高が高い位置で確認された。座標はX=40131から40148、Y=-81412から-81465である。

**重複：**調査区北西端で9号溝、12号溝との境は不明瞭と

なり、重複しているものと考えられるが新旧関係は不明である。76号土坑から78号土坑とも重複し、土坑より新しい。南東端は1号溝と重複し、本溝が古い。

**走向：**北西から南東に走向する。北西は調査区外に延び、南東は1号溝との重複部分以東は確認されず不明である。

**規模：**確認長56.5m、幅87cmから177cm、深さ31から38cmである。標高が高い北西端と低い南東端との標高差は29cmである。

**遺物：**中世から近現代の遺物が出土しており、長期に渡って使用されていたようである。中世遺物としては、同一個体と推定される在地系の片口鉢4片が出土し、これらのうち2片が接合した。接合して3点となったうち、2片(第151図10溝3・4)を図示した。他の遺物は小片が多く、接合は認められなかったが、存続時期を示す根拠として近世(第151図10溝2・5・6・7)、近現代(第151図10溝1)の陶磁器を選択して掲載した。また、陶磁器類以外では馬歛が出土している(第4章第1節参照)。

非掲載遺物の数量は土師器161点・1300g、須恵器26点・460g、中世在地系鉢片2点・30g、江戸時代陶磁器類28点・486g、近現代陶磁器5点・35gである。

**所見・時期：**同一個体と推定される中世遺物(第151図10溝3・4)は摩耗が認められず、付近での使用が想定される。ほぼ同じ場所で僅かに流路を変えて存続していたと考えられる。他の出土遺物は、割れ口に僅かな摩滅が認められ、上流部から流下したものと推定される。

#### 11号溝(第146図、P L.46)

**位置：**座標はX=40111から40147、Y=-81393から-81477である。

**重複：**As-B下水田に伴う溝と重複し、本溝が新しい。

**走向：**As-B下水田埋没以降で、台地と低地境を等高線に沿うように走向する溝としては標高が最も低い箇所に位置する。

**規模：**確認長は30.4m、As-B下水田に伴う溝と重複し、断面観察が1カ所であることに加え、個別の平面図作成が行われておらず、幅が判明するのは1カ所のみである。その1カ所の幅は2.0mである。また、同じ箇所における深さは58cmである。底面の標高差は不明である。

**遺物：**As-B降下以降の遺物は出土していない。As-B降下以前の非掲載遺物は土師器54点・320g、須恵器9点・

100gである。

**所見・時期：**埋没土中に砂の堆積が認められ、水路として利用されたものと解される。また、As-B下水田に伴う溝と同様な走向と推定されることから、As-B降下後の比較的近い時期に掘削・使用された可能性がある。

#### 12号溝(第146図、P L.46)

**位置：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように存在するAs-B下水田以降の溝群内ではほぼ中央に位置する。座標はX=40130から40148、Y=-81432から-81470である。  
**重複：**平面図では11号溝、13号溝、16号溝と重複しているように見えるが、断面図には表現されておらず不明である。

**走向：**北西から南東に向け、やや蛇行して走向する。北西は調査区外に延び、11号溝と重複するように見えるが、次第に残存深度が浅くなり不明瞭である。

**規模：**単独で確認できる長さは33.5m、幅は30cmから108cm、残存深度は2cmから8cmと浅い。標高が高い北西側底面と標高が低い南東側底面との標高差は33cmである。

**遺物：**As-B降下以降の遺物は出土していない。図示していないが、平安時代須恵器片が最新遺物である。

**所見・時期：**埋没土にAs-Bが多く含まれ、As-B降下以降の溝であることは確実視される。しかし、年代を決める根拠となる出土遺物がなく詳細不明である。

#### 13号溝(第146図、P L.46)

**位置：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように走向するAs-B下水田以降の溝群内ではほぼ中央に位置する。平面図では溝の範囲が不明瞭であるが、座標X=40140から40142、Y=-81457から-81462間に存在するようである。

**重複：**12号溝、14号溝、16号溝と重複するようであるが、断面図では単独で表現されており、新旧関係は不明である。

**走向：**調査長が短く詳細不明であるが、周囲の溝同様、北西から南東に向けやや蛇行して走向していたものと推定される。

**規模：**調査長は5.5m程度であろう。断面図作成部分の幅は14cm、深さは6cmである。

**遺物：**As-B降下以降の遺物は出土していない。As-B降下以前の非掲載遺物は土師器16点・150g、須恵器3点・70gである。

**所見・時期：**埋没土にAs-Bが多く含まれ、As-B降下以降の溝であることは確実視される。しかし、年代を決める根拠となる出土遺物がなく時期不詳である。

#### 14号溝(第146図、P L.46)

**位置：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように走向するAs-B下水田以降の溝群内に位置する。座標はX=40138から40141、Y=-81458から-81460である。

**重複：**16号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

**走向：**北西から南東に走向する。

**規模：**調査長7.34m、幅25cmから56+αcm、深さ5cmから9cmである。

**遺物：**遺物は出土していない。

**所見・時期：**埋没土にAs-Bが多く含まれ、As-B降下以降の溝であることは確実視される。しかし、年代を決める根拠となる出土遺物がなく詳細不明である。

#### 15号溝(第146・151図、P L.46、第7表)

**位置：**3区の台地と低地境を等高線に沿うように走向するAs-B下水田以降の溝群内に位置する。座標はX=40133から40146、Y=-81439から-81465である。

**重複：**9号溝と一部重複するが、浅い部分での重複のため新旧関係は不明である。

**走向：**3区北西端付近から南東部に走向する。北西端は9号溝、10号溝、16号溝に分派する以前の箇所とは離れているが、これらの溝は、深い部分に溝番号を付している状態であり、本来は分流していた可能性が高い。

**規模：**確認長6m、幅24cmから103cm、深さ1cmから13cmである。標高が高い北西部と標高が低い南東部の標高差は26cmである。

**遺物：**As-B降下以降の遺物としては、唯一中世在地系の片口鉢底部下位片(第151図15溝1)が1点出土している。この破片に接合関係はないが、割れ口に摩滅が認められず、長距離を流下したとは考えにくく、本溝の年代を示すと考えられる。As-B降下以前の非掲載遺物としては土師器片12点・140g、須恵器2点・60gがある。

**所見・時期：**埋没土にAs-Bが多く含まれ、As-B降下以降



### 第3章 確認された遺構と遺物

の溝であることは確実視される。また、中世の片口鉢片が出土しており、中世の溝である可能性が高い。

#### 16号溝(第146図、P.L.46)

**位置：**3区の台地と低地を等高線に沿うように走向するAs-B下水田以降の溝群内に位置する。座標はX=40138から40147、Y=-81452から-81468である。

**重複：**12号溝、14号溝と重複するが、新旧関係は不明である。また、北西端部は9号溝、10号溝との分流部のようでは幅広くなっているが、各溝の時間差や順序は不明である。

**走向：**北西から南東に向かって走向する。南東端は次第に浅くなるよう、試掘トレチの箇所で途切れている。

**規模：**調査長18.6m、幅28cmから54cm、深さ7cmから8cmである。標高が高い北西端と標高が低い南東端との比高差は12cmである。

**遺物：**遺物は出土していない。

**所見・時期：**埋没土にAs-Bが多く含まれ、As-B降下以降の溝であることは確実視される。しかし、年代を決める根拠となる出土遺物がなく詳細不明である。

#### 17号溝(第147図、P.L.46)

**位置：**3区東側に位置し、座標はX=40130から40145、Y=-81399から-81433である。

**重複：**28号竪穴建物、31号竪穴建物と重複し、いずれも本溝が古い。

**走向：**標高が高い北東から標高が低い南西方向、すなわち台地から低地に向かって走向する。溝底面の標高差は30cmである。

**規模：**確認長37.4m、幅50cmから120cm、深さは最深で57cmである。調査区北東端の土層断面で確認できた深さは73cmと深く、溝幅に比してかなり深い感を受ける。溝の南端は次第に浅くなって不明瞭となる。

**遺物：**非掲載遺物としては土師器7点・50g、須恵器2点・20gがあるが、As-C層より上層で出土した遺物なのであろうか。

**所見・時期：**埋没土上層にAs-C純層が認められ、古墳時代前期以前に掘削された溝と推定される。

#### 18号溝(第148図)

**位置：**4区南西部に位置し、今回の調査で確認された遺構中最も標高の低い場所に存在する。座標はX=40061から40069、Y=-81455から-81469である。

**重複：**As-B下水田が確認されないため、重複する遺構はない。

**走向：**本溝付近に存在するAs-B下水田東西方向の畦と方向が近い。

**規模：**調査長は15.5mであるが、東西方向共に調査区外に延びる。幅は62cmから90cm、深さは13cmから18cmである。標高が高い北西部と標高が低い南東部底面の比高差は8cmである。

**遺物：**非掲載遺物の総量は土師器8点・90g、須恵器1点・10gである。

**所見・時期：**埋没土にAs-Bが認められず、As-B降下以前と推定されるが、時期を示す遺物の出土がなく詳細不明である。

#### 19号溝(第148図)

**位置：**As-B下水田域の北東部に位置する。座標はX=40104から40106、Y=-81420から-81431である。

**重複：**As-B下水田と重複し、本溝が新しい。

**走向：**走向方向は、As-B下水田東西方向の畦と若干異なる。西側は次第に浅くなり不明瞭となるが、東側は調査区外に延びる。

**規模：**調査長7.8m、幅22cmから70cm、深さ5cm以下である。東西端部底面の標高差は5cmである。

**遺物：**出土遺物はない。

**所見・時期：**時期決定の根拠に乏しく、As-B下水田より新しいこと以外は不明である。

#### 20号溝(第143・151図、第5表)

**位置：**3号溝の南東側に位置する。座標はX=40119から40130、Y=-81435から-81447である。

**重複：**3号溝と重複し、本溝が新しい。

**走向：**3号溝に沿うように走向するが、全体は不明である。

**規模：**確認された長さは11.5mである。3号溝との重複により幅、深さ共に不明である。

**遺物：**3号溝同様遺物の出土量は多く、土師器230点・

2390 g、須恵器38点・650 gである。

**所見・時期：**3号溝存続中の変流部分とも考えられる。

20号溝部分のみでの時期決定は不可能である。

に砂やシルトが認められないことから、流水を伴わない溝と推定される。

21号溝から26号溝(第143・151図、P.L.46、第7表)

**位置：**3区西端付近の低地部に位置する。座標はX=40129から40142、Y=-81469から-81484である。

**重複：**方向や形状が変わった部分で異なった遺構番号を付しており、断面観察においても異なった土層が観察されている。しかし、個々の走向が不明であり、ここでは一括して遺構説明を行う。

**走向：**不定形のため個々の走向は不明であるが、全体としては標高が高い北西方向から標高が低い南東方向に向かう。

**規模：**形状が一定せず規模は不詳。

**遺物：**非掲載遺物量は以下のとおりである。21号溝：須恵器1点・30 g。22号溝：出土遺物なし。23号溝：土師器70点・880 g。24号溝：土師器6点・30 g、須恵器5点・60 g。25号溝：土師器5点・310 g。26号溝：土師器4点・80 g。

**所見・時期：**個別に遺構番号を付しているが、個々の走向や形状把握が困難であり、流水痕跡の深い部分を確認したものと解される。全体としては一つの溝として捉えて差し支えないであろう。3号溝の増水によるオーバーフローによって形成された可能性もあり得る。As-B下水田下で確認されているため、時期はAs-B下水田以前であるが、それ以上は不明である。

27号溝(第145図、P.L.46)

**位置：**3区西側中央に位置する。座標はX=40144から40151、Y=-81446から-81462である。

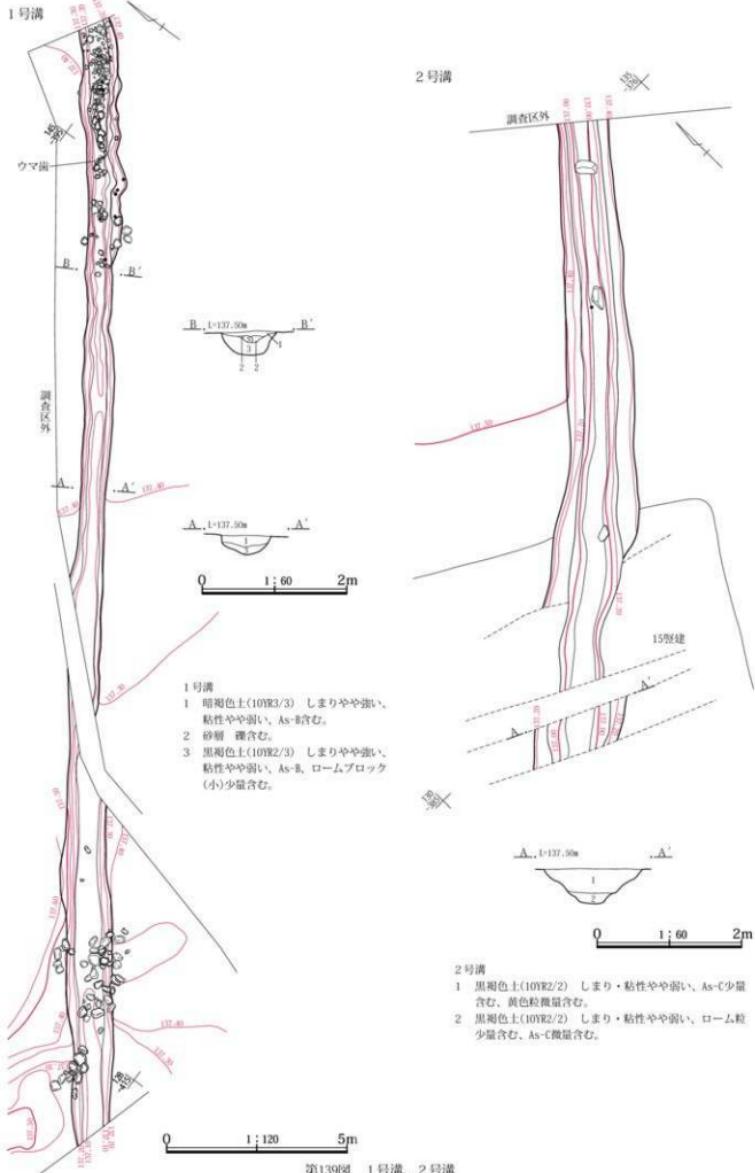
**重複：**39号竪穴建物と重複し、本溝が古い。

**走向：**確認面における137.0m等高線に沿って走向しており、底面に凹凸は存在するものの傾斜は認められない。

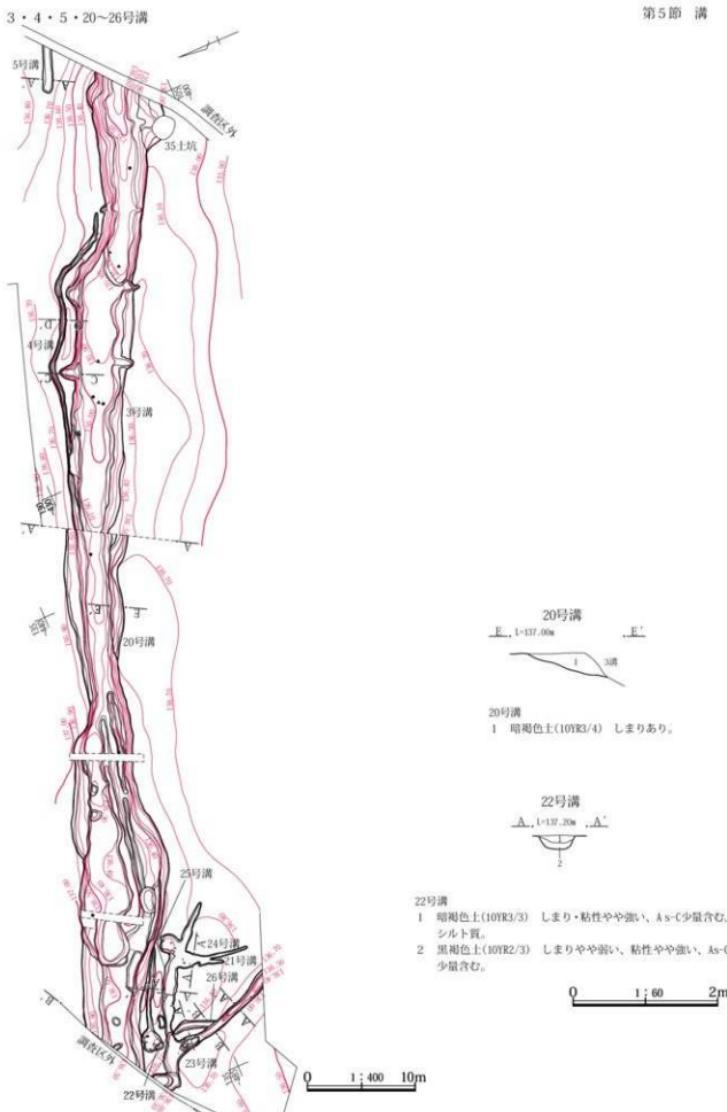
**規模：**調査長は17.02m、分岐部分を除く幅は24cmから48cm、深さは9cmから14cmである。

**遺物：**遺物は出土していない。

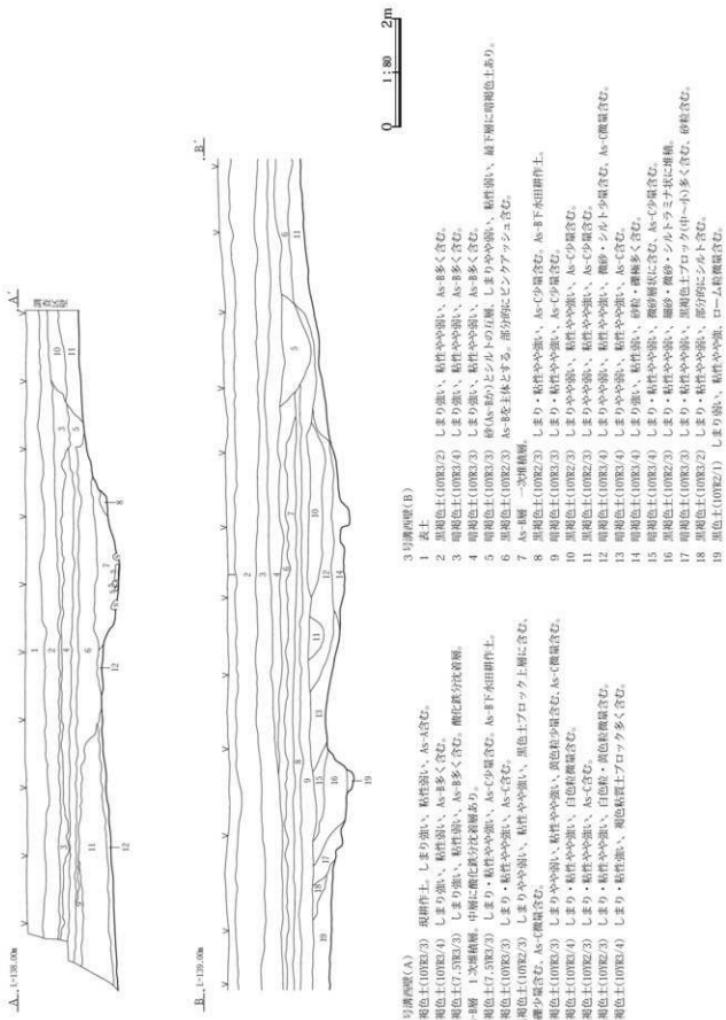
**所見・時期：**埋没土にAs-Cを含んでいることや竪穴建物との重複関係から、As-C降下以降、39号竪穴建物の推定時期である6世紀後半以前と考えられる。また、埋没土



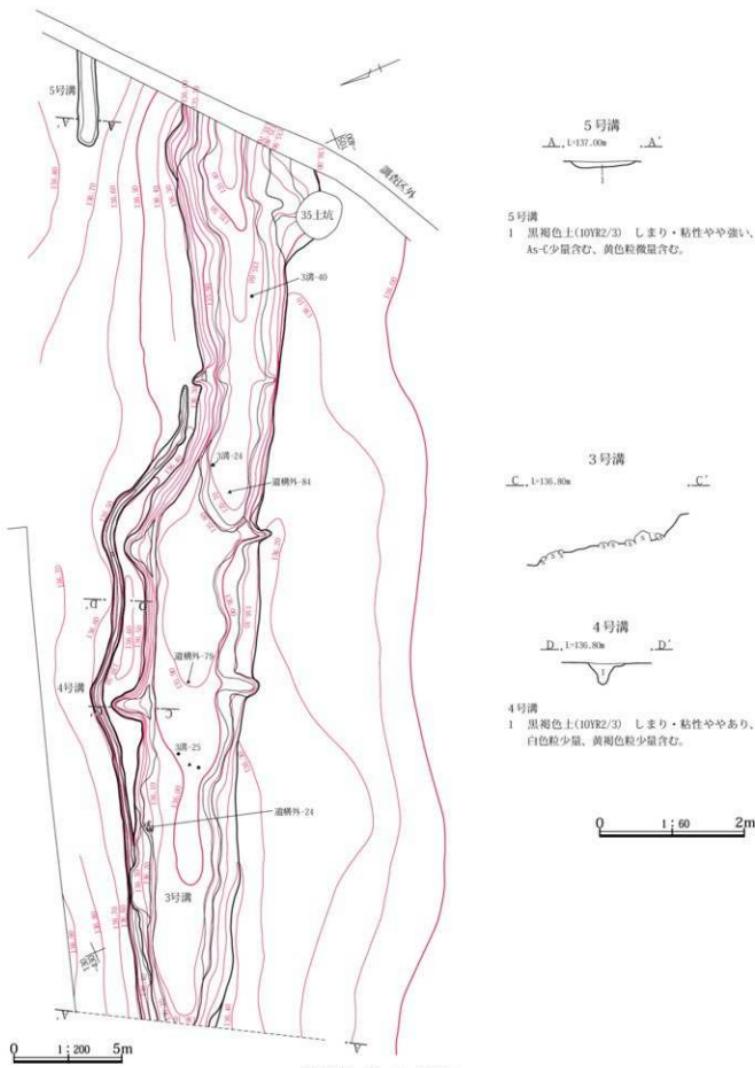
第139図 1号溝、2号溝

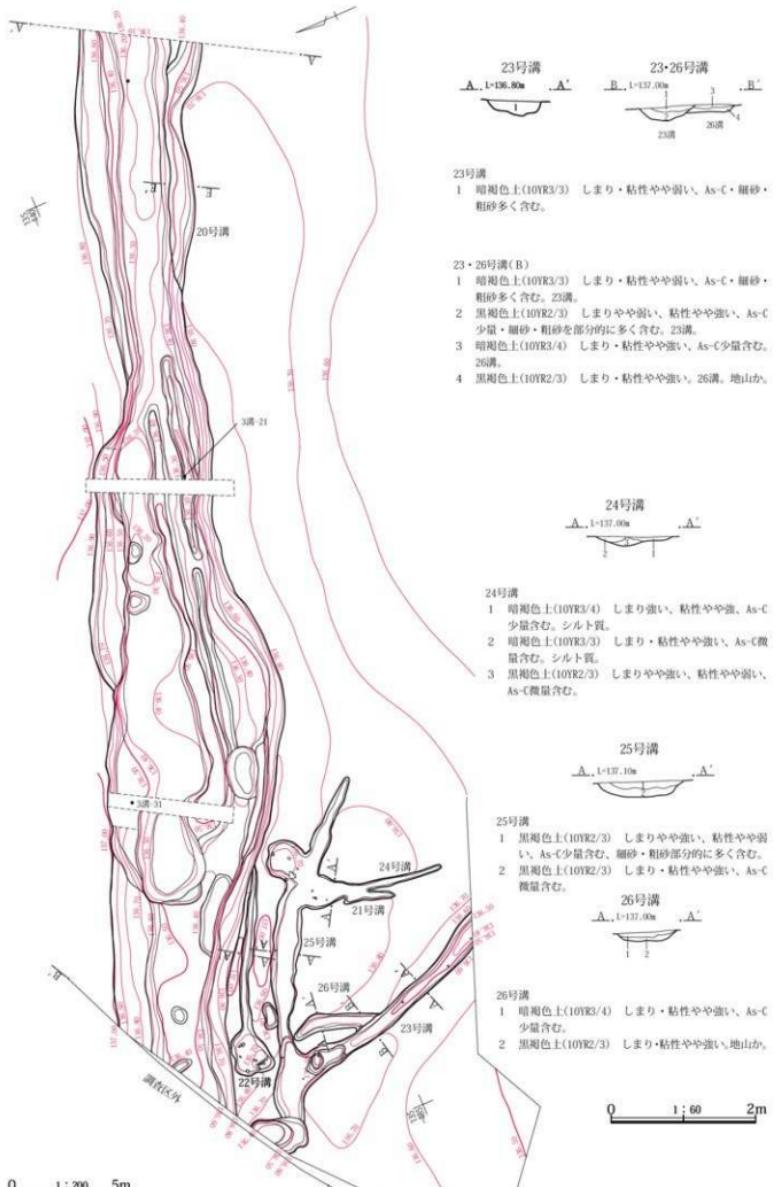


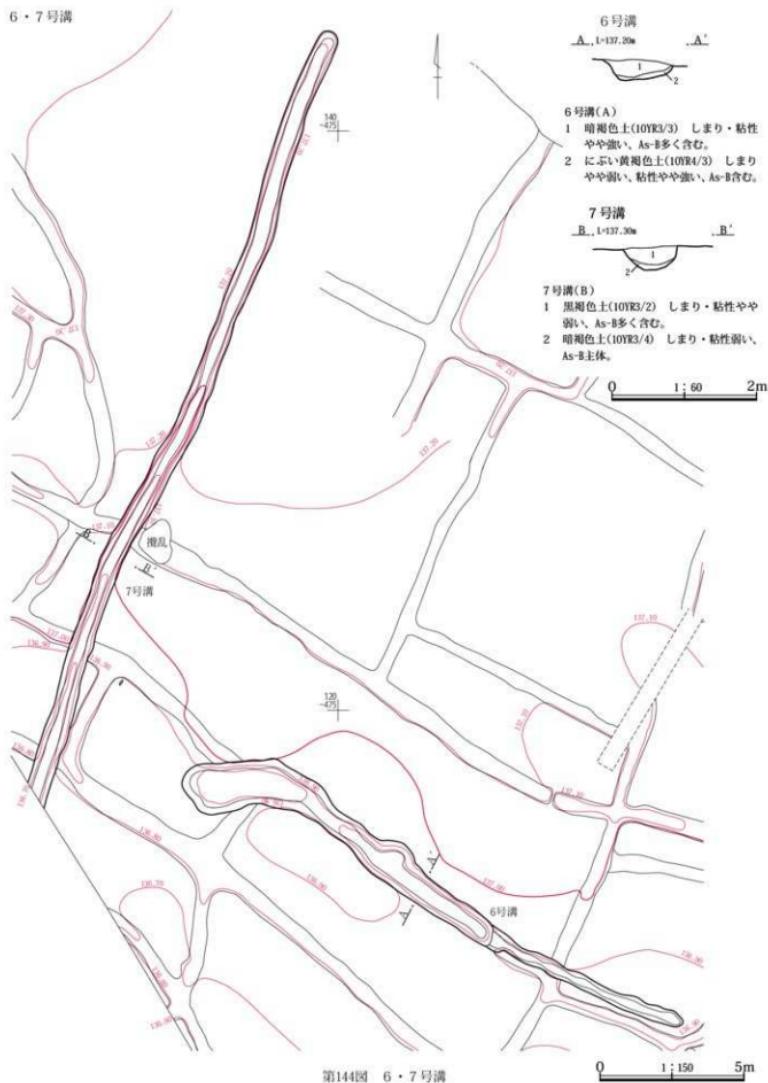
第140図 3～5・20～26号溝



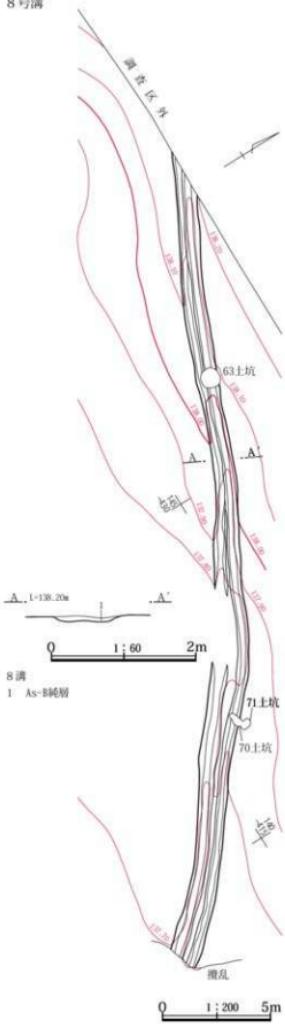
第141図 3・4号横断面図



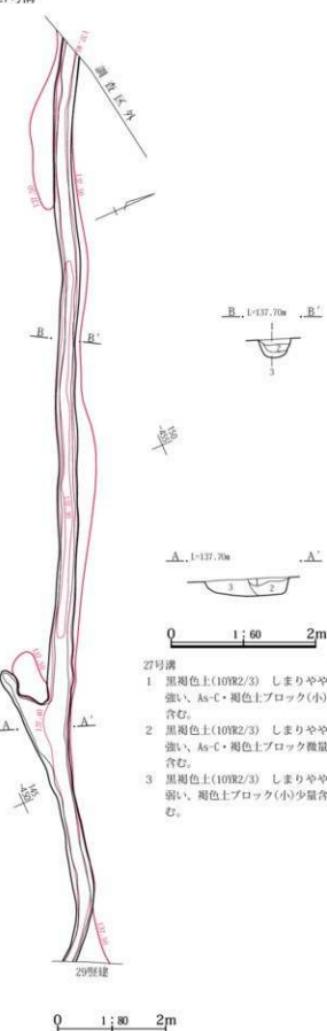




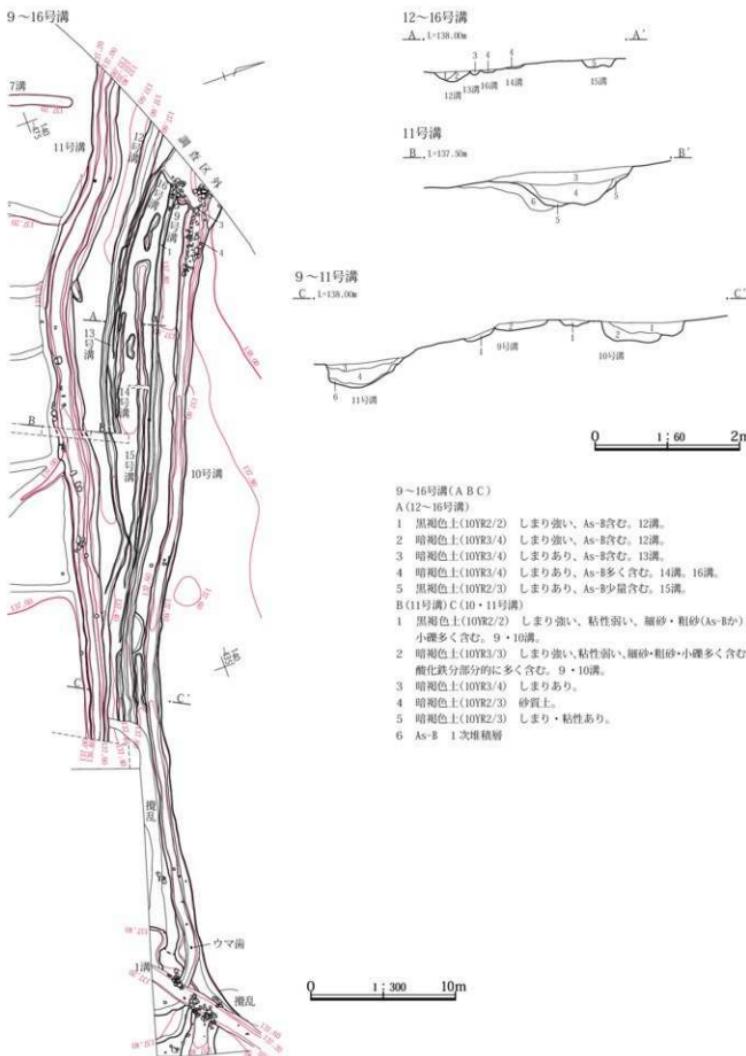
8号溝



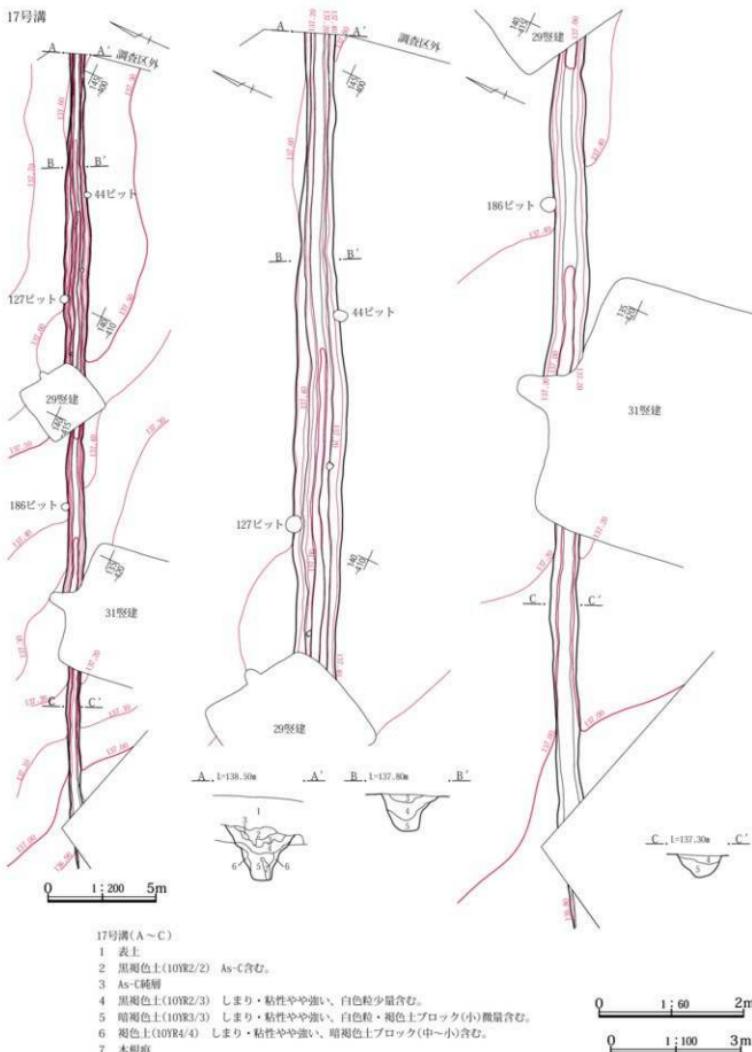
27号溝



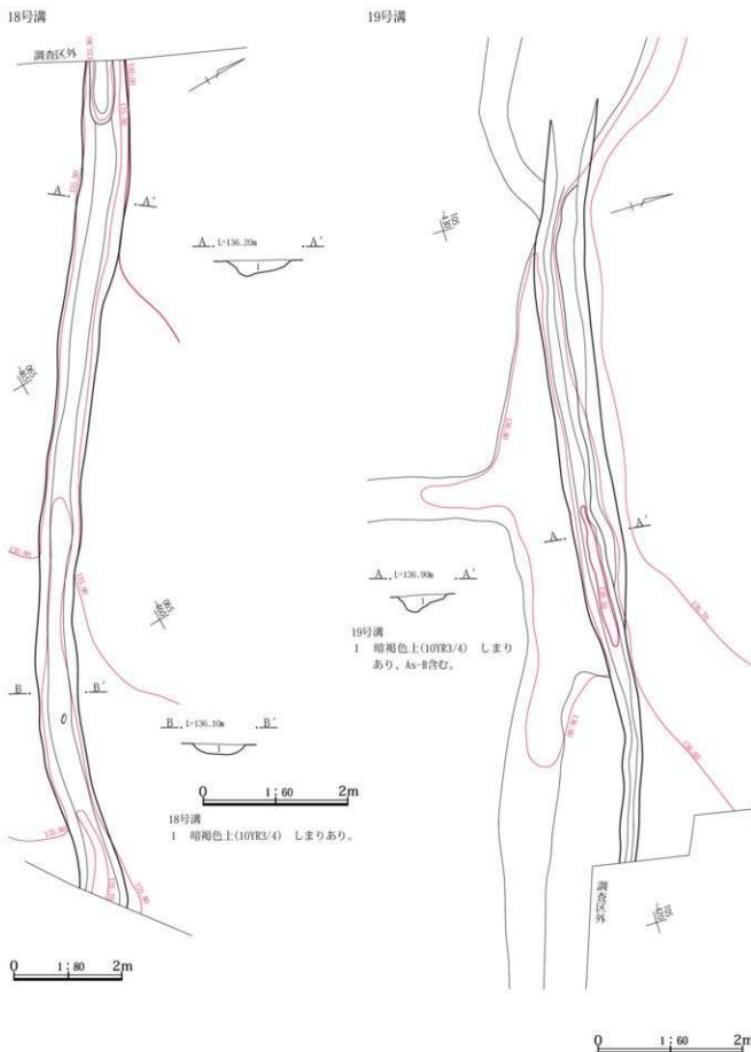
第145図 8号溝、27号溝



第146図 9~16号溝



第147図 17号溝

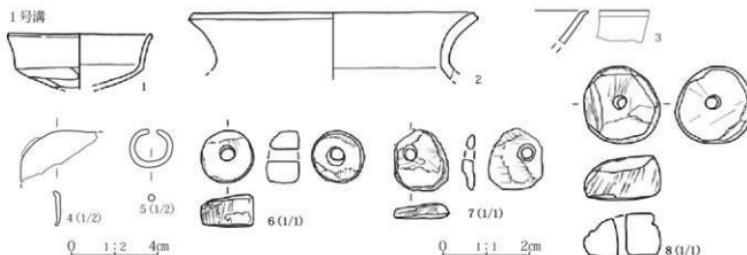


第148図 18号溝、19号溝

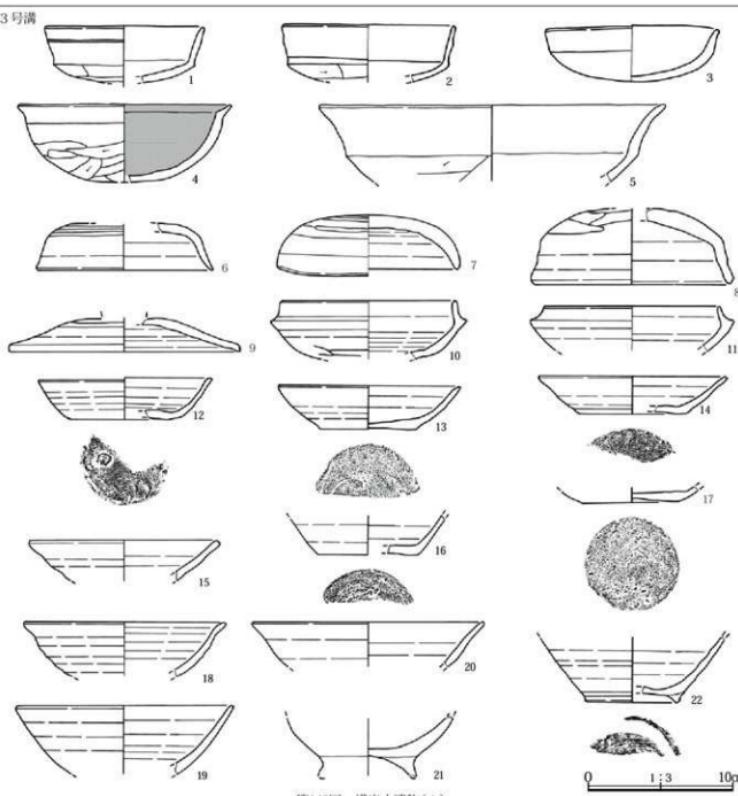


第3章 確認された遺構と遺物

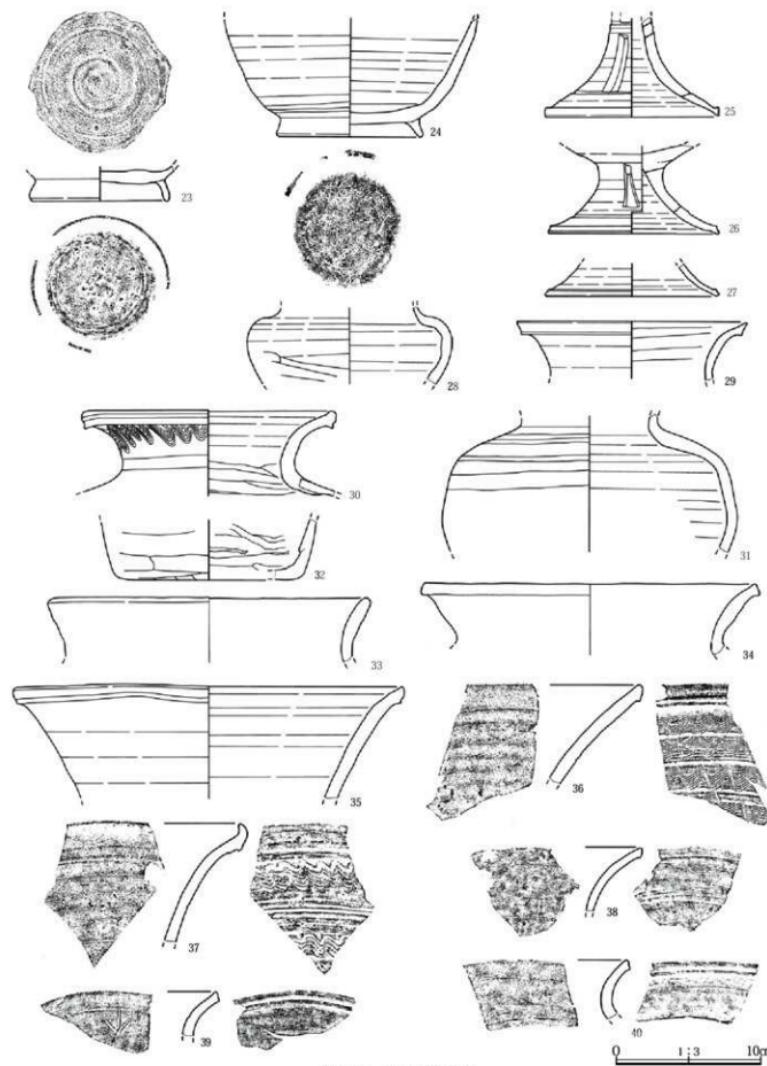
1号溝



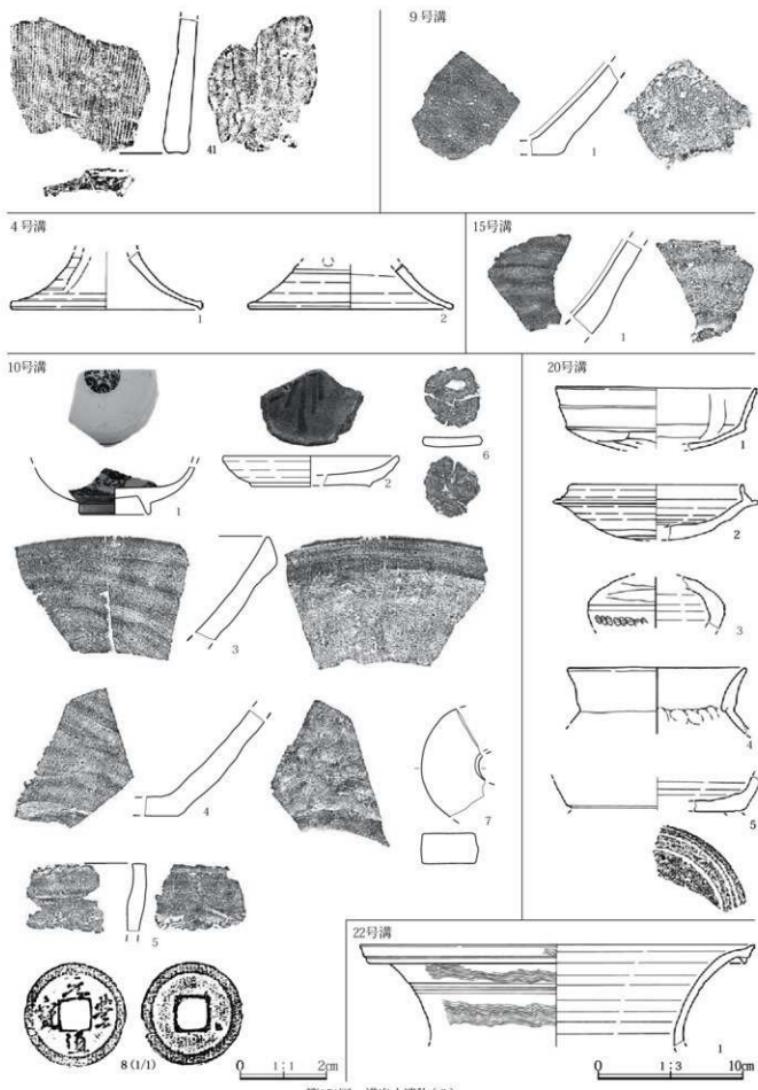
3号溝



第149図 溝出土遺物(1)

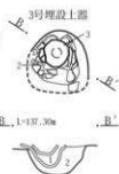


第150図 溝出土遺物(2)



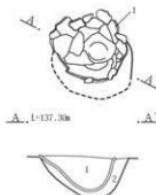
第151図 溝出土遺物(3)

## 第6節 埋設土器、遺物集中



- 3号埋設土器
- 1 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや弱い、白色粒極微量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い、白色粒微量含む。
- 145  
-40

2号埋設土器



- 2号埋設土器
- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱い、黄色粒・白色粒微量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やや強い、黄色粒・白色粒微量含む。

0 1 : 20 50cm



0 1 : 3 10cm

第152図 2・3号埋設土器

第3章 確認された遺構と遺物

1. 埋設土器(第152図、P L.47・91、第7表)

縄文時代の埋設土器は合計で3基調査されたが、土器が正位又は逆位に埋設されているものを埋設土器と認定した結果、1号埋設土器は埋設したとは考えにくく欠番とした。いずれも3区北西部で検出した。2号埋設土器、3号埋設土器は隣接する位置で確認した。土器を埋設した土坑状の掘り込みは、円形を呈している。時期は縄文時代中期後半に比定される。

2号埋設土器は、口縁部から胴部上位を欠損した深鉢(第152図1)を正位に埋設していた。使用された土器が、隆線による胴部懸重を施し、LR縄文を縦位充填施文で施された深鉢であることから、加曾利E 4式に比定される。

3号埋設土器は、第152図2・第152図3が正位埋設され、入れ子状になって出土した。いずれの土器も底部が

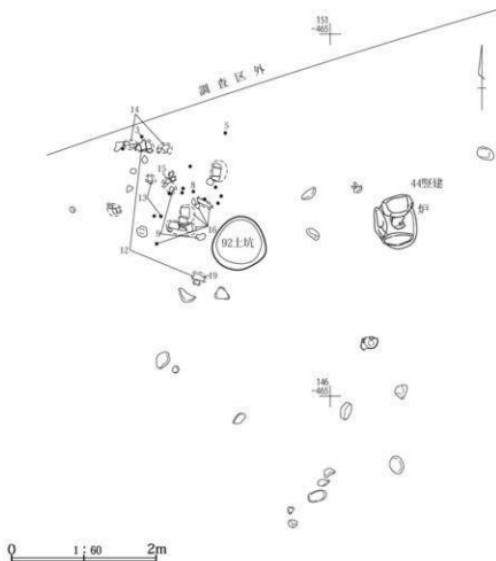
出土していることから、遺構の床面付近まで大きく削平されたようである。使用された土器は、2号埋設土器に比べ小型の深鉢である。RL縄文を縦位施文されていたことから、加曾利E 3式と比定される。

2. 遺物集中(第153~155図、P L.47・91・92、

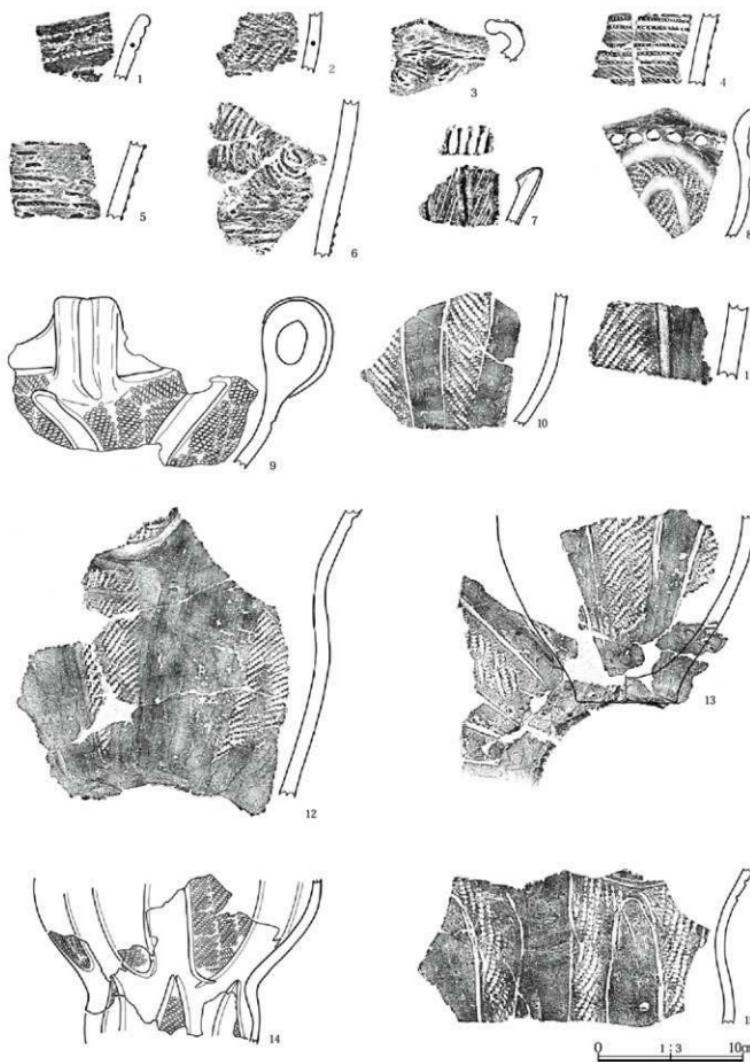
第7表)

44号竪穴建物、92号土坑のすぐ西に隣接する。約2m×2.5mの範囲に土器がまとめて出土したことから1号遺物集中とした。遺構平面形や土層断面を確認し、44号竪穴建物から出土した土器と接合したものもあったが、遺構と認定できなかった。

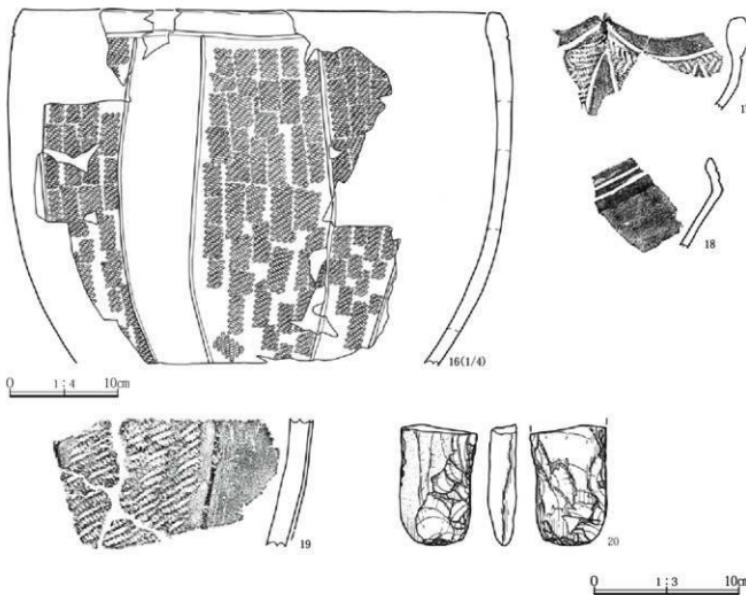
有尾式2点、諸磯b式2点、加曾利E 3式6点、加曾利E 4式5点、高井東式1点と前期から後期にかけての土器が出土している。



第153図 1号遺物集中



第154図 1号遺物集中出土遺物(1)



第155図 1号遺物集中出土遺物(2)

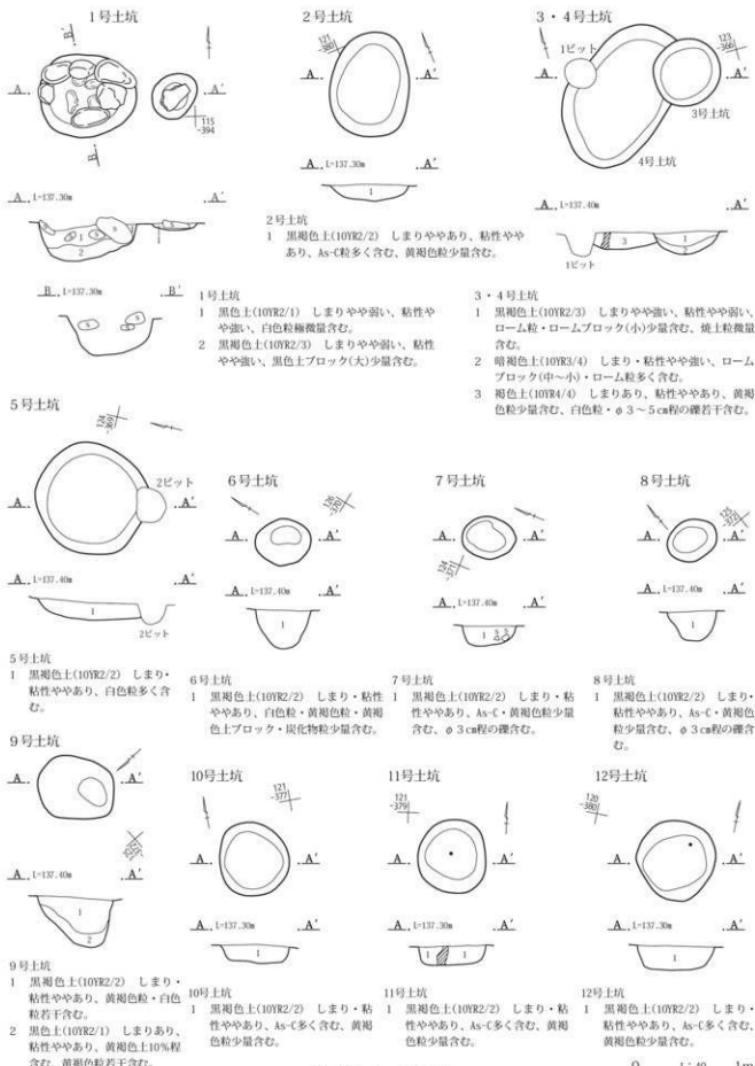
## 第7節 土坑、ピットほか

1. 土坑(第156~166図、P.L.47~50・92・93、  
第5・7表)

土坑は104基調査したが、全てが性格不明であり、遺物出土量も少く時期を特定できる例も限られる。従って、概要説明と一覧表をもって遺構説明とする。

55号土坑、98号土坑、102号土坑の3基は、縄文土器の大型破片のみが出土したことから、縄文時代の土坑と認定した。諸磯b式の胸部片、加曾利B3式の胸部片、加曾利E3式の波状口縁が出土した。縄文時代の堅穴建物の時期からも加曾利E3式と比定される。縄文時代以外では53号土坑を除いて時期決定し得る遺物の出土がなく、時期不明である。

## 第7節 土坑、ピットほか

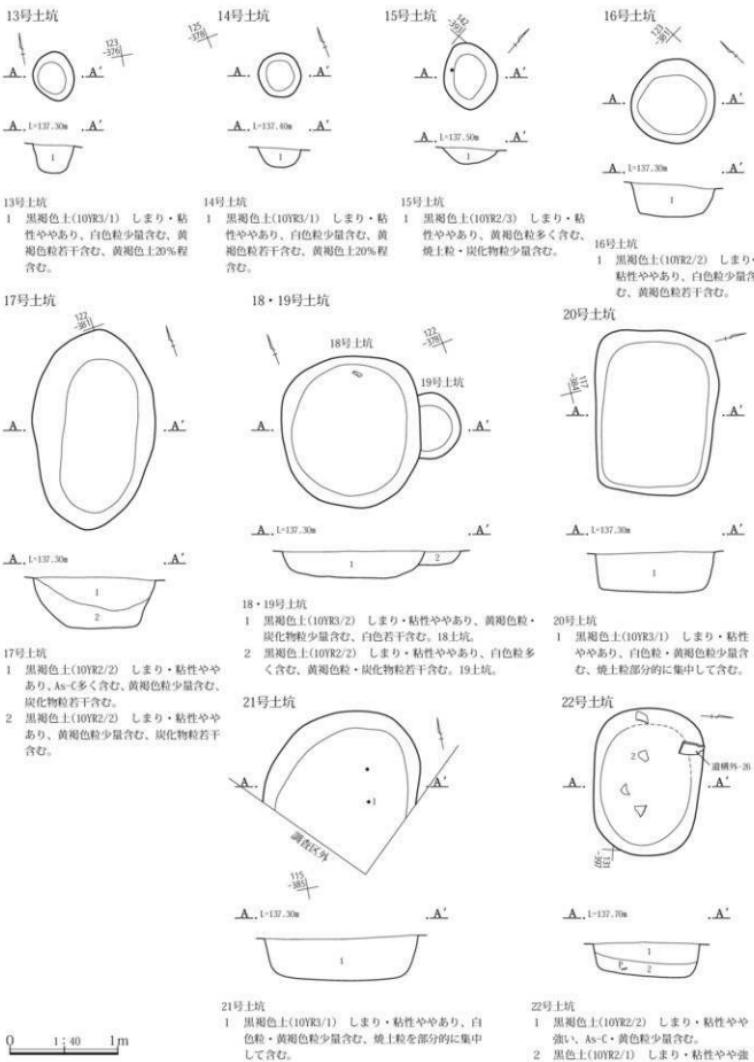


第156図 1~12号土坑

0 1:40 1m



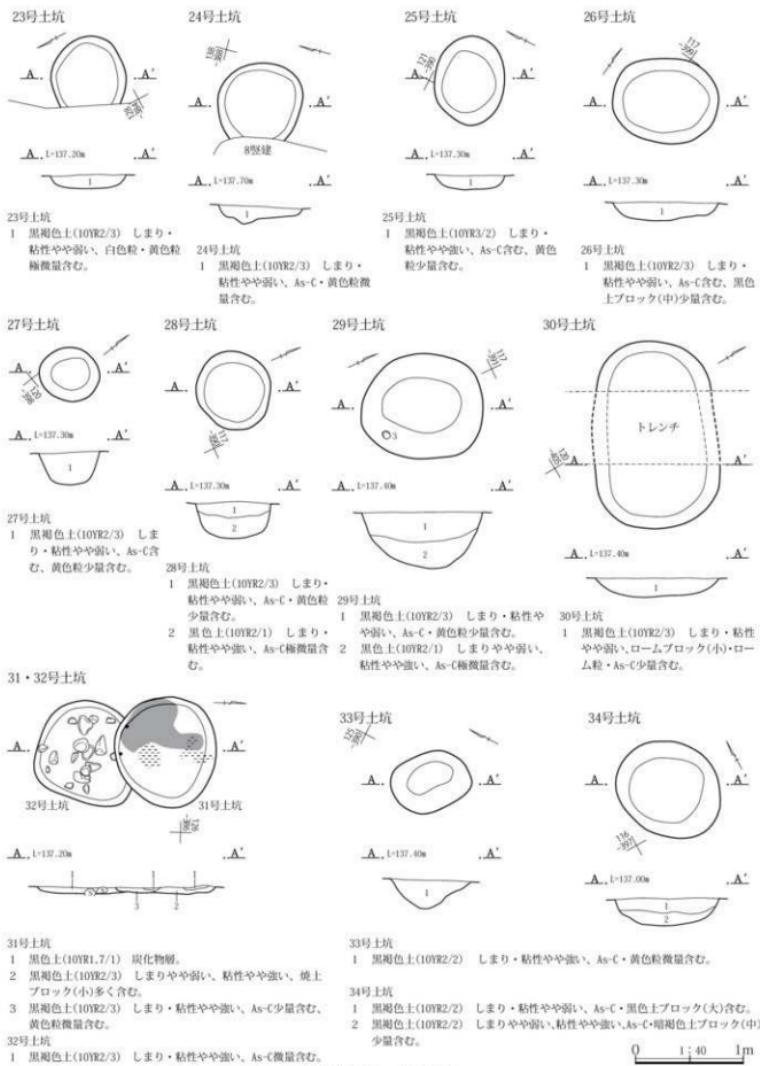
### 第3章 確認された遺構と遺物



0 1:40 1m

第157図 13～22号土坑

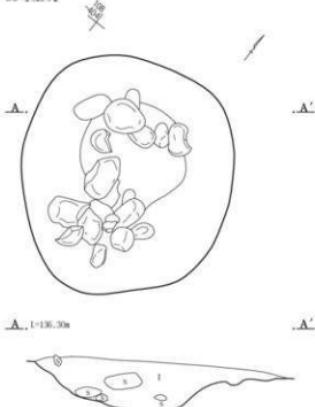
## 第7節 土坑、ピットほか



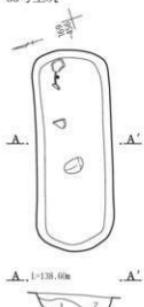
第158図 23～34号土坑

第3章 確認された遺構と遺物

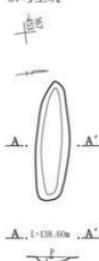
35号土坑



36号土坑



37号土坑



35号土坑

1 晴褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い。粘性やや強い。小礫、粗砂ラミナ状に含む。

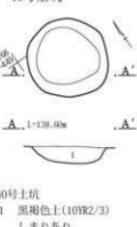
38号土坑



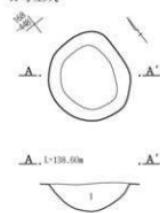
39号土坑



40号土坑



41号土坑



0 1:40 1m

第159図 35 ~ 41号土坑

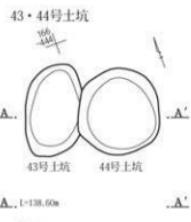


## 第7節 土坑、ピットほか



42号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3)  
褐泥ブロック含む。



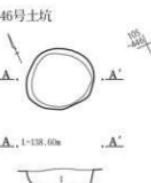
43・44号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。44号坑。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。43号坑。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い。  
黄色粒少含む。43号坑。



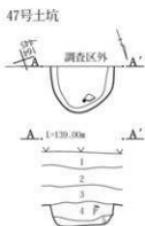
45号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。



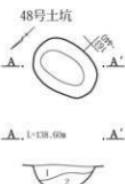
46号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり。



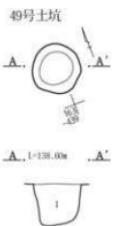
47号土坑

- 1 表土
- 2 As-B混土
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。
- 4 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)



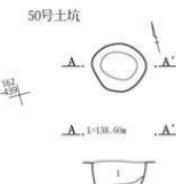
48号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまり・  
粘性やや強い。黄色粒微量含む。



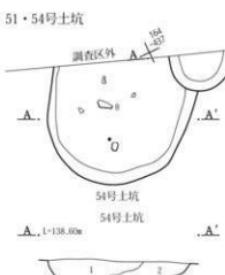
49号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。



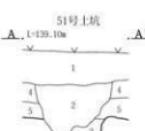
50号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。



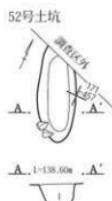
54号土坑

- 1 黑褐色土(10TR2/1) しまりやや弱い。
- 2 黑褐色土(10TR2/3) しまりややあり。



51号土坑

- 1 表土
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまり強い。摸見。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。  
黄色粒微量含む。51号坑。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) As-B含む。
- 5 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。



52号土坑

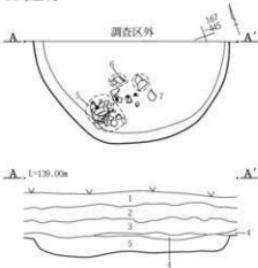
- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまり  
ややあり。

0 1:40 1m

第160図 42～52・54号土坑

第3章 確認された遺構と遺物

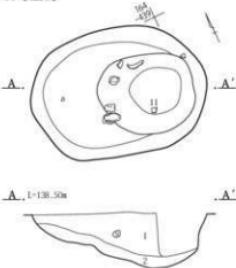
53号土坑



53号土坑

- 1 表土
- 2 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 部分的に2層含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、黄色粒極微量含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い、黄色粒微量含む。53号坑。

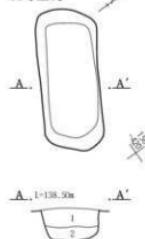
55号土坑



55号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。

56号土坑



56号土坑

- 1 褐灰色土 As-B多く含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。

57号土坑



57号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 3 黑褐色土(10YR3/1) ローム粒20%含む。

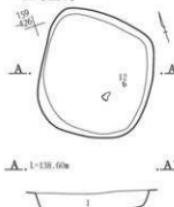
58号土坑



58号土坑

- 1 黑褐色土(10YR2/3) As-B含む。

59号土坑



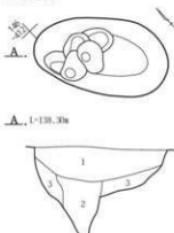
59号土坑

- 1 黑褐色土(10YR2/3) As-B含む。

60号土坑



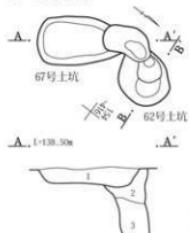
61号土坑



61号土坑

- 1 黑褐色土(10YR2/3) As-B含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い、As-B含む。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。

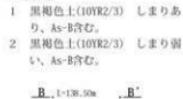
62・67号土坑



62・67号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、褐色ブロック含む。67号坑。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。62号坑。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。

60号土坑

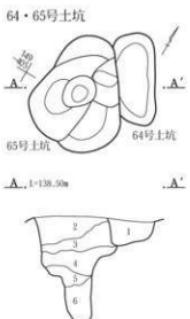
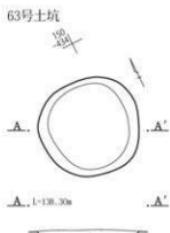


62号土坑

- 1 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。
- 3 黑褐色土(10YR2/3) しまり弱い。

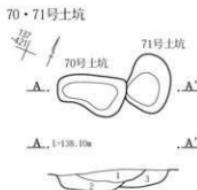
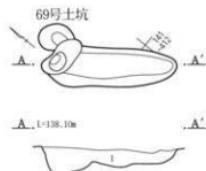
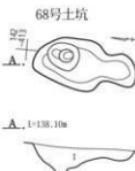
0 1:40 1m

第161図 53・55～62・67号土坑



- 65・64号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。64号坑。  
2 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い、褐色ブロック多く含む。65号坑。  
3 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒・ロームブロック(小)中に暗褐色土塊質に含む。人為的理屈。  
4 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり、As-B含む。65号坑。  
5 4層にローム粒少含む。65号坑。  
6 黑褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。65号坑。

63号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり、As-B含む。

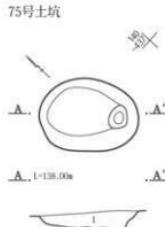
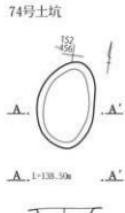
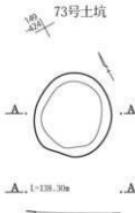
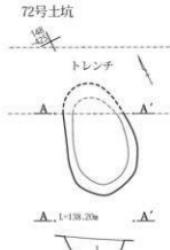


- 70・71号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) As-B含む。70号坑。  
2 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。70号坑。  
3 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。71号坑。

66号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。

68号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。

69号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。



72号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。

73号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。

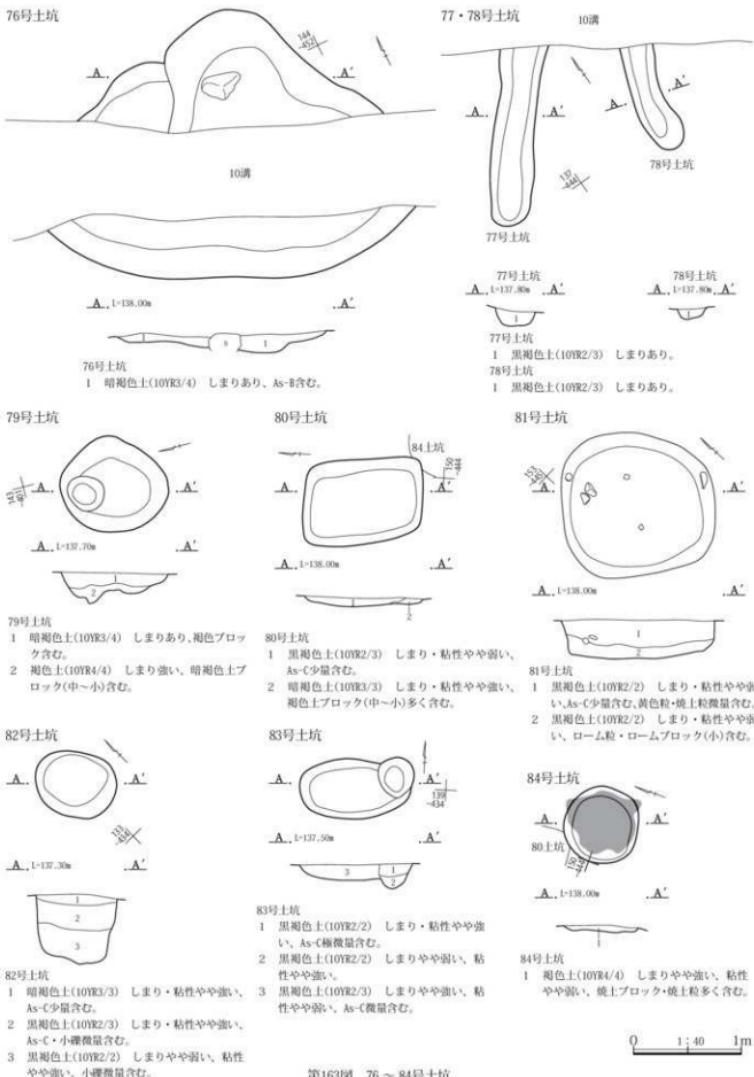
74号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり、As-B含む。

75号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや強い。粘性やや強い、As-B含む。

0 1:40 1m

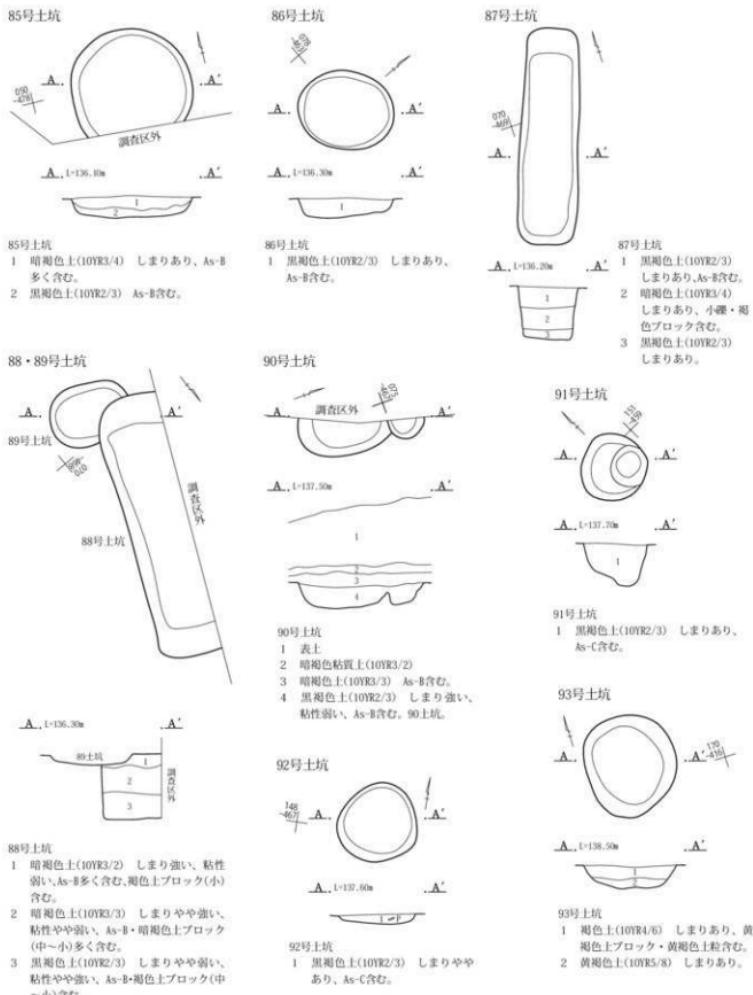
第162図 63～66、68～75号土坑

第3章 確認された遺構と遺物



第163図 76～84号土坑

第7節 土坑、ピットほか

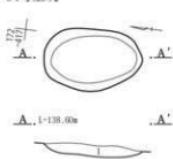


第164図 85～93号土坑



第3章 確認された遺構と遺物

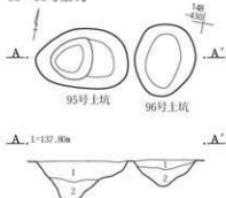
94号土坑



94号土坑

1 黒褐色土(10YR4/6) しまりあり。黄褐色土ブロック・黄褐色土粒含む。

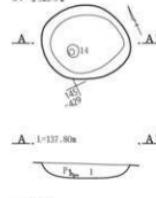
95・96号土坑



95・96号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性やや強く。

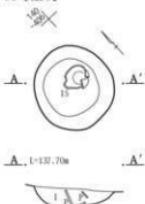
97号土坑



97号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性やや強い。As-C微量含む。

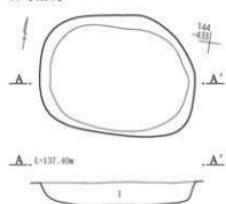
98号土坑



98号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。As-C含む。

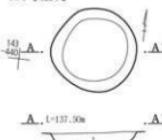
99号土坑



99号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い。As-C含む。

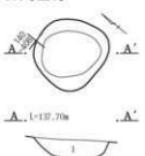
100号土坑



100号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや強い。As-C少量含む。

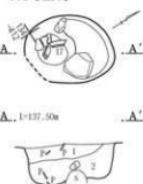
101号土坑



101号土坑

1 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。

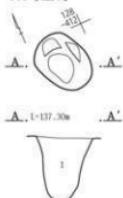
102号土坑



102号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまり強く、粘性やや強く、黄色粒、白色粒少量含む。
- 2 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱く、ロームブロック(小)・白色粒・黄色粒微量含む。

103号土坑



103号土坑

1 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。

104号土坑



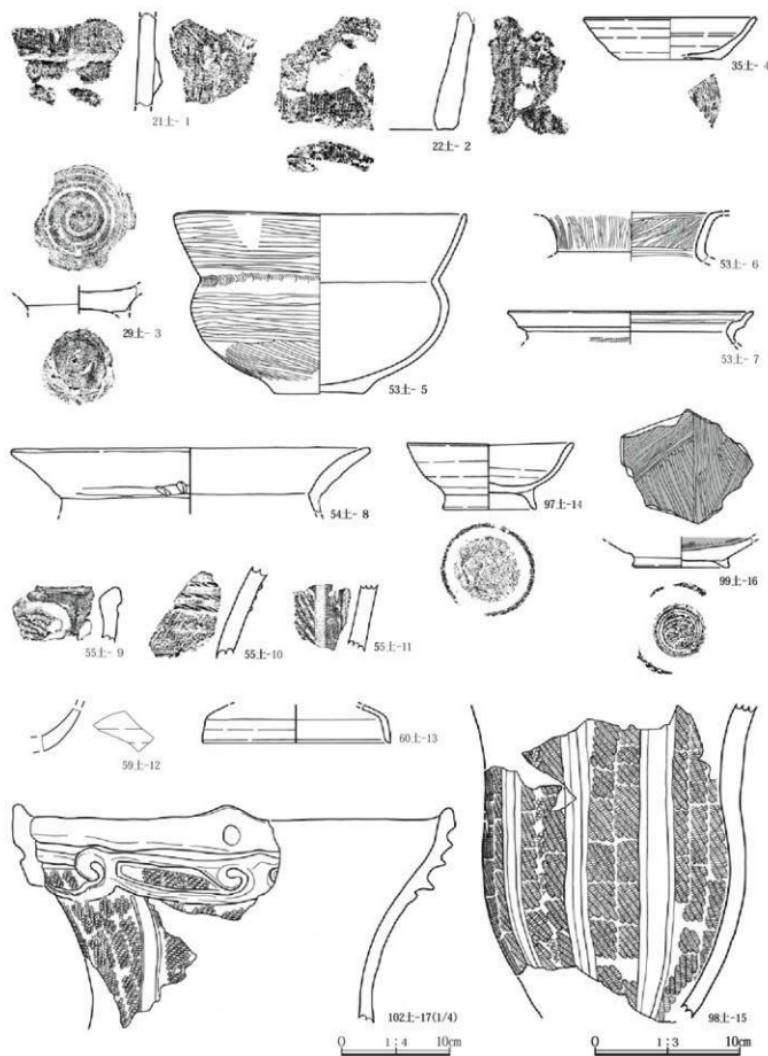
104号土坑

1 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性やや弱く、As-C少量含む。

0 1:40 1m

第165図 94 ~ 104号土坑

第7節 土坑、ピットほか



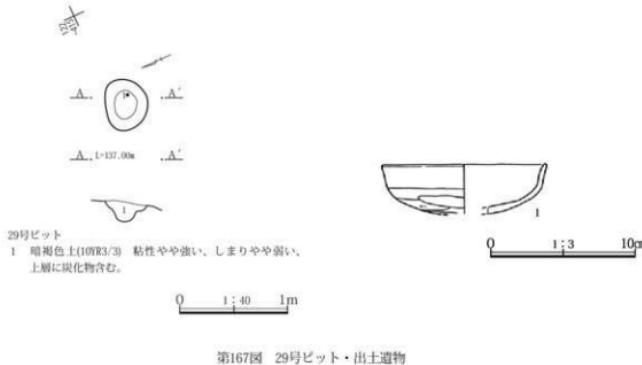
第166図 土坑出土遺物



### 第3章 確認された遺構と遺物

#### 2. ピット(第167図、P.L.92、第6・7表)

不整形で人為的でない可能性があるピットが含まれるが、整理段階では取捨選択を行わず、調査されたすべてを掲載した。但し、掲載遺物が出土した29号ピットを除き、個別図は作成せず、全体図にのみ掲載した。また、規模や形状、埋土の特徴は一覧表(第6表)に記載した。



第167図 29号ピット・出土遺物

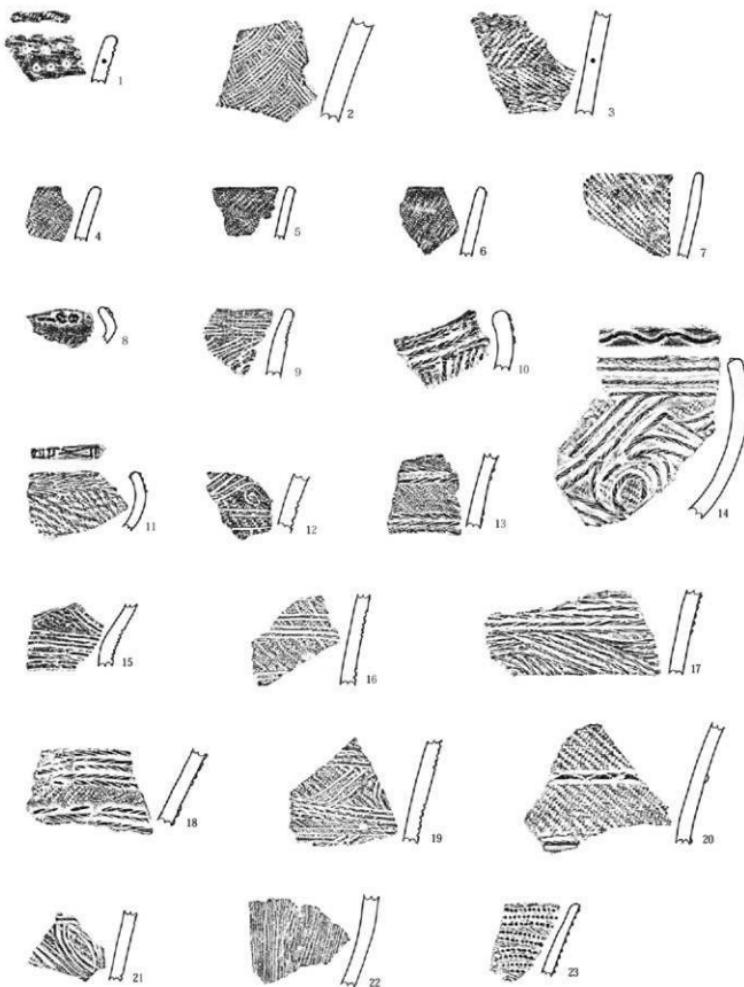
#### 3. 遺構外出土遺物(第168～173図、P.L.93～

95、第7表)

遺構外出土遺物は、遺構確認作業中に出土したものが主体である。また、遺構内出土であっても、出土した遺構と明らかに時代が異なる遺物は遺構外として掲載した。



第7節 土坑、ピットほか

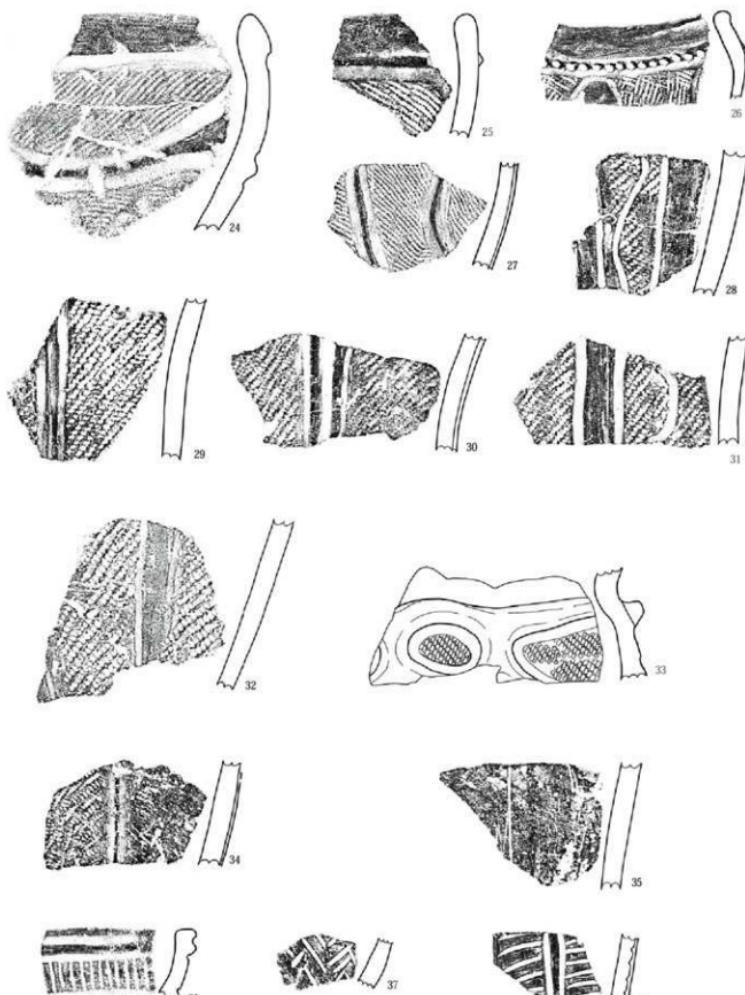


0 1:3 10cm

第168図 道構外出土遺物(1)



第3章 確認された遺構と遺物



0 1:3 10cm

第169図 遺構外出土遺物(2)



第7節 土坑、ピットほか

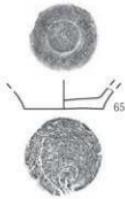
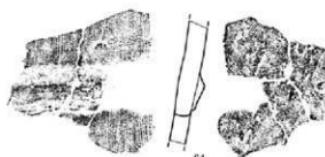
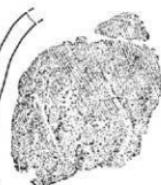
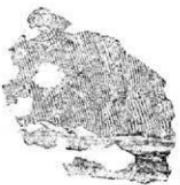
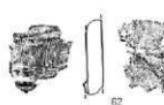
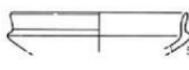
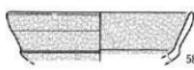


0 1:3 10cm

第170図 道構外出土遺物(3)

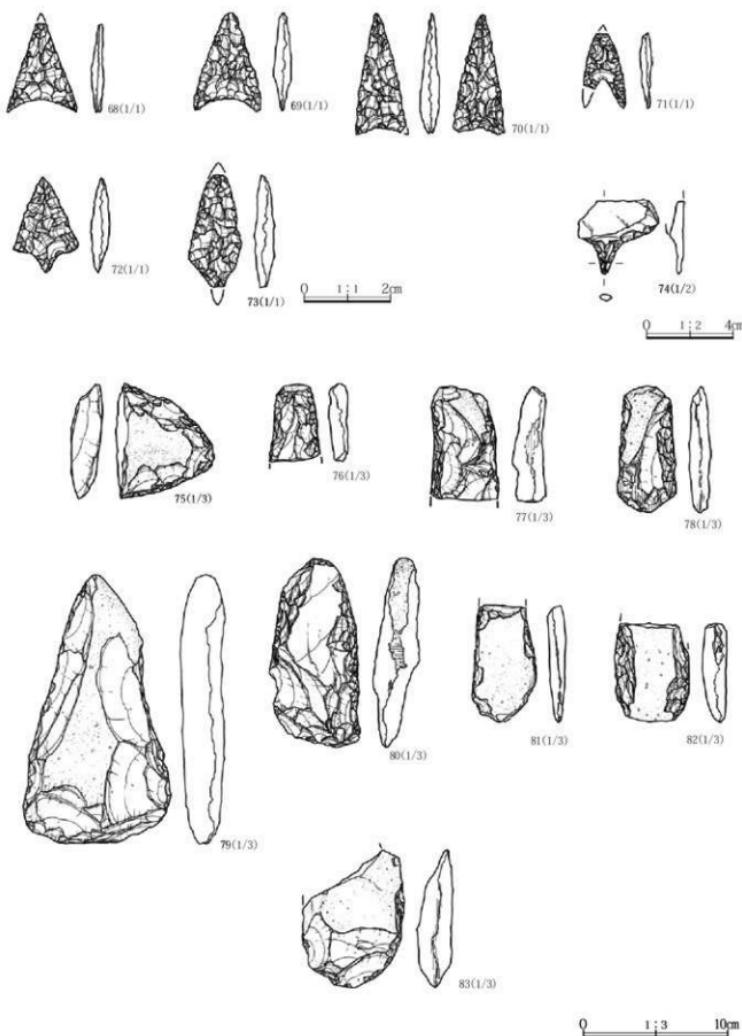


第3章 確認された遺構と遺物

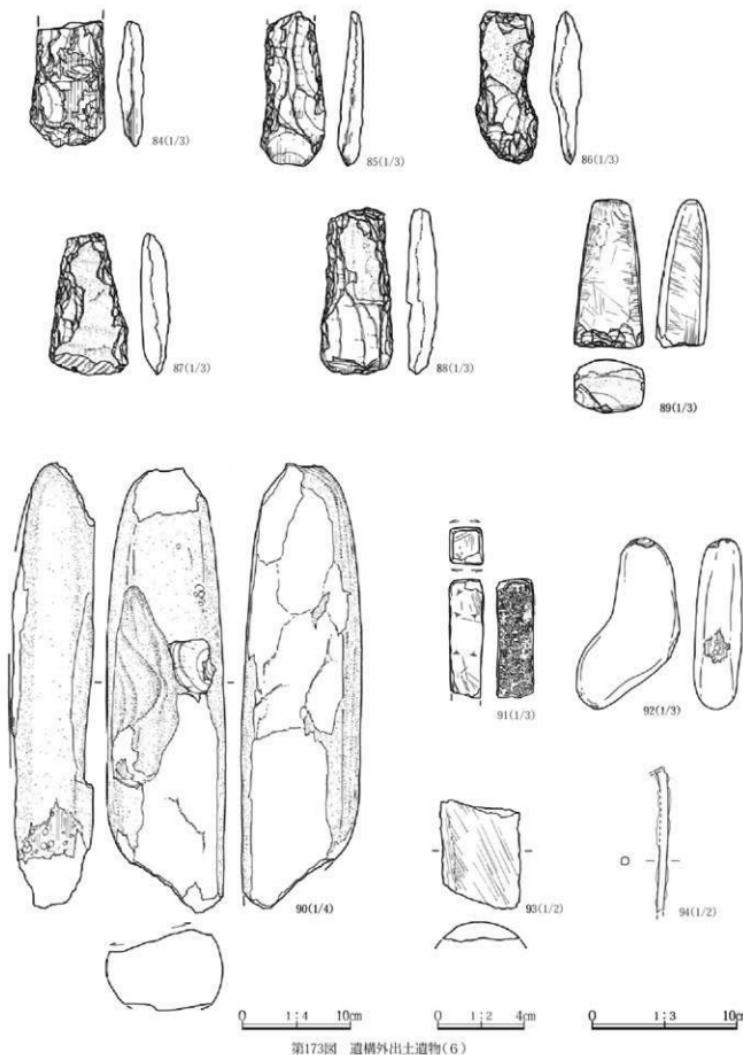


0 1:3 10cm

第171図 遺構外出土遺物(4)



第172図 道構外出土遺物(5)



第173図 遺構外出土遺物(6)

## 第4章 分析鑑定と総括

### 第1節 下里見天神前遺跡から出土した中近世のウマについて

佐伯史子・澤田純明

(新潟医療福祉大学自然人類学研究所)

#### 1)はじめに

下里見天神前遺跡で実施された2021年の発掘調査において、中近世の溝遺構(1、9、10号溝)からウマの歯が出土した。以下、遺構別に、出土部位と残存状態、年齢、および形態の所見を報告する。なお、歯種の表記についてPは前臼歯、Mは後臼歯を表し、P・Mに続く数字は歯種内の順位を示すものとする(例:P 3 = 第3前臼歯)。

#### 2)方法

出土ウマ歯をクリーニングした後、接着剤(セメダインC)を用いて破損箇所を修復し、接着剤と有機溶媒(アセトン)の混合剤を資料の表面に塗布して補強処理を施した。肉眼観察に基づき、歯の咬耗、形態および病変に関する所見を得るとともに、Drriesch(1976)と植月(2011)に従って臼歯の歯冠長と歯冠幅を計測した。原則として咬合面の高さで歯冠を計測したが、咬合面が破損していた場合は咬合面になるべく近い位置で計測した。歯の萌出状態の評価はLevine(1982)を参考にした。

#### 3)所見

##### (1) 1号溝出土ウマ(写真A)

###### 同定部位と残存状態

下顎左臼歯4点(P 3、P 4、M 1、M 2)(写真A:6~9)が、頬側面を地表側に向け、歯列を保つて平面的に並んだ状態で出土した。さらに、その下から下顎右臼歯5点(P 2、P 3、P 4、M 1、M 2)(写真A:1~5)が、舌側面を地表側に向け、歯列を保った状態で検出された。下顎骨の骨体は確認できなかった。いずれ

の歯もエナメル質だけが保存されており、象牙質は失われていた。エナメル質の状態も概して不良であり、歯冠長と歯冠幅を計測できたのは左右のM 1とM 2のみであつた。

左右の同じ歯種を比較したところ、大きさはほぼ同等であり(第2表)、形状もよく類似することから、左右の下顎臼歯は同一個体に由来すると考えられた。出土状況において、左臼歯列と右臼歯列の上下方向および近遠心方向は同じで、左右の歯列がほぼ平行であったことから、当初は左右の臼歯が植立した1個の下顎骨だったものが、土中の統成作用で骨質部分や歯の象牙質が消失し、保存に優れた歯のエナメル質のみが残存したものと思われた。

上顎歯は見当たらなかったものの、上顎の埋存箇所が地下水や局所的な酸性環境などで歯の保存に不適であったのかもしれない、もともとは上顎を含む頭骨全体、さらには体幹や四肢の骨が埋存していた可能性も否定できない。ただ、後述するように、9号溝および10号溝から出土したウマも、歯種が判明した歯は全て下顎歯であり、上顎歯がみられなかったことに注意すべきかもしれない。

###### 年齢推定

M 1とM 2は咬耗していたが、P 3とP 4に咬耗は認められなかったことから、P 3とP 4の萌出は完了していないかったと判断した。ウマの臼歯の萌出時期は、P 3で2.5~3.5歳、P 4で3~5歳、M 1で0.5~1歳、M 2で1.3~2歳とされる(Levine 1982)。これを適用すると、1号溝出土ウマの死亡年齢は1.3歳から3.5歳の間と推定された。

###### 形態計測結果

下里見天神前遺跡出土ウマ臼歯の歯冠計測値を第2表、日本在来馬(御崎馬、トカラ馬)および群馬県前橋市0107遺跡出土中世ウマの下顎臼歯歯冠計測値(西中川ほか2015、澤田・佐伯2021)を第3表にまとめた。1号溝出土ウマの臼歯歯冠長は、日本在来馬の臼歯歯冠長平均値よりやや大きいものの、その1標準偏差の範囲に概ね



## 第4章 分析鑑定と総括

取まつており、前橋市0107遺跡中世ウマの値とも大きな違いはない。ウマの臼歯歯冠長と体高の間には相関があることが報告されており(西中川ほか2015)、1号溝出土ウマの体高は、臼歯歯冠長の近い日本在来馬に類似していたことが推測できよう。

### 病変

齧歯やエナメル質減形成などの病的な変化は認められなかった。

### (2) 9号溝出土ウマ(写真B)

臼歯5点の歯冠片で、象牙質はほとんど失われており、エナメル質のみが残存するが、保存状態は劣悪であった。1点のみが下顎左臼歯(P 3～M 2のいずれか)に同定できたものの(写真B：1)、他の4点の臼歯は断片的で、歯種を同定できなかった(写真B：2～5)。複数個体を示唆する証左はなく、最小個体数は1と推定された。年齢は不明。病変は認められなかった。

### (3) 10号溝出土ウマ(写真C)

#### 同定部位と残存状態

5点の下顎右臼歯(P 3、P 4、M 1、M 2、M 3)が、歯列を保って平面的に並んだ状態で出土した。下顎骨は残っていないものの、歯列が保たれていたことから、1号溝出土ウマと同様に、当初は歯が植立した1個の下顎骨だったと思われる。保存状態は1号溝や9号溝から出土したウマの歯に比べればやや良好であり、歯冠表面のエナメル質の剥落はほとんどなく、象牙質も部分的に残存していた。

#### 年齢推定

P 3・P 4・M 1・M 2は咬耗していたが、M 3に咬耗は認められず、M 3のみ未萌出と判断した。P 3からM 2の萌出時期は前述の通り、M 3の萌出時期は2.5～5歳とされる(Levine 1982)。P 3・P 4・M 1・M 2の全てが萌出する最も早い年齢は3歳であり、M 3が萌出する最も遅い年齢は5歳であることから、出土ウマの死亡年齢は3歳から5歳の間と推定された。

#### 形態計測結果

歯冠計測値を第2表に示した。10号溝出土ウマの臼歯歯冠長は、日本在来馬の臼歯歯冠長平均値(第3表)とほぼ同等であった。前述の議論を援用すれば、10号溝出土

ウマの体高も、1号溝出土ウマと同様に、日本在来馬に近かったと推測される。

### 病変

P 4の咬合面に近い舌側面に歯石の付着が認められた。

## 4)まとめ

下里見天神前遺跡の中近世の1号溝・9号溝・10号溝から、計3個体分のウマの下顎臼歯が出土した。1号溝出土ウマの年齢は1.3歳から3.5歳、9号溝出土ウマの年齢は不明、10号溝出土ウマの年齢は3～5歳と推定された。歯冠を計測できた1号溝および10号溝出土ウマの臼歯のサイズは、御崎馬やトカラ馬など日本在来馬と大差なく、日本在来馬に近い体高であったと推測された。

### 謝辞

出土ウマ歯のクリーニングと修復作業において、新潟医療福祉大学生の黒崎凜氏、望月信吾氏、および山田敏輝氏のご助力を得た。記して感謝の意を表したい。

第1節 下里見天神前遺跡から出土した中近世のウマについて

第2表 下里見天神前遺跡出土ウマ下顎臼歯の歯冠計測値(mm)

	P 3 L	P 3 B	P 4 L	P 4 B	M 1 L	M 1 B	M 2 L	M 2 B
1号溝出土ウマ								
右	-	-	-	-	25.9	13.7	26.8	12.8
左	-	-	-	-	26.0	13.9	26.9	-
10号溝出土ウマ								
右	26.6	12.5	26.1	13.7	23.8	12.9	24.3	12.0
L : 歯冠長、B : 歯冠幅								

第3表 日本在来馬(御崎馬、トカラ馬)および群馬県前橋市0107遺跡中世ウマの下顎臼歯歯冠計測値(mm)

	P 3	P 4	M 1	M 2	出典
御崎馬: L (n=37)	26.19±1.37	25.10±2.44	23.84±2.30	24.79±2.05	西中川ほか(2015)
御崎馬: B (n=37)	14.65±1.13	14.33±1.17	13.61±0.75	13.04±1.04	西中川ほか(2015)
トカラ馬: L (n=18)	26.04±1.26	24.29±2.57	23.91±1.67	24.60±2.00	西中川ほか(2015)
トカラ馬: B (n=18)	14.26±1.33	13.81±1.15	13.57±1.60	12.35±1.20	西中川ほか(2015)
前橋市0107遺跡ウマ: L (n=1、左側)	25.9	26.1	24.3	23.4	澤田・佐伯(2021)
前橋市0107遺跡ウマ: B (n=1、左側)	15.1	16.3	14.2	12.5	澤田・佐伯(2021)
L : 歯冠長、B : 歯冠幅、日本在来馬の土以下の数値は標準偏差を示す					

文献

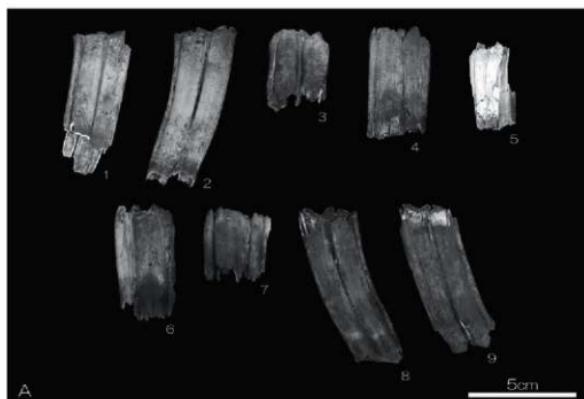
植月学(2011)出土馬歯計測値の比較のための基礎的研究、動物考古学 28: 1-22.

澤田純明・佐伯史子(2021)駄骨の形態学的調査、前橋市0107遺跡(公益財団法人群馬県文化財調査事業団)、pp. 232-234.

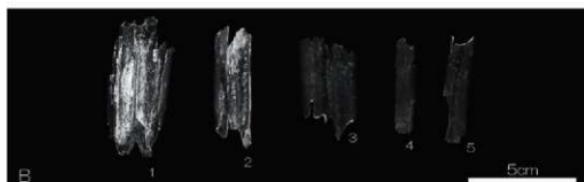
西中川誠・幸村直由美・吉野文彦・津木千穂子・松元光春(2015)ウマの臼歯の計測値から体高および年齢の推定法、動物考古学 32: 1-9.

Briesch A.V.D. (1976) A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum Bulletins 1, Peabody Museum Press.

Levine M.A. (1982) The use of crown height measurements and eruption-wear sequences to age horse teeth. In: Ageing and Sexing Animal Bones from Archaeological Sites. BAR 109, pp. 223-250.



A : 1号溝出土(1 下右M2、2 下右M1、3 下右P4、4 下右P3、5 下右P2、  
6 下左P3、7 下左P4、8 下左M1、9 下左M2)。



B : 9号溝出土(1 下左臼齒、2～5 白齒片)。



C : 10号溝出土(1 下右M3、2 下右M2、3 下右M1、4 下右P4、5 下右P3)

写真、下里見天神前遺跡出土ウマ臼齒

## 第2節 総括

### はじめに

下里見天神前遺跡は、烏川によって形成された低位河岸段丘に占地する。また、調査区は段丘の下流側端部付近に位置し(第2・3・5図)、縄文時代中期と古墳時代、平安時代の集落と古墳時代の墓域(古墳)や平安時代の水田とそれ以降、近代まで継続する水路跡が確認された。

### 縄文時代、弥生時代

縄文時代の遺物としては早期から後期の土器片が出土しているが、遺構が確認されたのは中期後半の加曾利E3式期のみである。確認できた竪穴建物は4棟と少ないうえに残存状態も悪く、低地部との堆積近で確認されたのみである。従って、当時は標高が高い部分にも存在した可能性がある。土器のみが出土した時期に関しては、同一段丘の上流部に集落が存在すると推測される。弥生時代では後期の土器片が少量出土したのみで実態は不明である。

### 古墳時代

古墳時代前期になると調査区内は集落域となるが、竪穴建物3棟のみの確認であり、集落の中心は西側調査区外に存在するのかもしれない。その後、5世紀代の空白期を経て6世紀前半になると、再び竪穴建物が作られるようになる。6世紀前半の竪穴建物は32号、33号の2棟で、6世紀中頃には1号、6号、13号の3棟、前半から中頃では12号、31号の2棟である。しかし、後半になると2～5号、9～11号、14号、17号、23号、26号、28号、30号、34号、39号、40号、43号(6世紀後半から7世紀初頭を含む)の17棟と増加し、本格的に集落が展開している。7世紀前半を向かえると竪穴建物は7号、16号、18号、25号、29号の5棟となり、減少傾向が窺える。従って、調査区内に限れば、6世紀後半に集落域としての土地利用がピークを迎えたといえる。

古墳時代の調査区内は墓域(里見古墳群)として的一面もあり、調査以前には存在がわからなかった古墳が3基確認された。1号古墳の年代は埴輪の特徴から6世紀代、竪穴建物との重複から6世紀後半以前と推定した<sup>(1)</sup>。2号古墳については不明であるが、3号古墳は周溝出土埴輪を含め、6世紀前葉から中葉と考えている。1号古

墳と3号古墳については、竪穴建物が少ない時期に築造されており、時期を決定しかねる2号古墳も竪穴建物が増加した6世紀後半から7世紀初頭に築造された可能性は低いものと推測している。限られた範囲ではあるが、下里見天神前遺跡の古墳時代は、集落域、空白域(不明)、墓域、集落域という土地利用変遷であったと考えられる。本遺跡は里見古墳群に属するが、里見古墳群は調査例が少ないと平夷が進んで分布調査も困難であるため、7世紀代を中心とした古墳群であろうと推測されていた。しかし、今回の調査により、埴輪を伴う古墳が確認されると共に、調査区周辺からは出土埴輪とは胎土が異なる埴輪片が表面採集されており、周囲にも埴輪を伴う古墳の存在が推定できる。これにより、少なくとも、遺跡周辺においては6世紀代の古墳が多く存在した可能性が出てきたといえよう。

### 奈良時代以降

その後、7世紀後半から10世紀前半の間は遺構が確認されず、遺構から見る限り空白期となり、10世紀後半になって8号、36号、38号、41号といった竪穴建物が築造されるが、その後は集落域ではなかったようである。

一方、生産域としての利用で明確なのはAs-B下水田のみである。中位段丘と低位段丘間を流れる里見川の蛇行により形成された緩傾斜地を利用した水田で、灌漑用水は里見川から取水・引水したものと推測される。やや上流部では里見川支流の向井川蛇行部を利用したと思われるAs-B下水田が根岸II・III遺跡<sup>(2)</sup>で確認されており、里見地区では段丘間を流下する小河川により形成された低地を利用した水田經營が行われていた。下里見天神前遺跡と至近距離にあり、烏川により形成された低地に立地する上大島御伊勢遺跡ではAs-B下水田は確認されず、調査区内での土地利用痕跡は17世紀に入ってからと新しいことが確認されている<sup>(3)</sup>。

低位段丘の標高が高い位置では「1号烟」として報告した遺構が存在し、As-B段下に近い時期の可能性もある。里見地区でAs-B下烟が確認されている遺跡としては中通遺跡と下里見宮谷戸遺跡<sup>(2), (4)</sup>があり、水田と共に烟も営まれていたとしてもおかしくはないであろう。

### 3号古墳周溝出土埴輪と須恵器

本遺跡で最も注目されるのは3号古墳周溝内から出土した23点の埴輪<sup>(5)</sup>と2点の須恵器であろう。これらは



## 第4章 分析鑑定と総括

樹立・配列されず、未使用で将棋倒しのような状態で出土したことから、集積した状態を想起させる。県内で似た出土状態を示す例として6世紀末の太田市駒形神社埴輪窓跡の集積所がある。太田市教育委員会が昭和62年に調査した地点では、「普通円筒埴輪約100個体、形象埴輪約100個体が折り重なるように」出土しており、当初並べてあったものが将棋倒しになった状態を想定している。また、普通円筒埴輪と形象埴輪との置き分けが行われていたことも想定されている<sup>(6, 7)</sup>。この将棋倒し状態と置き分けについては、3号古墳周溝内埴輪の出土状態と共通する。しかし、3号古墳周溝内の場合は須恵器を伴う点が異なり、遺跡の地山と埴輪の胎土が異なることや礫層が浅い位置に存在する低位段丘に立地することから埴輪窓の可能性は考えられない。

次に「樹立・配列されない埴輪」という点であるが、群馬県内では前橋市近戸古墳群と富岡市宇田山ノ根遺跡の2例が相当する。前橋市の近戸古墳群4号古墳周溝外土坑は、4号墳の周溝と接するように位置し、円筒埴輪と朝顔形埴輪が出土している。埴輪は埋納ではない可能性が高く、報告書に掲載された写真でも土坑内に倒れ込むような状態の朝顔形埴輪が確認できる<sup>(8)</sup>。土坑内出土埴輪は、4号古墳出土埴輪に比して器表の風化・劣化が少ないように見受けられる。また、4号古墳に樹立された埴輪とは極めて似ており、この点は下里見天神前遺跡3号古墳例と異なる。宇田山ノ根遺跡は5世紀後半の円筒埴輪12点と朝顔形埴輪2点が土坑内から出土しており、遺跡近くには同時期の古墳は確認されていない。また、本例の埴輪も風化が進んでいないようである<sup>(9)</sup>。両遺跡例共に土坑内出土であることと、須恵器を伴わない点が下里見天神前遺跡とは異なり、埴輪が残置された経緯が異なるのかもしれない。

下里見天神前遺跡3号古墳周溝内出土埴輪に須恵器2点が伴うことは既に述べたが、製作地や生産者集団の異なる両者が種別・器種分けされた状態で集積されていたわけであり、集積に係わった集団なり人物の職能や(古墳に樹立するための集積だとすると)古墳被葬者との関係等が気になるところである。また、提瓶(第134図41)に底部穿孔が行われている点も注目される(PL.90-41)。古墳から底部穿孔須恵器が出土した場合、古墳で行う葬送儀礼に伴って穿孔したと考えるのが一般的なように思

われる。しかし、3号古墳周溝出土埴輪は集積状態で未使用と考えられ、葬送儀礼以前の段階で底部穿孔須恵器を準備していた点は注目されよう。あくまで可能性であるが、葬送に際して、行う「底部穿孔」という行為ではなく、「底部穿孔須恵器」というアイテムが重要であったのかも知れない。須恵器の底部穿孔は3号古墳周溝埴輪埋没後に堆積した土層から出土した須恵器(第122図16)にも認められ(PL.77-16)、3号古墳に伴うものと推定している<sup>(10, 11)</sup>。

### おわりに

今回の調査では埴輪を伴う古墳が確認されたことと、集積状態の埴輪と須恵器が確認されたことは大きな成果である。古墳の主体部や時期、集積状態の埴輪と須恵器の時期や位置付けなど不明な部分も多いが、樹立・配置されない埴輪については類例が確認されつつある。従来、あまり注目されていなかった「樹立・配置」されなかつた埴輪が、本報告書の刊行を契機に注目・議論されるこことなれば幸いである。

### 注・参考文献

- 1 6世紀前半と推測した13号竪穴建物とは確認状態で30cmほどと近接しており、同時に在したとは考えにくい。そのため、6世紀前半から13号竪穴建物の建設時期にあるる6世紀中葉と14号竪穴建物の時期である後のとの間に接続されたものと推測される。
- 2 横名古墳編さん委員会2010「横名古墳 資料編1 原始・古代」
- 3 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022「上大島御伊勢道跡 菊池御道跡 狩道跡」
- 4 高崎市立教育委員会2013「下里見宮谷戸遺跡第1次/下里庄北道路/上中筋谷御道跡第3次」
- 5 高崎市立教育委員会2014「下里見宮谷戸遺跡2・足見東尾畠間道路・高塙古墳古墳」
- 6 高崎市立教育委員会2014「下里見宮谷戸遺跡3・藤田園谷遺跡・金古谷遺跡・小八木本地遺跡跡2・熊玉跡跡2・南大前谷南跡2」
- 7 23点(個体)の埴輪のうち、円筒埴輪5点は赤みが強い頸部を呈しており、色調で二方に分類できる。同様な例は、鳥川の村に位置する福根森遺跡4号古墳にも存在し、同一窯からの供給を想定したが、本遺跡3号古墳周溝埴輪は胎土が異なり、同一窯の生産ではないことを確認した。
- 8 宮田一耕 1994「駒形神社埴輪窓跡」「太田市史 通史編 原始古代」群馬市
- 9 佐藤光浩2019「集まれ！日本一の埴輪窓！ぐんまのはにわたち」群馬県立歴史博物館 第99回企画展観察 墓原良立歴史博物館
- 10 群馬県立多都郡日川教育委員会1987「深津地区遺跡群-昭和61年度県立博物館に係る埋蔵文化財調査の概要-」
- 11 2020年春の調査を目的とした前橋市教育委員会・小島純一氏による4号古墳周溝上層に關してご教示を頂いた。
- 12 清水一郎2019「宇田山ノ根遺跡 不思議な穴」「集まれ！日本一の埴輪窓！ぐんまのはにわたち」群馬県立歴史博物館 第99回企画展観察 墓原良立歴史博物館
- 13 第122図16「須恵器は底部穿孔部に割れており、穿孔に伴う割れかの跡後の割れか底面部の跡時の加熱焼成穴孔を呈するのか判断に迷うが、ここでは底面部孔としておきたい。」
- 14 古墳の底部穿孔須恵器が何を例は、7世紀ではあるが、鳥川の対岸に位置する奥原古墳群に認められる。器種は中型から大型の盤に限定され、瓶類には認められない。
- 15 附図群馬県埋蔵文化財調査事業団1983「奥原古墳群」
- 16 本例の存在は川口一光氏の教示による。



As-B下水田面積計測表

第4表 As-B下水田面積計測表

区画番号	面積(m)	区画番号	面積(m)	区画番号	面積(m)	区画番号	面積(m)	区画番号	面積(m)	区画番号	面積(m)
1	- 30	- 39	- 58	- 77	- 58.21	- 96	- 139.87				
2	- 21	- 40	6.84	59	- 78	-	- 97	-	- 10.71		
3	- 22	- 41	-	60	- 79	-	- 98	-	- 1.63		
4	- 23	16.34	42	- 61	-	80	-	- 99	-		
5	33.92	24	12.84	43	6.71	62	13.17	81	7.94	100	-
6	31.02	25	47.16	44	4.89	63	17.98	82	36.60	101	104.15
7	60.70	26	136.90	45	25.85	64	-	83	35.58	-	-
8	-	27	-	46	4.49	65	-	84	15.61	103	14.39
9	14.15	28	12.93	47	46.35	66	21.55	85	58.16	104	30.11
10	22.62	29	16.96	48	-	67	22.44	86	9.14	105	-
11	- 30	20.32	49	41.00	68	24.31	87	24.40	106	22.78	
12	38.16	31	58.25	50	33.08	69	-	88	31.31	107	7.07
13	13.00	32	10.27	51	-	70	94.35	89	-	108	-
14	-	33	9.88	52	-	71	-	90	22.28	109	-
15	-	34	24.63	53	31.49	72	-	91	23.26	110	-
16	74.15	35	95.64	54	-	73	25.23	92	10.43	111	-
17	-	36	-	55	5.07	74	-	93	8.84	-	
18	36.33	37	-	56	6.50	75	-	94	-	-	
19	113.54	38	6.07	57	-	76	51.48	95	-	-	

第5表 土坑一覧

区 No	造模名	ダリヤード X、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	長軸方位	重複	掲載遺物	非掲載遺物	埋 土	
1	上坑	115. -395	楕円形	0.90	0.76	0.24	N-89°-W	5溝より新	土師2点、須恵1点			
1	上坑	120. -376	楕円形	0.97	0.73	0.17	N-34°-E		土師2点		As-C含む	
1	3 土坑	122. -366	楕円形	0.63	0.60	0.21	N-78°-E	4坑より新				
1	4 土坑	122. -367	楕円形	1.41	0.85	0.17	N-51°-E	3坑、Pより古				
1	5 土坑	124. -369	楕円形	1.02	1.00	0.19	N-28°-E	P2より古	須恵1点			
1	6 土坑	126. -370	楕円形	0.51	0.44	0.46	N-32°-W					
1	7 土坑	123. -370	楕円形	0.50	0.40	0.17	N-22°-W			As-C含む		
1	8 土坑	125. -372	楕円形	0.48	0.38	0.25	N-75°-W			As-C含む		
1	9 土坑	125. -371	楕円形	0.71	0.56	0.47	N-50°-E					
1	10 土坑	120. -372	楕円形	0.70	0.64	0.16	N-7°-E		土師1点	As-C含む		
1	11 土坑	120. -378	楕円形	0.67	0.63	0.19	N-1°-E		土師3点	As-C含む		
1	12 土坑	119. -379	楕円形	0.75	0.70	0.21	N-25°-W		土師2点	As-C含む		
1	13 土坑	122. -376	楕円形	0.45	0.37	0.26	N-10°-W		土師3点、須恵1点			
1	14 土坑	124. -377	楕円形	0.41	0.41	0.18	N-22°-E			土師1点		
1	15 土坑	141. -392	楕円形	0.62	0.50	0.15	N-42°-W			土師1点		
1	16 土坑	122. -381	円形	0.78	0.77	0.30	N-47°-E		土師25点			
1	17 土坑	121. -381	楕円形	1.83	1.13	0.47	N-24°-E			As-C含む		
1	18 土坑	121. -379	楕円形	1.40	1.28	0.26	N-22°-E	19坑より新	土師3点、須恵1点			
1	19 土坑	121. -378	楕円形?	0.61	不明	0.14	不明	18坑より古				
1	20 土坑	117. -383	楕丸長方形	1.52	1.09	0.36	N-73°-W		土師3点、須恵1点			
1	21 土坑	115. -384	楕円形	不明	1.51	0.41	N-11°-E		第166回1	土師20点、須恵3点		
1	22 土坑	131. -397	楕円形	1.35	0.98	0.31	N-90°	14坑壁より新	第166回2	土師29点、須恵2点	As-C含む	
1	23 土坑	128. -383	楕円形	不明	0.70	0.12	N-62°-W	2溝とその新旧関係不明		土師3点		
1	24 土坑	137. -388	楕円形	不明	0.78	0.13	N-14°-W	8壁より古		土師1点	As-C含む	
1	25 土坑	120. -389	楕円形	0.83	0.65	0.15	N-15°-W			土師2点	As-C含む	
1	26 土坑	116. -396	楕円形	0.98	0.79	0.19	N-54°-E			土師3点	As-C含む	
1	27 土坑	120. -397	楕円形	0.56	0.50	0.30	N-38°-W			土師8点	As-C含む	
1	28 土坑	117. -390	楕円形	0.72	0.69	0.35	N-67°-W				As-C含む	
1	29 土坑	116. -390	楕円形	1.12	0.98	0.54	N-25°-E			第166回3	土師4点、須恵4点	As-C含む
1	30 土坑	120. -404	楕円形	1.72	1.15	0.18	N-60°-W	P23より古		土師1点	As-C含む	
1	31 土坑	125. -386	楕円形	1.03	0.93	0.04	N-77°-E	32坑、1墳より新		須恵1点	As-C含む	
1	32 土坑	125. -386	楕円形	不明	0.91	0.14	N-20°-E	31坑より古、1墳より新		土師2点	As-C含む	
1	33 土坑	124. -396	楕円形	0.71	0.54	0.29	N-50°-W				As-C含む	
1	34 土坑	116. -396	楕円形	1.01	0.87	0.21	N-16°-W			土師6点	As-C含む	
1	35 土坑	107. -403	楕円形	2.16	1.95	0.52	N-32°-W	3溝より新	第166回4	土師4点、須恵2点		
3	36 土坑	169. -457	楕丸長方形	1.85	0.69	0.23	N-72°-W					
3	37 土坑	167. -452	楕円形	1.10	0.31	0.09	N-80°-W			土師2点		
3	38 土坑	168. -450	楕丸長方形	1.37	0.77	0.23	N-24°-E	23壁より新			As-C含む	
3	39 土坑	167. -449	楕丸長方形	1.22	0.92	0.17	N-32°-W			土師7点、須恵2点	As-B含む	
3	40 土坑	167. -448	楕円形	0.75	0.72	0.17	N-52°-W					
3	41 土坑	167. -447	楕円形	0.79	0.73	0.26	N-9°-E			土師2点		

## 土坑一覧

区	№	遺構名	ダリッド X、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	長軸方位	重複	掲載遺物	非掲載遺物	埋 土
3	42	土坑	166、-447	円形	0.85	0.84	0.18	N-35°-E				
3	43	土坑	165、-444	椭円形	0.85	不明	0.20	N-29°-E	44坑より古			
3	44	土坑	165、-443	椭円形	0.80	0.75	0.17	N-20°-E	43坑より新			
3	45	土坑	165、-442	椭円形	0.94	0.40	0.20	N-33°-E				
3	46	土坑	165、-446	椭円形	0.62	0.56	0.23	S-67°-W				
3	47	土坑	164、-445	不明	不明	0.58	0.20	N-20°-E				As-B含む
3	48	土坑	163、-439	椭円形	0.63	0.46	0.24	N-78°-E	55坑より新			
3	49	土坑	163、-439	椭円形	0.45	0.44	0.38	N-32°-E	55坑より新			
3	50	土坑	162、-438	椭円形	0.48	0.44	0.32	N-53°-W				
3	51	土坑	163、-436	椭円形?	不明	0.59	0.17	N-25°-E	54主より新			As-B含む
3	52	土坑	170、-457	椭円形	不明	0.36	0.25	N-25°-W				
3	53	土坑	166、-445	円形?	不明	1.80	0.19	N-20°-E				
3	54	土坑	164、-437	椭円形?	不明	1.34	0.21	N-35°-E	51坑より古			
3	55	土坑	163、-439	椭円形	1.63	1.18	0.48	N-72°-W	48・49坑より古			
3	56	土坑	155、-420	楕円九方形	1.30	0.55	0.28	N-31°-E				As-B含む
3	57	土坑	153、-411	不整形	1.52	0.87	1.00	N-10°-W				
3	58	土坑	157、-426	椭円形	0.89	0.82	0.18	N-70°-W				As-B含む
3	59	土坑	158、-425	楕円九方形	1.15	1.03	0.20	N-31°-E				
3	60	土坑	148、-412	不整形椭円形	1.71	1.01	0.60	N-60°-E				
3	61	土坑	145、-411	椭円形	1.25	0.71	0.94	N-37°-W				As-B含む
3	62	土坑	154、-416	不整形	0.78	0.46	0.88	N-35°-W	67坑より古			As-B含む
3	63	土坑	149、-434	円形	0.93	0.89	0.12	N-80°-W	8満より新			As-B含む
3	64	土坑	149、-404	椭円形	0.84	0.43	0.27	N-30°-W	63坑より新			
3	65	土坑	149、-404	不整形	1.08	0.88	0.96	N-27°-W	64坑より古			As-B含む
3	66	土坑	147、-405	椭円形	残(0.38)	0.46	0.11	N-67°-E	P42より古			As-B含む
3	67	土坑	153、-416	椭円形	残(0.61)	0.45	0.19	N-38°-W	62坑より新			
3	68	土坑	141、-413	不整形	0.96	0.48	0.93	N-2°-W				As-B含む
3	69	土坑	141、-412	椭円形	1.25	0.36	0.78	N-39°-W				As-B含む
3	70	土坑	136、-420	不整形	0.83	0.37	0.33	N-67°-E	71坑より新			As-B含む
3	71	土坑	137、-419	不整形	0.56	0.37	0.19	N-24°-E	70坑より古			As-B含む
3	72	土坑	147、-425	椭円形?	不明	0.65	0.22	N-11°-E				
3	73	土坑	148、-424	椭円形	0.77	0.71	0.15	N-45°-E				As-B含む
3	74	土坑	151、-456	椭円形	0.82	0.54	0.13	N-3°-E				As-B含む
3	75	土坑	139、-437	椭円形	0.92	0.67	0.24	N-42°-W				As-B含む
3	76	土坑	142~144、-451~454	不整形	不明	2.47	0.25	N-41°-E	16満より古			As-B含む
3	77	土坑	137、-444	溝状	不明	0.38	0.22	N-41°-E	16満より古			
3	78	土坑	137、-443	溝状	不明	0.30	0.25	N-18°-E	16満より古			
3	79	土坑	142、-401	椭円形	0.99	0.88	0.28	N-15°-E				
3	80	土坑	150、-444	長方形	1.11	0.78	0.23	N-6°-W	84坑・37壁より新			As-C含む
3	81	土坑	152、-444	椭円形	1.41	1.32	0.22	N-45°-W	37壁より新			As-C含む
3	82	土坑	133、-434	椭円形	0.76	0.61	0.65	N-19°-W				As-C含む
3	83	土坑	139、-434	椭円形	1.05	0.56	0.26	N-80°-E				As-C含む
3	84	土坑	149、-444	椭円形	0.71	0.68	0.11	N-78°-E	80坑より古、37壁より新			
4	85	土坑	049、-477	円形?	1.12	不明	0.19	N-15°-E				As-B含む
4	86	土坑	078、-462	椭円形	0.90	0.73	0.18	N-48°-E				As-B含む
4	87	土坑	069、-468	楕円九方形	1.99	0.54	0.51	N-20°-E				As-B含む
4	88	土坑	070、-468	楕円九方形	2.47	不明	0.65	N-6°-W	84坑・37壁より新			
4	89	土坑	069、-468	椭円形	0.77	0.57	0.07	N-65°-W				
4	90	土坑	074、-466	椭円形	不明	不明	0.23	不明				As-B含む
3	91	土坑	150、-459	椭円形	0.62	0.60	0.36	N-54°-E				As-C含む
3	92	土坑	148、-466	椭円形	0.75	0.71	0.13	N-32°-E				As-C含む
5	93	土坑	170、-416	椭円形	0.91	0.84	0.20	N-13°-W				
5	94	土坑	171、-417	椭円形	0.91	0.57	0.12	N-7°-W				
3	95	土坑	147、-430	椭円形	0.85	0.55	0.37	N-80°-E				
3	96	土坑	147、-430	椭円形	0.67	0.56	0.22	N-2°-E				
3	97	土坑	145、-428	椭円形	0.82	0.68	0.16	N-65°-W				
3	98	土坑	139、-406	椭円形	0.78	0.73	0.21	N-15°-E				As-C含む
3	99	土坑	143、-433	椭円形	1.43	1.10	0.24	N-88°-E				As-C含む
3	100	土坑	143、-439	円形	0.76	0.76	0.17	N-43°-E				As-C含む
3	101	土坑	139、-407	椭円形	0.69	0.66	0.22	N-39°-W				
3	102	土坑	134、-411	椭円形	0.83	0.63	0.50	N-44°-E				
3	103	土坑	127、-412	椭円形	0.57	0.42	0.65	N-22°-W				
3	104	土坑	140、-434	椭円形	1.00	0.89	0.20	N-31°-E				As-C含む

第6表 ピット一覧

区	№	造機名	グリッド X、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	重 複	掘裁造物	非掘裁造物	理 土
1	1	ピット	123-367	円形	0.29	0.28	0.22	4坑より新			
1	2	ピット	123-369	楕円形	0.35	0.30	0.22	5坑より新			
1	3	ピット	123-374	楕円形	0.48	0.34	0.33				
1	4	ピット	122-372	円形	0.38	0.37	0.38				
1	5	ピット	128-373	楕円形	0.43	0.38	0.40	5壁建より新			
1	6	ピット	123-371	円形	0.39	0.34	0.23				As-C含む
1	7	ピット	122-372	圓丸方形	0.39	0.37	0.32		上師7点		As-C含む
1	8	ピット	119-380	楕円形	0.33	0.28	0.32				As-C含む
1	9	ピット	122-377	楕円形	0.29	0.22	0.25		上師1点		
1	10	ピット	129-372	楕円形	0.53	0.47	0.37				
1	11	ピット	127-375	円形	0.39	0.38	0.18				
1	12	ピット	126-376	楕円形	0.57	0.49	0.49		上師1点		
1	13	ピット	125-378	楕円形	0.51	0.38	0.40				
1	14	ピット	119-381	楕円形	1.03	0.70	0.81				As-C含む
1	15	ピット	120-382	楕円形	0.34	0.31	0.34				
1	16	ピット	113-355	円形	0.36	0.35	0.28				
1	17	ピット	115-358	楕円形	0.48	0.37	0.32				
1	18	ピット	120-384	楕円形	1.02	0.68	1.02		上師3点		
1	19	ピット	120-393	楕円形	0.47	0.43	0.40	1壁立より新、1墳不明			As-C含む
1	20	ピット	119-392	楕円形	0.31	0.27	0.54	1墳、P8に変更			
1	21	ピット	131-397	楕円形	0.32	0.30	0.34	22より古			
1	22	ピット	133-394	楕円形	0.29	0.27	0.34	30より古			
1	23	ピット	120-404	楕円形	0.30	0.25	0.35				
1	24	ピット	118-406	楕円形	0.43	0.42	0.34				
1	25	ピット	133-407	楕円形	0.45	0.37	0.28		上師1点		As-C含む
1	26	ピット	134-402	楕円形	0.47	0.42	0.32				As-C含む
1	27	ピット	121-411	円形	0.27	0.26	0.22				As-C含む
1	28	ピット	123-414	楕円形	0.54	0.40	0.34				As-C含む
1	29	ピット	121-415	楕円形	0.48	0.40	0.19				第167回 I
1	30	ピット	109-406	楕円形	0.44	0.43	0.20				
1	31	ピット	108-413	楕円形	0.40	0.38	0.17				
1	32	ピット	110-413	楕円形	0.33	0.27	0.21				
1	33	ピット	110-414	楕円形	0.32	0.24	0.28				
1	34	ピット	111-416	楕円形	0.32	0.28	0.32				
1	35	ピット	130-428	不明	残(0.20)	—	0.08				
1	36	ピット	126-401	楕円形	0.63	0.60	0.47	1墳不明			
1	37	ピット	125-403	楕円形	0.64	0.48	0.60				
1	38	ピット	126-381	楕円形	推(0.87)	推(0.59)	0.18	7・15壁より古			
1	39	ピット	166-444	楕円形	残(0.60)	0.53	0.27				
1	40	ピット	166-445	楕円形	0.65	0.47	0.18	53上より古			
1	41	ピット	129-413	不明	残(0.23)	—	0.22	1溝より古			As-C含む
1	42	ピット	147-405	楕円形	0.29	0.24	0.57	66上より新			
1	43	ピット	142-402	楕円形	0.29	0.25	0.18				As-C含む
1	44	ピット	142-405	楕円形	0.34	0.26	0.35	17溝より新			As-C含む
1	45	ピット	141-404	楕円形	0.33	0.28	0.31				
1	46	ピット	141-405	楕円形	0.51	推(0.48)	0.21				As-C含む
1	47	ピット	140-408	楕円形	0.43	0.41	0.55				As-C含む
1	48	ピット	138-407	楕円形	0.37	0.36	0.34		上師2点、須恵2点		As-C含む
1	49	ピット	139-404	楕円形	0.32	0.30	0.29				As-C含む
1	50	ピット	137-406	楕円形	0.40	0.32	0.36				
1	51	ピット	139-409	楕円形	0.67	0.38	0.18		上師3点、須恵2点		As-C含む
1	52	ピット	138-410	楕円形	0.45	0.38	0.13				As-C含む
1	53	ピット	136-409	楕円形	0.46	0.41	0.14				As-C含む
1	54	ピット	139-411	楕円形	0.48	0.45	0.40				
1	55	ピット	139-433	楕円形	0.37	0.37	0.40				
1	56	ピット	138-445	楕円形	0.55	0.42	0.18				
1	57	ピット	138-433	楕円形	0.45	0.38	0.29				
1	58	ピット	138-434	楕円形	0.50	0.50	0.47				
1	59	ピット	137-433	楕円形	0.57	0.45	0.35				
1	60	ピット	137-434	楕円形	0.42	0.34	0.25				
1	61	ピット	136-432	楕円形	0.38	0.31	0.58				
1	62	ピット	136-434	楕円形	0.34	0.32	0.55				
1	63	ピット	136-435	楕円形	0.50	0.38	0.25				
1	64	ピット	135-432	楕円形	0.41	0.36	0.23				
1	65	ピット	134-431	楕円形	0.53	0.48	0.39	P66不明			
1	66	ピット	134-432	楕円形?	残(0.22)	0.38	0.10	P65不明			
1	67	ピット	134-434	楕円形	0.37	0.32	0.40				



ピット一覧

区	№	通構名	グリッド X、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	重 視	掲載遺物	非掲載遺物	理 土
3	68	ピット	138-436	楕円形	0.44	0.39	0.40				
3	69	ピット	138-437	楕円形	0.33	0.30	0.32				
3	70	ピット	137-440	楕円形	0.38	0.31	0.31				As-C含む
3	71	ピット	137-441	楕円形	0.35	0.31	0.33				As-C含む
3	72	ピット	136-442	楕円形	0.31	0.30	0.29	45%より新			As-C含む
3	73	ピット	136-443	楕円形	0.39	0.35	0.21	45%より新			As-C含む
3	74	ピット	136-440	楕円形	0.49	0.44	0.26				As-C含む
3	75	ピット	140-432	楕円形	0.33	0.30	0.45				As-C含む
4	76	ピット	074-465	楕円形	0.24	0.23	0.38	As-B下水田より新			As-C含む
4	77	ピット	074-464	楕円形	0.41	0.32	0.16	As-B下水田より新			As-C含む
4	78	ピット	076-464	楕円形	0.33	0.31	0.47	As-B下水田より新			As-B含む
4	79	ピット	076-465	楕円形	0.20	0.19	0.25	As-B下水田より新			As-C含む
3	80	ピット	145-414	楕円形	0.42	0.32	0.37				
3	81	ピット	145-413	楕円形	0.37	0.35	0.28				
3	82	ピット	146-404	楕円形	0.38	0.34	0.24				
3	83	ピット	146-404	楕円形	0.35	0.30	0.24				
3	84	ピット	146-405	楕円形	0.44	0.36	0.39				
3	85	ピット	148-406	楕円形	0.55	0.47	0.37				
3	86	ピット	149-404	楕円形?	残(0.21)	0.35	0.42				
3	87	ピット	150-405	楕円形	0.52	0.44	0.25				
3	88	ピット	150-406	楕円形	0.37	0.30	0.32				
3	89	ピット	150-407	楕円形	0.53	0.47	0.62				
3	90	ピット	150-406	楕円形	0.31	0.30	0.21				
3	91	ピット	154-415	楕円形	0.61	0.36	0.22				
3	92	ピット	155-416	楕円形	0.36	0.34	0.16				
3	93	ピット	152-416	楕円形	1.08	0.92	0.19				As-C含む
3	94	ピット	151-417	楕円形	0.35	0.29	0.35				As-C含む
3	95	ピット	151-417	円形	0.41	0.38	0.69				
3	96	ピット	151-417	楕円形	0.36	0.31	0.31				
3	97	ピット	151-416	楕円形	0.45	0.39	0.63				
3	98	ピット	150-417	楕円形	0.57	0.55	0.30				
3	99	ピット	149-416	楕円形	0.80	0.57	0.62				
3	100	ピット	148-418	楕円形	0.51	0.42	0.27				
3	101	ピット	146-417	楕円形	0.31	0.29	0.22				
3	102	ピット	147-416	楕円形	0.43	0.38	0.29	P184不詳。P185より新			
3	103	ピット	145-416	鶴丸方形?	0.37	0.35	0.23				
3	104	ピット	144-414	楕円形	0.33	0.32	0.52	P121より新			As-C含む
3	105	ピット	144-416	楕円形	0.33	0.27	0.24				
3	106	ピット	142-415	楕円形	0.44	0.37	0.24				
3	107	ピット	144-417	不定形	0.55	0.52	0.66				
3	108	ピット	142-416	楕円形	0.41	0.40	0.52				
3	109	ピット	142-418	楕円形	0.40	0.28	0.27				
3	110	ピット	141-418	楕円形	0.27	0.24	0.26				
3	111	ピット	141-419	楕円形	0.27	0.21	0.36				
3	112	ピット	141-420	楕円形	0.36	0.28	0.41				
3	113	ピット	140-419	楕円形	0.39	0.37	0.35				
3	114	ピット	140-418	楕円形	0.23	0.22	0.21				
3	115	ピット	140-417	楕円形	0.77	0.66	0.43				As-C含む
3	116	ピット	139-417	楕円形	0.51	0.36	0.24				As-C含む
3	117	ピット	138-418	楕円形	0.37	0.36	0.42				
3	118	ピット	140-422	楕円形	0.41	0.40	0.42				As-C含む
3	119	ピット	140-422	楕円形	0.34	0.28	0.23	27%より新			As-C含む
3	120	ピット	137-421	楕円形	0.40	0.37	0.68				
3	121	ピット	144-414	楕円形	0.41	0.35	0.25	P104より古			As-C含む
3	122	ピット	136-411	楕円形	0.37	0.35	0.59				上標2点 As-C含む
3	123	ピット	135-410	楕円形	0.50	0.30	0.22				
3	124	ピット	135-411	楕円形	0.50	0.50	0.17				
3	125	ピット	134-411	楕円形	0.37	0.32	0.41	102上不詳			
3	126	ピット	147-402	楕円形	0.46	0.41	0.35				
3	127	ピット	146-405	楕円形	0.36	0.31	0.13				
3	128	ピット	144-405	楕円形	0.56	0.46	0.34				As-C含む
3	129	ピット	145-406	楕円形	0.40	0.37	0.25				As-C含む
3	130	ピット	149-403	楕円形	残(0.34)	0.33	0.15				
3	131	ピット	151-407	楕円形	残(0.23)	0.31	0.12				As-C含む
3	132	ピット	151-410	楕円形	0.29	0.25	0.20				As-C含む
3	133	ピット	152-410	楕円形	0.49	0.42	0.22				As-C含む
3	134	ピット	153-411	楕円形	0.42	0.31	0.67				As-C含む
3	135	ピット	153-411	楕円形	0.29	0.28	0.50				As-C含む



## ピット一覧

区	№	通構名	グリッドX、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	重 視	掲載遺物	非掲載遺物	理 土
3	136	ピット	153-414	楕円形	0.90	0.77	0.25				As-C含む
3	137	ピット	152-416	楕円形	0.35	0.29	0.19				As-C含む
3	138	ピット	143-408	楕円形	0.40	0.35	0.18				As-C含む
3	139	ピット	144-409	楕円形	0.39	0.27	0.18				As-C含む
3	140	ピット	142-410	楕円形	0.50	0.43	0.44				As-C含む
3	141	ピット	143-410	楕円形	0.36	0.31	0.26			上師1点	As-C含む
3	142	ピット	142-410	楕円形	0.24	0.20	0.18				As-C含む
3	143	ピット	142-410	楕円形	0.35	0.29	0.28				As-C含む
3	144	ピット	142-410	楕円形	0.48	0.29	0.19				As-C含む
3	145	ピット	141-411	楕円形	0.65	0.50	0.63				As-C含む
3	146	ピット	143-411	楕円形	0.37	0.34	0.32				As-C含む
3	147	ピット	142-411	楕円形	0.52	0.32	0.27				As-C含む
3	148	ピット	148-403	楕円形	0.33	0.28	0.23				As-C含む
3	149	ピット	149-404	楕円形	0.53	0.30	0.60				
3	150	ピット	147-402	楕円形	0.53	0.43	0.26				
3	151	ピット	143-411	楕円形	0.26	0.24	0.10				As-C含む
3	152	ピット	142-412	楕円形	0.41	0.34	0.66				As-C含む
3	153	ピット	142-412	楕円形	0.48	0.40	0.63				As-C含む
3	154	ピット	141-413	楕円形	0.34	0.33	0.34				As-C含む
3	155	ピット	146-412	楕円形	0.44	0.37	0.22				As-C含む
3	156	ピット	145-413	楕円形	0.36	0.29	0.19				As-C含む
3	157	ピット	144-413	楕円形	0.46	0.34	0.26				As-C含む
3	158	ピット	144-413	楕円形	0.29	0.23	0.16				As-C含む
3	159	ピット	143-413	楕円形	0.71	0.51	0.48	P160不判			As-C含む
3	160	ピット	143-413	楕円形	0.29	0.23	0.37	P159不判			
3	161	ピット	143-412	楕円形	0.37	0.30	0.24				As-C含む
3	162	ピット	144-414	楕円形	0.42	0.38	0.13				As-C含む
3	163	ピット	144-415	楕円形	0.38	0.38	0.18				As-C含む
3	164	ピット	143-415	不明	—	—	0.19				As-C含む
3	165	ピット	143-416	楕円形	0.32	0.27	0.15				As-C含む
3	166	ピット	144-416	楕円形	0.63	0.62	0.32				As-C含む
3	167	ピット	141-416	楕円形	0.36	0.34	0.24				As-C含む
3	168	ピット	141-416	楕円形	0.48	0.39	0.64				As-C含む
3	169	ピット	141-416	楕円形	0.31	0.29	0.20	P170不判			As-C含む
3	170	ピット	141-416	楕円形	0.32	0.26	0.21	P169不判			As-C含む
3	171	ピット	140-416	楕円形	0.38	0.33	0.34				As-C含む
3	172	ピット	139-416	楕円形	0.45	0.40	0.45				As-C含む
3	173	ピット	138-419	楕円形	0.39	0.31	0.49				As-C含む
3	174	ピット	138-419	楕円形	0.41	0.40	0.31				As-C含む
3	175	ピット	144-417	楕円形	0.38	0.36	0.29				As-C含む
3	176	ピット	154-416	楕円形	0.44	0.30	0.53				As-C含む
3	177	ピット	148-417	楕円形	0.33	0.29	0.59			上師1点、須恵1点	
3	178	ピット	148-416	円形	0.32	0.32	0.24				
3	179	ピット	147-416	楕円形	0.40	0.37	0.15	P180より古			
3	180	ピット	147-416	楕円形	0.43	0.37	0.13	P179より新			
3	181	ピット	153-414	円形	0.31	0.30	0.11				
3	182	ピット	154-413	楕円形	0.34	0.28	0.17				
3	183	ピット	145-416	楕円形	0.36	0.32	0.21				
3	184	ピット	147-415	楕円形	残(0.30)	0.32	0.06	P102不判			
3	185	ピット	146-415	楕円形	残(0.24)	0.39	0.16	P102より古			
3	186	ピット	137-418	楕円形	0.37	0.35	0.37	17満より新			
3	187	ピット	150-415	楕円形	0.26	0.24	0.12	3288より古			
3	188	ピット	136-409	楕円形	0.29	0.26	0.23				
3	189	ピット	135-416	楕円形	0.31	0.28	0.12			上師3点	As-C含む
3	190	ピット	150-428	楕円形	推(0.47)	推(0.43)	0.31				
3	191	ピット	151-432	楕円形	0.32	0.25	0.21				
3	192	ピット	148-432	楕円形	0.37	0.34	0.21				
3	193	ピット	148-433	楕円形	0.34	0.31	0.24				
3	194	ピット	147-432	楕円形	0.38	0.31	0.21				
3	195	ピット	145-430	楕円形	0.27	0.23	0.22				
3	196	ピット	144-430	楕円形	0.33	0.28	0.25				
3	197	ピット	144-431	楕円形	0.45	0.42	0.18				
3	198	ピット	144-432	楕円形	0.26	0.25	0.22				
3	199	ピット	142-426	楕円形	残(0.28)	0.36	0.17	27祭より古			
3	200	ピット	141-429	楕円形	0.38	0.29	0.26				As-C含む
3	201	ピット	145-400	楕円形	推(0.27)	0.23	0.39	17満より古			As-C含む
3	202	ピット	140-402	楕円形	0.22	0.22	0.24				As-C含む
3	203	ピット	141-406	楕円形	0.37	0.33	0.11				



## ピット一覧

区	№	通構名	グリッドX、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	重 視	掲載遺物	非掲載遺物	理 土
3	204	ピット	138-407	楕円形	0.55	0.42	0.23		上師2点		
3	305	ピット	140-409	楕円形	0.33	0.27	0.18				
3	206	ピット	138-410	楕円形	0.22	0.22	0.14				
3	207	ピット	136-408	楕円形	0.43	0.38	0.41		上師1点		
3	208	ピット	136-409	円形	0.25	0.25	0.25				
3	209	ピット	139-412	楕円形	0.35	0.29	0.21				
3	210	ピット	137-412	楕円形	0.31	0.27	0.37		上師2点		
3	211	ピット	138-413	楕円形	残(0.27)	0.25	0.15	28号より古		As-C含む	
3	212	ピット	138-414	楕円形	0.32	0.30	0.42			As-C含む	
3	213	ピット	136-413	円形	0.29	0.29	0.18			As-C含む	
3	214	ピット	137-414	楕円形	0.30	0.29	0.16			As-C含む	
3	215	ピット	136-415	楕円形	0.32	0.23	0.31		上師1点	As-C含む	
3	216	ピット	137-416	楕円形	0.28	0.28	0.22			As-C含む	
3	217	ピット	141-409	円形	0.39	0.39	0.37	17満より古		As-C含む	
3	218	ピット	138-415	楕円形	0.36	残(0.24)	0.22	17満より古		As-C含む	
3	219	ピット	136-418	楕円形	0.35	0.31	0.38		上師3点	As-C含む	
3	220	ピット	143-420	楕円形	0.57	0.44	0.16				
3	221	ピット	142-431	楕円形	0.31	0.29	0.25				
3	222	ピット	142-431	楕円形	0.26	0.26	0.17			As-C含む	
3	223	ピット	141-431	楕円形	0.34	0.32	0.17			As-C含む	
3	224	ピット	142-435	楕円形	0.62	0.53	0.22				
3	225	ピット	141-435	楕円形	0.50	0.42	0.21			As-C含む	
3	226	ピット	141-438	楕円形	0.66	0.45	0.20			As-C含む	
3	227	ピット	144-439	楕円形	0.44	0.32	0.17				
3	228	ピット	143-440	楕円形	0.31	0.28	0.14				
3	229	ピット	146-441	楕円形	0.35	0.28	0.24			As-C含む	
3	230	ピット	143-442	楕円形	0.59	0.46	0.21				
3	231	ピット	141-443	楕円形	0.34	0.32	0.19			As-C含む	
3	232	ピット	141-446	楕円形	0.63	0.51	0.22			As-C含む	
3	233	ピット	142-447	楕円形	0.75	0.61	0.14			As-C含む	
3	234	ピット	140-445	楕円形	0.46	0.42	0.22			As-C含む	
3	235	ピット	140-446	楕円形	0.47	0.45	0.16			As-C含む	
3	236	ピット	140-447	楕円形	0.42	0.38	0.23			As-C含む	
3	237	ピット	138-441	楕円形	0.33	0.31	0.17			As-C含む	
3	238	ピット	135-442	楕円形	0.32	0.32	0.20	45%不規		As-C含む	
3	239	ピット	140-435	楕円形	0.32	0.30	0.38			As-C含む	
3	240	ピット	139-435	楕円形	0.39	0.36	0.40			As-C含む	
3	241	ピット	133-411	楕円形	0.35	0.32	0.31				
3	242	ピット	129-412	楕円形	残(0.19)	0.30	0.29	P243-F4#		As-C含む	
3	243	ピット	129-412	楕円形	0.46	0.29	0.48	P242-F4#		As-C含む	
3	244	ピット	130-411	楕円形	残(0.4)	0.66	0.18	16号小印	上師1点	As-C含む	
3	245	ピット	131-410	楕円形	0.29	0.24	0.32			As-C含む	
3	246	ピット	132-410	楕円形	0.52	0.36	0.23			As-C含む	
3	247	ピット	128-413	楕円形	0.30	0.30	0.41			As-C含む	
3	248	ピット	128-413	楕円形	0.31	0.28	0.30		上師1点	As-C含む	
3	249	ピット	128-412	楕円形	0.32	0.28	0.29				
3	250	ピット	135-417	楕円形	0.40	0.37	0.33			須惠6点	As-C含む
3	251	ピット	134-417	楕円形	0.38	0.32	0.38			As-C含む	
3	252	ピット	134-416	楕円形	0.41	0.38	0.50			As-C含む	
3	253	ピット	136-423	楕円形	0.31	0.30	0.24			As-C含む	
3	254	ピット	137-424	楕円形	0.43	0.35	0.27			As-C含む	
3	255	ピット	158-424	楕円形	0.44	0.37	0.40			As-C含む	
3	256	ピット	157-425	楕円形	0.37	0.32	0.58			As-C含む	
3	257	ピット	156-423	楕円形	0.45	0.30	0.26			As-C含む	
3	258	ピット	156-422	楕円形	0.48	0.46	0.22			As-C含む	
3	259	ピット	156-427	楕円形	0.40	0.38	0.22			As-C含む	
3	260	ピット	155-428	楕円形	0.34	0.32	0.27				
3	261	ピット	154-427	楕円形	0.30	0.29	0.17				
3	262	ピット	154-424	楕円形	0.57	0.42	0.23				
3	263	ピット	154-420	楕円形	0.52	0.34	0.29				
3	264	ピット	149-421	楕円形	0.25	0.23	0.15				
3	265	ピット	156-426	楕円形	0.25	0.25	0.18				
3	266	ピット	152-418	楕円形	0.38	0.33	0.20			As-C含む	
3	267	ピット	152-419	楕円形	0.48	0.39	0.11			As-C含む	
3	268	ピット	154-424	楕円形	0.44	0.36	0.15			As-C含む	
3	269	ピット	151-424	楕円形	0.41	0.38	0.19			As-C含む	
3	270	ピット	154-419	楕円形	0.26	0.19	0.28			As-C含む	
3	271	ピット	151-421	楕円形	0.37	0.34	0.22			As-C含む	

## 掲載遺物観察表

区	No.	遺構名	グリッド X、Y	平面形	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 さ (m)	重 複	掲載遺物	非掲載遺物	理 土
3	272	ピット	153-421	楕円形	0.39	0.36	0.17				As-C含む
3	273	ピット	150-425	楕円形	0.35	0.32	0.22				
3	274	ピット	150-424	楕円形	0.53	0.47	0.14				As-C含む
3	275	ピット	150-423	楕円形	0.44	0.35	0.16				As-C含む
3	276	ピット	150-421	楕円形	0.43	0.38	0.26				
3	277	ピット	149-424	楕円形	0.35	0.30	0.24				As-C含む
3	278	ピット	152-418	楕円形	0.29	0.26	0.29				As-C含む

第7表 掲載遺物観察表例

1. 計測値の単位はcm、重さはgである。
2. 円筒埴輪の高さは実測面における最低値と最高値を表記した。
3. 3号古墳観察表と本文における円筒埴輪の各部名称は以下の通りである。
- 口縁端部：口縁部上端付近
- 口縁部：最上位の突帯から上端部
- 胴 部：突帯間
- 基底部：最下段突帯以下
- 基底端部：接地面付近
4. 円筒埴輪観察表中の「基底部長/胴部長/口縁部長」は以下の数値(cm)である。
- 基底部長：実測図左右で示した基底端部から1段目の突帯中央までの距離
- 胴部長：実測図左右で示した1段目と2段目突帯中央部間の距離
- 口縁部長：実測図左右で示した2段目突帯中央から口縁部上端までの距離
5. 円筒埴輪の突帯は①②のように最下段から数字を付し、形状については台形、M字状、△形状の3分類し、それぞれ「台」「M」、「△」と表記した。
6. 3号古墳出土埴輪の胎土は、本文中に記載したとおりである。
7. ハケの数値は2cm間の条数である。
8. 本文で「編み物用石製鍤」と称した石製品は、観察表中においては「石製鍤」と略記した。

第7表 掲載遺物観察表

1号竪穴建物		種	器 種	出土位置	残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備 考
PL-No.	建物							[口] 梱 [底] 梱	[口] 梱 [底] 梱	
第8回 PL.51	1 杯	土師器	床面 4/5	床面	11.4	高 10.6	4.5 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第8回 PL.51	2 杯	土師器	床面 4/5	床面	11.4	高 10.4	4.0 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第8回 PL.51	3 頂壺器	埋土 杯蓋 片	口縁部～天井部 天井部 片	口縁部 天井部 片	12.0 11.0		粗砂粒/選元塗/浅 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。口縫部は平坦面を作る。		

2号竪穴建物

10号竪穴建物		種	器 種	出土位置	残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備 考
PL-No.	建物							[口] 梱 [底] 梱	[口] 梱 [底] 梱	
第10回 PL.51	1 杯	土師器	床上13～20cm 1/4	床面	11.8	高 11.6	3.7 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り、表面摩滅のため裏面不明。	口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り、表面摩滅のため裏面不明。	
第10回 PL.51	2 杯	土師器	床上16cm 1/4	口縁部～底部付	11.8	高 10.4	粗砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り。	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、棟下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第10回 PL.51	3 大型杯	土師器	床1.5～20cm 1/4	口縁部～体部付	20.6	高 19.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、棟下部は手持ちヘラ削り。	口縁部は横ナデ、棟下部は手持ちヘラ削り。	
第10回 PL.51	4 高杯	土師器	床1.5cm 1/4	口縁部～脚部付	13.6		粗砂粒/良好/明褐	杯部は口縁部が横ナデ、体部はヘラ削り。	杯部は口縁部が横ナデ、体部はヘラ削り。	
第10回 PL.51	5 高杯	土師器	床上9cm 3/4	脚部～脚部付			粗砂粒/良好/明褐	杯部は底部にホソを作り、脚部に差し込むように貼付。脚部はヘラ削り。	杯部は底部にホソを作り、脚部に差し込むように貼付。脚部はヘラ削り。	
第10回 PL.51	6 杯身	須恵器	床上11cm 3/4	口縫部 蓋受	14.0	高 15.9	4.9 粗砂粒/選元塗/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。外側底部に刻文、隙合が付着。	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。外側底部に刻文、隙合が付着。	
第10回 PL.51	7 杯身	須恵器 有蓋杯	床面～床上15cm 1/4	口縫部 蓋受	13.4		粗砂粒/選元塗/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。内面は底部にテテ。	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。内面は底部にテテ。	

掲載遺物観察表

種類	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第10回 PL.50	8 頭部恩	床下13cm 脚部断片	脚 15.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部は下方に引き出されている。	
第10回 PL.51	9 頭部恩	理上 口縁部片	枝 9.6	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第10回 PL.51	10 頭部器	床面 脚側長頸壺 ほぼ完形	口 7.7 脚 13.5 高 20.3 黄	細砂粒/還元焰/焼削り 粗砂粒/還元焰/焼削り 脚部は貼付。脚部中位に4条、口縁部中程に2条の凹痕がある。脚部3方に三角形の透孔。	ロクロ整形、回転は右回り。底部から脚部下位は回転ヘラ削り。脚部は貼付。脚部中位に4条、口縁部中程に2条の凹痕がある。脚部3方に三角形の透孔。	
第10回 PL.51	11 土師器 甕	床下9cm 口縁部～脚部上位片	口 17.8	細砂粒・粗砂粒/良好/白	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への纏方向へラ削り。	
第10回 PL.51	12 土師器 甕	床下上～17cm 口縁部～脚部上位片	口 21.6	細砂粒・粗砂粒(片岩)/良好/白	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部に向けての斜め方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第10回 PL.51	13 土師器 甕	床上40～44cm 口縁部片	口 34.8	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。口部は端部を上方に引き出し、下位を凸部で肥厚させる。口縁部は1～2条の凹窓によって3段に区画し、上位2段は区画内に波状文を施す。内面はヘラナデ。	
第10回 PL.51	14 土師器 甕	床上40～44cm 口縁部片	口 34.0	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。口部は上方に引き出され、口縁部は横ナデによって3段に区画し、上位2段は区画内に波状文を施す。内面はヘラナデ。	
第10回 PL.51	15 銅製品 山型	床上24cm 底	底 2.2 厚 0.5 板 1.8 重 3.8	小ぶりの山型。一部に銀色の光沢が残存する。銅芯鍍金と見られる。		
3号堅穴建物						
第11回 PL.51	1 土師器 杯	床上35cm 1/3	口 10.0 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第11回 PL.51	2 土師器 杯	床上18cm 1/3	口 11.8 高 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第11回 PL.51	3 土師器 杯か 底部小片	理上 底部小片		細砂粒/良好/橙	外面はヘラ削り、残存部中程に焼成前の穿孔、径0.5cm。	
第11回 PL.51	4 頭部器 杯蓋	床上28～31cm 1/2	口 12.2 高 10.0	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。内面は横ナデ。	
第11回 PL.51	5 頭部器 杯蓋	理上 天井部片		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面は中空ナデ。	
第11回 PL.51	6 土師器 甕	理上 口縁部片	口 16.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は外側面とも横ナデ。	
4号堅穴建物						
第14回 PL.51	1 土師器 杯	床上6cm 2/3	口 12.4 高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第14回 PL.51	2 土師器 杯	床上7～12cm 3/4	口 12.8 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第14回 PL.51	3 土師器 杯か 底部小片	床上6～25cm ほぼ完形	口 12.2 高 4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第14回 PL.51	4 土師器 杯	床上5cm 壳形	口 12.5 高 4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第14回 PL.51	5 土師器 小型甕	床面 口縁部～脚部 脚	口 11.4 高 15.4 底 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、脚部は横方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。大部分は表面磨滅のため単位不詳。	
第14回 PL.51	6 土師器 小型甕	床上2.5～53cm 口縁部～脚部上 半片	口 17.4	細砂粒/良好/にぶ い間	口縁部は横ナデ、脚部は縱方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第14回 PL.51	7 土師器 小型甕	床上3.3～53cm 口縁部～脚部上 位片	口 17.6	細砂粒/良好/にぶ い間	口縁部は横ナデ、脚部は縱方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第14回 PL.51	8 土師器 甕	床上12～30cm 3/4	口 18.5 底 17.0 高 脚 29.0 良好/にぶい黄鉛	6.9 細砂粒・粗砂粒/29.0 良好/にぶい黄鉛	口縁部は横ナデ、脚部は上位から下位への纏方向。底部周縁が横方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第14回 PL.52	9 土師器 甕	床上12～30cm 口縁部～脚部上 位片	口 21.0	細砂粒/良好/橙	口縁部の下部は横ナデ、脚部は脚部から下方への纏方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第14回 PL.52	10 土師器 甕	床上4～30cm 底部～脚部下半 脚	口 9.6 底 22.1	細砂粒/良好/明黄 褐	底部と脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第15回 PL.52	11 土師器 甕	床上5～14cm 1/2	口 19.7 底 18.0 高 脚 34.6 片岩/良好/明黄 褐	4.6 細砂粒・粗砂粒(片岩)/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ、脚部は上半が下方から脚部への纏方向。下半が上方から底部に向かって纏方向のヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第15回 PL.52	12 土師器 甕	床上5～42cm 口縁部～脚部上 位	口 20.6 底 18.5	細砂粒・粗砂粒(片岩)/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ、脚部は上半が下方から脚部への纏方向。下半が上方から底部に向かって纏から斜め方向のヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第15回 PL.53	13 土師器 甕	床上5～9cm 口縁部～脚部 脚	口 21.6 底 17.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、脚部は上位が下方から脚部への纏方向。中位から下位が上方から下位への斜めから横方向へラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第15回 PL.52	14 銅製品 鏡	床上22cm 完形	長 11.3 厚 0.3 幅 2.4 重 26.1	耳付きの鏡。耳が片方直行して付けられている。刃の中心部が研磨しているか。		
第15回 PL.52	15 白玉	埋上	長 1.3 厚 0.9 幅 1.5 重 0.6 滑石 2.3	上面孔眼が平坦で、下面孔側は片傾斜。体部は縦位の長い縦条痕が残る。孔径は3mm前後。片側開孔。		



## 5号堅穴建物

種類	種類	出土位置	出士位置 残存率	計測値	胎土/燒成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16回 PL.53	1 上彌器 杯	埋土	口縁部～底部片	口 縫 11.0	細砂粒/良好/灰 い泥	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
6号堅穴建物							
第19回 PL.53	1 上彌器 杯	床土7cm	口 縫 10.4	3.8	細砂粒/良好/黄灰	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第19回 PL.53	2 上彌器 杯	床土～床下37cm	口 縫 12.8	14.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第19回 PL.53	3 上彌器 杯	床土～15cm 口縁部～制脚上 位片	口 縫 16.3	15.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい 黄泥	口縁部は横ナデ、胸部は下方から頸部に向ての縱方向へ 削り。内面は制脚部にヘラ削り。	
第19回 PL.53	4 上彌器 杯	床土～7cm 口縁部～制脚上 半片	口 縫 17.2	15.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄泥	口縁部は横ナデ、胸部は上方と下方から頸部に向て、下 半が中央部から底部へ向ての縱方向へヘラ削り。内面は制脚 部にヘラ削り。	
第19回 PL.53	5 上彌器 杯	床土 口縁部～制脚上 位片	口 縫 19.6	19.6	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶい 黄泥	口縁部は横ナデ、胸部は下方から頸部に向ての縱方向へ 削り。内面は制脚部にヘラ削り。	
第19回 PL.53	6 上彌器 杯	碗方、床下土坑 口縁部～制脚上 位片	口 縫 20.8	20.8	細砂粒/良好/にぶい 黄泥	口縁部は横ナデ、胸部はヘラ削りか蒸面摩減のため不鮮明。 内面は制脚部にヘラ削り。	
第19回 PL.53	7 頭忠器 甕	床土4cm 口縁部～制脚上 位片	口 縫 18.0	18.0	細砂粒/還元焰/灰 泥	胸部は弓字彫成形。口縁部はクロカ形成か。胸部には平 行引き窓が残る。内面は口縁部にヘラナデ、制脚部同心円 状アズキ貝が残る。	
第19回 PL.53	8 石製鍤	床面	長 幅	14.7 厚 8.5 重 632.1	3.5 粗粒輝石安山岩	上端側の右肩側縁に敲打痕があるほか、表面にねじねじ 下端側の小口部に敲打・耗耗痕がある。薄ぐ幅広の幅平鍤を用 いる。	敲石
第19回 PL.53	9 石製鍤	床面	長 幅	17.1 厚 7.8 重 881.9	4.6 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒状鍤を用いる。上端側右肩の表裏面を敲打し て鍤ヘッジを作出。このエッジを機械磨とすると、エッジ は敲打して潰れる。裏面側下端小口部分を敲打、表面が剥 落する。	敲石
第19回 PL.53	10 石製鍤	床面	長 幅	16.3 厚 7.4 重 889.9	5.0 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒状鍤を用いる。やや幅広の上端側右辺・表裏 面を敲打して鍤ヘッジを作出。このエッジを機械磨とす ると、エッジは敲打して潰れる。上下両端の小口部分にむかわ ずかの敲打痕。	敲石
PL.53	11 石製鍤	床土4cm	長 幅	12.5 厚 7.8 重 610.8	4.1 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒円錐。襷脚部は謹中央。断面三角形状を呈す。 古部だけではなく周囲も同じく摩耗、自然磨と判断した。	
PL.53	12 石製鍤	床土4cm	長 幅	12.9 厚 6.7 重 555.1	4.5 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒円錐。襷脚部は謹中央。断面三角形状を呈す。	
PL.53	13 石製鍤	床面	長 幅	13.4 厚 7.2 重 580	4.4 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒円錐。小口部両端は荒れて打球のように見え るかもしれないが、潰れた状態に見えないことから自然磨 と捉える。	
PL.53	14 石製鍤	床面	長 幅	10.9 厚 5.6 重 726.9	5.4 粗粒輝石安山岩	掌サイズの柱状鍤。襷脚部が新鮮に見える傾向は変わら ないが、使用痕とするのは難しい。	
PL.53	15 石製鍤	床面	長 幅	15.0 厚 8.3 重 943.4	4.5 粗粒輝石安山岩	掌サイズではやや大きい扁平鍤。小口部両端が新鮮に見 えることを摩耗とするか難い。小口部以外は黒んでいる。	
PL.53	16 石製鍤	理土	長 幅	15.6 厚 8.3 重 934.9	5.7 粗粒輝石安山岩	掌サイズよりもやや大型の圓角錐。襷脚部は謹中央。襷脚 線は擦れのように新鮮で、襷脚部以外が黒んでいたとの対 照的(黒んでいた)部分が本來の鍤の色。白く見えるのは 擦れで襷脚が荒れているから。	
PL.53	17 石製鍤	床面	長 幅	15.9 厚 6.3 重 856	5.4 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒状鍤。小口部両端が荒れているが、表面はわ ざかで、打球とするのは難しい。	
PL.53	18 石製鍤	床面	長 幅	16.1 厚 6.6 重 692.4	5.0 安山岩	掌サイズの垂角錐。襷脚部は謹中央。エッジは風化して剥 落。	

## 7号堅穴建物

第23回 PL.54	1 上彌器 杯	理土	口縁部～制脚上 位片	口 縫 9.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第23回 PL.54	2 上彌器 杯	理土	口縁部～底部片	口 縫 10.0	12.8	細砂粒/良好/焼 灰	口縁部は横ナデ、継下底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位 に段を作り、外側面焼し被成。
第23回 PL.54	3 頭忠器 甕	床土57cm 天井部片			細砂粒/還元焰/灰 黄泥	口縫部は折り返し、横ナデ、体部と底部はヘラ削り。外側 面に焼け付着。	
第23回 PL.54	4 上彌器 有孔鉢	床土6cm 4/5	口 縫 4.0	17.4 厚 12.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤	口縁部は折り返し、横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面 は底部から全体部にヘラナデ、底部にΦ6.8cmの孔を穿つ。	
第23回 PL.54	5 円石	碗方	長 幅	12.7 厚 7.4 重 775.2	6.1 粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の窪みがあるほか、小口部両端およ び両端側に敲打痕がある。掌サイズの棒円錐を用いる。日 が粗く襷脚の摩耗は目立ち様。	

## 8号堅穴建物

第23回 PL.54	6 頭忠器 甕	床面	1/2	口 縫 5.0 重 4.6	10.4 台 5.4 粗砂粒/酸化焰/橙	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。	
第23回 PL.54	7 上彌器 甕	床面～床下8cm 口縁部～制脚上 位片		口 縫 22.0 22.2	細砂粒/良好/明赤	口縁部から頸部は横ナデ、胸部は頸部から下位に向ての 縱方向へ削り。内面は制脚部にヘラ削り。	

## 9号堅穴建物

第23回 PL.54	8 上彌器 杯	床土8cm 2/3		口 縫 10.7	11.6 高 4.1 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
---------------	------------	--------------	--	----------------	---------------------------	-------------------------	------

掲載遺物観察表

種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
No.	PL No.	残存率			
9	第23回 PL.54	理上 杯蓋 10	口縁部 9.6	10.8 3.2	口縁部は横ナデ、底部は夷元塗/浅黄 ロクロ形態、回転は不明。
11	第23回 PL.54	1.9底 底部-射部片	床下3cm 14.9	14.9	底部から射部はヘラ削り。内面はヘラナデか、表面摩滅のため単位不明。
12	第23回 PL.54	1.9底 底部-射部片	床下6cm 20.6	20.6	口縁部は内外面とも横ナデ。

## 10号堅穴建物

1	第30回 PL.54	1.9底 杯	理上 口縁部-底部片 8.9	10.0 3.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。
2	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下~34cm 1/2	10.9高 10.3	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
3	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下9cm 3/4	10.4高 10.7	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
4	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下12cm 1/4	10.9 9.6	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
5	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下48~57cm 1/4	10.6高 10.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
6	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下280cm 2/3	10.6高 10.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
7	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下6cm 1/3	11.0 10.1	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
8	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下30cm 1/3	10.8高 10.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り、種下の一部にテ部分がある。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
9	第30回 PL.54	1.9底 杯	理上 口縁部-底部片 11.2	11.2 10.5	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。
10	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下10cm 完形	11.0高 10.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
11	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下13cm 3/4	11.2高 10.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
12	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下10cm ほぼ完形	11.0高 11.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。
13	第30回 PL.54	1.9底 杯	理上 1/3	11.0 10.8	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。
14	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下5cm 1/2	11.4高 10.5	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
15	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下46cm 1/4	11.4 11.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
16	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下4cm 3/4	11.4高 10.9	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
17	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下26cm 2/3	11.2高 10.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
18	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下41cm 2/4	11.3高 10.8	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
19	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下10cm 3/4	11.2高 10.6	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。
20	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下27cm 1/4	11.4高 10.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
21	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下~12cm 2/3	11.6高 11.3	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
22	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下37cm 3/4	12.4高 11.1	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
23	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下7cm 1/3	12.6 11.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
24	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下4cm 2/3	12.0高 11.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
25	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下49cm 1/4	12.8高 12.4	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩滅のため単位不明。
26	第30回 PL.54	1.9底 杯	理上 1/3	12.4 11.3	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
27	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下7cm 1/3	13.8 12.0	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。 口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。
28	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下~10cm 3/4	13.5高 13.8	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。新型杯
29	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下7cm 1/3	14.2 12.2	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部に渦状の模様がある。内面は口縁部に横方向、底部から体部に放射状の凹凸。外側面は削成。
30	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下12cm 1/3	13.8 11.6	口縁部は横ナデ、底下から底部は手持ちヘラ削り。内面は口縁部に横方向、底部から体部が放射状ヘルミガニ。
31	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下~17cm 3/4	10.8高 10.7	口縁部は横ナデ、底下から底部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。有段口縁杯異形
32	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下24cm 1/3	11.2 11.5	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。
33	第30回 PL.54	1.9底 杯	床下10~20cm 1/3	16.6 7.2	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。

No. PL.No.	種類 器形	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31回 PL.55	土師器 高杯	床面 4/5	口 14.4 脚 11.7	16.0 細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の貼付方法不明。杯部内面は黒色処理。杯部は口縁部・底部とも口方削り。脚部は柱状部がへら削り、底部は横ナデ。内面は杯部からミガキ。脚部柱状部がナデ。	
第31回 PL.55	土師器 高杯	理上 杯脚部	E1 17.4	細砂粒/粗砂粒/ 良好/明褐色	杯部は口縁部が横ナデ、稜下底部が手持ちへら削り。	盤状
第31回 PL.55	土師器 高杯	床面上3cm 杯底部～脚部 上位		細砂粒/粗砂粒/ 良好/明赤褐色	杯部・脚部とも内面は黒色処理。杯部口縁部は横ナデ、底部から脚部はナデ。	
第31回 PL.55	須恵器 杯蓋	床面上7cm 1/3	E1 11.0 高 9.5	2.5 細砂粒/粗砂粒/片 岩/選元燒/灰白	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は回転へら削り。天井部と口縁部の間に凹部を作る。	
第31回 PL.55	須恵器	床上10～14cm	E1 11.0 高	3.4 細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面は天井部中程にナデ。天井部と口縁部の間に凹部が造る。	
第31回 PL.55	須恵器 完形	床面上40～48cm	E1 11.4 高 9.8	3.8 細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面は天井部中程にナデ。天井部と口縁部の間に凹部が造る。	
第31回 PL.55	須恵器 杯蓋	3/4	E1 10.1		ナデ	
第31回 PL.55	須恵器 完形	床面上40～48cm	E1 11.4 高 9.8	3.8 細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面は天井部中程にナデ。天井部と口縁部の間に凹部が造る。	
第31回 PL.55	須恵器 杯蓋	1/2	E1 10.7		ナデ	
第31回 PL.55	須恵器 杯蓋	3/4	E1 9.3		ナデ	
第31回 PL.55	須恵器 高杯	床上1～16cm 3/4	E1 12.6 高 3.2	細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は手持ちへら削り。器形が複数あるため単位不詳。内面は天井部がナデ。	
第31回 PL.55	須恵器 高杯	床上27～48cm 2/3	E1 14.8 高 2.3	12.8 細砂粒/粗砂粒/ 4.9 選元燒/灰白	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は回転へら削り。継ぎ半端なタマン状の粘土板を貼付。天井部と口縁部の間に凹部が造る。	
第31回 PL.55	須恵器 杯身	床上44cm 1/5	E1 9.1 高 11.2	3.8 細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。底部は回転へら削り。	
第31回 PL.55	須恵器 杯身	床上26cm ほぼ完形	E1 10.0 高 11.3	3.3 細砂粒/粗砂粒/ 選元燒/灰黃	ロクロ形態、回転は右回り。底部は手持ちへら削り。口縁部の一部にススが付着。	
第31回 PL.55	須恵器 杯身	床上7cm 1/3	E1 12.4 高 14.8	4.0 細砂粒/粗砂粒/片 岩/選元燒/灰白	ロクロ形態、回転は右回り。底部は回転へら削り。内面底部はナデ。	
第31回 PL.55	須恵器 高杯	床上11～16cm 脚部下位	E1 10.2	細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回りか。脚端部は下方に引き出されている。	
第31回 PL.55	須恵器 高杯	理上 脚部下位		細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。脚端部は下方に引き出されるよう作られ、残存底部に底部の透孔が開かれられる。	
第31回 PL.55	須恵器 高杯	理上 口縁部 片岩片	E1 11.6	細砂粒/選元燒/灰 白	ロクロ形態、回転は右回り。口縁部に凹部が造る。	
第31回 PL.55	土師器 甕	床面上30cm 口縁部～脚部上 位片	E1 17.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、脚部は底方向へら削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第31回 PL.55	土師器 甕	床面上7cm 口縁部～脚部上 位片	E1 21.4	細砂粒/粗砂粒/片 岩/良好/明褐色	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部へ向けて底方向へら削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第32回 PL.55	土師器 甕	床面上7cm 口縁部～脚部上 位片	E1 21.6	細砂粒/粗砂粒/片 岩/良好/灰白	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部へ向けて斜め方向へら削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第32回 PL.55	土師器 甕	床上6cm 口縁部～脚部上 位片	E1 22.2	細砂粒/粗砂粒/片 岩/良好/灰白	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部へ向けて底方向へら削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第32回 PL.55	土師器 甕	床上10～16cm 底 底片	5.2	細砂粒/粗砂粒/片 岩/良好/赤褐色	底部には木葉痕が残る。脚部は下位が横方向、中位が底方向へら削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第32回 PL.55	土師器 甕	底 底片～脚部下半 片	E1 24.4	7.0 細砂粒/粗砂粒/片 岩/旅行用明褐色	底部はヘラ削り、脚部は下位と中位が横方向、上位は下方から頭部へ向けて底方向へら削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第32回 PL.55	土師器 甕	底 底片～脚部下部	2.4	細砂粒/良好/橙	底部と脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第32回 PL.55	土師器 甕	床上42cm 長 幅	(3.0) (1.4)	厚 3.7 乾較岩	台形状状を示す筋部の下端側面片。下面丸削は摩耗して光沢を帯びる。体部には複数研磨痕が残る。	
第32回 PL.55	土師器 甕	床上26cm 長 幅 厚	1.2 0.4 重 2.1	高1.0 80g 乾較岩/明褐色	上・下面とも平滑面から丸を内側側面する。孔径は3mm弱、整形に当たる線条痕が見られず、全面光沢を帯びる。形状も整い、石材選択も意図的。	

## 11号堅穴建物

第34回 PL.55	1 土師器 杯	床上5cm 口縁部～底部片	E1 10.6 脚 10.0	細砂粒/良好/浅黃 橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへら削り。外面部縁部と内面部に絶縁塗装。	模様置模做
第34回 PL.55	2 土師器 杯	床面 口縁部～底部片	E1 12.8 脚 11.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへら削り。	杯蓋微做
第34回 PL.55	3 土師器 杯	床面 有脚部 3/4	E1 16.5 脚 17.3	細砂粒/良好/ぶ き樹脂	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第34回 PL.55	4 土師器 甕	底 底片 16cm 底 底片～脚部下半	E1 18.7	細砂粒/粗砂粒/片 岩/良好/明赤褐色	底部から脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第34回 PL.55	5 土師器 甕	底 底片 16cm 底 底片～脚部片	E1 20.5 厚 17.3	27.6 細砂粒/良好/ぶ き樹脂	口縁部は横ナデ、脚部はナデ、脚部は横方向へら削り後上位にツマミガキ。内面は脚部にヘラナデ。	
第34回 PL.55	6 土師器 甕	底 底片 14.0 底 底片～脚部上 位片	E1 14.0	細砂粒/粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り、器面摩減のため単位不明。	

## 掲載遺物観察表

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第34回 PL.55	7	上部器 小型甕	床面 口縁部～胴部上 半片	口 13.9 幅 17.4	細砂粒/良好/にぶ い粒	内外面の頭部に輪郭線痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は ヘラ削り、底面摩滅のため単位不明。内面は胴部にヘラナ ダ。	
第34回 PL.55	8	上部器 小型甕	床面 2/3	口 16.1 幅 15.2	7.2 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶ い黄褐色	口縁部の頭部は横ナデ、胴部はヘラ削り、器面摩滅のた め単位不明。底面もヘラ削り。内面は底部から胴部・頭 部にヘラナダ。	
第34回	9	上部器 甕	床面 口縁部～胴部上 位片	口 22.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	口縁部は横ナデ、胴部は頭部から下方への纏方向へラ削り。 内面は胴部にヘラナダ。	
第34回 PL.55	10	埴輪 形象(馬形) 蹄	埋 底 1.4 高 1.4	1.4 細砂粒/陶化焼(良 好)/明褐	球状を作り、上方に鉢を模した凹縫を深く刻む。下面側に やや平坦な箇所があり、ここで本体に貼りか。		
第35回 PL.55	11	上部器 甕	床面～床下5cm 口縁部～胴部上 半	口 21.6 幅 18.6	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は下方から頭部への纏方向へラ削り、 内面は胴部にヘラナダ。	
第35回	12	上部器 甕	床下13cm 口縁部～胴部中 位	口 20.8 幅 17.6	20.7 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良石(良好)/ にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部は下方から頭部に向けての纏方向へ ラ削り、ヘラ削り後頭部にナダ。内面は胴部にヘラナダ。	
第35回 PL.56	13	上部器 甕	床面～床下10cm ほぼ完形	口 21.7 幅 18.3 高 32.9	4.2 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶい 黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は下方から頭部に向けての纏方向へ ラ削り、ヘラ削り後頭部にナダ。内面は胴部にヘラナダ。	
第35回 PL.56	14	上部器 甕	床下3cm 3/4	口 22.1 幅 20.4 高 40.1	4.9 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位が纏方向。下位は横 方向へ削り、底面もヘラ削り。内面は胴部にヘラナダ、 底面摩滅のため単位不明。	

## 13号竪穴建物

第38回	1	上部器 杯	埋 口縁部～底部片	口 11.4 幅 9.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第38回 PL.56	2	上部器 杯	床 1/3	口 11.6 幅 11.9	4.0 細砂粒/良好/暗褐	口縁部は横ナデ、稜下から底面は手持ちラフ削り。	杯身模倣
第38回	3	須恵器 杯蓋	床上10cm 口縁部～天井部 片	口 12.8	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
第38回	4	須恵器 杯蓋	床上44cm 口縁部～天井部 片	口 13.8	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
第38回	5	須恵器 蓋	理上 口縁部片		細砂粒・還元焰/灰 黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部下に断面三角形の凸部 を有す。口縁部には波状文を施す。	

## 14号竪穴建物

第42回 PL.56	1	上部器 杯	床 1/3	口 10.2 幅 9.4	3.7 細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回	2	上部器 杯	床 1/3	口 10.6 幅 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底面は手持ちヘラ削り。内面は 底面から口縁部にヘラナダ。	杯蓋模倣
第42回	3	上部器 杯	床 1/4	口 11.0 幅 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回	4	上部器 杯	床 1/3	口 11.2 幅 10.4	4.2 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回 PL.56	5	上部器 杯	床 3/4	口 11.4 幅 10.6	3.7 細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘ ラ削り。	杯蓋模倣
第42回	6	上部器 杯	床 1/3	口 11.4 幅 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。器面摩 滅のため単位不明。内面は底部から口縁部にヘラナダ。	杯蓋模倣
第42回 PL.56	7	上部器 杯	床 3/4	口 11.6 幅 10.7	3.5 細砂粒/良好/にぶ い粒	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回 PL.56	8	上部器 杯	床 1/2	口 12.4 幅 11.7	3.7 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回 PL.56	9	上部器 杯	床 3/4	口 12.1 幅 10.4 高 3.9	10.3 細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横円形を呈する。口縁部は横ナデ、稜下から底部 は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回	10	上部器 杯	床 1/3	口 12.8 幅 11.4	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回	11	上部器 杯	床 1/3	口 12.8 幅 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第42回	12	上部器 杯	床 1/3	口 12.8 幅 11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中位に段を作る。	有段口縁杯
第42回 PL.56	13	上部器 杯	床 2/3	口 13.1 幅 12.6	5.0 細砂粒/良好/明褐 色	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘ ラ削り。	杯蓋模倣
第42回	14	上部器 杯	床 1/4	口 13.2 幅 9.8	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中程に段を作る。内面は底部から口縁部にナダ。	有段口縁杯
第42回 PL.56	15	上部器 杯	床 3/4	口 13.2 幅 11.2	4.8 細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	内面黒色処理。口縁部は横ナデ。稜下から底部は手持ちヘ ラ削り。内面は口縁部に横方向。底から体部に放射状ヘラ ミガキ。	杯蓋模倣
第42回	16	上部器 杯	床 42cm	口 16.0 幅 15.4	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第42回	17	上部器 杯	床 8cm	口 15.6	細砂粒/良好/赤褐色	杯部は口縁部が横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

## 掲載遺物観察表

種類 No.	種類 No.	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42回 PL.56	18 跡	床下5cm 口縁部～体部片 上跡	□16.0 17.0	細砂粒/良好/明系 陶	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面は輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、底から底部は手持ちヘラ削り。	有孔跡か
第42回 PL.56	19 跡	床下23cm 口縁部～体部片	□18.8 12.8	細砂粒/良好/黄 灰	口縁部は横ナデ、底から底部は手持ちヘラ削り。内面は輪積み痕が残る。	杯蓋模倣
第42回 PL.56	20 頭部 杯底	理上 口縁部～天井部 片	□11.2 12.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り、口縁部に3~4条の凹穂を造る。	
第42回 PL.56	21 頭部 高杯蓋	床下49cm 1/2	□15.1 2.7	5.8 細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。継ぎ貼付。内面天井部はナデ。	
第42回 PL.56	22 頭部 杯身	床上47cm 口縁部～体部片	□1 9.8 10.6	細砂粒/還元焰/陶 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部から底部周縁は手持ちヘラ削り。	
第42回 PL.56	23 頭部 杯身	理上 口縁部～底部小 片	□1 13.0 14.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第42回 PL.56	24 頭部 梗	床上49cm 1/3	□12.8 6.7 5.6	6.7 細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部と底部周縁は手持ちヘラ削り。	
第43回 PL.56	25 頭部 高杯	理上 脚部下	□13.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚部は平坦面を作り、残存部上位に透孔が残る。透孔の下位に凹穂が造る。	
第43回 PL.56	26 頭部 高杯	理上 脚部下	□16.4	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第43回 PL.56	27 頭部 高杯	床上46cm 脚部下状部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第43回 PL.56	28 頭部 跡	床上5cm 1/3	□16.8 10.0 5.6	10.0 細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚部は上方に引き出している。底部は手持ちヘラ削り。内面底部に障が付着。	
第43回 PL.56	29 頭部 頭部	床上51cm 口縁部～脚部上 半片	□14.0 16.4	細砂粒/良好/根 白	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第43回 PL.56	30 頭部	理上 口縁部片	□16.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部下に断面三角形の凸部を作る。	
第43回 PL.56	31 頭部 小型置	上跡 口縁部～脚部上 半片	□16.3 15.9	細砂粒/良好/に赤 い赤	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への纏方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第43回 PL.56	32 頭部	理上 口縁部～脚部上 位片	□18.6	細砂粒/良好/に赤 い赤	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への纏方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第43回 PL.56	33 頭部	床上52cm 口縁部～脚部上 位片	□20.5	細砂粒/良好/に赤 い赤	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への纏方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第43回 PL.56	34 頭部	床面～床上27cm 口縁部～脚部上 位片	□20.4 17.4	17.6 細砂粒・粗砂粒/ 良好/に赤い赤	口縁部から頭部は横ナデ、脚部は纏方向へヘラ削り。内面は脚部に纏方向のヘラナデ。	
第43回 PL.56	35 頭部	床上60cm 口縁部～脚部上 位片	□21.6	細砂粒/良好/に赤 い赤	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への纏方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第43回 PL.56	36 頭部	床上27cm 口縁部～脚部上 位片	□21.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/に赤い赤	口縁部から頭部は横ナデ、脚部は下方から頭部への斜め方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第44回 PL.57	37 頭部	脚方 口縁部～脚部上 位片	□14.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/に赤い赤	内面脚部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への纏方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第44回 PL.57	38 頭部	床上33cm 口縁部～脚部上 位片	□16.0	細砂粒/良好/赤	口縁部から頭部は横ナデ、脚部はヘラ削り。器面摩滅のため単位不明。内面は脚部にヘラナデ。	
第44回 PL.57	39 頭部	筋破6cmから10 cm 口縁部～脚部上 位片	□18.6	細砂粒/良好/に赤 い黄	口縁部は横ナデ、脚部は纏方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第44回 PL.57	40 頭部	床上5cm 口縁部～脚部上 位片	□19.6 18.6	27.7 細砂粒・粗砂粒/ 良好/に赤い赤	口縁部は横ナデ、脚部は表面剥落のため不明。内面はヘラナデ。表面摩滅のため単位不明。	
第44回 PL.57	41 頭部	床面～床上4cm 口縁部～脚部上 位片	□20.0 17.2	25.3 細砂粒・粗砂粒/ 良好/根	内面脚部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、脚部は脚部下がナデ、上位下から下位はヘラ削り。内面はヘラナデ、大部分は表面摩滅のため単位不明。	
第44回 PL.57	42 頭部	床下5~20cm, 脚方 口縁部～脚部上 半片	□20.2 17.6	21.5 細砂粒・粗砂粒/ 良好/根	口縁部から頭部は横ナデ。脚部は斜め方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第44回 PL.57	43 鉄製品 不明	理上 脚方 口縁部～脚部上 位片	□3.5 0.6	厚 重	長方形の薄い鉄製品。端部に新しい欠けは見られないが、使用時とは違う形状の可能性が高い。	
第44回 PL.57	44 金具か 一部欠損	理上 脚方 口縁部～脚部上 位片	□2.8 0.5	厚 重	細い断面長方形の端が折り返され、折り返し部分は丸く作られる。片方の端部が欠損している。	
第44回 PL.57	45 脚部 脚部	床上59cm 完形	□3.5 3.0	厚 重	多くで劣化が見られる。光沢は残存していない。	
第44回 PL.57	46 粉状譜?	理上	□1.7 1.2	厚 重	色見は黒褐色～茶褐色、全面光沢が強い。単独出土したが、粉状譜として報告された金井道跡出土遺物に似る。	

## 掲載遺物観察表

## 15号窓穴建物

種 類 No. Pl.No.	種 類 種	出土位置 理上 杯部	出士位置 床面上6cm 脚部	計測値	胎土/燒成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第46回 PL.57	1 上飾器 高杯	理上 杯部	口 18.8	細砂粒/良好/にぶい黄緑	杯部は口脚部が横ナデ、口縁部から底部は横方向のヘラミガキ。内部は全面に横方向のヘラミガキ。		
第46回 PL.57	2 上飾器 高杯	床上6cm 脚部	脚 12.8	細砂粒/良好/相	杯部と脚部は貼付。脚部は外周に底方内へラミガキ。内部に横方向のハケメ(1cm当たり7本)。脚部上位には3方に透孔。		
第46回 PL.57	3 上飾器 高台	床面 ほぼ完形	口 8.8 高 脚 11.7	8.7 細砂粒/良好/にぶい黄緑	受部と脚部の貼付方法不明。受部から脚部は底方内へラミガキ。脚部はヘラナデか、表面磨滅のため単位不明。脚部には3方に2段の透孔。		
第46回	4 上飾器 高台	脚部 受付部	口 7.6	細砂粒/良好/相	受部は外側ともヘラミガキ。		
第46回 PL.57	5 上飾器 高杯	床上14cm～25cm 脚部	脚 14.7	細砂粒/良好/相	外面は表面磨滅のため整形不明。内部はハケメ(1cm当たり6本)。脚部上位には4方に透孔。		
第46回	6 上飾器 高杯	床上47cm 脚部	脚 13.4	細砂粒(長石)/選 元基/灰	ロクロ整形。回転は右回り。口脚部は平坦を作り、上端を上方に引き出している。脚部は上位に凹縫が巡る。柱状部に透孔を3方に穿つ。		

## 16号窓穴建物

第49回 PL.58	1 上飾器 杯	床面～床下20cm 理上 杯部～底部片	口 11.4 脚 10.6	細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部の歪みが大きい。	杯底模倣
第49回	2 上飾器 杯	理上 1/4	口 11.8 高 3.1	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部の歪みが大きい。	杯底模倣
第49回 PL.58	3 上飾器 杯	床上45cm 1/3	口 11.8 高 11.6	3.3 細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯底模倣
第49回	4 上飾器 杯	理上 1/4	口 12.2 高 11.0	3.6 細砂粒/良好/相	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯底模倣
第49回 PL.58	5 上飾器 杯	床上31cm 1/2	口 12.4 高 10.3	4.1 細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内部は口縁部に凹縫を残す。	杯底模倣
第49回	6 上飾器 杯	脚部 1/4	口 12.8 高 11.0	4.1 細砂粒/良好/にぶい黄緑	内部黑色處理。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内部は口縁部に凹縫が巡る。	有段口縁杯
第49回 PL.58	7 上飾器 杯	脚部 1/3	口 12.8 高 11.6	5.0 細砂粒/良好/相	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯底模倣
第49回 PL.58	8 上飾器 杯	床面 3/4	口 12.8 高 11.2	4.2 細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。器部の歪みのため単位不明。内部は底部から体部に放射状、口縁部に2～3条のヘラミガキ。	杯底模倣
第49回 PL.58	9 上飾器 高杯	床面 杯部	口 14.0 脚 10.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄緑	杯部は口縁部が横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第49回 PL.58	10 上飾器 高杯	床下5cm 脚部	口 16.2 脚 10.4	細砂粒/良好/にぶい黄緑	杯部は口縁部が横ナデ。稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第49回 PL.58	11 上飾器 高杯	床下5cm 杯部～脚部上位 脚	口 13.8 高 9.7	細砂粒/良好/相	脚部は貼付。杯部は口縁部が横ナデ、稜下から底部はナデ。	
第49回 PL.58	12 重頭器 杯蓋	床上28cm 1/4	口 10.8 高 10.5	4.7 細砂粒/選元塗/黃 灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内部は天井部にナデ。	
第49回 PL.58	13 重頭器 杯蓋	床上4cm 完形	口 10.8 高 3.5	細砂粒/選元塗/黃 灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内部は天井部にナデ。	
第49回	14 重頭器 杯身	理上 口縁部～底部片	口 10.6 基 11.6	細砂粒/選元塗/灰 黄緑	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第49回	15 重頭器 杯身	脚部 口縁部～底部片	口 14.0	細砂粒・選/選元 塗/灰黄緑	ロクロ整形。回転は右回り。	
第49回	16 重頭器 盤	理上 口縁部片	口 18.2	細砂粒・粗砂粒/ 般/般/般/黃	ロクロ整形。回転は右回り。口縁端部は平坦面を作る。	同図17と同様か
第49回 PL.58	17 重頭器 盤	理上 1/4	口 19.4 高 10.0	4.4 細砂粒・粗砂粒/ 般/般/般/にぶい黃	端部は凹縫を用いる。	大型品蓋か
第49回 PL.58	18 重頭器 盤	理上 口縁部	口 10.2 脚 13.7	細砂粒/選元塗/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。脚部上位に凹縫を残し、その上下に蓋状文を施す。	
第49回	19 重頭器 盤	床上6cm 脚部	脚 22.3	細砂粒・粗砂粒/ 選元塗/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。脚部は上位が回転ヘラナデ、中位から下位は回転ヘラ削り。	
第49回	20 上飾器 盤	床上4cm 口縁部～脚部上 位片	口 20.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄緑	口縁部は横ナデ、脚部は下方から颈部への縦方向へラ削り。内部は脚部にヘラナデ。	
第50回 PL.58	21 上飾器 盤	床上14cm～ 25cm 口縁部～脚部上 位片	口 22.2	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/相	口縁部は横ナデ、脚部は下方から颈部への縦方向へラ削り。内部は脚部にヘラナデ。	
第50回 PL.58	22 上飾器 盤	床上11cm 口縁部～脚部上 位片	口 19.8 脚 19.5	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/相	外面頂部に輪積み竪が残る。口縁部は横ナデ、脚部は下方から颈部への縦方向へラ削り。内部は脚部にヘラナデ。	
第50回 PL.58	23 上飾器 盤	床上6～11cm 3/4	口 22.3 底 脚 19.0 高	4.3 細砂粒・粗砂粒/ 良好/相	口縁部の下部は横ナデ。脚部は上位から中位が下方から颈部への縦方向へラ削り。内部は脚部から颈部にヘラナデ。	
第50回 PL.59	24 上飾器 盤	床上11cm 3/4	口 21.0 底 脚 18.1 高	6.0 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部の下部は横ナデ。脚部もヘラ削り。内部は底部から颈部にヘラナデ。口縁部の歪みが大きい。	

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51回 PL.59	25	土師器 甕	理上 口縁部～胴部上 位片	口 15.8 幅 15.8	細砂粒/良好/明赤 陶	口縁部は横ナデ、胴部は下方から頭部への縱方向へラ削り。 内面は胴部にヘラナデ。
第51回 PL.59	26	土師器 甕	床±1cm 口縁部～胴部上 位片	口 16.8 幅 16.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部は下方から頭部への縱方向へラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第51回 PL.59	27	土師器 甕	床±1cm 口縁部～胴部上 位片	口 18.6 幅 20.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/稍	口縁部は横ナデ、胴部は下方から頭部への縱方向へラ削り。 内面は胴部下位は濃面剥離のため单面で、内面は胴部にヘラナデ。
第51回 PL.59	28	石製鍤	床上7cm	長 11.3 幅 5.7 重 339.6	厚 3.8 幅 5.7 重 339.6	掌サクイソリひと回り小さい指円錐。小口部両端の敲打痕 には風化の差がありそうであるが、打痕に集中性ではなく、 半周的な黒ずみでいることから、使用歴認定は難しい。 敲石?
第51回 PL.59	29	石製鍤	床上7cm	長 12.7 幅 6.7 重 644.4	厚 5.1 幅 6.7 重 644.4	掌サクイソリの指円錐。上端側小口部に敲打痕、下端側小口部 に敲打・摩耗跡がある。敲打痕には風化の差、打痕の集中性 が有り、人為的。
第51回 PL.59	30	石製鍤	床上6cm	長 15.1 幅 6.2 重 595.3	厚 4.9 幅 6.2 重 595.3	掌サクイソリの柱状錐。上端側両側面に敲打痕が集中、下端側 隣接部にも明らかな敲打痕がある。
第51回 PL.59	31	石製模造品	理上	長 (2.1) 幅 (1.9)	厚 (0.9) 重 3.0	上面は光面を帯び前、研磨面がある。体部には塑形痕が残 り、疊み作り。孔径は 3mm ほど。下面部は光沢を失く。形 状は対称性を欠く。
PL.59	32	石製鍤	床上6cm	長 12.0 幅 5.6 重 307.0	厚 2.7 幅 5.6 重 307.0	自然鑿。掌サクイソリやや小型の扁平錐。錐の表面が摩 耗、斜面や側線に摩耗面に埋められた自然鉛痕が見られ る。
PL.59	33	石製鍤	床上9cm	長 12.6 幅 5.6 重 489.9	厚 4.8 幅 5.6 重 489.9	掌サクイソリの柱状錐。錐部が新鮮である以外は黒ずんでい る。
PL.59	34	石製鍤	床上5cm	長 13.2 幅 5.3 重 432.6	厚 5.6 幅 5.3 重 432.6	自然鑿。柱状に近い三角錐。打痕等使用痕は見られない。
PL.59	35	石製鍤	床上5cm	長 13.8 幅 7.1 重 529.5	厚 4.2 幅 7.1 重 529.5	自然鑿。掌サクイソリの偏平板状錐。裏面側を除いて裏面は黒 ずむ。
PL.59	36	石製鍤	床上7cm	長 14.6 幅 4.9 重 531.1	厚 5.3 幅 4.9 重 531.1	自然鑿。掌サクイソリやや小型の柱状錐。打痕等使用痕は 見られない。

## 17号堅穴建物

第54回 PL.59	1	土師器 杯	床上8cm 3/4	口 11.2 幅 9.9 重 3.9	高 3.9 細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中程に段を作れる。
第54回 PL.59	2	土師器 杯	理上 口縁部～底部片	口 11.6 幅 9.7	高 4.1 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.59	3	土師器 杯	床±1cm ほぼ定形	口 11.6 幅 10.8	高 4.1 細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.59	4	土師器 杯	床±3～12cm 完形	口 11.7 幅 10.8	高 3.8 細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.59	5	土師器 杯	床面 完形	口 11.8 幅 9.5	高 4.2 細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.59	6	土師器 杯	床面～床上8cm 4/5	口 11.4 幅 9.8	高 3.8 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中程に段を作れる。
第54回 PL.59	7	土師器 杯	床上8cm ほぼ定形	口 12.0 幅 12.8	高 4.4 細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面口 縁部に浅い凹溝が巡る。
第54回 PL.60	8	土師器 杯	床面～床上14cm 完形	口 11.9 幅 10.6	高 4.4 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.60	9	土師器 杯	床面～床上10cm 完形	口 11.9 幅 10.2	高 4.2 細砂粒/良好/明赤 陶	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 上位に凹溝を巡ら。
第54回 PL.60	10	土師器 杯	床上4cm 1/2	口 13.0 幅 12.1 重 4.5	高 9.0 細砂粒/良好/浅黄 陶	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。器面摩 減のため単位不明。口縁は格形形状を呈する。
第54回 PL.60	11	土師器 杯	床面～床上5cm 4/5	口 12.1 幅 10.4	高 4.5 細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中程に段を作れる。
第54回 PL.60	12	土師器 杯	床上9cm 1/3	口 12.8 幅 12.4	高 5.2 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.60	13	土師器 杯	床上±11cm 3/4	口 12.1 幅 11.8	高 4.6 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第54回 PL.60	14	土師器 杯	床±5～9cm 3/4	口 13.0 幅 11.3	高 4.2 細砂粒/良好/浅黄 陶	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中程に段を作れる。内外面とも焼成が、二次焼成を受け 有段口縁杯
第54回 PL.60	15	土師器 杯	床面 完形	口 12.7 幅 10.5	高 4.5 細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黃褐色	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中程に段を作れる。外縁は焼成、内面に黒斑が付着。
第54回 PL.60	16	土師器 杯	床上20cm 3/4	口 13.1 幅 13.3	高 4.7 細砂粒/良好/灰黃 陶	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削りか、器面 摩減のため単位不明。内面は底部から体部にヘラミガキ。
第54回 PL.60	17	土師器 杯	床上8cm 3/4	口 13.8 幅 8.8	高 4.1 細砂粒/良好/橙	内面黒斑が付着。口縁部は横ナデ。口縁部から体部にヘラ ミガキ。
第54回 PL.60	18	土師器 碗	床面 3/4	口 10.5 底 5.5	高 6.5 細砂粒/良好/にぶ い黄	内面黒斑が付着。口縁部は横ナデ。口縁部から体部にヘラ ミガキ。

掲載遺物観察表

種類 No.	種類 No.	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
PL.60	19	上飾器 床面 3/4	床面～床上9cm 13.4	11.5高 7.8粗砂粒/良好/にふい網	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部に2条の線を作る。	有段口縁挽	
PL.60	20	上飾器 高杯 杯身 3/4	床面13cm 11.6	13.6高 7.8粗砂粒/良好/明赤 網	脚部は貼付、貼付状態不明。杯部は口縁部が横ナデ。綾下はヘラ削り。脚部は上半からヘラ削り、底部は横ナデ。内面は脚部に黑色處理、ヘラナデ。		
PL.60	21	上飾器 鉢 鉢身	床面138cm 口縁部～体部片	20.4	粗砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤網	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面は体部にヘラナデ。	
PL.60	22	上飾器 鉢 有孔鉢 一部欠損	床面 12.0 4.6孔 2.4	20.0高 12.0 粗砂粒/良好/橙 網	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラ削り。		
PL.60	23	頭部器 床面～床上7cm 蓋 透受	10.9高 12.1	3.3粗砂粒・粗砂粒/ 透元/灰	ロクロ形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。		
PL.60	24	頭部器 鉢 ほぼ完形	床面1.4～15cm 5.6	12.8高 5.6 粗砂粒・粗砂粒/ 透元/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。体部から口縁部は査みで正面形態が横円形を呈す。		
PL.60	25	頭部器 鉢(帶鉢) 底部～体部下位	床面 9.0	粗砂粒・醸化端/ 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は周間に粘土帶を貼付、手持ちヘラ削り。		
PL.60	26	頭部器 床面～床上13cm ほぼ完形	10.4高 11.2	4.9粗砂粒・粗砂粒/ 透元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回らヘラ削り。口縁部は査みが大きい。		
PL.60	27	上飾器 床面12cm 口縁部～脚部片 13.1	11.6厚 14.0	粗砂粒/良好/橙 網	口縁部の下部は横ナデ、脚部は手持ちヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。		
PL.60	28	上飾器 鉢 完全形	12.8厚 13.6高 12.5良好/にふい赤網	16.0粗砂粒・粗砂粒/ 網	口縁部の下部は横ナデ、脚部から底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
PL.61	29	上飾器 鉢 ほぼ完形	床面 11.0高 11.6厚	9.6厚 18.4 粗砂粒/良好/橙 網	口縁部の下部は横ナデ、脚部から底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。脚部中位にスカート状帶に付着。		
PL.60	30	頭部器 鉢 透受直	床面 11.2厚 13.0高	6.0粗砂粒・粗砂粒/ 透元/灰	ロクロ形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。脚部下位は回らヘラ削り。		
PL.60	31	上飾器 床面13cm 小型翼 半片	14.2 14.3	粗砂粒(片 岩)/良好/にふい 網	口縁部は横ナデ、脚部は査方へヘラ削り。内面は底部にヘラナデ。		
PL.61	32	上飾器 床面 3/4	13.6厚 12.5高	12.8粗砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい赤網	口縁部は横ナデ、脚部から底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
PL.61	33	上飾器 床面13cm 口縁部～脚部上 半片	21.4	粗砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にふい 網	口縁部は横ナデ、脚部は下方から頭部への縱方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。		
PL.60	34	上飾器 翼 脚部 片面	13.1厚 12.4厚	粗砂粒/良好/橙	口縁部から頭部は横ナデ、脚部は下方から頭部への縱方向へヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。		
PL.61	35	石製縫	床面 長 幅	12.3厚 7.5重 578.9	4.3 粗粒輝石安山岩 578.9	ササイズの偏平縫。小口部脚部が敲打されているように見える。打痕を複数摩耗があるなど、使用痕認定は微妙。 被熱して保ける。	敲石?
PL.61	36	石製縫	床上7cm 長 幅	11.8厚 7.1重 764.8	6.5 粗粒輝石安山岩 764.8	自然縫。草ササイズの横円縫。粗粒石材で使用痕の認定は難しい。	
PL.61	37	石製縫	床面 長 幅	12.2厚 5.8重 575.3	5.2 粗粒輝石安山岩 575.3	自然縫。草ササイズの棒状横円縫。被熱して保ける。	
PL.61	38	石製縫	床面 長 幅	12.3厚 8.8重 542.8	3.5 粗粒輝石安山岩 542.8	自然縫。偏平縫。上端側小口部に打痕が見られるが、集中性に欠け使用痕認定から外した。被熱して保ける。	
PL.61	39	石製縫	床面 長 幅	12.3厚 6.0重 603.0	5.1 粗粒輝石安山岩 603.0	自然縫。草ササイズの柱状縫。全面被熱して保ける。明瞭な打痕等は見られない。	
PL.61	40	石製縫	床面 長 幅	12.4厚 6.2重 573.3	5.0 粗粒輝石安山岩 573.3	自然縫。草ササイズの横円縫。小口部の片肩様縫跡は摩耗面に覆われる。被熱して保ける。	
PL.61	41	石製縫	床面 長 幅	12.4厚 7.2重 548.0	4.3 粗粒輝石安山岩 548.0	自然縫。小口部その他の直直様縫跡は摩耗面に覆われて不明瞭。被熱して保ける。	
PL.61	42	石製縫	床面 長 幅	12.5厚 6.5重 592.5	3.6 粗粒輝石安山岩 592.5	自然縫。草ササイズ、別れた偏平横円縫が円錐化したもの。小口部や脚部に直直様縫跡があり、これを摩耗面に覆う。	
PL.61	43	石製縫	床上4cm 長 幅	12.6厚 7.2重 595.9	6.5 粗粒輝石安山岩 595.9	自然縫。草ササイズやや大きめの横円縫。縫面は均質に摩耗。明瞭な使用痕は見られない。	
PL.61	44	石製縫	床面 長 幅	12.6厚 7.0重 613.2	4.5 粗粒輝石安山岩 613.2	自然縫。草ササイズの偏平横円縫。小口部は剥離しているが、打痕の跡は見られない。被熱して保ける。	
PL.61	45	石製縫	床面 長 幅	12.7厚 6.9重 422.4	3.8 粗粒輝石安山岩 422.4	自然縫。別れた偏平横円縫が川字彫で円錐化したもので、明瞭な打痕は見られない。被熱して保ける。	
PL.61	46	石製縫	床面 長 幅	12.8厚 5.1重 524.6	4.6 粗粒輝石安山岩 524.6	自然縫。草ササイズの柱状横縫。明瞭な打痕等は見られない。被熱して保ける。	
PL.61	47	石製縫	床面 長 幅	12.8厚 7.6重 545.7	3.2 粗粒輝石安山岩 545.7	自然縫。草ササイズの偏平縫。縫跡は剥離しているが、打痕等は摩耗面に覆われて不明瞭。被熱して、裏面無がむかに保ける。	
PL.61	48	石製縫	床面 長 幅	12.8厚 7.8重 745.9	4.8 粗粒輝石安山岩 745.9	自然縫。草ササイズの偏平横円縫。小口部分や側縫には打痕跡等は摩耗面に覆われる。小口部の摩耗差はない。	
PL.61	49	石製縫	床面 長 幅	13.2厚 7.5重 579.2	4.0 粗粒輝石安山岩 579.2	自然縫。草ササイズの偏平横円縫。全面摩耗。広い裏面と側縫、小口部の摩耗差はない。	
PL.61	50	石製縫	床面 長 幅	13.3厚 7.9重 785.8	4.6 粗粒輝石安山岩 785.8	自然縫。草ササイズの偏平横円縫。小口部の打痕は摩耗面の覆われる。平坦な縫面の摩耗度の有無は判断が難しい。	
PL.61	51	石製縫	床面 長 幅	13.3厚 6.4重 780.7	5.9 粗粒輝石安山岩 780.7	自然縫。草ササイズの柱状縫。全面被熱して保ける。明瞭な打痕等は見られない。	
PL.61	52	石製縫	床面 長 幅	13.9厚 7.4重 761.9	4.4 粗粒輝石安山岩 761.9	自然縫。草ササイズの棒状縫。断面三角形状を呈す。小口部や側縫に剥離して縫跡は新鮮だが、打痕は摩耗面に覆われる。	

掲載遺物観察表

種類 器種 PL.No.	種類 器種 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.61	53	石製鉢	床面 長幅 7.7	14.0厚 4.7 755.2	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サイズよりやや大型の偏平灑。小口部の打痕跡は摩耗しており、使用直は認め難い。被熱して焼けた。
PL.61	54	石製鉢	床面 長幅 6.5	14.9厚 4.3 488	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サイズよりやや大型の偏平灑。小口部の打痕跡は焼成物の抜けた跡。裏面側の全面が被熱して焼けた。

## 18号堅穴建物

PL.62	1	土師器 杯	床面 1/4	口 幅 12.6 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	模倣杯(身・蓋かは不确定)
PL.62	2	土師器 杯	埋上 口縁部～底部片	口 幅 12.0 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
PL.62	3	土師器 鉢	床・4cm 口縁部～体部片	口 幅 20.6	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部に横ナダ。	
PL.62	4	須恵器 杯身	床面 口縁部～底部片	口 幅 9.0高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	クロコ整形、回転は右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	奈文杯柄G
PL.62	5	土師器 瓶	埋方 口縁部～胴部上 片位	口 幅 16.4	細砂粒(褐色色)/ 良好/にこ赤褐色	口縁部は横ナデ、側面はハケメ(1cm当たり8本)。胴部は瓶底部から下方へ向けての縱方向ヘラ削り。内面は瓶部から側面に横ナダ。	
PL.62	6	土師器 瓶	床・7cm 口縁部～胴部上 片位	口 幅 19.4	細砂粒/粗砂粒(片 岩)/良好/にこ赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は下方から瓶底への縱方向ヘラ削り。内面は胴部に横ナダ。	
PL.62	7	土師器 瓶	床面 口縁部～胴部上 半片	口 幅 21.0 19.0	細砂粒/粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、削則は瓶部から下方へ向けての縱方向ヘラ削り。内面は瓶部に横ナダ。	
PL.62	8	土師器 瓶	床・10cm 口縁部～瓶部片	口 幅 18.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、僅かに胴部が残るが成形はヘラ削りか。	
PL.62	9	須恵器 瓶	床面 口縁部片	口 幅 22.2	細砂粒/還元焰/灰	クロコ整形、回転は右回り。口縁部は上下に引き出されている。口外部と口内部に複数の状文が施されている。	
PL.62	10	石製鉢	床面 長幅 7.9	12.4厚 7.9 708.8	粗粒輝石安山岩	掌サインの横円灑。小口部専用や側縁部に打痕・摩耗痕を認めているが、単純な痕跡は避ける觀點から明確な使用痕を絞れず。上端面側縁部に打痕が使用感として妥当。	敲石
PL.62	11	石製鉢	床上9cm 長幅 6.8	12.2厚 5.7 651.1	粗粒輝石安山岩	掌サインの横円灑。断面三角形状を呈し、広い平面部が黒ずんでいた状態は本格的な姿であり、襷接縫や小口部の打痕部も隠れています。見た目は良品な印象です。	敲石?
PL.62	12	石製鉢	床面 幅 7.9	16.1厚 7.52	粗粒輝石安山岩	掌の上端面小口部に研磨痕が近い摩耗痕がある。掌サインの偏平灑を用いる。	磨石
PL.62	13	石製鉢	床上4cm 長幅 8.2	12.5厚 5.2 746.9	粗粒輝石安山岩	掌サインの横円灑。表面および右辺に尖突部があり摩耗する。小口部には若干干の痕がみられます。	磨石
PL.62	14	石製鉢	床面 幅 8.1	13.7厚 5.4 930.6	粗粒輝石安山岩	模擬手形門柱。小口部および側縁部に打痕・摩耗痕がある。難易度の高い状態は本格的な姿であり、襷接縫や小口部の打痕部も隠れています。見た目は良品な印象です。	磨石?
PL.62	15	石製鉢	床上5cm 長幅 6.7	13.9厚 5.6 757.1	粗粒輝石安山岩	掌サインの横棒彫。平坦な表面は黒ずみ、襷接縫が新鮮に見えるのは、隠れが付まっているためで、裏面はほとんど無い。使用痕は下端側小口部の打痕のほか。	敲石
PL.62	16	石製鉢	床面 長幅 7.1	14.5厚 5.7 889.3	粗粒輝石安山岩	柱状窓の内部を削る。下端側小口部は打痕され、これに伴うう端部も生じているが、剥離面も摩耗しており、通常使用によるものとは考え難い。	敲石?
PL.62	17	玉	床上9cm 長幅 8.3	孔 径 1.4 厚 0.6 滑石 0.3	高 0.8 重 2.4	上下とも粗い線条痕、体部には弱い研磨痕と整形痕(切断痕?)が残る。孔径は2.5mm程度。難易度作り。	
PL.62	18	石製鉢	床上5cm 長幅 7.5	11.5厚 5.0 611.7	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サインの横円灑、断面三角形状を呈す。小口部に全面摩耗した打痕様痕跡がある。	
PL.62	19	石製鉢	床上6cm 長幅 7.7	12.1厚 6.0 785.1	粗粒輝石安山岩	自然灑。柱状窓の襷接縫に打痕様痕跡が著しい。	
PL.62	20	石製鉢	床上7cm 長幅 6.8	12.8厚 5.3 668.0	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サイン。別れた横内溝が川字接合円溝化した。	
PL.62	21	石製鉢	床上7cm 長幅 6.9	13.0厚 5.5 644.5	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サインの横円灑。小口部の打痕は均一に摩耗、使用痕から外した。	
PL.62	22	石製鉢	床面 幅 7.6	13.3厚 4.3 568.7	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サインの横円灑、右辺側は節理面で、左辺側は大抵、襷接縫の打痕様痕跡は摩耗面に隠れる。	
PL.62	23	石製鉢	床面 長幅 5.9	13.7厚 4.5 475.4	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サインの横状縦溝で断面三角形状。表面が黒ずみ襷接縫が隠れる状態にある。小口部打痕は摩耗面が覆う。	
PL.62	24	石製鉢	床上5cm 長幅 8.5	14.2厚 4.9 810.0	粗粒輝石安山岩	自然灑。掌サインよりやや大きい。襷接縫はくの字状に曲がる。小口部や襷接縫はでききどころにある。	

## 19号堅穴建物

PL.63	1	縄文土器 深碗	床上24cm 口縁～胴部1/3	口 幅 21.0	粗砂、白色粒/良好	4單列斜口底で、1対は頂部下に円形の透かしを施す。縁帶による口縁部唇沿文、梢円状区画を施し、丸彫文を充填施文。脣部は沈縫による懸垂文を施し、丸彫文を充填施文。軸捻形を施す。	加曾利E 3式
PL.63	2	縄文土器 深碗	埋上 口縁部破片	口 幅 12.7	粗砂、砾石/ふつう	沈縫による梢円状文を施し、縦彫文を充填施文する。	加曾利E 3式
PL.63	3	縄文土器 深碗	床上8cm 口縁部破片	口 幅 12.8	粗砂、白色粒/良好	波状口縁。縁帶による口縁部唇沿円状区画、沈縫による脣部横彫文を施す。	加曾利E 3式
PL.63	4	縄文土器 深碗	床上4cm 口縁部破片	口 幅 12.4	粗砂、細織、砾石/良好/	波状口縁。縁帶による口縁部唇沿文、梢円状区画、沈縫による脣部横彫文を施し、条彫文を充填施文する。	加曾利E 3式

掲載遺物観察表

持 No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 材石・素材等	成形・整形の特徴	備 考
PL.63	5 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	隙帶による口縁部横円状区画を施し、LR縦文を充填施す。	加曾利 E 3式
PL.63	6 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/良好	突起を付す波状口縁、隙帶による口縁部横巻文を施す。	加曾利 E 3式
PL.63	7 深鉢	床下28cm 制底部片		粗砂、白色粒/ふつう	口縁部横巻文。以下、隙帶による横円状区画を施し、LR縦文を充填施す。	加曾利 E 3式
PL.63	8 深鉢	床下18cm 制底部片		粗砂/ふつう/	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施す。蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式
PL.63	9 深鉢	床下14cm 制底部片		粗砂、輝石/ふつう/	隙帶による口縁部横円状区画、沈線による胸部懸垂文を施す。	加曾利 E 3式
PL.63	10 深鉢	床下14cm 制底部片		粗砂、白色粒/良好	隙帶による口縁部横円状区画、沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を充填施す。	加曾利 E 3式
PL.63	11 深鉢	床下12cm 制底部片		粗砂/良好/	沈線による胸部横巻文を施し、LR縦文を縦位充填施す。間にワリビ状横巻文を施す。	加曾利 E 3式
PL.63	12 深鉢	床下15cm 制底部片		粗砂、白色粒/ふつう/	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施す。蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式
PL.63	13 深鉢	理上 制底部破片		粗砂/ふつう/	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施す。	加曾利 E 3式
PL.63	14 深鉢	理上 制底部片		粗砂/良好/	沈線による胸部横巻文を施し、LR縦文を縦位充填施す。	加曾利 E 3式
PL.64	15 深鉢	理上 制底部片		粗砂/ふつう/	沈線による胸部懸垂文を施し、条線を縦位充填施す。蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式
PL.64	16 深鉢	理上 制底部破片		粗砂、赤色粒/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、条線を縦位充填施す。	加曾利 E 3式
PL.64	17 深鉢	床下24cm 底	(17.6)	細砂/良好/	胸部に格子状の透かしを施す。周縁に沈線を沿わせる。	加曾利 E 3式
PL.64	18 砕石 瓦片	床下22cm 制底部片		粗砂、白色粒、赤色/良好/	底部下に隙帶による渦巻文、横円状区画を施し、LR縦文を充填施す。以下、乳頭を縦位全面施す。	加曾利 E 3式
PL.64	19 打製石斧	床面	長10.0厚 4.5重	1.8 83.7	細粒輝石安山岩	短形態、完成形態、表面側に刃部摩耗するほか、右側縫に裏面側刃部は再生され、摩耗は見んでいない。
PL.64	20 打製石斧	理上	長(10.4)厚 4.8重	1.8 99.5	黑色頁岩	短形態、完成形態、刃部再生され、刃部摩耗は刃部先端と裏面のみに残る。裏面側中央付近に側削痕。上端部欠損は使用中。
PL.64	21 打製石斧	理上	長8.1厚 3.8重	1.8 35.2	細粒輝石安山岩	形態? 側削痕は直線的に開き気味で「ハ」の字状を呈する。右辺エッジが摩耗する。薄手で、周辺加工して器形を作っている。小形刃先を用いる。
PL.64	22 打製石斧	理上	長(1.4)厚 (2.5)重	(0.6) 13.7	黑色頁岩	裏面には打製石斧の調整跡。器体中央付近に広がる摩耗痕を切り、側縫削離が行われる。右辺側削離時に破损したことがある。
PL.64	23 石核	床面	長4.3厚 5.9重	5.1 137	黑色頁岩	小形規則的削痕を剥離したものの。石核左辺を除く各々に作業面を持つ。剥離は上端の広い側縫面に固定、調整は見られない。齊字状を呈す。

## 20号窓穴建物

PL.64	1 横文土器	床面 底部破片	底(8.0)	粗砂、白色粒/良好/	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施す。蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式
PL.64	2 調整剣片	床面	長(4.0)厚 (8.5)重	1.5 49.0	細粒輝石安山岩	両端に打製石斧の跡に見られる特有の加工や摩耗があり、これらは復元した石斧は上端側が先端の指形に近い形状が想定できる。上端側が石斧左辺に相当する。

## 23号窓穴建物

PL.64	1 上飾器 杯	床下23cm 口縁部～底部片	口13.6 底12.6	細砂粒/良好/根	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第62回	2 高杯	理上 杯部分	口13.8	細砂粒/良好/根	杯内部は墨色凧尾。口縁部は横ナデ。稜下はヘラ削り。内面にはヘラミガキ。	
第62回	3 沈器器 杯	床下5cm ほぼ完形	口11.9 高4.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・赤灰	ロクロ形態、回転は右回り。天井部は右回転ヘラ削り。	
第62回	4 頭頂器 高杯	理上 脚部下位片	脚15.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形態、回転は右回り。脚部下位に凸状の凸線を作り、端部や上に凹線が巡る。	
第62回	5 上飾器 高杯	床下27cm 口縁部～制部上 位片	口14.4	細砂粒/良好/赤灰	口縁部から腹部は横ナデ、制部はヘラ削り。内面は脚部から制部へヘラ削り。	

## 24号窓穴建物

第64回	1 手押ね(鉢) 杯	床下29cm 完形	口6.0高 3.2	3.1 細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、体部は縱方向ヘラナデ、底部もヘラナデ。内面は底部から体部へヘラナデ。	
第64回	2 上飾器	理上 口縁部～体部片	口13.8	細砂粒/良好/根	内外面とも横方向ヘラミガキ。	
第64回	3 上飾器 杯	理上 口縁部～体部片	口17.8	細砂粒/良好/根	内外面とも横方向ヘラミガキ。	
第64回	4 高杯	杯部分	口20.8	細砂粒/良好/明褐色	杯部は内外面ともヘラミガキ。	
第64回	5 上飾器 高杯	理上 脚部片	脚14.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	脚部は上半が縱方向、下半が横方向のヘラミガキ。内面はヘラナデ。3方に円形透孔を穿つ。端部は面を作る。	



掲載遺物観察表

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第64回 PL.64	6	上飾器 高杯	理上 脚部下平片	脚 17.8	細砂粒/良好/灰 黄	外面は放射状へラミガキ、内面はヘラナデ。口唇端部は平坦面を作る。	
第64回 PL.64	7	上飾器 高杯	床±17cm 杯底部~脚部 上位片		細砂粒/良好/橙	杯部内外面と脚部外面はへラミガキ、脚部内面はヘラナデ。脚部上位に円形透孔を3方に穿つ。	
第64回 PL.64	8	上飾器 酒台	床±6cm 脚部上平		細砂粒/良好/褐	受部は脚部に貼付するように作られている。脚部は外面が縱方向へラミガキ、内面はヘラナデ。脚部に円形透孔を3方に穿つ。底部穿孔径1.6cm。	
第64回 PL.64	9	上飾器 酒台	理上 受部下平~脚部 上平		細砂粒/良好/明赤 褐	受部内面と脚部外面はへラミガキ、脚部内面はヘラナデ。受部体部と脚部に円形透孔を3方に穿つ。底部穿孔径1.5cm。	
第64回 PL.64	10	上飾器 脚	床上29cm 1/3	口 13.6高 4.2	6.2 細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部から体部はハケメ後へラミガキ、底部もへラミガキ。内面は底部から口縁部にへラミガキ。口縁部内側に輪状の突起をつくる。	
第64回 PL.64	11	上飾器 脚	理上 1/4	口 13.8高 4.2	5.6 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、口縁部から体部はハケメ後へラミガキ、底部もへラミガキ。内面はへラミガキが施されているが、器面が堅めており部位不鮮明。	
第64回 PL.64	12	上飾器 脚	床上21cm 1/3	口 16.6高 5.7	5.7 細砂粒/良好/明黄 褐	内外面とも器面摩滅のため整体不明。	
第64回 PL.64	13	上飾器 脚	床±15~52cm 口縁部~体片部	口 19.9	細砂粒/良好/ぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、脚部下はナデ。体部上にはヘラナデとヘラ削り。内面は体部にヘラナデ。口縁部はS字状を呈す。	
第64回 PL.64	14	上飾器 脚	理上 1/4	口 14.0高 4.0	6.9 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はへラミガキ。内面は底部から体部へラミガキ。	
第64回	15	上飾器 脚	口縁部片	口 26.6	細砂粒/良好/橙	内外面とも横方向へラミガキ。口縁部は二重口縁を呈す。	
第64回	16	上飾器 脚	瓶方 脚部~脚部上 脚片	口 9.0	細砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。脚部は外面がへラミガキ、内面はヘラナデ。	
第64回	17	上飾器 台付壺	理上 口縁部~脚部上 脚片	口 17.8	細砂粒/良好/灰 黄褐	口縁部は横ナデ、脚部は縱方向のハケメ(1cm当たり6本)後上位中段に横方向のハケメ。内面は脚部にナデ。	
第64回	18	上飾器 台付壺	理上 台脚片	口 9.8	細砂粒/良好/ぶ い黄褐	台部端部は内側に折り返し。外側は一部にハケメ(1cm当たり5~6本)、内面はナデ。	
25号窓穴建物							
第66回 PL.65	1	上飾器 杯	理上 1/2	口 12.6高 10.5	4.0 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへラ削り、体部は器面摩滅のため單面不明。口縁部に段を作る。	有段口縫
第66回 PL.65	2	上飾器 杯	理上 口縁部~底部片	口 13.0 13.8	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへラ削り。	杯身模倣
第66回 PL.65	3	上飾器 杯	理上 口縁部~稜片	口 14.7 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下は手持ちへラ削り。	杯蓋模倣
第66回 PL.65	4	須恵器 胸脚部片	床面		細砂粒/還元焰/灰 白	叩き締め成形。外面には平行叩き痕。内面には同心円状ア ズキ痕が残る。	
第66回 PL.65	5	上飾器 鏡	理上 口縁部~脚部上 脚片	口 24.9	細砂粒/良好/ぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、制部はへラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第66回 PL.65	6	須恵器 鏡	床上15cm 脚部下位片		細砂粒/還元焰/灰 白	叩き締め成形。外面には平行叩き痕。内面には同心円状ア ズキ痕が残る。	
第66回 PL.65	7	磨石?	床面 長幅	11.1厚 6.4 8.8重 80.3	6.4 粗粒輝石安山岩 60.7重 80.3	サザイズの横円錐。上端小口部は変形しているが、内部も摩耗するなど通常の打痕とは異なる。裏面は各面とも均等に摩耗。大きな差異は見られない。	
第66回 PL.65	8	石製鍼	床面 長幅	12.4厚 4.8 7.0重 635.0	4.8 粗粒輝石安山岩 60.7重 80.3	サザイズの横円錐。上端小口部は変形しているが、内部も摩耗するなど通常の打痕とは異なる。裏面は各面とも均等に摩耗。大きな差異は見られない。	敲砧
第66回 PL.65	9	網輪	床上19cm 径孔 0.8重	(3.4)厚 (0.5) 8.4	8.4 蛇紋岩	下端網輪片で光沢がある。下端1/2が薄く削落し、削落面は摩耗しており、削落後も使用したことの確認。上端側破損面は新削れで、下面は破損とは時間差がある。	
PL.65	10	石製鍼	床上9cm 長幅	12.4厚 7.3重 707.8	4.6 粗粒輝石安山岩 7.3重 707.8	自然縫。サザイズの偏平鍼。小口部や側面が擦れながら摩耗され、裏面側に摩耗する。	
PL.65	11	石製鍼	床上7cm 長幅	14.5厚 8.0重 114.4	5.8 粗粒輝石安山岩 8.0重 114.4	自然縫。サザイズはやや大きめ柱状鍼。小口部内面や側面の打痕が前跡は摩耗面に覆われる。被熱して削けた。	
PL.65	12	石製鍼	床上9cm 長幅	14.5厚 7.0重 724.0	4.3 粗粒輝石安山岩 7.0重 724.0	自然縫。サザイズの偏平鍼。小口部や側面が擦れながら摩耗され、裏面側に摩耗する。裏面側に摩耗する。	
PL.65	13	石製鍼	床上5cm 長幅	15.0厚 6.8重 684.0	4.7 粗粒輝石安山岩 6.8重 684.0	自然縫。サザイズよりやや大きめの偏平柱状鍼。小口部の歯 打痕は摩耗面に覆われる。被熱して削けた。	
PL.65	14	石製鍼	床上6cm 長幅	15.6厚 8.5重 924.7	5.0 粗粒輝石安山岩 8.5重 924.7	自然縫。サザイズよりやや大きめの棒状鍼。小口部や側面の打痕跡は摩耗面に覆われる。被熱して削けた。	
PL.65	15	石製鍼	床上7cm 長幅	17.4厚 8.0重 890.2	5.4 粗粒輝石安山岩 8.0重 890.2	自然縫。サザイズよりやや大きめの棒状鍼。小口部や側面の打痕跡は摩耗面に覆われる。小口部は被熱破損。	
26号窓穴建物							
第69回 PL.66	1	上飾器 杯	理上 1/4	口 11.4高 10.7	3.9 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへラ削り。	杯蓋模倣
第69回 PL.66	2	上飾器 杯	床上20cm 1/3	口 11.6 10.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへラ削り。	杯蓋模倣
第69回 PL.66	3	上飾器 杯	床面 1/2	口 12.0高 10.5	3.5 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちへラ削り。	杯蓋模倣

掲載遺物観察表

種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第69回	4	土師器 杯	床下30cm 口縁部～体部片 残	12.8 11.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第69回	5	土師器 杯	床下26cm 杯部片	14.6	細砂粒/良好/明赤 褐	脚部との貼付方法不明。杯部は口縁部が横ナデ、底部はヘラ削り。内面は底部にヘラナデ。
第69回	6	須張器 杯	床下12cm 口縁部～天井部 片	13.0	細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部に降灰が付着。
第69回	7	須張器 杯	理上 口縁部～体部片 蓋受け	12.0 16.0	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転は右回りか。蓋受けまで成形後口縁部を整形。
第69回 PL.66	8	須張器 杯	床下～床下13cm はぼ半形	13.3 4.7	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。天井部中程は回転ヘラ削り。内面は中程に手持ちナデ。
第69回 PL.66	9	須張器 杯	床下11cm 口縁部片	22.6	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部中程に凹線による凹凸、凹線上に波状文を施す。
第69回 PL.66	10	土師器 甕	床下11cm 口縁部～脚部上 位片	20.6	細砂粒・粗砂粒・ 礫(片岩・長石) / 良好/にふい・褐	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。
第69回	11	土師器 甕	床下12cm 口縁部～脚部中 位片	21.2 17.0	細砂粒(片岩)/良 好/にふい・褐	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。
第69回 PL.66	12	土師器 甕	床下10cm 口縁部～脚部上 位片	21.2	細砂粒・粗砂粒・ 礫/良好/にふい・黄 褐	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。
第69回 PL.66	13	土師器 甕	理上 口縁部～脚部上 位片	25.0	細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。

## 27号堅穴建物

第71回 PL.65	1	土師器 杯	貯藏/底面～底 11cm 3/4	11.2 16.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第71回	2	須張器 杯	カマド 口縁部片	13.0	細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は上方に引き出され、口縁部の屈曲部に凹線が施す。
第71回 PL.65	3	土師器 甕	カマド/床下23 ～38cm 口縁部～脚部	23.4 27.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐	口縁部から脚部は横ナデ、脚部は上位から中位が彫刻方向、下位は横方向のヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。
第71回 PL.65	4	土師器 甕	カマド/床下15 ～29cm 底部～脚部片	10.2 22.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐	底部と脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。
第71回 PL.65	5	土師器 甕	カマド/床下1床 上32cm 底部～脚部片	7.4 24.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい・赤褐	底部と脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。

## 28号堅穴建物

第72回	1	土師器 杯	理上 口縁部～梗片	12.8 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。
第72回	2	須張器 杯	床下9cm 口縁部片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。残存部上位に小凸部と凹線を巡らす。内面の上半に降灰付着。
第72回	3	土師器 甕	理上 口縁部～脚部上 位	19.7	細砂粒/良好/にふ い・褐	口縁部は横ナデ。

## 29号堅穴建物

第73回 PL.66	1	土師器 杯	脚方 1/3	10.3高 9.8 幅	3.0 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第73回 PL.66	2	土師器 杯	床下2/3	11.2高 10.5 幅	3.1 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第73回 PL.66	3	土師器 小型甕	床下～底部～脚部下位	5.3	細砂粒/良好/にふ い・黄褐	底部と脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。
第73回 PL.66	4	土師器 甕	床下22～50cm 口縁部～脚部上 位片	19.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい・黄褐	口縁部は横ナデ、脚部は下から脚部へ向けてのヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。

## 30号堅穴建物

第74回 PL.66	1	土師器 杯	床下 4/5	11.0高 9.6 幅	3.2 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第74回 PL.66	2	土師器 杯	床下12cm 完形	11.8高 10.5 幅	3.4 細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第74回 PL.66	3	土師器 杯	床下 完全形	12.0高 11.1 幅	4.3 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第74回 PL.66	4	土師器 杯	床下 ほぼ完形	11.0高 9.7 幅	3.4 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。
第74回 PL.66	5	土師器 杯	床下 ほぼ完形	12.0高 10.5 幅	4.2 細砂粒/良好/焼 黄	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部に凹線を巡らす。
第74回 PL.66	6	土師器 小型甕	床下 脚部～脚部下半	5.9	細砂粒/良好/にふ い・黄褐	底部から脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。脚部表面摩滅のため位置不鮮明。
第74回 PL.66	7	須張器 甕	床下 口縁部上位欠損	9.9	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部から脚部下半は手持ちヘラ削り。脚部中位に凸線による凹凸、区画内に刺突文、上位に波状文を施す。脚部中位の穿孔径は1.7cm。

掲載遺物観察表

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7488 PL.66	8	土師器 蓋	床 上1cm 胴部下位片	細砂粒・粗砂粒(片 岩・長石) / 良好/ 灰黄褐色	胴部は外面が横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
31号堅穴建物						
第7788 PL.66	1	土師器 杯	床 上36cm 3/4	10.6 高 9.8	3.7 圓筒砂粒 / 良好 / 明赤 褐色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。
第7788 PL.66	2	土師器 杯	床 上11cm 1/4	11.0 高 11.1	圓筒砂粒 / 良好 / 明赤 褐色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。
第7788 PL.66	3	土師器 杯	床面 完形	12.0 高 10.7	4.0 圓筒砂粒 / 良好 / 明赤 褐色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。内面は 底部にはナデ。
第7788 PL.66	4	土師器 杯	床 上18cm 4/5	11.6 高 12.0	4.6 圓筒砂粒 / 良好 / 棚 継	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。内面は 底部にはナデ。
第7788 PL.66	5	土師器 杯	床 上10cm 1/3	12.0 高 10.4	3.8 圓筒砂粒 / 良好 / 棚 継	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。
第7788 PL.66	6	土師器 杯	床面 口縁部～体部片	12.4 高 10.9	細砂粒 / 良好 / 棚 継	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削りか、器面 摩滅のため単位不明。
第7788 PL.66	7	土師器 杯	床面上 口縁部～体部片	12.0 高 11.0	細砂粒 / 良好 / 明赤 褐色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。
第7788 PL.66	8	土師器 杯	床 上38cm 口縁部～底部片	13.8 高 13.4	細砂粒 / 良好 / ヒ-ニ- イ組	口縁部は横ナデ、継下体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第7788 PL.66	9	土師器 杯	床面上 杯部分	15.7 高 10.2	細砂粒 / 良好 / に- い組	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第7788 PL.66	10	土師器 台付鉢	床 上1cm ほぼ完形	8.6 台 6.0 高	7.7 圓筒砂粒 / 良好 / 明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、台部は貼付。内 面は底部から体部はヘラナデか、内面にススが付着。
第7788 PL.66	11	土師器 鉢	床面上 1/2	11.3 高 5.7	7.1 圓筒砂粒・粗砂粒 / 良好 / 苏赤	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内 面は底部から体部にヘラナデ。
第7888 PL.66	12	須恵器 杯身	埋上 口縁部～体部片	9.0 高 10.2	細砂粒 / 選元塗 / 灰 黄	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第7888 PL.66	13	須恵器 杯身	埋上 口縁部～体部片	11.0 高 12.4	細砂粒 / 選元塗 / 灰 黄	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削りか、器面摩 滅のため単位不明。
第7888 PL.66	14	須恵器 杯身	床面上 口縁部～底部片	11.0 高 12.4	細砂粒 / 選元塗 / 灰 白	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第7888 PL.66	15	須恵器 杯身	床面上 口縁部～体部片	12.0 高 13.7	細砂粒 / 選元塗 / 灰 白	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第7888 PL.66	16	須恵器 杯身	床上21cm 完形	11.3 高 13.0	3.7 圓筒砂粒 / 選元塗 / 灰 白	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第7888 PL.66	17	土師器 壺	床 上32cm 底部片	細砂粒 / 良好 / 明黄 褐色	底部は外面がヘラ削り後軽いヒラミガキ。内面はヘラナデ か、器面摩滅のため単位不明。	
第7888 PL.67	18	土師器 小型壺	埋上 口縁部～胴部上 1/2	9.4 高	細砂粒 / 良好 / 棚 継	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。
第7888 PL.67	19	土師器 壺	底面、貯藏穴底 上10cm 3/4	21.5 底 18.2 高	5.5 圓筒砂粒・粗砂粒 / 良好 / 灰	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、底部は木葉痕が残る。 内面は底から胴部にヘラナデ。口部は面を作る。
第7888 PL.67	20	土師器 壺	床 上8cm 口縁部～胴部 上位片	19.4 高	細砂粒 / 良好 / に- い組	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。
第7888 PL.67	21	石製鍊	床上17cm 長	11.0 厚 5.3 重 294.3	薄い板状の偏平鍊。上下端面とも敲打痕がある。上端側は 摩耗面で覆われる所を見える。	蔽石?
第7888 PL.67	22	石製鍊	床上5cm 長	12.6 厚 4.5 重 619.5	掌サイズの偏平鍊。小口部の削離痕は打点や擦擦が摩耗、 裏面の摩耗痕も平面感が黒ずみ、擦擦線が薄く見るのは 自然現象。同じく下端側小口部の平坦面のみ人為的。	磨石?
第7888 PL.67	23	石製鍊	床上7cm 長	13.4 厚 5.9 重 864.3	掌サイズの柱状鍊。黒ずんだ平坦な裏面と白く脱色したよ うに見える端面がはっきり見える。小口部内端や擦擦線の 摩耗痕は似て非なるものか。	磨石?
PL.67	24	石製鍊	床上20cm 長	11.3 厚 4.2 重 516.6	自然鍊。掌サイズの偏平鍊。裏面が黒ずみ、小口部や 擦擦線は擦れる。	磨石?
PL.67	25	石製鍊	床上6cm 長	11.7 厚 5.7 重 671.5	自然鍊。掌サイズ。削れた格円溝が円滑化したもの。石材 は多孔質で凹凸があり、円滑化の程度は低い。	磨石?
PL.67	26	石製鍊	床上5cm 長	12.5 厚 4.4 重 495.8	掌サイズの偏平鍊抜鍊。当初自然鍊と捉えてみたが、上端 側の小口部には摩耗に伴う棱がある。また、下端側の小口 部には摩耗した平坦面がある。	磨石?
PL.67	27	石製鍊	床上7cm 長	12.7 厚 5.1 重 447.3	自然鍊。掌サイズの柱状棒状鍊。小口部の打痕様缺陷は、 摩耗面で覆われる。	磨石?
PL.67	28	石製鍊	床上6cm 長	12.7 厚 4.5 重 580.1	自然鍊。掌サイズの柱状鍊。小口部や側面は削れ激しく 使い込んでいるが、摩耗面が重なり使用感とは言い難い。	磨石?
PL.67	29	石製鍊	床上4cm 長	12.8 厚 6.6 重 668.3	自然鍊。掌サイズよりや大型の柱状鍊。擦擦線が摩耗しているが、いず れも摩耗面で覆われている。	磨石?
PL.67	30	石製鍊	床面上 長	13.0 厚 6.1 重 881.1	自然鍊。掌サイズに覆われる。使用感とはいいがたい。	磨石?

掲載遺物観察表

種類 器種 PL.No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.67 31 石製鍤	床土8cm	長 13.1 厚 4.6 幅 7.0 重 640.5	粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズの柄円錐。小口部に打痕が見られるが、いずれも單独、集の性に欠ける。	
PL.67 32 石製鍤	床土5cm	長 13.1 厚 5.0 幅 7.3 重 618.2	粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズの柄円錐。鍤頭部は中央よりや右寄り、裏面側に平坦で、凹部まで摩耗している。	
PL.67 33 石製鍤	床面	長 13.4 厚 4.6 幅 6.9 重 689.7	粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズの柱状錐。表面は黒ずみ、棱線は擦れて新鮮な擦痕が露出しているが、線条痕は見られず、積極的に使用感とするには難しい。	
PL.67 34 石製鍤	床面	長 14.5 厚 6.0 幅 6.1 重 883.4	粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズの柱状錐。表面は黒ずみ、小口部や側縁に痕跡直隣は摩耗面に覆われる。	
PL.67 35 石製鍤	床土8cm	長 13.3 厚 4.4 幅 8.3 重 823.7	粗粒輝石安山岩	掌サイズの偏平梢円錐。鍤頭部は中央やや右に偏る。小口部の円凸部摩耗して不明瞭。使用痕から外した。	
PL.67 36 石製鍤	床面	長 15.9 厚 4.5 幅 6.9 重 775.5	粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズ。別れた偏平梢円錐が円錐化したもの。小口部の打痕は微妙だが、積極的評価は難しい。	
32号祭祀建物					
第81回 PL.68 1 上飾器 杯	埋土 1/3	□ 高 9.6 幅 8.9	細砂粒/良好/に ない	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第81回 PL.68 2 上飾器 杯	埋土 口縁部～底部 1/3	□ 高 10.4 幅 9.6	細砂粒/良好/根 筋	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第81回 PL.68 3 上飾器 壳形 杯	床土4cm 1/3	□ 高 11.6 幅 10.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/根	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第81回 PL.68 4 上飾器 杯	床土12cm 2/3	□ 高 11.9 幅 10.4	細砂粒/良好/明赤 闊	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第81回 PL.68 5 上飾器 杯	埋土 口縁部～底部 1/3	□ 高 14.0 幅 13.0	細砂粒/良好/根 筋	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第81回 PL.68 6 容器 杯	埋土 口縁部 杯部	□ 高 11.0 幅 8.7	細砂粒/還元灰/灰 闊	口縁部は横ナデ、底部は回転ヘラ削り。	
第81回 PL.68 7 上飾器 口縁部片 壳形	埋土 口縁部片	□ 高 21.6 幅	細砂粒/良好/に ない	口縁部は横ナデ。	
第81回 PL.68 8 上飾器 杯	床土7cm 口縁部～底部 片	□ 高 22.0	細砂粒/良好/根	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	
第81回 PL.68 9 上飾器 杯	床面 1/3	□ 高 19.0 幅 15.3	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にない 闊	口縁部は横ナデ、脚部と底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第82回 PL.68 10 上飾器 杯	床土4cm 2/3	□ 高 19.4 幅 16.6	4.0 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/赤闊	口縁部は横ナデ、脚部と底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。脚部中位にマド装飾時の粘土着付。	
第82回 PL.68 11 上飾器 杯	床土5～34cm 口縁部～底部 1/3	□ 高 20.8 幅 17.5	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にない 闊	口縁部は横ナデ、脚部は上から中位は縱方向、下位は横方向へ削り。内面は脚部へラナデ。	
第82回 PL.68 12 白玉	床面	径 1.9 孔 径 0.3	高 1.1 重 0.6 滑石	上下両面とも頗る研磨、体部には瘤状痕がある。孔径は2.5mmほど。断面は右側面が厚く、片側斜となる。	
第82回 PL.68 13 石製鍤	床面	長 10.7 幅 4.6	4.0 粗粒輝石安山岩	掌サイズするにやや小さめの柄円錐。左辺側エッジの弱い敲打痕は摩耗面に覆われ、使用痕か修理できない。	敲石?
第82回 PL.68 14 石製鍤	床面	長 12.0 幅 5.9	粗粒輝石安山岩	掌サイズの柄円錐。左側縁を敲打し、部分的に剥落する。	敲石
第82回 PL.69 15 石製鍤	床面	長 12.2 幅 6.8	4.5 粗粒輝石安山岩	小口部には敲打痕、側縁には敲打痕がみられるが、やや集中性に現れるようになる。	敲石?
第82回 PL.69 16 石製鍤	床土7cm	長 11.6 幅 6.8	5.0 粗粒輝石安山岩	掌サイズの柄円錐。上端側脚部および右側縁中央付近に敲打痕が集中する。より平らな裏面側縁には摩耗する。	敲石
第82回 PL.69 17 石製鍤	床面	長 11.7 幅 7.3	5.4 粗粒輝石安山岩	掌サイズの柄円錐。上端側右方に敲打した際に破損した敲打痕。右端側右方に敲打痕は摩耗に覆われる。	敲石
第82回 PL.69 18 石製鍤	床面	長 13.1 幅 7.8	4.3 粗粒輝石安山岩	掌サイズの偏平錐。右側縁を裏面で削り、これにより生じたエッジは著しく摩耗している。削除的に使用した可能性あり。	敲石
第82回 PL.69 19 石製鍤	床土4cm	長 13.2 幅 6.5	5.9 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒状錐。小口部や裏面側縁棱線に敲打がある。	敲石?
PL.69 20 石製鍤	床面	長 8.9 幅 6.0	3.2 粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズより小形の棒状錐。先端部を陰き、裏面は黒ずんでいる。	
PL.69 21 石製鍤	床面	長 8.9 幅 4.0	3.1 粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズより小形の棒状錐。小口部内側の打痕痕跡は摩耗面に覆われる。	
PL.69 22 石製鍤	瓶方	長 10.2 幅 5.2	3.7 粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズの柱状錐。裏面側縁には摩耗された打痕痕跡がある。	
PL.69 23 石製鍤	床面	長 10.5 幅 5.7	5.3 粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズの偏平錐。小口部や側縁の打痕痕跡は摩耗面に覆われる。	
PL.69 24 石製鍤	床面	長 10.9 幅 5.9	3.7 粗粒輝石安山岩	自然鍤。掌サイズより小形の棒状錐。先端部を陰き、裏面は黒ずんでいる。	
PL.69 25 石製鍤	床面	長 9.9 幅 4.0	4.5 重 255.0	自然鍤。掌サイズより小形の棒状錐。川字彫まれて摩耗したもののか。	
PL.69 26 石製鍤	床面	長 10.4 幅 5.1	5.4 重 499.7	自然鍤。掌サイズの柱状錐。鍤頭部は摩耗しているが、摩耗面に覆われており、使用痕とは認め難い。	
PL.69 27 石製鍤	床面	長 10.0 幅 5.1	5.1 重 351.8	自然鍤。掌サイズの棒状錐。断面三角形形状を呈する。鍤頭部には打痕痕跡がみられるが、摩耗面に覆われる。	

## 掲載遺物観察表

種類 器No.	種類 器No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.69 28	石製鍼	床面	長 10.3 厚 4.6 幅 6.2 重 413.8	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄円錐。小口部両端の打痕は摩耗面に覆われる。	
PL.69 29	石製鍼	床面	長 (10.8) 厚 4.1 幅 6.5 重 478.1	相輪脚石安山岩	柱状鍊。鍊脚部に敲打痕等の使用痕は見られない。柱状鍊下半部に欠損する。	
PL.69 30	石製鍼	床面	長 10.2 厚 3.6 幅 5.1 重 280.7	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズより小形で、別れた扁平橋円錐が円錐化したもの。小口部両端の敲打痕は摩耗面に覆われる。	
PL.69 31	石製鍼	床面7cm	長 10.1 厚 3.0 幅 6.0 重 281.5	相輪脚石安山岩	自然鍊。小形の板状鍊。叩撃的な使用痕は見られない。	
PL.69 32	石製鍼	床面	長 10.1 厚 4.1 幅 5.7 重 300.4	相輪脚石安山岩	掌サイズより小形の柄円錐。鍊脚線には湯温なく打痕が日立ち、裏面側面部には擦れたような摩耗面が広がる。磨石としての可能性も否定できない。	
PL.69 33	石製鍼	床面	長 10.0 厚 2.3 幅 5.6 重 218.5	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズより小形の扁平板状鍊。鍊脚線に擦れて新鮮、 Asiatic 面は黒ずむ。	
PL.69 34	石製鍼	床面4cm	長 10.1 厚 4.9 幅 5.4 重 334.2	相輪脚石安山岩	自然鍊。断面三角形状を呈す。鍊脚部は荒れているが、均質に摩耗面に覆われ、使用痕などは見られない。	
PL.69 35	石製鍼	床面	長 10.3 厚 3.8 幅 5.5 重 359.4	相輪脚石安山岩	自然鍊。小形偏平の板状鍊。上端側小口部の敲打痕は摩耗面に覆われる。集中部に欠ける。	
PL.69 36	石製鍼	床面	長 11.0 厚 4.6 幅 6.9 重 486.5	菱貫安山岩	自然鍊。掌サイズの柄円錐。小口部や鍊脚の打痕跡は摩耗面に覆われる。全体が黒ずむ。	
PL.69 37	石製鍼	床面	長 11.7 厚 4.8 幅 6.6 重 507.8	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄平板状鍊。側縁は削れて新鮮だが、いずれも摩耗面に覆われ、使用痕とはいいがたい。	
PL.69 38	石製鍼	床面	長 11.0 厚 4.8 幅 7.4 重 549.4	相輪脚石安山岩	自然鍊。断面三角形状を呈す。鍊脚部が摩耗中に央する。裏面側平坦。小口部・側縁の打痕跡は摩耗面に覆われる。	
PL.69 39	石製鍼	床面	長 11.1 厚 5.0 幅 5.5 重 389.8	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズより小形。鍊脚線は荒れているが、摩耗面に覆われる。使用痕とはいがたい。	
PL.69 40	石製鍼	床面	長 11.3 厚 4.6 幅 8.1 重 486.4	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄円錐。側縁は打痕跡は摩耗面に覆われる。鍊面は小口部のみ摩耗したように見える。	
PL.69 41	石製鍼	床面	長 11.2 厚 3.9 幅 6.7 重 390.8	相輪脚石安山岩	自然鍊。断面線が削れて使用しているようであるが、いずれも摩耗面に覆われ、使用痕とはいがたい。	
PL.69 42	石製鍼	床面	長 11.4 厚 4.2 幅 5.8 重 404.5	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄状鍊。裏面側鍊面は黒ずむ。鍊面の裏面側は白。	
PL.69 43	石製鍼	床面	長 11.2 厚 (5.3) 幅 4.7 重 378.7	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄円錐。深て擦げて 1/2 を欠く。敲打痕など斬跡的な使用痕は見られない。	
PL.69 44	石製鍼	床面	長 11.9 厚 5.2 幅 5.2 重 468.1	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄状鍊。鍊脚部が荒れているが、これと摩耗面が覆う。	
PL.69 45	石製鍼	床面~床上4cm	長 11.5 厚 4.6 幅 5.4 重 403.3	相輪脚石安山岩	自然鍊。柱状鍊状鍊。小口部・側縁に打痕跡があり、これを摩耗面が覆う。中央付近で凌て彫刻。	接合
PL.69 46	石製鍼	床面	長 11.0 厚 5.5 幅 7.0 重 523.1	相輪脚石安山岩	自然鍊。柱状鍊。鍊脚線が荒れ気味だが、明瞭な打痕等は見られない。	
PL.70 47	石製鍼	床面	長 11.2 厚 4.8 幅 6.1 重 454.1	相輪脚石安山岩	自然鍊。断面三角形状を呈す掌サイズの河床鍼。鍊脚線に打痕跡を摩耗面が覆う。	
PL.70 48	石製鍼	床面	長 11.6 厚 4.2 幅 6.3 重 427.2	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの板状鍊。明瞭な使用痕は見られない。	
PL.70 49	石製鍼	床面	長 12.6 厚 4.2 幅 6.8 重 617.2	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの板状鍊。平坦な鍊面が黒ずみ、鍊部が削れて新鮮に見える。	
PL.70 50	石製鍼	床面	長 12.0 厚 3.9 幅 6.6 重 460.2	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの薄い偏平鍼。鍊脚線右側に彫り、鍊面より摩耗線が擦れたようになる。鍊脚線の打痕跡は等しく摩耗。使用痕からほれれるだろう。	
PL.70 51	石製鍼	床面	長 12.0 厚 4.6 幅 7.4 重 607.3	相輪脚石安山岩	自然鍊。左側縁に打痕が見られるが、集中部に欠け使用痕認定は難しい。	
PL.70 52	石製鍼	床面	長 12.7 厚 5.2 幅 7.0 重 583.5	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柱状鍊。断面三角形状を呈す。下端部の鍊脚部に打痕が見られるが、用意で集中部に欠ける。	
PL.70 53	石製鍼	床面	長 12.1 厚 4.0 幅 6.9 重 463.3	相輪脚石安山岩	板状鍊。右側縁中段裏面に小さな削痕がある。鍊形状は平行の平面で形状を呈し、突出部分を削離する。この加工部に敲打痕が見られない。	
PL.70 54	石製鍼	床上11~14cm	長 12.1 厚 4.4 幅 7.1 重 506.2	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柄円錐。被熱してヒビ割れる。鍊脚線は若干干渉気味。	接合
PL.70 55	石製鍼	床面	長 12.1 厚 5.6 幅 5.7 重 428.6	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの偏平棒状鍊。小口部・側縁の打痕跡は摩耗面に覆われる。平坦な鍊面は黒ずむ。	
PL.70 56	石製鍼	床面	長 13.8 厚 3.9 幅 6.4 重 557.8	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柱状鍊。被損部分は凍て彫刻。上端側左側縁は摩耗面に摩耗。これに接して打痕がある。使用痕の可能性も否定できない。	
PL.70 57	石製鍼	床面	長 13.8 厚 4.9 幅 6.1 重 604.1	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柱状鍊。小口部上端に打痕跡を摩耗するが、摩耗面に覆われ使用痕とは認定できない。	
PL.70 58	石製鍼	床面	長 13.9 厚 4.0 幅 6.2 重 486.1	相輪脚石安山岩	自然鍊。掌サイズの柱状鍊。鍊脚線は塊状化が異なり打痕とすることもあるが、根跡が少量で明確ではない。	

## 33号堅穴建物

第83BQ 1	土器鉢	床面	口径 1/4	高さ 19.2 底厚 9.0	細砂粒・粗砂粒・良好/明治初期	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちラ削り、体部上半部は器皿溝のため位卑不明。内面は底部から体部にヘラナデ。
第83BQ 2	須恵器 杯蓋	床上5cm 1/5	口径 10.8 高さ 3.4	細砂粒・透光塗/黄灰	ロクロ形容形、回転式。天井部は中程に手持ちヘラ削り、周囲がヘラナデ。	
第83BQ 3	土器鉢	カマド 口縁部~制脚部 位片	口径 17.0	細砂粒/良好にぶ い粗	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	

掲載遺物観察表

## 34号堅穴建物

地図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85回 PL.70	1	土師器 杯	床土22cm 3/4	口 縁 底 9.4 9.6	4.4 細砂粒/良好・焼 成・黒泥	口縁部は横ナデ、縁下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 に中位に段を作る。内外面とも焼成。	有段口縁杯
第85回 PL.70	2	土師器 杯	床土27cm 3/4	口 縁 底 11.6 10.2	4.0 細砂粒/良好・焼 成・黒泥	口縁部は横ナデ、縁下から底部は手持ちヘラ削り。内外面 とも焼成。	杯蓋微微
第85回 PL.70	3	須恵器 杯身	床上20cm ほぼ完形	口 13.4 底 7.7	3.9 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/選光輪/褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。口唇部 は大きめに内側する形を作れる。	口唇部の形状 から杯蓋の可 能性もある。
第85回	4	土師器 跡	埋上 口縁部～体部片	口 15.8 底 17.0	細砂粒/良好/明赤 褐	内部色処理。口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
第85回	5	土師器 跡	埋上 口縁部～体部片	口 20.0	細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。口縁部中に段 を作る。	
第85回 PL.70	6	土師器 質	床土25cm 口縁部～脚部上 位片	口 22.6 底 18.6	細砂粒・粗砂粒/ 良射/褐	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	

## 35号堅穴建物

第87回 1	土師器 高杯	床上6cm 杯部口縁部～底 部片	口	15.8	細砂粒/良好/褐	内外面とも横方向へラミガキ。	
第87回 2	土師器 高杯	床上5cm 杯部口縁部～底 部片	口	19.0	細砂粒/良好/明赤 褐	外面は横方向、内面は放射状へラミガキ。	
第87回 3	土師器 高杯	埋上 杯部片	両	10.0	細砂粒/良好/明赤 褐	底部を作り、外縁のやや内側に体部を貼付するよう作る。 内外面とも丁寧なラミガキ。	
第87回 4	土師器 高杯	床上10cm 杯部底部～脚部 上位片			細砂粒/良好/明赤 褐	杯部内面は捺面削済。脚部はヘラミガキ、上位に円形の透 孔3方に穿つ。内面はヘラミ。	
第87回 5	土師器 腰台	埋上 受部底部～脚部 上位			細砂粒/良好/にぶ い粗	受部と脚部は貼付。脚部はヘラミガキ、上位に円形の透孔 を3方に穿つ。内面は脚部に横ナデ、受部は捺面削済の ため不明。受部中に径1.0cmの孔を穿つ。	
第87回 6	土師器 跡	埋上 口縁部～体部片	口	13.8	細砂粒/良好/にぶ い粗	内外面とも横方向のヘラミガキ。	
第87回 7	土師器 貯蔵穴	埋上 口縁部～体部片	口	16.4	細砂粒/良好/褐	口縁部から脚部は横ナデ、体部は横方向のヘラミガキ。内 面は口縁部から体部に横方向のヘラミガキ。	
第87回 8	土師器 質	床上5cm 脚部上半片	口 脚	9.8 30.6	細砂粒/良好/褐	外面は斜め方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ。	
第87回 9	土師器 台付質	床上5cm 口縁部～脚部上 位片	口	15.4	細砂粒/良好/にぶ い粗	口縁部から脚部は横ナデ、脚部から脚部は幅約8cm(1cm当 たり1.8倍)後脚部にナデ、脚部上位に横方向のハケメ。内 面は脚部にナデ。	
第87回 10	土師器 台付質	埋上 脚部下位～台部 上位			細砂粒/良好/明赤 褐	脚部から脚部にかけてはハケメ(1cm当たり7本)。内面は 脚部・台付ともナデ。	
第87回 11	土師器 台付質	床上1cm 台部下～脚部下 位	台	8.3	細砂粒/良好/明赤 褐	台端部内側に折り返し、脚部から脚部上半はハケメ(1 cm当たり7本)。内面は脚部下部にもナデ。	
第87回 12	土師器 台付質	埋上 台部下	台	11.0	細砂粒/良好/褐	台部端部は内側への折り返し。内外面ともナデ。	

## 36号堅穴建物

第89回 PL.70	1	須恵器 杯	床面 完全形	口 9.0 底 4.7	2.7 細砂粒・灘/醸化 塗/明黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第89回 PL.70	2	須恵器 杯	床面 1/2	口 10.2 底 5.6	3.0 細砂粒/醸化塗/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は静止糸切り無調整。	
第89回 PL.70	3	須恵器 杯	床上4cm 1/3	口 10.3 底 4.4	2.8 細砂粒/醸化塗/相 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第89回 PL.70	4	須恵器 碗	カマド床上7cm ほぼ完形	口 10.9 底 6.2	6.6 細砂粒/醸化塗/相 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 5.1～5.9cm。	
第89回 PL.70	5	須恵器 碗	床上7cm 3/4	口 12.2 底 6.6	6.4 細砂粒/醸化塗/相 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は静止糸切り後周囲をナ デ。高台は貼付。	
第89回 PL.70	6	須恵器 碗	床上7cm ほぼ完形	口 14.8 底 6.8	8.6 細砂粒/醸化塗/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲をナ デ、高台は貼付。内面のほぼ全面にスカラ付着。	
第89回 PL.70	7	土師器 甕	カマド床上3～ 4cm 口縁部～脚部上 位片	口 21.8 底 28.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から脚部は横ナデ、脚部は縱方向のヘラ削り、脚部 下にナデ部分が残る。内面は脚部にヘラナデ。	
第89回 PL.71	8	須恵器 羽釜	床面～床上4cm カマド床上3～ 4cm ほぼ完形	口 16.5 底 21.0	10.5 細砂粒/醸化塗/赤 褐	ロクロ整形、回転方向不明。口は貼付。脚部は上位から中 位が縱方向、下位が横方向のヘラ削り、底部は不定方向の ヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	鍋
第89回 PL.71	9	須恵器 羽釜	床面 口縁部～脚部上 位片	口 21.6 底 25.2	24.1 細砂粒・粗砂粒/ 醸化塗/にぶい褐	ロクロ整形、回転は右回りか。口は貼付。脚部は残存部下 半にヘラナデ。内面は脚部にヘラナデ。	
第89回 PL.71	10	須恵器 羽釜	床面、カマド床 上～10cm 口縁部～脚部上 位片	口 21.3 底 26.0	25.0 細砂粒・粗砂粒/ 醸化塗/にぶい褐	ロクロ整形、回転は右回りか。口は貼付。脚部は上位から 中位にヘラナデ、下位にヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。	

## 37号堅穴建物

神 PL.No.	神 器 種 類	出土位置 残 存 率	計測値		胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口	底			
第90回 PL.71	1 上部器 蓋	床面 口縁部～胴部上 位片	口 13.8	底 8.0	細砂粒/良好/に よい粒	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

## 38号堅穴建物

第92回 PL.71	1 黒色土器 機	床面、カマド床 上7cm 3/4	口 18.6	底 8.0	細砂粒/焼成塗/に よい黄褐	内面黒色処理、二次焼成により表面が消える。ロクロ整形、 回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面は 全面的にヘラミガキ。底部は表面摩滅のため単位不明。		
第92回 PL.71	2 頭患器 杯	埋土 2/3	口 9.6	底 5.8	2.4 細砂粒/良好/浅 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は静止切り無調整。		
第92回 PL.71	3 頭患器 杯	床下6cm 口縁部～胴部上 位片	口 7.4	底 9.0	細砂粒/焼成塗/灰 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。		
第92回 PL.71	4 上部器 蓋	床下10cm 口縁部～胴部上 位片	口 17.8	底 21.3	細砂粒/良好/に よい黄褐	ロクロ部から頸部は横ナデ、胴部は縱方向ヘラ削り。内面は 頸部と胴部にヘラナデ。		
第92回	5 上部器 蓋	床下7cm 口縁部～胴部上 位片	口 20.0		細砂粒/良好/明赤 褐	ロクロ部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。		
第92回	6 上部器 蓋	P2底～5cm 口縁部～胴部上 位片	口 20.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/根	外面部頸部から胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。		
第92回	7 上部器 蓋	床下5cm 口縁部～胴部上 半片	口 24.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	ロクロ部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。		
第92回	8 頭患器 羽茎	防歰穴底～14 cm、カマド床面 口縁部～胴部上 位片	口 21.4	底 25.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塗/明褐	ロクロ整形、回転は右回りか。鷄は貼付。胴部は内外面と もヘラ削り。		
第92回 PL.71	9 頭患器 羽茎	床面～床上34 cm、防歰穴底上 10～13cm、カ マド床面 口縁部～胴部上 位片	口 23.2	底 26.8	残 高	26.4 細砂粒・粗砂粒/ 酸化塗/褐	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部に輪積み痕が残る。鷄 は貼付。胴部は上位から中位はヘラナデ、下位はヘラ削り。 内面は胴部下半にヘラナデ。	
第92回 PL.71	10 頭患器 羽茎	床面、カマド床 上～11cm 底部～胴部下半 位片	口 8.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塗/褐	ロクロ整形、回転は右回りか。底部と胴部下位はヘラ削り。 内面は底部から胴部にヘラナデ。		

## 39号堅穴建物

第94回 PL.72	1 上部器 杯	カマド 1/3	口 11.8	底 11.4	細砂粒/良好/橙	ロクロ部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。器面摩 滅のため単位不明。	杯蓋微微
第94回	2 上部器 完全形	床面	口 11.9	高 11.0	3.7 細砂粒/良好/橙	ロクロ部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面 とも焼成。	杯蓋微微
第94回 PL.72	3 上部器 完全形	床下5cm 完全形	口 12.1	高 11.6	3.5 細砂粒/良好/橙	ロクロ部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面 とも焼成。	杯蓋微微
第94回	4 上部器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 12.7		細砂粒/良好/明赤 褐	ロクロ部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	新型杯
第94回	5 上部器 杯	埋土 1/4	口 12.6	高 13.0	4.2 細砂粒/良好/橙	ロクロ部は横ナデ、体部は口縁部下にナデ部分が残り、その 下位から底部は手持ちヘラ削り。	新型杯
第94回 PL.72	6 上部器 杯	埋土 1/3	口 15.0	高 15.4	細砂粒/良好/橙	ロクロ部上半が横ナデ、下半から体部・底部は手持ちヘラ 削り。	新型杯
第94回 PL.72	7 大型杯 大型杯	床上～5cm 4/5	口 21.7	高 19.3	8.2 細砂粒/良好/明赤 褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘ ラ削り。内面は底部から体部に斜め。口縁部に横方向のヘ ラミガキ。	
第94回 PL.72	8 頭患器 杯蓋	床面 完形	口 11.5	高 10.4	3.9 細砂粒/還元塗/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は削りヘラ削り。内面 の中央部はナデ。	
第94回	9 頭患器 高杯	埋土 口縁部	口 13.4		細砂粒/還元塗/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部中位に小凸帯が貼付。	
第94回 PL.72	10 小型壺 小型壺	床上4cm 3/4	口 9.9	制 10.0	13.4 細砂粒/良好/橙	ロクロ部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面 は底部から胴部にヘラナデ。単位不鮮明。	
第94回 PL.72	11 頭患器 頭部	床面 底部～口縁部	口 8.5	底 6.0	13.7 細砂粒/還元塗/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。胴部上位・中位間に凹窓が彫る。 底部から胴部中位は削りヘラ削り。	
第94回 PL.72	12 頭患器 提瓶	床面～床上20cm 口縁部欠損	口 17.8	高 14.4	17.6 細砂粒/還元塗/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。胴部側面を削窓する鉈鋸技法 による成形。裏面から側面、正面にかけてカキメ、側面の 口縁部側に小型の突起を削付。内面は裏面にナデ。	
第95回	13 上部器 蓋	埋土 口縁部片	口 20.7		細砂粒/良好/褐	ロクロ部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第95回 PL.72	14 上部器 蓋	床面 口縁部～胴部中 位片	口 23.4	底 20.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/によい橙	ロクロ部は横ナデ、胴部は下方から頸部へ向けてのヘラ削り。 内面は胴部にヘラナデ。	
第95回 PL.72	15 上部器 蓋	床面～床上4cm 口縁部～胴部上 位片	口 20.8	底 16.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/によい赤褐	ロクロ部は横ナデ、胴部は上方が下方から頸部へ向けて、下 手が上方から底部へ向けて、底部周縁が横方向へ削り。 内面は胴部にヘラナデ。	
第95回	16 頭患器 蓋	埋土 胴部片			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塗/によい橙	叩き継ぎ成形。胴部外面に平行叩き目、内面には同心円 状アズキ痕が残る。	

掲載遺物観察表

No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95回 PL.72	17 石製鍤	床面	長 幅	11.0厚 6.0重 509.0	サ化粧の柄円錐。小口部内側に敲打痕、右辺の敲打痕は摩耗面に覆われ、使用痕認定は難しい。	敲石?
第95回 PL.72	18 石製鍤	床面	長 幅 幅	12.8厚 4.8 8.5重 735.8	サハサイズとするにはやや大型の柄円錐。小口部内側の打痕は摩耗面に覆われる。平坦な櫛面は凹部まで摩耗。使用痕として認識することはできない。	敲石
PL.72	19 石製鍤	床上5cm	長 幅	11.1厚 7.0重 523.2	自然鋸。掌サイズの柄円錐。小口部や櫛面には打痕様痕跡やスレで覆われているが、これを摩耗面が覆う。	
PL.72	20 石製鍤	床面	長 幅	11.3厚 6.6重 471.3	自然鋸。掌サイズの板状鋸。上端側小口部に打痕2がある。櫛線部は擦れ気味だが、摩耗面に覆われる。	
PL.72	21 石製鍤	床上4cm	長 幅	11.4厚 7.2重 591.8	サハサイズの偏平格円錐。櫛線部が擦れて新鮮に見える。	
PL.72	22 石製鍤	床上4cm	長 幅	11.7厚 6.3重 547.4	自然鋸。掌サイズの柱状鋸。櫛線部の打痕様痕跡は摩耗面に覆われて不明瞭。	
PL.72	23 石製鍤	床面	長 幅	11.8厚 7.3重 529.7	自然鋸。掌サイズの板状鋸。上端側小口部に打痕2がある。櫛線部は擦れ気味だが、摩耗面に覆われる。	
PL.72	24 石製鍤	床面	長 幅	12.2厚 6.6重 651.1	サハサイズの柱状鋸。櫛面は黒ずんでるが、櫛線部は新鮮に見える。	
PL.73	25 石製鍤	床面	長 幅	12.6厚 6.5重 458.3	自然鋸。掌サイズの偏平鋸。明瞭な使用痕は見られない。	
PL.73	26 石製鍤	床面	長 幅	12.7厚 6.5重 446.8	自然鋸。掌サイズで、削れた偏平鋸が研磨化したもの。明瞭な使用痕等は見れない。	
PL.73	27 石製鍤	床面	長 幅	12.8厚 6.9重 449.0	サハサイズの偏平鋸。櫛線部は中央より右に偏る。小口部内端に刃程凹凸と底部摩耗、自然面とした。	
PL.73	28 石製鍤	床面	長 幅	13.5厚 6.2重 465.6	自然鋸。掌サイズの板状鋸。櫛面三角形状を呈する。小口部の打痕様痕跡は摩耗面に覆われる。	
PL.73	29 石製鍤	床面	長 幅	13.6厚 6.5重 468.8	自然鋸。掌サイズの柱状鋸。小口部の打痕様痕跡は摩耗面に覆われる。	
PL.73	30 石製鍤	床面	長 幅	15.9厚 7.3重 919.2	サハサイズよりやや大型の柱状鋸。櫛線部が擦れて新鮮に見えるタイプ。	

## 40号堅穴建物

第98回 PL.73	1 土師器 杯	床上16cm 底	口 径	12.6高 12.3	細砂粒・粗砂粒・ 陶(チャート・砂岩) / 良好に/よい 灰/灰岩	口縁部は横ナデ。稜下から底部は手持ちヘラ削り、表面摩 減のため単位不明。	杯蓋模倣
PL.73	2 土師器 杯	床上4cm 3/4	口 径	12.0高 13.5	4.2細砂粒/良好・焼 成灰/灰岩	口縁部は横ナデ。稜下から底部は手持ちヘラ削り、表面摩 減のため単位不明。内外面とも焼成。	杯身模倣
PL.73	3 土師器 杯	床上7cm 1/3	口 径	12.2高 13.6	4.7細砂粒/良好・焼 成灰/灰岩	口縁部は横ナデ。稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面 とも焼成。	杯身模倣
PL.73	4 土師器 杯	床上11cm 2/3	口 径	13.4高 12.2	4.7細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	口ロ口彫整、回転は右回り。天井部は田程へラ削り。内面 は中央部ナデ。	
PL.73	5 土師器 壺	床上10cm 胸部下半片	細 部	細砂粒/良好/根 部	脚部は外側がヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第98回 PL.73	6 土師器 小型壺	床上～49cm 2/3	口 径	13.0高 16.0高 19.9 明周	細砂粒・粗砂粒(片 岩・長石) / 良好/ 灰/灰岩	口縁部は横ナデ、脚部は底部から脚部に向けてのヘラ削り、 底部もヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
PL.73	7 土師器 壺	床上11cm 口縁部～脚部上 位片	口 径	20.4高 15.9	細砂粒・粗砂粒(片 岩・長石) / 良好/ 赤褐色	口縁部は横ナデ、脚部は底部から脚部に向けてのヘラ削り。 内面は脚部にヘラナデ。	
PL.73	8 土師器 壺	床上5cm 口縁部～脚部上 位片	口 径	19.0高 14.5	細砂粒・粗砂粒(片 岩・長石) / 良好/ 明周	口縁部は横ナデ、脚部は上位から中位は下方から脚部へ向 けて、下位は上方から底部へ向けてのヘラ削り。内面は脚 部にヘラナデ。	
PL.73	9 敲石	床上4cm	長 幅	16.0厚 6.7重 525.3	薄く削った板状鋸。両辺とも底部が削られ、脱工エッジ を作出。ここを機能部としたもの。繩は見た目にはチヨコ レー色しているが、繩は黒で変色して見える。		

## 41号堅穴建物

第99回 PL.74	1 土師器 杯	埋土 4/5	口 底	9.5高 6.0	2.7細砂粒・粗砂粒(赤 色粒)/燒成焰	ロクロ彫整、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	杯蓋模倣
第99回 PL.74	2 土師器 杯	埋土 口縁部～底部上 位片	口 底	10.6高 6.0	2.0細砂粒/良好/根 部	ロクロ彫整、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	杯身模倣
第99回 PL.74	3 土師器 甕	1上埴 口縁部～脚部上 位片	口 底	25.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/根	口縁部から脚部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面は脚部に ヘラナデ。口縁部は須恵器と同様な面を作る。	
第99回 PL.74	4 土師器 甕	床上12cm 口縁部～脚部上 位片	口 底	25.8	細砂粒/良好/に赤 褐色	脚部は残存部上位に横方向へラ削り、その下位にハケメ リ(1本当たり約7本)後ヘラミガキ。内面は前方のハケ メリ。	
第99回 PL.74	5 土師器 甕	床面～床上5cm 脚部下半片	脚 底	28.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/根	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣

## 43号堅穴建物

第104回 PL.74	1 土師器 杯	床面 3/4	口 底	12.1高 10.3	3.8細砂粒/良好/根 部	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第104回 PL.74	2 土師器 杯	床上15cm 1/4	口 底	12.8 10.9	細砂粒/良好/根	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第104回 PL.74	3	土師器 杯	幅方 1/3	口13.8高 13.3	4.5 細砂・粗砂粒・粗砂 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋微
第104回 PL.74	4	土師器 小型甕	床+9cm 口縁部～胴部上 位片	口15.8 16.3	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶい 黄褐色	外側胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第104回 PL.74	5	土師器 小型甕	床+14cm 口縁部～胴部上 位片	口16.4 16.3	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶい 黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ナデ。内面は胴部にヘラナデ。	
第104回 PL.74	6	土師器 甕	埋上 長幅	4.8厚 4.7	0.7 ~ 0.4 細砂粒/良好/橙	外表面はヘラ削り。内面は器面磨滅のため整形不鮮明。削れ口は擦り磨いている。内面側に線刻。	
第104回 PL.74	7	土師器 甕	床面～床+9cm 口縁部～胴部 頭	口20.1厚 16.8	17.8 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶい 黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位は下方から頸部へ向けて、下位は上方から底部へ向けてのヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第104回 PL.74	8	土師器	床面～床+58cm 4/5	口20.8厚 19.2高	4.9 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位は下方から頸部へ向けて、下位は上方から底部へ向けてのヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第104回 PL.74	9	土師器 甕	床+12cm 口縁部～胴部上 位片	口20.4	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/にぶい 黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は下方から底部へ向けてのヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第105回 PL.75	10	土師器	床面～床+29cm 口縁部～胴部中 位	口20.3厚 16.3	17.2 細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は頭部から下方へのヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。ヘラナデの一部は底面。	
第105回 PL.74	11	土師器	床面～床+8cm 底部～胴部下位	底 6.8	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/明赤褐色	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第105回 PL.75	12	土師器 甕	床+4cm 底部～胴部下位	底 6.7	細砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/明褐色	底部から胴部はヘラ削り。器面磨滅のため單位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第105回 PL.75	13	石製鍤	床+9cm	長 幅 5.6重 619.1	12.3厚 5.8 粗粒輝石安山岩	底面は斜面状で、外側面に輪積み痕がある。小口部両端に敲打痕、摩耗がかかる。本体的な修理記録は使用部裏面の芯打跡等で、使用痕を記録として記載的である。	敲石
第105回 PL.75	14	石製鍤	床+4cm	長 幅 6.7重 720.2	13.0厚 6.6 粗粒輝石安山岩	底面は斜面状で、外側面に輪積み痕がある。小口部両端に敲打痕、摩耗がかかる。本体的な修理記録は使用部裏面の芯打跡等で、使用痕を記録として記載的である。	敲石?
第105回 PL.75	15	石製鍤	床面	長 幅 8.0重 876.6	14.9厚 6.0 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒円錐。下端側小口部に敲打痕、右側縁に敲打、摩耗痕が連続する。	敲石
PL.75	16	石製鍤	床面	長 幅 9.0重 878.2	13.1厚 4.8 粗粒輝石安山岩	掌サイズより大型の偏平棒円錐。	
PL.75	17	石製鍤	床+5cm	長 幅 7.5厚 55.0	13.3厚 5.0 粗粒輝石安山岩	掌サイズの偏平棒円錐。礫接部は左側に大きく削る。礫接部が削れて新鮮に見えるタイプ。	
PL.75	18	石製鍤	床+4cm	長 幅 7.8厚 801.9	13.3厚 5.5 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒状錐。小口部側縁は敲打の可能性。痕跡は微妙で決定的ではない。	
PL.75	19	石製鍤	床+9cm	長 幅 7.4厚 732.5	12.5厚 4.5 粗粒輝石安山岩	掌サイズより大型の偏平錐。全面が黒ずむタイプ。	
PL.75	20	石製鍤	床+4cm	長 幅 7.8厚 996.4	14.2厚 6.2 粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや大きい棒円錐。小口部両端は擦れているようには見えないが、申請ではない。	
PL.75	21	石製鍤	床面	長 幅 7.7厚 717.8	14.4厚 5.3 粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒円錐。上端側小口部敲打痕があり、右側面は摩耗して正面相を形成するかのようであるが、似た摩耗面は確たん確認のみを見られ、判断が難しい。	敲石?
PL.75	22	石製鍤	床面	長 幅 8.8厚 791.3	14.7厚 4.2 粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや大型の偏平錐。全面が黒ずむタイプ。	
PL.75	23	石製鍤	床面	長 幅 15.8厚 979.8	5.9 粗粒輝石安山岩	掌サイズより大型の偏平錐。小口部両端に打痕があるタイプだが、使用痕とは判断できない。	

## 44号竪穴建物

第106回 PL.75	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂/良好/	縁部による口縁部横幅区画を施し、LR縄文を充填施す。	加曾利E 3式
第106回 PL.75	2	縄文土器 深鉢	床+9cm 底部破片	底 6.5	粗砂、白色粒、ふつ つ	縁部条縫を施す。	加曾利E 3式
第106回 PL.75	3	縄文土器 深鉢	剖面 口縁～胴部		粗砂/良好/	縁縫による口縁部巻文、格内区画を施し、LR縄文を充填施す。	加曾利E 3式
第106回 PL.75	4	縄文土器 深鉢	床面 銅～底部1/4	底 8.8	粗砂/良好/	縁縫による口縁部巻文を施し、LR縄文を充填施す。	加曾利E 3式

## 45号竪穴建物

第107回 PL.75	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂/ふつう/	縁縫による格内状況を施し、縁縫文を充填施す。	加曾利E 3式
第107回 PL.75	2	縄文土器 深鉢	埋土 銅		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう/	縁縫による胴部垂巻文、縁縫文を施す。	加曾利E 3式
第107回 PL.75	3	縄文土器 深鉢	埋土 銅		粗砂、白色粒、赤 色/ふつう/	縁縫による胴部垂巻文、縁縫文を施す。	加曾利E 3式
第107回 PL.75	4	縄文土器 深鉢	埋土 銅		粗砂/良好/	縁縫による胴部垂巻文を施し、LR縁文を縦縫充填施す。	加曾利E 3式

## 1号竪穴建物

第109回 PL.75	1	縄文土器 深鉢	床+22cm 口縁部～体部片	口15.8	細砂/良好/にぶ い縁	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面は体部にヘラナデ。	
----------------	---	------------	-------------------	-------	----------------	--------------------------------	--



掲載遺物観察表

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第109回 PL.76	2	土師器 蓋	床±13 ~ 21cm 口縁部~胴部中 部	口 18.7 頭 15.4	11.0 27.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から底部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位が横と斜め方向へラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第109回 PL.76	3	土師器 蓋	床±21 ~ 26cm 口縁部~胴部上 半部	口 20.5 頭 18.2	11.0 33.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は底部から下方への斜め方向へラ削り。内面は胴部にヘラナデ。

## 1号古墳

第111回 PL.76	1	土師器 杯	口縁部~底部片	口 11.0 接 9.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、接下から底部は手持ちヘラ削り。
第111回 PL.76	2	土師器 杯	口縁部~底部片	口 12.1 接 10.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、接下から底部は手持ちヘラ削り。
第111回 PL.76	3	須恵器 高杯	脚部分	脚 13.0	細砂粒/還元塩/灰	口コロ整形、回転は右回り。残存部上位に透孔が残る。
第111回 PL.76	4	埴輪 円筒	口縁部~第2突 張片	口 22.8	細砂粒/酸化鉄(良 好)/明赤	突帯(M字状)は貼付。上下はナデ、口脣部は横ナデ。口縁部は底方角ハケメ(2cm当たり11本)。内面は底方角横方 向のハケメ。胴部に透孔。形状不明。口縁部外側に「×」状 のヘラ彫き。
第111回 PL.76	5	埴輪 円筒	口縁部~胴部片	口 19.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化鉄(良好)/(明 黄)	突帯(M字状)は貼付。上下はナデ、口脣部は横ナデ。口縁部は底方角ハケメ(2cm当たり12本)。内面は口縁部 上位が横方向。その位から底方向のハケメ。

## 2号古墳

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値等	基底部/胴部/口縁部	成形・整形の特徴	備考
第114回 PL.76	1	土師器 杯	口縁部~体部片	口 12.0 接 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第114回 PL.76	2	土師器 杯	口縁部~体部片	口 11.0 接 9.7	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第114回 PL.76	3	須恵器 底盤	底盤~体部片	底 6.0	細砂粒/還元塩/灰 黄	口コロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。体 部・制部は底方角ハケメ(2cm当たり12本)。
第114回 PL.76	4	須恵器 底盤	口縁部分		細砂粒/還元塩/灰 黄	口コロ整形、回転方向不明。口脣部は上方に引き出され、 口脣部下に小凸帶が貼付。

## 3号古墳

種類 No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値等	基底部/胴部/口縁部	成形・整形の特徴	備考	
第121回 PL.76	1	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 口縁部分	口 直径 底盤 口縁 底盤	器高 突帯 形状	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:7。外面縫 ハケ、内面斜めハケか。内面器表摩耗。口縁端部ヨコナデ。	
第121回 PL.76	2	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 口縁部分	口 直径 底盤 口縁 底盤	器高 突帯 形状	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:0。外面縫 ハケなど無。内面斜めハケか。口縁端部ヨコナデ。口縁部外面 に「-」の線刻。	
第121回 PL.76	3	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 口縁部分	口 直径 底盤 口縁 底盤	器高 突帯 形状	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:8。外面縫 ハケ、内面斜めハケ。口縁端部ヨコナデ。突帯削落。	
第121回 PL.76	4	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 口縁部分	口 直径 底盤 口縁 底盤	器高 突帯 形状	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:7か。外面縫 ハケ、内面斜めハケ。口縁端部ヨコナデ。口縁部外面に「-」 の線刻。	
第121回 PL.76	5	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 口縁部1/3	口 直径 底盤 口縁 底盤	(24.7) 器高 突帯 形状	土: A -/-/9.0	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:9。外面縫ハケ、 内面斜めハケと上位に横ハケ。口縁端部ヨコナデ。透孔上 端1カ所残存。
第121回 PL.76	6	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 口縁部1/3	口 直径 底盤 口縁 底盤	(23.0) 器高 突帯 形状	土: A -/-/-	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:0。外面縫 ハケなど無。内面斜めハケか。口縁端部ヨコナデ。突帯部分削落。
第121回 PL.76	7	円筒埴輪 円筒形	埴丘底部 基底部	口 直径 底盤 口縁 底盤	器高 突帯 形状	土: A -/-/-	土:A、色調:浅黄褐、焼成:普通、ハケ:0。外面縫 ハケなど無。基底部内面斜めハケ。胴部内面斜めヘラナデ。 胴部に透孔下端1カ所残存。

## 掲載遺物観察表

種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値等			基底部長/胸部長/ 口縁部長	成形・整形の特徴	備考
			口 径 底 径	一 器 高 突 帯 形 状	一 ①M			
第122回 PL.76	8	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 突端部分	口 径 底 径	一 器 高 突 帯 形 状	一 ①M	-/-/-	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：良好、ハケ：13。外面観 ハケ、内面観ナデ。透孔下端1カ所残存。	歪む
第122回 PL.76	9	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 基底部3/4	口 径 底 径	12.5 器 高 突 帯 形 状	一 器 高 突 帯 形 状	-/-/-	胎土：A、色調：断面褐灰、器表浅黄褐、焼成：良好、ハケ： 8。外面観ハケ、内面斜めナデ。	
第122回 PL.76	10	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 基底部3/4	口 径 底 径	13.5 器 高 突 帯 形 状	一 器 高 突 帯 形 状	-/-/-	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：普通、ハケ：0。外面観 ハラナデ？。内面観ナデ。	
第122回 PL.76	11	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 基底部	口 径 底 径	11.6 12.5 器 高 突 帯 形 状	一 器 高 突 帯 形 状	-/-/-	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：普通、ハケ：8。基底部 粘土板高さ5cm。外面観ハケ。内面斜めナデ。	
第122回 PL.77	12	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 基底部	口 径 底 径	12.6 13.8 器 高 突 帯 形 状	一 器 高 突 帯 形 状	-/-/-	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：普通、ハケ：8。外面観 ハケ、内面斜めナデ。底部粘土板高さ5cm。	
第122回 PL.77	13	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 基底部	口 径 底 径	12.8 13.8 器 高 突 帯 形 状	一 器 高 突 帯 形 状	-/-/-	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：普通、ハケ：9。外面観 ハケ、内面斜めナデ。	
第122回 PL.77	14	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 基底部、胴一部	口 径 底 径	13.0 13.5 器 高 突 帯 形 状	一 ①M ~ ②台	10.5/8.4/-	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：普通、ハケ：7。外面観 ハケ、内面斜めナデ。胴部に1対の透孔下端所残存。	1と同一個体 か
第122回 PL.77	15	円筒埴輪 円筒形 埴丘底部 口縁部一部欠	口 径 底 径	12.4 13.6 器 高 突 帯 形 状	一 ①M ~ ②台	28.0 29.0 13.2 ~ 15.6/8.0/7.5 ③M	胎土：A、色調：浅黄褐、焼成：普通、ハケ：7。外面観 ハケ、内面斜めナデ後突起部横位ナデ。口縁端部ヨコナデ。 胴部1対の円孔。	歪む
種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第122回 PL.77	16	直通器皿 口縁部上半欠	口 径 底 径	10.2 22.8 器 高 突 帯 形 状	21.1 細砂粒/選元灰/灰 ④台		底部から胴下部は叩き継ぎ成形、上部から口縁部はロク 口整地。回転は右回り。口縁部に波状文を施し、胴部から 底部はカーメ、一部に平行甲子痕がみられる。内面は底部 から胴下位に同心円状アーチ模様が残る。断面は圓錐化状 態。	
種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値等			基底部長/胴部長/ 口縁部長	成形・整形の特徴	備考
第123回 PL.77	17	円筒埴輪 円筒形 周溝内 ほぼ完形	口 径 底 径	21.8 11.6 器 高 突 帯 形 状	35.8 36.4 ①M ~ ②台 ~ M	11.7 ~ 12.2/11.2 ~ 11.8/11.2 ~ 13.6	胎土：B 1、色調：褐、焼成：良好、ハケ：20。外面観ハ ケ。内面下半ナデで、上半は斜面ハケ。口縁端部ヨコナデ 。一对の円孔は梢円形と円形。基底部1/3程の焼成不十分の 黒変部は消失する。線刻は施されない。	難観なし
第123回 PL.77	18	円筒埴輪 円筒形 周溝内 ほぼ完形	口 径 底 径	20.7 12.2 器 高 突 帯 形 状	38.0 ~ 39.6 ①台 ~ ②台	13.6 ~ 14.4/11.3 ~ 12.0/12.3 ~ 13.8	胎土：B 1、色調：褐、焼成：普通、ハケ：18。外面観位ハケ 。内面下半ナデで、上半は斜面ハケ。口縁端部ヨコナデ 。一对の円孔はやや歪。一段目の変位位置高い。外面 の一部表面の剥離著しい。口縁部内面に「-」の線刻。	
第123回 PL.77	19	円筒埴輪 円筒形 周溝内 完形	口 径 底 径	22.9 11.7 器 高 突 帯 形 状	35.3 ~ 35.9 ①台 ~ ②台	10.0 ~ 10.9/12.0 ~ 12.9/11.4 ~ 12.7	胎土：B 2、色調：明赤褐、焼成：ハケ：22。外面観位ハケ 。内面基底部はナデで、2段目以上は斜位ハケ。口縁端部付 近の内面は横位に近いハケ。口縁端部ヨコナデ。一对の 円孔は上部が直線的で半円に近い。口縁部内面に「-」の 線刻。	基底端部内外 面指揮せナダ

掲載遺物観察表

種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値等			基底部/側部/口縁部	成形・整形の特徴	備考
			口径 径 底径 厚	高さ 突起 帶 形状	内面 下部 形状			
第123回 PL.78	20 円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部一部欠	口径 径 底径 厚	40.1 ~ 12.3	13.4 ~ 14.2/13.5 ~ 14.0/12.8 ①台 ②台	基土：B 1、色調：浅黄褐。焼成：普通。ハケ：18. 外面は縱位ハケ。内面下部はナデで、上半は斜位ハケ。口縁部はヨコナデ。1段目の突起はやや蛇行し、貼付位置は高い。一对の円孔は楕円形気味。線刻は認められないが、内孔上方の縁部は一部欠損のため、欠損部に線刻が存在した可能性あり。		
第124回 PL.78	21 円筒埴輪 円筒形	周溝内 ほぼ完形	口径 径 底径 厚	37.0 37.8 ~ 12.6	11.7 ~ 12.3/12.4/12.9 ~ 13.0 ①M ②M △	基土：B 1、色調：に赤い黄褐。焼成：普通。ハケ：20. 外面は縱位ハケ。内面基底部はナデで、2段目以上は斜位ハケ。口縁端部付近の内面は横位に近いハケ。基底端部は火裏と思われる黒変部があるが、欠失していない。一对の円孔は整った形状。口縁部内面に「-」の線刻。		線刻なししか
第124回 PL.78	22 円筒埴輪 円筒形	周溝内 一部欠	口径 径 底径 厚	38.1 39.3 ~ 12.0	12.1/12.8 ~ 13.0/13.1 ~ 14.0 ①台 ②台 ~△	基土：B 2、色調：橙。焼成：普通。ハケ：20. 外面は縱ハケ。内面下部はナデで、上半は斜位ハケ。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は楕円形と円形。口縁部内面に「-」の線刻。		基底端部内外面指印え状ナデ
第124回 PL.78	23 円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部と基底部 の一部欠	口径 径 底径 厚	37.7 38.3 ~ 25.1 12.9	11.8 ~ 12.8/13.6 ~ 14.5/11.5 ~ ①M ②M △	基土：B 1、色調：に赤い黄褐。焼成：普通。ハケ：20. 外面は縱位ハケ。基底端部内面は横位ハケ。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は楕円形。2条の帯部は整う。口縁部内面に「-」の線刻。		基底端部内面 へラケズリ
第124回 PL.78	24 円筒埴輪 円筒形	周溝内 一部欠	口径 径 底径 厚	35.2 36.8 ~ 22.0 13.2	9.4 ~ 10.0/13.6/12.3 ~ 13.8 ①M ②M △	基土：B 1、色調：明黄褐。焼成：普通。ハケ：20. 外面は縱位ハケ。内面基底部はナデで、2段目以上は斜位ハケ。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は整う。口縁部内面に「-」の線刻。		
第125回 PL.79	25 円筒埴輪 円筒形	周溝内 一部欠	口径 径 底径 厚	36.0 37.6 ~ 25.3 13.8	11.6 ~ 11.7/11.9 ~ 12.2/13.0 ~ ①台 ②台 △	基土：B 1、色調：橙。焼成：普通。ハケ：18. 外面は縱位ハケ。内面下部はナデで、上半は斜位ハケ。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は整っている。一方の基部は剥離が著しい。線刻は口縁部内面に長脚の「-」。		
第125回 PL.79	26 円筒埴輪 円筒形	周溝内 基底端部一部欠	口径 径 底径 厚	37.4 38.1 ~ 21.2 14.4	11.1 ~ 11.5/14.2 ~ 15.0/11.2 ~ ①△ ②台 △	基土：B 1、色調：橙。焼成：良好。ハケ：22. 外面は縱位ハケ。基底端部内面はナデで、2段目以上は斜位ハケ。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は歪。基底端部の黒変部は欠失。やや硬質に感じあるが。口縁部外側に「○」の線刻		
第125回 PL.79	27 円筒埴輪 円筒形	周溝内 一部欠	口径 径 底径 厚	36.0 36.8 ~ 25.1 (12.0)	11.6 ~ 12.0/12.1 ~ 12.3/11.8 ~ ①M △ △	基土：B 1、色調：浅黄。焼成：普通。ハケ：18. 外面は縱位ハケ。基底端部内面はナデで、2段目以上は斜位ハケ。口縁端部は半片横位ハケ。口縁端部はヨコナデ。2段目帯部中央、部分的に調整が及んでいた箇所が断続的な窪みとなる。基底端部付近の黒変部は欠失。口縁部外側に「○」の線刻。		
第126回 PL.79	28 円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部一部欠	口径 径 底径 厚	36.6 ~ 21.4 11.0	12.4 ~ 13.4/11.4 ~ 11.7/13.0 ~ ①台 ②台 △	基土：B 1、色調：橙。焼成：普通。ハケ：22. 外面は縱位ハケ。内面下部はナデで、上半は斜位ハケ。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は整う。口縁部内面に「-」の線刻。一方の外表面の器表の一部剥離。		
第125回 PL.79	29 円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部一部欠	口径 径 底径 厚	36.2 37.9 ~ 23.6 13.4	11.7 ~ 14.2/107.8 ~ 11.4/12.4 ~ 13.3 ②M ②M △	基土：B 2、色調：橙。焼成：普通。ハケ：20. 外面は縱位ハケ。内面はナデで口縁部内面は斜めハケ。1段目突起付け時に張り出した内面器表を指印する。口縁端部はヨコナデ。一对の円孔は楕円形。口縁部内面に「-」の線刻。基底端部内面の1/2をヘラケズリ。基底端部外側の3カ所に指印え状ナデ。		基底端部内外面 へラケズリ
第126回 PL.80	30 円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部1/3欠	口径 径 底径 厚	35.8 36.4 ~ 23.8 12.5	11.6 ~ 12.6/12.4 ~ 12.6/10.7 ~ ①台 12.3 △	基土：B 1、色調：明黄褐。焼成：普通。ハケ：18. 外面は縱位ハケ。基底端部内面はナデで、二段目以上の内面は斜めハケ。口縁端部はヨコナデ。基底端部外側の3カ所に指印え状ナデ。		基底端部内面 へラケズリ
第126回 PL.80	31 円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部一部欠	口径 径 底径 厚	38.0 38.9 ~ 23.2 13.1	14.2 ~ 14.7/12.4 ~ 12.6/11.2 ~ ①台 ②台 11.9	基土：B 1、色調：明黄褐。焼成：普通。ハケ：20. 外面は縱位ハケ。基底端部内面はナデで、二段目以上の内面は斜めハケ。口縁端部はヨコナデ。基底端部外側の3カ所に指印え状ナデ。		

揭露遺物観察表

拂 国 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値等			基底部長/側部長/ 口縁部長	成形・整形の特徴	備考	
				口 径 徑 底 徑	器 高 突 帶 形 狀	12.3				
第126回 Pl. 80	32	円筒埴輪 円筒形	周溝内 口縁部一部欠	口 径 徑 底 徑	22.3	35.3 ~ 35.6 10.1 2M	11.4/13.4 ~ 14.0/10.1 ~ 10.6	胎土：B 2。色調：桜。焼成：普通。ハケ：20。外面は複数の凹部。基底内部はナデで、2段目以上は斜めハケ。口縁部端部はヨコナデ。一对の円孔は比較的整う。2条の突帯はやや蛇行。口縁部内面に「一」の線刻。		
第126回 Pl. 80	33	円筒埴輪 円筒形	周溝内 一部欠	口 径 徑 底 徑	22.7	40.0 ~ 40.9 10.1 2M	13.2/13.9 ~ 14.3/13.4 ~ 13.5	胎土：B 2 + B 1。色調：桜。焼成：普通。ハケ：20。外面は複数の凹部。内面下半はナデで、上半は斜めハケ。口縁部端部はヨコナデ。2段目突帯の一部に布厚壁。本体が胎土B 2で2つの突帯と共に縁端部の胎土B 1を使用。口縁部内面に「一」の記号。	二色の素地を使用	
第127回 Pl. 81	34	円筒埴輪 朝顔形	周溝内 口縁部一部欠	口 径 徑 底 徑	28.6 ~ 29.2 10.8 12.5	48.5 ~ 49.6 10.1 2M	-/-/-	外面彫ハケで、ほぼ中央にあたる2段目でハケメを細いでいる。内面は基底部から口縁部下位まで斜めナデ。口縁部内面は斜めから横ハケ。口縁部端部はヨコナデ。口縁部内面下位の調整はハケ後ナデ。一对の円孔は上部の丸みが弱く、半円のようなへラ使用。		
第127回 Pl. 81	35	円筒埴輪 朝顔形	周溝内 口縁部と基底部 一部欠	口 径 徑 底 徑	29.0 ~ 29.5 12.0 12.5	50.5 ~ 51.8 10.1 2M	-/-/-	外面彫ハケで、ほぼ中央にあたる2段目でハケメを細いでいる。内面は基底部から口縁部まで斜めナデ。口縁部内面はハケめハケの後斜めナデ調整でハケメ僅かに残る。口縁部端部はヨコナデ。ナデ。一对の円孔は整った円形。		
第127回 Pl. 81	36	円筒埴輪 朝顔形	周溝内 口縁部と基底部 一部欠	口 径 徑 底 徑	30.3 ~ 31.0 12.0 12.5	52.1 ~ 53.4 10.1 2M	-/-/-	外面彫ハケで、ほぼ中央にあたる2段目でハケメを細いでいる。内面は基底部から口縁部中位まで斜めナデ。口縁部上位内面は斜めハケ。口縁部内面はハケメ僅かに残る。口縁部端部はヨコナデ。ナデ。一对の円孔は整った円形。	口縁部内面素地補修	
第127回 Pl. 81	37	円筒埴輪 朝顔形	周溝内 頭部一部欠	口 径 徑 底 徑	29.5 ~ 30.5 13.0 13.6	51.1 ~ 51.8 10.1 2M	-/-/-	外面彫ハケで、ほぼ中央にあたる2段目でハケメを細いでいる。内面は基底部から口縁部下端まで斜めナデ。口縁部内面は斜めハケ。口縁部端部はヨコナデ。一对の円孔は整った円形。		
第129~ 131回 Pl. 83~ 87	38	形象埴輪 馬形	周溝内 一部欠	全 長 高 さ	79.3 86.0	幅 突 帶 形 狀	22.8 -	-/-/-	胎土：B 1。焼成：普通。飾り馬で全体形状がぼんわかっている。脚に蹄の表現なく、切間内接合技法で作成。赤色塗採あり。	赤色塗採
第132~ 133回 Pl. 88~ 89	39	形象埴輪 人物	周溝内 頭部欠失	高 さ	33.2	底 突 帶 形 狀	13.0 -	-/-/-	胎土：B 1。焼成：普通。頭部欠失するが、下げ美豆良は剥落していたものが接合。両腕の所作なし。刀子と鎌を所持。馬子であろう。赤色塗採あり。	赤色塗採
拂 国 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等		成形・整形の特徴		備考	
第134回 Pl. 90	40	須恵器 直口壺	完形	口 徑	9.9 6.3	11.9 14.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい焰	須恵部は頭部に口縁部を接合。口縁部は右回り。口縁部上半に波状紋。下半に4条の横筋。頭部の中位に手持ちわら削り後ナデで削痕を消している。外側面とも焼成後。		
第134回 Pl. 90	41	須恵器 瓶	完形	口 徑	7.3 21.0	12.9 高 23.4	細砂粒・還元焰/灰 の粘土板で閉塞し。口縁部把手を貼付。側面から表面側はカキメ、裏面はナデ。頭部と内面の一部に崩灰が付着。	口ロコ整形、回転は右回り。頭部平坦面を粘土板で成形後頭部を口ロコ整形。球状の正面側に斜り込み。径 8cmほどの粘土板で閉塞し。口縁部把手を貼付。側面から表面側はカキメ、裏面はナデ。頭部と内面の一部に崩灰が付着。		

## B下水田

第138回 Pl. 90	1	須恵器 甕	口縁部~底部片	頭	27.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい焰	口縁部は頭部に貼付。口縁部はロクロ整形。回転は右回り。口縁部上位に2段の波状紋。中位はカキメ。下位はヘラナデ。内面は回転ヘラ削り。	
第138回 Pl. 90	2	須恵器 甕	口縁部~天井片	口 徑	13.0	細砂粒・還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部はロクロ整形。球状の正面側に斜り込み。径 8cmほどの粘土板で閉塞し。口縁部把手を貼付。側面から表面側はカキメ、裏面はナデ。頭部と内面の一部に崩灰が付着。	
第138回 Pl. 90	3	鉄製品 不明	一部欠損	長 幅	(4.5) 厚 21.0 高 1.0 重 7.1	0.6	劣化が進む鉄製品。中程より曲がるが詳細不明。断面は長方形に近い小判形。	

## 1号溝

第149回 Pl. 90	1	土師器 桶	口縁部~底部片	口 徑	9.8 8.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底下から底部は手持ちわら削り。	杯蓋類似
第149回 Pl. 90	2	土師器 桶	口縁部片	口 徑	19.4	細砂粒/良好/明赤	口縁部は内外面とも横ナデ。口縁部は平坦面を作る。	

掲載遺物観察表

掲 図 PL.No.	No.	種 類 器 類	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
				口 径 径 径	一 器 高 径	一 器 高 径			
第149回	3	中国磁器 白磁碗	覆土 口縁部片	10.8 9.8	— —	— —	淡黄	口縁部端部小さく外反。口縁部外面小さく窪む。内外面貫入の入る透明釉。大空府分類V-4類、又はVII-1から3類。	12世紀中葉～ 後葉
第149回	4	鉄製品 不明	一部欠損	長 幅 幅	3.8 2.2 1.8	厚 重 重	0.6 3.9 1.8	新しい欠けは見られないが、元は別の形をしていたものと思われる。	
第149回 PL.90	5	鉄製品 耳環	完形	縦 幅 幅	2.2 1.8 1.8	厚 重 重	0.3 1.7 1.7	細めの耳環。全体に劣化が見られ、金などの残存は見られない。	
第149回 PL.90	6	白玉	孔 孔 孔	1.2 孔 孔	高 長 径	0.7 0.4 0.4	0.7 滑石 滑石	上下内側とも摩耗。原条痕の累は見られない。体部の巣位整形痕も摩耗して跡跡程度。孔径は3mm弱。	
第149回 PL.90	7	白玉	幅 幅 幅	1.4 1.3 1.3	厚 重 重	0.4 0.8 0.8	滑石	上面側を粗く研磨。下面側は研磨面というより摩耗面に近い。孔径は2.5mmほど。体部は手持ち研磨、鍛なり作り。	
第149回 PL.90	8	白玉	孔 孔 孔	1.8 孔 孔	高 長 径	1.0 0.7 0.3	0.7 滑石 滑石	上下内側とも粗く研磨。体部は巣位研磨痕が残る。孔径は2～2.5mm前後。断面は右迂側が厚く、片傾斜となる。	
3号溝									
第149回	1	上部器 杯	口縁部～底部片	口 径 径	10.8 9.8	— —	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	有段口縁杯
第149回	2	上部器 杯	口縁部～底部片	口 径 径	11.8 11.1	— —	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第149回 PL.90	3	上部器 杯	4/5	口 径 径	11.8 高 11.2	高 5.3	3.9 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。表面摩耗のため単位不明。	杯蓋模倣
第149回 PL.90	4	上部器 杯	1/2	口 径 径	14.4 高 5.3	— —	細砂粒/良好/明闇	内面全面黒処理。口縁部は横ナデ。体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から口縁部(口縫部手前)までヘラミガキ。表面摩耗のため単位不明。	内斜口縁杯
第149回	5	大型杯	口縁部～体部片	口 径 径	23.8 20.1	— —	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下部は手持ちヘラ削り。	
第149回	6	須恵器 杯蓋	口縁部～天井部 片	口 径 径	12.0	— —	細砂粒/還元焰/灰 灰	クロロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第149回 PL.90	7	須恵器 杯蓋	1/3	口 径 径	12.4 高 4.2	— —	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第149回 PL.90	8	須恵器 杯蓋	1/4	口 径 径	13.6 高 12.6	高 4.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	杯身の可能性もある
第149回	9	須恵器 杯蓋	口縁部～天井部 片	口 径 径	15.8	— —	細砂粒/還元焰/灰 灰	クロロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。口縫部は下方に引き出されている。	
第149回	10	須恵器 杯身	口縁部～底部片	口 径 径	12.0 蓋 13.6	— —	細砂粒/還元焰/暗 灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削りか。	
第149回	11	須恵器 杯身	口縁部～体部片	口 径 径	12.0 蓋 14.0	— —	細砂粒/還元焰/暗 灰	クロロ整形、回転は右回り。	
第149回 PL.90	12	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 径 径	11.8 6.9	2.9	細砂粒/還元焰/灰 灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第149回	13	須恵器 杯	1/4	口 径 径	12.4 高 6.8	3.0	細砂粒/還元焰/淡 灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第149回 PL.90	14	須恵器 杯	1/4	口 径 径	12.8 7.3	2.6	細砂粒(黒色粒)/ 還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第149回	15	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 径 径	12.8	— —	細砂粒/還元焰/灰 白	クロロ整形、回転は右回り。	
第149回	16	須恵器 杯	底部～体部片	底 底	7.0	— —	細砂粒/還元焰/灰 灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ起こし後回転ヘラ削り。	
第149回	17	須恵器 杯	底部	底	6.5	— —	細砂粒/還元焰/に ぶ~黄	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第149回	18	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 径 径	13.6	— —	細砂粒/還元焰/灰 黄	クロロ整形、回転は右回り。	
第149回 PL.90	19	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 径 径	14.6	— —	細砂粒/還元焰/淡 黄	クロロ整形、回転は右回り。	
第149回	20	須恵器 杯	口縁部片	口 径 径	15.8	— —	細砂粒/醸化焰/淡 黄	クロロ整形、回転は右回り。	
第149回 PL.90	21	須恵器 杯	底部～体部片	底 底	6.7	— —	細砂粒/醸化焰/明 焰	クロロ整形、回転は右回りか。高台は貼付、底部の整形不明。	
第149回	22	須恵器 杯	底部～体部片	底 底	6.6 6.0	— —	細砂粒/醸化焰/に ぶ~黄橙	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第150回	23	須恵器 杯	底 底	底 台	8.8 9.2	— —	細砂粒/還元焰/灰 灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第150回 PL.91	24	須恵器 杯	底 底	底 台	9.6 9.8	— —	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第150回	25	須恵器 高杯	脚部片	脚 脚	11.9	— —	細砂粒/還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。脚端部は面を作り、上端部が上方に引き出されている。柱状部中程に2条の凹線を巡らせ、その上に2段の透孔を下方に穿つ。	

## 掲載遺物観察表

No. PL.No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第150回 PL.91	須恵器 高杯	脚部～杯部底部 脚部	脚 11.4 脚 11.7	細砂粒/還元焰/灰 細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚部は貼付。脚端部は下方に引き出し、屈曲部は凹縫を巡らす。脚部上半には透孔を2方に有り。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	脚部	脚 14.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部に凸縫を貼付。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	脚部～胸部片	脚 15.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胸部下位はヘラ削り。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片	口 17.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。口脣端部は上方に引き出されている。内面はハナナデ。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部～胸部片	口 20.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は面を作り、口脣部下に断面三角形の凸縫を貼付。口縁部は波状文を施す。内面は胸部にハナナデ。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	頭部～胸部片	頭 9.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。胸部上位に回転ヘラ削り、中位から下位はナデ。内面は胸部下半が回転ヘラナデ。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	底部～胸部下位 底	底 12.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転力不明。底部とその周縁はヘラ削り。内面は底部から胸部にハナナデ。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片	口 21.8	細砂粒/良好/橙	ロクロ部は内外面とも横ナデ。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部	口 22.8	多量の細砂粒・粗 砂粒(片岩)/良好/ 明赤褐	ロクロ部は内外面とも横ナデ。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片	口 26.8	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は面を作り、口脣部下に断面三角形の凸縫を貼付。外面上にはよく隕灰が付着。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片		細砂粒/酸化焰さ み/にぶい相	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は面を作り口脣部下に凸縫を貼付。口縁部は断面による区画、区画内に波状文が巡る。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰灰	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は内削し、口脣部下に凸縫を貼付。口縁部は2段以上の波状文を巡る。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は面を作。断面は酸化焰施。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片		細砂粒/酸化焰に ふく黄相	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は面を作り、端部をや上方に引き出される。内面に鋸削。			
第150回 PL.91	須恵器 高杯	口縁部片		細砂粒/酸化焰に ふく黄相	ロクロ整形、回転は右回り。口脣部は平坦面を作る。			
第151回 PL.91	輪輪 円筒か	基底部片		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰(良好)/相	外面はハナメ(2cm当たり10本)、内面は縦方向ナデ。底面はヘラ削り。			
4号溝								
第151回	1 須恵器 高杯	脚部片	脚 13.0	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部は面を作る。基部上位に1条の凹縫を巡らす。柱状部に透孔を2つ、3方か。			
第151回	2 須恵器 高杯	脚部	脚 13.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部は面を作る。基部上位に1条の凹縫を巡らす。柱状部に透孔を2つ、3方か。			
9号溝								
第151回	1 在地系土器 片口跡	口縁部片	口 径 底 径	— 器 高 —	灰白	断面中央部分は浅黃褐色に近い。器表付近は還元焼成。内面は使用により黒帯摩滅。底部切り離し技法不明。	中世	
10号溝								
第151回	1 製作地不詳 磁器 碗	腹上 1/4	口 径 底 径	— (4.7)	— 器 高 —	白	外面型紙捺り。底部内面1重圓錐内に型紙による三足。	近現代
第151回	2 漢灰・美濃 陶器 鉢底皿	腹上 1/4	口 径 底 径	(12.0) (8.2)	器 高 —	2.2 灰白	内面に鉄鉻。内面から高台外間に長石触か。焼成不良。	17世紀。
第151回	3 在地系土器 片口跡	口縁部片	口 径 底 径	—	器 高 —	灰	断面から器表付近は黒色。器壁は厚めで口縁部は玉縁状を呈する。口縁端部は上方に尖り気味となる。	13世紀か
第151回	4 在地系土器 片口跡	体部から底部片	口 径 底 径	—	器 高 —	灰	断面から器表付近は黒色。底部回転条切後、周縁のナデ。	3と同一個体か
第151回	5 在地系土器 焰培か	腹上 口縁部から体部 片	口 径 底 径	—	器 高 —	暗灰	断面灰白色。口縁部は内湾汽味であるが、体部外間に型作り痕らしき痕跡が認められる。	江戸時代か
第151回	6 上製品 円盤状	腹上 完形	長 径 短 径	4.8 4.5	厚 さ —	0.5 黑褐	上器片の周縁を確か叩打して円盤状に加工。	中世以降か
第151回	7 製作地不詳 磁器 車	腹上 1/4	外 径 内 径	(8.4) (2.0)	厚 さ —	2.0 灰白	器全体に擦れていますが、芯と敷居にあたる部分は顕著な擦れ。	18世紀～19世紀

掲載遺物観察表

種類 器種 No.	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
		外径 2,432	厚 0.149			
第151回 PL.91	8 元豊通寶	完形	内径 1,919	重 3.2	面、背ともに彫は深く輪、郭は明瞭だが、面の文字はやや 潰れる。	
15号溝						
第151回 I	有地系土器 片口鉢	覆土 底部片	口 径或 底 径 —	— —	灰白	体部下片で内面の器表僅かに摩滅。
20号溝						
第151回 I	上師器 杯	口縁部～底部片	口 径 13.7	細砂粒/良好/にぶ い繊維	口縁部は壇ナデ。稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部 中位に段を作る。	有段口縁杯
第151回 2	須恵器 杯身	C 蓋受	11.9 14.2	3.8 細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第151回 3	須恵器 盤	制部片	9.5	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚部上位はヘラ削り、中程に 門眼を設けし、その部位に刻文を巡らす。	
第151回 4	上師器 小笠甌	口縁部～制部上 位片	口 径 12.1	細砂粒/良好/にぶ い繊維	口縁部は壇ナデ、脚部はヘラ削り、内面は脚部にヘラナデ、 脚部下に粘土磁合を上げ時の押さえ痕が残る。	
第151回 5	須恵器 瓶	底部片	底 径 12.3	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り、高台 には貼付が削落。	
22号溝						
第151回 I	須恵器 甌	口縁部片	口 径 27.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	口縁部はロクロ整形、回転は右回りか。口肩端部は上方に 引き出され、平田面を作り、波状文を巡らすその下位に凸 部を貼付。口縁部1・2条門眼による区画。区画内に波状 文を巡らす。	
2号埋設土器						
第152回 PL.91	1 國文土器 深鉢	銅～底部1/5	底 径 9.7	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう/	隣線による脚部懸垂文を施し、LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 4式
3号埋設土器						
第152回 PL.91	2 國文土器 深鉢	底部破片	底 径 7.0	粗砂/ふつう/	LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第152回 PL.91	3 國文土器 深鉢	底部破片	底 径 7.0	粗砂、輝石/ふつ う/	LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 3式
遺物集中						
第154回 PL.91	1 國文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、赤色粒、繡 羅/ふつう/	波状口縁。齒状工具による刺突列を口縁部に3条めぐら す。	有尾式
第154回 PL.91	2 國文土器 深鉢	理上 制部破片		粗砂、赤色粒、繡 羅/ふつう/	LR、繡羅文を羽状文施文する。	有尾式
第154回 PL.91	3 國文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/良 好/	波状口縁。口縁部を高く内凹する。横位、弧状の浮線を施 す。地間に粗羅文を横位施文。	諸磯り式
第154回 PL.91	4 國文土器 深鉢	理上、44%建 制部破片		粗砂、纏羅/良好/	横位多筋に浮線を施す。浮線の朝みはC字状刺突とする。	諸磯り式
第154回 PL.91	5 國文土器 深鉢	制部破片		粗砂、輝石/良好/	横位多筋に浮線を施す。	諸磯り式
第154回 PL.91	6 國文土器 深鉢	理上 制部破片		粗砂/良好/	横位、済巣状の浮線を施す。地間にLR横文を横位施文。	諸磯り式
第154回 PL.91	7 國文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/ふつう/	縦位の浮線をめぐらす。地間に斜位の集合沈線を施文。口 縁内部に壓迫せす。肥厚部分にも縦位浮線を施す。	諸磯り式
第154回 PL.91	8 國文土器 深鉢	口縁部破片		粗砂/良好/	波状口縁。口縁下に円形刺突めぐらし。以下、2条沈線 による逆U字状文を施し、LR横文を充填施文する。	加曾利E 3式
第154回 PL.92	9 國文土器 深鉢	口縁部破片		粗砂/良好/	横状突起をめぐらす。沈線をめぐらして口縁部無文帶 を区画。以下、対する弧状の逆U字状文を施し、粗羅文 を充填施文する。	加曾利E 3式
第154回 PL.92	10 國文土器 深鉢	理上 制部破片		粗砂/ふつう/	沈線による制部懸垂文を施し、LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第154回 PL.92	11 國文土器 深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう/	沈線による制部懸垂文を施し、LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第154回 PL.92	12 國文土器 深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好/	制中位ですばまる筋。制上位にU字状文、下位にレンズ状 文を施位に進ね、LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第154回 PL.92	13 國文土器 深鉢	理上、44%建 制部破片		粗砂/良好/	制中位ですばまる筋。沈線による懸垂文、上下に横円状 文を施し、粗羅文を充填施文する。	加曾利E 3式
第154回 PL.92	14 國文土器 深鉢	理上、44%建 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好/	制中位ですばまる筋。制上位にU字状文、下位にレンズ状 文を施位に進ね、LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第154回 PL.92	15 國文土器 深鉢	理上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う/	制中位ですばまる筋。沈線による懸垂文、U字状、逆U 字状文を施し、LR横文を充填施文する。	加曾利E 4式
第155回 PL.92	16 國文土器 深鉢	理上 口縁～制部破片	口 (44.0)	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう/	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、沈線に よる懸垂文を施し、LR横文を縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第155回 PL.92	17 國文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	波状口縁。波状部下に突起をめぐらす。口縁に沿って波紋をめ ぐらして口縁部無文帯を区画。以下、U字状文を横位に進 ね、粗羅文を充填施文する。	加曾利E 4式
第155回 PL.92	18 國文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好/	波状口縁。内凹する口縁部に2条の沈線をめぐらす。	高井東式

## 掲載遺物観察表

No.	種類 PL.No.	出土位置 器種 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第155回 PL.92	19 滅文土器 深鉢	理上 胴部破片		粗砂、細繩、鋸石 /良好/	龍継による胴部壓垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。加曾利E 4式	
第155回 PL.92	20 打製石斧	長幅 長幅	8.3厚 5.3重 113.3	2.0	粗鈍輝石安山岩	表面とも摩耗が著しい。器体中央付近で破損。上端側が若干だが開き気味で、両端が刃部となることも想定できます。
21号土坑						
第166回	1 堀輪 円筒	突部片		粗砂粒/焼成焰(良好)/粗	外面はハケメ、器面摩滅のため単位不鮮明。突部(M字状)は貼付し上下にナデ。内面はハケメか。	
22号土坑						
第166回	2 堀輪 円筒	底部片		粗砂粒/焼成焰(良好)/粗	外面はハケメ、器面摩滅のため単位不鮮明。底面はヘラナデ。内面はヘラナデ。	
29号土坑						
第166回	3 頭忠器 機	底部	底 7.2	粗砂粒・粗砂粒/ 焼成焰・赤褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付時に回転ナラズ。	
35号土坑						
第166回	4 頭忠器 杯	口縁部~底部片 底 7.0	11.6高 2.9	粗砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
53号土坑						
第166回 PL.93	5 上飾器 鉢	1/4	口 底 20.0高 6.0	12.6粗砂粒・粗砂粒/ 良好/明黄褐	口縁部と底部はハニミガキ。頭部にはハケメが残る。底部はヘラ削り。内面は底部から全体にヘラナデ、器面摩滅のため単位不明。	
第166回	6 上飾器 鉢	口縁部片		砂粒・粗砂粒/良 好/粗	口縁部は外面が対方向、内面は斜め方向のヘニミガキ。	
第166回	7 台形費 鉢	口縁部~颈部片	口 16.8	粗砂粒/良好/暗灰 褐	口縁部は横ナデ、頭部はハケメ。	
54号土坑						
第166回	8 上飾器 鉢	口縁部~胴部上位片	口 24.4	粗砂粒・粗砂粒(片 岩)/良好/粗	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
55号土坑						
第166回 PL.92	9 滅文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、細繩/良好/	龍継による口縁部横状区画を施し、RL縦文を充填施文する。加曾利E 3式	
第166回 PL.92	10 滅文土器 深鉢	理上 胴部破片		粗砂/良好/	横位浮縫をめぐらす。地文に無限Lr縦文を横位施文。	諸磯i式
第166回 PL.92	11 滅文土器 深鉢	理上 胴部破片		粗砂/良好/	龍継による胴部壓垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。加曾利E 3式	
59号土坑						
第166回	12 駆皇室系青 磁 碗	体部下位片	口 径 底 徑 底 6.5 6.5	一 一 器 高 一 灰	残存内部外面無文。内外面青磁釉。大宰府分類I-1類か。	12世紀中葉~ 後葉
60号土坑						
第166回	13 頭忠器 杯盤	口縁部~天井部 片	口 12.8	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部は手持ちヘラ削り。	
97号土坑						
第166回 PL.92	14 頭忠器 碗	完形	口 底 11.4台 6.1高	6.0粗砂粒/焼成焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
98号土坑						
第166回 PL.93	15 滅文土器 深鉢	理上 胴部1/2		粗砂、白色粒/良 好/	龍継による胴部壓垂文を施し、無節Lr縦文を縦位充填施文する。無節龍文施文前に虹縦文を施した箇所が一部見られる。	加曾利E 3式
99号土坑						
第166回	16 黒色土器 碗	底部	底 台 6.6 6.4	粗砂粒/焼成焰/に ぶい黄褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周辺をナデ、高台は附付。内面は全面的にヘニミガキ。	
102号土坑						
第166回 PL.93	17 滅文土器 深鉢	理上 口縁部破片	口 (40.0)	粗砂、白色粒、脚 石/良好/	波状口縁。口縁部に無文帶を作出、波頂部下に円形刺突を施す。下位に縫帶による口縁部崩落文、横状区画、沈線による胴部壓垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。加曾利E 3式	
29号ピット						
第167回	1 上飾器 杯	1/3	口 11.2 10.6	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
遺構外						
第168回 PL.93	1 滅文土器 深鉢	表様 口縁部破片		粗砂、脚石、織繩 /良好/	斜位の痕を施し、円形刺突を多段に施す。口唇部に絞糸状压垂文を施す。	早期後半
第168回 PL.93	2 滅文土器 深鉢	298建 胴部破片		粗砂、赤色粒/ふ つう	横縫状工具による条縫を連弧状に施す。部分的に斜格子状に重なる。	神ノ木式
第168回 PL.93	3 滅文土器 深鉢	381土坑 胴部破片		粗砂、織繩/ふ つう	RL、RL縦文を羽状紋施文する。	有尾式
第168回 PL.93	4 滅文土器 深鉢	378建 口縁部破片		粗砂/良好/	RL縦文を横位施文する。	諸磯a式

掲載遺物観察表

No.	種類 PL. No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第168回	5 深鉢	168回	表土 口縁部破片		細砂/良好	LR縦文を横位施す。	諸磯a式
PL. 93							
第168回	6 深鉢	168回	14上坑 口縁部破片		粗砂/ふつう/	LR縦文を横位施す。	諸磯a式
PL. 93							
第168回	7 深鉢	168回	23多壁 口縁部破片		粗砂/良好/	LR縦文を横位施す。	諸磯a式
PL. 93							
第168回	8 深鉢	168回	19多壁 口縁部破片		粗砂/良好/	小波状口部で口縁が緩く内凹する。波部下に2個の刺突を施したボタン状浮出文を並列させ、浮縁をめぐらす。	諸磯a式
PL. 93							
第168回	9 深鉢	168回	28多壁 口縁部破片		粗砂、石英/良好/	横位、斜位の集合沈継を施す。	諸磯a式
PL. 93							
第168回	10 深鉢	168回	2面 口縁部破片		粗砂/ふつう/	波状口部で波底部へ抉り込みを施す。横位、弧状の浮縁を施す。地間に圓文を施す。	諸磯a式
PL. 93							
第168回	11 深文土器	168回	表土 口縁部破片		細砂/良好/	口縁が緩く内凹。横位、弧状の浮縁を施す。地間に圓文を施す。口部部に菱形状に素浮縁を施し、内部に羅位素浮縁を充填施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	12 深文土器	168回	32多壁 制御部片		粗砂/ふつう/	三角形に集合沈継を施し、内部に逆C字状文を配す。地間に虹縞文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	13 深文土器	168回	道柄外 制御部片		粗砂/良好/	浮縁を横位多段にめぐらす。地間に虹縞文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	14 深文土器	168回	2面、一括 口縁部破片		粗砂/良好/	口縁が緩く内凹。薄縁文を横位。菱形状。圓唇状に施す。地間に虹縞文を横位。口西部にも蛇行する素浮縁を施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	15 深文土器	168回	確認面 制御部片		粗砂、輝石/良好/	横位、弧状の集合沈継を施す。地間にLR縦文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	16 深文土器	168回	24多壁 制御部片		粗砂、輝石、石英 /良好/	横位集合沈継を施す。地間に虹縞文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	17 深文土器	168回	2面 制御部片		粗砂、白色粒/良好/	横位、弧状の浮縁を施す。地間にLR縦文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	18 深文土器	168回	表土 制御部片		粗砂/良好/	浮縁を横位多段にめぐらす。地間にLR縦文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	19 深文土器	168回	24多壁 制御部片		粗砂、輝石/良好/	横位、弧状の集合沈継を施す。地間にLR縦文を横位施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	20 深文土器	168回	12多壁振方 制御部片		粗砂、輝石/良好/	横位浮縁をめぐらす。地間に虹縞文を横位。2条の浮縁が見れるが、上位は削面状に刻みを施す。	諸磯b式
PL. 93							
第168回	21 深文土器	168回	24多壁 制御部片		粗砂、輝石、石英 /良好/	横位、輝石、石英のレジン状の集合沈継を施す。地間にLR縞文を横位施す。	諸磯c式
PL. 93							
第168回	22 深文土器	168回	24多壁 制御部片		粗砂/良好/	羅位、レジン状の集合沈継を施す。	諸磯c式
PL. 93							
第168回	23 深文土器	168回	表土 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	横位、渦巻状に筋割浮縁を施す。地間に集合沈継施す。	下島式
PL. 93							
第169回	24 深文土器	169回	3溝 口縁部破片		粗砂/ふつう/	縦帶による口縁部圓柱状区画を施し、虹縞文を充填施す。	加曾利E 3式
PL. 94							
第169回	25 深文土器	169回	2溝 口縁部破片		粗砂/良好/	横位縦帶をめぐらして口縁部圓柱状区画を施す。以下、沈継による横位円柱状文を施す。LR縦文を羅位充填施す。	加曾利E 3式
PL. 94							
第169回	26 深文土器	169回	24多壁 制御部片		粗砂/良好/	羅位、レジン状の集合沈継を施す。	諸磯c式
PL. 94							
第169回	27 深文土器	169回	24多壁 制御部片		粗砂、輝石/ふつう/	羅位、弧状の隕帶を施し、LR縦文を充填施す。	加曾利E 3式
PL. 94							
第169回	28 深文土器	169回	表土 制御部片		粗砂、輝石/良好/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。蛇形懸垂文を施す。	加曾利E 3式
PL. 94							
第169回	29 深文土器	169回	26多壁 制御部片		粗砂、輝石、輝石 /ふつう/	沈縫による制御部懸垂文を施し、複縫LR縦文を羅位充填施文。文字を施す。	加曾利E 3式
PL. 94							
第169回	30 深文土器	169回	B水井下2号下 レンチ 制御部片		粗砂、赤色粒/ふつう/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。加曾利E 3式	
PL. 94							
第169回	31 深文土器	169回	2面透構外 制御部片		粗砂、輝石/ふつう/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。蛇形懸垂文を施す。加曾利E 3式	
PL. 94							
第169回	32 深文土器	169回	透構外 制御部片		粗砂、赤色粒/良好/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。蛇形懸垂文を施す。加曾利E 3式	
PL. 94							
第169回	33 深文土器	169回	透構外 制御部片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。蛇形懸垂文を施す。加曾利E 3式	
PL. 94							
第169回	34 深文土器	169回	表土 制御部片		粗砂/良好/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。加曾利E 4式	
PL. 94							
第169回	35 深文土器	169回	透構外 制御部片		粗砂、輝石/ふつう/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を施す。加曾利E 4式	
PL. 94							
第169回	36 深文土器	169回	表土 制御部片		粗砂、白色粒、輝 石/良好/	沈縫による制御部懸垂文を施し、LR縦文を羅位充填施文。加曾利E 4式	
PL. 94							
第169回	37 深文土器	169回	表土 制御部片		粗砂/良好/	矢羽根状沈縫を充填施す。鄭上式	
PL. 94							
第169回	38 深文土器	169回	123ピット 制御部片		粗砂/良好/	縦帶による制御部懸垂文を施し、弧状沈縫を充填施す。鄭上式	
PL. 94							
第170回	39 深文土器	170回	As-B下 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	口縁部に押捺文をめぐらし、以下、沈縫による懸垂文を施す。縮之内I式	
PL. 94							

No.	種類 器種	出土位置 深さ	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	1墳 鉢部破片		粗砂/ふつう/	斜行する集合沈線を施す。	埴之内1式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	ブル試掘5号ト レンチ 鉢部破片		粗砂/良好/	縦位集合沈線を施す。	埴之内1式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	一括 口縁部破片		粗砂/ふつう/	口縁下に組線文をめぐらす。	加曾利B式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	水田下トレンチ 口縁部破片		粗砂、輝石/良好/	横位沈線をめぐらす。口縁内面に2条の沈線をめぐらす。	加曾利B 1式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	44	一括 口縁部破片	細砂、輝石、石英 /ふつう/	口縁部に左右非対称の突起を付す。斜位沈線を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	加曾利B 2式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	45	構造面 口縁部破片	粗砂/ふつう/	口縁下に横位沈線をめぐらし、以下、斜格子目文を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	加曾利B 2式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	46	2溝、表採 口縁部破片	粗砂/ふつう/	斜格子目文を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	加曾利B 2式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	47	2墳 鉢部破片	粗砂、輝石/ふつ う/	斜格子目文を施す。	加曾利B 2式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	48	一括 鉢部部片	細砂、織羅、輝石 /良好/	織羅、弧状の沈線を施し、LR織文を充填施する。内外面ミガホ形。	加曾利B 2式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	49	一括 口縁部破片	粗砂、輝石/良好/	斜格子目文を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。内面ミガホ形。	加曾利B 2式	
第170回 PL.94	圓文土器 深鉢	50	水田下、表採 口縁部破片	粗砂、輝石/良好/	穂く内屈する口縁部に無筋LR織文を施す。以下、無文。	上ノ段式	
第170回 PL.95	圓文土器 深鉢	51	3溝 口縁部突起	粗砂/良好/	円柱状の突起。隠帶をめぐらす。注口下部に2側の瘤状突起を並列させ、四輪、上端に沈線を施す。	高井東式	
第170回 PL.95	圓文土器 深鉢	52	3溝 注口部破片	粗砂/良好/	斜行する隠帶を施す。注口下部に2側の瘤状突起を並列させ、四輪、上端に沈線を施す。	後期	
第170回 PL.95	旁生土器 深鉢	53	15壁建 口縁部破片	粗砂/良好/	肥厚口縁。廉状文、波状文を施す。	縫式	
第170回 PL.95	旁生土器 深鉢	54	24壁建 口縁部破片	粗砂/良好/	肥厚口縁。肥厚部下端に刺突列をめぐらす。	縫式	
第170回 PL.95	旁生土器 深鉢	55	23壁建 鉢部部片	粗砂/良好/	縦筋の貼文を施し、横位沈線、円形突刺を施すボタン状貼文を付す。	縫式	
第170回 PL.95	旁生土器 深鉢	56	3溝 頭部部片	粗砂、織羅、輝石 /良好/	廉状文、波状文を施す。	縫式	
第171回 PL.95	土器 杯	57	口縁部~体部片 縫	口縁部 11.0 10.2	粗砂/良好/明赤 黒	口縁部は楕ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り直面摩滅のため顔付不明。	杯益模様
第171回 PL.95	土器 杯	58	口縁部~体部片 縫	口縁部 12.6 11.0	粗砂/良好/燒 黒	口縁部は楕ナデ、縫下部は手持ちヘラ削り。内外面とも焼し放焼。	有段口縁杯
第171回 PL.95	須恵器 杯身	59	口縁部~体部片 縫	口縁部 12.0 12.6	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ形態、回転は右回り。	
第171回 PL.95	須恵器 底部	60	底部~体部 縫	6.4 6.4	粗砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形態、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第171回 PL.95	土器 台付壺	61	底部~台部 縫		粗砂粒/良好/橙	台部と胴部の貼付方法不明。胴部から台部にかけてハケメ(1cm当たり4本)。内面は貼付、台部ともナデ。	
第171回 PL.95	須輪 形象か	62	基部凹円部か 基部凹円部		織羅/焼化粧(良 好)/明周	小片のため詳細不明。外表面はハケメ(2cm当たり16本)後残存部の上に突起を貼付し、その上下にナデ。内面はナデ。	
第171回 PL.95	須輪 門附	63	口縁部~第2突 片帶		織羅/粗砂粒/ 焼化粧(良好)/ 明周	口縁部はハケメ(2cm当たり12本)、突帯は貼付。上下はナデ。口縁部は横ナデ。内面はナデ。	
第171回 PL.95	須輪 門附	64	口縁部下位~胴 部上位片	口縁部 5.2	粗砂粒/粗砂粒/ 焼化粧(良好)/ に ふい縁	口縁部から胴部はハケメ(2cm当たり12本)、突帯は断面三角形状を貼付。内面はナデ。胴部に透孔を穿つ。	
第171回 PL.95	在地系土器 底部	65	口縁部 底部片	口 縁 5.2	器 高	底部左脚系切無調整。胴部内面に燐付着。	平安時代~中世
第171回 PL.95	圓窓室系内 底部片	66	口 縁 底部片	口 縁 5.2	器 高	底部内面無文。高台端部欠損し施釉範囲は不明瞭であるが、残存高台外表面までは施釉。内面から高台外表面内張釉。貫入する。高台内は圓窓。大空室分類窓I・II類か。	12世紀~13 世紀か
第171回 PL.95	在地系土器 口口鉢	67	口 縁 体部片	口 縁 5.2	器 高	内面すり目。内面使用による摩滅。	中世
第172回 PL.95	石礎	68	15壁建	長 幅 2.(1) 1.6 0.6	厚 0.3 0.4 0.5	門基無基座。先端部を欠損。基部側を大きくなり、傾いて返し部が付く。風化して剥離面は不明瞭だが、丁寧な作り。	
第172回 PL.95	石礎	69	31壁建	長 幅 2.(2.3) 1.6 1.1	厚 0.4 1.0 1.1	門基無基座。先端部に衝撃痕と崩壊があり、これを切り先端部再生が行われる。加工は丁寧で、押圧痕が全面を覆す。	
第172回 PL.95	石礎	70	43壁建	長 幅 2.8 1.2 1.1	厚 0.5 1.0 1.1	門基無基座。長身で、右切返し部をわざかに欠損する。加工は丁寧で、押圧痕が全面を覆す。	
第172回 PL.95	石礎	71	3溝	長 幅 (1.7) (1.0)	厚 0.3 0.3	門基無基座。先端部および左切返し部を欠損する。先端の欠損は衝撃痕前面に見える。押圧痕が全面を覆す。	

掲載遺物観察表

種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
石器	3溝	長 幅 厚 重	2.2 1.5 0.5 0.9 黒曜石	凸基平底器。体部は三角形を呈し、押圧痕が全面を覆う。茎は小さく、三角形状を呈す。	
石器	表上	長 幅 厚 重	(2.6) 1.3 0.5 1.2 黒曜石	凸基有茎器。先端部は使用中に欠損。再生を試みたもの。右辺削り返し部は削離が大き過ぎ反転加工を継続。基部側も再生に至る穴鉢。	
石器	31整建	長 幅 厚 重	(3.4) 3.8 (0.6) 6.5 黒色頁岩	幅広削りを用いる。器体上端は節理面様の広い平坦面となっている。削片端部は薄く、加工も粗粒的で、削片形状を大きく変えるものではない。	
石器	7整建	長 幅 厚 重	8.0 6.8 2.2 125 黒色頁岩	縦面が大きく残る幅広削片で、上端を薄く削離する。上端側面に凹凸に摩耗。ここが刃部であることが分かる。下端側面は円錐状削離に近い。	
石器	15整建	長 幅 厚 重	(5.4) (3.5) 1.3 29.9 黒色頁岩	短冊形。完成状態。風化して削離痕は確認できないが、肉眼では刃部が残る。頭部吸収。	
石器	15整建	長 幅 厚 重	(7.9) 4.7 2.3 49.2 細粒輝石安山岩	短冊形。完成状態。表面側中央と右側面に著しい削離痕。器体中央から破損。刃部形状や刃部摩耗は明らかでない。	
石器	31整建	長 幅 厚 重	8.7 4.1 1.5 55.6 黒色頁岩	短冊形。刃部摩耗および両側面の摩耗が著しい。小形で、石斧形状の最終段階に近い。裏面側頭部は被熱して削離。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	18.4 10.2 3.1 582.3 細粒輝石安山岩	完成状態。側縁が直線的に大きく開く。全面摩耗する状況で、ローリングを受けている可能性もある。	
石器	35整建	長 幅 厚 重	13.0 6.3 3.2 233.3 細粒輝石安山岩	短冊形。完成状態。刃部斜面は再生時に厚く削離をしてしまって、再生面上に失敗したものと思われる。右辺縫面にした跡には削離痕が残る。	
石器	41整建	長 幅 厚 重	(8.1) 4.5 1.2 54.8 細粒輝石安山岩	短冊形。完成状態。幅広削片を横位に用いて刃部を製作する。刃部および側縁が摩耗する。器体上半を欠損する。	
石器	82	長 幅 厚 重	(6.9) 5.1 1.7 82.5 細粒輝石安山岩	短冊形。完成状態。幅広削片を用いて、両側縁を浅く加工して石斧形を整える。両側面は弱く摩耗する。頭部上半部分を欠損する。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	(9.5) 7.1 2.5 156.9 細粒輝石安山岩	短冊形。完成状態。刃部が加工され、側縁の摩耗だけ良い残る。側縁を小さく抉るタイプの石斧。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	(8.6) 5.2 1.8 92.3 細粒輝石安山岩	短冊形。完成状態。表面裏面とも刃部摩耗が激しい。上半部を欠損する。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	(B.07) 4.5 1.7 86.9 砂質頁岩	短冊形。完成状態。刃部摩耗および側縁摩耗が著しい。上端部を欠損する。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	10.5 4.3 2.1 便面泥岩	短冊形。完成状態。上下両端に刃部があるタイプで、両端とも刃摩耗。上端側は直線的、下端側は側縁の刃状形態。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	9.8 5.4 1.9 116.3 砂質質済片岩	彫形。完成状態。刃部右辺裏面がわざわざに摩耗せずほか、側縁や刃部のエッジは新鮮。再生後は未使用か。	
石器	3溝	長 幅 厚 重	11.5 5.0 2.1 151.4 雲母石英片岩	短冊形。完成状態。刃部摩耗は部分的で、側縁は新鮮で、再生された可能性あり。石斧形状を被相。	
石器	36整建	長 幅 厚 重	10.2 4.8 3.6 290.4 便彫縫岩	角尖形。器体中央付近で破損。この破損面は風化して褐色を呈しているが、これを打面として刃部側面を新鮮な削離面が呈する。また、破損面は摩耗しているようであるが不明點。	
石器	2埴	長 幅 厚 重	(0.8) 11.2 (7.6) 989.3 緑色片岩	最大幅11cm・厚さ8mmを測る大型石棒。破損後、体部中央の左辺側が石棒横に残る。強く刃摩耗することから刃石棒に使用したもの。先端側は粗びき刃部側面が加熱されて新鮮な表面面と裏面面が薄く削離。原因不明。	
石器	91	長 幅 厚 重	(8.2) 2.3 2.6 88.7 灰石	上面使用。表面面からいたる使用面で研ぎ減る。内側面とも刀子状工具で整形され、粗く研削して形を整える。	
石器	92	長 幅 厚 重	11.8 7.2 3.4 358.0 灰石	「く」字状に呈する複数平面を用いる。裏のV字部および右側縁に削離、削離痕が残る。	
石器	43土坑	長 幅 厚 重	(2.5) (1.9) (1.0) 28.2 下明	体部破損。中央付近は光沢を帯び、摩耗が激しい。	
石器	一部欠損	長 幅 厚 重	6.6 1.1 0.6 5.4 6.0 10.0 4.0 336.6 鉄製品	劣化が見られる釘。脚部がわずかに欠損する。頭部の折り返しも明瞭ではない。	
石核		長 幅 厚 重	8.0 10.0 厚 336.6 細粒輝石安山岩	偏平梢円錐を用い、左辺側を削いた各邊で小形幅広削片を削離する。	

## 縄文土器非掲載点数一覧

第8表 縄文土器非掲載点数一覧

区	遺構%	遺構種	早期 黒浜 茶系	神 ノ木 ・	諸 磯 a	浮 磯 b	諸 磯 c	下 島	前期 後半	前期 未製	中期 中製	加 曾 利 E.3	加 曾 利 E.4	郷 土	縄 之内 I	高 井 東 ・	上 ノ 段	加 曾 利 B	後 期	弥 生	不明	合計	
1	19	堅穴建物		1							118	1										120	
1	20	堅穴建物		1							6											7	
3	44	堅穴建物		3	1			1			20											25	
3	45	堅穴建物									8											8	
3	55	土坑		1							3											4	
3	98	土坑									4											4	
3	102	土坑									2											2	
3	1	集中	2	13	2	1					99	6										3	126
1	6	上坑																				1	1
1	15	上坑																				1	1
1	20	上坑																				1	1
1	21	上坑																				1	1
1	22	上坑																				1	1
1	26	上坑																				4	4
1	31	上坑																				1	1
1	34	上坑																				1	1
1	35	上坑																				4	4
1	1	堅						1	1													4	4
1	2	堅																				3	3
1	3	堅																				3	9
1	4	堅																				40	40
1	5	堅																				1	1
1	6	堅							2													6	6
1	7	堅						1	1													20	20
1	8	堅						2														3	3
1	9	堅																				3	3
1	10	堅						3	1													26	26
1	11	堅																				1	4
1	12	堅						1														2	2
1	13	堅						1														1	7
1	14	堅						1														38	38
1	15	堅						1														1	239
1	16	堅																				34	34
1	17	堅						1														10	10
1	18	堅																				8	8
1	1	号堅穴遺構						1														5	5
1	9																					1	1
1	1	溝																				5	5
1	2	溝						1														1	15
1	3	溝						7	7													1	10
1	4	溝						3	1													1	10
1	5	溝						1														1	1
1	1	号埴						5	1													35	35
1	18	ピット																				1	1
1	30	ピット																				1	1
1	8	水田下																				25	25
1	表	採						1	10	4												2	117
1	試掘トレンチ1																					1	1
1	試掘トレンチ2																					1	1
1	試掘トレンチ3																					2	2
1	試掘トレンチ4																					10	15
1	試掘トレンチ5																					4	4
1	風例木1																					1	2
1	風例木2																					1	4
1	水田下トレンチ1																					21	21
1	水田下トレンチ2																					3	3
1																						1	4
2	2	水田下																				1	11
3	21	堅																				1	6
3	22	堅						1	1													10	10
3	23	堅						1														2	13
3	24	堅						3	4	5											1	2	64
3	25	堅						1	2	1												11	
3	26	堅						1	1	1												46	
3	27	堅						2														37	
3	28	堅						2														8	
3	29	堅																				41	



縄文土器非掲載点数一覧

区	遺構№	遺構種	早期 中期 後期 系統	神ノ木・ 黒陶	諸窓a	苔窓b	諸窓b	諸窓c	下戸	前 中期 後 半	前 中期 後 半	中 期 後 半	加 賀 窓	縄 土	縄 之内 I	高 井 東 ・ 上 ノ 段	加 賀 窓 B	後 期	発 生	不明	合計	
3	30号	遺構外																			3	27
3	31号	遺構外		1	1																2	95
3	32号	遺構外		1	1																	12
3	33号	遺構外					1															17
3	34号	遺構外					1	3												1	5	
3	35号	遺構外																				8
3	36号	遺構外			3	2														1	22	
3	37号	遺構外		1															1	1	7	
3	38号	遺構外																				6
3	39号	遺構外																				40
3	40号	遺構外		8		1														1	11	
3	41号	遺構外		8		1														1	11	
3	42号	遺構外					1															8
3	43号	遺構外																				2
3	36上坑	遺構外																				4
3	37上坑	遺構外																				1
3	38上坑	遺構外		1																3	6	
3	39上坑	遺構外																				2
3	41上坑	遺構外																				1
3	42上坑	遺構外																				1
3	43上坑	遺構外																				2
3	44上坑	遺構外																				2
3	45上坑	遺構外		1																		2
3	46上坑	遺構外																		1	1	
3	47上坑	遺構外		1																		2
3	48上坑	遺構外																				1
3	50上坑	遺構外														1						1
3	51上坑	遺構外																				1
3	54上坑	遺構外				1																1
3	57上坑	遺構外																				1
3	60上坑	遺構外																				1
3	68上坑	遺構外																				1
3	81上坑	遺構外				1														1	2	
3	92上坑	遺構外														1						1
3	95上坑	遺構外														1						1
3	99上坑	遺構外														2						2
3	102上坑	遺構外														2						2
3	104上坑	遺構外														2						2
3	9溝	遺構外				1																1
3	10溝	遺構外														25	2					27
3	11溝	遺構外														1				1	2	
3	17溝	遺構外		2	1											26	2					31
3	18溝	遺構外														1						1
3	20溝	遺構外		3												6				1	10	
3	22溝	遺構外			1											2				1	4	
3	23溝	遺構外														7				1	8	
3	24溝	遺構外																		1	1	
3	25溝	遺構外		1												1				1	3	
3	52ピット	遺構外														1						1
3	53ピット	遺構外																				1
3	70ピット	遺構外														1						1
3	123ピット	遺構外															1					1
3	225ピット	遺構外														1						1
3	249ピット	遺構外														1						1
3	252ピット	遺構外				1										1						2
3	2号埴	遺構外		5	2			1								30			1		39	
3	3水田	遺構外														3					2	5
3	トレンチ	遺構外														2						2
3	確認面	遺構外		1	1	1										18						21
3	1面	遺構外				1										15						17
3	2面表採一括	遺構外														1	1					2
3	2面	遺構外		1	2	14	3									108	2			5	135	
3	表上	遺構外		1	10	3		1		1						108	1			3	128	
3	As-B下	遺構外					1									8		1				10
3	-括	遺構外					4									32						36
4	As-B水田下	遺構外				1										1	2			1		5
5	3号埴	遺構外														1						1
5	-括	遺構外				2	2									2			6	2	14	
	合計			1	5	11	125	52	17	1	6	2	1	1917	26	6	10	2	8	2	12	73 2277

写 真 図 版





1 遺跡周辺空中写真 左下に路線(道路予定地)が見える 左が北 (国土地理院撮影空中写真CKT2023-C10-13)

PL.2



1 遺跡周辺空中写真 左下に調査区が見える 上が北 (国土地理院撮影空中写真CKT20203-C10-13の部分)



2 1区全景(南西から鳥川と棲名山麓を望む)



1 1区全景(北から中位、高位段丘を望む)



2 3区全景(上が北東)



PL.4



1 4区全景(西から烏川下流方向を望む)



2 5区全景(上が東)



1 1号竖穴建物全景(北西から)



2 1号竖穴建物遺物出土状態(北西から)



3 1号竖穴建物壁面全景(北から)



4 2号竖穴建物磚・遺物出土状態(南から)



5 2号竖穴建物磚・遺物出土状態(南から)



6 2号竖穴建物脚付長頸壺出土状態(南から)



7 2号竖穴建物須恵器、耳環出土状態(南から)



8 2号竖穴建物全景(南から)



## PL.6



1 2号竪穴建物掘方全景(南から)



2 3号竪穴建物礫・遺物出土状態(南西から)



3 3号竪穴建物全景(南東から)



4 3号竪穴建物カマド(南東から)



5 4号竪穴建物礫・遺物出土状態(南から)



6 4号竪穴建物カマド礫・遺物出土状態(南から)



7 4号竪穴建物北東隅付近礫・遺物出土状態(南から)



8 4号竪穴建物北東隅付近礫・遺物出土状態(南から)



1 4号竪穴建物全景(南から)



2 4号竪穴建物カマド全景(南から)



3 4号竪穴建物掘方全景(南から)



4 4号竪穴建物カマド掘方全景(南から)



5 5号竪穴建物カマド・遺物出土状態(南西から)



6 5号竪穴建物全景(南西から)



7 5号竪穴建物カマド全景(南西から)



8 5号竪穴建物掘方全景(南西から)



## PL.8



1 5号竪穴建物カマド掘方全景(南西から)



2 6号竪穴建物礫・遺物出土状態(南東から)



3 6号竪穴建物礫・遺物出土状態(南東から)



4 6号竪穴建物編み物用石製鍤出土状態(北西から)



5 6号竪穴建物全景(南西から)



6 6号竪穴建物1号カマド掘方セクション(南西から)



7 6号竪穴建物2号カマド全景(南東から)



8 6号竪穴建物掘方全景(南西から)



1 6号竖穴建物 2号カマド掘方全景(南東から)



2 7号竖穴建物 置物出土状態(南東から)



3 7号竖穴建物全景(南東から)



4 7号竖穴建物カマド全景(南東から)



5 7号竖穴建物掘方全景(南東から)



6 8号竖穴建物全景(西から)



7 8号竖穴建物カマド砾出土状態(西から)



8 8号竖穴建物カマド全景(西から)



PL.10



1 8号竪穴建物掘方全景(西から)



2 8号竪穴建物カマド掘方全景(西から)



3 9号竪穴建物礫・遺物出土状態(南西から)



4 9号竪穴建物南隅礫・遺物出土状態(南西から)



5 9号竪穴建物全景(南西から)



6 9号竪穴建物カマド全景(南西から)



7 9号竪穴建物掘方全景(南西から)



8 9号竪穴建物カマド掘方全景(南西から)



1 10号竪穴建物礫・遺物出土状態(南東から)



2 10号竪穴建物カマド付近礫・遺物出土状態(南東から)



3 10号竪穴建物礫・遺物出土状態近接(南西から)



4 10号竪穴建物全景(南東から)



5 10号竪穴建物 1号カマド全景(南東から)



6 10号竪穴建物 1号カマド全景(北東から)



7 10号竪穴建物 1号カマド天井石除去後全景(南東から)



8 10号竪穴建物 2号カマド全景(北西から)

PL.12



1 10号竪穴建物掘方全景(南東から)



2 10号竪穴建物 1号カマド掘方全景(南東から)



3 10号竪穴建物 2号カマド掘方全景(南西から)



4 11号竪穴建物全景(南東から)



5 11号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(南東から)



6 11号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態 上部の土器取上げ後(南東から)



7 11号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態 上部の土器取上げ後(南東から)



8 11号竪穴建物 磚・遺物出土状態(南東から)



1 11号竪穴建物カマド全景(南東から)



2 11号竪穴建物カマド焚口部取上げ後全景(南東から)



3 11号竪穴建物カマド支脚近接(南東から)



4 11号竪穴建物カマド全景 支脚除去後(南東から)



5 12号竪穴建物全景(南東から)



6 12号竪穴建物掘方全景(南東から)



7 13号竪穴建物窯・遺物出土状態(南西から)



8 13号竪穴建物窯・遺物出土状態(南西から)



1 13号竪穴建物全景(南西から)



2 13号竪穴建物カマド全景(南西から)



3 13号竪穴建物掘方全景(南西から)



4 13号竪穴建物カマド掘方全景(南西から)



5 14号竪穴建物・遺物出土状態 1 (南西から)



6 14号竪穴建物・遺物出土状態 2 (南西から)



7 14号竪穴建物東隅耳環出土状態近接(南西から)



8 14号竪穴建物北隅遺物出土近接(南東から)



1 14号竪穴建物全景(南西から)



2 14号竪穴建物貯蔵穴全景(南西から)



3 14号竪穴建物 1号カマド全景(南西から)



4 14号竪穴建物 2号カマド全景(南西から)



5 14号竪穴建物 1・2号カマド掘方全景(南西から)



6 15号竪穴建物 罹・遺物出土状態(南東から)



7 15号竪穴建物西隅礫・遺物出土状態(南東から)



8 15号竪穴建物全景(北東から)



## PL.16



1 15号竪穴建物炉全景(南東から)



2 15号竪穴建物掘方全景(南東から)



3 16号竪穴建物1区部分礪・遺物出土状態(南東から)



4 16号竪穴建物南東壁際編み物用石製鍊出土状態(南東から)



5 16号竪穴建物遺物出土状態近接(南東から)



6 16号竪穴建物遺物出土状態近接(南東から)



7 16号竪穴建物遺物出土状態近接(南東から)



8 16号竪穴建物1区部分掘方全景(北東から)



1 16号竪穴建物 3区部分縄・遺物出土状態(南東から)



2 16号竪穴建物 3区部分全景(南東から)



3 16号竪穴建物カマド天井石除去後全景(南東から)



4 16号竪穴建物 3区部分掘方全景(南東から)



5 16号竪穴建物カマド掘方全景(南東から)



6 17号竪穴建物縄・遺物出土状態(南西から)



7 17号竪穴建物東隅縄・遺物出土状態(南西から)



8 17号竪穴建物南東壁際縄・遺物出土状態(南西から)



## PL.18



1 17号竪穴建物カマド左側遺物出土状態(西から)



2 17号竪穴建物全景(南西から)



3 17号竪穴建物カマド全景(南西から)



4 17号竪穴建物掘方全景(南西から)



5 17号竪穴建物カマド掘方全景(南西から)



6 18号竪穴建物全景(南東から)



7 18号竪穴建物南東壁際編み物用石製鍤出土状態(南東から)



8 18号竪穴建物北部編み物用石製鍤出土状態(南東から)



1 18号竪穴建物ピット3セクション(南西から)



2 18号竪穴建物掘方全景(南東から)



3 19号竪穴建物1区部分全景(南から)



4 19号竪穴建物1区部分遺物出土状態近接(南から)



5 19号竪穴建物3区部分全景(南西から)



6 19号竪穴建物3区部分遺物出土状態近接(南西から)



7 20号竪穴建物全景(北から)



8 23号竪穴建物礫・遺物出土状態(南から)



1 23号竪穴建物全景(北西から)



2 23号竪穴建物振方全景(北西から)



3 24号竪穴建物縄・遺物出土状態(北東から)



4 24号竪穴建物縄・遺物出土状態(南東から)



5 24号竪穴建物全景(北東から)



6 25号竪穴建物縄・遺物出土状態(南東から)



7 25号竪穴建物北隅縄み物用石製鍤出土状態(南東から)



8 25号竪穴建物全景(南東から)



1 25号竪穴建物カマド全景(南東から)



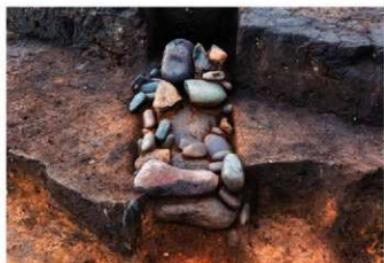
2 25号竪穴建物掘方全景(南東から)



3 25号竪穴建物カマド掘方(南東から)



4 26号竪穴建物礫・遺物出土状態(南から)



5 26号竪穴建物カマド全景(南から)



6 26号竪穴建物カマド天井石除去後(南から)



7 26号竪穴建物カマド掘方全景(南から)



8 27号竪穴建物礫・遺物出土状態(西から)



## PL.22



1 27号竪穴建物全景(西から)



2 27号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)



3 27号竪穴建物カマド全景(西から)



4 28号竪穴建物全景(南西から)



5 28号竪穴建物遺物カマド全景(南西から)



6 28号竪穴建物全景(南西から)



7 29号竪穴建物礫・遺物出土状態(南西から)



8 29号竪穴建物全景(南西から)



1 29号竪穴建物カマド全景(南東から)



2 29号竪穴建物掘方全景(南東から)



3 29号竪穴建物カマド掘方全景(南東から)



4 30号竪穴建物堀・遺物出土状態(南東から)



5 30号竪穴建物カマド前付近堀・遺物出土状態(南東から)



6 30号竪穴建物中央付近遺物出土状態(南東から)



7 30号竪穴建物全景(南東から)



8 30号竪穴建物カマド全景(南東から)



## PL.24



1 30号竪穴建物焚口天井石除去後(南東から)



2 30号竪穴建物掘方全景(南東から)



3 30号竪穴建物カマド掘方全景(南東から)



4 31号竪穴建物礫・遺物出土状態(南から)



5 31号竪穴建物カマド前付近礫・遺物出土状態(南から)



6 31号竪穴建物カマド右脇礫・遺物出土状態(南から)



7 31号竪穴建物カマド左側遺物出土状態(南から)



8 31号竪穴建物南型際編み物用石製鍍出土状態(南から)



1 31号竪穴建物全景(南から)



2 31号竪穴建物カマド全景(南から)



3 31号竪穴建物掘方全景(南から)



4 31号竪穴建物カマド掘方全景(南から)



5 32号竪穴建物廻・遺物出土状態全景(南西から)



6 32号竪穴建物東廻付近廻・遺物出土状態(南東から)



7 32号竪穴建物南廻付近廻み物用石製鍤出土状態(西から)



8 32号竪穴建物南東型付近廻み物用石製鍤出土状態(南西から)



1 32号竪穴建物全景(南東から)



2 32号竪穴建物カマド全景(南東から)



3 32号竪穴建物掘方全景(南東から)



4 32号竪穴建物カマド掘方全景(南東から)



5 33号竪穴建物礫・遺物出土状態(南東から)



6 33号竪穴建物全景(南東から)



7 33号竪穴建物掘方全景(南東から)



8 33号竪穴建物カマド掘方全景(南東から)



1 34号竪穴建物礫・遺物出土状態(南東から)



2 34号竪穴建物南東壁際礫出土状態(北西から)



3 34号竪穴建物西隅付近遺物出土状態(南から)



4 34号竪穴建物全景(南西から)



5 34号竪穴建物掘方全景(南西から)



6 35号竪穴建物礫・遺物出土状態(北西から)



7 35号竪穴建物南東壁際遺物出土状態(北西から)



8 35号竪穴建物全景(南東から)



## PL.28



1 35号竪穴建物貯藏穴全景(南東から)



2 36号竪穴建物礎・遺物出土状態(南から)



3 36号竪穴建物東壁中央部礎・遺物出土状態(東から)



4 36号竪穴建物カマド遺物出土状態(北西から)



5 36号竪穴建物全景(北西から)



6 36号竪穴建物カマド全景(北西から)



7 36号竪穴建物カマド天井石・遺物取上げ後(北西から)



8 36号竪穴建物振方全景(北西から)



1 36号竪穴建物カマド掘方全景(北西から)



2 37号竪穴建物礫・遺物出土状態(北西から)



3 37号竪穴建物全景(南西から)



4 38号竪穴建物礫出土状態(西から)



5 38号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)



6 38号竪穴建物カマド、貯藏穴全景(西から)



7 39号竪穴建物礫・遺物出土状態(南西から)



8 39号竪穴建物南隅縁み物用石製鍤出土状態(北西から)



## PL.30



1 39号竪穴建物カマド左脇礫・遺物出土状態(南西から)



2 39号竪穴建物カマド前付近礫・遺物出土状態(南西から)



3 39号竪穴建物カマド遺物出土状態(南西から)



4 39号竪穴建物全景(南西から)



5 39号竪穴建物カマド全景(南西から)



6 39号竪穴建物カマド掘方全景(南西から)



7 40号竪穴建物礫・遺物出土状態(南西から)



8 40号竪穴建物北脇付近礫・遺物出土状態(南から)



1 40号竪穴建物全景(南西から)



2 40号竪穴建物カマド全景(南西から)



3 41号竪穴建物礎・遺物出土状態(北西から)



4 41号竪穴建物全景(北西から)



5 41号竪穴建物カマド全景(北西から)



6 41号竪穴建物カマド掘方全景(北西から)



7 43号竪穴建物礎・遺物出土状態(南西から)



8 43号竪穴建物全景(南西から)

PL.32



1 43号竪穴建物カマド全景(南西から)



2 43号竪穴建物カマド掘方全景(南西から)



3 44号竪穴建物全景(南から)



4 44号竪穴建物炉内土器出土状態(東から)



5 45号竪穴建物全景(西から)



6 45号竪穴建物炉全景(西から)



7 1号竪穴状遺構全景(南西から)



8 1号掘立柱建物全景(北西から)



1 1区竪穴建物と1号古墳(上が南東、右側にAs-B下水田が広がる)



2 1号古墳全景(上が南東)



3 1号古墳周溝礫出土状態(南東から)



4 2号古墳礫出土状態全景(西から)



5 2号古墳全景(南東から)



1 3区竪穴建物と2号古墳(上が北)



2 2号古墳全景(上が北西)



1 2号古墳主体部と周溝内縁出土状態(南東から)



2 2号古墳主体部と周溝内縁出土状態(南東から)



3 2号古墳全景(南東から)



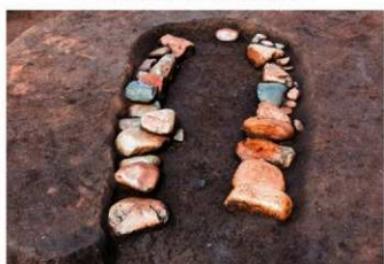
4 2号古墳横穴式石室全景(南東から)



5 2号古墳横穴式石室底面部(南東から)



6 2号古墳横穴式石室舗石除去後全景(南東から)



7 2号古墳横穴式石室舗石除去後全景(南東から)



8 2号古墳横穴式石室堀方全景(北東から)



PL.36



1 3号古墳全景(東から)



2 3号古墳埴輪、須恵器出土状態(北から)



1 3号古墳埴輪、須恵器出土状態(西から)



2 3号古墳埴輪、須恵器出土状態(南から)



## PL.38



1 3号古墳主体部残存状態(西から)



2 3号古墳主体部残存状態(北から)



3 3号古墳埴丘埴輪出土状態(西から)



4 3号古墳埴丘埴輪出土状態(西から)



5 3号古墳埴丘円筒埴輪基部出土状態(北西から)



6 3号古墳周溝上層埴輪(5)、須恵器(16)出土状態(北西から)



7 3号古墳周溝上層埴輪(5)出土状態(北西から)



8 3号古墳周溝上層須恵器(16)出土状態(北から)



1 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(北から)



2 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(北から)



1 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(南東から)



2 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(南から)



1 3号古墳周溝内馬形埴輪出土状態(東から)



2 3号古墳周溝内埴輪、須恵器出土状態(南から)



3 3号古墳周溝内人物埴輪出土状態(南から)



4 3号古墳周溝内剥落した人物埴輪の右腕(東から)



5 3号古墳周溝内円筒埴輪上に剥落した左腕と美豆良(東から)



6 3号古墳周溝内剥落した人物埴輪の左腕(南東から)



7 3号古墳周溝内埴輪と須恵器出土状態(東から)



8 3号古墳周溝内埴輪と須恵器出土状態(北から)

PL.42



1 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から)



2 3号古墳周溝内須恵器出土状態(北から)



3 3号古墳周溝内須恵器出土状態(東から)



4 3号古墳周溝内須恵器出土状態(西から)



5 3号古墳周溝内馬形埴輪取上げ後(南から)



6 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後(南から)



7 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後2(南から)



8 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後3(南から)



1 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後 4(南から)



2 3号古墳周溝内南側の埴輪取上げ後 5(南から)



3 3号古墳周溝内須恵器直口壺出土状態(南から)



4 3号古墳遺物取上げ後全景(北から)



5 1区As-B下水田全景(上が南西)



PL.44



1 3区As-B下水田全景(上为南西)



2 4区As-B下水田全景(上为东)



1 1区As-B下水田と水路(南東から)



2 1区西側のAs-B下水田と足跡(南から)



3 2区As-B下水田全景(北西から)



4 2区As-B下水田東側(北から)



5 1号溝露出状態全景(北東から)



6 1号溝、ウマ歯出土状態(北東から)



7 1区3号溝、4号溝全景(南東から)



8 3区3号溝全景(東から)



## PL.46



1 1区3号溝セクションA部分(南東から)



2 2区7号溝全景(南から)



3 10号溝全景(奥側)(東から)



4 10号溝ウマ歯出土状態近接(北から)



5 3区9から16号溝全景(西から)



6 17号溝全景(北東から)



7 25号溝全景(西から)



8 27号溝全景(北西から)



1 2号埋設土器全景(南から)



2 2号埋設土器断面(南から)



3 3号埋設土器全景(東から)



4 1号遺物集中(南から)



5 1号土坑出土状態(東から)



6 1号土坑全景(南から)



7 11号土坑全景(南から)



8 12号土坑全景(南から)



9 17号土坑全景(南から)



10 18号土坑全景(南から)



## PL.48



1 20号土坑全景(北から)



2 21号土坑全景(北から)



3 22号土坑全景(東から)



4 26号土坑全景(南東から)



5 27号土坑全景(東から)



6 28号土坑全景(南東から)



7 29号土坑全景(東から)



8 32号土坑全景(東から)



9 34号土坑全景(南西から)



10 35号土坑全景(北西から)



11 36号土坑全景(西から)



12 38号土坑全景(南から)



13 39号土坑全景(南西から)



14 40号土坑全景(南から)



15 41号土坑全景(南から)



1 42号土坑全景(南西から)



2 43号土坑全景(南から)



3 44号土坑全景(南から)



4 45号土坑全景(南から)



5 46号土坑全景(北から)



6 48号土坑全景(西から)



7 49号土坑全景(南から)



8 50号土坑全景(南から)



9 52号土坑全景(南から)



10 53号土坑遺物出土状態(南から)



11 53号土坑全景(南から)



12 54号土坑全景(南西から)



13 55号土坑全景(南から)



14 56号土坑全景(南東から)



15 58号土坑全景(南から)



## PL.50



1 59号土坑全景(南から)



2 63号土坑全景(南から)



3 73号土坑全景(東から)



4 81号土坑全景(北西から)



5 82号土坑全景(南から)



6 85号土坑全景(北から)



7 86号土坑全景(南東から)



8 87号土坑全景(南から)



9 88号土坑全景(北から)



10 91号土坑全景(南西から)



11 92号土坑全景(南東から)



12 97号土坑全景(南から)



13 101号土坑全景(南西から)



14 102号土坑全景(東から)



15 104号土坑全景(北から)



1



2



7

1号竖穴建物出土遗物



6



10



12



13



15

2号竖穴建物出土遗物



1



2



4

3号竖穴建物出土遗物



1



2



3



4



5



8

4号竖穴建物出土遗物(1)



PL.52



9



10



11



12



14



15

4号竖穴建物出土遺物(2)





4号竖穴建物出土遗物(3)



5号竖穴建物出土遗物



6号竖穴建物出土遗物



7号竖穴建物出土遗物



9号竖穴建物出土遗物

8号竖穴建物出土遗物



10号竖穴建物出土遗物(1)



10号竖穴建物出土遗物(2)



11号竖穴建物出土遗物(1)



13



14

11号竖穴出土遗物(2)



2

13号竖穴出土遗物



1



5



7



8



9



13



15



21



22



19



24



28

14号竖穴出土遗物(1)



PL.57



34



40



39



41



42



43



45



46

14号竖穴建物出土遗物(2)



2



3



5

15号竖穴建物出土遗物



PL.58



16号竖穴建物出土遺物(1)



PL.59



24



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36

16号竖穴建物出土遺物(2)



1



3



4



5



6



7

17号竖穴建物出土遺物(1)





## PL.60

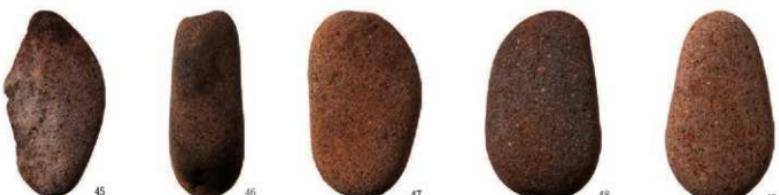


17号竖穴建物出土遗物(2)





PL.61



17号竖穴建物出土遗物(3)





PL.62



18号竖穴出土遗物





19号竖穴建物出土遗物(1)





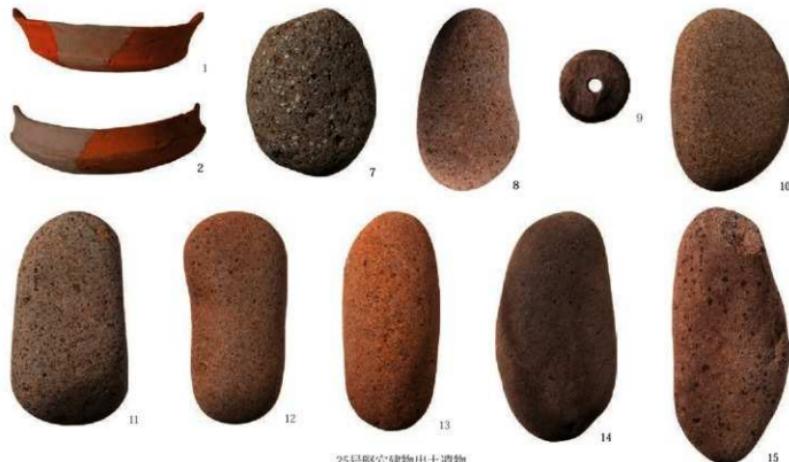
PL.64



19号竖穴建物出土遗物(2)



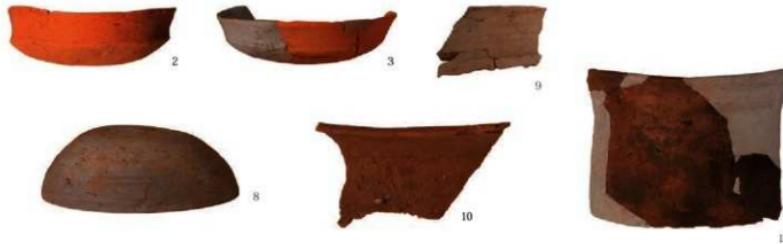
24号竖穴建物出土遗物



25号竖穴出土遗物



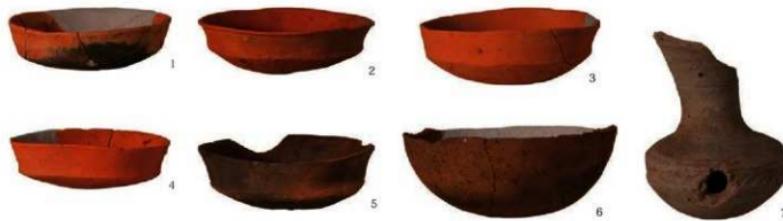
27号竖穴出土遗物



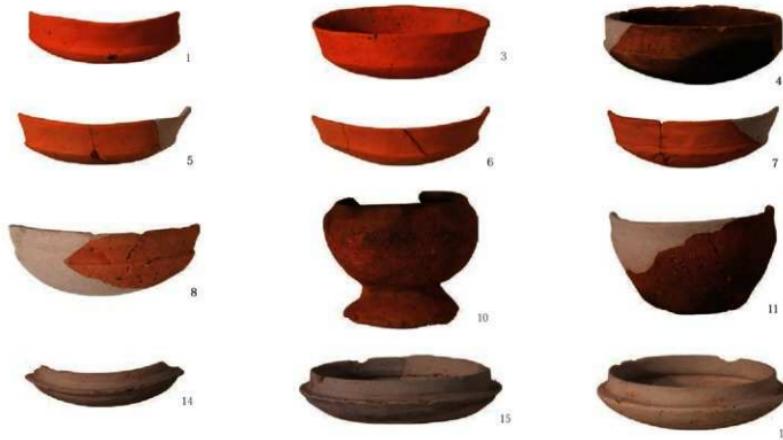
26号竖穴建物出土遗物



29号竖穴建物出土遗物



30号竖穴建物出土遗物



31号竖穴建物出土遗物(1)



PL.67



18



19



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36

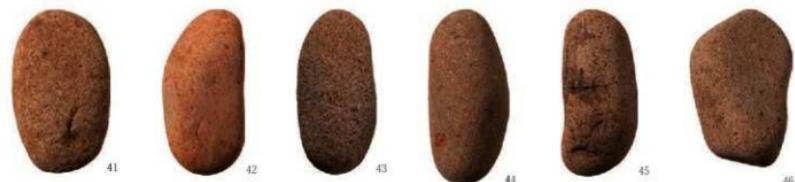
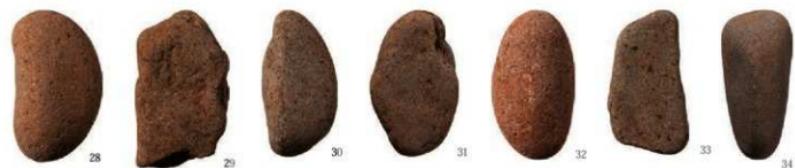
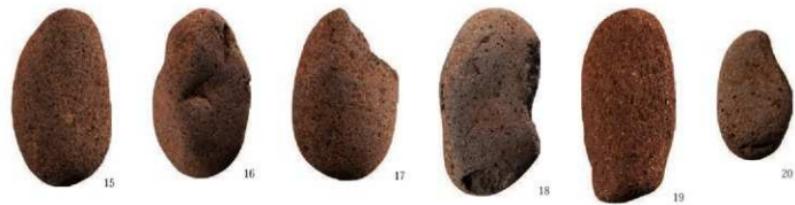
31号竖穴建物出土遗物(2)



PL.68

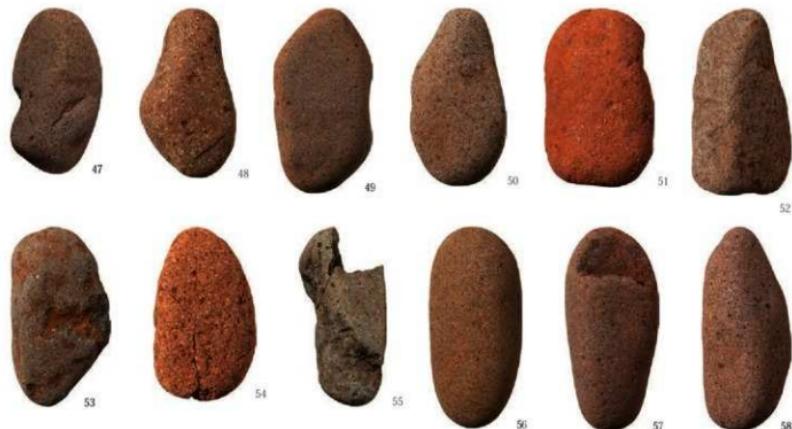


32号竖穴建物出土遗物(1)



32号竖穴建物出土遗物(2)

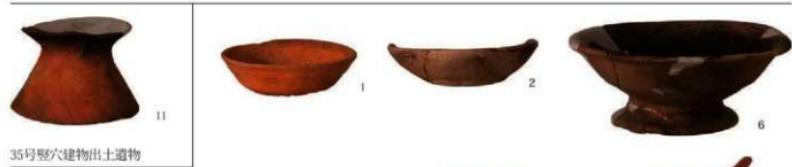
PL.70



32号竖穴建筑出土遗物(3)



34号竖穴建筑出土遗物



35号竖穴建筑出土遗物



36号竖穴建筑出土遗物(1)



PL.71



8



10



9

36号竖穴建物出土遺物(2)



1



2



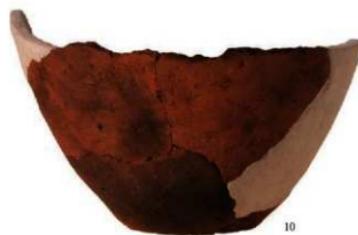
3



9



4



10

38号竖穴建物出土遺物

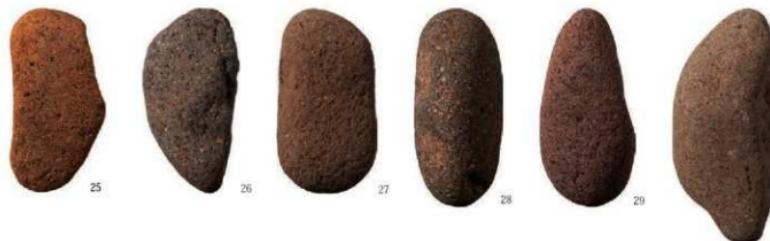
PL.72



39号竖穴建物出土遺物(1)



PL.73



39号竖穴建物出土遗物(2)



40号竖穴建物出土遗物





PL.74



41号竖穴建物出土遗物



41号竖穴建物出土遗物(1)







1号竖穴状遗构出土遗物



1号古墳周溝出土遺物



3号古墳填丘出土遺物(1)



3号古墳埴丘出土遺物(2)



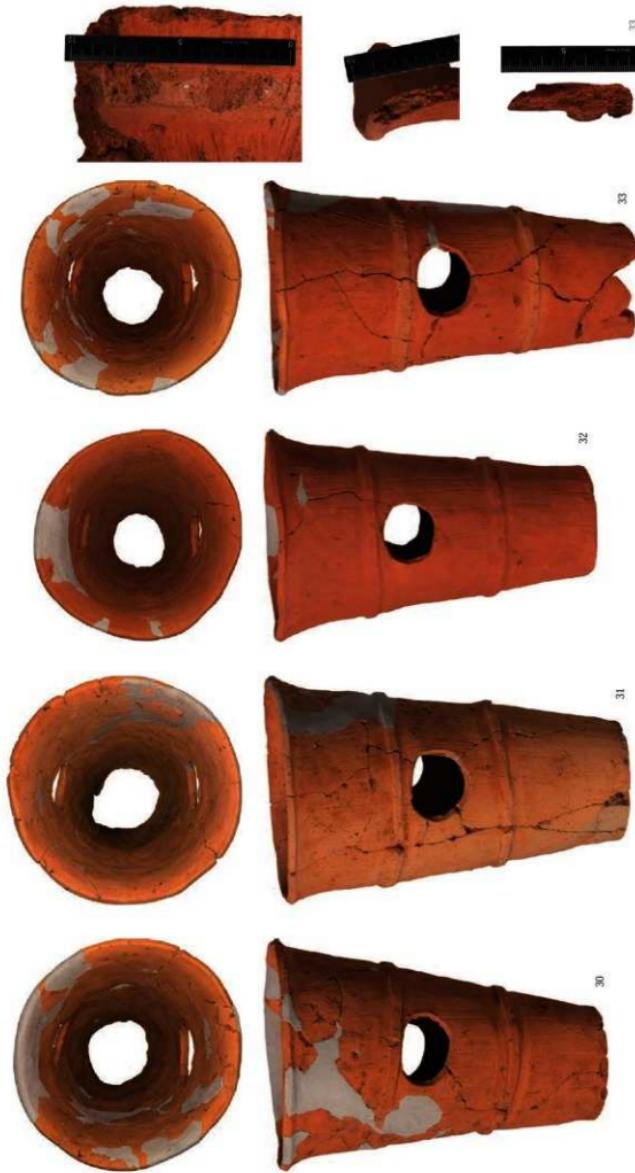
3号古墳周溝出土遺物(1)



3号古墓出土遗物(2)



3号古墓出土遗物(3)



3号古墓清理出土遗物(4)



3号古墓出土遺物(5)



PL.82



1 古墳4



3 古墳15



3 古墳18



3 古墳19



3 古墳21



3 古墳22



3 古墳24



3 古墳25



3 古墳26



3 古墳27



3 古墳28



3 古墳30



3 古墳31



3 古墳32

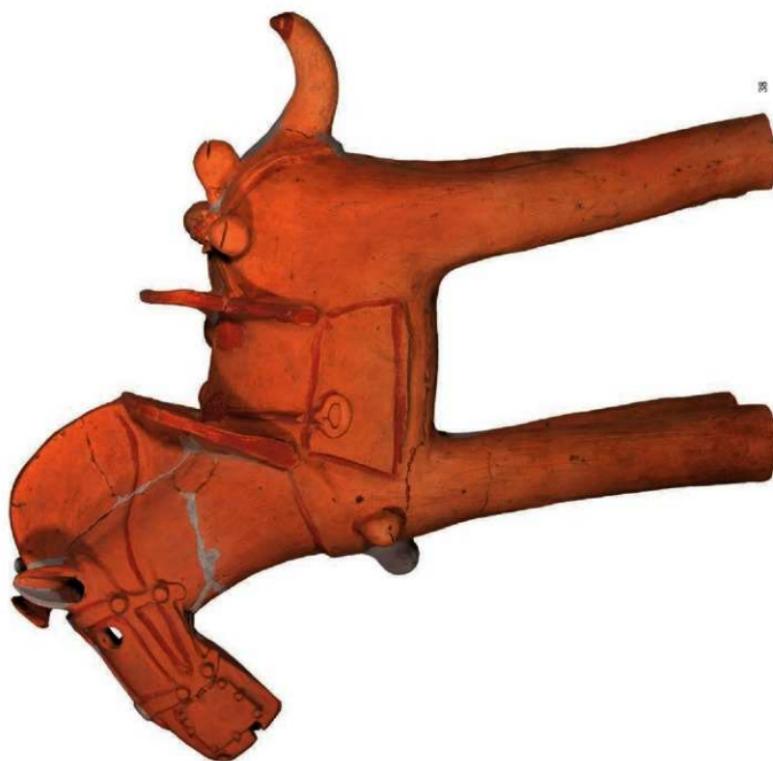


3 古墳33

1号・3号古墳出土円筒埴輪線刻



3号古墓陶俑出土黑彩陶輪（1）





3号古墓里出土黑形埴輪(2)





PL.85



38



3号古墳周溝出土馬形埴輪(3)

38



馬形埴輪(38)顔正面



馬形埴輪(38)鼻梁内面



馬形埴輪(38)左頬内面



馬形埴輪(38)右頬の接合痕が見える 中央は上下唇内面



馬形埴輪(38)顔内面 中央上部は上下唇



馬形埴輪(38)右前脚内面(切開再接合痕)



馬形埴輪(38)右前脚内面(切開再接合痕)

3号古墳周溝出土馬形埴輪(4)



馬形埴輪(38)左前脚外面(甲板合部の調節)



馬形埴輪(38)腹部外面の底・蹄形窓

3号古墳削溝出土馬形埴輪(5)



3号坑陶俑出土人物俑輪(1)



PL.89



人物埴輪(39)上半身正面



人物埴輪(39)上半身右側

39



人物埴輪(39)正面の小物入れ



人物埴輪(39)左腰の刀子



人物埴輪(39)背面の鎌

39

3号古墳周溝出土人物埴輪(2)



PL.90



40



底部外面



底部里面(接合前)

41



41

3号古填周溝出土須惠器



As-B下水田出土遺物



5



6



7



8

1号溝出土遺物



3



4



7



12



14



19



21

3号溝出土遺物(1)





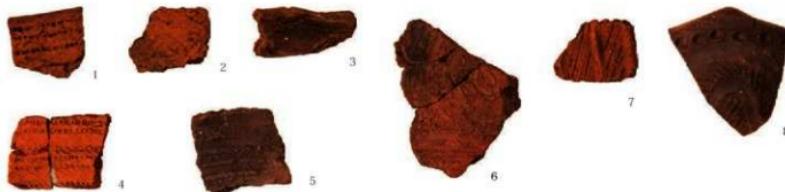
3号溝出土遺物(2)



10号溝出土遺物



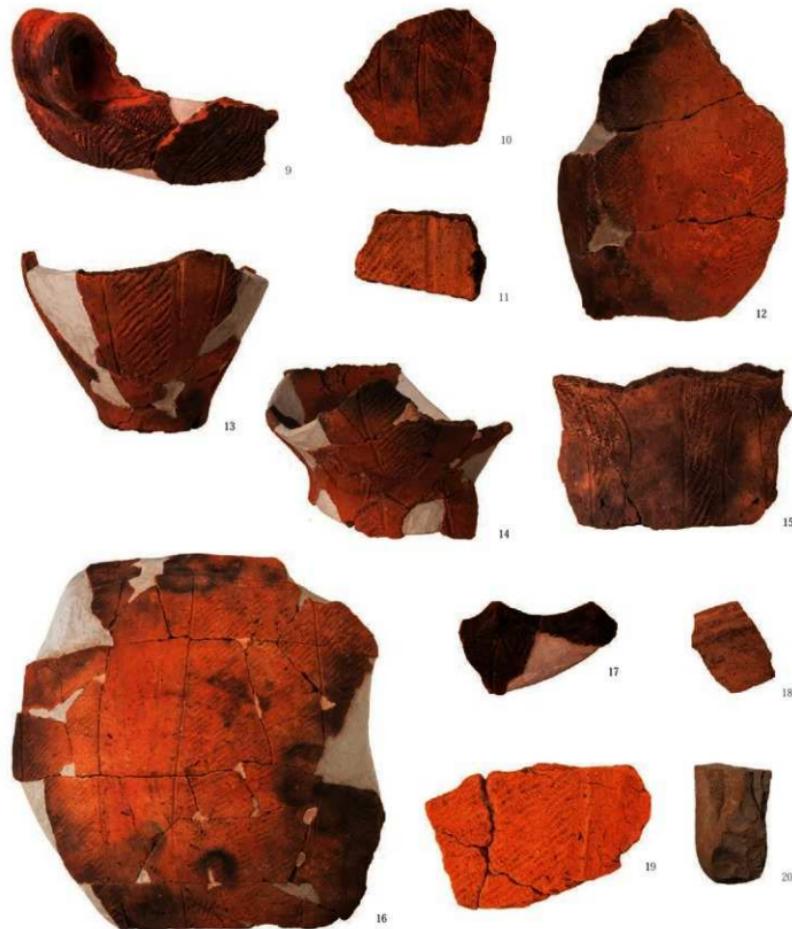
2·3号埋設土器



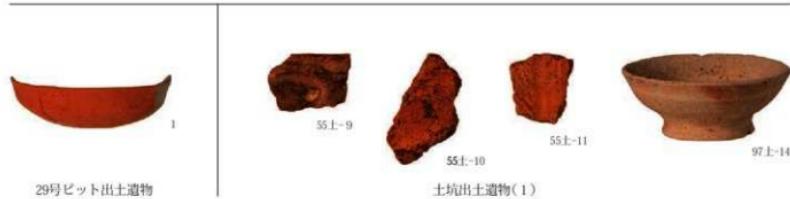
1号遺物集中出土遺物(1)



PL.92



1号遺物集中出土遺物(2)



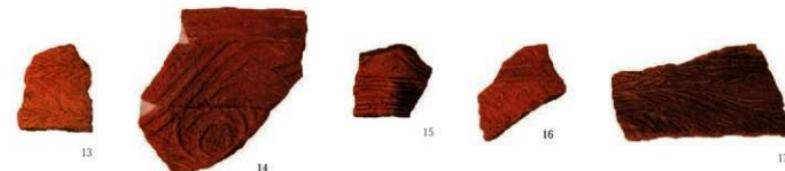
29号ピット出土遺物

土坑出土遺物(1)



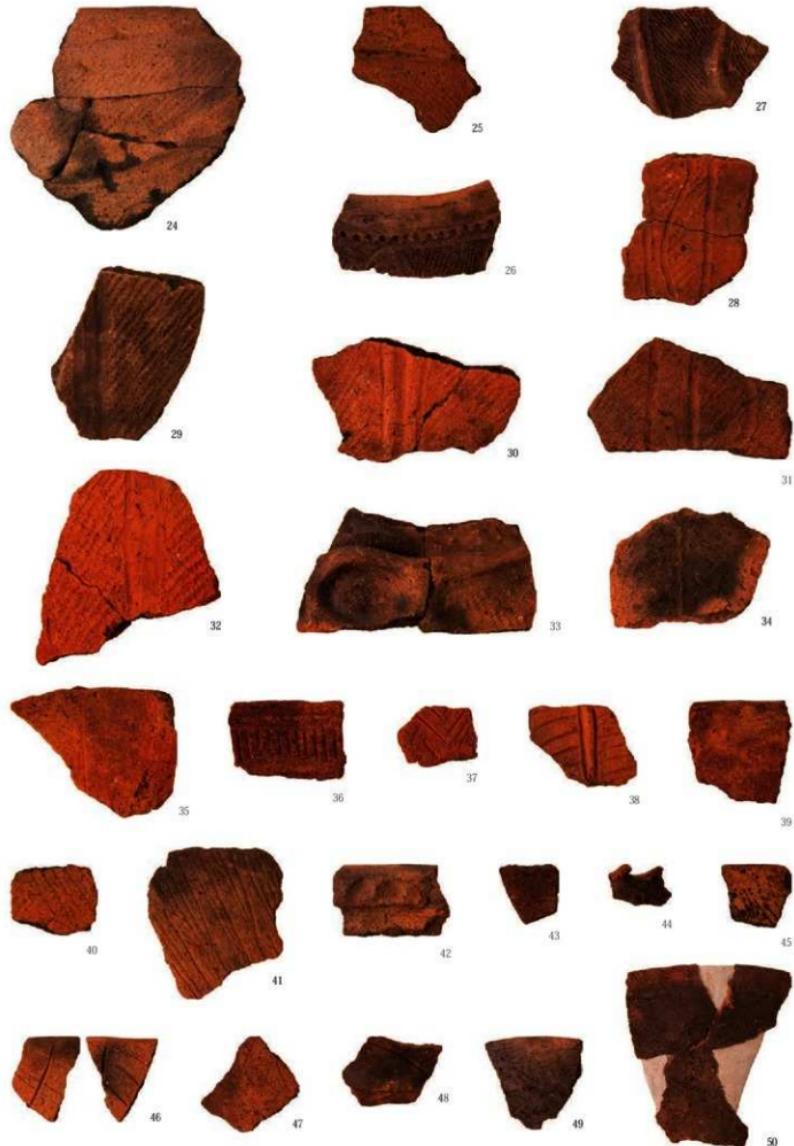


土坑出土遗物(2)



遗物外出土遗物(1)





遺構外出土遺物(2)



遺構外出土遺物(3)

# 報告書抄録

書名ふりがな	しもさとみてんじんまえいせき
書名	下里見天神前遺跡
副書名	西毛広域幹線道路（高崎西工区）社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	709集
編著者名	大西雅広 石川真理子
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230203
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	しもさとみてんじんまえ
遺跡名	下里見天神前
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしもさとみまち
遺跡所在地	群馬県高崎市下里見町
市町村コード	102024
遺跡番号	H129B
北緯(世界測地系)	36.357971 (10進法表記)
東経(世界測地系)	138.926228 (10進法表記)
調査期間	20200101-20200331、20200701-20200930
調査面積	8140.2m <sup>2</sup>
調査原因	道路建設
種別	集落／墓／生産
主な時代	縄文時代+古墳時代+平安時代+中近世
遺跡概要	縄文-竪穴建物4+埋設土器2+遺物集中1+土坑3/古墳-竪穴建物34+古墳3+土坑1+ピット1/平安時代-竪穴建物4+水田1+島1/中・近世-溝/縄文土器+土師器+須恵器+円筒埴輪+人物埴輪+馬形埴輪+中世土器+近世陶磁器
特記事項	
要約	烏川右岸の低位段丘に位置する。里見古墳群に含まれる3基の古墳と集落の調査。1基の古墳周溝から樹立していない埴輪23点と須恵器2点出土。



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第709集

## 下里見天神前遺跡

西毛塙城跡道路(高崎西工区)社会资本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5(2023)年1月31日 印刷

令和5(2023)年2月3日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

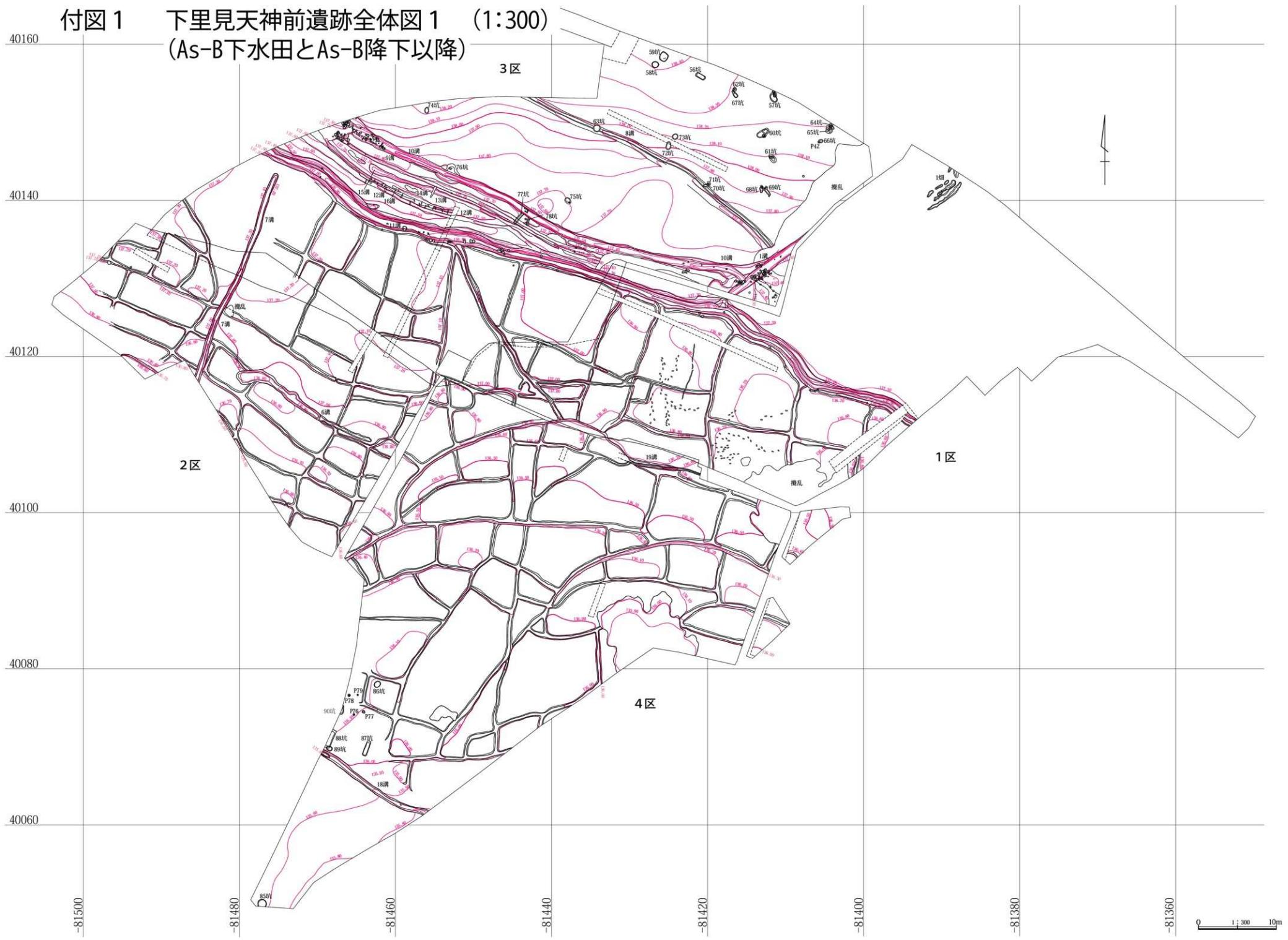
ホームページアドレス <http://www.gunmaiban.org/>

印刷／上海印刷工業株式会社





付図1 下里見天神前遺跡全体図1 (1:300)  
(As-B下水田とAs-B降下以降)





付図2 下里見天神前遺跡全体図2 (1:250)  
(As-B下水田)

付図3 下里見天神前遺跡全体図3 (1:250)  
(縄文時代から平安時代)

X=40180

X=40160

X=40140

2区

X=40100

Y=-81480

4区

5区

1区

Y=-81380

Y=-81360

0 1:250 10m

